2017年12月6日(水)

ポスター・展示会場1-1

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 1) 糖タンパク質・プロテオグリカン（ポスター）

[1P-1-1] 1. 糖質生物学・脂質生物学-1) 糖タンパク質・プロテオグリカン

13:15 〜 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[1P-0001] 新規ヒトがんタンパク質 dynAPの糖鎖構造解析
〇小西 貴之[1]、堀川 和男[1]、尹 驍博[1]、田中 崚太[1]、細井 美穂[1]、久能 樹[1]、和田 修一[1]、長谷川 慎[1]、佐々木 隆造[1]、水上 民夫[1]（1.長浜バイオ大・バイオサイエンス学部）

[1P-0002] 新規ヒトがんタンパク質 dynAPの糖鎖の機能解析
〇尹 驍博[1]、小西 貴之[1]、堀川 和男[1]、田中 崚太[1]、細井 美穂[1]、久能 樹[1]、和田 修一[1]、長谷川 慎[1]、佐々木 隆造[1]、水上 民夫[1]（1.長浜バイオ大・バイオサイエンス学部）

[1P-0003（1AT26-01）] 全身性誘導コンディショナルノックアウトマウスを用いたムチン型糖鎖新規機能の探索
〇鈴木 陸[1,2]、中村 勇輝[1,3]、新保 未来[1]、涌井 宏優[1,3]、岡田 理沙[1]、布施谷 清香[1,3]、坪内 鴻奈[1,3]、萩原 梢[4]、佐藤 隆[4]、成松 久[4]、高橋 智[1]、工藤 崇[1]（1.筑波大・医・解剖発生、2.筑波大・グローバル教育院・ヒューマンバイオロジー学位プログラム、3.筑波大院・人間総合科学・フロンティア、4.産総研・創薬基盤・糖鎖技術）

[1P-0004] マクロファージでの Tim4タンパク質の安定発現にムチン型糖鎖は必須である
〇涌井 宏優[1,2]、布施谷 清香[1,2]、岡田 理沙[1]、鈴木 陸[1,3]、新保 未来[1]、濱田 理人[1]、萩原 梢[4]、佐藤 隆[4]、成松 久[4]、高橋 智[1]、工藤 崇[1]（1.筑波大・医・解剖発生、2.筑波大院・人間総合科学・フロンティア、3.筑波大・グローバル教育院・ヒューマンバイオロジー学位プログラム、4.産総研・創薬基盤・糖鎖技術）

[1P-0005] 腎糸球体足細胞におけるムチン型糖鎖の機能解明
〇布施谷 清香[1,2]、岡田 理沙[1]、鈴木 陸[1,3]、涌井 宏優[1,2]、新保 未来[1]、中村 勇輝[1,2]、坪内 鴻奈[1,2]、臼井 俊明[1,4]、森戸 直記[1,4]、萩原 梢[5]、佐藤 隆[5]、成松 久[5]、高橋 智[1]、工藤 崇[1]（1.筑波大・医・解剖発生、2.筑波大院・人間総合科学・フロンティア医科学、3.筑波大院・グローバル大学院・ヒューマンバイオロジー学位プログラム、4.筑波大・医・腎臓内科、5.産総研・創薬基盤・糖鎖技術）

[1P-0006（1AT26-02）] 脱髄時に脳特異的な糖鎖を発現するアストロサイトの発現・性状解析
〇作田 香子[1,4]、北爪 しのぶ[1]、兼清 健志[1]、岡原 京平[1]、木塚 康彦[1]、備前 典久[2]、竹林 浩秀[2]、平瀬 肇[3]、小川 温子[4]、谷口 直之[1]（1.理研・理研-マックスプランク連携研究センター・疾患糖鎖、2.新潟大院・医歯学総合研究科、3.理研・脳科学総合研究センター・神経グリア回路、4.お茶の水女子大院・人間文化創成科学研究科）

[1P-0007（1AT26-03）] 6-硫酸化コンドロイチンの減少により起こる表皮過形成
〇北澤 和之[1]、灘中 里美[1]、門松 健治[2]、北川 裕之[1]（1.神薬大・生化、2.名大・院医・生化）

[1P-0008（1AT26-05）] ガレクチンラティスによる膵臓β細胞でのインスリン分泌制御
〇前田 賢人[1]、田崎 雅義[2,3]、安東 由喜雄[3]、大坪 和明[1,4]（1.熊大・院保健・生体情報解析学、2.熊大・院生命科学・構造機能解析学、3.熊大・院生命科学・神経内科学、4.熊大・院生命科学・生体情報解析学）

[1P-0009（1AT26-06）] エクソソームへの肝細胞増殖因子受容体 Metの選別におけるグルコース代謝の役割
〇原田 陽一郎[1]（1.鹿児島大学医歯学総合研究科　システム血栓制御学講座）

[1P-0010] Silencing of syndecan-4 reduces cellular growth and increases adhesion to fibronectin in anoikis-resistant endothelial cells
Paulo C.A. Pernambuco Filho[1]、Ana Paula S. Mesquita[2]、Jessica O.S. Onyeisi[2]、Helena B. Nader[2]、〇Carla Lopes[1,2]（1.Dept. of Biol. Sci.,

©日本分子生物学会/日本生化学会

UNIFESP、2.Dept. of Biochemistry, UNIFESP）

[1P-0011] Deficiency in a glycosylation enzyme, GFPT1, causes defective neuromuscular signal tranmission in human
○Paniz Farshadyeganeh[1]、Mohammad Nazim[1]、Bisei Ohkawara[1]、Kinji Ohno[1]（1.Dep. of Neurogenetics., Grad. Sch. of Med., Univ. of Nagoya）

[1P-0012] コンドロイチン硫酸 Dによる神経突起伸長の促進機構の解析
○志田 美春[1]、三上 雅久[1]、北川 裕之[1]（1.神戸薬大・生化学）

[1P-0013] 乳がん細胞の上皮-間葉転換を制御するヘキソサミン合成経路の役割
○東出 実歩[1]、泉川 友美[1]、Chatchadawarai Chokchaitaweesuk[1]、板野 直樹[1]（1.京都産大・総合生命）

[1P-0014] ショウジョウバエの神経筋接合部においてグリピカンはオクトパミンを介したシナプス可塑性を調節する
○神村 圭亮[1]、小田嶋 愛子[1]、前田 信明[1]（1.東京都医学総合研究所・脳発達神経再生）

[1P-0015] 巨大糖タンパク質プロテオグリカンの溶存状態
○渡邊 康[1]（1.農研機構）

[1P-0016] ヒト iPS細胞201B7株由来ポドカリキシンの糖鎖解析
○永井 裕子[1]、中尾 広美[2]、川嵜 伸子[2]、豊田 英尚[1]、川嵜 敏祐[2]（1.立命館大・薬・生体分析化学、2.立命館大・糖鎖工学研究セ）

[1P-0017] 6位硫酸化コンドロイチン硫酸欠損による神経機能障害
○内藤 裕子[1]、三松 舞[1]、後藤 倫子[1]、林 剛史[1]、門松 健治[2]、北川 裕之[1]（1.神薬大・生化、2.名大・院医・生化）

[1P-0018] 上皮細胞における C-Man-TSR由来ペプチド結合分子の E-カドヘリン発現への関与
○池崎 みどり[1]、松村 考[2]、東本 菜月[2]、渋川 幸直[3]、和田 芳直[3]、眞鍋 史乃[4]、伊藤 幸成[4]、井原 義人[1]（1.和歌山県医大・医・生化、2.和歌山県医大・医・大学院準備課程、3.大阪母子医療セ研・代謝、4.理研）

[1P-0019] 統合失調症薬クロルプロマジンによる polySia-NCAMのヒト神経細胞およびマウス脳領域特異的発現変動の解析
○佐藤 ちひろ[1]、阿部 智佳羅[1]、西村 沙希[1]、森 愛理[1]、新美 百希[1]、Yi Yang[1]、羽根 正弥[1]、北島 健[1]（1.名大・生物機能セ）

[1P-0020] 合成糖鎖を用いたO-グリカンの調製方法に関する研究
○太田 里子[1]、森脇 有加[1]、水野 保子[1]（1.東レリサーチセンター）

[1P-0021] SialyI-Tn抗原発現による抗酸化酵素の誘導メカニズム
○田嶋 彩香[1]、前田 賢人[1]、高宮 里奈[2]、大坪 和明[1,3]（1.熊大・院保健・生体情報解析学、2.札幌医大・医化学、3.熊大・院生命科学・生体情報解析学）

[1P-0022] 老化マウスにおける尿中糖タンパク質の発現変化
○赤阪一萬谷 啓子[1]、萬谷 博[1]、遠藤 玉夫[1]（1.東京都健康長寿医療センター研究所）

[1P-0023] 糖尿病網膜症における新規血管新生因子ガレクチン-1の発現調節メカニズム
○神田 敦宏[1]、野田 航介[1]、齋藤 航[1]、石田 晋[1]（1.北大・院医・眼科）

[1P-0024] カルレティキュリンはインテグリンß1への関与を介しヒト絨毛外栄養膜細胞浸潤を制御する
○山本 円[1]、岩橋 尚幸[1]、池崎 みどり[2]、井筐 一彦[1]、井原 義人[2]（1.和歌山県医大・医・産婦、2.和歌山県医大・医・生化）

[1P-0025] 血管新生阻害作用を持つコンドロイチン硫酸の構造の探索
○小林 孝[1,2]、柿崎 育子[1]、工藤 海[2]、木下 結衣[3]、中村 敏也[2,3]（1.弘前大・院医・高度先進医学研究セ・糖鎖工学、2.弘前大・院保・生体検査科学、3.弘前大・医・保健）

[1P-0026] TAG-1リガンド/ホスファカンのコンドロイチン硫酸 CSCによる小脳顆粒細胞の反発作用
○小松谷 啓介[1]、井口 智弘[1]、川島 育夫[1]、武田 泰生[2]、霜田 靖[3]、杉浦 信夫[4]、前田 信明[5]、笠原 浩二[1]（1.東京都医学研・細胞膜、2.鹿児島大・病院、3.長岡技科大・神経機能、4.愛知医大・分子医科研、5.東京都医学研・神経回路）

[1P-0027] 中枢神経系に発現するヘパラン硫酸と体温調節
○永井 尚子[1]、杉浦 信夫[1]、幡野 その子[1]、木全 弘治[2]、渡辺 秀人[1]（1.愛知医大・分医研、2.愛知医大・学際的痛みセンター）

[1P-0028] Exosomes secreted by oral squamous carcinoma cells undergoing TGF-β-induced epithelial to mesenchymal transition
○井上 カタジナ アンナ[1]、高橋 和樹[1]、松田 匠源[1]、吉松 康裕[2]、横山 三紀[1]、渡部 徹郎[1]（1.医科歯科大・院・医歯学・硬生化学、2.医科歯科大・大学

院・医歯学・分子細胞機能学）

[1P-0029] がん特異的抗ポドカリキシン抗体 PcMab-6の樹立と解析

○金子 美華[1]、加藤 幸成[1]（1.東北大・院医・抗体創薬）

[1P-0030] セレノグルタチオンの高還元力を利用したメチルグリオキサールの低減

○熊坂 実優[1]、下平 伸吾[2]、岩岡 道夫[2]、金森 審子[1]（1.東海大・工・生命化学、2.東海大・理・化学）

[1P-0031] 免疫制御分子 PILRαと免疫細胞分化マーカーCD45の相互作用解析

○石塚 幹広[1]、古川 敦[1]、荒瀬 尚[2]、前仲 勝実[1]（1.北大・院薬・生体分子機能、2.阪大・微研）

[1P-1-2] 1. 糖質生物学・脂質生物学-2) レクチン

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[1P-0032] NMRによるコアフコース認識レクチン PhoSLの三量体溶液構造とフコース認識機構の解析

○山崎 和彦[1]、山崎 智子[1]、舘野 浩章[2]（1.産総研・バイオメディカル、2.産総研・創薬基盤）

[1P-0033（1AT26-10）] コアフコース認識レクチン PhoSLによるコアフコース特異的認識機構の結晶学的解析

○久保田 智巳[1]、山崎 智子[1]、長島 生[2]、清水 弘樹[2]、舘野 浩章[3]、山崎 和彦[1]（1.産総研・バイオメディカル、2.産総研・生物プロセス、3.産総研・創薬基盤）

[1P-0034] ガレクチン-2の酸化的失活からの防御に関与する S-ニトロソ化部位の解析

田村 真由美[1]、佐々木 啓晴[1]、武内 智春[1]、畑中 朋美[1]、大竹 一男[1]、舘野 浩章[2]、平林 淳[2]、小林 順[1]、○荒田 洋一郎[1,3]（1.城西大・薬、2.産総研・創薬基盤研究部門、3.帝京大・薬）

[1P-0035（1AT26-09）] NMRを用いた S-ニトロソ化によるガレクチン-2の酸化的失活防御メカニズムの解明

○坂倉 正義[1]、田村 真由美[2]、武内 智春[2]、荒田 洋一郎[2,3]、高橋 栄夫[1]（1.横浜市大・生命医科、2.城西大・薬・生化学、3.帝京大・薬）

[1P-0036（1AT26-07）] レクチン ZG16pは大腸がん細胞の増殖を抑制する

○水戸 晶子[1,2]、斎藤 多佳子[1]、Sabine Gouraud[3]、相川 京子[4]（1.お茶大・院・人間文化・理学、2.お茶大・院・リーディング、3.お茶大・リーディング大学院推進センター、4.お茶大・基幹研究院・自然科学系）

[1P-0037（1AT26-08）] CD45は糖鎖シスリガンドとして CD22/Siglec-2を抑制することで Bリンパ球分化を促進する

○赤津 ちづる[1]、Amin Alborzian-Deh-Sheikh[1]、石田 秀治[2]、鍔田 武志[1]（1.東京医科歯科大・難研・免疫疾患、2.岐阜大・応用生物科学）

[1P-0038] Lectin Activity of Reg Family Proteins Depends on the Environmental pH

○Nausheen Jamal[1]、Rio Kawasaki[1]、Yuichiro Kezuka[2]、Takamasa Nonaka[2]、Kazuaki Ohashi[1]、Koji Nata[1]（1.Iwate Medical University, School of Pharmacy, Dept. of Medical Biochemistry、2.Iwate Medical University, School of Pharmacy, Dept. of Structural Biology）

[1P-0039] Entamoebaレクチンの Igl サブユニットが有する溶血活性に関する研究

○加藤 健太郎[1]、牧内 貴志[2]、Xunjia Cheng[2,3]、橘 裕司[2]（1.長崎大・熱研・生態疫学、2.東海大・医・基礎医、3.Dept. of Med. Microbiol. Parasitol., Sch. of Basic Med. Sci., Fudan Univ.）

[1P-0040] 細菌 Pseudomonas mandeliiレクチン(PML)の血管新生阻害活性

○岩田 莉奈[1]、松原 主典[2]、佐藤 雄一郎[1]、森本 金次郎[1]（1.安田女子・薬、2.広島大・教育）

[1P-0041] ガレクチン-９の細胞内移行がタンパク質分解システムに与える影響と細胞死誘導作用の関連

伊藤 愛子[1]、中村 隆範[2]、○西 望[1]（1.香大・総合生命、2.香大・医・分子細胞）

[1P-0042] 再生過程におけるヤマトヒメミミズのメチル化マンノース結合タンパク質とその関連タンパク質 Ejrup3の遺伝子発現動態

○小川 秀[1]、古川 清[2]（1.長岡高専・一般教育、2.長岡技科大・生物機能工学）

[1P-0043] 糖鎖高分子によって解明された Type3中間径フィラメントの細胞表面出現と N-アセチルグルコサミン結合活性

○伊勢 裕彦[1]、山崎 貞徳[2]、三浦 佳子[2]（1.九大・先導研、2.九大・院工）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-0044] 糖鎖を利用したがんエキソソームの捕捉の可能性
○山本 美佳[1]、原田 陽一郎[1]、堀 貫治[2]、丸山 征郎[1]
（1.鹿児島大・医歯学、2.広島大・生物圏科学）

[1P-0045] C型レクチン SPLの立体構造と Ca^{2+}非依存的糖結合特異性
○樋口 周平[1]、板倉 周平[1]、海野 英昭[1]、郷田 秀一郎[1]、畠山 智充[1]（1.長崎大・院工・物質科学）

[1P-0046] ナマズ卵レクチンによる抗がん剤排出抑制機構の解明
○菅原 栄紀[1]、石川 幼尋[1]、本田 捷太[1]、立田 岳生[1]、細野 雅祐[1]（1.東北医科薬科大・分子生体膜研究所・分子認識学）

[1P-0047] ガレクチン-1の糖鎖特異性および多量体構造とアポトーシス誘導活性の相関について
○野中 康宏[1]、小川 崇[1]、吉田 裕美[2]、東海林 博樹[3]、西 望[2]、神鳥 成弘[2]、中村 隆範[1]（1.香川大・医・分子細胞、2.香川大・総合生命、3.金沢医科大・一般教育・生物）

[1P-0048] ANXA4による血液凝固内因系経路の阻害機構
○中山 萌絵香[1,2]、宮川 瞳[1]、倉浪 佑実子[1]、相川 京子[3]（1.お茶大・院・人間文化・理学、2.お茶大・院・リーディング、3.お茶大・基幹研究院・自然科学系）

[1P-0049] シグナルペプチドのないタンパク質の細胞外移行機構
○黒澤 静霞[1]、相川 京子[2]（1.お茶大・院・人間文化・理学、2.お茶大・基幹研究院・自然科学系）

[1P-0050] ヒト大腸がんおよび正常腸組織におけるガレクチン-4の発現及び機能解析
○小川 崇[1]、野中 康宏[1]、東海林 博樹[2]、舘野 浩章[3]、平林 淳[3]、西 望[4]、中村 隆範[1]（1.香大・医・分子細胞、2.金沢医大・生物、3.産総研・幹細胞、4.香大・総合生命）

[1P-1-3] 1. 糖質生物学・脂質生物学-3) 糖鎖関連酵素

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[1P-0051（1AT26-13）] β3GalNAcT2糖転移酵素は type I LacdiNAc構造を N型糖鎖と O型糖鎖上に形成する
○安形 清彦[1]、中根 隆浩[1]、古川 早苗[1]、佐藤 隆[1]、澤木 弘道[1]、曽我部 万紀[1]、久保田 智己[1]、梶 裕之[1]、成松 久[1]（1.産総研・糖鎖技術RG）

[1P-0052] B3GalNT2糖転移酵素によって合成される type I LacdiNAc構造キャリアタンパク質の同定
○中根 隆浩[1,2]、安形 清彦[1]、佐藤 隆[1]、梶 裕之[1]、成松 久[1,2]（1.産総研・創薬基盤・糖鎖技術、2.筑波大院・人間総合科学・疾患制御）

[1P-0053] シアル酸転移酵素 ST3Gal IV欠損マウスの統合失調症陰性症状について
○太田 知沙[1]、廣田 暖奈[1]、藤田 明子[1]、加藤 啓子[1]（1.京都産業大学大学院 生命科学研究科）

[1P-0054] シアル酸転移酵素 ST3Gal4欠損マウスにおける情動行動と代謝産物の関連
○藤田 明子[1]、奥野 貴哉[1]、加藤 啓子[1]（1.京都産業大学大学院 生命科学研究科）

[1P-0055] 側頭葉てんかん発症と末梢における脂質代謝について
○太田 真菜美[1]、藤田 明子[1]、加藤 啓子[1]（1.京都産業大学院 生命科学研究科）

[1P-0056] 微細藻類*Euglena gracilis*ワックスエステル分解酵素の機能解析
栗原 佳恵子[1,2]、横山 知穂[1]、石井 侑樹[1,2]、小川 貴央[1,2]、丸田 隆典[1,2]、○石川 孝博[1,2]（1.島根大・生物資源、2.JST・CREST）

[1P-0057] データベースを利用した微細藻類ユーグレナのパラミロン分解に関わるグルカナーゼの探索
○田中 優史[1,2]、後藤 京[1]、丸田 隆典[1,2]、小川 貴央[1,2]、石川 孝博[1,2]（1.島根大・生資科・生命工、2.JST・CREST）

[1P-0058] プロテオミクスによる微細藻類 Euglena gracilisのパラミロン代謝関連酵素の同定
○後藤 京[1,2]、田中 優史[1,2]、西野 耕平[1,2]、小川 貴央[1,2]、丸田 隆典[1,2]、石川 孝博[1,2]（1.島根大・生物資源、2.JST・CREST）

[1P-0059（1AT26-04）] 膵β細胞におけるヘパラン硫酸はインスリン分泌及び糖の恒常性維持に重要である
○松澤 拓郎[1]、吉川 雄朗[1]、中村 正帆[1,2]、谷内 一彦[1]（1.東北大・院医・機能薬理、2.東北医科薬科大・医・薬理学）

[1P-0060（1AT26-11）] *Prevotella melaninogenica*の産生する糖タンパク質糖鎖遊離酵素の性質とその遺伝子発現系の構築ならびに発現酵素の性質
竹内 朋史[1]、高谷 尚弥[1]、○伊藤 和央[1]（1.阪市大・院理 ）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-0061（1AT26-12）] Engase欠損により回避可能/不可能な Ngly1欠損による異常
○藤平 陽彦[1,2]、根岸-正原 由紀[1]、田村 勝[3]、高倉 大輔[4,5]、黄 澄澄[1]、若菜 茂晴[3]、川崎 ナナ[4]、船越 陽子[1]、鈴木 匡[1]（1.理研・グローバル研究クラスタ・糖鎖代謝学研究チーム、2.順天堂大院・医学・難病の診断と治療研究センター・糖鎖創薬研究室、3.理研・バイオリソースセンター・マウス表現型解析開発チーム、4.横市大・生命医科学・創薬再生科学研究室、5.慶應・総合医科学研究センター）

[1P-0062（1AT26-14）] POMGnT1の構造解析による筋ジストロフィー疾患発症機序解明
○桑原 直之[1]、萬谷 博[2]、山田 健之[2]、舘野 浩章[3]、金川 基[4]、小林 千浩[4]、赤阪-萬谷 啓子[2]、弘瀬 友理子[5]、水野 真盛[5]、池口 満徳[6]、戸田 達史[4]、平林 淳[3]、千田 俊哉[1]、遠藤 玉夫[2]、加藤 龍一[1]（1.高エネ研・物構研・構造生物、2.都健康長寿医療センター研、3.産総研・創薬基盤、4.神戸大院・医、5.野口研、6.横市大・生命医）

[1P-0063（1AT26-15）] 形質膜シアリダーゼ NEU3によるEGFRシグナリングの調節機構
○山本 晃司[1,2,6]、高橋 耕太[3]、塩崎 一弘[4]、山口 壹範[5]、島 礼[6]、宮城 妙子[6]（1.埼玉医大・保健医療、2.東北大・院医・がん分子制御、3.東北医薬大・分子認識、4.鹿児島大・水産、5.宮城がんセ研・発がん制御、6.宮城がんセ研・がん薬物療法）

[1P-0064] 全アミノ酸スキャニング変異導入法による*Bacillus* sp. TAR-1株キシラナーゼの耐熱化
○片野 裕太[1]、中谷 滉太[1]、兒島 憲二[1]、滝田 禎亮[1]、八波 利恵[2]、中村 聡[2]、保川 清[1]（1.京大・院農・食生科、2.東工大院・生命理工）

[1P-0065] シグナル伝達阻害剤を用いた糖鎖合成酵素遺伝子の分別的発現調節機構の解明
○竹内 理香[1]、宮田 麻衣子[1]、ウプル ジャヤデワン[3]、田島 織絵[1]、神戸 真理子[1]、古川 鋼一[1,2]、古川 圭子[1]（1.中部大・生命健康・生命医科、2.名大・院医・2生化、3.三重大・医・遺伝子免疫細胞治療学）

[1P-0066] マンゴー由来α1,3-フコース転移酵素遺伝子（*MiFUT11*）の同定・機能解析
○岡田 貴裕[1]、井原 秀之[1]、伊東 利津[1]、池田 義孝[1]（1.佐大・医・分子生命科学）

[1P-0067] ヒト α1,6-フコース転移酵素（ FUT8）の部位特異的変異導入による翻訳後修飾の改変
○井原 秀之[1]、岡田 貴裕[1]、池田 義孝[1]（1.佐賀大・医・分子生命・細胞生物）

[1P-0068] *Bifidobacterium bifidum*由来1,2-α-L-フコシダーゼの N末端機能未知ドメインの解析
○丹沢 充裕[1]、加藤 紀彦[1]、片山 高嶺[1]（1.京大・院生命）

[1P-0069] ドリコールサイクルにおけるヒト MPDU1蛋白質の物理的相互作用に重要な領域の解析
○高橋 哲夫[1]、傅能 康成[1]、岩本 栄介[1]、辰巳 智恵美[1]（1.東海大・工・生命化学）

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 6) リン脂質（ポスター）

[1P-1-6] 1. 糖質生物学・脂質生物学-6) リン脂質

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[1P-0070] 魚鱗癬原因遺伝子 Nipal4ノックアウトマウスにおける皮膚バリア脂質アシルセラミドの減少
○本多 湧一[1]、北村 拓也[1]、永沼 達郎[1]、大野 祐介[2]、佐々 貴之[2]、木原 章雄[2]（1.北大・院生命、2.北大・院薬）

[1P-0071] 実験的自己免疫性ぶどう膜炎ラットの房水中の酸化リン脂質の変化
○平岡 美紀[1]、阿部 晃[1]、井田 洋輔[1]、大黒 浩[1]（1.札幌医大・医学部・眼科学）

[1P-0072] ホスファチジルコリン輸送タンパク質 StarD7は、ミトコンドリア外膜の外葉に局在する
○堀端 康博[1]、安戸 博美[1]、佐藤 元康[1]、清水 裕晶[1]、三橋 里美[1]、清水 泰生[1]、伊藤 雅彦[1]、杉本 博之[1]（1.獨医大・生化学）

[1P-0073] 逆相遠心法による巨大リン脂質ベシクルの形成と高効率精製
○林 佑紀[1]、仲野 耕平[1]、冨田 昌弘[1]、湊元 幹太[1]（1.三重大・院工・分子素材工学）

[1P-0074] 蛍光標識酸化リン脂質による簡便なリソゾーム・ホスホリパーゼ A2活性測定
○阿部 晃[1]、平岡 美紀[1]、シェイマン ジェイムス[2]、大黒 浩[1]（1.札医・眼科、2.ミシガン大・内科）

[1P-0075] 細胞内ホスホリパーゼ A1の細胞増殖およびミト

コンドリア機能に及ぼす影響

○小泉 昂範[1]、加納 莉夏[1]、稲垣 雄介[1]、松本 直樹[1]、林 康広[1]、佐々木 洋子[1]、荒田 洋一郎[1]、杉浦 隆之[1]、山下 純[1]（1.帝京大）

[1P-0076] ホスファチジルイノシトールの sn-1位の脂肪酸組成は上皮細胞のアピカルジャンクション形成に重要である

○今江 理恵子[1,2]、三谷 昌平[3]、新井 洋由[2,4]（1.都健康長寿セ・老化機構、2.東大・院薬・衛生化学、3.東女医大・医・第二生理、4.AMED-CREST, AMED）

[1P-0077] HDLによる LDL中の酸化 PC代謝の安定同位体リピドミクスを用いた解析

○笹部 直子[1]、小浜 孝士[1]、増田 しおり[1]、高田 夏鈴[1]、櫻井 彩伽[1]、長谷川 拓也[1]、福原 潔[2]、水野 美麗[2]、相内 敏弘[1]、加藤 里奈[1]、板部 洋之[1]（1.昭和大・薬・生物化学、2.昭和大・薬・薬品製造化学）

[1P-0078] 黄色ブドウ球菌におけるウンデカプレニルリン酸生成に関わるリピドホスファターゼ遺伝子およびリピドキナーゼ遺伝子の単独および多重破壊株の作成と解析

○嶋田 圭純[1]、藤田 高彬[1]、川上 直輝[1]、金坂 伊須萌[2]、小林 寅吉吉[2]、藤崎 真吾[1]（1.東邦大・理・生物分子、2.東邦大・看護）

[1P-0079] ホスファチジルイノシトール４,５-ニリン酸結合タンパク質の網羅的探索

○豊田 千穂[1]、福山 尭嗣[1]、中村 由和[1,2]、深見 希代子[1,3]（1.東薬大・生命・ゲノム病態、2.PRIME、3.AMED-CREST）

[1P-0080] 大腸癌における PLCδ1の PKCを介した作用メカニズムの解析

○麻田 偲[1]、馬鳥 亮佑[1]、佐藤 礼子[1]、深見 希代子[1,2]（1.東薬大・生命・ゲノム病態、2.国立研究開発法人日本医療研究開発機構）

[1P-0081] 黄色ブドウ球菌においてウンデカプレニルリン酸生成に関わるリピドホスファターゼ遺伝子の同定

○川上 直輝[1]、嶋田 圭純[1]、藤田 高彬[1]、金坂 伊須萌[2]、小林 寅吉吉[2]、藤崎 真吾[1]（1.東邦大・理・生物分子、2.東邦大・看護）

[1P-0082] 骨格筋における18:2含有 Cardiolipin合成への PGC-1αの関与

○妹尾 奈波[1]、三好 規之[1]、守田 昭仁[1]、三浦 進司[1]（1.静岡県立大・食品栄養科学）

[1P-0083] 骨格筋における温度感受性受容体を介したロコモティブシンドローム予防法の検討

○橋詰 力[1]、伊藤 圭祐[1]、三浦 進司[1]、三好 規之[1]（1.静岡県立大学 食品栄養科学部）

[1P-0084] N末端の「 di-proline motif」により制御される脂肪酸不飽和化酵素の分解機構

○村上 光[1]、長尾 耕治郎[1]、原 雄二[1]、梅田 眞郷[1]（1.京大・院工・合成・生物化学）

[1P-0085] DDHD2の欠損は ROS誘導性の運動神経細胞死を引き起こす

○丸山 智広[1]、前本 佑樹[1]、岡野 ジェイムス洋尚[2]、原 央子[2]、多賀谷 光男[1]、谷 佳津子[1]（1.東京薬科大学、2.東京慈恵会医科大学）

[1P-0086] ラビリンチュラ類のホスファチジルコリン（ PC）合成経路の解明

○江湖 龍太郎[1]、奴田原 枝利[2]、石橋 洋平[3]、沖野 望[3]、伊東 信[3,4]（1.九大院・生資環・生命機能、2.九大院・生資環・生物産業創成、3.九大院・農・生命機能、4.九大院・農・i-BAC）

[1P-0087] 脂肪酸不飽和化酵素欠損株の樹立

○木田 啓佑[1]、長尾 耕治郎[1]、村上 光[1]、遠矢 楓[1]、原 雄二[1]、梅田 眞郷[1]（1.京大院・工・合成・生物化学）

[1P-0088] DPPIは精子細胞に特異的に存在するリン脂質である

○赤木 聡介[1]、河野 望[1,2]、嶋中 雄太[1]、新井 洋由[1,3]（1.東大・院薬・衛生化学、2.Prime, AMED、3.AMED-CREST）

[1P-0089] Possible LPA receptors involved in IL-10 production

○Xiaowei li[1]、Jiao Wang[1]、Kuniyuki Kano[1]、Junken Aoki[1]（1.Laboratory of Molecular and Cellular Biochemistry, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Tohoku University）

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 10) リピドミクス（ポスター）

[1P-1-10] 1. 糖質生物学・脂質生物学-10) リピドミクス

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[1P-0090] 脂質データベース LipidBank の Wiki版構築とその特徴

○中村 和生[1]、有田 正規[2]、笠間 健嗣[3]、横山 和明[4]、八杉 悦子[5]、和泉 孝志[6]（1.北里大・一般教育・生物／院医、2.遺伝研／理研・環境資源セ、3.東工大・地球生命研、4.帝京大・薬、5.東大・院医、6.群大・院医）

[1P-0091] ヒト不死化アストロサイトにおけるユニークなリン脂質脂肪酸プロファイル

©日本分子生物学会/日本生化学会

○北村 啓太[1]、森尾 花恵[1,2]、齊藤 公亮[3]、斎藤 嘉朗[3]、安西 尚彦[2]、秋田 英万[1]、降幡 知巳[1,2]（1.千葉大院・薬・薬物学、2.千葉大院・医・薬理学、3.国立衛研・医薬安全科学部）

[1P-0092] リピドミクス・プロファイリングによるがん抑制遺伝子産物 pRbの脂質代謝制御における役割の探索

○村中 勇人[1]、林 昭夫[2]、南 圭一[3]、北嶋 俊輔[4]、河野 晋[1]、西本 裕希[1]、永谷 直子[1]、鈴木 美砂[1]、Lan Kulathunga[1]、佐々木 信成[5]、岡田 宣宏[1]、松坂 賢[6]、島野 仁[6]、多田 秀明[7]、高橋 智聡[1]（1.金沢大・がん進展制御研究所・腫瘍分子生物学、2.小野薬品工業・水無瀬研究所・探索研究部、3.小野薬品工業・筑波研究所・先端医薬研究部、4.ダナ・ファーバーがん研究所・腫瘍内科学、5.慶應義塾大・医学部・臨床薬剤学、6.筑波大・医学医療系・内分泌代謝・糖尿病内科、7.小野薬品工業・水無瀬研究所・オンコロジー研究開発センター）

[1P-0093] 可溶性エポキシドハイドロラーゼ N末端phosphataseの生体内基質探索および機能解析

○廣嵜 響[1]、田島 真梨絵[1]、悴田 正浩[1]、阿部 純己[1]、中野 真衣[1]、松本 直欣[1]、鈴木 絵里子[1]、蓮見 惠司[1]（1.東農工大・農学院・応用生命化学）

[1P-0094] HILIC-ESI-MS/MSによるグルコース脂質関連脂質の分析　ー　腎疾患の病態変化解析への応用

○中嶋 和紀[1]、秋山 央子[2]、高橋 和男[1]、湯澤 由紀夫[1]、平林 義雄[2]（1.藤田保健衛生大学、2.理化学研究所脳センター）

[1P-0095] リーリンが神経細胞の脂質組成に与える影響の解明

○興梠 勝成[1]、水上 智晴[1]、周 春雨[1]、河野 孝夫[1]、山崎 文義[2]、椛嶋 克哉[2]、嶋中 雄太[3]、池田 和貴[4]、新井 洋由[3]、有田 誠[4,5]、瀬藤 光利[2]、服部 光治[1]（1.名市大・院薬・病態生化学、2.浜松医大・国立国際マスイメージングセンター、3.東大・院薬・衛生化学、4.理研IMS・メタボローム、5.慶大・院薬・代謝生理化学）

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 11) その他（ポスター）

[1P-1-11] 1. 糖質生物学・脂質生物学-11) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[1P-0096] ケトン食摂取モデルマウスに見られる糖脂質代謝関連分子の発現増加とその分子基盤

○奥田 徹哉[1]（1.産総研・生物プロセス研究部門）

[1P-0097] 糖原病 III型診断用の蛍光性分岐デキストリンの効率的な酵素合成

○坂口 実優[1]、牧野 泰士[1]、松原 浩[1]（1.阪府大・院理・分子科学）

[1P-0098] 糖鎖科学ポータルサイト GlyCosmosにおける糖鎖立体構造

○山田 一作[1]、木下 聖子[2]（1.野口研、2.創価大）

[1P-0099] 好熱好酸性アーキア Thermoplasma acidophilumにおける膜脂質合成遺伝子の探索と解析

○稲葉 宏人[1]、長沢 菜月[1]、根本 直樹[1]（1.千葉工大・院工・生命環境科学）

[1P-0100] ショウジョウバエの脂質代謝におけるセロトニントランスポーターの機能解析

○Tuan Pham[1]、Tran Tran [1]、Men TT[1,2]、亀井 加恵子[1]（1.Kyoto Inst.of Technol.、2.Cantho Unin.）

[1P-0101] ショウジョウバエの翅発生における lipid storage droplet 2の機能解明

○Binh Tran[1]、PLA Tuan[1]、Men Tran[1,2]、亀井 加恵子[1]（1.Dept. Biomol. Eng., Kyoto Inst. Technol.、2.Dept. Biol., Cantho Uni.）

[1P-0102] 哺乳類細胞におけるデアミノノイラミン酸(KDN)の単糖およびオリゴマーの取込機構の解析

○岩木 佑弥[1,2]、佐藤 ちひろ[1,2]、北島 健[1,2]（1.名大院・生命農学、2.名大・生物機能セ）

[1P-0103] アミノ酸欠乏に応答した肝臓の糖新生酵素遺伝子の発現抑制機構の解明

○熊野 未佳子[1]、西 宏起[1]、山中 大介[1]、合田 祐貴[1]、豊島 由香[2]、竹中 麻子[3]、伯野 史彦[1]、高橋 伸一郎[1]（1.東大院・農・応用動物、2.日医・先医研、3.明大・農・農芸化学）

[1P-0104] 米麹由来のスフィンゴ脂質の生理機能解析

○江崎 祥大[1]、田中 遥[2]、光武 進[2]（1.佐賀大・院農・生物資源科学、2.佐賀大・農・生命機能科学）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 1) 構造生物学、機能予測（ポスター）

[1P-2-1] 2. タンパク質-1) 構造生物学、機能予測

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[1P-0105] 好熱性細菌由来 rhomboid proteaseの機能・構造解析

○畠山 彩由子[1]、坂倉 正義[1]、太田 修平[1]、藤井 萌[1]、高橋 栄夫[1]（1.横浜市大・院・生命医科学）

[1P-0106] 酵母発現系を用いて調製したヒト膜タンパク質の物理化学的性状解析

○森 雅樹[1]、坂倉 正義[1]、鈴木 里佳[1]、高橋 栄夫[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.横市大・生命医科学）

[1P-0107] ヒストン H3において細胞毒性を示す分子内領域の特定とその作用機序

○田中 夕理[1]、山中 菜々子[1]、松村 幸枝[1]、小谷野 泉[1]、岩室 祥一[1]（1.東邦大・理・生物）

[1P-0108] ヒストン H3において抗微生物作用を示す分子内領域の特定とその作用機序

山中 菜々子[1]、田中 夕理[1]、小谷野 泉[1]、○岩室 祥一[1]（1.東邦大・理・生物）

[1P-0109] アナモックス菌のラダラン脂質生合成の推定鍵酵素のラジカル SAM酵素の結晶化

○末宗 周憲[1]、上垣 哲心[1]、日野 智也[1]、高井 研[2]、永野 真吾[1]（1.鳥取大・院持続社会創生、2.海洋開発研究機構）

[1P-0110] アナモックス細菌のラダラン脂質の生合成に関与すると推定される SAM依存性メチル基転移酵素の結晶化に向けた試料調製

○山口 修平[1]、西本 一希[2]、日野 智也[2]、永野 真吾[2]（1.鳥取大・工・生物応用、2.鳥取大・院工・化学生物）

[1P-0111] アナモックス菌のラダラン脂質生合成に関わると推定されるフィトエン不飽和化酵素の発現条件の検討

○上辻 将之[1]、西本 一希[2]、日野 智也[2]、永野 真吾[2]（1.鳥取大・工・生物応用、2.鳥取大・院工・化学生物）

[1P-0112] Styrene Maleic Acid co-polymerを用いたアルカン水酸化酵素 AlkBの可溶化及び精製

○宮内 祐輝[1]、岡本 貴樹[2]、永野 真吾[1]、日野 智也[1]（1.鳥取大・院工・化学生物、2.鳥取大・院持続性社会・化学バイオ）

[1P-0113] 構造解明に向けた TRPM8の効率的な熱安定化変異体作成手法の確立

○川越 雄斗[1]、永野 真吾[1]、日野 智也[1]（1.鳥取大・院工・化学生物）

[1P-0114] クライオ電子顕微鏡による単粒子解析に向けたTRPV3試料の Nanodiscや Amphipolへの再構成

○前田 朋輝[1]、小島 要[2]、永野 真吾[3]、日野 智也[3]（1.鳥取大・工・生物応用、2.鳥取大・院持続性社会・化学バイオ、3.鳥取大・院工・化学生物）

[1P-0115] ランダム変異導入による熱安定化 GPCR取得法の確立

○山森 誠也[1]、小林 裕一[2]、永野 真吾[2]、日野 智也[2]（1.鳥取大・工・生物応用、2.鳥取大・院工・化学生物）

[1P-0116] リウマトイド因子 YES8c-Fc複合体の結晶構造解析

○白石 充典[1]、下川 健太[1]、伊藤 裕史[1]、李 在萬[2]、日下部 宣宏[2]、植田 正[1]（1.九大・院薬・蛋白質創薬学、2.九大・院農・昆虫ゲノム科学）

[1P-0117] 変異体解析によるリウマトイド因子の分子認識メカニズムの解明

○伊藤 裕史[1]、白石 充典[1]、李 在萬[2]、日下部 宣宏[2]、植田 正[1]（1.九大・院薬・蛋白質創薬学、2.九大・院農・昆虫ゲノム科学）

[1P-0118] Salt- and pH-dependent dimerization of N-terminal domain of spider silk protein

○Nur Alia Oktaviani[1]、Ali D Malay[1]、Akimasa Matsugami[2]、Fumiaki Hayashi[2]、Keiji Numata[1]（1.Enzyme Research Team, RIKEN Center for Sustainable Resource Sciences, Japan、2.NMR facility support unit, RIKEN Center for Life Science Technologies, Japan）

[1P-0119] *In silico* analysis of *Bacillus licheniformis* NWMF-1 alkaline protease and prediction of amino acid substitutions for enhanced thermostability

○Sharmila Jayasena[1]、Karthika Mayan[1]、Janith Wanigasekera[1]、Sulochana Wijesundera[1]（1.Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Faculty of Medicine, University of Colombo, Sri Lanka）

[1P-0120] X線を利用した蛋白質構造変化の観察　-結晶構造と溶液散乱の融合-

○松本 崇[1]、木下 誉富[2]、多田 俊治[2]、山野 昭人[1]（1.株式会社リガク、2.大阪府立大学理学系研究科）

[1P-0121] ウェルシュ菌線毛タンパク質 CppAの X線結晶解析

○神鳥 成弘[1]、玉井 栄治[2]、関谷 洋志[2]、牧 純[2]、成谷 宏文[3]（1.香川大・総合生命科学研究センター、2.松山大・薬、3.広島大院・生物圏科学研究科）

[1P-0122] 免疫シグナルハブタンパク質 MyD88の分子内相互作用解析

○宇野 雅俊[1,2]、中山 隆宏[3]、紺野 宏記[3]、大西 秀典[4]、白川 昌宏[1]、杤尾 豪人[2]（1.京大・院工・分子工学、2.京大・院理・生物物理、3.金沢大・バイオAFM、4.岐阜大・院医・分子構造学講座小児病態学分野）

[1P-0123] タンパク質結晶中に創り出した非接触空間を用いて、ミトコンドリアプレ配列受容体 Tom20の結合部位におけるプレ配列ペプチドの動的空間分布を可視化する

○韓 喜玲[1]、嶋田 睦[1]、神田 大輔[1]（1.九州大学 生体

防御医学研究所 構造生物学分野）

[1P-0124] 分子動力学計算による HIV-1 エンベロープ三量体の構造セクターの解析
○横山 勝[1]、佐藤 裕徳[1]（1.感染研・病原体ゲノム）

[1P-0125] 脂肪酸β-酸化において働く酵母リンゴ酸脱水素酵素（ MDH3)の構造および機能解析
○森山 周[1]、西尾 和也[1]、水島 恒裕[1]（1.兵庫県大・院理・生命科学）

[1P-0126] ヒトマラリア原虫のフェレドキシン:NADP+還元酵素における フェレドキシンとの相互作用残基の探索
湯浅 翔平[1]、齊藤 貴士[2]、福山 晴香[3]、長谷 俊治[1]、○木股 洋子[3]（1.阪大・蛋白研、2.北海道薬大、3.山大・院創成科学・生物機能）

[1P-0127] ヒト RORgammaリガンド結合領域、 SMRTペプチド、インバースアゴニストの三者複合体結晶構造解析によって明らかになったコリプレッサーの新規結合メカニズム
野口 正人[1]、○野村 明弘[1]、村瀬 賢[1]、土井 郷樹[1]、山口 桂史[1]、平田 和之[2]、塩崎 真[2]、平島 新太郎[2]、古徳 将之[2]、山口 尚之[3]、勝田 佳朋[3]、Steensma Ruo[4]、Li Xioalin[4]、Tao Haiyan[4]、Tse Bruno[4]、Fenn Morgan[4]、Babine Robert [4]、Bradley Erin[4]、Crowe Paul[4]、Thacher Scott[4]、安達　剛[1]、鎌田　雅史[1]（1.JT・医薬探索研、2.JT・化学研、3.JT・生物研、4.オーファジェン製薬）

[1P-0128] ヒト由来エンドセリン受容体 B型とペプチド性アンタゴニストとの複合体の X線結晶構造解析
○名切 千彩恵[1]、志甫谷 渉[2]、西澤 知宏[2,3]、濡木 理[2]（1.東大・理・生化、2.東大・院理・生物科学、3.JSTさきがけ）

[1P-0129] タウ凝集化を阻害するプロリン異性化酵素Pin1の異性化活性メカニズム
○栃尾 尚哉[1]、Jing Wang[2]、楯 真一[2]、楯 直子[1]（1.帝京大・薬、2.広大・院理・数理分子生命理学）

[1P-0130] Ragulator-Rag GTPase複合体形成の構造基盤
○中井 昌弘[1]、岡田 雅人[1]、名田 茂之[1]、小川 輝[1]、北村 絢香[1]、中井 友和[1]、中川 敦史[2]、山下 栄樹[2]、米原 涼[2]、中山 敬一[3]、中津海 洋一[3]（1.阪大 微研 発癌制御研究分野、2.阪大 蛋白研 超分子構造解析学研究室、3.九大 生体防御医学研究所 分子医科学分野）

[1P-0131] 蛋白質の固有のコンフォメーションを観るために結晶中に創り出した隙間を利用する結晶解析
○斯琴 巴拉[1]、嶋田 睦[1]、神田 大輔[1]（1.九大・生医研・構造生物）

[1P-0132] 軸糸ダイニン複合体の試験管内再構成の試み
○岩政 菜津紀[1]、清水 政也[1]、篠原 恭介[1]（1.東京農工大 院工 生命工）

[1P-0133] 超好熱アーキア Sulufolubus tokodaii由来糖トランスポーター関連タンパク質に関する研究
○中村 優介[1]、永野 結花[1]、海野 英昭[1]、畠山 智充[1]、河原林 裕[2]、郷田 秀一郎[1]（1.長崎大学・院工、2.産総研）

[1P-0134] ポリ A上の PABP多量体による翻訳調節メカニズムの解明
○沢崎 綾一[1]、今井 駿輔[2]、横川 真梨子[1]、細田 直[3]、星野 真一[3]、三尾 和弘[4]、三尾 宗代[4]、嶋田 一夫[2]、大澤 匡範[1]（1.慶應大・院薬、2.東大・院薬、3.名市大・院薬、4.産総研）

[1P-0135] 細胞外酸素運搬タンパク質ヘモシアニンの会合状態が酸素結合に及ぼす影響
○加藤 早苗[1]、田中 志帆[1]、北山 貴士[1]（1.鹿児島大・水産）

[1P-0136] 放射光施設 Diamond Light Sourceにおける X線小角散乱法による溶液状態のタンパク質構造解析
○井上 勝晶[1]、Nathan Cowieson[1]、Nikul Khunti[1]、Robert Rambo[1]（1.Diamond Light Source）

[1P-0137] MALDI MSによるタンパク質 H/D交換解析の高度化と実践
○山本 竜也[1]、佐竹 炎[1]（1.サントリー生命科学財団）

[1P-0138] ウシ心筋チトクロム酸化酵素の常温還元型構造解析
○宮本 朱梨[1]、田本 和宏[1]、芦田 和馬[1]、島田 敦広[2]、熊坂 崇[3]、馬場 清喜[3]、伊藤一新澤 恭子[1]、月原 冨武[1,4]、??川 信也[1]（1.兵県大・院生命理・ピコ研、2.岐阜大・応用生物、3.高輝度研、4.阪大・蛋白研）

[1P-0139] HLA-Cw12拘束性 HIV-1ペプチドに対する宿主免疫受容体認識機構
○山下 諒也[1]、黒木 喜美子[1]、渡邊 洋介[1]、阪田 竜馬[1]、村越 勇人[2]、赤星 智寛[2]、滝口 雅文[2]、前仲 勝実[2]（1.北大・薬・生体分子機能学研究室、2.熊大・エイズ学研究センター）

[1P-0140] 電位依存性プロトンチャネル VSOP/Hv1のアラキドン酸による活性化促進機構の解明
○松葉 広昭[1]、横川 真梨子[1]、木村 友美[2]、望月 綾野[2]、川鍋 陽[3]、岡村 康司[3]、嶋田 一夫[2]、大澤 匡範[2]（1.慶大院・薬、2.東大・院薬、3.阪大院・医/生命機能）

[1P-0142] ヘパロサン糖鎖生合成メカニズムの構造基盤解

©日本分子生物学会/日本生化学会

析
○堀 啓華[1]、大西 桃[1]、杉浦 信夫[2]、角田 佳充[1]
（1.九大・院農・生物機能分子化学、2.愛医大・分子医科学研）

[1P-0143] 抗体断片との共結晶化に向けた標的タンパク質への PAタグ挿入部位の探索と最適化
○田村 梨沙子[1]、大井 里香[1]、有森 貴夫[2]、加藤 幸成[3]、高木 淳一[2]、禾 晃和[1]（1.横浜市大・院・生命医、2.阪大・蛋白研、3.東北大・院医）

[1P-0144] *Paenibacillus*属細菌 FPU-7株のキチン分解と取り込みの構造基盤
○伊藤 貴文[1]、仲市 あかり[1]、藤井 豊[2]、日比 隆雄[1]、木元 久[1]（1.福井県大・生物資源、2.福井大・医）

ポスター会場1-2

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 2) フォールディングと品質管理（ポスター）

[1P-2-2] 2. タンパク質-2) フォールディングと品質管理

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0145] 小胞体ストレス応答を制御する因子 pXBP1(U)の機能解析
○上田 美里[1]、岩佐 奈実[1]、樋田 耕平[1]、佐々木 桂奈江[1]、谷口 麻衣[1]、若林 貞夫[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命）

[1P-0146] ゴルジ体ストレス応答プロテオグリカン経路によって転写が誘導される糖鎖修飾遺伝子 B3GAT3の転写制御機構の解析
○高木 菜那[1]、濱田 響[1]、尾上 ひかる[1]、山本 真由[1]、若林 貞夫[1]、谷口 麻衣[1]、佐々木 佳奈江[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命）

[1P-0147] ゴルジ体ストレス応答のプロテオグリカン経路による糖鎖修飾酵素遺伝子 HS6ST1の転写誘導機構
○小森 亮太[1]、向井 美穂[1]、若林 貞夫[1]、佐々木 桂奈江[1]、谷口 麻衣[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命）

[1P-0148] ゴルジ体ストレス応答のプロテオグリカン経路によって転写が誘導される糖鎖修飾遺伝子 GLCEのプロモーター解析
○奥田 知穂[1]、緑 佐智子[1]、山本 真由[1]、若林 貞夫[1]、佐々木 桂奈江[1]、谷口 麻衣[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命）

[1P-0149] ゴルジ体ストレス応答プロテオグリカン経路によって転写が誘導される糖鎖修飾遺伝子 NDST2の発現制御機構
○田中 隆也[1]、山本 真由[1]、緑 佐智子[1]、若林 貞夫[1]、佐々木 桂奈江[1]、谷口 麻衣[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命）

[1P-0150] ゴルジ体ストレス応答プロテオグリカン経路の標的遺伝子 CSGALNACT2の発現制御機構
○糸井 雄基[1]、中川 幸大[1]、西田 真実[1]、太田 香織[1]、若林 貞夫[1]、谷口 麻衣[1]、佐々木 桂奈江[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命）

[1P-0151] Analysis of the Molecular Mechanism Regulating Expression of Golgi Glycosylation Enzymes by the Golgi Stress Response
○Mohamad Ikhwan Jamaludin[1]、Hirotada Kawamura[1]、Tomohito Tsukamoto[1]、Kazuhiro Yoshikawa[1]、Yuki Kishimoto[1]、Kanae Sasaki[1]、Mai Taniguchi[1]、Sadao Wakabayashi[1]、Hiderou Yoshida[1]（1.Grad. Sch. of Life Sci., Univ. of Hyogo）

[1P-0152] ゴルジ体ストレス応答ムチン経路の標的遺伝子 GALNT8の発現誘導機構の解析
○安木 亮佑[1]、河村 優忠[1]、吉川 和宏[1]、村田 あゆみ[1]、佐々木 桂奈江[1]、谷口 麻衣[1]、若林 貞夫[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命）

[1P-0153] ゴルジ体ストレス応答ムチン経路と TFE3経路のクロストーク
○河村 優忠[1]、吉川 和宏[1]、村田 あゆみ[1]、佐々木 桂奈江[1]、谷口 麻衣[1]、若林 貞夫[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命）

[1P-0154] グリア細胞文化におけるゴルジ体ストレス応答
○西谷 健人[1]、荒川 佳穂[1]、村田 あゆみ[1]、久保田 圭祐[1]、佐々木 桂奈江[1]、谷口 麻衣[1]、若林 貞夫[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命）

[1P-0155] 抗体産生細胞の分化過程におけるゴルジ体ストレス応答
○井上 ちひろ[1]、谷口 麻衣[1]、若林 貞夫[1]、佐々木 桂奈江[1]、斉藤 美知子[3]、Boaz Tirosh[2]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命、2.ヘブライ大・院薬、3.京薬大・BSRC）

[1P-0156] 抗癌活性化合物 OSW-1によるゴルジ体ストレス応答の活性化
○村上 奈々[1]、佐々木 桂奈江[1]、若林 貞夫[1]、谷口 麻衣[1]、養王田 正文[2]、櫻井 香里[3]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院生命、2.東京農工大・院工・生命工、3.東京農工大・院工・生命機能化学）

[1P-0157] New insights into the molecular chaperone ability and aggregation propensity of proteins with proline-rich regions
○Elmira Bahraminejad[1]、Matthew A. Spence[1]、D

©日本分子生物学会/日本生化学会

avid C. Thorn[1]、John A. Carver[1]（1.Research School of Chemistry, The Australian National University, Acton, Australian Capital Territory 2601, Australia）

[1P-0158] Roles of the Cdc48-cofactor complexes in regulation of mitochondrial morphology in yeast

○Abhijit Chowdhury[1,2]、Teru Ogura[1,2,3]、Masatoshi Esaki[1,3]（1.Department of Molecular Cell Biology, Institute of Molecular Embryology and Genetics, Kumamoto University, Kumamoto 860-0811, Japan、2.Program for Leading Graduate Schools 'HIGO Program', Kumamoto University, Kumamoto 860-8556, Japan、3.Core Research for Evolutional Science and Technology, Japan Science and Technology Agency, Saitama 332-0012, Japan）

[1P-0159] ブタ PDI-P5の Ca^{2+}結合能および多量体形成能の解析

○太田 賢志[1]、遠藤 雄司[1,2]、宮川 美保[1,3]、米澤 直人[1]、赤間 邦子[1]（1.千葉大学・院理、2.ラサ工業、3.国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第一部）

[1P-0160] ALS原因タンパク質である SOD1の線維ゲル形成とその物性

○藤原 範子[1]、我妻 美千留[2]、大場 矢登[3]、吉原 大作[1]、徳原 栄一[4]、江口 裕伸[1]、崎山 晴彦[1]、井上 正志[3]、古川 良明[4]、鈴木 敬一郎[1]（1.兵庫医大・生化学、2.(株)アルバック 技術開発 、3.阪大・院理・高分子科学、4.慶應・理工・化学）

[1P-0161] SH保護試薬を用いたジスルフィド結合含有タンパク質の加熱不可逆失活機構の評価

○萩本 惇史[1]、宮本 愛[1]、二見 淳一郎[1]（1.岡山大・院・自然科学・生命医用工学）

[1P-0162] CHO細胞由来 PDIa4の抗体形成に関する機能

○公文 健人[1]、小松 圭[1]、福谷 洋介[1]、董 金華[2,3]、上田 宏[2]、養王田 正文[1]（1.東京農工大・院工・生命工、2.東工大・化生研、3.濰坊医学院・生物科技）

[1P-0163] 酸性条件下で機能する大腸菌ペリプラズム由来シャペロン HdeAのアミロイド線維化

○宮脇 史織[1]、植村 優実[1]、本郷 邦広[1]、河田 康志[1]、溝端 知宏[1]（1.鳥大院・持続社会創生科学・工）

[1P-0164] マルチ HANABIを用いたアミロイド線維形成促進の研究

○野井 健太郎[1]、笹原 健二[2]、宗 正智[2]、池中 建介[3]、望月 秀樹[3]、後藤 祐児[2]、荻 博次[1]（1.阪大・基礎工、2.阪大・蛋白研、3.阪大・医・神経内科学）

[1P-0165] 真核細胞内におけるαシヌクレインタンパク質の凝集形成イメージング研究

○松村 梨央[1]、黒柳 大地[2]、本郷 邦広[1,2]、溝端 知宏[1,2]、河田 康志[1,2]（1.鳥取大院・医・機能再生、2.鳥取大院・工・生物応用）

[1P-0166] インスリンの二本鎖酸化的フォールディングに対する Protein Disulfide Isomeraseの触媒作用

荒井 堅太[1]、○藤澤 翔太[1]、奥村 正樹[3,4]、片山 秀和[2]、稲葉 謙次[3,5]、岩岡 道夫[1]（1.東海大・理・化学、2.東海大・工・生命化学、3.東北大・多元研、4.東北大・学際研、5.CREST, JST）

[1P-0167] 細胞内不溶性ポリユビキチン化タンパク質の効率的定量分析による重金属の有害性評価

○高田 耕司[1]、平河 多恵[1]（1.慈恵医大・自然科学・生物学）

[1P-0168] 水溶性環状ジセレニド化合物によって触媒されるミスフォールドリボヌクレアーゼ Aのリフォールディング反応

○浅野 友紀[1]、上野 陽士[1]、岩岡 道夫[1]、荒井 堅太[1]（1.東海大・理・化学）

[1P-0169] 形質膜タンパク質品質管理に関わるエンドソーム局在ユビキチンリガーゼの機能解析

○沖米田 司[1]、酒井 了平[1]、東 桃子[1]、藤原 健[1]（1.関学大・理工・生命医化）

[1P-0170] メダカを用いた小胞体ストレスに起因するアポトーシスの解析

○陳 炳碩[1]、石川 時郎[1]、岡田 徹也[1]、森 和俊[1]（1.京大・院理・生物科学）

[1P-0171] 真核生物プレフォルディン–CCTシステムの基質特異性の解析

○小畑 智弘[1]、福井 彩花[1]、森田 健斗[1]、宇野 裕子[1]、山本 陽平[1]、丹羽 達也[2]、田口 英樹[2]、養王田 正文[1]（1.東京農工大・院工・生命工、2.東京工業大・細胞制御工学研究センター）

[1P-0172] 小胞体還元酵素 ERdj5の欠損はミトコンドリア形態恒常性の破綻を引き起こす

○山下 龍志[1]、潮田 亮[1,2]、永田 和宏[1,2]（1.京産大・院生命、2.京産大・タンパク質動態研究所）

[1P-0173] ミトコンドリアタンパク質を標的とする BAG6新規機能の探索

○林下 瑞希[1]、川原 裕之[1]（1.首都大・院理工・生命科学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-2-3] 2. タンパク質-3) タンパク質分解

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0174] 構成的プロテアソーム活性の転写因子 NRF1とNRF3による協調的制御の可能性

○片山 寛之[1]、鎌田 七海[2]、和久 剛[1]、小林 聡[1,2]（1.同志社大・生命医・医シス、2.同志社大・院生命医）

[1P-0175] Roquin-2による自然免疫応答の新たな抑制機構の解明

○工藤 勇気[1]、平田 祐介[1]、長岡 恵多[1]、中田 悠靖[1]、野口 拓也[1]、松沢 厚[1]（1.東北大・院薬・衛生化学）

[1P-0176] 真核生物の分泌タンパク質は天然変性領域率が高くなるほど分解が速くなる強い傾向を示す

○本間 桂一[1]、福地 佐斗志[1]（1.前工大・生命情報）

[1P-0177] 変異型 USP8を発現した Cushing病モデル細胞のプロテオミクス解析

○遠藤 彬則[1]、猪子 和也[1]、岩崎 泰正[2]、駒田 雅之[1]（1.東工大・科技創成研究院・細胞制御センター、2.高知大・臨床医学部門）

[1P-0178] 糸球体足細胞（ポドサイト）におけるユビキチンプロテアソーム系の役割

○牧野 慎市[1]、野中 香苗[1]、Juan Alejandro Oliva Trejo[2]、山下 博史[3]、田代 善崇[3]、高橋 良輔[3]、柳田 素子[1]、淺沼 克彦[4]（1.京大腎臓内科学、2.順天堂大神経疾患病態構造学、3.京大臨床神経学、4.千葉大学腎臓内科学）

[1P-0179] 形質膜 CFTRの選択的単離法の確立と結合タンパク質の網羅的解析

○加藤 知希[1]、大西 裕子[1]、沖米田 司[1]（1.関学大・理工・生命医化学）

[1P-0180] マアジ骨格筋におけるタンパク質分解の制御動態に関するペプチドームを用いた線形重回帰解析

○小南 友里[1]、林 達也[2]、時弘 哲治[2]、潮 秀樹[1]（1.東大・院農・水圏生物、2.東大・院数・数理科学）

[1P-0182] ウィルス由来新生鎖を切断する3Cプロテアーゼの機能解析

○山本 悠貴[1]、宇野 友貴[1]、町田 幸大[1,2]、今高 寛晃[1,2]（1.兵庫県立大・院工・応用化学、2.理研・ライフサイエンス）

[1P-0183] 近赤外光照射された単層カーボンナノチューブによりアミロイドベータ部分ペプチド凝集体は分解される

○福田 亮介[1]、梅山 有和[2]、今堀 博[2,3]、村上 達也[1,3,4]（1.富山県大・院工・生物工学、2.京大・院工・分子工学、3.京大・物質ー細胞統合システム拠点、4.富山県大・工・医薬品工学）

[1P-0184] BAG6依存的な GTP結合タンパク質分解機構の解明

○高橋 俊樹[1]、川原 裕之[1]（1.首都大・院理・生命科学）

[1P-0185] アクアポリン４の細胞内輸送と分解における C末端ドメインの役割

○阿部 陽一郎[1]、藤井 淳[1]、合田 和香美[1]、安井 正人[1]（1.慶應大・医・薬理）

[1P-0186] 出芽酵母 E3リガーゼ SCF^{Met30}による Ary34の分解制御機構の解析

○山口 竜[1]、中務 邦雄[2]、奥村 文彦[1]、小原 圭介[1]、嘉村 巧[1]（1.名大・院理・生命理学、2.名市大・院システム自然科学）

[1P-0187] ミトコンドリア外膜へミスターゲットした膜タンパク質の分解機構の解析

○松本 俊介[1]、中務 邦雄[2]、田村 康[3]、江崎 雅俊[4]、遠藤 斗志也[1]（1.京産大・総合生命、2.名市大・院システム、3.山形大・理、4.熊本大・発生研）

[1P-0188] Cushing病における脱ユビキチン化酵素 USP8の過剰活性化機構

○浅水 謙吾[1]、川口 紘平[1]、遠藤 彬則[1]、福嶋 俊明[1]、金丸 周司[2]、駒田 雅之[1]（1.東工大・科技創生研究院・細胞制御センター、2.東工大・生命理工学院）

[1P-0189] ミトコンドリア品質管理における Parkinの基質特異性について

○小谷野 史香[1]、田中 啓二[2]、松田 憲之[1]（1.都医学研・ユビキチン、2.都医学研・蛋白質代謝）

[1P-0190] リボソーム生合成を負に制御する Dot6と Tod6は飢餓条件においてプロテアソーム依存的に分解される

○鈴木 優太[1]、中務 邦雄[2]、小原 圭介[1]、奥村 文彦[1]、嘉村 巧[1]（1.名大・院理・生命理学、2.名市大・院システム自然科学）

[1P-0191] ミトコンドリア ATP産生制御因子 G0s2タンパク質を特異的に分解する新規ユビキチンリガーゼの探索

○神窪 謙太[1]、加藤 久和[2]、高島 成二[1,2]（1.阪大・院生命機能・医化学、2.阪大・院医・医化学）

[1P-0192] ヒト CLPX-CLPP複合体によるヘム結合型 ALAS1の認識及び分解メカニズムの解明

○野村 和美[1]、北川 悠[1]、大木 祐亮[1]、久保田 美子[1]、金子 桐子[1]、古山 和道[1]（1.岩手医科大学 生化学講座 分子医化学分野）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-0193] タンパク質のユビキチン分解を介した細胞周期と分化の制御機構

○常松 貴明[1,2]、山田 安希子[1]、新垣 理恵子[1]、石丸 直澄[1]、工藤 保誠[1]（1.徳大・院医歯薬・口腔分子病態学、2.徳大・院医歯薬・疾患病理学）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 4) タンパク質修飾（ポスター）

[1P-2-4] 2. タンパク質-4) タンパク質修飾

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0194] DNA損傷応答に関わる転写因子の c-Ablによるチロシンリン酸化

○安藤 充岐[1]、本田 拓也[1]、高倉 勇気[1]、鈴木 亘[1]、帯刀 隆[1]、赤津 亜希[1]、山口 憲孝[1]、山口 直人[1]（1.千葉大・院薬・分子細胞生物学）

[1P-0195] Apelin受容体タンパク質の翻訳後修飾による安定性獲得の可能性

○金城 俊彦[1]、山田 孝紀[1]、大塩 美知子[1]、平野 聖[1]、山下 卓哉[1]、東 紘史[1]、前田 定秋[2]、倉本 展行[1]（1.摂大・薬・薬効薬理、2.摂大・薬・薬物治療）

[1P-0196] BRAPと IKK2による I-kappaB betaのユビキチン化とリン酸化

○庄司 志咲子[1]、花田 和晴[1]、米持 まゆ美[1]、白水 美香子[1]（1.理研・CLST・DSSB）

[1P-0197] ヒト血清中の D-アミノ酸含有ペプチド同定

○Seongmin Ha[1]、Ingu Kim[2]、高田 匠[2]、藤井 紀子[2]（1.京大・院理・化学、2.京大・原子炉）

[1P-0198] 天然変性領域における多重リン酸化を介したクロマチン構造変換因子 FACTの機能制御機構

○青木 大将[1,2]、森田 鋭[2]、桑原 直子[1]、上脇 準一[1]、栃尾 尚哉[3]、梅原 崇史[2]、楯 真一[1]（1.広大・院理・数理、2.理研・CLST、3.帝京大・薬）

[1P-0199] ２つのユビキチンリガーゼ活性を持つLUBACリガーゼの副活性による主活性、生理機能の制御

○伏屋 康寛[1,2]、藤田 宏明[1]、岩井 一宏[1]（1.京大・院医・細胞機能制御学、2.京大・院医・臨床神経学）

[1P-0200] Jurkatヒト T細胞株における LUBACの機能解析

○後藤 栄治[1]、 徳永 文稔[1]（1.大阪市大・院医）

[1P-0201] 鉄制御蛋白質 IRP2へのヘム結合による活性酸素種産生とその酸化修飾機構

○西谷 雄大[1]、武田 有紀子[2]、内田 毅[3]、岩井 一宏[2]、石森 浩一郎[3]（1.北大・院総化、2.京大・院医、3.北大・院理）

[1P-0202] SOD1の SUMOによる翻訳後修飾とその調節

○和田 波望[1]、タキガワ アナ[1]、新倉 貴子[1]（1.上智大・理工・情報理工）

[1P-0203] Hydrogen Attachment/Abstraction Dissociation (HAD) タンデム質量分析法を用いたチロシン硫酸化分析

○高橋 秀典[1]、山内 祥聖[1]、関谷 禎規[1]、岩本 慎一[1]、田中 耕一[1]（1.島津製作所 質量分析研究所）

[1P-0204] HITI 法による FLAG-USP46ノックイン細胞株の樹立と解析

○村田 知弥[1]、石垣 清啓[1]、西方 圭那[1]、朴 秀寅[1]、海老原 史樹文[1]（1.関西学院大・理工・生命医化学）

[1P-0205] ADPリボシル化による RNAポリウリジル化の制御機構

○杉本（永池） 崇[1]、富田 耕造[1]（1.東大・院新領域・メディカル情報生命）

[1P-0206] 脂肪酸2位水酸化酵素 FA2H機能低下によるシェーグレン・ラルソン症候群の神経症状発症

○野尻 光希[1]、金武 司[1]、佐々 貴之[2]、木原 章雄[2]（1.北大・院生命・生化学、2.北大・院薬・生化学）

[1P-0207] リン酸化酵素が認識するリン酸化サイト配列の特徴抽出

○中西 千晴[1]、天野 睦紀[2]、福地 佐斗志[1]（1.前工大・院工・生命情報、2.名大・院医）

[1P-0208] NF-κB活性制御に関わる新規 OTU型脱ユビキチン化酵素の同定

後藤 栄治[1]、阿部 貴則[1]、○徳永 文稔[1]（1.大阪市大・院医・分子病態）

[1P-0209] 蛍光タンパク質を強制発現させた動物細胞で生じるペプチド性新規翻訳後修飾反応は細胞質内で起こる

○山田 一樹[1]、田中 眞人[1]（1.東電大・院理工・生命理工）

[1P-0210] αA-クリスタリンの部分ペプチドを用いたAsp58の異性化速度に関する p Hの影響

○石原 和樹[1]、金 仁求[2]、高田 匠[2]、藤井 紀子[2]（1.京大・院理・化学、2.京都大学原子炉実験所）

[1P-0211] 基質選択的な阻害を目指したメチル基転移酵素SMYD2の多重特異的基質認識機構の解明

○青木 将洋[1]、中木戸 誠[1]、津本 浩平[1,2]（1.東大・院工・化学生命工学、2.東大・医科研・疾患プロテオ）

[1P-0212] ハイスループットスクリーニングにより見出した化合物 JS-K存在時の TTR-FAP原因タンパク質トランスサイレチンの細胞内挙動

○今井 快樹[1,2]、帖佐 圭佑[1]、高木 舜[1]、寺西 ゆり子[1]、脇田 有梨子[1,2]、佐々木 亮子[1]、首藤 剛[1]、メリーアン スイコ[1]、甲斐 広文[1]（1.熊本大・院薬・遺伝子機能応用学、2.熊本大・リーディング大学院・HIGO）

[1P-0213] 5'-3'エキソリボヌクレアーゼ XRN1は

©日本分子生物学会/日本生化学会

DYRK1Aと結合し、リン酸化状態に応じて核局在を調節する

○高岡 翔平[1]、高橋 明格[1]、山本 雅[1]（1.沖縄科学技術大学院大学 細胞シグナルユニット）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 5) プロテオミクス（ポスター）

[1P-2-5] 2. タンパク質-5) プロテオミクス

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0214] アミノ酸組成分析を用いたタンパク質同定における PVDF膜上のタンパク質加水分解条件の検討

○熊本 紗也加[1]、荒木 朋洋[1]、山口 浩[2]（1.東海大・農・バイオ、2.東海大・阿蘇教養）

[1P-0215] 線虫ミトコンドリアのプロテオーム解析：二次元電気泳動法とショットガン質量分析

○高宮 信三郎[1]、數野 彩子[2]、峯木 礼子[2]、三浦 芳樹[2]、美田 敏宏[1]（1.順天堂大・院医・熱帯医学・寄生虫学、2.順天堂大・院医・研究基盤センター・生体分子）

[1P-0216] プロテインキナーゼのリン酸化動態のプロファイリング法の開発

○上里 裕樹[1]、木下 英司[2]、木下（菊田） 恵美子[2]、小池 透[2]、亀下 勇[1]、杉山 康憲[1]（1.香川大・農・応用生物科学、2.広島大院・医歯薬）

[1P-0217] 高純度エクソソームの MS適合界面活性剤を用いた LC-MS解析

○犬塚 達俊[1]、栗本 綾子[1]（1.(同)みらか中央研究所・基盤研究部）

[1P-0218] オルガネラ局在性修飾試薬による小胞体タンパク質のケミカルプロテオミクス

○藤沢 有磨[1]、田村 朋則[1]、浜地 格[1,2]（1.京大院工、2.JSTCREST）

[1P-0219] 骨芽細胞分化に伴う液性因子の高深度シークレトーム解析

○谷口 貴子[1]、谷口 寿章[1]（1.徳島大・酵素研・疾患プロテオミクス）

[1P-0220] 出芽酵母におけるタンパク質不均等分配とその分裂寿命への影響

○杉山 知史[1]、紀藤 圭治[1,2]、岡田 光弘[1,2]、楠 竣太[2]、谷車 亮[2]、野谷 大樹[2]、六本木 智裕[2]（1.明治大学・院農・生命科学、2.明治大学・学農・生命科学）

[1P-0221] アスパラギン残基に特異的なタンパク質中の非酵素的分解反応

○中沢 隆[1]、中野 沙紀[1]、石橋 由衣[1]、遊道 梓[1]（1.奈良女子大学）

[1P-0222] MSを用いた DIA法によるハイスループット多検体血清定量解析手法の開発

○中居 佑介[1]、伴 涼太朗[1,2]、井野 洋子[1]、香川 裕之[1]、平野 久[1]、木村 弥生[1]（1.横浜市大・先端研、2.横浜市大・院・生医研）

[1P-0223] ミトコンドリアカルパイン-1の新規基質分子の解析

○永島 昂[1]、山下 哲郎[2]、尾崎 拓[1]（1.岩手大・理工・生命、2.岩手大・農・応用生物化学）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 6) その他（ポスター）

[1P-2-6] 2. タンパク質-6) その他

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0224] *In Silico* Molecular Docking and Molecular Dynamics Approaches for the Discovery of Potential Biopesticides Targeting Octopamine Receptors

○Jerrica Dominique Gazmen[1]、Glenn Michael J Maglasang[1]、Lyssa B Lao[1]、Francoise Neil D Dacanay[1]、Mac Kevin E Braza[1]、Isaac Nicholas N Notorio[1]、Rae Joseph Louis M Tinao[1]、Ricky B Nellas[1]、Eizadora T Yu[1]（1.Inst. of Chem., Univ. of the Philippines Diliman）

[1P-0225] Antioxidant activities of bioactive peptides of fish sauce byproduct

○Petlada Khositanon[1,2]、Waeowalee Choksawangkarn [1,2]（1.Department of Biochemistry, Faculty of Science, Burapha University, Chon Buri, Thailand、2.Center of Excellence for Innovation in Chemistry (PERCH-CIC)）

[1P-0226] 酸性グアニジン―フェノール―クロロホルム抽出法におけるタンパク質の簡易調製

○中嶌 岳郎[1,2]、上條 祐司[1,3]、山田 洋輔[1,3]、田中 直樹[1,2]、青山 俊文[1]（1.信州大・院医・代謝制御、2.信州大・食農産セ、3.信州大・医・腎臓内科）

[1P-0227] 銀及び金投与によるラット腎臓中の銅代謝異常のメカニズムの検討

○齋藤 秀[1]（1.北大・理・化学）

[1P-0229] パラゴムノキの天然ゴム生合成マシナリを構成する RUBBER ELONGATION FACTORの精製および構造機能解析

○川端 健太[1]、山下 哲[1]、山口 晴彦[2]、片岡 邦重[1]、高橋 征司[3]（1.金沢大院・自然科学、2.住友ゴム工業（株）、3.東北大院・工）

[1P-0230] 可視光応答型光触媒 Rhドープ $SrTiO_3$による抗ファージ機構の解析

©日本分子生物学会/日本生化学会

○臼杵 翔[1,2]、山口 友一[1,2]、寺島 千晶[2]、勝又 健一[2]、鈴木 孝宗[2]、鈴木 智順[1,2]、藤嶋 昭[2]、工藤 昭彦[2,3]、大和屋 健二[1]、中田 一弥[1,2]（1.東理大・理工、2.東理大・総研・光触媒セ、3.東理大・理）

[1P-0231] 一回膜貫通型タンパク質の細胞内局在における膜貫通領域周辺配列の役割

○亀卦川 樹[1]、向井 有理[1]（1.明治大・院理・電気工学）

[1P-0232] オキシステロール結合タンパク質 OSBPとOSW-1の相互作用解析

○木村 真優[1]、山田 里佳[1]、福谷 洋介[1]、野口 恵一[2]、吉田 秀郎[3]、櫻井 香里[1]、養王田 正文[1]（1.東京農工大・院工・生命工、2.東京農工大・機器分析、3.兵庫県大・院・生命理学）

[1P-0233] 生体物質付着防止材 prevelex®の開発と効率的な細胞培養法への応用

○中嶋 宏之[1]、安部 菜月[1]、鈴木 康平[1]、広井 佳臣[1]、西野 泰斗[1]（1.日産化学工業株式会社）

[1P-0234] ムラサキ由来タンパク質と大腸菌のプレニルニリン酸合成酵素の相互作用の解析

○鈴木 勇磨[1]、並木　宏樹[1]、吉田 晃基[1]、佐々木 佳菜子[2]、宮脇 達也[2]、矢崎 一史[2]、藤崎 真吾[1]（1.東邦大・理・生物分子、2.京大・生存研）

[1P-0235] *Stenotrophomonas*エステラーゼの発現と精製

○鳥居 誉[1]、奥野 圭祐[1]、阿野 貴司[1]、岡南 政宏[1]（1.近畿大院・生物理工）

[1P-0236] レチナールアナログを使用した深赤色光受容チャネルロドプシンの開発

○沈 宜中[1]、佐々木 寿算[1]、山下 高廣[1]、七田 芳則[2]、沖津 貴志[3]、山野 由美子[3]、和田 昭盛[3]、石塚 徹[4]、八尾 寛[4]、今元 泰[1]（1.京大・院理・生物物理、2.立命大・総科技研、3.神薬大・生命有機化学、4.東北大・院生命・生命機能）

[1P-0237] 天然変性蛋白質 Mint3と FIH-1の相互作用機構の解明

○展 天承[1]、中山 佳昭[2]、長門石 曉[3]、坂本 毅治[3]、清木 元治[4]、津本 浩平[1,2,3]（1.東大・院工・化生、2.東大・院新領域・メディカルゲノム、3.東大・医科研、4.金沢大・医薬・医学）

[1P-0238] BRCA2とエトロゲン受容体は KPNA7を介して核に移行する

○佐藤 亜美[1]、斉藤 広子[2]、高岡 美帆[1]、中西 啓[1]、三木 義男[1,2]（1.東医歯大・難研・分子遺伝、2.癌研・研・遺伝子診断）

[1P-0239] ワクシニアウイルスを用いた脂質結合タンパク質のスクリーニング

○堀田 光國[1]、北又 学[1]、塙 京子[1]、末次 志郎[1]（1.奈良先端・バイオサイエンス）

[1P-0240] 脳に発現する脂肪酸結合タンパク質の生体低分子リガンドの探索

○田辺 和也[1]、中井 大樹[1]、長門石 曉[3]、杉本 直己[1,2]、中野 修一[1]（1.甲南大FIRST、2.甲南大FIBER、3.東大院・工学系研究科）

[1P-0241] 二種類の酵素ドメインから構成される融合タンパク質の示差走査蛍光定量解析

○佐藤 優花里[1]、中鉢 千尋[1]、永田 裕二[1]（1.東北大・院・生命）

[1P-0242] 細胞内模倣環境が促進させる DNAと塩基性タンパク質の非特異的相互作用

○堀田 政夫[1]、森本 隆太[1]、中井 大樹[1]、杉本 直己[1,2]、中野 修一[1]（1.甲南大FIRST、2.甲南大FIBER）

ポスター発表 | 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー | 1) 酵素の反応機構、調節、阻害（ポスター）

[1P-3-1] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-1) 酵素の反応機構、調節、阻害

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0243] Phylogenetic-guided PDI functional annotation to establish *in vitro* oxidative protein folding

○Szilvia Nagy[1,2]、Meszaros Tamas[2]、Taichi Takasuka[1]（1.Res. Fac. of Agr., Hokkaido Univ.、2.Dept. of Med. Chem., Semmelweis Univ., Hungary）

[1P-0244] Expression of fused *Plasmodium falciparum* orotate phosphoribosyltransferase and orotidine 5′-monophosphate decarboxylase in *Escherichia coli*

○Waranya Imprasittichai[1]、Patsarawadee Paojinda[2]、Sudaratana R. Krungkrai[3]、Jerapan Krungkrai[2]（1.Dept. of Basic Med. Sci., Faculty of Medicine Vajira Hospital, Navamindradhiraj Univ.,Thailand、2.Dept. of Biochem., Faculty of Medicine, Chulalongkorn Univ., Thailand、3.Unit of Biochem., Dept. of Med. Sci., Faculty of Sci., Rangsit Univ., Thailand）

[1P-0245] Inhibition profile of human malaria parasite orotidine 5′-monophosphate decarboxylase and orotate phosphoribosyltransferase fused bifunctional enzyme

○Patsarawadee Paojinda[1]、Waranya Imprasittichai[2]、Sudaratana R. Krungkrai[3]、J

©日本分子生物学会/日本生化学会

erapan Krungkrai[1]（1.Dept. of Biochem., Faculty of Med., Chulalongkorn Univ.、2.Dept. of Basic Med. Sci., Faculty of Med., Vajira Hospital, Navamindradhiraj Univ.、3.Unit of Biochem., Dept. of Medical Sci., Faculty of Sci., Rangsit Univ.）

[1P-0246] f型チオレドキシンの第三の Cysは標的タンパク質との相互作用に関わる

○横地 佑一[1,2]、野亦 次郎[1,2]、若林 憲一[1,2]、久堀 徹[1,2]（1.東工大・生命理工、2.東工大・化学生命研）

[1P-0247] 真核生物の P450活性を制御する新規遺伝子の探索と機能解析

○山本 耀介[1]、原 茅乃[2]、今石 浩正[3]（1.神戸大・農、2.神戸大・院・自然科学、3.神戸大・バイオシグナル総合研セ）

[1P-0249] DNAの複製・修復に関わる PCNA-p15-酵素群複合体の試験管内再構築

○松本 一樹[1]、Szilvia Nagy[1]、高須賀 太一[1]（1.北大・農学）

[1P-0250] アミノ酸による脂肪細胞の Pin1活性量調節

○高橋 勝彦[1]、片桐 啓暁[1]、清水 愛[1]、和泉田 有望[1]、福田 翔大[1]、高橋 典子[2]、内田 隆史[3]、東 伸昭[1]（1.星薬大・薬・生化学、2.星薬大・医薬研・衛生化学、3.東北大・院農・酵素分子）

[1P-0251] Myxococcus xanthusにおけるジアデノシン4リン酸及びアデノシン4リン酸を合成する酵素について

○田中 千尋[1]、岡 茉奈美[1]、木村 義雄[1]（1.香大・院農・生物資源）

[1P-0252] Fusobacterium nucleatum L-乳酸脱水素酵素ホモログの奇妙な酵素活性

成田 有輝[1]、古川 那由太[2]、桃尾 美帆[1]、川浪 大輔[1]、金子 拓馬[1]、宮永 顕正[3]、中島 将博[1]、○田口 速男[1]（1.東京理大・理工・応用生物科学、2.新潟薬大・応用生命科学、3.東工大院・理工・化学）

[1P-0253] ヒト O_2^-生成酵素 Nox1のリン酸化による活性調節

○渡辺 修平[1]、丸 幸輝[1]、韓 飛[1]、坂上 慎一[1]、田村 実[1]（1.愛媛大・院理工・応化）

[1P-0254] アルドケト還元酵素 AKR1B10の選択的阻害剤創製に向けた構造活性相関研究

○遠藤 智史[1]、コビル アウロンゴゼブ[3]、鎌足 雄司[2]、桑田 一夫[3]、豊岡 尚樹[4]、松永 俊之[1]、五十里 彰[1]（1.岐阜薬大・生化学、2.岐大・生命セ、3.岐大院・連創、4.富山大院・理工）

[1P-0255] ヒト P450の酵素活性制御に関与する SNFファミリー遺伝子の機能解析

○原 茅乃[1]、山本 耀介[2]、今石 浩正[1,2,3]（1.神戸大・自然科学、2.神戸大・農、3.神戸大・バイオシグナル総合研セ）

[1P-0256] *Bjerkandera adusta* Dec 1 が生産する DyPの電子伝達経路の解析

○篠田 実桜[1]、今村 葵[1]、吉田 徹[2]、菅原 佳奈子[1]、菅野 靖史[1]（1.日本女子大学・理学研究科・物質・生物機能科学専攻、2.京都産業大学・総合生命科学部・生命資源環境学科）

[1P-0257] アロニア果汁含有成分による HMG-CoAレダクダーゼ活性阻害効果

○小塚 美由記[1]、山根 拓也[2,3,5]、今井 ももこ[2,4,6]、竹中 重雄[4]、坂本 龍司[2,3]、乾 博[2,4]、山本 好男[7]、大久保 岩男[8]、中垣 剛典[5]、中野 長久[2,3]（1.北海道文教大・健康栄養、2.大阪府大・生資セ、3.大阪府大・生命環境、4.大阪府大・地域保健、5.中垣技術士事務所・食科研、6.相愛大・発達栄養、7.三重大・地域拠点、8.市立三笠総合病院）

[1P-0258] 活性酸素種センサータンパク質 BAG-1による eIF2αリン酸化レベル制御の解析

○猪瀬 敦史[1]、開沼 育美[1]、武田 洸樹[1]、久下 周佐[1]（1.東北医薬大・薬・微生物）

[1P-0259] 絶食によるアミノ酸代謝の亢進はオフタルミン酸合成を促進する

○小林 翔[1]、李 在勇[1]、高尾 敏文[2]、藤井 順逸[1]（1.山大・院医・生化学分子生物学、2.阪大・蛋白研）

[1P-0260] フラビンオキシダーゼの速度論解析の理論と応用

○石田 哲夫[1]、安田 翔[1]（1.琉大・海自・化学）

[1P-0261] アミノフェノール化合物の生物活性と活性酸素生成

○村上 恵子[1]、吉野 昌孝[1]（1.一宮研伸大・看護）

[1P-0262] $NADP^+$/H酸化還元反応における緑色硫黄細菌 Ferredoxin-$NADP^+$酸化還元酵素 C末端部の役割

○瀬尾 悌介[1]（1.金沢大・理工・物質化学）

[1P-0263] 小腸における膵α-アミラーゼのスクラーゼ・イソマルターゼに及ぼす影響の検討

○横浜 茉生[1]、十文字 沙樹[1]、角 佳奈子[1]、清水 梢[1]、飯田 薫子[1,2]（1.お茶大・院・人間文化創成科学、2.お茶大・ヒューマンライフイノベーション研究所）

[1P-0264] *Trypanosoma brucei*由来GMP synthetaseの酵素化学的機能解析および ribavirin 5'-monophosphateによる阻害様式の解明

○小林 委加[1]、今村 章[1]、岡田 哲也[1]、石橋 宰[1]、乾

©日本分子生物学会/日本生化学会

隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境）

[1P-0265] ストランド間移動に依存するヒト抗ウイルス因子 APOBEC3Gの酵素活性の促進と阻害

○神庭 圭佑[1]、永田 崇[1,2]、片平 正人[1,2]（1.京大・エネ理工、2.京大・院エネルギー）

ポスター発表 | 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー | 2) 酸化還元酵素、金属酵素（ポスター）

[1P-3-2] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-2) 酸化還元酵素、金属酵素

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0266] センサー型[FeFe]ヒドロゲナーゼの人工的成熟化

Nipa Chongdar[1]、James Birrell[1]、Constanze Sommer[1]、Krzysztof Pawlak[1]、Edward Reijerse[1]、Wolfgang Lubitz[1]、○緒方 英明[1,2]（1.マックスプランク研、2.北大・低温研）

[1P-0267] 9,10-フェナンスレンキノン誘発神経細胞傷害における NADPHキノン酸化還元酵素1の関与

○松永 俊之[1]、鎌瀬 今日子[1]、遠藤 智史[1]、井口 和弘[2]、五十里 彰[1]（1.岐薬大・生化、2.岐薬大・薬局薬学）

[1P-0268] 放射線耐性菌一酸化窒素合成酵素の酸素活性化反応中間体に関する研究

筒井 裕子[1]、○小林 一雄[1]、武内 総子[3]、鍔木 基成[2]、古澤 孝弘[1]（1.大阪大学・産研、2.神戸大院理化、3.神戸大教育推進）

[1P-0269] グロビン結合型ジグアニル酸シクラーゼ DgcOの一酸化炭素結合による構造変化と活性調節機構

○五十嵐 城太郎[1]、松岡 有樹[1]（1.福島医大・医・自然科学）

[1P-0270] 酵母ステロール14-脱メチル化酵素 CYP51の基質結合に重要なアミノ酸残基の解析

○佐藤 有沙[1]、三木 正史[1]、吉田 雄三[2]、青山 由利[1,3]（1.創価大・院工学研究科、2.武庫川女子大・薬学部、3.創価大・理工学部）

[1P-0271] アシル CoA脱水素酵素における補酵素フラビン-基質アナログ間の相互作用

○玉置 春彦[1]、佐藤 恭介[2]、宮原 郁子[3]（1.熊本大院・生命・分子酵素、2.熊本大院・生命・分子生理、3.大阪市大院・理・物質分子）

[1P-0272] マトリセルラータンパク質 Fibulin-4はマトリックス架橋酵素リシルオキシダーゼの酵素活性に必須である

○中邨 智之[1]、北川 香織[1]、野田 和男[2]、堀口 真仁[3]、山内 三男[4]、小椋 康光[5]、谷口 寿章[6]（1.関西医大・薬理学、2.京大・医・形成外科、3.前橋赤十字病院・集中治療科、4.ノースカロライナ大・歯、5.千葉大・薬・予防薬学、6.徳島大・先端酵素研）

[1P-0273] Dehalococcoides属細菌由来還元的脱ハロゲン化酵素の発現と機能解析

○田中 良拓[1]、小畑 智弘[1]、中村 龍貴[1]、Sarah Meinhold[2]、渡辺 文雄[3]、He Jianzhong[4]、養王田 正文[1]（1.農工大院・工、2.ミュンヘン工科大学、3.鳥取大学農学部生物資源環境学科、4.シンガポール国立大学）

[1P-0274] Cytochrome b_{561}ホモログ・線虫 Cecytb-2の分子機能解明

○藤村 美香[1]、三浦 雅央[1]、木村 哲就[1]、鍔木 基成[1]（1.神戸大・院理・化学）

[1P-0275] 活性酸素の炎症細胞の走化性に対する影響

○山内 明[1]、岡本 秀一郎[1]、板谷 益美[1]、川井 千景[1]、栗林 太[1]（1.川崎医科大学生化学教室）

[1P-0276] ランダム変異導入による一価銅オキシダーゼ CueOの高活性化

○高田 修平[1]、山下　哲[1]、櫻井 武[1]、片岡 邦重[1]（1.金沢大院・自然科学）

[1P-0277] 5,10,15,20-テトラフェニル-21*H*,23*H*-ポルフィン塩化鉄(III)、ヨードシルベンゼン、エタノール反応溶液中に生成する酸素中心エタノールラジカル

○西崎 大祐[1]、岩橋 秀夫[1]（1.和医大・化学・生体分子解析学）

[1P-0278] ヒト CYP2D6による dopamine生成活性に対する各種ステロイドホルモン及び関連化合物による阻害活性における CYP2D6遺伝子多型の影響

○丹羽 俊朗[1]、雫 真里菜[1]、山野 花織[1]（1.就実大・薬）

[1P-0279] 新規環状ペプチドの創出に向けたラジカル SAM酵素 QhpDの架橋形成配列長および配列特異性の解析

○小酒井 一輝[1]、中井 忠志[2]、谷澤 克行[1]、岡島 俊英[1]（1.阪大・産研、2.広島工大・生命）

[1P-0280] *Alcaligenes xylosoxidans*由来キノール依存性一酸化窒素還元酵素の構造機能解析

○Chai Gopalasingam[1,2]、當舎 武彦[2,3]、Svetlana Antonyuk[1]、Samar Hasnain[1]、城 宜嗣[3]、山本 雅貴[2]（1.Molecular Biophysics Group, Univ. Of Liverpool、2.SR Life Instrumentation Unit, RIKEN SPring-8 Center、3.Grad.Sch.Of Life Sci., Univ. Of Hyogo）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-0281] 金属還元酵素ヒト Steap3の分子機能解明
○中田 壮人[1]、藤村 美香[1]、武内 総子[2]、鍔木 基成[1]
（1.神戸大・院理・化学、2.神戸大学大学教育推進機構）

[1P-0282] 抗酸化酵素ペルオキシレドキシン1 (PRX1) のヘムの結合による活性制御
○大沢 啓人[1]、渡部 祐太[1]、内田 毅[1,2]、石森 浩一郎[1,2]
（1.北大・院総化、2.北大・院理）

[1P-0283] 好酸性鉄酸化細菌 *Acidithiobacillus ferrooxidans* の D-アミノ酸脱水素酵素の生理機能
○鈴木 里菜[1]、佐久間 竜平[1]、朝隈 紗月[1]、上原 汐織[1]、小池 美弥[1]、徳久 真弓[1]、谷川 実[1]、西村 克史[1,2]
（1.日大・理工・物質応化、2.日大・短期・物質応化）

[1P-0284] 鉄輸送タンパク質によるヘム合成調節機構の解明
○臼井 奈菜[1]、内田 毅[2]、石森 浩一郎[2]（1.北大・総化・生物化学、2.北大・院理）

[1P-0285] NADPH-シトクロム P450還元酵素ーヘムーヘムオキシゲナーゼ複合体の結晶構造分解能向上への取り組み
○杉島 正一[1]、佐藤 秀明[1]、和田 啓[2]、山本 健[1]
（1.久留米大・医、2.宮崎大・医）

[1P-0286] 線虫 Cytochrome b_{561}ホモログ Cecytb-2のアスコルビン酸からの電子伝達機能解析
○福澤 美咲[1]、藤村 美香[1]、三浦 雅央[1]、鍔木 基成[1]、木村 哲就[1]（1.神戸大・院理・化学）

[1P-0287] 金属還元細菌*Geobacter sulfurreducens*のc型シトクロム様タンパク質の遺伝子破壊と発現系構築
○橋本 穂高[1]、松嵜 佑樹[1]、崎山 智裕[1]、戸部 隆太[1]、三原 久明[1]（1.立命大・生命科学）

[1P-3-3] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-3) 酵素一般

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0288] Regulatory mechanism of endocytosis via the C2 domain of the yeast ubiquitin ligase Rsp5
○Tira Afiah[1]、Daisuke Watanabe[1]、Hiroshi Takagi[1]（1.Grad. Sch. of Biol. Sci., Nara Ins. of Sci. &Tech.）

[1P-0289] 合成マルトオリゴ糖基質を用いたダイズβ-アミラーゼの触媒部位の探索
○日裏 円香[1]、牧野 泰士[1]、松原 浩[1]（1.阪府大・院理・分子科学）

[1P-0290] 光線曝露による線維芽細胞のトリプシン様プロテアーゼ活性の発現亢進
○山本 博之[1]、柳沢 亮太[1]、鹿村 知令[1]、板橋 美奈[1]、木村 道夫[1]（1.日本薬大・薬・生命分子）

[1P-0291] 変異型ハロアルキル有機リン酸トリエステル加水分解酵素の諸特性解析
○田中 成美[1]、三浦 克恵[1]、西郡 祐輝[1]、阿部 勝正[1]、高橋 祥司[1]、解良 芳夫[1]（1.長岡技科大・生物機能）

[1P-0292] 巨核球における凝固 XIII因子の活性と基質
○惣宇利 正善[1]、尾崎 司[1]、一瀬 白帝[1]（1.山形大・医・分子病態学）

[1P-0293] *Grimontia hollisae* コラゲナーゼの合成基質分解活性とコラーゲン分解活性への緩衝液、$CaCl_2$および NaClの影響と、反応機構に関する洞察
○何 澤剣[1]、滝田 禎亮[1,2]、銭 鈞[1]、耿 紅敏[1]、森 真璃子[1]、根本 翔[2]、田中 啓友[3]、服部 俊治[3]、保川 清[1,2]
（1.京大・院農・食生科、2.京大・農・食生科、3.株式会社ニッピ）

[1P-0294] タデアイ*Polygonum tinctorium*の Indican合成酵素（ UDP-glucosyltransferase）の生化学的分析
○井上 慎太郎[1]、森田 理日斗[1]、桑田 啓子[2]、Sanjog Thul[3]、Bijaya Sarangi[3]、南 善子[1]（1.岡山理大・理・生化、2.名大・WPI-ITbM、3.インド国立環境工学研究所）

[1P-0295] *Geobacillus stearothermophilus*由来トランスグルタミナーゼの発現精製と性状解析
○京 逸如[1]、保川 清[1]、滝田 禎亮[1]（1.京大・院農・食生科）

[1P-0296] 微生物由来エラスターゼを用いた卵殻膜の可溶化と生理活性ペプチドの調製
○横山 萌[1]、吉岡 泰淳[2]、山下 陽子[1]、芦田 均[1]、竹中 慎治[1]（1.神大・院農・生命機能、2.神大・院科学技術イノベーション）

[1P-0297] ラン藻*Synechocystis* 由来アラニンラセマーゼにおける Trp385の役割
○芦田 裕之[1]、村上 佳穂[3]、稲垣 賢二[3]、澤 嘉弘[2]
（1.島根大・総科研センター・遺伝子機能、2.島根大・生資・生命工、3.岡山大院・環境生命）

[1P-0298] 粘液細菌*Myxococcus xanthus*の lysyl-tRNA合成酵素によるジアデノシンポリン酸合成
○木村 義雄[1]、岡 茉奈美[1]（1.香大・農・微生物生理

©日本分子生物学会/日本生化学会

学）

[1P-0299] ヒトリボヌクレアーゼ H2の基質特異性の改変
○兒島 憲二[1,2]、馬場 美聡[1]、杉浦 拓也[2]、西村 拓人[2]、滝田 禎亮[1,2]、上原 了[3]、Robert Crouch[3]、保川 清[1,2]（1.京大・院農・食生科、2.京大・農・食生科、3.米国立衛生研）

[1P-0300] メチル化グアニンの定量化による16S rRNAメチル基転移酵素 RmtBの速度論的解析
○山田 聖[1]、山口 佳宏[2]、井原 敏博[1]、和知野 純一[3]、荒川 宜親[3]、黒崎 博雅[4]（1.熊本大・院自、2.熊本大・環境安全セ、3.名古屋大・院医、4.金城学院大・薬）

[1P-0301] 二種の中等度好熱性細菌由来 Nucleoside diphosphate kinaseの遺伝子解析と 耐熱性の検討
○岩田 晴花[1]、永井 航太[1]、藤本 大樹[1]、前川 成美[1]、野々市 元[1]、長谷川 愛[1]、秋吉 研二[2]、井上 翔太[2]、佐藤 高則[3]（1.徳島大・総科・生化、2.徳島大院・総科・生化、3.徳島大院・理工・生化）

[1P-0302] 二種の中等度好熱性細菌由来 Cytidylate kinaseの遺伝子解析と耐熱性の検討
○長谷川 愛[1]、藤本 大樹[1]、永井 航太[1]、前川 成美[1]、岩田 晴花[1]、野々市 元[1]、秋吉 研二[2]、井上 翔太[2]、佐藤 高則[3]（1.徳島大・総科・生化、2.徳島大院・総科・生化、3.徳島大院・理工・生化）

[1P-0303] 中等度好熱性細菌由来ウリジンヌクレオチド合成酵素群遺伝子解析 および大腸菌による発現系の検討
○野々市 元[1]、井上 翔太[2]、永井 航太[1]、藤本 大樹[1]、前川 成美[1]、岩田 晴花[1]、長谷川 愛[1]、秋吉 研二[2]、佐藤 高則[3]（1.徳島大・総科・生化、2.徳島大院・総科・生化、3.徳島大院・理工・生化）

[1P-0304] 真正粘菌 Physarum polycephalumにおけるトレハロース代謝経路の解析
○岡野 将平[1]、森田 理日斗[2]、南 善子[3]（1.岡山理大・理・生化、2.岡山理大・理・生化、3.岡山理大・理・生化）

[1P-0305] ビフィズス菌のアルファ-グルコシダーゼを用いたアルファ-グルコシド化合物の合成
○山本 勇[1]、才新 直子[2]（1.神戸女子大・家政、2.神戸女子短大・食物栄養）

[1P-0306] *Aspergillus glaucus* MA0196由来ハイマンノース型アスパルティックプロテアーゼの分泌生産と酵素特性の解析
○林 理希[1]、土居 幹治[2]、竹中 慎治[1]（1.神戸大院農、2.マルトモ(株)）

[1P-0307] タイ産家蚕由来の廃棄繭のセリシン層の分解と利活用： *Bacillus halodurans* SE5由来アルカリセリンプロテアーゼの特性解析
○中村 謙介[1]、 Kamon Yakul[2]、Thanongsak Chaiyaso[2]、竹中 慎治[1]（1.神戸大・院農、2.Fac. Agro-Industry, Chiang Mai Univ., Thailand）

[1P-0308] D-アミノ酸高生産乳酸菌*Lactobacillus casei* M10-8由来新奇二機能グルタミン酸ラセマーゼの C末端側ドメインの機能解析
○宮本 将崇[1]、花岡 真弓[2]、山中 一也[1,2]、老川 典夫[1,2]（1.関大・院理工学・化学生命工、2.関大・化学生命工）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 2) 核と細胞小器官の構造と機能（ポスター）

[1P-4-2] 4. 細胞の構造と機能-2) 核と細胞小器官の構造と機能

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0309] The Nem1-Spo7 protein phosphatase complex is critical for efficient mitophagy in yeast
○Xuyan Xu[1]、Koji Okamoto[1]（1.Osaka university）

[1P-0310] NPC formation on the nucleoporin-beads incorporated into living cells
○Sukriye Bilir[1,2]、Shouhei Kobayashi[2]、Takako Koujin[2]、Mori Chie[2]、Osakada Hiroko[2]、Tomoko Kojidani[2,3]、Yasushi Hiraoka[1,2]、Tokuko Haraguchi[1,2]（1.Graduate School of Frontier Biosciences, Osaka University, Suita, Japan、2.Kobe Advanced ICT Research Institute, National Institute of Information and Communications Technology, Kobe, Japan、3.Japan Women's University）

[1P-0311] ミトコンドリアゲノム変異の病原性制御におけるミトコンドリア分裂因子 Drp1の関与
○田村 真[1]、石川 香[1,2]、林 純一[2]、石原 直忠[3]、中田 和人[1,2,4]（1.筑波大・院生命環境、2.筑波大・生命環境、3.久留米大・分生研、4.筑波大・TARA）

[1P-0312] The TORC1 signaling pathway regulates mitophagy in yeast
○Yang Liu[1]、Koji Okamoto[1]（1.Grad. Sch. of Frontier Biosciences, Univ. of Osaka）

[1P-0313] 保存された TFAMの dimer化とその様式および細胞内の役割について
○笠嶋 克巳[1]、炭谷 めぐみ[2]、遠藤 仁司[1]（1.自治医

©日本分子生物学会/日本生化学会

大・医学部・生化学、2.農研機構・カイコ機能改変技術開発ユニット）

[1P-0314] 細胞分裂並びに分化過程を先端電子顕微鏡像から得られた3 D構造モデルから読み解く

○岩根 敦子[1,2]（1.阪大・院・生命機能、2.理研、生命システム、細胞場）

[1P-0315] 植物核ラミナタンパク質 CRWNの局在様式と機能の解析

○坂本 勇貴[1]、高木 慎吾[2]、松永 幸大[1,3]（1.東理大・総研院、2.大阪大・院理・生物科学、3.東理大・理工・応用生物科学）

[1P-0316] フラビウイルス複製オルガネラ形成における小胞体局在タンパク質 Lunaparkの役割

○桂巻 杏莉[1]、有本 大[2]、田端 桂介[2]、森田 英嗣[1]（1.弘前大・農学生命・分子生命、2.阪大・微研・ウイルス研究G）

[1P-0317] ペルオキシソーム形成因子による小胞体膜変形タンパク質 reticulonの翻訳後膜挿入機構

○山本 泰憲[1]、匂坂 敏朗[1]（1.神戸大・院医・膜動態学）

[1P-0318] MAP1B-LC1による脂肪滴形成の制御

○木村 葉那[1]、新崎 恒平[1]、多賀谷 光男[1]（1.東薬大・生命科学）

[1P-0319] ミトコンドリア形態におけるカルジオリピンの役割

松村 綾香[1]、樋口 准[1]、青木 啓悟[1]、○岡 敏彦[1]（1.立教大・理・生命理学）

[1P-0320] 赤痢アメーバの特殊化ミトコンドリアにおける分裂機構の解析

○牧内 貴志[1]、Herbert Santos[2,3]、野崎 智義[3]、橘 裕司[1]（1.東海大・医・基礎医・生体防御、2.感染研・寄生動物、3.東京大・院医・生物医化学）

[1P-0321] エンドソーム膜のホスファチジルセリンを介した YAPの活性化機構の解明

○松平 竜之[1]、向井 康治朗[1]、野口 大心[1]、長谷川 純矢[1]、八田 知久[2]、家村 俊一郎[3]、夏目 徹[2]、宮村 憲央[4]、仁科 博史[4]、中山 淳[5]、仙波 憲太郎[5]、冨田 拓哉[6]、村田 茂穂[6]、新井 洋由[1,7,8]、田口 友彦[1,7]（1.東大・院薬・衛生化学、2.産総研・創薬基盤研究部門、3.福島医大・医療TRセンター、4.東医歯大・難治疾患研・発生再生生物学、5.早大・先進理工・生命医科学、6.東大・院薬・蛋白質代謝学、7.東大・院薬・疾患細胞生物学、8.AMED-CREST）

[1P-0322] ペルオキシソームタンパク質 Tysnd1を欠損したマウスの病態発症機構の解明と改善への試み

○水野 由美[1,2,3]、仲地 豊[1,2]、水野 洋介[1]、金田 秀貴[4]、若菜 茂晴[4]、岡崎 康司[1,2,5]（1.埼玉医大・ゲノム医センター・ゲノム科学、2.埼玉医大・ゲノム医センター・TR、3.埼玉医大・医・産婦人科、4.理研・BRC・マウスクリニック、5.順天堂大・難病の診断と治療研究センター）

[1P-0323] 線虫腸内顆粒の栄養環境応答に関わる遺伝子のRNAiスクリーニング

○丹治 貴博[1]、青山 玲子[1]、河野 貴久子[1]、錦織 健児[1]、白石 博久[1]、大橋 綾子[1]（1.岩手医大・薬・生体防御学）

[1P-0324] DJ-1の局在解析から見出す非典型的ミトコンドリア局在化シグナル

○小島 和華[1,2]、山野 晃史[2]、木村 まゆみ[1]、Queliconi Bruno[1]、田中 啓二[1,3]、松田 憲之[2]（1.都医学研・蛋白質代謝、2.都医学研・ユビキチン、3.東大・院新領域・メディカル情報生命）

[1P-0325] NLRP3インフラマソーム活性化におけるミトコンドリアによる Ca^{2+}調節の役割

○中塩屋 和孝[1]、亀山 由佳[1]、蛯原 燦雄[1]、貞富 大地[1]、谷村 進[1]、武田 弘資[1]（1.長崎大・院医歯薬・細胞制御）

[1P-0326] 切断型 PGAM5による選択的 pre-mRNAスプライシングの制御

○横関 雅史[1]、山口 文音[1]、石川 颯[1]、堀川 幸一郎[1]、谷村 進[1]、武田 弘資[1]（1.長崎大・院医歯薬・細胞制御）

[1P-0328] 細胞増殖における核輸送因子の働き

浅野 僚二[1]、○安原 徳子[1,2]、柴崎 典子[1]、地引 和也[2]、石畑 雄太郎[1]、海江田 愛奈美[1]（1.日大・文理・生命、2.日大・院・総・相関理化）

[1P-0329] ER陽性乳がん細胞における核輸送受容体 importinα2の働き

○地引 和也[1]、山本 達郎[2]、中尾 光善[2]、斉藤 典子[3]、安原 徳子[4]（1.日大・院総合基・相関理化学、2.熊大・発生研・細胞医学、3.がん研・がん研・がん生物部、4.日大・文理・生命）

[1P-0330] 褐色脂肪細胞のミトコンドリア機能制御における小胞体センサー PERKの新規役割

○加藤 裕紀[1]、西頭 英起[1]（1.宮崎大・医・機能生化学）

[1P-0331] マトリクスの p Hに依存したミトコンドリアの活性酸素種生成調節機構

○太田 善浩[1]、柴田 貴弘[1]、倉岡 遊正[1]（1.東農工大・院工・生命機能）

[1P-0332] カルジオリピン量の維持には正常なクリステ構造が必要である

©日本分子生物学会/日本生化学会

○小島 理恵子[1]、伊藤 喜重[2]、瀬崎 博美[2]、遠藤 斗志也[3]、田村 康[1]（1.山形大・理・物質生命、2.ジョンズ・ホプキンズ大・医・細胞生物、3.京産大・総合生命）

[1P-0333] 核内脂肪滴の phosphatidylcholine合成への関与

○大崎 雄樹[1]、Kamil Soltysik[1]、程 晶磊[1]、藤本 豊士[1]（1.名古屋大・院医・分子細胞学）

[1P-0334] 一次繊毛形成に関わる CG-NAP/AKAP450の機能解析

○金 憲誠[1]、加藤 洋平[2]、山邊 健司[1]、堤 暎子[1]、佐々木 優[1]、櫻井 香奈[1]、高橋 美樹子[1]（1.帝京平成大・薬、2.京大・院薬・生体情報制御）

[1P-0335] 小胞体膜タンパク質 Ilm1 の欠損はリン脂質とスフィンゴ脂質異常を引き起こす

○古田 詩唯奈[1]、小島 理恵子[1]、遠藤 斗志也[2]、田村 康[1]（1.山大院・理工学・理、2.京産大・総合生命）

[1P-0336] 細胞内構造体のサイズスケーリングに関する階層性解析

○原 裕貴[1,2]、正法地 達也[2]（1.山口大・院創成科学、2.山口大・理）

[1P-0337] ミトコンドリア呼吸機能及びミトコンドリア分裂が血球系細胞分化に与える影響の解析

○本間 耀[1]、堅田 俊[1]、小笠原 絵美[2]、石原 孝也[3]、三藤 崇行[2,4]、三原 勝芳[3,5]、林 純一[2]、石原 直忠[3]、中田 和人[1,2,6]、石川 香[1,2]（1.筑波大・院生命環境、2.筑波大・生命環境、3.久留米大・分生研、4.ヘルシンキ大・分子神経研、5.九州大・院医学研究院、6.筑波大・TARA）

[1P-0338] Polycomb group body の分散化を誘導する化合物の解析

○小井手 俊輝[1]、佐堂 晃太[1]、平田 久峰[1]、田中 千晶[1]、山口 拓也[1]、福長 亜紀[2]、石川 勇人[2]、五十嵐 雅之[3]、谷 時雄[1]（1.熊大・院理・生命科学、2.熊大・院理・化学、3.微生物化学研究所）

[1P-0339] マスト細胞分泌顆粒の積荷タンパク質に基づく分類と分取

○田中 正太郎[1]、中村 史雄[1]（1.東女医大・医・生化学）

[1P-0340] 線虫の腸内オルガネラ（ HEBE顆粒）の形成及び加齢応答性へのオリゴペプチド輸送体 PEPT-1の関与

○錦織 健児[1]、井筒 智成[1]、田代 和巳[1]、丹治 貴博[1]、白石 博久[1]、大橋 綾子[1]（1.岩手医大・薬）

[1P-0341] 電子伝達系 ComplexIVの新規 subunitタンパク質の機能と精子形成への効果

○遠藤 雅大[1]、吉田 魁斗[2]、小出 剛[4]、吉見 一人[4]、今井 悠二[4]、栗原 靖之[3]（1.横浜国大・院・工学府、2.横浜国大・理工学部、3.横浜国大・工学研究院、4.国立遺伝研・系統生物研究センター）

[1P-0342] ショウジョウバエの精母細胞における微小管結合タンパク Orbitによる中心小体の伸長の制御

○正田 健[1]、浅野 裕貴[1]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ）

[1P-0343] OPA1はコエンザイム Qによる脳ミトコンドリア呼吸鎖複合体 IVの活性調節に関与する

○高橋 真由美[1]、大澤 郁朗[1]、白澤 卓二[2]、高橋 和秀[1]（1.東京都健康長寿研・老化制御、2.白澤抗加齢医学研）

[1P-0344] 癌抑制タンパク質 p53誘導性ホスファターゼ PPM1Dによる Nucleophosmin多量体形成と核小体形成の制御

○伊藤 祥吾[1]、鎌田 瑠泉[1]、古田 純也[1]、清田 雄平[1]、坂口 和靖[1]（1.北大院・理・化・生物化学研究室）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 3) 細胞内物流システム（ポスター）

[1P-4-3] 4. 細胞の構造と機能-3) 細胞内物流システム

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0345] 血管内皮細胞におけるユビキチン E3リガーゼ複合体依存的な細胞内膜輸送

○前川 大志[1,2]、谷川 和史[2,3]、坂上 倫久[1,4]、渡部 祐司[3]、田口 友彦[5,6]、東山 繁樹[1,2]（1.愛媛大・PROS・細胞増殖/腫瘍制御、2.愛媛大・院医・生化学/分子遺伝学、3.愛媛大・院医・消化器腫瘍外科、4.愛媛大・院医・心臓血管/呼吸器外科、5.東大・院薬・衛生化学、6.東大・院薬・疾患細胞生物学）

[1P-0346] 小胞輸送制御における LMTK1のパルミトイル化とアイソフォームの役割

○魏 冉[1]、安藤 香奈恵[1]、友村 美根子[2]、久永 眞市[1]（1.首都大学東京、2.明海大学）

[1P-0347] TolI様受容体４の刺激依存的な細胞膜輸送を担う SNARE分子の解明

○木下 大生[1]、森田 真矢[1]、常松 眞史[1]、櫻井 千恵[1]、初沢 清隆[1]（1.鳥取大・医・生命科学・分子生物）

[1P-0348] 哺乳動物個体における低分子量 GTPase Rab35の生理機能の解明

○前島 郁子[1]、阿久澤 共子[1]、平井 里香[1]、小林 久江[1]、磯部 いの八[1]、原 太一[2]、佐藤 健[1]（1.群馬大・生調研・細胞構造、2.早大・人間科学・細胞制御）

[1P-0349] 副甲状腺ホルモン関連ペプチドの核小体移行にシグナルペプチドの保存領域が及ぼす役割

©日本分子生物学会/日本生化学会

○天谷 吉宏[1]、中井 俊樹[2]（1.新潟大・医歯総合・口腔生化学、2.横浜市立大学・医学部・RI 研究センター）

[1P-0350] 活性イメージングによるマクロピノソームでのRab5の活性制御の解析

○森下 宗[1]、和田 直之[2]、福田 光則[3]、中村 岳史[1]（1.東理大・生命研、2.東理大・理工・応用生物、3.東北大院・生命）

[1P-0351] マンノース転移酵素 ALG11の欠失が*Trypanosoma brucei*に及ぼす影響

○高橋 詩音[1]、中西 雅之[1]、日野 真美[1]、野元 裕[1]（1.松山大・薬）

[1P-0352] 脳型 NBCe1の細胞内局在に関わる結合分子の役割

○長谷川 尚美[1]、森 滉貴[1]、竹中 遥菜[1]、白鳥 瞳[1]、水谷 顕洋[1]（1.昭和薬科・薬学・薬治）

[1P-0354] 培養脂腺細胞の Sebosomesに濃縮される特定の分子

○永井 彩子[1]、澄田 道博[2]（1.愛媛大・医・臨床研修、2.愛媛大・医・麻酔・周術期学）

[1P-0355] 新規高分子量 Gタンパク質 Rab44は Ca^{2+}流入及び NFATc1経路を介して破骨細胞分化を負に制御する

○山口 優[1]、坂井 詠子[1]、岡元 邦彰[2]、鍛治屋 浩[3]、岡部 幸司[3]、門脇 知子[4]、筑波 隆幸[1]（1.長崎大・院医歯薬・歯科薬理、2.岡山大・院医歯薬・歯科薬理、3.福歯大・細胞生理、4.長崎大・院医歯薬・フロンティア生命科学）

[1P-0356] Membrane traffic stress probeの開発

○石井 俊輔[1]、松浦 彰[2]、板倉 英祐[2]（1.千葉大・理・生物、2.千葉大・院理・生物）

[1P-0357] イノシトールリン脂質4位脱リン酸化酵素TMEM55aによるマクロファージ貪食制御機構の解明

○森岡 真[1]、濁川 清美[1]、瀬川 智裕[1]、岡田 恵梨[2]、櫨木 薫[1]（1.広大・院医歯薬・医歯薬学、2.広大・薬・薬）

[1P-4-5] 4. 細胞の構造と機能-5) 細胞骨格、細胞運動、細胞接着、細胞外マトリックス

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0358（1AW06-6）] 肝線維化において架橋されるタンパク質群の網羅的同定法の確立および基質タンパク質の解析

○辰川 英樹[1]、人見 清隆[1]（1.名大・院創薬・細胞生化）

[1P-0359] 全反射蛍光顕微鏡を用いたアクチン様蛋白質MamKの重合特性解析

○稲川 麻織奈[1]、菊池 洋輔[2]、田岡 東[2]、福森 義宏[2]（1.金沢大・院・自然科学、2.金沢大・理工）

[1P-0360] 磁性細菌*Magnetospirillum magneticum* AMB-1の極べん毛回転運動の可視化

○高岡 祐太[1]、川村 想[1]、田岡 東[2]、福森 義宏[2]（1.金沢大・院・自然科学、2.金沢大・理工）

[1P-0361] 磁性細菌*Magnetospirillum magneticum* AMB-1の細胞骨格結合蛋白質 MamJの精製

○山崎 いづみ[1]、田岡 東[2]、福森 義宏[2]（1.金沢大・院・自然科学、2.金沢大・理工）

[1P-0362] Genetic variation of Osteopontin in human periodontal ligament fibroblast

○Nattakarn Hosiriluck[1,2]、Jia Tang[1]、Miki Okayama[2]、Itaru Mizoguchi[2]、Toshiya Arakawa[1]（1.Div. of Biochem. Sch. of Dent. Health Sci. Univ. of Hokkaido、2.Div. of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics Sch. of Dent. Health Sci. Univ. of Hokkaido）

[1P-0363] The PAR/aPKC Complex modulates the Tensional Integrity of Cell Junctions during Cell Death to Maintain Epithelial Homeostasis

○Spyros Goulas[1]、Yu Kishikawa[1]、Shinya Aono[1]、Masa-aki Nakaya[1]、Shigeo Ohno[1]（1.Yokohama City University）

[1P-0364] マウス分娩過程における ADAMTS-1の役割の解析

生水 真紀夫[1]、多久和 陽[2]、岡本 安雄[3]、松島 綱治[4]、○久野 耕嗣[5]（1.千葉大・医・生殖機能病態学、2.金沢大・医・生理、3.川崎医大・薬理、4.東京大・医・分子予防医学、5.金沢大・がん研・中央実験施設）

[1P-0365] クローディン-2の異常発現による抗がん剤感受性の変化

○五十里 彰[1]、丸橋 亮平[1]、秋月 梨佐[1]、遠藤 智史[1]、松永 俊之[1]、山崎 泰広[2]、山口 賢彦[2]（1.岐阜薬科大学、2.静岡県立大学）

[1P-0366] Pin1による tauを介した巨核球胞体形成制御機構

○清水 泰希[1]、菅原 佑衣[1]、広瀬 恵子[2]、清水 律子[3]、本橋 ほづみ[4]、内田 千代子[5]、内田 隆史[1]（1.東北大・院農・分子酵素学、2.産業技術総合研究所・バイ

©日本分子生物学会/日本生化学会

オメディカル、3.東北大・院医・分子血液学、4.東北大・院医・遺伝子発現制御、5.福島大・人間発達文化学類・人間発達）

[1P-0367] マルチカラーパルスチェイスによる細胞外マトリックスの継時的変化の可視化

○伊藤 晴海[1,2]、小池 悠華[3]、三好 洋美[2,4]、吉田 優[1]、渡辺 恭良[2,3]、細谷 孝充[1,5]、喜井 勲[2,3]（1.東医歯大・生材研・生命有機化学、2.理研・CLST・健康病態、3.理研・科技ハブ・RCH、4.首都大・システムデザイン・知能機械、5.理研・CLST・分子標的）

[1P-0368] ショウジョウバエ血球細胞が示す細胞質動態のキラリティ

○笹村 剛司[1]、栗栖 大祐[1]、秋山 正和[2]、大友 康平[3]、根本 知己[3]、水野 裕昭[2,4]、渡邊 直樹[4]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.北大・数研、3.北大・電子研、4.京大・院医・薬理）

[1P-0369] PKN1はリンパ球の細胞運動・トラフィッキングを制御する

○窪内 康二[1]、團野 紗莉[1]、野町 昭[2]、平田 多佳子[3]、松尾 一彦[4]、中山 隆志[4]、佐藤 亮介[5]、杉浦 麗子[5]、阿部 学[6]、崎村 建司[6]、若菜 茂晴[7]、大崎 博之[8]、鴨志田 伸吾[8]、向井 秀幸[1,9]（1.神大・院医・医科学、2.京大・院医、3.滋賀医科大、4.近大・薬、5.近大・薬、6.新潟大・脳研究所、7.理研・バイオリソースセンター、8.神大・院保健学、9.神大・バイオ）

[1P-0370] 葉酸は Septin2をメチル化することで経管閉塞時の一次繊毛の形成を制御する

○鳥山 真奈美[1]、鳥山 道則[2]、John Wallingford[2]、Richard Finnell[1]（1.テキサス大・Dell Med. Sch.、2.テキサス大・Dep. of Mol. Biosci.）

[1P-0371] がん細胞浸潤突起の伸長・成熟における KIF1Cの機能

○佐事 武[1]、西田 満[1]、岡田 康志[2,3]、南 康博[1]（1.神戸大院・医、2.理研・QBiC、3.東大・院理・物理）

[1P-0372] ヒアルロン酸の分子量および濃度が創傷治癒に及ぼす影響

○影山 理芳子[1]、河野 弥生[1]、伊豫田 拓也[1]、深井 文雄[1]、花輪 剛久[1]（1.理科大・院薬・薬学研究科）

[1P-0373] 樹状細胞の遊走を制御するクラッチ分子 Shootin1の機能解析

○酒井 瑞貴[1]、東口 泰奈[1]、神戸（勝野） 弘子[1]、稲垣 直之[1]（1.奈良先端大・バイオ）

[1P-0374] ミズクラゲ特異的細胞外マトリックス・メソグレインの遺伝子クローニング

○新井 カツヒコ[1]、月森 言[1]（1.農工大・農）

[1P-0375] ミズクラゲ刺胞に含まれる細胞接着阻害蛋白質について

○新藤 明日佳[1]、山田 晴菜[1]、楠畑 雅[2]、服部 俊治[2]、新井 克彦[1]（1.農工大・農、2.（株）ニッピ・バイオマトリックス研）

[1P-0376] プリマキンによるクローディン-16変異体の局在異常の改善

○丸中 歌菜[1]、古田 巧[2]、遠藤 智史[1]、松永 俊之[1]、五十里 彰[1]（1.岐阜薬大・生化学、2.京大・化研）

[1P-0377] ネクチン-4は SOCS1によるフィードバック阻害を抑制することで乳腺分化におけるプロラクチン受容体シグナル伝達を促進する

○圓岡 真宏[1,2]、水谷 清人[1]、慶田城 迅[1]、高井 義美[1]（1.神戸大・院医・病態シグナル、2.京都大・i CeMS）

[1P-0378] 新規遺伝子編集ベクターの構築とアクチンアイソフォームのノックアウト株の樹立

○長崎 晃[1,2]、加藤 義雄[1]、上田 太郎[2]（1.産業技術総合研究所、2.早稲田大・先進理工・物理）

[1P-0379] RacGAP因子 ARHGAP25は細胞運動と葉状仮足形成を制御する

○梅川 恵美[1]、斉藤 康二[1]、山口 美樹[1]、柴垣 芳夫[2]、服部 成介[2]、太田 安隆[1]（1.北里大・理・細胞生物、2.北里大・薬・生化学）

[1P-0380] 1型ミオシン myosin 1Eと細胞膜変形タンパク質 SNX9による細胞運動制御

○谷村 進[1]、田川 克希[1]、有近 直也[1]、山中 智絵[1]、福田 香凛[1]、武田 弘資[1]（1.長崎大・院医歯薬・細胞制御）

[1P-0381] PLCδ1 はインテグリンを介したがん細胞の接着・遊走を制御する

○矢板 咲音里[1]、藤中 良介[1]、木村 美紗[1]、松原 愛[1]、米田 敦子[1,2]、深見 希代子[1,2]（1.東薬大・生命・ゲノム病態、2.AMED-CREST,AMED Japan）

[1P-0382] 筋細胞の分化過程における微小管形成中心の変化

○井出 晃陽[1]、林 謙介[1]（1.上智大・院理工・理工）

[1P-0383] ショウジョウバエ腸管の恒常性における上皮バリア機能の役割

○泉 裕士[1,2]、古瀬 幹夫[1,2]（1.生理研・細胞構造、2.総研大・生命科学・生理科学）

[1P-0384] 長期高濃度エタノールストレスによって誘導される酵母セプチンの局在異常

○穂本 聖奈[1]、井沢 真吾[1]（1.京工繊・院工芸科学・応用生物）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-0385] Rho-GEF, PLEKHG4Bによるアクチン骨格再構築と細胞間接着形成おける機能
○二宮 小牧[1]、水野 健作[1]、大橋 一正[1]（1.東北大・院・生命科学）

[1P-0386] ヒストン脱アセチル化酵素(HDAC)阻害剤による頭頸部扁平上皮癌タイト結合分子の変化と抗腫瘍効果
○垣内 晃人[1]、角木 拓也[2]、黒瀬 誠[2]、高野 賢一[2]、近藤 敦[2]、小幡 和史[2]、野村 一顕[2]、宮田 遼[2]、金子 躍人[2]、氷見 徹夫[2]、小島 隆[1]（1.札幌医科大学 医学部 フロンティア医学研究所 細胞科学部門、2.札幌医科大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座）

[1P-0387] Myosin 1Eの細胞質アンカータンパク質SH3P2による破骨細胞の分化制御
○中邨 翔太[1]、増山 律子[2]、酒井 康介[1]、貞富 大地[1]、武田 弘資[1]、谷村 進[1]（1.長崎大・院医歯薬・細胞制御、2.長崎大・院医歯薬・分子硬組織生物）

[1P-0388] Scribble欠損誘導性細胞競合モデルにおける細胞遊走因子の関与
○小川 基行[1]、河原崎 陽介[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[1P-0389] タイトジャンクション形成における細胞膜脂質の関与
○重富 健太[1]、池ノ内 順一[2,3]（1.九大・シス生、2.九大・理・生物、3.AMED PRIME）

[1P-0390] ケモカイン依存的細胞遊走におけるケモカイン受容体の局在変化と脂質ラフトの役割
○遠藤 正隆[1]、小林 大地[2]、高岡 洋輔[3]、早坂 晴子[1]（1.近畿大・理工・院総合理工、2.和医大・医・薬理学、3.東北大・院理・化学）

[1P-0391] 1型糖尿病モデル動物における糖尿病進行とヒラメ筋における15型コラーゲン様タンパク質の発現
○友野 靖子[1]、井上 聡子[1]、大西 香織[1]、福島 正樹[3]、松山 誠[2]（1.重井医学研究所・分子細胞生物、2.重井医学研究所・分子遺伝、3.重井医学研究所附属病院）

[1P-0392] 卵巣癌細胞 RMG1細胞における E-cadherin欠損は部分的に EMTを誘導したが細胞運動及びその RhoGTPaseによる制御を強く阻害した
○原口 みさ子[1]、小澤 政之[1]（1.鹿児島大・院医歯学総合・生化学・分子生物学）

[1P-0393] RAによる顆粒球様細胞分化におけるα-actininの変化
○高橋 典子[1]、山田 千穂[1]、榎本 穂那実[1]、山王 豊盛[1]、齋藤 大輔[1]、長谷川 晋也[1]、山崎 正博[1]、今井 正彦[1]（1.星薬大・医薬研・病態機能制御学）

[1P-0394] 細胞質流動の計測による細胞キラリティ形成機構の解明
○栗栖 大祐[1]、笹村 剛司[1]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物科学）

[1P-0395] 上皮間葉移行における細胞遊走の速度と方向性の独立した制御機構
○渡邉 和秀[1]（1.理研・CLST・DGT）

[1P-0396] 分裂酵母β-tubulin変異体*nda3-TB101*における微小管安定化メカニズムの解析
○白戸 みな萌[1]、桐谷 啓太[2]、佐藤 政充[1,3]（1.早大・先進理工・生命医科、2.早大・院・先進理工・生命医科、3.早大・構造生物・創薬研）

[1P-0397] 生物作用を示さずカットオフとなる長鎖アルコールにも抗菌活性は存在する
○松本 惇志[1]、足立 博之[2]、寺島 一郎[1]、上園 幸史[1]（1.東大・院理・生物科学、2.東大・院農・応用生命工学）

[1P-0398] Fcγレセプター介在性ファゴサイトーシス過程における Rit1 GTPaseの機能解析
○江上 洋平[1]、川合 克久[1]、荒木 伸一[1]（1.香川大・医・組織細胞生物学）

[1P-0399] ヒト赤血球の加圧溶血に関するＡＴＰの効果
福崎 俊二[1]、○山口 武夫[1]（1.福岡大・理・化学）

[1P-0400] 核膜タンパク質 LINC複合体構成因子 SUN1は細胞収縮力の発生に寄与する
植田 七海[1]、里見 瑛梨奈[1]、松井 翼[2]、出口 真次[2]、○檜枝 美紀[1]（1.愛媛県立医技大・臨床検査、2.阪大・院基礎工・機能創成）

[1P-0401] 線虫*C.elegans*におけるチューブリンアイソタイプの微小管機能多様性への寄与
○小日向 寛之[1]、土屋 賢汰[1]、本多 優[1]、杉本 亜砂子[1]（1.東北大・院生命科学・発生ダイナミクス）

[1P-0402] Long-IRBITは陰イオン交換体の活性を調節して細胞移動を制御している
○伊藤 諒[1]、濱田 浩一[1]、川崎 聡子[1]、御子柴 克彦[2]、水谷 顕洋[1]（1.昭和薬科大学、2.理化学研究所 脳科学総合研究センター）

[1P-0403] 遊走するリンパ球の後端部の脱接着におけるLFA-1のクラスリン依存性エンドサイトーシス
○錦見 昭彦[1]、舘野 正俊[1]、石原 沙耶花[1]、片桐 晃子[1]（1.北里大・理・生物科学）

[1P-0404] ヒト鼻粘膜上皮細胞における p63の役割
○小島 隆[1]、金子 躍人[2]、金野 匠[1]、角木 拓也[2]、高野 賢一[2]、菊池 真[3]、矢島 諒人[2]、大国 毅[2]、氷見 徹夫[2]、幸野 貴之[1]（1.札幌医大・医学部・フ研・細胞科

©日本分子生物学会/日本生化学会

学、2.札幌医大・医学部・耳鼻咽喉学、3.札幌医大・医学部・解剖学）

[1P-0405] パターン形成制御に向けた細胞行動決定システム解析
○丸本 萌[1]、白石 大和[2]、萩原 将也[3]（1.大阪府大・院理・生物、2.大阪府大・院工・機械系、3.大阪府大・Nanosquare拠点研究所）

[1P-0406] ABCA1は細胞内でコレステロールを動かすことによって細胞遊走を制御する
○伊藤 志帆[1]、木岡 紀幸[1]、植田 和光[1,2]（1.京大・院農・応用生命、2.京大・iCeMS）

[1P-0407] 細胞培養担体としてのコラーゲン粉末の応用
○田中 啓友[1]、八木 志乃海[1]、服部 俊治[1]
（1.（株）ニッピ・バイオマトリックス研究所）

[1P-0408] microRNA23b/27b/24 clusterを介した大腸がん細胞の形質転換制御機構
○西田 憲生[1]、田中 裕基[1]、西條 早希[1]、板井 美樹[1]、藤田 絹代[1]、西川 達哉[1]、桑野 由紀[1]、六反 一仁[1]（1.徳島大院・医歯薬学研・病態生理）

[1P-0409] FilGAPは PHドメインを介した三量体形成とFilaminAとの結合により細胞運動を制御する
○鈴木 柚里奈[1]、堤 弘次[1]、佐藤 俊輔[2]、鵜澤 祐希[1]、渡辺 豪[2]、太田 安隆[1]（1.北里大・理・生物科学、2.北里大・理・物理）

[1P-0410] 温度感受性イオンチャネル TRPV4を介した口腔上皮細胞間接着と細胞移動の調節
○吉本 怜子[1,2]、合島 怜央奈[3]、西山 めぐみ[4]、大崎 康吉[5]、張 旌旗[5]、清島 保[2]、城戸 瑞穂[4]（1.九大・院歯・歯周病、2.九大・院歯・口腔病理、3.佐賀大・医・口腔外科、4.佐賀大・医・組織神経解剖、5.九大・院歯・分子口腔解剖）

[1P-0411] ショウジョウバエにおいて動原体と微小管の安定な結合にはキネシン８が必要である
○江塚 智哉[1,2]、五島 剛太[1,2]（1.名大・院理・生命、2.Marine Biological Laboratory, Woods Hole, MA ）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 6) 細胞周期、細胞分裂、細胞極性（ポスター）

[1P-4-6] 4. 細胞の構造と機能-6) 細胞周期、細胞分裂、細胞極性

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0412] 肝臓はどのようにサイズを認識して再生するのか？～細胞周期制御因子の動態からの解析～
○園田 夕貴[1]、平田 早紀[1]、佐藤 幸夫[1]、林 利憲[1]、竹内 隆[1]（1.鳥大・院医・生命科学）

[1P-0413] 細胞周期タンパク Cdc6の機能抑制を利用した口腔がん治療法の開発
○石河 桃子[1]、石河 真幸[2]、石川 貴大[1]、山田 亜矢[1]、齋藤 幹[1]、福本 敏[1]（1.東北大・院歯・小児発達歯科学、2.東北大・病院・保存修復科）

[1P-0414] RNA結合タンパク質 ZFP36L2は新規 DNA障害応答因子である
○野口 あや[1]、横田 直人[1]、足達 俊吾[2]、夏目 徹[2]、川原 裕之[1]（1.首都大・院理・生命科学、2.産総研）

[1P-0415] 分裂期終期におけるラミン A脱リン酸化は SUMO修飾によって制御される
○廣瀬 富美子[1]、森内 昂文[1]（1.兵庫県立大学大学院生命理学研究科）

[1P-0417] 細胞質分裂におけるミオシン IIA, IIBの機能解析
○山本 啓[1]、大友 康平[2]、根本 知己[2]、村上 洋太[1,3]、高橋 正行[1,3]（1.北大・院総化、2.北大・電子研、3.北大・院理）

[1P-0418] アフリカツメガエル胚第一分裂における Myt1キナーゼの役割
○吉留 賢[1]、相羽 行人[2]、飯島 慎也[2]、中山 侑哉[2]、渡部 稔[3]、古野 伸明[4]、弓削 昌弘[1]、中條 信成[2]（1.福岡女大・国際文理・環境科学、2.九大・院システム生命・分子生命科学、3.徳島大・教養教育、4.広大・両生類研究センター）

[1P-0419] キネシン5阻害剤耐性細胞中に見出された C端欠失型キネシン5
佐伯 絵里[1]、○安平 進士[2]、柴崎 晶彦[2]、土井田 稔[1]、前沢 千早[2]（1.岩手医大・医・整形、2.岩手医大・医歯薬研・腫瘍生物）

[1P-0420] 低分子量 Gタンパク質 Rac1の細胞分裂期における役割
○青木 励[1]、早野 俊哉[1]（1.立命館大学・院生命・生命科学）

[1P-0421] アフリカツメガエル胚の第一卵割期における Emi2と Cdc25Aの役割
○相羽 行人[1]、吉留 賢[2]、飯島 慎也[1]、中山 侑哉[1]、古野 伸明[3]、弓削 昌弘[2]、中條 信成[1]（1.九大・院システム生命・分子生命科学、2.福岡女大・国際文理・環境科学、3.広大・両生類研究センター）

[1P-0422] 減数分裂型コヒーシン因子 Rec8と DNA複製制御因子 Mrc1は減数第一分裂時のキネトコアの結合制御に関与する
○南部 将志[1]、市川 絢登[1]、山田 貴富[2]、佐藤 憲亮[1]、日野原 裕美[1]、村上 浩士[2]、山本 歩[1]（1.静大院・総合科学・理、2.中央大・理工・生命科学）

[1P-0423] 細胞分裂時の細胞膜の動態制御機構

©日本分子生物学会/日本生化学会

○田中 真仁[1]、伊藤 剛[2]、祐村 恵彦[1]（1.山口大院・創成科学・ライフサイエンス、2.秋田大・院医）

[1P-0424] 細胞質分裂の進行に伴う収縮環リングサイズの制御

○沖田 圭丞[1]、祐村 恵彦[1]（1.山口大院・創成科学・ライフサイエンス）

[1P-0425] Cytokinesis Dのメカニズムについて

○田中 優稀[1]、祐村 恵彦[1]（1.山大院・創成）

[1P-0426] DNA複製ライセンス化因子 Cdt1の M期における機能の解析

○羽田野 達也[1]、前田 武志[1]、村上 裕輔[1]、林 晃世[1]、塩見 泰史[1]、西谷 秀男[1]（1.兵庫県立大・院理・生命理学）

[1P-0427] ゲノム損傷ストレス下での細胞増殖を保障するCDK-PLK1経路による DNA損傷シグナリングの調節

○古谷 寛治[1]、井倉 正枝[2]、井倉 毅[2]（1.京都大学 放射線生物研究センター 放射線システム生物学部門、2.京都大学 放射線生物研究センター 突然変異機構研究部門 クロマチン制御ネットワーク研究分野）

[1P-0428] 骨格筋細胞の新規老化メカニズム解析

○林 晋一郎[1,3]、真鍋 一郎[2]、西野 一三[1]、大石 由美子[3]（1.国立精神・神経医療研究セ・神経研・疾病研究第一部、2.千葉大・院医・長寿医学、3.東京医科歯科大・難治研・細胞分子医学）

[1P-0429] Par14の細胞周期進行制御機能の解明

○竹原 一真[1]、内田 隆史[1]（1.東北大・院農・分子酵素学）

[1P-0430] 膵管癌細胞における一次繊毛消失メカニズムの解析

○馬島 友[1]、小林 哲夫[1]、伊東 広[1]（1.奈良先端大・バイオ）

[1P-0431] 細胞老化におけるスプライシング因子PRPF19発現抑制を介した p53活性化機構

○矢野 公義[1]、塩谷 文章[2]、木根原 匡希[1]、嶋本 顕[1]、田原 栄俊[1]（1.広大・院医歯薬保健学・細胞分子生物学、2.国立がん研究セ・遺伝医学）

[1P-0433] テロメア機能欠損により活性化される DNA損傷チェックポイントにおける PPH3の機能解析

○三浦 敦宏[1]、松浦 彰[1,2]（1.千葉大・院融合科学・ナノバイオ、2.千葉大・院理学・生物）

[1P-0434] グルコース飢餓下における休止期細胞の生存機構の解明

○平岡 幹章[1]、野津 裕佑[1]、河合 信之輔[1,2]、佐藤 研太[2]、山口 彩[2]、Sadia Afrin[1]、清田 由紀[2]、瓜谷 眞裕[1,2]、山本 歩[1,2]（1.静大院・総合科学・理、2.静大・理・化学）

[1P-0435] 分裂酵母胞子表層タンパク質欠失株の胞子のプロテオーム解析

○岩田 翔[1]、福西 加奈[2]、東田 英毅[3,4]、中村 太郎[2]、林 宣宏[1,4]（1.東工大・院・生命理工、2.大阪市大・院・理、3.株式会社ちとせ研究所、4.東工大・情報生命）

[1P-0436] 核内 RBM10による中心小体形成の制御機序について

○國本 浩之[1]、趙 虹[1]、井上 晃[1]、中嶋 弘一[1]（1.大阪市大・院医・免疫制御学）

[1P-0437] 熱ショックタンパク質 Hsp105による分裂期チェックポイント制御機構の解明

○柿花 采那[1]、大東 優衣[1]、齊藤 洋平[1]、久家 貴寿[1]、中山 祐治[1]（1.京都薬大・生化学）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 7) アポトーシス、細胞死（ポスター）

[1P-4-7] 4. 細胞の構造と機能-7) アポトーシス、細胞死

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0438] The Bcl2L13 protein prevents apoptosis in acute myeloid leukemia cells

○Ju-Heon Kim[1]、Ji-Nyeon Kim[1]、Sanggyu Lee[1]（1.Sch. of Life Sci., BK21 Plus KNU Creative BioResearch Group, Kyungpook Nat. Uni., Korea）

[1P-0439] 低温ストレスは ASK1-p38経路を介してフェロトーシス様細胞死を導く

○服部 一輝[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[1P-0440] 無血清培養による自発的な好中球細胞外トラップ (neutrophil extracellular traps: NETs) 形成

○鴨志田 剛[1]、上田 たかね[1]、西田 智[1]、永川 茂[1]、菊地 弘敏[1]、祖母井 庸之[1]、斧 康雄[1]（1.帝京大・医・微生物）

[1P-0441] パラコート曝露による神経細胞 SH-SY5Yの細胞死とそのメカニズム

○平山 菜穂[1]、秋 利彦[1]、上村 公一[1]（1.東京医歯大・法医）

[1P-0442] メタンフェタミン曝露における神経芽細胞 SH-SY5Yの細胞死について

○加世田 莉奈[1]、秋 利彦[1]、上村 公一[1]（1.東京医歯大・法医）

[1P-0443] ノルエフェドリンによる神経細胞内コレステロール蓄積とネクロトーシス誘導の解析

○船越 丈司[1]、秋 利彦[1]、鵜沼 香奈[1]、則竹 香菜子

[1]、上村 公一[1]（1.東医歯大）

[1P-0444] ヒキノカサ抽出物はカスパーゼ-7を介して細胞死を誘導する

○方 明[1]、四宮 貴久[1]、長原 礼宗[1]（1.東京電機大・理工）

[1P-0445] SOULと ALG-2の相互作用とその熱力学的解析

○三笠 太輔[1]、西村 星吾[1]、久郷 将見[1]、石嶌 純男[1]、佐上 郁子[1]（1.京府大院・生命環境・細胞高分子）

[1P-0446] ADP-リボシル化毒素 Cholix の肝臓細胞障害機構の解明

○八尋 錦之助[1]、小倉 康平[2]、寺崎 泰弘[3]、秋山 徹[2]、寺崎 美佳[3]、野田 公俊[1]（1.千葉大院・医・病原細菌、2.国立国際医療センター・感染症制御、3.日本医科大院・解析人体病理）

[1P-0447] グルタミン酸によるグリア細胞死誘導におけるグルタチオン減少と GRP78発現増加の役割

○古川 絢子[1]、松野 夏紀[1]、樋口 善博[1]（1.鈴鹿医療大・薬）

[1P-0448] マシチニブは c-kit非発現細胞に MAPK関与型の細胞死を誘導する

○石田 裕己[1]、四宮 貴久[1]、長原 礼宗[1]（1.東京電機大・理工）

[1P-0449] ダウン症候群に関連したリン酸化酵素 DYRK1Aによるアポトーシス誘導機構の解明

○米村 剛志[1]、百留 雄祐[1]、江頭 恒[1]（1.熊本大・院自然科学・生命科学）

[1P-0450] 24S-Hydroxycholesterol誘導性神経細胞死への小胞体ストレスの関与

○荒木 宏文[1]、浦野 泰臣[1]、Diep-Khanh Vo[1]、野口 範子[1]（1.同志社・院理・生命医科学）

[1P-0451] イトマキヒトデ未受精卵アポトーシスにおけるヒトデ Apaf-1と cytchrome cの相互作用の解析

○田村 りつ子[1]、高田　真理子[1]、吉田 絢香[1]、早川 友世[1]、平野 薫[1]、福島 真夏[1]、由良　敬[1]、千葉　和義[1]（1.お茶大・ライフサイエンス）

[1P-0452] Solute carrier (SLC) 膜タンパク質によるアポトーシス細胞貪食の制御機構

○森岡 翔[1]、ペリー ジャスティン[1]、レイモンド マイケル[2]、セブリア ブラッド[3]、オネグ-ギオムスク スナ[4]、ライティンガー ノーバート[3]、ラスメル ジェフリー[5]、ラビシャンドラン コーディー[1]（1.Department of Microbiology, Immunology, and Cancer Biology, the Center for Cell Clearance, University of Virginia、2.Department of Neuroscience, University of Virginia、3.Robert M. Berne Cardiovascular Research Center and Department of Pharmacology, University of Virginia、4.Department of Medicine, Division of Endocrinology and Metabolism, the Center for Public Health Genomics, University of Virginia、5.Vanderbilt Centre for Immunobiology, Department of Pathology, Microbiology, and Immunology, Vanderbilt University）

[1P-0453] アポトーシス非依存的な新たなアノイキス機構の解析

○遠藤 葉月[1]、辻岡 政経[1]、清水 重臣[1]（1.東京医科歯科・難研・病態細胞）

[1P-0454] ナノ粒子二酸化チタンの細胞死誘導における紫外線照射の効果

上村 菜月[1]、池田 梨香子[1]、古川 絢子[1]、○樋口 善博[1]（1.鈴鹿医療大・薬）

[1P-0455] 食細胞プライミングを導く転写因子 Taillessの同定

○野中 さおり[1]、星 ちはる[2]、金谷 匠人[1]、宗野 真衣[2]、中井 雄治[3]、永長 一茂[3]、中西 義信[1]（1.金沢大・院医薬保、2.金沢大・医薬保、3.弘前大・食料科学研究所）

[1P-0456] 不飽和カルボニル化合物による細胞死誘導の分子機構の解明

○東 恒仁[1]、眞井 洋輔[1]、真崎 雄一[1]（1.北大・院医・細胞薬理）

[1P-0457] ネクローシスの検出方法の比較とその定量化

○谷村 幸宏[1]、藤吉 好則[1]（1.名大・CeSPI）

[1P-0458] 細胞死に対する SOULの役割と SOULの核移行機構の解析

○堀江 綾香[1]、小野 美姫[1]、石嶌 純男[1]、佐上 郁子[1]（1.京府大院・生命環境・細胞高分子）

[1P-0459] 低出力超音波パルス（ LIPUS）刺激による破骨細胞形成の抑制

○青山 絵理子[1]、久保田 聡[1,2]、山中 信康[3]、滝川 正春[1]（1.岡山大・院医歯薬・歯先端研セ、2.岡山大・院医歯薬・口腔生化、3.伊藤超短波株式会社）

[1P-0460] 乳がん細胞における TGF-βシグナルの阻害機構の解析

○平田 健介[1]、山田 千愛[1]、安斎 絵里菜[1]、柴崎 美里[1]、本田 拓也[1]、森井 真理子[1]、山口 直人[1]、山口 憲孝[1]（1.千葉大・院薬・分子細胞生物）

[1P-0461] Sigma-1 受容体シャペロン ならびに Bcl-2による時間的およびオルガネラ特異的細胞保護作用

○森 友久[1]、成田 年[1,2]（1.星薬大・薬理、2.星薬大・先端研 (L-StaR)）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-0462] (*S*)-erypoegin Kの HL-60細胞に対するアポトーシス誘導活性
○疋田 清美[1]、杉山 実咲季[1]、村田 富保[1]、浅尾 直樹[2]、加藤 國基[1]、田中 斎[1]、金田 典雄[1]（1.名城大・薬、2.信州大・繊維）

[1P-0463] ナノ秒電気パルスはトランスグルタミナーゼ2による過剰なタンパク質架橋とネクローシスをカルシウム依存的に引き起こす
諸冨 桂子[1]、○矢野 憲一[1]（1.熊本大・パルスパワー科学研究所・医療バイオエレクトリクス）

[1P-0464] CDK4/6阻害薬 abemaciclibは methuosis様の細胞死を誘導する
○日野 浩嗣[1]、入山 規良[2]、國場 寛子[3]、風間 宏美[1]、森谷 昇太[1]、高野 直治[1]、平本 正樹[1]、宮澤 啓介[1]（1.東京医大・生化学、2.日大・医・血液膠原病、3.東京医大・電顕室）

[1P-0465] 上皮細胞における細胞終焉様式である「細胞脱落」の分子機構の解析
○吉良 彰人[1]、川根 公樹[1,2]（1.京産大・院生科、2.JSTさきがけ）

[1P-0466] ミトコンドリア局在型 PKDによる細胞死抑制機構
○富川 知広[1]、刀祢 重信[1]、四宮 貴久[1]、長原 礼宗[1]（1.東京電機大・理工）

[1P-0467] Ridaifen-B及び類縁体の細胞死誘導における MAPKの関与
○酒井 博遥[1]、芝田 夏実[2]、椎名 勇[2]、四宮 貴久[1]、長原 礼宗[1]（1.東京電機大・理工、2.東京理科大・理）

[1P-5-1] 5. 細胞応答-1) 細胞外シグナル分子、受容体、イオンチャネル

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0468] ミトコンドリア移行配列由来の新規好中球活性化ペプチド、 mitocryptide-3の情報伝達機構の解析
○丸谷 飛之[1]、田村 慎一朗[1]、中島 健太[1]、森川 広樹[1]、西野 弘大[1]、服部 竜弥[1]、木曽 良明[1]、向井 秀仁[1]（1.長浜バイオ大・院バイオサイエンス・ペプチド科学）

[1P-0469] LDLによる LRP6のエンドサイトーシス経路と NPC1L1の細胞内局在の制御機構
○山本 英樹[1]、梅田 大介[1]、松本 真司[1]、菊池 章[1]（1.大阪大院・医・分子病態生化学）

[1P-0470] マイトクリプタイド-3：ミトコンドリア移行配列に由来する新規好中球活性化ペプチドの生体機能の解析
○森川 広樹[1]、服部 竜弥[1]、中島 健太[1]、丸谷 飛之[1]、木曽 良明[1]、向井 秀仁[1]（1.長浜バイオ大・院バイオサイエンス・ペプチド科学）

[1P-0471] formyl peptide receptor 2のリガンド認識機構の解明
○西野 弘大[1]、丸谷 飛之[1]、服部 竜弥[1]、木曽 良明[1]、向井 秀仁[1]（1.長浜バイオ大・院バイオサイエンス・ペプチド科学）

[1P-0472] マウスマイトクリプタイド-2に対する中和抗体の取得とそれを用いた生理機能解析
○山田 武慶[1]、服部 竜弥[1]、丸谷 飛之[1]、木曽 良明[1]、向井 秀仁[1]（1.長浜バイオ大学大学院 バイオサイエンス研究科 バイオサイエンス専攻 ペプチド科学研究室）

[1P-0473] 腸管生理活性ペプチドホルモン受容体 GC-Cの足場蛋白質 NHERFとの分子間相互作用によるグアニル酸シクラーゼ活性調節メカニズム
○岡野 一郎[1]、宮里 幹也[1]、寒川 賢治[1]（1.国立循環器病研究センター・研・生化学）

[1P-0474] LTB4/BLT１を介した情報伝達における BLT１リン酸化の意義
○竹之下 逸樹[1]、伊藤 千尋[1]、前川 直斗[1]、中村 元直[1]（1.岡山理科大・院理・臨床生命科学）

[1P-0475] TGFα切断アッセイ系を活用したロイコトリエンB4受容体のシグナル伝達解析について
○瀬川 美奈[1]、井上 飛鳥[2]、青木 淳賢[2]、中村 元直[1]（1.岡山理科大・院理・臨床生命科学、2.東北大・院薬・分子細胞生物学）

[1P-0476] ヒト苦味受容体遺伝子配列の多型解析
○菊池 彩花[1]、西田 愛[1]、金城 夢乃[1]、井上 知邑[1]、中村 元直[1]（1.岡山理科大・院理・臨床生命科学）

[1P-0477] マイトクリプタイド-3に対する受容体のリガンド認識機構の解明を目指した構造活性相関
○田村 慎一朗[1]、中島 健太[1]、丸谷 飛之[1]、西野 弘大[1]、服部 竜弥[1]、木曽 良明[1]、向井 秀仁[1]（1.長浜バイオ大・院バイオサイエンス・ペプチド科学）

[1P-0478] コナガリアノジン受容体細胞質領域における変異のジアミド系殺虫剤感受性に与える影響
○内山 誠[1]、黒川 竜紀[1]、木村 祐[1]、森 恵美子[1]、清中 茂樹[1]、森 泰生[1]（1.京大・院工・合成生物化学）

[1P-0479] 新たに見出したプロトン感受性 Gタンパク質共役受容体とそのアンタゴニストの同定
○益子 美咲[1]、黒沢 綾[1]、岩月 正人[2]、砂塚 敏明[2]、大村 智[2]、武田 茂樹[1]（1.群大・院理工、2.北里大）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-0480] 骨分化と亜鉛トランスポーター発現の関係解析
○佐藤 巌[1]、本田 みちよ[1]（1.明大・院理工・応用化学）

[1P-0481] リポ多糖トレランスマクロファージでは CD14と CD204に依存したリポ多糖の取り込みが促進される
○西原 冴佳[1]、眞鍋 貴行[1]、川崎 清史[1]（1.同志社女大・薬）

[1P-0482] OGR1の MnCl2による活性化は pH環境により異なる
○村上 奨[1]、持丸 雄太[1]、東野 瑚子[1]、吉村 名央[1]、戸村 秀明[2]（1.明大・農・生命科学、2.明大・内分泌研）

[1P-0483] ドコサヘキサエン酸（ DHA）による神経細胞の一次繊毛形成促進機構の解明
○苅田 憲人[1]、稲垣 直之[1]、鳥山 道則[1]（1.奈良先端大・バイオ）

[1P-0484] ヒト皮膚由来細胞株に発現する苦味受容体の解析
○山本 千晶[1]、前川 直斗[1]、藤原 友幹[1]、中村 元直[1]（1.岡山理科大・院理・臨床生命科学）

[1P-0485] 細胞応答測定による Gタンパク質共役受容体の親和性の解析
○須賀 比奈子[1]（1.昭和女子大・生活科学）

[1P-0486] 宿主因子による大腸菌二成分制御系 EnvZ-OmpRの活性化
○野添 亜美[1]、小宮山 千晴[2]、山本 兼由[3]、石浜 明[3]、中西 義信[1,2]、白土 明子[1,2]（1.金沢大学医薬保健学域、2.金沢大学大学院医薬保健学総合研究科、3.法政大学生命科学部）

[1P-0487] ドーパミン受容体の結晶化に向けた発現と精製
○和田 京子[1]、Yuwono Wibowo[1]、荒川 孝俊[1]、伏信 進矢[1]（1.東大・院農・応生工）

[1P-0488] 紅藻由来フロリドシドは甘味受容体を活性化する
○橲 優子[1]、田中 奈菜美[2]、百原 弥生[2]、濱 洋一郎[2]、光武 進[2]（1.佐賀大・院農・生物資源科学、2.佐賀大・農・生命機能科学）

[1P-0489] 後根神経節細胞における高閾値機械刺激応答
○杉本 峻輝[1]、松山 純一[1]、石田 剛士[1]、芦高 恵美子[1]（1.大阪工大・院工・生体医工）

[1P-0490] 細胞外 Ca2+による FMRFamide作動性 Na+チャネルのアロステリック制御
○古川 康雄[1]、藤本 秋彦[1]、小谷 侑[2]（1.広島大・院総合科学・神経生物、2.藤田保険衛生大・医・生理I）

[1P-0491] アルギニンペプチドによる膵腺房細胞 mTOR経路活性化に関与する遺伝子発現の網羅的解析
○豊岡 美穂[1]、原 博[1]（1.北大・院農・応生科）

[1P-0492] 脳梗塞後ミクログリアの NO産生における Sema4D作用機序の検討
○土橋 遼[1]、澤野 俊憲[1,2]、稲垣 忍[1]（1.阪大・院医・神経生物 、2.兵医科・先端研・神経再生）

[1P-0493] 腸上皮細胞におけるムスカリン受容体の炎症抑制に関わる MAPキナーゼ制御機構
○宇和田 淳介[1]、矢澤 隆志[1]、Md Tariqul Islam[1]、谷口 隆信[1]（1.旭川医大・生化学）

[1P-0494] X線1分子追跡法 (Diffracted X-ray Tracking)を用いた TRPV1のカプサイシン応答分子運動解析
○三尾 和弘[1]、倉持 昌弘[2]、池崎 圭吾[2]、関口 博史[3]、久保 泰[1]、佐々木 裕次[2]（1.産総研・オペランドOIL &Molprof、2.東大・新領域・物質系、3.高輝度光科学研究センター）

[1P-0495] p38活性化は EGFR Ser-1015のリン酸化を介したエンドサイトーシスを誘導する
○大賀 英司[1]、田中 智大[1]、小澤 龍彦[2]、村口 篤[2]、櫻井 宏明[1]（1.富山大・院薬・がん細胞生物学、2.富山大・院医・免疫学）

[1P-0496] プロラクチン分泌促進活性を有する新規生理活性ペプチド neuromedin U precursor-related peptideの発見
○森 健二[1]、井田 隆徳[2]、中原 桂子[3]、村上 昇[3]、宮里 幹也[1]、寒川 賢治[1]（1.国循・研・生化学、2.宮崎大・フロンティア科学、3.宮崎大・農・獣医生理学）

[1P-0497] クラミドモナスの重力走性への TRPチャネルと酸化還元平衡の関与
○吉田 愛美[1]、吉田 晃子[1]、吉村 建二郎[1]（1.芝浦工大・院理工・シス理）

[1P-0499] KLF4は HDAC3の活性を制御することで MMP13の発現を誘導する
○鬼頭 昭吉[1]、竹内 優斗[1]、阿部 真土[1]（1.大阪大学大学院歯学研究科 口腔解剖学第一教室）

ポスター発表 | 5. 細胞応答 | 3) Gタンパク質、シグナル伝達タンパク質（ポスター）

[1P-5-3] 5. 細胞応答-3) Gタンパク質、シグナル伝達タンパク質

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0500] Developing Serotonin Biosensor in Fission Yeast
○Muhammad Aljiedi[1]（1.Dr. Osada Laboratory,

Tokyo Institute of Technology）

[1P-0501] Functional analysis of an orphan GPCR, Gpr137b, in osteoclast differentiation
○Zohirul Islam[1]、Yasuto Kotani[1]、Akimitsu Nobuyoshi[2]、Katsutoshi Imamura[2]、Naoto Imamachi[2]、Minoru Suzuki[3]、Aya Horikawa[1]、Takashi Inui[1]、Osamu Ishibashi[1]（1.Grad. Sch. Life &Envi. Sci., Osaka Pref. Univ.、2.ISC. Univ. of Tokyo、3.Dept. Med. Gen. Sci., Grad. sch. front. Sci.,Univ. of Tokyo）

[1P-0502] 分裂酵母フェロモン受容体の機能解析
○栗田 篤志[1]（1.東工大・生命理工）

[1P-0503] Ca^{2+}ホメオスタシスを介するオートファジー制御因子 Atg1と MAPK経路の関わり
○嶋田 絵理香[1]、萩原 加奈子[1]、高崎 輝恒[1]、佐藤 亮介[1]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大・薬）

[1P-0504] ヒト iPS細胞からの心筋分化系を用いた心筋に高発現する Ca^{2+}結合蛋白質 CHP3の機能解析
○若林 繁夫[1]、友田 紀一郎[1]、金 美花[2]、横江 俊一[1]、森原 啓文[1]、朝日 通雄[1]（1.大阪医大・医・薬理学、2.国立循環器病研究セ・肺高血圧症先端医学）

[1P-0505] On-targetシグナル伝達分子の特異的活性化を目的としたデザイナー受容体の開発
○Tatphon Kongkrongtong[1]、長棟 輝行[1]、河原 正浩[1]（1.東京大学工学系研究科化学生命工学専攻）

[1P-0506] IκBαと p100によって RelBのダイナミクスは制御されている
○関 崇生[1]、田口 祐[1]、井上 純一郎[1]（1.東大・医科研・分子発癌分野）

[1P-0507] 破骨細胞形成の細胞融合における TRAF6依存性分子機構の解明
○弓桁 洋[1]、田口 祐[1]、井上 純一郎[1]（1.東大・医科研・分子発癌）

[1P-0508] 分裂酵母グルコースシグナル経路の機能評価
○桑田 浩史[1]（1.東工大・生命理工）

[1P-0509] RNA granuleを介した DEAD box型 RNA helicase Ded1による PKC/MAPKシグナル制御機構の提唱
○神田 勇輝[1]、犬塚 夏実[1]、松本 紗希[1]、池田 智里[1]、永井 善紀[1]、土屋 葵子[1]、佐藤 亮介[1]、高崎 輝恒[1]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大・薬）

[1P-0510] Hsp90と MAPKシグナル伝達経路構成因子のクロストーク機構
○池畑 拓実[1]、大谷 夏実[1]、萩原 加奈子[1]、佐藤 亮介[1]、高崎 輝恒[1]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大学・薬）

[1P-0511] 苦味受容体 Tas2rの口腔外での発現とその機能解析
○大泉 由佳[1]、八巻 美智子[1]、白川 仁[1]、駒井 三千夫[1]（1.東北大・院農・栄養学）

[1P-0512] 脂肪組織特異的 GPRC6A欠損マウスの作製とその脂質代謝異常の解析
○向井 悟[1,2]、溝上 顕子[2]、樗木 さくら[2]、松田 美穂[1]、竹内 弘[3]、自見 英治郎[1,2]、平田 雅人[4]（1.九大・院歯・口腔細胞工学、2.九大・院歯・OBT研究センター、3.九歯大、4.福岡歯科大学）

[1P-0513] 人工染色体ベクターと Split-luciferase を用いた、 G protein-coupled receptor の活性化応答性評価システムの構築
○宇野 愛海[1,2]、藤本 智仁[3]、古本 真也[2]、澤 匡明[4]、香月 康宏[1,2]、押村 光雄[1]（1.鳥取大・染工、2.鳥取大・院医・遺伝子機能工学、3.株式会社PrebeX、4.カルナバイオサイエンス株式会社・研究開発本部）

[1P-0514] シグナル足場タンパク質 LATを含む細胞内小胞は、免疫細胞において、自己完結型信号伝達場として働く：1分子観察法による研究
○廣澤 幸一朗[1,2]、平本ー山木 奈央[2]、吉田 謙太[2]、野崎 梢平[3]、角山 貴昭[4]、唐 博[5]、鈴木 健ー[1,2]、中山 和久[3]、藤原 敬宏[2]、楠見 明弘[2,4]（1.岐阜大学・生命の鎖統合研究センター、2.京大・物質ー細胞統合システム拠点、3.京大・院薬学、4.沖縄科学技術大学院大学、5.武漢大学 化学・分子化学学院）

[1P-0515] Hippoシグナル伝達経路における MASK1および MASK2の機能解析
○中村 圭佑[1]、出口 幸大[1]、西 良太郎[1]、堀 利行[1]（1.立命館大・院生命科学・生医）

[1P-0516] Gαi欠損 HEK293細胞の作成
○小野 雄基[1]、井上 飛鳥[1,2,3]、石田 覚[1]、川上 耕季[1]、青木 淳賢[1,4]（1.東北大院・薬・分子細胞生化学、2.さきがけ・JST、3.AMED-PRIME、4.AMED-CREST）

[1P-0517] 炎症応答の制御における Hippo経路の新たな役割と分子機構の解明
○今城 正道[1]、牟田 優[2]、松田 道行[1,2]（1.京大・院・生命・生体制御、2.京大・院・医学・病態生物）

[1P-0518] 微小管結合タンパク質 MAP1B内の Ca^{2+}を介した新規機能領域の同定と解析
○河野 雄太[1]（1.名大院・生命農・応用分子生命科学）

[1P-0519] Ralの活性化における Rasと RalGDSの REMドメインとの直接的な相互作用

○梅木 伸久[1]、吉澤 亮[1,2]、佐甲 靖志[1]（1.理化学研究所 佐甲細胞情報研究室、2.東京大学大学院 総合文化研究科）

[1P-0520] 小胞体調節因子 Pecanexの Notchシグナル伝達と Wntシグナル伝達における細胞型特異的な機能の解析

○山川 智子[1]、森田 いずみ[1]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物科学）

[1P-0521] Adgrf5欠損マウスは気管支喘息および肺線維症様の表現型を現す

○久保 文雅[1]、Donna Ariestanti[1]、沖 颯太[1]、Rahmaningsih Sabirin[1]、出水 遼太郎[1]、中村 信大[1]（1.東工大・生命院）

[1P-0522] 好中球のエンドサイトーシスはダイナミンに依存する

○王 鐸[1]、金澤 保[1]、森田 健太郎[1]、吉田 安宏[1]（1.産業医科大学）

[1P-0523] TGF-β刺激下で発現が誘導される転写共役因子による上皮間葉転換の亢進

○岩澤 脩斗[1]、高倉 勇気[1]、岡田 和之[1]、竹洞 裕貴[1]、山口 直人[1]、山口 憲孝[1]（1.千葉大・院薬・分子細胞生物学）

[1P-0524] G蛋白質共役型受容体の C末側 helix 8の2番目のアミノ酸は G蛋白質との特異的一過性相互作用を支配する

○佐藤 孝明[1]（1.産業技術総合研究所）

[1P-0525] in-cell NMR法による細胞内環境下における Rasの活性状態の評価

○趙 慶慈[1]、藤宮 瑠勇[1]、Christopher Marshall[2]、伊倉 光彦[2]、西田 紀貴[1]、嶋田 一夫[1]（1.東大・院薬・薬科学、2.Dep. of Med. Biophys., Campbell Family Cancer Research Institute, Princess Margaret Cancer Centre, Univ. of Toronto）

[1P-0526] 分裂酵母における Rab5エフェクター因子の探索

松本 中[1]、日下部 良子[2]、嶋津 小百合[2]、塚本 雄太[1]、柏崎 隼[1,2]、○宮本 昌明[1,2]（1.神戸大・院理・生物、2.神戸大・研究基盤セ・アイソトープ）

[1P-0527] Hippo経路における脱ユビキチン化酵素 YOD1の機能解析

○梶田 翔暉[1]、芦野 佳那子[1]、野村 彼方[1]、西 良太郎[1]、堀 利行[1]（1.立命館大・院生命科学・生医）

[1P-0528] 神経極性のための脂質ラフトを介したシグナル伝達経路の解明

○本多 敦子[1,2]、伊藤 泰行[1]、五十嵐 道弘[1]（1.新潟大・院医・分子細胞機能学、2.新潟大・院医・臨床病理）

[1P-0529] 分裂酵母の tRNA前駆体による TORC1制御

○大坪 瑶子[1]、山本 正幸[1]、山下 朗[1]（1.基生研）

[1P-0530] インスリン受容体基質のリン酸化制御における PRIPの役割

○高　靖[1]、溝上 顕子[2]、竹内 弘[3]、自見 英治郎[1,2]、平田 雅人[4]（1.九大院・歯・口腔細胞工学、2.九大院・歯・OBT研究センター、3.九歯大・口腔応用薬理、4.福歯大）

[1P-0531] 足場タンパク質である ENHのスプライシングバリアントである ENH3が*in vivo*において心肥大を抑制する

○片浦 幸也[1]、伊藤 淳平[1]、Andres Maturana[1]（1.名大院生命農・生命技術）

[1P-0532] Gab2タンパク質を介する G-CSF刺激依存の好中球分化誘導シグナル

趙 香琳[1]、河野 俊一郎[1]、増田 潤子[1]、水谷 昭文[1]、妹尾 昌治[1]、○村上 宏[1]（1.岡大・院・自然科学研究科）

[1P-0533] 定常光におけるロバストな光反応を可能にするメラノプシンの光反応

○Takesi Matsuyama Hoyos[1]、高橋 政代[1]、七田 芳則[2]（1.理化学研究所、2.京大・院理・生物化学）

[1P-0534] TEA domain transcription factorの転写共役因子の分子機能解析

○岡田 和之[1]、高倉 勇気[1]、岩澤 脩斗[1]、竹洞 裕貴[1]、本田 拓也[1]、森井 真理子[1]、山口 直人[1]、山口 憲孝[1]（1.千葉大・院薬・分子細胞生物学）

[1P-0535] HPLCを用いた低分子量 Gタンパク質のグアニンヌクレオチドフォームの定量的解析

○荒木 信[1]、寺本 貴則[1]、鈴木 理央[1]、平沼 翔太[1]、小林 友哉[1]、紺谷 圏二[1]（1.明治薬大・生化学）

ポスター発表 | 5. 細胞応答 | 5) ストレス応答、レドックス応答（ポスター）

[1P-5-5] 5. 細胞応答-5) ストレス応答、レドックス応答

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0536] Blue LED Light-Induced Cellular Damage and Antioxidant Response in COS-7 as a Somatic Cell

○Mohammad Bapary[1]、Aya Ito[1]、Jun-ichiro Takano[1]、Shogo Soma[1]、Tadashi Sankai[1]（1.Tsukuba Primate Research Center, National Institutes of Biomedical Innovation, Ibaraki 305-0843, Japan.）

[1P-0537] Role of JLP in oxidative stress-induced cell death

©日本分子生物学会/日本生化学会

○IKetut Gunarta[1]、Rong Li[1]、Katsuji Yoshioka[1]（1.Div. Mol. Cell. Signaling, Cancer Res. Inst., Kanazawa Univ.）

[1P-0538] The effects of rice bran antioxidants compared to vitamin E in CCl4 induced cardiac tissue

○Zackie Rizaldy[1]、Radityo Tyo Adi[1]、Rizky Yudha Irawan[1]、Canitra Ilham Adirespati[1]、Rahmawati Ridwan[1]、Dwirini Retno Gunarti[1,2]（1.Depertement of Biochemistry and Biology Molecular University of Indonesia、2.Indonesian Society of Biochemistry and Molecular Biology）

[1P-0539] The effect of HIF-1alfa and HIF-2alfa inhibition on proliferation of keloid fibroblasts

○Sri Jusman[3,4]、Dewi Hambar Sari[1]、Sri Suciati Ningsih[1]、Ahmad Aulia Jusuf[2]、Ani Retno Prijanti[3,4]、Mohamad Sadikin[3,4]、Novi Silvia Hardiany[3,4]（1.Magister Program in Biomedical Sciences Faculty of Medicine Universitas Indonesia、2.Department of Histology, Faculty of Medicine Universitas Indonesia、3.Department of Biochemistry &Molecular Biology Faculty of Medicine Universitas Indonesia、4.Center of Hypoxia &Oxidative Stress Studies Faculty of Medicine Universitas Indonesia）

[1P-0540] Cinnamaldehyde protects human dental pulp cells against oxidative stress through the Nrf2/HO-1-dependent antioxidant response

○Soo-A Kim[1]、Nam-Yi Kim[1]（1.Department of Biochemistry, Dongguk University College of Oriental Medicine）

[1P-0541] ヘムオキシゲナーゼ-１のストレス応答における HSF1と Nrf2のクロストーク

○井上 幸江[1]、齋藤 静香[1]、塩川 葉月[1]、羽鳥 勇太[1]、赤木 玲子[1]（1.安田女子大・薬）

[1P-0542] 薬剤ストレス応答性グリシン抱合遺伝子は肝臓細胞の薬剤ストレス耐性を付与する

○鈴木 美音[1]、三澤 有菜[1]、高島 彩花[1]、鎌田 萌[1]、岸本 利彦[1,2]（1.東邦大・理院・生物分子科学、2.東邦大・理・プロテオーム解析センター）

[1P-0543] ヒト肺癌細胞におけるネットワークメディシン解析を用いた EMT関連遺伝子の探索

○藤田 朝香[1]、石塚 雅之[2]、寺井 謙介[3]、小倉 大[4]、丹羽 真一郎[4]、佐谷 秀行[5]、蛭田 啓之[3]、武城 英明[3]、Jose Nacher[2]、岸本 利彦[1,6]（1.東邦大・理院・生物分子科学、2.東邦大・理院・情報科学、3.東邦大・医・佐倉病院、4.リンクジェノミクス（株）、5.慶応大・医、6.東邦大・理・プロテオーム解析）

[1P-0544] 線虫のカルシニューリンが関与する寿命制御機構の解析

○近藤 春佳[1]、Keith Blackwell[2]、水沼 正樹[1]（1.広大・院先端研・分子生命、2.ハーバード大・医学部）

[1P-0545] シグナル分子：硫化水素とポリサルファイド

○木村 英雄[1]、宮本 亮[1]、小池 伸[2]、渋谷 典広[1]、木村 由佳[1]、小笠原 裕樹[2]、高野 陽子[4]、花岡 健二郎[4]、浦野 泰照[4]、永原 則之[3]（1.国立精神・神経医療研究センター・神経研、2.明治薬科大・分析化学、3.日本医大・RIセンター、4.東大・薬学・薬品代謝化学）

[1P-0546] ヒト表皮角化細胞株 HaCaT細胞における大気圧低温プラズマ照射による IL-8発現誘導

○堀田 英美里[1]、原 宏和[1]、神谷 哲朗[1]、足立 哲夫[1]（1.岐阜薬大）

[1P-0547] rat グリシン抱合酵素 Familyの解析と薬剤ストレス応答性遺伝子の同定

○鎌田 萌[1]、鈴木 文仁[1]、石原 菜穂子[1]、鈴木 美音[1]、長谷川 理沙[1]、岸本 利彦[1]（1.東邦大・理・生物分子）

[1P-0548] 放射線照射による突然変異に対する APOBECの関与

○齋藤 陽平[1]、山本 由美[1]、山本 文彦[1]（1.東北医薬大・薬・放射薬品）

[1P-0549] 出芽酵母 Δ*sam3*株はグルコース代謝関連の遺伝子を介して長寿命となる

○種谷 麻由佳[1]、小川 貴史[1]、金井 宗良[2]、久米 一規[1]、藤井 力[2]、曽我 朋義[3]、水沼 正樹[1]（1.広大・院先端研・分子生命、2.酒総研、3.慶應大・先端生命）

[1P-0550] 出芽酵母の高浸透圧による寿命制御

○松上 紗千[1]、米北 久美子[1]、久米 一規[1]、水沼 正樹[1]（1.広島大・院先端研・分子生命）

[1P-0551] ストレス応答キナーゼ MTK1による新たなストレス感知・応答機構

○松下 萌恵[1]、中村 貴紀[2]、武川 睦寛[2]（1.東大・院理・生物科学・分子シグナル制御、2.東大・医科研・分子シグナル制御）

[1P-0552] 糖化反応中間体 dihydropyrazineによる炎症反応抑制

○武知 進士[1]、江崎 円香[1]、石田 卓巳[1]、伊藤 俊治[2]、吉田 雅紀[3]（1.崇城大院・薬、2.関西医療大院・保健医療、3.長浜バイオ大・バイオサイエンス）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-0553] 暑熱ストレスが乳腺上皮細胞に及ぼす影響
○水澤 萌子[1]、米倉 真一[1,2]（1.信州大・農、2.信州大・バイオメディカル研）

[1P-0554] 顔面肩甲上腕型筋ジストロフィにおける外的ストレスの病態関与の検討
○本田 充[1,2,3]、堀田 秋津[2]、三橋 里美[4]、城之内 達也[2]、西野 一三[5]、松田 良一[1]、櫻井 英俊[2]（1.東大・院理・生物科学、2.京大・CiRA、3.学術振興会、4.東海大・医、5.国立精神神経医療研究センター）

[1P-0555] 小胞体ストレス応答におけるリボソームユビキチン化の機能解析
○松木 泰子[1]、松尾 芳隆[1]、横尾 秀幸[1]、岩崎 信太郎[2]、宇田川 剛[1]、佐伯 泰[3]、田中 啓二[3]、Nicholas Ingolia[4]、稲田 利文[1]（1.東北大・院薬、2.理化学研究所、3.東京都医学総合研究所、4.カリフォルニア大・バークレー校）

[1P-0556] レポーターマウスを用いた浸透圧応答性キナーゼ ASK3の組織発現分布の解析
○名黒 功[1]、小原 圭吾[2]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報、2.関西医科大学・医・生理学第一）

[1P-0557] 進化過程で HIF1経路因子を失った動物：プラナリアにおける低酸素ストレス応答
○今成 朋嗣[1]、齊川 佳織[1]、和田 修一[2]（1.長浜バイオ大・バイオサイエンス、2.長浜バイオ大・バイオサイエンス）

[1P-0558] ナノバブル水は線虫 C.elegansの体長伸長を促進した
○村田 滉[1]、坂本 和一[1]（1.筑波大院・生命環境）

[1P-0559] Endosulfineホモログ Igo1の酸化ストレス応答における役割
○田原 彩花[1]、萩原 加奈子[1]、石田 紘基[1]、廣井　遥[1]、佐藤 亮介[1]、高崎 輝恒[1]、Dieter Wolf[2]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大・薬・分子医療・ゲノム創薬学、2.Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute）

[1P-0560] 膜脂質異常による IRE1の活性化における IRE1膜貫通領域の関与
○河野 望[1]、Niko Amin-Wetzel[2]、David Ron[2]（1.東大・院薬・衛生化学、2.ケンブリッジ大学・CIMR）

[1P-0561] Bnip3が誘導するオートファジーは紫外線ストレスから表皮を保護する
○丸谷 祐樹[1]、森山 麻里子[1]、森田 貴士[1]、後藤 ありさ[1]、森田 遼[1]、松本 諭以子[1]、夏賀 健[2]、早川 堯夫[1]、森山 博由[1]（1.近畿大・薬総研、2.北大・院医）

[1P-0562] RING fingerタンパク質 PIAS1による Nrf2の転写活性制御
○中川 宏治[1]、三浦 真奈[1]、武田 宏司[1]（1.北大・院薬・臨床病態解析学）

[1P-0563] 長波長紫外線 UVA1によるヒストン H3 S10のリン酸化
○平井 雅篤[1]、小牧 裕佳子[1]、伊吹 裕子[1]（1.静岡県立大・食品栄養・環境生命科学）

[1P-0564] 酸化コレステロールは Insig2を介して ATF4発現を誘導する
○渡邉 雄一[1]、三吉 翔子[1]、清水 誠[1]、井上 順[1]、佐藤 隆一郎[1]（1.東大院・農生科・応生化）

[1P-0565] 樹立した放射線抵抗性がん細胞株の放射線抵抗性機序の解明
○東 梨佳子[1,2]、佐藤 克俊[1,3]、金井 昭教[4]、藤崎 真吾[2]、下川 卓志[1,2]（1.量研機構・放医研、2.東邦大・院理、3.がん研有明、4.広島大・原医研）

[1P-0566] ゼブラフィッシュ初期胚での放射線細胞応答は発生時期によって異なる
○本庶 仁子[1]、一戸 辰夫[1]（1.広島大学　原爆放射線医科学研究所　）

[1P-0567] Nodularinは OATP1B3発現細胞に対して上皮間葉転換様の形質転換を誘導する
○富岡 優[1]、内匠 正太[1,2]、杉山 靖正[1]、塩崎 一弘[1]、古川 龍彦[3]、小松 正治[1]（1.鹿大・水・食品生命科学分野、2.鹿児島女子短大 生活科学 、3.鹿大大学院・医歯研・分子腫瘍学）

[1P-0568] 過酸化水素に抵抗性を与えるタンパク質の細胞死抑制の性質について
○斎藤 泉[1]、長野―伊藤 美千代[1]、市川 進一[1]（1.新潟薬大・応用生命・動物細胞）

[1P-0569] 運動依存的な新規マイオカイン CXCL10/IP-10の発現制御及びその生理的意義
○石内 友里[1]、佐藤 整[1]、川口 英夫[1]、根建 拓[1]（1.東洋大・院生命科学・生命科学）

[1P-0570] ERストレスにより発現が亢進する HRasショートアイソフォームの機能解析
○池田 桜[1]、田村 直紀[1]、Marco Candeias[1]（1.京大・院医・Molecular and RNA Cancer Unit）

[1P-0571] 肝細胞におけるレドックス依存性ネクロプトーシスの動態解析
○芳賀　早苗[1]、菅野 憲[2]、小澤 岳昌[3]、森田 直樹[4]、浅野 真未[1]、伊 敏[5]、尾崎 倫孝[1]（1.北大・院保健科学、2.富山大・工、3.東大・院理、4.産総研・生命工学・生物プロセス、5.北大・院医学）

[1P-0572] シロイヌナズナにおける5-アミノレブリン酸(ALA)応答性遺伝子と生理機能

©日本分子生物学会/日本生化学会

○田中 節彦[1]、段 塵[1]、黒田 修司[2]、山形 裕士[3]、宇野 知秀[1]、金丸 研吾[1]（1.神戸大・院農・応用生命、2.神戸大・自然科学系先端融合研究環、3.神戸大）

[1P-0573] ストレス下の大腸菌において転写・翻訳を同時に制御している転写因子群

○吉田 秀司[1]、島田 友裕[2]、牧 泰史[1]、古池 晶[1]、上田 雅美[3]、和田 千恵子[3]、和田 明[3]、石浜 明[4]（1.大阪医大・物理、2.明治大・農、3.吉田生物研、4.法政大・マイクロナノテク研究セ）

[1P-0574] 出芽酵母において細胞外のアスコルビン酸は細胞内のそれやエリスロアスコルビン酸よりも効率的に SOD1欠損による増殖速度低下や酸化ストレス感受性を改善させる

小柳 ゆかり[1]、五十嵐 香澄[1]、河野 菜美[2]、○尼子 克己[1]（1.仁愛大・人間生活・健康栄養、2.神院大・栄養）

[1P-0575] ストレス応答下における細胞周期制御の解析

○神 奈亜子[1]、神 唯[2]、Lois Weisman[1]（1.ミシガン大学 Life Sciences Institute、2.東京工業大学 科学技術創成研究院 細胞制御工学センター）

[1P-0576] 放射線適応応答誘導シグナルとしての酸化ストレスの関与の検討

○立花 章[1]、長森 夏海[1]、高橋 侑子[1]、祢津 安明[1]、小林 純也[2]、中村 麻子[1]、秋山（張） 秋梅[3]（1.茨城大・理、2.京大・放生研、3.京大・院理・生物科学）

[1P-0577] 細胞内局所X線照射法を用いたミトコンドリアの放射線応答研究

○神長 輝一[1,2]、浜田 涼[1,2]、宇佐美 徳子[3]、鈴木 啓司[4]、横谷 明徳[1,2]（1.茨城大院・理工学、2.量研機構・量子ビーム、3.KEK・PF、4.長崎大・原研）

[1P-0578] 希少糖の細胞毒性メカニズムの解析

○高橋 友花[1]、大和屋 健二[1]、吉見 陽児[2]、池北 雅彦[2]、中田 一弥[1]（1.東理大・理工、2.山口東理大）

[1P-0579] 酸化イミダゾールジペプチドの発見と生成メカニズムの解明

○垣花 優希[1]、居原 秀[1]、山陰 茜[1]、柴田 貴広[2]、内田 浩二[3]（1.大府大・院理・生物科学、2.名大・院生命農、3.東大・院農生科）

[1P-0580] 親電子性物質による活性イオウ分子種依存性レドックスシグナルの破綻

○北村 篤志[1]、笠松 真吾[2]、西村 明[2]、井田 智章[2]、西田 基宏[3]、熊谷 嘉人[4]、赤池 孝章[2]、居原 秀[1]（1.大府大・院理・生物科学、2.東北大・院医・環境保健医学、3.岡崎統合バイオ・生理学研究所・心循環シグナル、4.筑波大・医・環境生物）

[1P-0581] ポリサルファイド（ H_2S_n ）を介した 硫化水素（ H_2S ）と一酸化窒素（ NO）のクロストーク

○宮本 亮[1]、小池 伸[2]、高野 陽子[3]、渋谷 典広[1]、木村 由佳[1]、花岡 健二郎[3]、浦野 泰照[3]、小笠原 裕樹[2]、木村 英雄[1]（1.国立精神神経センター・神経研・神経薬理、2.明治薬科大・院薬・分析化学、3.東大・院薬・薬品代謝化学）

[1P-0582] 神経炎症における TNF-alphaの転写因子TFEB発現に与える影響の解析

○宇野 マイケル新太郎[2]、辻 大輔[1,2,3]、渡邊 綾佑[1]、田中 裕大[2]、Carmine Spampanato[3]、Andrea Ballabio[3]、伊藤 孝司[1,2,3]（1.徳島大・薬・創薬生命工学、2.徳島大院・薬・創薬生命工学、3.Telethon Institute of Genetics and Medicine, Pozzuoli, Italy）

[1P-0583] TBE31は Keap1 Cys151を介して Nrf2を活性化し抗炎症に働く

○村松 亜紀[1]、鈴木 隆史[1]、Albena Dinkova-Kostova[2]、山本 雅之[1]（1.東北大院・医・医化学、2.Biomedical Research Institute, University of Dundee, Scotland, United Kingdom）

[1P-0584] S-ニトロソグルタチオン還元酵素（ GSNOR）の炎症における役割

○谷岡 利裕[1]、篠崎 昇平[2]、松田 梨那[1]、成尾 宗浩[3]、奥田 貴久[3]、長谷場 健[3]、原 俊太郎[1]（1.昭和大・薬・衛生薬学、2.MGH・麻酔科・シグナル伝達、3.日本医大・医・法医学）

[1P-0585] 暑熱ストレスによる血管内皮細胞障害を抑制する機能成分の研究

○新地 大樹[1]、越塚 草太[1]、加藤 和則[1]（1.東洋大学大学院・理工・生体医工）

[1P-0586] *Saccharomyces cerevisiae* SPY3の高温ストレス適応機構

○澤田 俊[1]、工藤 大喜[1]、笹野 佑[2]、原島 俊[2]、Allad Devanadera[3]、Ivy Pait[3]、Irene Pajares[3]、Fidel Rey Nayve Jr.[3]、杉山 峰崇[1]（1.阪大・院工・生命先端工学、2.現）崇城大・生物生命・応用微生物工学、3.フィリピン大学ロスバニョス校・国立分子生物学・バイオテクノロジー研究所）

[1P-0587] 酵母*Ogataea polymorpha*による乳酸発酵と乳酸ストレス適応機構

○高野 達人[1]、横田 智也[2]、加藤 謙斗[2]、笹野　佑[3]、金子 嘉信[2]、原島　俊[3]、杉山 峰崇[2]（1.阪大・工・応用自然、2.阪大・院工・生命先端、3.現）崇城大・生物生命・応用微生物工学）

[1P-0588] Keap1遺伝子欠損は Nrf2の活性化を介して破骨細胞分化を抑制する

©日本分子生物学会/日本生化学会

○坂井 詠子[1]、福間 裕[1]、西下 一久[1]、岡元 邦彰[2]、筑波 隆幸[1]（1.長崎大・院医歯薬・歯科薬理学、2.岡山大・院医歯薬・歯科薬理学）

[1P-0589] エゾウコギエキスに含まれる DNA修復促進作用物質に関する研究

○大山 貴央[1]、白井 洋子[1]、藪谷 咲奈[1]、阿部 英明[1]、佐藤 聡[2]、神谷 貴紀[1]、阿部 武彦[1]、田沼 靖一[2]（1.ヒノキ新薬(株)、2.東京理大・薬・生化学）

ポスター発表 | 5. 細胞応答 | 6) その他（ポスター）

[1P-5-6] 5. 細胞応答-6) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[1P-0590] Ridaifen-Bは脂質代謝に影響を与える

○岩澤 卓弥[1]、酒井 博遥[1]、太田 のぞみ[2]、芝田 夏実[2]、中田 健也[3]、椎名 勇[2]、四宮 貴久[1]、長原 礼宗[1]（1.東京電大・理工、2.東京理大・理、3.島根大・総合理工）

[1P-0591] 旋回振とうによる流体刺激が骨芽細胞株に引き起こす二相的な ERK活性化の解析

○深田 尚[1]、杉本 憲治[1]（1.大阪府大院・生命環境・応用生命）

[1P-0592] 頭皮の慢性的な炎症が毛髪成長に及ぼす影響とその因子の解析

○櫻井 勇希[1]、山田 麻紀子[1]、古田 桃子[1]、永見 恵子[1]、新部 一太郎[2]、松崎 貴[2]、伊藤 廉[1]（1.(株)ミルボン・開発本部・中央研究所、2.島根大・生資・生物科学）

[1P-0593] 喘息モデルマウスを用いた生体イメージング

○岩下 淳[1]、安田 将人[1]、村田 純[1]（1.秋田県立大学）

[1P-0594] 低出力パルス超音波（ LIPUS）によりヒト半月板培養細胞およびラット半月板の CCN2の発現・産生は増加する

○釜付 祐輔[1,2]、青山 絵理子[2]、古松 毅之[1]、前原 亜美[1]、山中 信康[3]、西田 崇[4]、久保田 聡[2,4]、尾崎 敏文[1]、滝川 正春[2]（1.岡大・院医歯薬・整形外科、2.岡大・歯・先端領域研究センター、3.伊藤超短波株式会社、4.岡大・院医歯薬・口腔生化学分野）

[1P-0595] ソウジュツ中に含まれる一酸化窒素産生誘導を抑制する成分の探索

○石井 寿成[1]、奥山 哲矢[1]、奥村 忠芳[2,3]、池谷 幸信[4]、西澤 幹雄[1]（1.立命館大・生命、2.関西医大・外科、3.立命館大・総合科学技術研究機構、4.第一薬科大・薬学教育支援センター）

[1P-0596] 組織修復において、マイクロキメラ細胞は母由来と子由来で炎症性シグナルに対する応答が異なるのはなぜか？

○藤本 香菜[1]、入江 直樹[1]（1.東大・院理・生物科学）

[1P-0597] B16細胞におけるラタノプロストのメラニン産生促進

○恒川 友紀[1]、濱中 沙絵里[1]、北村 弘明[1]、岩渕 徳郎[1]（1.東京工科大・応用生物）

[1P-0598] カイコ変態過程における BmIGFの役割

○瀧澤 真次[1]、藪 健史[1]、舛廣 善和[1]、司馬 肇[1]（1.日大・院生資・応用生命）

[1P-0599] マイクロ流体デバイスによる敗血症に伴う腎微小環境変化の解析

○田尾 祐一[1]、高尾 英邦[1]、下川 房男[1]、中野 大介[2]、寺尾 京平[1,3]（1.香大・工学・知能機械システム、2.香大・医学・薬理学、3.JST-さきがけ）

[1P-0600] 低酸素環境における RET変異体の機能解析

○喬 善楼[1]、加藤 智也[1]、小澄 璃奈[1]、川本 善之[1]、武田 湖州恵[1]、市原 正智[1]、岩本 隆司[1]（1.中部大・生命医科）

[1P-0601] B型肝炎ウイルス (HBV) 感染肝細胞由来エクソソームの機能解析

○柿崎 正敏[1]、山本 雄一郎[2]、大塚 基之[3]、加川 建弘[1]、幸谷 愛[2]（1.東海大・医・消化器内科、2.東海大・医・血液腫瘍内科、3.東大・院医・消化器内科）

[1P-0602] 市販の日用品・化粧品に含まれるナノ粒子による微生物への影響

○峯木 礼子[1]、峯木 茂[2]（1.順天堂大・院医・研究基盤センター・生体分子、2.東理大・院理工・応生科 ）

[1P-0603] *Lactobacillus helveticus* SBT2171の Bリンパ腫細胞増殖抑制効果と新たな作用機序

○馬場 一信[1]、江口 慧[2]、河野 通生[2]、關 敬弘[2]、松原 由美[1]、藤谷 直樹[1]、中川 久子[1]、宮崎 忠昭[1]（1.北大・遺制研・プロバイオ、2.雪印メグミルクミルクサイエンス研）

[1P-0604] ラット初代培養肝細胞におけるオウヒ成分の NF-κBシグナル伝達経路への影響

○山内 優子[1]、奥山 哲矢[1]、奥村 忠芳[2,3]、池谷 幸信[4]、西澤 幹雄[1]（1.立命館大・生命、2.関西医大・外科、3.立命館大・総合科学技術研究機構、4.第一薬科大・薬学教育支援センター）

[1P-0605] コラーゲン生合成を誘導する細胞内シグナル伝達機構の解析

松田 絵里[1]、森切 幸乃[1]、○井上 英樹[1]（1.神奈川工科大・応用バイオ）

[1P-0606] Hippo経路エフェクター YAP/TAZを制御する因子の検索

○日笠 弘基[1]、平良 眞規[2]、鈴木 聡[3]、上野 光[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.産医大・生化学、2.東大・院理・生物科学、3.神大・医・分子細胞生物）

[1P-0607] ガジュツ*Curcuma zedoaria*成分が引き起こす生理作用の解析

○橋本 真冬[1]、後藤 奏[1]、松本 千友梨[1]、松崎 真衣[1]、今井 和希[1]、高木 智也[1]、梶原 千空[1]、井上 英樹[1]（1.神奈川工科大・院工・バイオ）

[1P-0608] 心機能調節因子ホスホランバンの E3ユビキチンリガーゼによる制御機構の解析

○横江 俊一[1]、中川 孝俊[1]、朝日 通雄[1]（1.大阪医大・医・薬理学）

[1P-0609] 2,2'-ジピリジルは ISOS-1血管内皮系細胞において BMP6の発現を促進する

○野口 太貴[1]、増澤 幹男[2]、松井 徹[1]、舟場 正幸[1]（1.京大・院農・動物栄養科学、2.北里大・医療衛生・臨床検査学）

[1P-0610] 土壌細菌*Pseudomonas* sp. C8株が生産する増殖抑制物質の作用機序解析

○本荘 雅宏[1]、鈴木 研志[2]、西村 朋香[3]、Fatima Azwani[4]、田代 陽介[1]、二又 裕之[1,2,5]（1.静大院・総合科技、2.静大・創造院、3.静大・工、4.Lab. of Food crop., Inst. of Trop. Agri., Univ. Putra Malaysia、5.静大・グリーン研）

[1P-0611] 骨芽細胞の石灰化と破骨細胞支持能に対するcAMPの影響

○西原 駿[1,2]、中浜 健一[2]、池田 麻美[2]、穐山 雅子[2]、山口 聰[1]（1.医科歯科大、2.医科歯科大）

[1P-0612] 腫瘍マーカー Nup88は Kif7の発現抑制を介してヘッジホッグ経路の活性化に寄与する

○牧瀬 正樹[1]、安藤 早織[1]、國安 明彦[1]（1.崇城大・薬）

[1P-0613] 線虫の寿命延伸に対する米ケフィランの生理作用解析

○柴田 健司[1]、阿部 将之[2]、古橋 翼[1]、坂本 和一[1]（1.筑大・生命環境・生物科学、2.筑大・生命環境・生物）

[1P-0614] レポーター細胞単離のための高感度トラップベクターシステム

○石川 公輔[1]、小林 雄太[2]、若林 祐太郎[2]、渡辺 慎哉[3]、仙波 憲太郎[2,3]（1.バイオ産業情報化コンソーシアム、2.早大院・先進理工・生命医科、3.福島医大・医産ＴＲセンター）

[1P-0615] PI3Kと Gβγ依存的な新規経路の協調的な働きによるヒトデ卵減数分裂再開の分子機構

○平岡 大作[1]、細田 絵奈子[2]、千葉 和義[2]、岸本 健雄[1]（1.お茶大・SEC、2.お茶大・院人間文化創成科学・ライフサイエンス・生命科学）

[1P-0616] ヒラメ筋におけるカロテノイドトランスポーター CD36発現調節への低酸素の関与について

○杉平 貴史[1]、北風 智也[2]、原田 直樹[1]、山地 亮一[1]（1.大阪府大院・生命・応用生命、2.神戸大院・農）

[1P-0617] 「ヤマモモ果実」由来酵母抽出物がヒト真皮線維芽細胞の形態及び I型コラーゲン産生に及ぼす影響

○下条 洋輔[1]、野渕 翠[1]、位上 健太郎[1]、小坂 邦男[1]、宮崎 寿次[1]、伊藤 久富[1]（1.（株）ナガセビューティケァ）

ポスター・展示会場2

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 1) ゲノム、染色体、核の構造と機能（ポスター）

[1P-6-1] 6. ゲノムと遺伝情報-1) ゲノム、染色体、核の構造と機能

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[1P-0619] アフリカツメガエルのサブゲノム染色体 Sにおける大規模逆位の構造

○渡部 稔[1]、宇野 好宣[2]、福井 彰雅[3]、松田 洋一[2]、平良 眞規[4]（1.徳島大・教養教育、2.名古屋大・院農・応用分子、3.中央大・理工学・生命科学、4.東大・院理・生物科学）

[1P-0620] ヒトゲノムにおける単純反復配列周辺の特異的ヌクレオチド・ヌクレオソーム親和性分布

○亀田 健[1]、池谷 淳[1]、坂本 尚昭[1]、粟津 暁紀[1]（1.広島大学大学院理学研究科数理分子生命理学専攻）

[1P-0621] 4C-Seq を用いたネオセントロメア形成に伴う染色体高次構造変化の解析

○古宮 正隆[1]、西村 浩平[2]、堀 哲也[2]、深川 竜郎[2]、伊藤 武彦[1]（1.東工大・生命理工、2.阪大・生命機能）

[1P-0622] アフリカツメガエルのリンカーヒストン B4の出芽酵母における異種的な発現の影響

○廣岡 篤人[1]、小俣 菜月[1]、須賀 則之[1]（1.明星大・理工・総合理工・ 生命科学・化学系）

[1P-0623] 超好熱菌由来分岐型ポリアミン存在下でのDNA二次・高次構造の温度依存性

○西尾 天志[1]、吉川 祐子[1]、梅澤 直樹[2]、藤原 伸介[3]、福田 青郎[4]、今中 忠行[4]、吉川 研一[1]（1.同志社・生命・生命物理、2.名古屋市立・薬学、3.関西学院・理工・生命科学、4.立命館・生命・生命工学）

[1P-0624] Nup98融合遺伝子産物による Hox遺伝子活性化

©日本分子生物学会/日本生化学会

のメカニズム

○岡 正啓[1]、村 苑子[2]、野上 順平[3]、前原 一満[3]、大川 恭行[3]、木村 宏[4]、米田 悦啓[5]（1.医薬健栄研・細胞核輸送、2.阪大・生命機能、3.九大・生医研、4.東工大・生命理工、5.医薬健栄研）

[1P-0625] 分裂酵母テロメア結合蛋白質間相互作用によるテロメア長調節

○佐藤 加奈[1]、久保 江理郁[1]、田中 美穂[1]、前角 直人[1]、竹原 喬[1]、鳥越 秀峰[1]（1.東京理科大・理・応用化学）

[1P-0626] X染色体の生細胞内可視化系の開発

○堀 真弥子[1]、半田 哲也[2]、前原 一満[3]、大川 恭行[3]、大井 彰人[1]、佐藤 優子[2]、木村 宏[1,2]（1.東工大・生命、2.東工大・科学技術創成研究院、3.九大・生医研）

[1P-0627] 原核生物および真核生物ゲノムにおける周期的DNAリピートの網羅的探索

○森 秀人[1,2,3]、山本 楠[1,2,4]、石黒 宗[1,2,3]、冨田 勝[2,3,4]、谷内江 望[1,2,3,5,6]（1.東大・先端研、2.慶大・先端生命研、3.慶大院・政策メディア・先端生命、4.慶大・環境情報、5.東大・院理・生物科学、6.JST・さきがけ）

[1P-0628] 核局在化シグナル配列によるアフリカツメガエルのリンカーヒストン H1Aの出芽酵母細胞内の局在変化

○穴井 佳那子[1]、工藤 拓也[1]、豊田 亜弥加[1]、村尾 真梨[1]、配島 俊哉[1]、須賀 則之[1]（1.明星大・理工・総合理工・生命科学・化学）

[1P-0629] TALEおよび dCASを用いた植物クロマチンの可視化

○藤本 聡[1]、松永 幸大[1]（1.東京理科大・理工・応用生物科学）

[1P-0630] DMRT3遺伝子の301番目のコドンにおける一塩基置換(chr23:22999655)が北海道和種馬の歩様に及ぼす影響

○天野 朋子[1]、小野木 章雄[2]、山田 文啓[3]、河合 正人[3]、白井 興一[4]、上田 純治[1]（1.酪農大・農食環境学群・循環農学類、2.東大・農学生命科学研究科、3.北大・北方生物圏フィールド科学センター、4.北海道和種馬保存協会）

[1P-0631] セントロメア機能に必須なエピジェネティック機構

○堀 哲也[1]、豊田 敦[2]、三須 定彦[3]、池尾 一穂[3]、深川 竜郎[1]（1.阪大・生命機能、2.遺伝研・比較ゲノム、3.遺伝研・遺伝情報）

[1P-0632] 乾眠能力の異なる二種のクマムシの比較ゲノム解析

○吉田 祐貴[1,2]、Koutsovoulos Georgios[3]、Dominik Laetsch[3,4]、Lewis Stevens[3]、Sujai Kumar[3]、堀川 大樹[1,2]、石野 響子[1]、小峰 栞[1]、國枝 武和[5]、冨田 勝[1,2]、Mark Blaxter[3]、荒川 和晴[1,2]（1.慶大・先端生命研、2.慶大院・政策メディア・先端生命、3.Inst. Evol. Biol., Sch. Biol. Sci., Univ. Edinburgh、4.James Hutton Inst.、5.東大・院理・生物化学）

[1P-0633] 好熱性真正細菌 Strain Kps3 の Flagellin をコードする *hag* mRNA のスプライシング

○石田 達矢[1]、馬野 航[1]、千葉 献人[1]、早川 准平[1]、赤沼 元気[1]、今井 洋[2]、坂口 裕理子[3]、鈴木 健夫[3]、上村 慎治[2]、鈴木 勉[3]、粟井 貴子[1]、石塚 盛雄[1]（1.中央大・理工・応化、2.中央大・理工・生命、3.東大・院工・化学生命）

[1P-0634] ヒト Alu DNA配列の試験管内でのヌクレオソーム形成能

○城所 佑梨江[1]、安部 翔太[1]、梶川 正樹[2]、須賀 則之[1]（1.明星大・理工・総合理工・生命科学・化学、2.東工大・生命理工学院）

[1P-0635] HeLa 細胞核の分葉化を誘導する化合物の作用機構解析

○池田 智哉[1]、野口 貴史[1]、平田 久峰[1]、高森 規維[2]、小宮 依琳[2]、五十嵐 雅之[3]、檜枝 美紀[4]、谷 時雄[1]（1.熊大・院自・生命科学、2.熊大・理・生物学、3.微化研、4.愛媛県立医療技術大・医療技術科学）

[1P-0636] 染色体特異的にクラスターを形成しているトラップ領域： CSCT13は、マウス初期発生過程において重要な役割を演じていることが示唆された

○荒木 正健[1]、武田 伊世[1]、山口 友輔[1]、高田 幸基[1]、今坂 舞[1]、吉信 公美子[1]、荒木 喜美[1]（1.熊大・生命資源）

[1P-0637] セイシェルショウジョウバエのオクタン酸耐性遺伝子座と宿主転換への効果

○重富 一恵[1]、近藤 るみ[1,2]（1.お茶大・院人間文化創成科学・ライフサイエンス・生命科学、2.お茶大・基幹研究院・自然科学系）

[1P-0638] 再構成的アプローチによる受精卵核構築システムの理解

○鈴木 由華[1]、Sukriye Bilir[2,3]、小坂田 裕子[3]、小林 昇平[3]、平岡 泰[2,3]、原口 徳子[2,3]、山縣 一夫[1]（1.近大・生物理工、2.阪大・生命機能、3.情報通信研）

[1P-0639] 東～南アジアに分布するヤママユガ科野蚕核多

©日本分子生物学会/日本生化学会

角体病ウイルスの比較ゲノム解析

○佐々木 邦[1]、梶浦 善太[2]、小林 淳[1,3]（1.鳥取大・院連農、2.信州大・繊維、3.山口大・院創成・農）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 2) クロマチン、エピジェネティクス（ポスター）

[1P-6-2] 6. ゲノムと遺伝情報-2) クロマチン、エピジェネティクス

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[1P-0640] ヒストン H3 Lys27 トリメチル化に特異的な生細胞可視化プローブの開発

○大井 彰人[1]、鯨井 智也[2]、胡桃坂 仁志[2]、大川 恭行[3]、佐藤 優子[1,4]、木村 宏[1,4]（1.東工大・生命理工、2.早稲田大・先進理工、3.九州大・生医研、4.東工大・科学技術創成院）

[1P-0641] 癌における RNA修飾ヌクレオシドの解析とバイオマーカーとしての利用可能性

○大塩 郁幹[1]、上田 裕子[1]、長谷 拓明[1]、北惠 郁緒里[1]、西本 愛[1]、犬伏 智子[1]、里 章平[2]、藤井 晋太郎[2]、神宮司 健太郎[3]、藤田 和利[3]、植村 元秀[3]、野々村 祝夫[3]、辻川 和丈[1,2]（1.阪大院薬・細胞生理、2.阪大院薬・創薬センター構造展開ユニット、3.阪大院医・泌尿器科）

[1P-0642] FGF21遺伝子発現のエピゲノム制御：その分子機構と機能の意義

○袁 勲梅[1]、辻本 和峰[2]、川堀 健一[2]、榛澤 望[2]、濱口 美穂[1]、橋本 貢士[3]、小川 佳宏[2,4,5]（1.医科歯科大・院医歯・分子細胞代謝学、2.医科歯科大・院医歯・分子内分泌代謝学、3.医科歯科大・院医歯・メタボ先制医療、4.九大・院医・病態制御内科学、5.AMED、CREST）

[1P-0643] マウス卵子及び体細胞の DNAメチル化確立における Dnmt3a PWWPドメインの役割

○木部 加奈子[1]、白根 健次郎[2]、大石 裕晃[1]、佐々木 裕之[1]（1.九大・生医研・エピゲノム制御学、2.ブリティッシュコロンビア大・生科研・遺伝医学）

[1P-0644] 細胞系譜特異的な遺伝子発現における遠位エンハンサーと近位プロモーターの段階的相互活性化についてのゲノム規模解析

○西山 晃[1]、藩 龍馬[1]、伏見 健太郎[1]、中林 潤[2]、黒滝 大翼[1]、田村 智彦[1,2]（1.横浜市大・院医・免疫学、2.横浜市大・先端研）

[1P-0645] イネ幹細胞の DNAメチル化パターンの解析

○肥後 あすか[1]、才原 徳子[1]、三浦 史仁[2]、東 陽子[3]、山田 恵美[3]、玉置 祥二郎[3]、坂本 智昭[4]、藤原 正幸[5]、倉田 哲也[6]、深尾 陽一朗[7]、伊藤 隆司[2]、島本功[3]、辻 寛之[1]（1.横浜市大・木原生研、2.九州大・医学研究院、3.奈良先端大・バイオサイエンス、4.京都産業大学・総合生命科学、5.慶応大・先端生命研、6.東北大学・院・生命科学、7.立命館大学・生命科学）

[1P-0646] エピジェネティック制御因子 Uhrf1の卵子及び初期胚細胞質における新機能

○上村 修平[1]、前之原 章司[1]、小倉 淳郎[2]、井上 貴美子[2]、山縣 一夫[3]、堀 真由子[3]、Jafar Sharif[4]、古関 明彦[4]、植田 幸嗣[5]、鵜木 元香[1]、佐々木 裕之[1]（1.九大・生医研・エピゲノム制御学、2.理研・バイオリソースセ・遺伝子工学基盤、3.近大・生物理工、4.理研・統合生命セ・免疫器官形成、5.がん研・がんプレシジョンセ・がんオーダーメイド）

[1P-0647] Fibroblast growth factor (FGF)21遺伝子特異的 DNA脱メチル化の導入（第１報）

○榛澤 望[1]、橋本 貢士[2]、川堀 健一[1]、辻本　和峰[1]、袁 勲梅[3]、濱口 美穂[3]、畑田 出穂[4]、小川 佳宏[3,5,6]（1.東医歯大・院医歯・分子内分泌代謝学、2.東医歯大・院医歯・メタボ先制医療講座、3.東医歯大・院医歯・分子細胞代謝学、4.群馬大・生調研・ゲノム科学リソース分野、5.九州大・院医・病態制御内科学、6.AMED CREST）

[1P-0648] ヘミメチル化 DNAが誘導する DNA損傷メカニズム

○服部 楓[1]、竹林 慎一郎[2]、柴田 隆豊[1]、緒方 進[1]、緒方 正人[2]、奥村 克純[1]（1.三重大院・生資・分子細胞生物学、2.三重大院・医・機能プロテオミクス）

[1P-0649] 分裂酵母の減数分裂においてヒストン H2Aの不足は染色体分配異常を引き起こす

○山本 孝治[1]、長濱 有紀[1]、原口 徳子[1,2]、平岡 泰[1,2]（1.情報通信研究機構・未来ICT研究所、2.大阪大大学院・生命機能研究科）

[1P-0650] パイオニア転写因子 FoxA1によるヌクレオソーム認識機構の生化学的解析

○田中 大貴[1]、小山 昌子[1]、Paul Wade[2]、胡桃坂 仁志[1]（1.早大・院・先進理工/理工研/構造創薬研、2.Epigenetics and Stem Cell Biology Laboratory, NIEHS）

[1P-0651] 細胞周期におけるヒストンバリアント H2A.Zの量的制御と染色体分配への関与

○高橋 大輔[1]、日下部 将之[2]、北川 紗帆[1]、尾間 由佳子[1]、原田 昌彦[1]（1.東北大・院農、2.神戸大・バイオシグナル総合研究センター）

[1P-0652] 悪性脳腫瘍の新規エピジェネティクス制御機構

○原地 美緒[1]、増井 憲太[1]、柴田 亮行[1]（1.東京女子医

©日本分子生物学会/日本生化学会

大・病理）

[1P-0653] ユビキチン化ヒストンは、維持型メチル化酵素Dnmt1のメチル化維持活性を促進する
三島 優一[1]、川上 徹[1]、北條 裕信[1]、有田 恭平[2]、○末武 勲[1,3,4,5]（1.阪大・蛋白研、2.横浜市大、3.CREST、4.甲子園大、5.阪大・ツインリサーチセンター）

[1P-0654] MBDドメインが欠失したMbd3バリアントによるES細胞の分化多能性賦与機構の解明
○平崎 正孝[1]、鈴木 歩[1]、浦西 洸介[1]、浅賀 正充[1]、西本 正純[1]、奥田 晶彦[1]（1.埼玉医大・ゲノム・発生）

[1P-0655] マウス加齢における RNA修飾の変動と機能解析
○西本 愛[1]、大塩 郁幹[1]、犬伏 智子[1]、若杉 祥[1]、北惠 郁緒里[1]、神宮司 健太郎[1]、上田 裕子[1]、長谷 拓明[1]、辻川 和丈[1]（1.阪大・院薬・細胞生理）

[1P-0657] クロマチン構造形成におけるヒストン H3テイルの機能解析
○中村 萌[1]、関根 慧[1]、有村 泰宏[1]、胡桃坂 仁志[1,2]（1.早稲田大・院・先進理工、2.早稲田大・構造創薬研）

[1P-0658] マウス細胞における全能性分子機構の解明
○中谷 庸寿[1]、Capucine Rechem[2,3]、Fei Ji[3]、John Whetstine[2,3]、Maria-Elena Torres-Padilla[1]（1.Institute of Epigenetics and Stem Cells, Helmholtz Zentrum Munchen、2.Cancer Center and Department of Medicine, Harvard Medical School、3.Department of Molecular Biology, Massachusetts General Hospital）

[1P-0659] ヒストン脱メチル化酵素 JMJD3は造血幹細胞と白血病幹細胞の維持に重要である
○中田 雄一郎[1]、山崎 憲政[1]、本田 浩章[1]（1.広大・原医研）

[1P-0660] FAD依存型ヒストン脱メチル化酵素阻害剤の構造的および生化学的解析
○丹羽 英明[1]、佐藤 心[1]、橋本 知子[2]、池田 眞理子[1]、大沢 登[1]、脇山 素明[1]、白水 美香子[1]、松野 研司[2]、梅原 崇史[1,3]（1.理研・CLST、2.工学院大・先進工、3.JST・さきがけ）

[1P-0661] *Sir2*を介して伝達される世代を超えた代謝制御機構
○林 凌也[1]、大津 佑太[2]、武尾 里美[2]、相垣 敏郎[2]（1.首都大・都市教養・生命、2.首都大学・院理工・生命）

[1P-0662] Hi-Cを用いた二倍体出芽酵母の染色体構造解析
○角崎 太郎[1]、石毛 大輔[1]、岩崎 博史[1]、伊藤 武彦[1]（1.東工大・院生命）

[1P-0663] 新規ヒストン H3バリアント H3mm13は正常な骨格筋再生に必要である
○岩崎 健[1,5]、田口 裕之[2]、吉岡 潔志[3]、西村 洋平[4]、原田 哲仁[1]、前原 一満[1]、謝 炎[2]、林 克彦[4]、小野 悠介[3]、胡桃坂 仁志[2]、大川 恭行[1]（1.九大・生医研・トランスクリプトミクス、2.早大・院・先進理工・理工研・構造創薬研、3.長大・医歯薬総合研、4.九大・医院・ヒトゲノム幹細胞医学、5.九大・医院・形態機能病理）

[1P-0664] 独立成分分析を用いた WGBS DNAメチル化解析
○荒木 啓充[1]、伊藤 隆司[1]（1.九大・院医・医化学）

[1P-0665] SF-KDM2A(short form of KDM2A)はrRNA遺伝子プロモーターの H4K20me3レベルを低下させることで rRNA転写を活性化する
○岡本 健吾[1]、田中 祐司[1]、常岡 誠[1]（1.高崎健康福祉大・薬・遺伝子機能制御学）

[1P-0666] HP1/Swi6変異体によるヘテロクロマチン因子Epe1の量的制御
○佐藤 道明[1]、浅沼 高寛[1]、安藤 元美[1]、村上 洋太[2]（1.北大・院総合化、2.北大・院理・化学）

[1P-0667] Cosearge： HiCデータから複数の TADにまたがる遺伝子共局在を検出するアルゴリズム
○齋藤 裕[1,2]、光山 統泰[1]（1.産総研・人工知能、2.産総研・CBBD-OIL）

[1P-0668] 持続供給可能で多機能なエピジェネティクス研究用リコンビナント抗体の開発
○米沢 理人[1]、Bryce Alves[1]、Romi Mukerjea[1]、Nathalie Paucar[1]、Mike Tchoub[1]、AJ Westergren[1]、Laura Rocco Carpenter[1]、Alexis Kordis[1]、Brye Villani[1]、Eric Damour[1]、Tom Tarka[1]、Terry Kelly[1]（1.Active Motif Inc.）

[1P-0669] ヒトメディエーター複合体 Kinaseモジュール構成サブユニット CDK8/19の新規結合因子の同定
○藤田 智陽[1]、安倍 光姫[1]、山崎 愛実[1]、深澤 力也[1]、廣瀬 豊[1]、大熊 芳明[2]（1.富山大院・医学薬学研究部（薬）、2.長崎大院・医歯薬総合研究科）

[1P-0670] Non-CpGメチル化パターンによる脳の老化関連遺伝子の分類
○李 鍾勳[1]、朴 聖俊[1]、中井 謙太[1]（1.東大・医科研・ヒトゲノム解析センター）

[1P-0671] 塩濃度に依存したクロマチンの構造変化
○田村 佐知子[1]、Jeffrey Hansen[2]、前島 一博[1]（1.国立遺伝研・構造遺伝学研究センター・生体高分子、2.Department of Biochemistry and Molecular Biology, Colorado State University）

[1P-0672] SNF5と転写因子の相互作用による

SWI/SNF複合体のプロモーター領域へのリクルート機構

○桑原 康通[1]、山崎 健太[1]、忠垣 憲次郎[1]、吉田 達士[1]、奥田 司[1]（1.京都府立医科大学・分子生化学）

[1P-0673] 1細胞レベルでみるエピジェネティックな継承の解析

○菊地 亜紀[1]、熊倉 あこや[2]、村本 哲哉[2]（1.東邦・院理・生物学専攻、2.東邦・理・生物学科）

[1P-0674] 転写に伴ったクロマチン構造の安定化

○永島 崚甫[1,2]、日比野 佳代[1,2]、野崎 慎[1]、今井 亮輔[1,2]、前島 一博[1,2]（1.遺伝研・構造生物学研究センター・生体高分子、2.総研大・生命科学・遺伝学）

[1P-0675] Setdb1による内在性レトロウイルスの制御機構

○竹本 経緯子[1]、加藤 雅紀[2]、眞貝 洋一[2]（1.京都大学ウイルス・再生医科学研究所、2.理研細胞記憶研究室）

[1P-0676] マウス骨組織における PAD4の発現解析

奈良 拓也[1]、○稲村 拓哉[1]、伊藤 千鶴子[1]、岡田 龍[1]、有田 大悟[1]、仁科 行雄[1]（1.横市大・理学・生命環境）

[1P-0677] FABP7は核内 Acetyl CoAレベル調節を介してエピジェネティックに遺伝子発現を制御する

○香川 慶輝[1]、大和田 祐二[1]（1.東北大・院医・器官解剖学）

[1P-0678] ウィルスを用いた高効率な配列特異的 DNAメチル化編集システムの開発

○山本 直樹[1]、大塚 まき[1]、畑田 出穂[2]、成田 年[1,3]、五十嵐 勝秀[1]（1.星薬大・先端研、2.群馬大・生体調節研、3.星薬大・薬理）

[1P-0679] CENP-Bはヒトセントロメア反復 DNA上のエピゲノム修飾制御に関与する

○久郷 和人[1]、大関 淳一郎[1]、大竹 興一郎[1]、中戸 隆一郎[2]、白髭 克彦[2]、舛本 寛[1]（1.かずさDNA研・細胞工学、2.東大・分生研）

[1P-0680] クロマチン再構成複合体因子 BRG1のリン酸化修飾によるクロマチン関連タンパク質の変化と遺伝子発現制御

○木村 鮎子[1]、中林 潤[1]、田村 智彦[1]、木村 弥生[1]、平野 久[1]（1.横浜市大・先端医セ）

[1P-0681] 転写伸長領域の DNAメチル化による転写共役スプライシング効率の調節

○鈴木 美穂[1]（1.名大・院医）

[1P-0682] 単一 ES細胞の分化分裂過程におけるメチル化 DNA動態の観察法の検討

○池田 善貴[1]、穂井田 謙介[1]、上田 潤[2]、古谷 駿治[1]、野老 美紀子[1,3]、細井 美彦[1]、山縣 一夫[1]（1.近大・生物理工、2.旭川医大・教育研究推進セ、3.浅田レディース・生殖医研）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 3) DNA複製、DNA組換え、DNAの変異と修復（ポスター）

[1P-6-3] 6. ゲノムと遺伝情報-3) DNA複製、DNA組換え、 DNAの変異と修復

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[1P-0683] Structural and Functional Analyses of Mei5-Sae3 Complex in Dmc1 Assembly in Meiotic Recombination

○Osaretin Osemwenkhae[1,2]、Kenichiro Matsuzaki[1,2]、Akira Shinohara[1,2]（1.Institute for Protein Research、2.Osaka University）

[1P-0684] 複製起点認識蛋白質 ORCにおける一本鎖 DNA結合モチーフの役割

○川上 広宣[1]、千々布 壮陽[1]、金本 祥太[1]、大橋 英治[2]、釣本 敏樹[2]、片山 勉[1]（1.九大・院薬・分子生物、2.九大・理・生物）

[1P-0685] nucleolinによる DNA複製ストレス応答の制御

河村 香寿美[1,2]、Fei Qi[1,2]、Qingmei Meng[1,2]、林 幾江[3]、○小林 純也[1,2]（1.京大・院人間環境学・分子生命環境論、2.京大・放生研、3.広大・院医歯薬保健学）

[1P-0686] 真核生物複製ヘリカーゼ CMG複合体の、クロマチンあるいは複製バリア（ Replication Fork Barrier）に対する活性の生化学的解析

○日詰 光治[1,2]、遠藤 静子[1]、村松 郁子[1]、小林 武彦[3]、荒木 弘之[1,2]（1.遺伝研・微生物遺伝、2.総合研究大学院大学、3.東大・分生研）

[1P-0687] WRNIP1による PrimPolの分解制御

○吉村 明[1]、榎本 武美[2]、関 政幸[1]（1.東北医薬大・薬・生化学、2.武蔵野大・薬）

[1P-0688] ヒト iPS細胞における発がん抑制遺伝子の動態

○林 道夫[1]、岡 素雅子[2]、橋口 一成[1]、梅津 桂子[1]、関口 睦夫[2]（1.福歯大・生化学、2.福歯大・先端科学研究センター）

[1P-0689] ヒト細胞における複製フォークの異常停止に対する DNAダメージ応答機構の lacO-LacIシステムを利用した解析

○都築 洋太[1]、石本 理子[1]、串山 辰徳[1]、杉本 のぞみ[1]、吉田 和真[1]、藤田 雅俊[1]（1.九大・院薬・医薬細胞生化学）

[1P-0690] DNA二重鎖切断の相同組換え修復に対する損傷応答キナーゼ活性の役割

田部井 由依[1]、佐藤 圭汰[1]、小摩木 里奈[1]、大橋 由佳[1]、小林 穂波[1]、坂本 敬祥[1]、布施谷 清香[1]、坂本 祐貴

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、小松 賢志[2]、○田内 広[1]（1.茨城大・理・生物科学、2.京大・放生研）

[1P-0691] 分裂酵母シェルタリンによる複製開始タイミング制御機構

○城戸 沙友里[1]、小川 志帆[1]、中川 拓郎[1]、升方 久夫[1]（1.阪大・院理・生物科学）

[1P-0692] たばこ副流煙によるヌクレオチド除去修復の遅延とそのメカニズム

○楊 光[1]、伊吹 裕子[1]（1.静岡県立大学 大学院食品栄養環境科学研究院）

[1P-0693] 大腸菌染色体の*oriC*-DnaA非依存性複製開始に必要とされる新たなゲノム領域とその機能

○田中 卓[1]、関 由美香[1]、鷲 朋子[1]、西藤 泰昌[2]、正井 久雄[1]（1.東京都医学研・ゲノム動態、2.東京都医学研・基盤技術研究センター）

[1P-0694] 核酸の脱プリン反応に対するポリアミンの抑制効果

○吉田 健人[1]、照井 祐介[1]、坂本 明彦[1]、齋藤 聖斗[1]、大島 泰郎[2]、五十嵐 一衛[3,4]、柏木 敬子[1]（1.千葉科学大院・薬、2.共和化工・環境微生物研究所、3.千葉大院・薬、4.アミンファーマ研）

[1P-0695] 染色体切断時における DNA複製現象に対する*recX*および*srpC*遺伝子の関与

○海藤 晃弘[1]、石井 朝子[2]、椎名 隆[3]、鈴木 進悟[3]、小古間 時夫[4]（1.東海大・生物・生物、2.北大・院医、3.東海大・医・基礎医学系・分子生命、4.ニューメキシコ大・医学・癌研究所）

[1P-0696] DNA修復阻害剤を用いた食品由来抗酸化剤による抗腫瘍機構の解析

○鳥海 一也[1]、武田 茂樹[1]、西場 晟也[2]、黒沢 綾[1]（1.群大・院理工、2.群大・理工）

[1P-0697] 抗体遺伝子多様化における DNA脱メチル化酵素の機能解析

○高村 夏生[1]、近藤 早紀子[1]、黒澤 恒平[1]、橋本 講司[1]、瀬尾 秀宗[1]、太田 邦史[1]（1.東大院・総文・生命環境）

[1P-0698] 有糸分裂期の DNA二本鎖切断損傷応答機構における Ku70の役割

○湯徳 靖友[1]、小池 亜紀[1]、小池 学[1]（1.量研機構・放医研）

[1P-0699] DNA二本鎖切断応答におけるヒストン H2AXユビキチン化制御機構の解明

○為國 詩織[1]、木村 祐輔[1]、松井 美咲[1]、堀 利行[1]、西 良太郎[1]（1.立命館大・院生命科学・生医）

[1P-0700] 出芽酵母 Rad51-Rad52共同作用による相同 DNA対合での DNA結合の分担

○小林 純[1]、柴田 武彦[2]、新井 直人[1]（1.日本大・生物資源・応用生物、2.首都大東京・院理工）

[1P-0701] 出芽酵母における減数分裂特異的な組換チェックポイントメディエーター因子 Mek1の分子メカニズムの解明

○浜野 有希[1,2,3]、篠原 美紀[2,3]、Jan Seebacher[4]、島田 健士[4]、Susan Gasser[4]（1.阪大・院理・生物科学、2.阪大・蛋白研、3.近大・農学部、4.FMI）

[1P-0702] 超好熱性アーキア*Aeropyrum pernix*に存在する2種のファミリー B DNAポリメラーゼの性質

○山上 健[1]、石野 園子[1]、今井 奈美子[1]、南雲 吉代[1]、大門 克哉[1]、石野 良純[1]（1.九大・院農・蛋白化工）

[1P-0703] 休止期細胞で生じる NERギャップ中間体の Exo1によるプロセッシング

○若杉 光生[1]、田中 秀樹[1]、宮口 裕子[1]、石井 利実[1]、松永 司[1]（1.金沢大・医薬保健・薬）

[1P-0704] 核内構造体による DNA二本鎖切断応答制御機構の解明

○松井 美咲[1]、木村 祐輔[1]、安倍 昌子[2]、石合 正道[2]、堀 利行[1]、高田 穣[2]、Stephen Jackson[3,4]、西 良太郎[1]（1.立命館大・院生命科学・生医、2.京都大・放射線生物研究センター、3.The Wellcome Trust/Cancer Res. UK Gurdon Inst. and Dept. of Biol., Univ. of Cambridge、4.The Wellcome Trust Sanger Inst.）

[1P-0705] ヒト複製開始複合体結合タンパク質 LRWD1/ORCBP1の機能解析

○大久保 義真[1,2]、林 陽子[1,2]、磯部 真也[2]、長尾 恒治[2]、小布施 力史[2]（1.北大・院生命科学、2.阪大・院理）

[1P-0706] 低線量率放射線によって生じる DNA損傷とその修復

○寺東 宏明[1]、徳山 由佳[1]、澤尻 昌彦[2]、保田 浩志[3]（1.佐賀大・総合分析、2.広島大・院医歯薬、3.広島大・原医研）

[1P-0707] DNA二本鎖切断応答における UCHL3二量体化の意義

○木村 祐輔[1]、松井 美咲[1]、為國 詩織[1]、堀 利行[1]、Stephen Jackson[2,3]、西 良太郎[1]（1.立命館大・院生命科学・生医、2.The Wellcome trust/Cancer Research UK Gurdon Institute and Department of Biology, University of Cambridge、3.The Wellcome Trust Sanger Institute）

[1P-0708] Single-strand annealing (SSA)による染色体異常の発生メカニズム

○大仲 惇司[1]、片平 泰弘[1]、升方 久夫[1]、中川 拓郎[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.阪大・院理・生物科学）

[1P-0709] ヒトおよびアフリカツメガエル ORCAとORCとの結合に関する解析
○石川 友紀[1]、由良 敬[2,3]、小布施 力史[4]、和賀 祥[1]
（1.日本女子大・理・物質生物、2.お茶大・生命情報、3.早稲田大・理工、4.阪大・院理）

[1P-0710] 複製開始因子／転写抑制因子 AIF-C2の転写依存的な DNA結合の解析
○青木 麻央[1]、島田 真衣[1]、斎藤 靖史[2]、和賀 祥[1]
（1.日本女子大・理・物質生物、2.岩手大・農・寒冷バイオ）

[1P-0711] Holliday構造 DNAは RuvA-RuvB複合体形成を促進させる
○韓 龍雲[1,2]、山本 れいこ[2]、中尾 公子[2,3]、多田隈 尚史[2,3]、原田 慶恵[2,3]（1.東工大・生命理工学院、2.京大・iCeMS、3.阪大・蛋白研）

[1P-0712] DNA損傷修復機構におけるヒストンアセチル化酵素群の機能解析
○福田 圭[1]、齊藤 碧[2]、三瓶 琴乃[2]、吉岡 大介[2]、柳 茂[2]、松下 暢子[2]（1.東薬大・院生命・生命科学、2.東薬大・生命科学）

[1P-0713] 放射線照射に伴って現れる DNA複製ストレスと、これに起因して誘導される細胞老化とゲノム不安定性
○松野 悠介[1,2]、皆川 祐輔[1,3]、鳥越 秀峰[2]、吉岡 研一[1]
（1.国立がんセ・研究所・発がん・予防、2.東京理科大・理、3.東京理科大・基礎工）

[1P-0714] シナプトネマ複合体形成分子 SYCE2は体細胞の核内微小環境を変化させて DNA修復を制御する
○細谷 紀子[1]、宮川 清[1]（1.東大・院医・疾患生命工学セ・放射線分子医学）

[1P-0715] 分裂期誘導によるレプリソーム解離機構の in vitro解析
○橋本 吉民[1]、田中 弘文[1]（1.東薬大・生命科学）

[1P-0716] Chk2による、 UV誘発性皮膚がんの防御機構
○田上 友貴[1]、立石 智[1]（1.熊大・発生研）

[1P-0717] 細胞周期依存的な転写共役型 DNA二重鎖切断修復の制御機構
○安原 崇哲[1]、加藤 玲於奈[1]、柴田 淳史[2]、宮川 清[1]
（1.東大・院医・疾患生命工学セ・放射線分子、2.群大・院医・大学院教育研究支援セ）

[1P-0718] Rad8 (E3)と Mms2-Ubc4 (E2)による PCNA K107ユビキチン化は染色体異常を促進する
○Jie Su[1]、豊福 直子[1]、沖 慶太郎[1]、升方 久夫[1]、中川 拓郎[1]（1.阪大・院理・生物科学）

[1P-0719] DNAポリメラーゼηと Rad18のタンパク質間相互作用に関する解析
○松尾 理加[1]、金尾 梨絵[1]、増田 雄司[1,2]、益谷 央豪[1]
（1.名大・環医研・ゲノム、2.名大・院医）

[1P-0720] DNA二本鎖切断修復における DNAポリメラーゼθの機能解析
○吉川 真子[1]、斎藤 慎太[2]、足立 典隆[2,3]（1.横浜市大・国際総合科学部、2.横浜市大・院・生命ナノ、3.横浜市大・先端医科研）

[1P-0721] ミスマッチ修復に依存したアポトーシスにおけるクロマチンリモデング因子の役割
○武石 幸容[1]、藤兼 亮輔[2]、力武 美保子[2,3]、高橋 達郎[4]、関口 睦夫[1]、日高 真純[2]（1.福歯大・先端科学研究センター、2.福歯大・細胞分子生物学、3.福歯大・成長発達歯学、4.九大・院理）

[1P-0722] オス親マウスへの放射線照射によって仔世代に生じた遺伝的変異のゲノムワイドな検出
○小倉 啓司[1]、田中 聡[1]、小村 潤一郎[1]（1.（公財）環境科学技術研究所 生物影響）

[1P-0723] エトポシドにより促進されるランダムインテグレーションのメカニズムの解析
○森本 精太[1]、斎藤 慎太[2]、足立 典隆[2,3]（1.横浜市大・国際総合科学部、2.横浜市大・院・生命ナノ、3.横浜市大・先端医科研）

[1P-0724] 損傷乗り越え複製における hINO80 および UCH37 の機能解析
○浅尾 麻由[1]、遠山 一文[1]、木戸 まい子[1]、助乗 崇紘[1]、加藤 大[1]、柏葉 脩一郎[1]、村上 康文[1]（1.東理大・院基礎工・生物工学）

[1P-0725] DNAタンパククロスリンク損傷修復における FANC及び TDP1遺伝子産物の関与
○藤池 春奈[1]、Mahmoud Shoulkamy[2]、Amir Salem[2]、笹沼 博之[3]、高田 穣[4]、武田 俊一[3]、増永 慎一郎[1]、井出 博[2]、田野 恵三[1]（1.京大・原子炉・生命科学、2.広島大・院理・数理分子生命理学、3.京大・医・放射線遺伝、4.京大・放生研・晩発効果・DNA損傷シグナル）

[1P-0726] オーキシンデグロンシステムを用いたトポイソメラーゼ１の細胞内機能の解析
○梅村 小雪[1]、廣田 耕志[1]、阿部 拓也[1]（1.首都大学東京・理工学研究科・分子物質化学）

[1P-0727] ヒストンアセチル化酵素 Esa1の DNA複製開始への関与
○田中 誠司[1,2,3]、大浪 真由美[2]、細江 朱里[2]、荒木 弘之[2,3]（1.高知工科大・環境理工、2.遺伝研・微生物、3.総研大）

[1P-0728] ヒストンバリアント H2A.Z-2の DNA損傷依存的

な交換の制御

○福戸 敦彦[1]、堀越 保則[1]、田代 聡[1]（1.広大・原医研・細胞修復制御）

[1P-0729] DNA中のリボヌクレオチドが引き起こす突然変異とその抑制機構

○佐々 彰[1]、安井 学[2]、笹沼 博之[3]、武田 俊一[3]、菅澤 薫[4]、本間 正充[2]、浦 聖恵[1]（1.千葉大・理学研究院、2.国立衛研・変異遺伝、3.京都大・医学研究科、4.神戸大・バイオシグナル総合研究センター）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 4) 転写調節（ポスター）

[1P-6-4] 6. ゲノムと遺伝情報-4) 転写調節

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[1P-0730] Mechanistic analysis of the initiation of retroviral gene silencing by reprogramming factors

○Linh Bui[1]、Ken Nishimura[2]、Koji Hisatake[2]（1.Grad. Sch. of Comp. Human Sci., Univ. of Tsukuba、2.Fac. of Med., Univ. of Tsukuba）

[1P-0731] Identification of potential regulatory mutations using multi-omics analysis and haplotyping of lung adenocarcinoma cell lines

○Sarun Sereewattanawoot[1]、Ayako Suzuki[2]、Masahide Seki[1]、Takashi Kohno[3]、Sumio Sugano[1]、Katsuya Tsuchihara[2]、Yutaka Suzuki[1]（1.Dept. of Comp. Biol. &Med. Sci., Grad. Sch. of Front. Sci., Univ. of Tokyo、2.Div. of Trans. Gen., Expl. Onco. Res. &Clin. Tri. Cen., NCC、3.Div. of Gen. Biol., NCCRI）

[1P-0732] Hsfの選択的スプライシングによるネムリユスリカ特異的な乾燥耐性制御機構

○徳本 翔子[1]、宮田 佑吾[2]、Ruslan Deviatiiarov[3]、Oleg Gusev[3,4]、黄川田 隆洋[5]（1.東大、2.東工大、3.カザン大学、4.理研、5.農研機構・東大）

[1P-0733] ヒト*CDC45*遺伝子プロモーター領域に存在するレスベラトロール応答エレメントの解析

○荒川 潤[1]、内海 文彰[1]（1.東理大・院薬・遺伝子制御学）

[1P-0734] ヒト*MCM4*遺伝子プロモーターの天然化合物*trans*-resveratrolに対する応答の解析

○阿久井 基弘[1]、日下 萌奈美[2]、内海 文彰[1,2]（1.東理大・院薬・遺伝子制御学、2.東理大・薬・遺伝子制御学）

[1P-0735] NAD^+代謝関連化合物によるヒト*IDH1*遺伝子発現制御メカニズムの解析

○瀧原 穣[1]、内海 文彰[1]（1.東理大・院薬・遺伝子制御学）

[1P-0736] TPAによる HL-60細胞分化誘導に伴ったヒト*ZNFX1* 遺伝子発現制御メカニズムの解析

○濱田 裕司[1]、山村 麻由[2]、内海 文彰[1,2]（1.東理大・院薬・遺伝子制御学、2.東理大・薬・遺伝子制御学）

[1P-0737] RUNX1の過剰発現におけるミエローマの増殖抑制

○長谷川 未冴[2]、鈴木 貴紘[1,2]、中西 友理[1]、西村 創[1]、鈴木 治和[1]（1.理化学研究所、2.横浜市立大学・生命医科学）

[1P-0738] Inscuteable promoter-CreERT2 遺伝子改変マウスを用いた Inscuteable 遺伝子の発現制御機構の in vivo解析

○松山 奈央[1]、石橋 理基[1]、阿部 浩太[1]、豊島 文子[1]（1.京大・ウイルス再生研・組織恒常性）

[1P-0739] BMMCsにおいて*Cebpa*は GATA因子と PU.1の相互作用によって制御される。

○大森 慎也[1]、島 武志[1]、養田 真理[1]、石嶋 康史[1]、大根田 絹子[1]（1.高崎健康福祉大学 薬学部）

[1P-0740] SHARP-2 と ATBF1 の相互作用の解析

○青木 真人[1]、三島 歩美[1]、山田 一哉[1]（1.松本大院・健康科学）

[1P-0741] 高速原子間力顕微鏡による光転写制御モジュール Photozipperの1分子動態観察

○加藤 恭介[1]、山下 隼人[1,3]、久冨 修[2]、阿部 真之[1]（1.阪大・院基礎工、2.阪大・院理、3.JST　さきがけ）

[1P-0742] メラトニンによる糖新生酵素 *PEPCK* 遺伝子の発現調節機構の解析

○樋口 万里子[1]、柳澤 有希[1]、山田 一哉[1]（1.松本大院・健康科学）

[1P-0743] T-boxファミリー転写因子 eomesodermin はマウス胸腺腫 BW5147細胞において T細胞の活性化に応答し IFN-γの発現を制御する

○原田 美鈴[1]、福岡 菜月[1]、西田 愛[1]、片岡 孝夫[1]（1.京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科応用生物学専攻）

[1P-0744] 出芽酵母の凝集関連遺伝子 FLO1プロモーターにおける DNAメチル化の影響

○杉山 圭一[1]、古沢 博子[1]、グルーズ ピーター[1]、本間 正充[1]（1.国立衛研・変異遺伝部）

[1P-0745] 大腸菌ヒスチジンキナーゼセンサー EvgS の活性化機構

○稲田 慎也[1]、内海 龍太郎[2]、芦田 久[1]、江口 陽子[3]（1.近大院・生物理工・生物工、2.近大・農・バイ

オ、3.近大・生物理工・食品安全工）

[1P-0746] ARP1と相互作用するタンパク質の解析
○本田 伸一郎[1]、小迫 知弘[1]、相川 晃慶[1]、原田 信広[2]（1.福岡大・薬・生化学、2.藤田保衛大・医・生化学）

[1P-0747] GATA1の N端活性化ドメインを介する転写活性化におけるメディエーターの関与の可能性
○福岡 知也[1]、松尾 美希[1]、後和 佳澄[1]、森 真洋[1]、河合 麻美[1]、水田 駿平[1]、峰松 侑希[1]、服部 美咲[1]、Roeder Robert G.[3]、長谷川 菜摘[1]、伊藤 光宏[1,2,3]（1.神戸大・保健学研究科・病態解析学、2.早稲田大・ナノ・ライフ創新研究機構、3.ロックフェラー大・生化学・分子生物学）

[1P-0748] CRISPR/Cas9法による*Gata2*-136K領域を欠失した3T3-L1細胞の作製とその解析
○石嶋 康史[1]、大井田 晃莉[1]、大森 慎也[1]、大根田 絹子[1]（1.高崎健康福祉大・薬）

[1P-0749] 転写因子 N-mycによるβ4-ガラクトース転移酵素3遺伝子プロモーターの活性化機構の解析
○加藤 大志[1]、丹下 梨穂[1]、佐藤 武史[1]（1.長岡技科大院・糖鎖生命工学）

[1P-0750] ヒストンアセチル化酵素 HBO1のオートファジーにおける役割
○長田 茂宏[1]、平野 利忠[1]、西塚 誠[1]、白根 道子[1]、今川 正良[1]（1.名市大・院薬・分子生物）

[1P-0751] Oncofetal geneの体系的な探索
○原 惇史[1]、水谷 玲菜[2]、秋光 信佳[2]、矢田 哲士[1]（1.九工大・情報工・生命情報、2.東大・ISC）

[1P-0752] 6-MSITCによる糖新生系酵素*PEPCK* 遺伝子の発現抑制機構の解析
○田中 みすず[1]、高木 勝広[1]、林 桃子[1]（1.松本大学大学院 健康科学研究科）

[1P-0753] Transcriptional landscape of Mycobacterium tuberculosis-infected macrophages
Sugata Roy[1,2]、Sebastian Schmeier[3]、Bogumil Kaczkowski[1,2]、Erik Arner[1,2]、Tanvir Alam[4]、Suraj Parihar[5,6]、Mumin Ozturk[5,6]、Hideya Kawaji[1,2,7]、Masayoshi Itoh[1,2,7]、Timo Lassmann[1,2]、Piero Carninci[1,2]、Yoshihide Hayashizaki[2,7]、Alistair Forrest[1,2]、Vladimir Bajic[4]、Reto Guler[5,6]、Frank Brombacher[5,6]、○鈴木 治和[1,2]（1.RIKEN CLST、2.RIKEN OSC、3.Massay Univ.、4.KAUST、5.ICGEB、6.Cape Town Univ.、7.RIKEN PMI）

[1P-0754] 新規転移した LINEの転写制御に関する研究
○田村 政人[1]、岩森 暖[1]、梶川 正樹[1]（1.東工大・院生命理工学院）

[1P-0755] 転写因子 Nrf2による酸化ストレス応答配列(ARE)の認識機構の解析
○椎名 政昭[1]、鈴木 香絵[1]、内山 晃子[1]、浜田 恵輔[1]、馬場 しほ[1]、岡田 千佳子[1]、太田 力[2]、緒方 一博[1]（1.横市大・院医・生化学、2.常葉大・保健・理学療法）

[1P-0756] ヒトβ4-ガラクトース転移酵素4遺伝子の転写活性化への転写因子 Runxの関与
○齋藤 健吾[1]、杉山 あてな[1]、福島 直道[1]、佐藤 武史[1]（1.長岡技科大院・糖鎖生命工学）

[1P-0757] セルロース分解性ストレプトミセスにおける植物バイオマス分解酵素発現機構の解明
加藤 夏海[1]、佐藤 わかな[5]、前田 裕斗[5]、SziIvia Nagy[2]、James EIlinger[3]、堀 千明[4]、○高須賀 太一[2]（1.北大・畜産科学、2.北大・院農、3.東大・ALESS、4.北大・院工、5.北大・生物機能化学）

[1P-0758] がんウイルスによる CD81の遺伝子発現調節機構
○細川 晃平[1]、渡部 匡史[1]、藤室 雅弘[1]（1.京薬・院薬・細胞生物）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 5) RNAプロセシング、輸送、翻訳、非コードRNA（ポスター）

[1P-6-5] 6. ゲノムと遺伝情報-5) RNAプロセシング、輸送、翻訳、非コード RNA

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[1P-0760] キイロショウジョウバエにおける父性 P因子由来の接合子 piRNAと雑種交配不全との関連
○脇坂 啓子[1]、一柳 健司[2]、大野 聖子[3]、伊藤 雅信[4]（1.京工繊・工芸科学、2.名大院・生命農学、3.滋賀医大・アジア疫学、4.京工繊・応用生物学）

[1P-0761] TPD52遺伝子発現は mRNAの安定性を介して負のフィードバックを受ける
○椋代 義樹[1]、本橋 宏美[1]、代田 達夫[1]（1.昭和大・歯・口外）

[1P-0762] 線虫ダイサー関連ヘリカーゼ DRH-1および DRH-3の生化学的解析
○浴 俊彦[1]、小林 大士[1]、木村 康誠[1]、白木 隼[1]、杉野 美里[1]、飯田 誠也[1]、広瀬 侑[1]（1.豊橋技科大・院工・環境生命）

[1P-0763] ヒト GW182ファミリータンパク質のリン酸化による microRNAサイレンシング制御機構の解明
○須澤 壮崇[1]、宗像 扶早子[1]、西 賢二[1]、秦 裕子[2]、尾山 大明[2]、程 久美子[1]（1.東京大学大学院理学系研究

科生物科学専攻、2.東京大学医科学研究所疾患プロテオミクスラボラトリー）

[1P-0764] 核内構造体パラスペックルは NEAT1 lncRNAの複数の機能ドメインにより構築される

○山崎 智弘[1]、Sylvie Souquere[2]、木立 尚孝[3]、Archa Fox[4]、中川 真一[5]、Pierron Gerard[2]、廣瀬 哲郎[1]（1.北大・遺制研、2.Institut Gustav Roussy、3.東大・新領域・メディカル、4.University of Western Australia、5.北大・薬学院）

[1P-0765] Lobe-less RNAは、胚発生期において神経母細胞に発現し、軸索走行制御を介した神経回路形成に寄与している

○稲垣 幸[1]、門田 光隆[3]、Sean Keeley[3]、工樂 樹洋[3]、影山 裕二[1,2]（1.神戸大・バイオシグナル、2.神戸大院・理、3.理研・CLST）

[1P-0766] 新規 MTR4-エキソソーム複合体相互作用因子 SPF30の機能解析

○石田 洋一[1]、齋藤 充昭[1]、長浜 正巳[1]（1.明治薬科大学・生体分子学）

[1P-0767] タウ mRNAの樹状突起内分布と刺激に応じた局所翻訳およびリン酸化

○田中 融[1]、小林 俊亮[1]、高島 明彦[2]（1.日大・薬・生化学、2.学習院大・理・生命科学）

[1P-0768] 心筋 PRMT1欠損で誘導される不全心の遺伝子転写と翻訳の網羅的プロファイリング

○陸 偉哲[1]、村田 知弥[2]、金 俊達[2]、石田 純治[2]、深水 昭吉[1,2]（1.筑波大学・グローバル教育院　、2.筑波大学・生命領域学際研究センター）

[1P-0769] mRNA成熟阻害活性を持つ薬剤のスクリーニングおよびその作用機序の解析

○三宅 俊太郎[1]、西村 聡一[1]、増田 誠司[1]、藤原 奈央子[1]（1.京大・院生命・統合生命）

[1P-0770] 細胞性粘菌オーガナイザーで働く細胞質 lncRNA *dutA*の機能解析

○嵯峨 幸夏[1]、橘高 昂平[1]、森川 直樹[1]、川田 健文[1]（1.東邦大・理・生物）

[1P-0771] がん遺伝子*yki* mRNAの細胞内局在を制御する因子の同定

○坂本 優一[1]、梅河内 隆成[1]、田中 祐[1]、山口 政光[1,2]、吉田 英樹[1,2]（1.京工大・応用生物、2.京工大・昆虫先端研究推進センター）

[1P-0772] リボソーム/ArfA/RF2複合体のクライオ電子顕微鏡による構造解析

○栗田 大輔[1]、Ma Chengying[2]、Ning Gao[2]、姫野 俵太[1]（1.弘前大・農学生命・分子生命、2.清華大・構造生物）

[1P-0773] 異なるプロモーター領域によるマイクロ RNAクラスター C19MCの発現制御の研究

○秋元 航[1]、柏木 彩花[2]、高崎 亮人[2]、李 小寓[2]、吉田 健一[1,2]（1.明大・院農・生命科学、2.明大・農・生命科学）

[1P-0774] マイクロ RNA370の組織間および種間における発現制御についての研究

○愛原 咲季[1]、高 智淑[2]、矢澤 春佳[2]、吉田 健一[1,2]（1.明大・院農・生命科学、2.明大・農・生命科学）

[1P-0775] ゼブラフィッシュ網膜形成における RNA結合タンパク質 NonOの機能解析

○宇佐美 知沙[1]、坂本 博[1]、井上 邦夫[1]（1.神戸大・院理・生物学）

[1P-0776] RNA結合タンパク質の過剰発現によりスプライシング異常が引き起こす転写伸長抑制が解除される

○石田 健[1]、古賀 光徳[1]、林 めぐみ[1]、甲斐田 大輔[1]（1.富山大学大学院 医学薬学研究部（医学））

[1P-0777] 分裂酵母グルコース飢餓における*fbp1*$^{+}$アンチセンス RNAの発現制御

○三木 敦子[1]、太田 邦史[1,2]（1.東大・院総文・広域科学、2.東大・院理・生物科学）

[1P-0778] mRNA分解制御機構に着目した心筋肥大関連因子の探索

○増村 雄喜[1]、肥後 修一朗[1]、彦惣 俊吾[1]、高島 成二[2]、坂田 泰史[1]（1.阪大院医循環器内科学、2.阪大院医医化学）

[1P-0779] 試験管内再構築系を用いたピンポンサイクル経路の生化学的解析

○村上 僚[1]、小森 智貴[1]、上村 想太郎[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

[1P-0780] マウス神経芽細胞腫 Neuro-2A細胞の神経突起伸長における環状 RNA発現解析

○黒木 大海[1]、菊池 洋[2]、梅影 創[1]（1.豊橋技術科学大学環境・生命工学系、2.早稲田大先進理工）

[1P-0781] フルオロキノロン誘導体と RNAとの相互作用の NMR解析

○長野 来南[1]、徳岡 慎也[2]、上村 孝[3]、中村 慎吾[3]、河合 剛太[1]（1.千葉工業大学、2.大陽日酸株式会社、3.株式会社Veritas In Silico）

[1P-0782] DNAマイクロアレイと次世代シーケンサーによる*Thermus themophilus* HB8の RNomics

○河合 剛太[1]、青木 優里[1]、大津 舞菜[1]、小池 奈緒美[2]、三瓶 嚴一[2]（1.千葉工業大学工学部生命環境科学科、2.電気通信大学大学院情報理工学研究科基盤理工学専攻）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-0783] 乳酸菌 Gly-tRNAIle(UAU)の機能解析
○冨川 千恵[1]、Sylvie Auxilien[2]、Vincent Guerineau[3]、吉岡 裕也[1]、三好 規代[1]、林 実[1]、堀 弘幸[1]、Dominique Fourmy[2]、高井 和幸[1]、吉澤 聡子[2]（1.愛媛大・院理工・物質生命工学、2.I2BC. CNRS, France、3.ICSN. CNRS, France）

[1P-0784] 過剰発現するとがん化を促進する miR-17~92クラスター内のマイクロRNA(miRNA)の相補配列は、標的である3'非翻訳領域に特異的に多く存在する訳では無い
○寺門 正貴[1]、本間 桂一[1]（1.前橋工科大学大学院生命情報学専攻）

[1P-0785] マウス膵β細胞株 MIN6の飢餓ストレスに対するlncRNAを介した遺伝子発現制御機構の探索
○土屋 一郎[1]、荒木 海人[1]、石井 智子[1]、吉田(大澤) 奈摘[1]、太田 邦史[1]（1.東大・総合文化・生命環境）

[1P-0786] 出芽酵母の tRNA成熟過程にかかわる新規輸送因子の探索
○山内 理恵[1]、大平 高之[1]、鈴木 勉[1]（1.東大・院工・化学生命）

[1P-0787] A-to-I RNA編集の翻訳開始点生成とタンパク質翻訳制御
○星野 莉奈[1]、野瀬 可那子[1]、福田 将虎[1]（1.福岡大・理・化学）

[1P-0788] 細胞外酸性 pH応答による A-to-I RNA編集の亢進
○坂下 英司[1]、秋本 千鶴[2]、遠藤 仁司[1]（1.自治医大・医・生化学、2.自治医大・神経内科学）

[1P-0789] non-coding RNAの二次構造による網羅的分類
○片山 研太[1,2]、田頭 将喜[3]、浜田 道昭[2,3,4]、佐藤 政充[1,4]（1.早大・先進・生医、2.産総研・早大 CBBD-OIL，産総研、3.早大・先進・電生、4.早大・構造生物・創薬研）

[1P-0790] ショウジョウバエ脳腫瘍抑制遺伝子*lethal (3) malignant brain tumor*による piRNA因子転写制御機構の解明
○山本 瞳[1]、佐藤 薫[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

[1P-0791] 出芽酵母脱ユビキチン化酵素 Otu2と Ubp3のリボソームに対する重複した機能の可能性
○竹原 由香[1]、八代田 英樹[1]、村田 茂穂[1]（1.東大・院薬）

[1P-0792] piRNA増幅機構を獲得したショウジョウバエ生殖細胞様細胞株Δmbt-OSCを用いた nuage形成機構の解析
○住吉 哲太朗[1]、栗山 渉吾[1]、山本 瞳[1]、佐藤 薫[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

[1P-0793] インスリン受容体 RNAの組織特異的な選択的スプライシング機構の解析
○名倉 敬仁[1]、尾添 敦文[1]、成田 佑果[1]、西 宏起[1]、千田 和広[1]、伯野 史彦[1]、片岡 直行[1]、高橋 伸一郎[1]（1.東大・院農・応用生命化学、応用動物科学）

[1P-0794] 深層学習を利用したトランススプライシングに関わるゲノム領域の探索
○片桐 沙弥[1]、片桐 沙紀[1]、西野 光一郎[2]、岡村 浩司[3]（1.お茶大・理・生物、2.宮崎大・農、3.成育医療セ・システム医学）

[1P-0795] マウス GTSF1は PIWI-piRNAがターゲットRNAを切断するために重要な因子である
○能村 卓慈[1]、渡部 聡朗[2]、宮川 さとみ[3]、竹本 記章[4]、城本 悠助[3]、宮東 昭彦[5]、金井 正美[6]、田代 文[4]、宮崎 早月[4]、刀谷 在美[7]、中馬 新一郎[7]、宮崎 純一[4]（1.阪大・医・動物施設、2.エール大・医・幹細胞セ、3.阪大・医・幹細胞病理、4.阪大・医・幹細胞制御、5.杏林大・医・解剖、6.東京医歯大・動物実験セ、7.京大・再生医科学研）

[1P-0796] 出芽酵母の No-Go Decay (NGD) の効率は、minor tRNAと NGD因子の量比の変化で影響を受けるか
○佐藤 友衣子[1]、吉久 徹[1]（1.兵庫県立大・院理・生命科学）

[1P-0797] 破骨細胞におけるエンハンサー RNAの役割の解明
○阪口 友香子[1]、西川 恵三[1]、瀬尾 茂人[2]、松田 秀雄[2]、石井 優[1]（1.阪大・医・免疫細胞生物学、2.阪大・情・ゲノム情報工学）

[1P-0798] ポリアミンによる KLF4の翻訳制御は骨髄由来マスト細胞分化のヒスタミン産生を抑制する
○西村 和洋[1]、岡本 萌実[1]、澁江 梨奈[1]、水田 俊男[1]、芝山 徹[1]、田中 智之[2]、東 恭平[1]、戸井田 敏彦[1]、五十嵐 一衛[1,3]（1.千葉大院・薬、2.岡山大院・医歯薬、3.アミンファーマ研）

[1P-0799] RNAキナーゼ分子 NOL9の生体内における分子機能
○藤浪 弘行[1]、白石 裕士[1]、波田 一誠[1]、花田 俊勝[1]（1.分大・医・細胞生物）

[1P-0801] Dicerと相互作用しない TRBPを用いた HIV-1の翻訳と HIV-1 TAR miRNAの発現における TRBPによる制御機構の解析
○小森 千晶[1]、高橋 朋子[1]、程 久美子[1]（1.東大・院理・生物科学）

[1P-0802] 自己免疫応答における RNAサイレンシング活性

の調節機構とそれに伴う遺伝子発現変動
○中野 悠子[1]、高橋 朋子[1]、小野本 浩司[2]、米山 光俊[2]、程 久美子[1,3]（1.東大・院理・生物科学、2.千葉大・真菌医学研、3.東大・新領域・メディカル情報生命）

[1P-0803] 出芽酵母を用いた tRNAイントロンの持つ生理的意義の解明
○林 紗千子[1]、吉久 徹[1]（1.兵庫県立大学大学院生命理学研究科）

[1P-0804] 可変型遺伝子トラップ法による新規 lincRNAの生体内機能解析
○吉信 公美子[1]、吉住 友希[1]、林田 隆成[1]、今坂 舞[2]、荒木 喜美[2]、荒木 正健[1]（1.熊大・生命資源・バイオ情報、2.熊大・生命資源・疾患モデル）

[1P-0805] Nuage 形成のリン酸化制御
○北折 康訓[1]、石川 聡美[1]、梅北 護寛[2]、竹下 友佳子[1]、五十嵐 雅之[3]、吉村 華夏[4]、石川 勇人[4]、Ramesh Pillai[5]、谷 時雄[1]（1.熊本大学・自然科学・生命科学、2.熊本大学・理・生物学、3.微生物化学研、4.熊本大学・自然科学・化学、5.Department of Molecular Biology, University of Geneva, Geneva, Switzerland）

[1P-0806] 核小体ストレスに応答して翻訳を制御するシロイヌナズナ*ANAC082*遺伝子の上流 ORF
○佐々木 駿[1]、工藤 凛[1]、渡辺 俊[2]、杉山 宗隆[3]、刑部 祐里子[4]、刑部 敬史[4]、内藤 哲[1,2]、尾之内 均[1]（1.北大・院農、2.北大・院生命、3.東大・院理、4.徳島大・生物資源産業）

[1P-0807] ショウジョウバエ卵巣体細胞における piRNAと endo-siRNAのクロストーク
○小松崎 千尋[1]、石津 大嗣[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

[1P-0808] 生殖細胞特異的 Y-box RNA結合タンパク質による翻訳抑制機構
○久恒 翠[1]、三枝 彩佳[1]、柏原 真一[1,2]、馬場 忠[1,2]（1.筑大・生命環境、2.筑大・生命領域学際研究センター）

[1P-0809] 立体構造並びに配列データに基づいた tRNA-アミノアシル tRNA合成酵素結合表面の進化学的解析
○玉木 聡志[1]、冨田 勝[1,2,3]、鈴木 治夫[1,2]、金井 昭夫[1,2,3]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.慶大・院・政策・メディア）

[1P-0810] タンデム四重極型質量分析計を用いた ALKBHファミリーによる RNA 修飾制御の検討
○長谷 拓明[1]、大塩 郁幹[1]、上田 裕子[1]、北惠 郁緒里[1]、西本 愛[1]、木本 瑞基[1]、犬伏 智子[1]、辻川 和丈[1]（1.大阪大学大学院）

[1P-0811] piRNA生合成因子 BmQinの機能解析
○宮田 祐実[1]、西田 知訓[1]、岩崎 由香[2]、塩見 春彦[2]、塩見 美喜子[1]（1.東大・理・生科、2.慶応大・医・分子生物）

[1P-0812] ERK経路の異常活性化によって発現誘導される長鎖非コード RNAの同定と機能解析
○中野 雄太[1,2]、久保田 裕二[2]、武川　睦寛[2]（1.東大・院理・生物科学、2.東大医科研・分子シグナル制御）

[1P-0813] 変異導入解析によるリボソームストークとリサイクル因子 ABCE1間相互作用の検証
○阿部 高也[1]、今井 大達[1]、西川 周一[1,2]、伊東 孝祐[1,2]、内海 利男[1,2]（1.新潟大・院・自然研、2.新潟大・理・生物）

[1P-0814] 腸管出血性大腸菌 O157:H7 Sakai株に存在する Stx2ファージにコードされた small regulatory RNA SesRの機能解析
○満仲 翔一[1]、須藤 直樹[1]、関口 永莉[1]、伊豫田 淳[2]、関根 靖彦[1]（1.立教大・理・生命理学、2.国立感染症研究所・細菌第一部）

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 1) 生殖細胞、受精（ポスター）

[1P-7-1] 7. 発生・再生-1) 生殖細胞、受精

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[1P-0815] Standstill, a BED type zinc finger protein which is essential for oocyte specification and development
○Minbo Zang[1]、Ryan Yee Wei Teo[2,3]、Toshie Kai[1]（1.Graduate School of Frontier Biosciences, Osaka University 、2.Temasek Life Sciences Laboratory、3.National University of Singapore）

[1P-0816] iTRAQ法を用いた正常および低受胎種雄牛の精漿蛋白質の網羅的な解析
○絹川 将史[1]、難波 陽介[1]、内山 京子[1]、伊藤 昌彦[2]（1.家畜改良事業団、2.浜松医科大学）

[1P-0817] 生殖質の構成因子 nanos3によるメダカ生殖細胞の性の運命決定
○西村 俊哉[1]、田中 実[1]（1.名大・院理・生命理学）

[1P-0818] ツメガエル受精時の卵内 Ca^{2+}濃度上昇における精子シグナル伝達機構
○渡部 茉美[1]、井崎 顕太[1]、小島 千帆[1]、岩尾 康宏[1]（1.山口大・院創成科学・地球圏生命物質科学）

[1P-0819] 両生類における雌雄前核の接合のしくみ
○木本 ちひろ[1]、原 裕貴[1]、岩尾 康宏[1]（1.山口大

©日本分子生物学会/日本生化学会

学・院創成科学・地球圏生命物質科学）

[1P-0820] DPF3、 TUSC1および IZUMO3遺伝子上のSNPと男性不妊症との関連解析

○長谷川 知世[1]、佐藤 陽一[1]、岩本 晃明[2]、山内 あい子[1]（1.徳大・院薬・医薬品情報学、2.山王病院・リプロダクションセンター・男性不妊部門）

[1P-0821] 男性不妊症原因遺伝子 SPATA16の変異マウス作製と機能解析

○藤原 祥高[1]、大字 亜沙美[1]、Tamara Larasati[1]、北加奈子[1]、伊川 正人[1]（1.阪大・微研・遺伝子機能解析）

[1P-0822] 卵保護膜細胞外フィラメント微細構造の可変的調節機構

○三輪 尚史[1]、花上 まゆ[1]（1.東邦大・医・生理）

[1P-0823] 生理的多精のイモリ卵における付属精子核とミトコンドリアの退化

○藤本 純佳[1]、角田 明日香[1]、渡辺 安理沙[1]、岩尾 康宏[1]（1.山口大・院創成科学・地球圏生命物質科学）

[1P-0824] SPACA1切断酵素の探索

○香坂 茉莉花[1]、大和屋 健二[1]、中田 一弥[1]（1.東理大・理工）

[1P-0825] ホヤ卵胞におけるカテプシンファミリー遺伝子関連 mRNAとアンチセンス RNA発現

○酒井 翼[1]、白石 慧[1]、佐竹 炎[1]（1.サントリー生科財団）

[1P-0826] *Sirt2*の発現を抑制したショウジョウバエの雄の妊性の解析

○草間 さきく[1]、平井 和之[2]、松浦 悦子[3]（1.お茶大・理・生物、2.杏林大・医・生物、3.お茶大・院・人間文化創成科学）

[1P-0827] ツメガエル精子 MMP-2による早い電気的な多精防止

○平岩 梓[1]、渡部 茉美[1]、上野 智代[1]、上野 秀一[1]、中島 圭介[2]、矢尾板 芳郎[2]、岩尾 康宏[1]（1.山口大・院創成科学・地球圏生命物質科学、2.広島大・両生類研究センター）

[1P-0828] ショウジョウバエの Meiosis Arrest Female protein-1 (dMarf1)は、卵母細胞の成熟に必須である

○河口 真一[1]、甲斐 歳恵[1]（1.阪大・院生命機能）

[1P-0829] 精巣特異的細胞間結合 ICB, ES, BTBの連携作用に機能するタンパク質

○岩森 督子[1]、岩森 巨樹[2]、松本 雅記[3]、小野 悦郎[1]（1.九大・院医・実験動物学、2.九大・院農・動物学、3.九大・生医研・プロテオミクス）

[1P-0830] SPESP1切断酵素の探索

○酒井 萌花[1]、大和屋 健二[1]、中田 一弥[1]（1.東理大・理工）

[1P-0831] 齧歯類精巣における腫瘍抑制候補遺伝子*Casc1*の発現ならびに機能解析

○岡本 崇志[1]、樋口 雅司[1,2]、大山 建司[3]、山野 好章[1,2]（1.山口大・院獣・基礎獣医、2.鳥取大・農・獣医生化、3.山梨大・総研医学域）

[1P-0832] ヒストンメチル化酵素 G9aは卵子形成と初期発生を制御する

○歐陽 允健[1]、Julie Brind'Amour[2]、波多野 裕[3]、Matthew Lorincz[2]、山縣 一夫[3]、立花 誠[4]、眞貝 洋一[5]、佐々木 裕之[1]（1.九大・生医研・エピゲノム制御学、2.Dept. of Med. Genet., Life Sci. Ins., The Univ. of British Columbia、3.近大・生物理工、4.徳島大・先端酵素研・エピゲノム動態、5.理研・細胞記憶研究室）

[1P-0833] ニワトリ新規 ZP糖タンパク質 ZPAXの卵外被マトリクスへの組み込み機構

○西尾 俊亮[1]、松田 幹[1]（1.名大院・生命農学）

[1P-0834] G2期卵母細胞の cAMP値の上昇によりミトコンドリア機能が亢進する

○橋本 周[1]、矢持 隆之[1]、山中 昌哉[1]、川原 玲香[2]、岩田 尚孝[3]、中岡 義晴[1]、森本 義晴[4]（1.IVFなんばクリニック、2.東京農業大学生物資源ゲノム解析センター、3.東京農業大学、4.HORACグランフロント大阪クリニック）

[1P-0835] シスチントランスポーター・ xCT欠損マウスは雄性生殖能が低下する

○本間 拓二郎[1]、浜島 真司[1]、小林 翔[1]、倉橋 敏裕[1,2]、渡辺 連[3]、木村 直子[3]、佐藤 英世[4]、藤井 順逸[1]（1.山形大・院医・生化学分子生物学、2.京都府立医科大・細胞再生医学、3.山形大・農・動物機能調節学、4.新潟大・医・生化学分子生物学）

[1P-0836] マウス卵子の DNAメチル化確立における Dnmt3aの ADDドメインの役割の解明

○鳥山 敬祐[1]、白根 健次郎[1,2]、大石 裕晃[1]、佐々木 裕之[1]（1.九大・生医研・エピゲノム制御、2.ブリティッシュコロンビア大・医学遺伝学部門・ライフサイエンス研究所）

[1P-0837] ショウジョウバエの vasa遺伝子のイントロン中の Ovoエンハンサーの機能解析

○辻 拓真[1]、藤原 真人[1]、中村 翔一[2]、曽我 奈央[3]、近藤 茜[3]、平 誠司[4]、小林 悟[5]、向 正則[3]（1.甲南大・院自・生物学、2.甲南大・院自・生命機能科学、3.甲南大・理工・生物、4.基生研、5.筑波大・TARA）

[1P-0838] 栄養源飢餓によるメダカの性転換と代謝変化

©日本分子生物学会/日本生化学会

○榮 雄大[1,2]、及川 彰[3]、杉浦 悠毅[4]、田中 実[1]
（1.名大・院理・生命理学、2.総研大・生命科学、3.山形大・農・農産物生理化学、4.慶応大・医学部・医化学教室）

[1P-0839] 線虫クロモドメイン蛋白質 MRG-1は始原生殖細胞における転写抑制制御に必要である

○巳波 孝至[1]、高崎 輝恒[2]、井上 邦夫[1]、坂本 博[1]
（1.神戸大・院理・生物学、2.近畿大・薬）

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 2) 初期発生、器官形成、形態形成（ポスター）

[1P-7-2] 7. 発生・再生-2) 初期発生、器官形成、形態形成

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[1P-0840] Characterization of *narigoma*, a gene affecting LR asymmetry of the anterior gut in *Drosophila*

○Lai Yi-Ting[1]、Tomoki Ishibashi[1]、Mitsutoshi Nakamura[1]、Katsushi Yamaguchi[2]、Shuji Shigenobu[2]、Kenji Matsuno[1]（1.Dept. of Biol. Sci., Osaka Univ.、2.NIBB Core Research Facilities, NIBB）

[1P-0841] ゼブラフィッシュ未分節中胚葉における*tbx6*遺伝子の発現は positive autoregulatory loopによって維持される

○伴 博之[1]、横田 大佑[1]、木下 宏史[1]、藤野 友梨[1]、矢部 泰二郎[2]、小原 弘幹[1]、猪塚 彩花[1]、赤間 耀[1]、鹿毛 大地[1]、弥益 恭[1]、高田 慎治[2]、川村 哲規[1]（1.埼玉大・院理工、2.自然機構・岡崎統合バイオ）

[1P-0842] JunBは血管新生とマウス胎児皮下血管の神経-血管並走を制御する

○吉冨 泰央[1]、高辻 英仁[1]、池田 崇之[1]、佐竹 悠[1]、石山 尚史[1]、米倉 秀人[1]（1.金沢医大・医・生化学）

[1P-0843] 緩歩動物クマムシの性差をもたらす分子基盤の解明

○杉浦 健太[1]、松本 緑[1]（1.慶大・院理・基礎理工）

[1P-0844] ツメガエル胚の細胞膜直下のミトコンドリア近傍における P-body構築機構

○上野 秀一[1]（1.山口大・院・創成科学・発生細胞生物）

[1P-0845] 神経細胞特異的 ERK欠損マウスの解析

○伊達木 穣[1]、今村 宰[1]、新井 仁明[1]、瀧嶋 邦夫[1]
（1.防衛医科大学校 生化学講座）

[1P-0846] Shhシグナル伝達経路に欠損をもつ変異体マウス open brain 1における肩甲骨の形成異常

○高橋 雄[1]、安彦 行人[1]、池野 絵里子[1]、菅野 純[2]、平林 容子[1]（1.国立衛研・毒性部、2.日本バイオアッセイ研究センター）

[1P-0847] 線虫 C. elegansの咽頭にサイズ異常を示す新規変異体の単離と解析

○小柴 優実[1]、佐方 修一郎[1]、柴田 幸政[1]、西脇 清二[1]
（1.関西学院大学・院・理工・生命）

[1P-0848] 線虫の生殖巣形態維持を制御する mig-36の解析

○横井 俊亮[1]、岩田 明莉[1]、山本 弥生[1]、近藤 祥平[1]、柴田 幸政[1]、西脇 清二[1]（1.関西学院大・院・理工・生命科学）

[1P-0849] ショウジョウバエ核膜タンパク質 Jirassの強制発現による Notchシグナルの異常

○和田 萌[1]、田中 友子[1]、土井 由香[1]、石川 裕之[1]
（1.千葉大・理・生物）

[1P-0850] Sox2の神経系での発現を制御する D1エンハンサーの解析

○飯田 英明[1]、内川 昌則[2]、近藤 寿人[1]（1.京産大・総合生命科学部・生命システム学科、2.阪大・生命機能）

[1P-0851] メダカにおける胸鰭筋細胞の発生機構

○松花 (谷) 沙織[1]、井上 邦夫[1]（1.神戸大・理学・生物）

[1P-0852] カタユウレイボヤにおける Hox13は、放精を制御する輸精管先端の感覚器官形成に必須である

○田島 由佳子[1]、吉田 慶太[1]、Nicholas Treen[1]、佐久間 哲史[2]、山本 卓[2]、笹倉 靖徳[1]（1.筑波大・院生命環境科学・生物科学、2.広島大・院理・数理分子生命理学）

[1P-0853] ゼブラフィッシュ分節時計における hairy関連遺伝子の mRNA不安定性に関する解析

○藤野 友梨[1]、菅谷 千尋[1]、大岡 優子[1]、木下 宏史[1]、小原 弘幹[1]、弥益 恭[1]、三嶋 雄一郎[2]、川村 哲規[1]
（1.埼玉大・院理工、2.東大・分生研）

[1P-0855] ショウジョウバエ胚上皮細胞のキラルなねじれによる管状上皮組織の捻転機構

○大久保 明野[1]、稲木 美紀子[1]、須志田 隆道[2]、秋山 正和[2]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.北大・電子科学）

[1P-0856] 新規 shootinファミリーメンバーの同定と機能解析

○浦崎 明宏[1]、森下 誠也[1]、中 公甫[1]、魚住 海斗[1]、渡瀬 恵美子[1]、松井 貴輝[1]、別所 康全[1]、川上 浩一[2]、稲垣 直之[1]（1.奈良先端大・バイオ、2.遺伝研・初期発生）

[1P-0857] ゼブラフィッシュを用いた側線形成における shootin遺伝子の機能解析

©日本分子生物学会/日本生化学会

○森下 誠也[1]、浦崎 明宏[1]、中 公甫[1]、魚住 海斗[1]、松井 貴輝[1]、別所 康全[1]、川上 浩一[2]、稲垣 直之[1]
（1.奈良先端大・バイオ、2.遺伝研・初期発生）

[1P-0858] ゼブラフィッシュの模様形成において、黒色素胞の集団サイズを制御するギャップジャンクションサーキットの探索

○臼居 優[1]、荒巻 敏寛[1]、近藤 滋[1]、渡邉 正勝[1]
（1.阪大・院生命機能）

[1P-0859] zebrafish胚中内胚葉形成時の１細胞におけるNodalシグナルの時間変化解析

○近藤 晶子[1]、大沼 清[2]、野中 茂紀[3]、亀井 保博[3]、備瀬 竜馬[4]、佐藤 洋一[5]、小林 徹也[5]、橋本 敬一郎[1]
（1.藤田保健衛生大・総医研、2.長岡技科大・院技学、3.基生研、4.院システム情報科学、5.東京大・生産研）

[1P-0860] 大脳の形態形成における Shootin1の役割の解明

○藤原 小織[1]、吉田 亙[1]、嶺岸 卓徳[1]、稲垣 直之[1]
（1.奈良先端大・バイオ）

[1P-0861] ショウジョウバエ成虫原基から外部形態への変形を制御するメカニズムの解明

○柳田 晃佑[1]、中山 萌美[1]、井垣 達吏[1]、大澤 志津江[1]
（1.京大院・生命科学）

[1P-0862] 脊椎動物の発生中期はなぜ保存されるか？致死性によらない可能性と揺らぎに基づくアプローチ

○内田 唯[1]、入江 直樹[1] （1.東大・院理・生物科学）

[1P-0863] FGF活性に依存した水晶体細胞のダイナミクス調節

○杉山 由樹[1,2]、John McAvoy[1]、政井 一郎[2] （1.シドニー大学、2.沖縄科学技術大学・神経発生）

[1P-0864] 微細パターンを付与した人工殻を用いたニワトリ胚漿尿膜の部分誘導とその応用

板山 真[1]、福田 将大[1]、○川原 知洋[1] （1.九州工業大学）

[1P-0865] イベリアトゲイモリ*Pleurodeles waltl*の外鰓分枝形態形成におけるシグナル経路の役割

○桃井 環[1]、鶴岡 慎哉[1]、豊泉 龍児[1] （1.神奈川大・理・生物）

[1P-0866] 血管特異的 Dach1 ノックアウトマウスを用いた高内皮細静脈形成メカニズムの解析

○酒井 智弘[1]、長江　峻平[1]、松本 萌[1]、平野 晴香[1]、早坂 晴子[1] （1.近畿大・理工・院総合理工）

[1P-0867] Notchシグナル構成因子 Pecanex とタンパク質小胞輸送制御因子 NSF の 機能的関連に関する研究

○近藤 頼子[1]、山岸 亜美[1]、山川 智子[1]、松野 健治[1]
（1.阪大・理・生物科学）

[1P-0868] 内軟骨性骨化における vasohibin-1 (VASH1)の発現とその意義

○村瀬 友里香[1,2,3]、青山 絵理子[1]、鈴木 康弘[4]、佐々木 朗[2]、久保田 聡[1,3]、佐藤 靖史[4]、滝川 正春[1]
（1.岡大・歯・先端領域研究センター、2.岡大・院医歯薬・口腔顎顔面外科学、3.岡大・院医歯薬・口腔生化学、4.東北大・加齢研・腫瘍循環研究）

[1P-0869] ヒト毛包由来の上皮・間葉細胞を用いた3次元混合培養の特性

○谷地 敏輝[1]、北村 弘明[1]、草野 成穂[1]、岩渕 徳郎[1]
（1.東京工科大・応用生物）

[1P-0870] *zeb1* flox マウスの作製とその*zeb1*および*zeb2* double floxマウスを用いたマウス発生過程における ZEB転写制御因子ファミリーの機能解析

○東 雄二郎[1]、高木 豪[1]、水谷 友香[1]、浅井 真人[1]
（1.愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所）

[1P-0871] 淡水産巻貝 *Lymnaea stagnalis* の卵割パターン制御における Wnt シグナル伝達経路の関与

○高橋 厚弥[1]、阿部 真典[2]、黒田 玲子[1,2] （1.東理大・院理工・応用生物科学、2.東理大・研究推進機構・総合研究院）

[1P-0872] ゲノム編集技術による峡部形成遺伝子ネットワークの解析の試み

○佐藤 武寿[1]、鹿毛 大地[1]、弥益 恭[1] （1.埼玉大・院理工・生命科学）

[1P-0873] ホヤ卵細胞質再配置におけるアクチン繊維と微小管との相互作用の解析

○神田 一将[1]、後藤 俊志[2]、西方 敬人[1] （1.甲南大学・FIRST、2.甲南大学大学院・FIRST）

[1P-0874] 線虫 TIMPs は ADAMTSプロテアーゼと相互作用することで生殖巣形態形成を制御する

○久保田 幸彦[1]、西脇 清二[2]、杉本 亜砂子[1] （1.東北大・院生命、2.関西学院大・生命）

[1P-0875] ゼブラフィッシュの終脳形成に関わる*emx*遺伝子の転写調節機構および役割の解析

○前川 雅人[1]、志村 恭介[1]、弥益 恭[1] （1.埼玉大・院理工・生命科学）

[1P-0876] マウス消化管の発生過程におけるリンカーヒストン H1fxタンパク質の発現

○市原 啓子[1]、岸田 聡[2]、門松 健治[2] （1.愛知学院大・心身科学、2.名大院・医・生化学）

[1P-0877] 変態期ヒラメのトランスクリプトーム解析で単離された色素胞分化に関与する遺伝子の解析

○横井 勇人[1]、Laura Cal[2]、Josep Rotllant[2]、鈴木 徹[1] （1.東北大・院農、2.Instituto de

©日本分子生物学会/日本生化学会

Investigaciones Marinas, CSIC, Spain）

[1P-0878] 皮膚形成におけるオートファジーの役割の解析
○野口 沙央理[1]、本田 真也[1]、清水 重臣[1]（1.医科歯科大・難研・病態細胞生物）

[1P-0879] CRISPR/Cas9システムにより作製したモザイク変異マウスの組織学的解析
○土生田 宗憲[1]、泰江 章博[2]、藤田 洋史[1]、板東 哲哉[1]、佐藤 恵太[1]、親泊 政一[3]、田中 栄二[2]、大内 淑代[1]（1.岡山大・院・医歯薬・細胞組織、2.徳島大・院・医歯薬・矯正、3.徳島大・プロテオゲノム・生体機能）

[1P-0880] 外生殖器を用いた組織特異的性差エンハンサーの in vivo評価系の確立
○松下 祥子[1]、鈴木 堅太郎[1]、佐藤 哲也[2]、日野 信次朗[3]、梶岡 大暉[1]、Alvin Acebedo[1]、中尾 光喜[3]、須山 幹太[2]、山田 源[1]（1.和医大・先端研・遺伝子制御、2.九大・生体防御医学研・情報生物、3.熊大・発生研・細胞医学）

[1P-0881] ゲノムインプリンティングの破綻が与える個体発生および個体機能への影響
○島田 由衣[1]、八木 正樹[1]、田中 彰人[1]、山本 拓也[1]、山田 泰広[1]（1.京大・CiRA）

[1P-0882] マウス胚とニワトリ胚の骨芽細胞における X型コラーゲンの発現解析
○横山 紀典[1]、武智 正樹[1]、井関 祥子[1]（1.東京医科歯科・院医歯学総合・分子発生）

[1P-0883] キイロショウジョウバエの転写因子βFTZ-F1による羽化タイミングの制御
中西 真由[1]、○上田 均[1,2]（1.岡大・理学部・生物学科、2.岡大・自然科学）

[1P-0884] 胸骨骨化における転写因子19Aの機能
○栗木 麻央[1]、佐藤 文規[1]、隅山 健太[2]、川上 浩一[3]、瀬原 淳子[1]（1.京大・ウイルス再生研、2.理研・QBiC、3.遺伝研）

[1P-0885] BETファミリータンパク質を介したマウス着床前胚の細胞運命制御
○爪 麻美[1]、木村ー吉田 千春[1]、上田 陽子[1]、持田 京子[1]、松尾 勲[1]（1.大阪母子医療センター）

[1P-0886] ゼブラフィッシュの心臓発生における islet1およびそのパラログ遺伝子の解析
○水上 薫[1]、守山 裕大[2]、小柴 和子[3]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・分子細胞生物学、2.東大・分生研、3.東洋大・生命科学）

[1P-0887] 異なる組織の形態形成運動の協調がホヤ幼生の尾部を効率的に退縮させる
○山路 草太[1]、笹倉 靖徳[1]（1.筑波大・院生命・下田臨海）

[1P-0888] ショウジョウバエ内臓中胚葉の発生における内胚葉の働き
○河村 聡美[1]、花田 舞[2]、村上 柳太郎[1]（1.山口大・院創成科学、2.山口大・院医）

[1P-0889] 線虫 C. elegansにおける ROSを介した咽頭サイズ制御機構の解析
○足立 将大[1]、坂東 里美[1]、平本 和也[1]、加嶋 紀彦[1]、森部 弘樹[2]、柴田 幸政[1]、西脇 清二[1]（1.関西学院大・院・理工・生命、2.久留米大・医）

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 3) 幹細胞、細胞分化（ポスター）

[1P-7-3] 7. 発生・再生-3) 幹細胞、細胞分化

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[1P-0891] ヒト多能性幹細胞におけるβ-ニコチンアミドモノヌクレオチドの効果
○松尾 英典[1]、小野 孝太[1]、富盛 賀也[1]、保田 尚孝[1]（1.オリエンタル酵母工業株式会社 長浜生物科学研究所）

[1P-0892] 急性骨髄性白血病の新規治療法のための iPS細胞作製
○加藤 千尋[1]、齋藤 るみ子[1]、山崎 大樹[1]、黒崎 直子[1]（1.千葉工大・院工・生命環境科学）

[1P-0893] p57陽性細胞の追跡により明らかとなった、消化管+4ポジション細胞の幹細胞性の差異
○比嘉 綱己[1]、沖田 康孝[1]、松本 有樹修[1]、武石 昭一郎[1]、中津海 洋一[1]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学）

[1P-0894] 造血幹細胞の分化制御を介したアミノ酸による抗老化メカニズム
○大形 悠一郎[1]、山田 貴亮[1]、藤村 将大[1]、吉岡 寿[1]、服部 幸治[1]、渡邊 明子[1]、松本 知大[1]、高木 寛[1]、長谷川 靖司[1,2]、中田 悟[1]（1.日本メナード化粧品（株）・総合研究所、2.名大・院医・メナード協同研究講座）

[1P-0895] ヒト iPS細胞に由来する心筋前駆細胞の選別採取とその解析
○東 祐平[1]（1.鳥大・院医・再生医療学）

[1P-0896] ES細胞に含まれる全能性細胞のエネルギー代謝経路
○古田 明日香[1]、中村 肇伸[1,2]（1.長浜バイオ・院・バイオ、2.AMED-CREST）

[1P-0897] Epigenetic Memory解析からの iPS細胞の新規腎系統分化誘導遺伝子の同定
○高瀬 敦[1,2]、辻村 太郎[1,2]、吉川 真弘[1,2]、高戸 毅[2]、岡野 栄之[1]、菱川 慶一[1,2]（1.慶應大・医学

部・生理学・iPS細胞エピジェネティクス講座、2.東大・医学部・ティッシュ・エンジニアリング部）

[1P-0898] シグナル分子 PRIPのカルシウムを介した破骨細胞分化制御への関わり

○松田 美穂[1]、村上 絢子[1]、自見 英治郎[1]、平田 雅人[2]（1.九州大学 大学院歯学研究院 口腔細胞工学、2.福岡歯科大学）

[1P-0899] 原始内胚葉幹細胞の樹立

○大日向 康秀[1]、Sharif Jafar[1]、若山 照彦[2]、古関 晴彦[1]（1.理研・統合生命医科学、2.山梨大・発生工学研究センター）

[1P-0900] B細胞分化における GATA1転写因子の必要性

○平野 育生[1]、櫻井 悠香子[1]、南 良悟[1]、及川 圭[1]、五十嵐 友哉[1]、山本 雅之[2]、清水 律子[1]（1.東北大・医学系・分子血液学、2.東北大・医学系・医化学）

[1P-0901] 初期化過程における MYCタンパク質の機能解析

○秋藤 千晶[1]、岩崎 未央[1]、鄭 羽伸[1]、川原 優香[1]、小野 美幸[1]、櫻井 千穂[1]、中川 誠人[1]（1.京大・iPS研）

[1P-0902] アフリカツメガエル抗栓球モノクローナル抗体が認識する細胞表面抗原の解析

○林 優太[1]、佐藤 圭[1,2]、渡会 敦子[3]、加藤 尚志[1,2]（1.早大・院先進理工・生命理工、2.早大・教育・理・生物、3.早大・イノベーションデザイン研究所）

[1P-0903] 軟骨細胞の分化過程におけるミトコンドリアタンパク質の機能解析

○渡邊 優雅子[1]、五十嵐 遼[1]、矢野 文子[2]、鄭 雄一[3,4]、早野 俊哉[1]、下畑 宣行[1]（1.立命館大・院生命・生命医科学、2.東大病院・TE部、3.東大・院工・バイオエンジ、4.東大・院医・疾患生命工学センター）

[1P-0904] 出産後の皮膚収縮における表皮細胞のダイナミクス解析

○岡田 拓也[1]、小田 裕香子[1]、一條 遼[1]、豊島 文子[1]（1.京大・ウイルス再生研）

[1P-0905] 骨格筋再生過程における TRPV1の役割

○小倉 裕司[1]、黒坂 光寿[1]、明間 立雄[1]、舩橋 利也[1]（1.聖マ医大・医学部・生理学）

[1P-0906] マウス ES細胞における酸化ストレスに対する ABCトランスポーター・ Bcrp1の発現誘導

○細川 美咲[1,2]、高松 晋吾[1]、美濃部 晃平[2]、黒坂 哲[1,3]、田口 善智[2]、三谷 匡[1,3]（1.近大・院生物理工・生物工学、2.近大・生物理工・遺伝子工学科、3.近大・先端技術総合研究所）

[1P-0907] 低酸素誘導因子 HIF1が iPS細胞形成に果たす役割に関する研究

○鳥居 昇平[1]、植山 萌恵[1]、塚本 輔[1]、中山 宗哉[1]、原田 恭弘[1]、井原 大[1]、中川 沙恵[1]、赤木 祐香[1]、山崎 基春[1]、十河 孝浩[2]、中尾 周[1]、川村 晃久[1]（1.立命館・院生命・生命医科学、2.立命館・グローバルイノベーション研究機構）

[1P-0908] ゼブラフィッシュ下顎における再生初期過程の解析

○大湖 史朗[1]、前田 美香[2]、東海林 亙[2]、和田 直之[1]（1.東理大・理工・応用生物、2.東北大学）

[1P-0909] Prdm8およびその下流分子 Ebf3は、移動神経細胞における多極性から双極性への形態変化を調節する

○野村 圭一郎[1,2]、岩井 亮太[1,4]、井上 真悠子[1]、田畑 秀典[3]、齋藤 直人[2]、永田 浩一[3]、水谷 健一[1,4]（1.同志社大院・脳科学・神経分化、2.同志社大・生命、3.愛知県コロニー・発達障害研、4.神戸学院大院・薬・幹細胞生物学）

[1P-0910] DNAメチル化酵素 DNMT3B阻害剤を用いたヒト iPS細胞由来肝細胞の分化促進

○中前 壮一郎[1]、高山 和雄[1,2,3]、櫻井 文教[1]、水口 裕之[1,2,4]（1.阪大・院薬・分子生物学、2.医薬健栄研・肝分化プロジェクト、3.JST・さきがけ、4.阪大・MEIセ）

[1P-0911] 1倍体 ES細胞を用いたスクリーニングによる胚体外発生制御因子の同定

○石内 崇士[1]、佐々木 裕之[1]（1.九大・生医研・エピゲノム）

[1P-0912] ゼブラフィッシュ成魚脳における脳損傷後の神経組織再生メカニズムの解明

○上田 悠人[1]、清水 勇気[1]、大島 登志男[1]（1.早大・先進・生医）

[1P-0913] 単球分化におけるゲニステインの CD11b発現促進機構

○辻??井 真理[1]、久保 丞未[1]、伊藤 晴華[2]、鈴木 杏奈[2]、行方 楓[2]、熊取 厚志[1,2]（1.鈴鹿医療科学大・院・医療科学、2.鈴鹿医療科学大・医療栄養）

[1P-0914] チンパンジー iPS細胞を用いた神経幹細胞の分化誘導と発生動態の解明

○仲井 理沙子[1]、北島 龍之介[1]、平井 啓久[1]、今井 啓雄[1]、岡野 栄之[2]、今村 公紀[1]（1.京都大学霊長類研究所ゲノム細胞研究部門、2.慶應義塾大学医学部生理学教室）

[1P-0915] 肝臓オルガノイドを用いた肥満誘導性肝臓がん発症モデルの構築及び、がんの起源細胞の解明

○窪田 達寛[1]、安藤 達也[1]、福井 優也[3]、渡辺 喜洋

[1]、小澤 崇之[4]、蒲池 史卓[1]、八尾 良司[5]、佐藤 俊朗[6]、大谷 直子[1,2]（1.理科大・院理工・応用生物、2.阪立大・医・医、3.東京大・院医科学・人癌病因遺伝子、4.東京大・疾患生命工学・分子病態医科学、5.がん研・細胞生物部、6.慶應大病・消化器内科）

[1P-0916] ヒト大腸上皮の分化過程における腫瘍抑制的マイクロ RNAの協調的発現上昇

○下野 洋平[1,2]、久森 重夫[3]、Piero Dalerba[4]、磯部 大地[5]、向山 順子[1,4,6]、渋谷 尚樹[1,6]、掛地 吉弘[6]、南 博信[2]、鈴木 聡[2]（1.神大院・院医・分子細胞生物学、2.神大・院医・腫瘍・血液内科学、3.京大・院医・消化管外科、4.コロンビア大・医・病理・細胞生物学、5.スタンフォード大・医・幹細胞生物学研究所、6.神大・院医・食道胃腸外科学）

[1P-0917] 脾臓間葉系幹細胞を維持する新規三次元培養法の開発

○上野 湧太[1]、細田 祥子[1]、西山 千春[1]、小田 朗永[2]、後飯塚 僚[2]（1.東理大・院基礎工・生物工、2.東理大・生命研・発生老化）

[1P-0918] 脾臓形成及び維持機構に対する時期特異的 Tlx欠損が与える影響

○手塚 俊樹[1]、小田 朗永[1]、後飯塚 僚[1]（1.東理大・生命研・発生老化）

[1P-0919] ゲノム初期化多能性幹細胞コロニーに観られる点突然変異不均一性の in-depth解析

○砂山 美里[1]、藤森 ゆう子[1]、菅 智[1]、小原 千寿香[1]、今留 香織[1]、荒木 良子[1]、安倍 真澄[1]（1.量研機構・放医研・障害治療・幹細胞）

[1P-0920] iPS細胞ゲノム内点突然変異の頻度は変えられるか？

○藤森 ゆう子[1]、砂山 美里[1]、小原 千寿香[1]、今留 香織[1]、菅 智[1]、藤田 真由美[1]、安倍 真澄[1]、荒木 良子[1]（1.量研機構・放医研・障害治療・幹細胞）

[1P-0921] 低年齢層向けサイエンスコミュニケーションツール「幹細胞かるた」の開発

○佐々木 あやか[1]、遠山 真理[2]、中内 彩香[1]、大内田 美沙紀[1]、和田濱 裕之[1]（1.京大・CiRA、2.地球研）

[1P-0922] 発生期海馬での BMPシグナルによる顆粒細胞と錐体細胞の産生制御

○柏木 太一[1]、塩田 清二[2]、石 龍徳[1]（1.東医大・医・組織神経解剖、2.昭和大・医・顕微解剖）

[1P-0923] 神経幹細胞 Radial gliaの分裂における非対称な Notch活性化機構

○間瀬 俊[1,2]、松崎 文雄[1,2]（1.理研・多細胞システム形成研究センター・非対称細胞分裂研究チーム、2.京大・院生命）

[1P-0924] NKX2-5$^{DsRed/w}$ヒト iPS細胞株の確立と純化心筋細胞の作製法による比較

○大野 麗[1]、遠山 周吾[1]、藤田 淳[1]、福田 恵一[1]（1.慶大・医学・循環器内科）

[1P-0925] MAIT細胞の機能解析のための実験モデル

○杉本 智恵[1]、若尾 宏[1]（1.獨協医科大学 医学部 国際疫学研究室）

[1P-0926] iPS細胞誘導過程における miR17-92 clusterの役割とその標的遺伝子に関する研究

○中川 沙恵[1]、植山 萌恵[1]、井原 大[1]、高木 智史[1]、中山 宗哉[1]、原田 恭弘[1]、赤木 祐香[1]、有馬 大貴[1]、鳥居 昇平[1]、十河 孝浩[2]、中尾 周[1]、川村 晃久[1]（1.立命館大・院生命・生命医科学、2.立命館大・グローバルイノベーション機構）

[1P-0927] ダイレクトリプログラミングによる誘導性神経細胞形成過程における細胞内代謝変化の解析

○赤木 祐香[1]、原田 恭弘[1]、植山 萌恵[1]、井原 大[1]、中川 沙恵[1]、有馬 大貴[1]、鳥居 昇平[1]、山崎 基春[1]、十河 孝浩[2]、中尾 周[1]、川村 晃久[1]（1.立命館大・院生命・生命科学、2.立命館大・グローバルイノベーション機構）

[1P-0928] 筋細胞分化の活動依存的な調節機構

○浅野 豪文[1]、中田 隆夫[1]（1.東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 細胞生物学分野）

[1P-0929] 効率的なウサギ多能性幹細胞の樹立法

○佐藤 秀征[1]、中内 啓光[1,2]（1.東京大学、2.スタンフォード大学）

[1P-0930] ニワトリ網膜神経発生期の Notch経路 incoherent feed-forward loopによる細胞周期調節因子*Cdkn1c/p57*^{Kip2}転写制御

○藤井 秀太[1]（1.国立精神・神経セ・神経研・神経発生）

[1P-0931] Xeno-free無血清培養におけるヒト歯髄細胞の特性評価と実践的培養法の確立

○望月 真衣[1]、中原 貴[1]（1.日歯大・生命歯・発生・再生）

[1P-0932] マウス胚後根神経節は ES細胞および iPS細胞と同様の特徴を示す多能性幹細胞を含む

○小川 竜平[1]、藤田 恭平[1]、伊藤 一男[1]（1.大阪大・院理・生物科学）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 1) がん（ポスター）

[1P-8-1] 8. 疾患生物学-1) がん

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[1P-0933] がん抑制遺伝子発現制御における活性化型

©日本分子生物学会/日本生化学会

E2Fの N末端領域の役割

○尾田 衡弥[1]、荒木 啓吾[1]、大谷 清[1]（1.関学・院理工・生命科学）

[1P-0934] サイクリン依存性キナーゼによる制御を外れたE2F1活性抑制機構の解析

○津田 大輔[1]、倉吉 健太[1]、荒木 啓吾[1]、大谷 清[1]（1.関学・院理工・生命科学）

[1P-0936] Characterizing the roles of a protease inhibitor in normal and malignant hematopoiesis

○Kristen MacKeil[1]、Ayuna Hattori[1]、Takahiro Ito[1]（1.University of Georgia, Athens, USA）

[1P-0937] Conditioned medium of umbilical cord-derived mesenchymal stem cells affect cancer stem cells marker expression &viability of glioblastoma multiforme cells

○Novi Hardiany[1,2]、Purnamawati Huang[3]、Syarifah Dewi[1,2]、Reni Paramita[1,2]、Septelia I. Wanandi[1,2]（1.Dept. of Biochem. Mol. Biol., Fac. of Med., Univ. Indonesia、2.Cent. of Hypo. Oxidative Stress Stud., Fac. of Med., Univ. Indonesia、3.Doct. Prog. Biomed. Sci., Fac. of Med., Univ. Indonesia）

[1P-0939] Alpha-mangostin inhibits migration and invasion of cancer cells

○Trang Phan [1]、 Shahbazaddeh Fahimeh[1]、Takanori Kihara[1]（1.The University of Kitakyushu）

[1P-0940] E2F1 Is Associated with the Homologous Recombination by RAD54L

○Mi-Hye Mun[1]、Yun-Gil Roh[1]、Mi-So Jeong[1]、Sun-Hee Leem[1]（1.Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Univ. of Dong-A, Busan, Korea）

[1P-0941] Determining of Predictive Factors for Recurrence of Non-Invasive Bladder Cancer and Verification of Anti-Cancer Drug Resistance Mechanism Focusing on FOXM1

Yun-Gil Roh[1]、○Min-Hye Kim[1]、Sun-Hee Leem[1]、In-Sun Chu[2]（1.Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Univ. of Dong-A, Korea、2.Korean Bio. Info. Cent., Korea Research Inst. of Bio. Sci. and Bio. Tech., Korea）

[1P-0942] Association of CLPTM1L gene VNTR polymorphism with susceptibility to breast and bladder cancer

○Mi-So Jeong[1]、Mi-Hye Mun[1]、Sun-Hee Leem[1]（1.Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Univ. of Dong-A, Busan, Korea）

[1P-0943] The Role of Antiplatelet Agents on the Proliferation and Migration of Colon Cancer Cells.

○Won-Tae Kim[1]、Se-Ra Lee[2]、Moo-Hyun Kim[3]、Sun-Hee Leem[1]（1.Dept.ofBiol.Sci., Grad.Sch. of Sci., Univ. of Dong-A, Busan, Korea、2.Division of Drug Development and Optimization, Osong Medical Innovation Foundation (KBio), Chungbuk, Korea、3.Dept.of Cardiology, Grad.Sch. of Sci., Univ. Hospital of Dong-A, Busan, Korea）

[1P-0945] The role of PAUF in the differentiation of macrophages in pancreatic tumor microenvironment

○Yeon Jeong Kim[1]、Hyeon Hee Jeong[1]、So Eun Youn[1]、Sang Seok Koh[1]（1.Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Univ. of Dong-A）

[1P-0946] CTHRC-1 functions a role in the induction of desmoplasia of human tumors.

○Ye Ji Kim[1]、Min Kyung Kang[1]、Sang Seok Koh[1]（1.Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Univ. of Dong-A）

[1P-0947] The Effect of MnSOD cDNA Transfection on c–Myc mRNA Expression of Human Breast Cancer Stem Cells CD24-/CD44+

○Arleni Bustami[1]、Muhamad Sadikin[2]、Ichramsyah A. Rachman[3]、Septelia I. Wanandi[2]（1.Integrated Lab., Fac. of Med. Univ. Indonesia、2.Dept of Biochem. and Mol.of Biol., Fac. of Med. Univ. Ind.、3.Dept of Obs. and Gyn., Fac. of Med. Univ. Indonesia）

[1P-0948] 肺サーファクタントタンパク質 Dは変異型EGFRの活性化を阻害し、肺腺がんの進展を抑制する

長谷川 喜弘[1,2]、梅田 泰淳[2]、大塚 満雄[1]、有木 茂[1]、高宮 里奈[1]、齋藤 充史[1,2]、高橋 弘毅[2]、黒木 由夫[1]、○高橋 素子[1]（1.札医大・医・医化学、2.札医大・医・呼吸器アレルギー内科）

[1P-0949] 新規 Interleukin-6誘導因子 PDZ binding kinaseは骨髄腫細胞の増殖と進展に関与する

○太田 明伸[1]、花村 一朗[2]、カルナン シバスンダラン[1]、ワヒドゥザマン ムハマド[1]、兵頭 寿典[1]、小西 裕之[1]、都築 忍[1]、細川 好孝[1]（1.愛知医大・医・生化学、2.愛知医大・医・血液内科学）

[1P-0950] がん幹細胞における JNK経路の機能解析

©日本分子生物学会/日本生化学会

○岡田 雅司[1]、鈴木 修平[1,2]、倉元 謙太[1]、武田 弘幸[1,2]、北中 千史[1]（1.山形大・院医・腫瘍分子、2.山形大・院医・臨床腫瘍）

[1P-0951] メチル化修飾 RECQ siRNAによる抗腫瘍効果増強の検討

○金戸 聡[1]（1.ジーンケア研究所）

[1P-0952] ヒト正常上皮細胞を用いた活性化型 Rasアイソフォームの機能解析

○熊崎 実南[1]、落谷 孝広[1]、山本 雄介[1]（1.国立がん研セ・研・分子細胞治療）

[1P-0953] 扁平上皮がんの進展における THG-1/TSC22D4の役割

○鈴木 裕之[1]、小沼 雅世[1]、加藤 光保[1]（1.筑波大学・医学医療系・実験病理学）

[1P-0954] 受容体型チロシンキナーゼ EphA4 の高分化型腫瘍における抗癌剤耐性能について

○喜名 振一郎[1]、山本 秀幸[2]、仲嶺 三代美[2]、鳥原 英嗣[2]、金城 貴夫[3]、新崎 章[1]（1.琉大・院医・口外、2.琉大・院医・生化、3.琉大・医学部・形態病理）

[1P-0955] 放射線誘発性肺がん転移に関わる因子の探索

○Chen Yan[1]、Tao-sheng Li[1]（1.長崎大学・原研・幹細胞）

[1P-0956] 核小体ストレス特異的な新規 p53-miR-101経路の治療標的としての有用性

○藤原 優子[1]、河野 隆志[2]、土屋 直人[1]（1.国立がんセ・研・分子発がん、2.国立がんセ・研・ゲノム生物学）

[1P-0957] 乳癌細胞のパクリタキセル耐性化におけるアルドケト還元酵素1C3と ABCトランスポーター B1の意義

○堀之内 美智[1]、松永 俊之[1]、斎藤 晴陽[1]、井口 和弘[2]、遠藤 智史[1]、五十里 彰[1]（1.岐薬大・生化、2.岐薬大・薬局薬学）

[1P-0958] 小児肝がん細胞において高発現する膜蛋白 ADAM32の意義

○深澤 賢宏[1]、谷本 圭司[2]、山岡 絵美[1]、金輪 真佐美[1]、廣橋 伸之[2]、檜山 英三[1]（1.広大・自然センター・生命科学、2.広大・原医研・放射線医療開発）

[1P-0959] palmitoyl-L-carnitineは大腸がん細胞株 Caco2においてアポトーシスを誘導し、浸潤を抑制する

○小又 尉広[1]、山岸 直子[2]、高山 喜晴[1]（1.農研機構・畜産研究部門・畜産物研究領域・畜産物機能ユニット、2.和歌山県立医科大・医・解剖第一）

[1P-0960] がん細胞の初期化抵抗性に着目した創薬スクリーニングによる治療感受性シグナルの同定

○伊藤 謙治[1]、蝉 克憲[1]、クヌゥート ウォルツェン[1]、太田 章[1]、山田 泰広[1]（1.京大・iPS・未来生命科学開拓部門）

[1P-0961] 細胞競合におけるβ-cateninの役割の解明

○河瀬 直之[1,2]、梶原 健太郎[1,2]、石谷 太[3]、岡田 雅人[1,2]（1.阪大・院理・生物科学、2.阪大・微研・発癌制御分野、3.群大・生体調節研・個体統御）

[1P-0962] Aryl hydrocarbon receptorによる CCL5発現抑制の作用機序

○生田 統悟[1]（1.埼玉がんセ・臨床腫瘍研・がん予防）

[1P-0963] IMPDH阻害剤による新規白血病治療法の開発

○劉 瀟瀟[1]、合山 進[1]、四方 紫織[1]、林 康貴[1]、岩村 浩幸[3]、齊藤 基輝[2]、杉浦 悠毅[4]、滝澤 仁[5]、小藤　智史[6]、壽美田 一貴[6]、佐々木 敦朗[6]、Janet Schibler[7]、James C. Mulloy[7]、北村 俊雄[1]（1.東大・医科研・細胞療法分野、2.富士フイルム株式会社 医薬品・ヘルスケア研究所、3.富士フイルム株式会社 医薬品事業部、4.慶應義塾大学・医学部・医化学教室、5.熊大・国際先端医学研究拠点施設、6.実験血液学とがん生物部門・シンシナティ小児病院・シンシナティ大学医学部、7.シンシナティ大学ガン研究所）

[1P-0964] ハイドロゲルを用いた癌幹細胞新規誘導法の開発

○鈴鹿 淳[1]、津田 真寿美[1,2]、王 磊[1,2]、仙葉 慎吾[1]、油谷 幸代[3]、黒川 孝幸[2,4]、近江谷 克裕[5]、安田 和則[2]、剣萍 龔[2,4]、田中 伸哉[1,2]（1.北大・院医・腫瘍病理、2.北大・国際連携研究教育局・ソフトマター、3.産総研・生体システム・オープンイノベーション、4.北大・先端生命・ソフト＆ウェットマター、5.産総研・バイオメディカル）

[1P-0965] LSRは子宮内膜腺癌細胞の重層化の制御に関連する

○幸野 貴之[1]、保坂 雪野[1]、金野 匠[1]、小島 隆[1]（1.札医大・フロンティア・細胞科学）

[1P-0966] 粘液型脂肪肉腫の新規腫瘍関連機構の検討

○及川 恒輔[1]、佐藤 冬樹[1]、尾崎 敬[1]、村垣 泰光[1]（1.和歌山医大・医・病理）

[1P-0967] ALK陽性肺がん細胞株による休眠がん細胞標的薬剤の薬効評価

○遠藤 みのり[1]、門之園 哲哉[1]、酒井 栞[1]、口丸 高弘[1]、井上 正宏[2]、近藤 科江[1]（1.東工大・生命理工、2.大阪国際がんセンター・生化学部）

[1P-0968] セマフォリン3Fは乳癌の血管新生と転移を抑制

©日本分子生物学会/日本生化学会

する

○中山 寛尚[1,2,3]、村上 朱里[3,4]、福田 尚代[3,4]、亀井 義明[4]、高田 泰次[4]、東山 繁樹[2,3]（1.広国大・保健医療、2.愛媛大・プロテオ、3.愛媛大院・生化学分子遺伝、4.愛媛大院・肝胆膵・乳腺外科）

[1P-0969] 高悪性度の腫瘍細胞において栄養状態に依存して発現調節される Hrasショートアイソフォームの機能解析

○田村 直紀[1,2]、池田 桜[1]、Marco Candeias[1]（1.京大・院医・Molecular and RNA Cancer Unit、2.京都大学医学部附属病院）

[1P-0971] ヒト由来骨肉腫細胞の浸潤能とグルタチオン合成制御系との関連性

○久住 亮介[1]、鈴木 悠[1]、小沼 邦重[2]、尾崎 充彦[2]、坂内 四郎[1]、岡田 太[2]、佐藤 英世[1]（1.新潟大・医・保健、2.鳥取大・医・生命科学）

[1P-0972] EphA2のチロシンキナーゼ活性による S897リン酸化の制御

○濱岡 裕穂[1]、根岸 学[1,2]、加藤 裕教[1,2]（1.京大・院薬・神経機能制御学、2.京大・院生命科学・生体システム学）

[1P-0973] 転写因子 NRF3（ NFE2L3）は20Sプロテアソームの活性亢進を介して腫瘍増大に寄与する

○和久 剛[1]、糀 美早紀[2]、鎌田 七海[2]、辰巳 千夏[2]、畠中 惇至[2]、小林 聡[1,2]（1.同志社大・生命医、2.同志社大・院生命医）

[1P-0974] DDX1過剰発現と PTPN23欠損による精巣腫瘍発症モデル

○池田 成海[1,2]、田中 貴代子[1]、原 孝彦[1,2]（1.都医学研・幹細胞、2.東京医歯大・院医歯学総合）

[1P-0975] HIFが活性化したがんを標的とした新規融合タンパク質製剤の機能評価

○伊藤 雄大[1]、門之園 哲哉[1]、口丸 高弘[1]、近藤 科江[1]（1.東工大・生命理工）

[1P-0976] 受容体型チロシンホスファターゼ PTPRKはがん幹細胞マーカー CD133の脱リン酸化を介して大腸がん細胞の腫瘍形成ならびに薬剤耐性を抑制的に制御する

○森 祐輔[1,2]、下里 修[1,3]、内海 京寛[1,2]、桑 梅潔[1]、井上 貴博[2,4]、尾崎 俊文[1,2]（1.千葉県がんセ・研・DNA損傷シグナル研、2.千葉大・院医・分子腫瘍生物学、3.千葉県がんセ・研・腫瘍ゲノム研、4.千葉県がんセ・研・がん遺伝創薬研）

[1P-0977] 神経冠形成遺伝子群に対するスクリーニングによる薬剤耐性促進因子の同定と機能解析

○佐藤 礼子[1,2]、遠藤 未来[1]、加藤 千明[1]、稲垣 翔太[1]、深見 希代子[1,2]（1.東薬大・生命・ゲノム病態、2.国立研究開発法人日本医療研究開発機構）

[1P-0978] カゼインキナーゼ2の阻害がもたらす血管新生抑制の解析

○芦野 洋美[1,2]、岩瀬 克郎[1]、小野 富男[2]、瀧口 正樹[1]（1.千葉大・院医・遺伝子生化学、2.(公財)東京都医学総合研究所・動物実験開発室）

[1P-0979] 大腸がん細胞において PLCδ1はオートファジーを抑制する

○下澤 誠[1]、安齊 咲希帆[1]、佐藤 礼子[1,2]、深見 希代子[1,2]（1.東薬大・院生命・生命科学、2.AMED-CREST）

[1P-0980] ヒト大腸がん由来細胞の浸潤と神経ペプチド Galaninの関連

○岩田 沙絵[1]、渡辺 菜歩[1]、永吉 絹子[2]、植木 隆[2]、久原 哲[1]、田代 康介[1]（1.九州大学大学院生物資源環境科学府、2.九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科）

[1P-0981] 高発がん性リボソーム病関連タンパク質によるがん抑制機構の包括的解明

○高藤 拓哉[1]、嘉山 皓太[1]、杉本 のぞみ[1]、吉田 和真[1]、藤田 雅俊[1]（1.九大・院薬・医薬細胞生化学）

[1P-0982] 機能性ハイドロゲルを用いた癌幹細胞性誘導に関する基礎的検討

○青山 佳代子[1]、津田 真寿美[2,3]、王 磊[2,3]、鈴鹿 淳[2]、安田 和則[3]、剣萍 龔[3,4]、田中 伸哉[2,3]（1.北大・医、2.北大・院医・腫瘍病理、3.北大・国際連携研究教育局. ソフトマターグローバルステーション、4.北大・先端生命・ソフト＆ウェットマター）

[1P-0983] メラノーマ細胞の BRAF阻害剤感受性における CD63の N-型糖鎖修飾の役割

○崎山 大輝[1]、工藤 光野[1]、宮地 建樹[1]、米田 敦子[1,2]、深見 希代子[1,2]（1.東薬大・生命科学・ゲノム病態医科学、2.AMED-CREST　AMED）

[1P-0984] レスベラトロールの抗癌活性： Hsp90発現抑制を介した p53活性化経路についての解析

○高村 佳那[1]、遠藤 弘史[1]、矢野 仁康[1]（1.滋賀県大・院人文・生活文化）

[1P-0985] ヘスペレチンによる癌細胞増殖抑制機能：ユビキチンプロテアソーム系を介した Hsp70の分解とその細胞死誘導作用についての解析

○田中 大也[1]、遠藤 弘史[1,2]、西岡 美里[2]、吉田 真知[2]、矢野 仁康[1,2]（1.滋賀県大院・人文・生活文化・病態栄養、2.滋賀県大・人文・生活栄養）

[1P-0986] FGF1シグナル分子による血管肉腫細胞株の増殖

転移能抑制効果について
○中山 文明[1]、藤田 真由美[1]、三浦 太一[1]、川野 光子[1]、今留 香織[1]、安田 武嗣[1]、今村 亨[1,2]、増澤 幹男[3]、今井 高志[1]（1.量研機構・放医研、2.東京工科大、応用生物、3.北里大・医療衛生・臨床検査）

[1P-0987] 薬物代謝酵素カルボキシルエステラーゼのヒト大腸癌における発現調節機構の解明
○伊志嶺 百々子[1]、李 賢哲[1]、折田 創[2]、遠藤 未来美[3]、水口 このみ[2,3]、佐藤 浩一[2,3]、中岡 博史[4]、井ノ上 逸朗[4]、横溝 岳彦[1]（1.順大・医・生化学第一講座、2.順大・医・消化器外科講座、3.順大・医・静岡災害医学研究センター、4.国立遺伝研・人類遺伝研究部門）

[1P-0988] 合成高分子ハイドロゲルによる癌幹細胞性誘導能の持続性の検討
○石塚 大暉[1]、津田 真寿美[2,3]、王 磊[2,3]、鈴鹿 淳[2]、安田 和則[3]、グン 剣萍[3,4]、田中 伸哉[2,3]（1.北大・医、2.北大・院医・腫瘍病理、3.北大・国際連携研究教育局　ソフトマターグローバルステーション、4.北大・先端生命・ソフト＆ウェットマター）

[1P-0989] 遺伝子発現解析データのエビデンスに基づいた腎がんの診断マーカーと治療分子標的の探索
○儀野 高敬[1]、湯浅 健[2]（1.滋賀医科大学・実験実習支援センター、2.がん研有明病院・泌尿器科）

[1P-0990] 新規 p53標的である蛋白コード遺伝子 LIMA1と長鎖非コード RNA（ lncRNA）NEAT1の p53機能における役割
○鈴木 菜摘[1]、井戸川 雅史[1]、大箸 智子[1]、佐々木 泰史[1]、時野 隆至[1]（1.札幌医大・フロンティア研・ゲノム）

[1P-0991] 転写因子 NRF3（ NFE2L3）は TGF-β/SMADシグナルを制御する
○廣瀬 修平[1]、和久 剛[1]、小林 聡[1,2]（1.同志社大・生命医・医シス、2.同志社大・院生命医）

[1P-0992] ボンクレキン酸によるがん細胞選択的細胞障害性の誘導とその発症機序
○狩野 有宏[1,2]、Moses Kamita[2]、岩崎 琢磨[2]、新藤 充[1,2]（1.九大・先導研、2.九大・総理工・物質）

[1P-0993] シスチン/グルタミン酸輸送体は細胞内グルタチオンの維持を通してがん細胞の遊走・浸潤・転移に寄与する
○佐藤 茉美[1]、鈴木 亜実[1]、小沼 邦重[2]、尾崎 充彦[2]、坂内 四郎[1]、岡田 太[2]、佐藤 英世[1]（1.新潟大・医・保健、2.鳥取大・医・生命科学）

[1P-0994] 転写因子 NRF3（ NFE2L3）を過剰発現するヒト肺がん細胞 H1299を用いたマウス移植解析
○糀 美早紀[1]、和久 剛[2]、小林 聡[1,2]（1.同志社大・院生命医、2.同志社大・生命医・医シス）

[1P-0995] 口腔がん細胞の TGF-βによる上皮間葉移行に伴う細胞周期制御の検討
○高橋 和樹[1]、井上 カタジナアンナ[1]、吉松 康裕[1,2]、戒田 篤志[3]、三浦 雅彦[3]、渡部 徹郎[1]（1.東医歯大・院医歯・硬組織病態生化学、2.東医歯大・院医歯・分子細胞機能学、3.東医歯大・院医歯・口腔放射線腫瘍）

[1P-0996] ポリコームタンパク質 SUZ12はアノイキスを抑制し、乳がん細胞の転移を促進する
○石川 文博[1]、森 一憲[1]、柴沼 貿子[1]（1.昭和大・薬・腫瘍細胞生物学）

[1P-0997] Knockdown of PSMB4 exert an anti-tumor effect through reducing the proliferation and invasion in human glioblastomas
Yu-Chen Cheng[1]、Yu-Chi Sung[3]、Hsin-Han Chang[2]、○Ying Chen[1]（1.Dept. of Biology and Anatomy, National Defense Medical Center、2.Graduate Institute of Life Science, National Defense Medical Center、3.Department of Medicine, National Defense Medical Center）

[1P-0998] グルタミン代謝リモデリングはがんの悪性進展に必須である
○小玉 学[1]、押川 清孝[1]、松本 雅記[1]、中山 敬一[1]（1.九州・生医研・分子医科学分野）

[1P-0999] シスプラチン耐性獲得には CD44vを介した xCTの細胞膜上での発現増加が関与する
○岸 文香[1]、堀部 紗世[1]、坂野 友里恵[1]、高木 妙子[1]、本木 千恵[1]、渡辺 優希[1]、河内 正二[2]、佐々木 直人[1]、力武 良行[1]（1.神戸薬大・医療薬学、2.神戸薬大・薬学臨床教育センター）

[1P-1000] 日本人口腔扁平上皮癌に見いだされた変異型 NOTCH1分子の発現解析
○内堀 雅博[1,2]、太田 嘉英[1]、青山 謙一[1,2]、梶原 景正[2]、木村 穣[2]（1.東海大学・医学部・口腔外科、2.東海大学・医学部・分子生命科学）

[1P-1001] オートファジーは中心体数を制御することで腫瘍形成を抑制する
○本田 真也[1]、清水 重臣[1]（1.東京医歯大・難研・病態細胞生物）

[1P-1002] 乳がんにおける HMCN1変異における腫瘍内不均一性の解析
○菊竹 智恵[1]、須山 幹太[1]（1.九州大学 生体防御研究所 情報生物学分野）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-1003] 糸状菌由来ポリエチレングリコール誘導体による抗腫瘍効果の検討
○藤原 恭子[1]、長崎（前岡） 瑛里[2]、越永 従道[2]、金川 雅彦[3]、吉田 誠[3]、渡邉 尚宣[3]、相馬 正義[1]
（1.日大・医・総合内科、2.日大・医・小児外科、3.（株）センカファーマシー・微生物）

[1P-1004] DNAメチル化亢進による PITX1遺伝子発現抑制は食道扁平上皮癌の予後不良と関連する
○河村 由紀[1]、大坪 武史[1]、山田 和彦[2]、萩原 輝記[1]、大島 健志朗[3]、飯田 慶[4]、西方 公郎[5]、豊田 哲郎[5]、猪狩 亨[6]、野原 京子[2]、服部 正平[3,7]、土肥 多恵子[1]
（1.国立国際医療研究セ・研・消化器疾患、2.国立国際医療研究セ・外科、3.東大・院・新領域、4.京大・院医、5.理研・情報基盤セ、6.国立国際医療研究セ・病理、7.早大・院・先進理工）

[1P-1006] 血管内皮特異的 TGF-βシグナルの欠損が腫瘍形成及び転移に及ぼす影響
○齊藤 裕紀[1]、稲川 俊彦[1]、宮本 樹[1]、伊東 進[2]、Fruttiger Murcus[3]、渡部 琢也[1]、伊東 史子[1]（1.東京薬大・生命、2.昭和薬大・薬、3.ロンドン大学）

[1P-1007] Dickkopfファミリーによる CKAP4を介したがん細胞増殖調節機構
○梶原 千裕[1]、麓 勝巳[1]、木村 公一[1]、菊池 章[1]
（1.阪大院・医・分子病態生化学）

[1P-1008] 大腸癌細胞における核内受容体 FXRを介する新規シグナル経路の解析
○柳原 布季[1]、藤井 博[2]（1.信州大・院総合理工・生命医工、2.先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所・代謝ゲノミクス部門）

[1P-1009] *Myc* overexpression induces development of poorly differentiated liver cancer in vivo
○平野 利忠[1]、田口 純平[1]、山田 洋介[1,2]、田中 彰人[1]、山田 泰広[1]（1.京大・CiRA、2.京大病院・病理）

[1P-1010] 腫瘍組織由来スフェロイドは腫瘍に特徴的な糖鎖構造を維持している
○佐藤 友美[1]、遠藤 洋子[1]、井上 正宏[1]（1.大阪国際がんセンター研・生化学）

[1P-1011] *EZH2*機能喪失型 MDSにおける EZH1による赤血球分化制御
○鈴木 瑛美[1]、青山 和正[1]、大島 基彦[1]、小出 周平[1]、加藤 裕子[1]、中島 やえ子[1]、岩間 厚志[1]（1.千葉大・医・細胞分子医学）

[1P-1012] 扁平上皮癌細胞の増殖能・浸潤能・転移能における転写因子 TFEBの役割
○坂元 裕[1,2]、山下 健太郎[2]、岡元 邦彰[3]、門脇 知子[4]、梅田 正博[2]、筑波 隆幸[1]（1.長崎大・院医歯薬・歯科薬理、2.長崎大・院医歯薬・口腔腫瘍治療、3.岡山大・院医歯薬・歯科薬理　、4.長崎大・院医歯薬・フロンティア生命科学）

[1P-1013] 乳癌での転写因子 SALL4の翻訳後制御機構
○伊東 潤二[1]、李 文昭[1]、田中 直[1]、佐藤 史顕[1]、戸井 雅和[1]（1.京大院・医・乳腺）

[1P-1014] 緑茶カテキン EGCGによる受容体型チロシンキナーゼ AXLの抑制が及ぼす肺がん幹細胞性の減少
○並木 梢[1,2]、飯田 圭介[3]、酒井 瞭[1,2]、横山 翔大[1,2]、Anchalee Rawangkan[1,2]、菅沼 雅美[1,2]
（1.埼大・院・理工、2.埼玉がんセ・臨床腫瘍研、3.千葉大・院・理）

[1P-1015] 転写因子 E2F1の N末端領域に対する新規相互作用因子 WDR1の機能解析
○根岸 泰明[1]、荒木 啓吾[1]、西谷 秀男[2]、大谷 清[1]
（1.関西学院大学大学院 理工学研究科 、2.兵庫県立大学大学院 生命理学研究科）

[1P-1016] 恒常的 NF-κB活性化を伴う B細胞リンパ腫モデルマウス作出の試み
○城 友泰[1,2]、佐々木 義輝[1]、錦織 桃子[2]、高折 晃史[2]、岩井 一宏[1]（1.京大・院医・細胞機能制御学、2.京大・院医・血液腫瘍内科学）

[1P-1017] 受容体型チロシンキナーゼ AXLの Racシグナル経路を介した細胞弾性の低下とがん転移の促進
○横山 翔大[1,2]、飯田 圭介[3]、酒井 瞭[1,2]、ラワンカンアンチェリー[1,2]、並木 梢[1,2]、菅沼 雅美[1,2]
（1.埼大・院・理工、2.埼玉がんセ・臨床腫瘍研、3.千葉大・院・理）

[1P-1018] 大腸がんで高発現する膜タンパク質 S3の機能解析
○小林 真子[1]、古矢 裕梨[1]、山崎 萌香[1]、山根 小幸[1]、加藤 大[1]、柏葉 脩一郎[1]、村上 康文[1]（1.東理大・院基礎工・生物工学）

[1P-1019] ERK経路の異常活性化により発現が亢進する新規遺伝子の同定と機能解析
○高木 祐輔[1]、久保田 裕二[1]、武川 睦寛[1]（1.東大・医科研）

[1P-1020] 8;21染色体転座白血病において高発現するヒストン脱メチル化酵素の機能的意義
○上田 健[1]、金井 昭教[2]、太田 一成[1]、古室 暁義[1]、岡田 斉[1]（1.近畿大・医・生化学、2.広島大・原医研・がん分子病態）

[1P-1021] 抗酸化ストレス応答はメトホルミンによる抗腫瘍効果を誘導する
○西田 充香子[1]、山下 菜穂子[1]、鵜殿 平一郎[1]（1.岡山

©日本分子生物学会/日本生化学会

大・医歯薬・免疫学）

[1P-1022] BCL2と JNK経路は Ph1陽性 ALLの良い治療標的となる

○井上 千聖[1]、祖父江 沙矢加[1]、青山 友佳[1]、水谷 直貴[1]、川本 善之[1]、市原 正智[1]、鈴木 元[2]、野澤 義則[3]、安部 明弘[4]、早川 文彦[2]、村手 隆[1]、西沢 祐治[1]（1.中部大・生命健康・生命医科、2.名古屋大・院医・血液腫瘍内科学、3.東海学院大・管理栄養、4.藤田保衛大・医・血液内科学）

[1P-1023] 癌細胞における AlkB homolog 3 (ALKBH3)による tRNA脱メチル化制御の解析

○上田 裕子[1]、大塩 郁幹[1]、長谷 拓明[1]、北惠 郁緒里[1]、小垣 考弘[1]、辻川 和丈[1]（1.阪大・院薬・細胞生理）

[1P-1024] mTOR複合体1(mTORC1) および2(mTORC2)はCD133陽性膵癌細胞の幹細胞様性質維持に異なる作用をもつ.

○松原 修一郎[1,2]、政 幸一郎[1,2]、小原 徹[1,2]、松山 隆美[1,2]、高尾 尊身[1,2]（1.鹿児島大・院医歯学・癌再生医療学、2.鹿児島大学・医用ミニブタ先端医療開発センター）

[1P-1025] 腫瘍内不均一性によるがん進展制御の遺伝学的解析

○Seulki Kim[1]、新井 聡太[1]、榎本 将人[1]、井垣 達吏[1]（1.京大院・生命・システム機能学）

[1P-1026] 癌の予後不良因子 PKCλ/ιタンパク質量の新規調節機構の解析

○多森 翔馬[1,2]、松村 将史[1]、豊田 裕衣[1]、大川 美樹[1]、翁長 朝太郎[1]、尾崎 綾栞[1]、南島 治[1]、中根 裕美[1]、立花 研[3]、今井 美沙[4]、樋上 賀一[1,2]、大野 茂男[5]、秋本 和憲[1,2]（1.東理大・薬、2.東理大・TRセンター、3.日本薬科大、4.順天堂大院・JLRCDR、5.横浜市大・医）

[1P-1027] 膵管癌細胞における長鎖非翻訳 RNA MALAT-1発現の意義

○福島 剛[1]、川口 真紀子[1]、山本 晃士[1]、田中 弘之[1]、下村 猛[1]、片岡 寛章[1]（1.宮崎大・医・病理）

[1P-1028] 膵癌ドライバー変異は ARF6経路を介して癌悪性度と PD-L1発現を促進する

○橋本 あり[1]、橋本 茂[1]、古川 聖太郎[1,2]、蔦保 暁生[1,2]、大塚 勇太郎[1]、半田 悠[1]、小野寺 康仁[1]、及川 司[1]、平野 聡[2]、佐邊 壽孝[1]（1.北大・院医・分子生物、2.北大・院医・消化器外科II）

[1P-1029] ジアシルグリセロールキナーゼαの局在及び活性と慢性白血病細胞の増殖に関する研究

○山口 侑香[1]、上田 修司[1]、山之上 稔[1]、斎藤 尚亮[2]、白井 康仁[1]（1.神戸大・院農・生命機能科学・動物資源利用化学、2.神戸大・バイオ）

[1P-1030] がん抑制効果のある化合物を選択するための実験系の開発と応用

○梅村 千穂[1]、増田 潤子[1]、水谷 昭文[1]、妹尾 彬正[1]、笠井 智成[1]、村上 宏[1]、妹尾 昌治[1]（1.岡大院・自然科学）

[1P-1031] シスプラチンとトランスプラチンは DNAの高次構造・遺伝子活性への作用にどのような違いをもたらすのか

○岸本 幹史[1]、吉川 祐子[2]、吉川 研一[1]（1.同志社・生命医科、2.同志社・ナノバイオ研究センター）

[1P-1032] HDAC阻害剤である LBH589は FOSL1の発現低下を介して未分化多型肉腫細胞の増殖を抑制する

○齋藤 嘉信[1]、瀬戸口 啓夫[2]、Costansia Bureta[1]、永野 聡[1]、小宮 節郎[1]（1.鹿大・院医歯・整形、2.鹿大・院医歯・近未来）

[1P-1033] Questiomycin Aは glucose-regulated protein 78の発現を抑制することでソラフェニブの抗癌作用を増強する

○町原 加代[1]、難波 卓司[1]（1.高知大・総合研究センター）

[1P-1034] *O*-GlcNAc糖鎖修飾の上昇は転写因子FOXM1の分解を阻害することで癌細胞の増殖を促進する

○森脇 一将[1]、井上 陽介[2]、上田 康裕[2]、樋口 和久[2]、朝日 通雄[1]（1.大阪医大・医・薬理、2.大阪医大・医・2内）

[1P-1035] 変異型イソクエン酸脱水素酵素1 (IDH1) を持つグリオーマは、低カルニチンによりβ酸化が抑制されている

○冨永 薫[1]、宮田 五月[2]、坂下 英司[1]、澤口 武尊[1]、黒田 林太郎[2]、川合 謙介[2]、遠藤 仁司[1]（1.自治医大・医・機能生化学、2.自治医大・医・脳神経外科学）

[1P-1036] カロリー制限及び低線量率放射線長期連続照射の同時処理のマウス寿命に対する影響

○山内 一己[1]（1.公益財団法人 環境科学技術研究所）

[1P-1037] がんと間葉系幹細胞との融合における形質変化の解析

○田島 陽一[1]、芝崎 太[1]（1.都医学研・ゲノム医・分子医療）

[1P-1038] 生体内輸送タンパク質を用いた新規 SN-38誘導体の可溶化と抗腫瘍効果

○坂本 詩穂[1]、中辻 匡俊[1,2]、寺岡 佳晃[1,2]、柘植 祥吾

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、清水 翔太[1]、西野 浩輔[3]、喜田 達也[3]、土居 久志[3]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.日本学術振興会特別研究員 DC、3.理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター）

[1P-1039] 前立腺癌における AR/FOXA1を介したエピジェネティックな発癌分子機序の同定

○佐藤 広明[1,2]、杉浦 正洋[1,2]、岡部 篤史[2]、福世 真樹[2]、今村 有佑[1]、坂本 信一[1]、小宮 顕[1]、市川 智彦[1]、金田 篤志[2]（1.千葉大学大学院医学研究院泌尿器科学、2.千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学）

[1P-1040] 酸性細胞外 pHシグナルを標的とした癌転移抑制の試み

○前田 豊信[1]、鈴木 厚子[1]、加藤 靖正[1]（1.奥羽大・歯・口腔機能分子）

[1P-1041] 老化誘導 microRNAを利用した抗腫瘍核酸医薬の可能性

○福永 早央里[1]、矢野 公義[1]、山本 佑樹[1]、木根原 匡希[1]、嶋本 顕[1]、田原 栄俊[1]（1.広大・院医歯薬保健学・細胞分子生物学）

[1P-1042] 大腸癌薬剤スクリーニングのためのβ4-ガラクトース転移酵素4のプロモーター領域を用いたセンサー細胞

○福島 直道[1]、杉山 あてな[1]、齋藤 健吾[1]、佐藤 武史[1]（1.長岡技科大院・糖鎖生命工学）

[1P-1043] 乳癌細胞において Tob1 の発現と NF-κB シグナル活性は負に相関する

○徳増 美穂[1]、呉羽 拓[1]、山本 瑞生[3]、中山 淳[2]、仙波 健太郎[2]、井上 純一郎[3]、山本 雅[1]（1.細胞シグナル・OIST、2.早大・先進理工・生命医科、3.東大・医科研・分子発癌）

[1P-1044] 次世代型ファージディスプレイスクリーニング(PD-Seq)と副作用の類似性ネットワーク解析を利用した抗がん剤ゲフィチニブの副作用メカニズム解明への試み

○谷口 旦泰[1]、倉持 幸司[1]、諸橋 賢吾[1]（1.東理大・院理工・応用生物科学）

[1P-1045] ケモカイン IL-8による糖代謝の制御機構とがん幹細胞への影響

○清水 幹容[1]、田中 信之[1]（1.日医大・先端研・遺伝子制御）

[1P-1046] 転写因子 Bach1による酸化ストレス依存メラノーマ細胞増殖抑制機序

○松本 光代[1]、ブリドン アンドレイ[1]、熊谷 さやか[1]、五十嵐 和彦[1]（1.東北大・院医・生物化学）

[1P-1047] トリプルネガティヴ乳がんにおける JMJD5のがん抑制的な役割

○石村 昭彦[1,2]、丹下 正一郎[3]、Sasithorn Wannaudom[1]、寺島 農[1]、鈴木 健之[1,2]（1.金沢大・がん研・機能ゲノミクス、2.金沢大・新学術・がん分子標的、3.徳島大・医歯薬・人類遺伝学）

[1P-1048] CRISPR/Cas9システムによる GLI1ノックアウト肺腺癌細胞の解析

○阿部 芳憲[1]、武内 進[2]、枝川 聖子[1]、三次 亮太朗[1]、田中 信之[1]（1.日医大・先端研・遺伝子制御学、2.日医大・院・呼吸器内科学）

[1P-1049] 悪性胸膜中皮腫を標的とした老化関連マイクロRNAの機能解析

○山本 佑樹[1]、木根原 匡希[1]、矢野 公義[1]、福永 早央里[1]、嶋本 顕[1]、田原 栄俊[1]（1.広大・院医歯薬保健学・細胞分子生物学）

[1P-1050] がん進展における Src局在化タンパク質と c-Metの機能解析

○杉原 充哉[1]、梶原 健太郎[1]、松本 邦夫[2]、岡田 雅人[1]（1.阪大・微研・発癌制御、2.金沢大・がん進展制御研・腫瘍動態制御）

ポスター・展示会場3

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 2) 免疫、免疫疾患（ポスター）

[1P-8-2] 8. 疾患生物学-2) 免疫、免疫疾患

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1051] Sargassum horneri attenuates neuroinflammatory response through inhibition of MAPKs and NF-kappa B pathway

Mi Eun Kim[1]、○Junhwi Cho[1]、Jun Sik Lee[1]（1.Department of Biology &BK21-plus Research Team for Bioactive Control Technology, College of Natural Science, Chosun University, Gwangju 501-759, South Korea）

[1P-1052] The inhibitory effect of B7-H3 in T cell activation

Kim Mi Eun[1]、Jo Sunhyo[1]、Cho Junhwi[1]、○Jun Sik Lee[1]（1.Department of Biology &BK21-plus Research Team for Bioactive Control Technology, College of Natural Science, Chosun University, Gwangju 501-759, South Korea）

[1P-1053] Anti-neuroinflammatory effect of pseudnae-7 via p38 MAPK pathway in LPS-stimulated BV-2 microglia

○Mi Eun Kim[1]、Inae Jung[1]、Jun Sik Lee[1]（1.Department of Biology &BK21-plus Research Team for Bioactive Control Technology, College of

©日本分子生物学会/日本生化学会

Natural Science, Chosun University, Gwangju 501-759, South Korea）

[1P-1054] アンピシリンとバンコマイシンの投与によってグルタミン酸代謝と短鎖脂肪酸の発酵が障害され、マウス腸炎が誘発される。
○園田 光[1,2]、玄同 淑子[1]、尾崎 貴士[1]、佐知 望美[1]、飛彈野 真也[1]、神山 長慶[1]、村上 和成[2]、小林 隆志[1]（1.大分大・医・感染予防医学、2.大分大・医・消化器内科学）

[1P-1055] 無細胞 AIM2インフラマソーム再構成系の創薬への応用
○金子 直恵[1]、伊藤 有紀[1,2]、山本 敏弘[1]、森川 紳之祐[1]、竹田 佳恩[1]、倉田 美恵[1,2]、竹田 浩之[2]、澤崎 達也[2]、増本 純也[1,2]（1.愛媛大・医・解析病理、2.愛媛大・PROS）

[1P-1056] T細胞における低分子量 Gタンパク質 Arfファミリーの機能解析
○住吉 麻実[1]、江口 稚佳子[1]、小河 穂波[2]、小谷 唯[2]、伊藤 量基[3]、神田 晃[4]、金保 安則[5]、渡邊 利雄[2]、松田 達志[1]（1.関西医大・生体情報、2.奈良女子大・院人間文化・生物化学科、3.関西医大・一内、4.関西医大・耳鼻、5.筑波大・医学医療系・生理化学）

[1P-1057] ネクローシス細胞により誘導される炎症応答の終息と好酸球の関わり
○懸川 奈央[1]、佐藤 麻実[1]、石神 昭人[2]、小林 芳郎[1]、永田 喜三郎[1]（1.東邦大・理・生物分子科学、2.東京都健康長寿医療センター）

[1P-1058] 微量採血によるアレルギーモデル実験動物の経時的抗原特異的抗体価の測定系の確立
○大野 仁詩[1,2]、品原 和加子[2]、高橋 悦久[2]、木戸 博[2]（1.応用酵素医学研究所株式会社、2.徳大・酵素研・生体防御）

[1P-1059] V型 ATPaseのサブユニット ATP6V0D2によるARF6を介した Toll-like receptor 4（ TLR4）の細胞内輸送と LPSの認識で誘導される炎症応答・ LPSトレランスの制御機構の解明
○村瀬 本弥[1]、川崎 拓実[1]、箱崎 理花[1]、河合 太郎[1]（1.奈良先端大・バイオサイエンス）

[1P-1060] 主要組織適合抗原クラス IIの細胞表面発現調節における Rab11の役割の解析
○佐藤 結香[1]、黒田 真弘[1]、田中 智之[1]、古田 和幸[1]（1.岡山大院・医歯薬・免疫生物）

[1P-1061] IL4I1発現誘導におけるアディポネクチンの関与
○齊藤 清美[1]、石橋 正祥[1]、石井 正和[1]、巌本 三壽[1]（1.昭和大・薬・生理・病態学）

[1P-1062] B細胞の分化・活性化における SFK-Cskの機能解析
○猪藤 麻央[1]、井上 毅[2]、名田 茂之[1]、黒崎 知博[2]、岡田 雅人[1]（1.阪大・微研・発癌制御、2.阪大・iFRec・分化制御）

[1P-1063] 多様な機能をもつムーンライトプロテイン、グリセルアルデヒド-3-リン酸デヒドロゲナーゼ（ GAPDH）の免疫制御能について
○中野 敏明[1,2]、後藤 茂[2,3]、Hui-Peng Tseng[1,2]、藤村 孝志[4]、河本 正次[4]、Chao-Long Chen[2]（1.長庚大・医学院・臨医研（台湾）、2.高雄長庚医院・肝臓移植中心（台湾）、3.福岡労衛研・延岡健診センター、4.広大院・先端・分子生命）

[1P-1064] 樹上細胞におけるＣＣＲ7遺伝子の DNAメチル化変動によるアトピー性皮膚炎の誘導
○芳田 祐子[1]、早川 国宏[1]、藤城 真樹[1]、平井 琢也[2]、津島 浩[2]、渡部 晃三[1,2]、片岡 裕子[1,2]、池田 圭吾[1,2]、森本 真司[1,2]、関川 巖[1,2]（1.順天堂大・院医・環境研、2.順天堂大・膠原病リウマチ内科）

[1P-1065] 血液脳関門に存在する免疫細胞の侵入口形成のコンピュータモデル
○山田 訓[1]、吉村 昭彦[2]、有馬 康伸[3]、村上 正晃[3]（1.岡山理大・工・知能機械、2.慶大・医、3.北大・遺伝子病研）

[1P-1066] 自己炎症疾患に関わる変異型アデノシンデアミナーゼ2の性質と生理機能の解析
○伊藤 萌子[1]、高橋 優聡[1]、桑島 遥[1]、吉田 勇太[1]、渡辺 泰裕[1]、江川（岩城） 祥子[1]（1.北海道薬科大学）

[1P-1067] IL-33産生を制御する分子機構の解明
○長山 瑞佳[1]、川崎 拓実[1]、河合 太郎[1]（1.奈良先端科学技術大学院大学）

[1P-1068] 筋萎縮性側索硬化症(ALS)原因遺伝子オプチニューリンは、病原体感染時のインターフェロン・ベータ産生を抑制する
○福士 雅也[1]、大澤 亮介[2]、川上 秀史[2]、坂口 剛正[1]（1.広島大・院医歯薬保健・ウイルス学、2.広島大・原医研・分子疫学）

[1P-1069] トポテカンはがん細胞からの DNA内包エクソソームの放出を介して STING依存的ながん免疫の活性化を誘導する
○鍛代 悠一[1,2]、雛 健[4]、末吉 拓也[2]、川崎 拓実[2]、小檜山 康司[3]、石井 健[3]、審良 静男[4]、松田 正[1]、河合 太郎[2]（1.北大・院薬・衛生化学、2.奈良先端大・バイオ・分子免疫、3.阪大・免疫フロンティア・ワクチン、4.阪大・微研・自然免疫）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-1070] 線虫 C. elegansは IgE産生機序解明のための実験材料になりうるか？
○後藤 夢実[1]、小柳 円[1]、有村 裕[1]（1.日獣大・院・応用生命科学）

[1P-1071] 正電荷リポソームはマスト細胞の抗原刺激による活性化を抑制する
○伊納 義和[1]、羽根田 亜紀[1]、横川 慧[1]、古野 忠秀[1]（1.愛知学院大・薬）

[1P-1072] 定量的リン酸化プロテオミクスによる胸腺細胞の運命決定機構の解明
○舟崎 慎太郎[1]、松本 雅記[2]、中山 敬一[1,2]（1.九州大学・生体防御医学研究所・分子医科学、2.九州大学・生体防御医学研究所・プロテオミクス）

[1P-1073] Enteroid内腔へのマイクロインジェクションによる Paneth細胞顆粒分泌評価システムの確立と応用
○米田 司[1]、中村 公則[1,2,3]、横井 友樹[1]、大平 修也[3]、菊池 摩仁[2]、櫻木 直也[1,2,3]、綾部 時芳[1,2,3]（1.北大・生命科学、2.先端生命・細胞生物科学、3.理・生物科学・自然免疫）

[1P-1074] In vitroにおけるサイトカインを用いた好酸球の分化・増殖への試み
○岡 美寿季[1]、小柳 円[1]、有村 裕[1]（1.日獣大・院・応用生命科学）

[1P-1075] 腹腔常在性マクロファージの貪食応答に対する環境エンリッチメントの効果
○大滝 桃子[1]、小鹿 成二[1]、西村 まゆみ[2]、柿沼 志津子[2]、島田 義也[2]、小林 芳郎[1]、永田 喜三郎[1]（1.東邦大学、2.放射線医学総合研究所）

[1P-1076] 細胞周期制御因子の肺線維化における新たな役割
○朴 雅美[1]、角田 郁夫[1]（1.近畿大学医学部微生物学）

[1P-1077] 慢性関節炎症時における滑膜繊維芽細胞は、前肥大化軟骨細胞の表現型を有する
○三浦 陽子[1]、金澤 智[1]（1.名市大・院医・細胞分子生物）

[1P-1078] Poly(I:C)とヒアルウロン酸は無細胞 NLRP3インフラマソーム形成を促進する
○増本 純也[1,2]、金子 直恵[2]、伊藤 有紀[1,2]、山本 敏弘[2]、竹田 佳恩[2]、森川 紳之祐[2]、倉田 美恵[1,2]、竹田 浩之[1]、澤崎 達也[1]（1.愛媛大学プロテオサイエンスセンター、2.愛媛大学医学系研究科解析病理学講座）

[1P-1079] PYCARD/ASC スプライスバリアントのインフラマソームに与える機能変調およびバリアント産生機序の解明
○菅沼 佑美[1]、岸田 あおい[1]、簗内 温子[1]、井上 康二[2]、塩沢 俊一[3]、駒井 浩一郎[1]（1.神戸大・保健学研究科・病態解析学、2.大阪リハビリテーション病院七川記念リウマチ骨関節症センター、3.九州大学病院別府病院）

[1P-1080] 合成メラニンによるマスト細胞の活性化抑制
○近藤 紘本[1]、武田 湖洲恵[1]、川本 善之[1]（1.中部大・院生命健康・生命医科学）

[1P-1081] RNA結合タンパク質 Hu antigen R(HuR)のウイルスに対する自然免疫における役割の解析
○末吉 拓也[1]、川崎 拓実[1]、河合 太郎[1]（1.奈良先端大・バイオ）

[1P-1082] TLR7リガンド固定化金ナノ粒子の調製と免疫増強活性評価
○山口 徹[1]、新地 浩之[1]、若尾 雅広[1]、林 公子[2]、Cottom Howard[2]、Carson Dennis[2]、隅田　泰生[1,3]（1.鹿児島大・院理工、2.Moores Cancer Center, University of California, San Diego、3.(株)スディックスバイオテック）

[1P-1083] Imiquimod(R837)による TLR7非依存的な細胞死の誘導
○奥出 遥奈[1]、川崎 拓実[1]、織 大祐[1]、村瀬 本弥[1]、石井 健[2,3]、河合 太郎[1]（1.奈良先端大・バイオ、2.国立医薬基盤・健康・栄養研究所、3.阪大・IFReC・ワクチン学）

[1P-1084] 樹状細胞の機能を制御する免疫調整剤の探索
○坂田 文弥[1]、八代 拓也[1]、笠倉 和巳[1]、平野 弘之[2]、長田 裕之[2]、西山 千春[1]（1.東理大・基礎工・生物工、2.理研・CSRS）

[1P-1085] ミエロペルオキシダーゼ欠損好中球における貪食能の亢進に伴う MIP-2の過剰産生
○高取 沙織[1]、Yasuaki Aratani[1]（1.横浜市大・院・生命ナノシステム科学）

[1P-1086] グルココルチコイドは IL-7受容体の発現を介して T細胞の体内分布および活性化の日内変動を制御する。
○岡崎 史恵[1,2]、榛葉 旭恒[2]、崔 広為[2]、生田 宏一[2]（1.京大・院医・医科学、2.京大・ウイルス再生研・免疫制御）

[1P-1087] 自己免疫性肺胞蛋白症における抗 GM-CSF自己抗体のポリクロナリティー獲得の機序解明
○竹内 志穂[1]、橋本 淳史[1]、中垣 和英[1]、田澤 立之[1]、中田 光[1]（1.新潟大・医歯学総合病院・生命科学医療センター）

[1P-1088] *Lactobacillus helveticus* SBT2171は腹腔マクロファージの MAPKsおよび NF-κBの活性化と炎

症性サイトカイン産生を抑制する
○河野 通生[1]、三好 雅也[1]、江口 慧[1]、關 敬弘[1]、馬場 一信[2]、藤谷 直樹[2]、松原 由美[2]、中川 久子[2]、宮崎 忠昭[2]（1.雪印メグミルク・ミルクサイエンス研、2.北大・遺制研・プロバイオ）

[1P-1089] MRL/lprマウスで低下するオレオイルエタノールアミドは核酸刺激による樹状細胞の活性化及び炎症性サイトカインの産生を抑制する
○尾崎 貴士[1,2]、園田 光[1]、玄同 淑子[1]、野口 香緒里[1]、佐知 望美[1]、神山 長慶[1]、飛彈野 真也[1]、石井 宏治[2]、柴田 洋孝[2]、小林 隆志[1]（1.大分大・医・感染予防医学講座、2.大分大・医・内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座）

[1P-1090] 腸管オートファジー不全によるバリア機能破綻
○多々良 浩司[1]、長井 広樹[1]、矢野 環[1]、倉田 祥一朗[1]（1.東北大・院薬）

[1P-1091] ゲノム編集レポーター細胞を用いたヒト自己免疫疾患の研究
○朴 正薫[1]、加藤 保宏[1,2]、小中 八郎[1,2]、高松 漂太[1,2]、熊ノ郷 淳[1,2]（1.阪大・免フロ研究センター・感染病態グループ、2.阪大・院医学研究科・呼吸器・免疫内科学）

[1P-1092] 腸内に常在する新規バクテリオファージの同定および解析
○安井 美加[1]、根岸 英雄[1]、西尾 純子[1]、三木 祥治[1]、中島 由希[1]、丹治 保典[2]、宮永 一彦[2]、黒田 誠[3]、関塚 剛[3]、長谷川 秀樹[4]、相内 章[4]、柳井 秀元[1]、谷口 維紹[1]（1.東大・生産技術研究所・炎症免疫、2.東工大・生命理工・生物プロセス、3.感染研・病原体ゲノム解析センター、4.感染研・感染病理部）

[1P-1093] 栄養シグナルによるパイエル板の恒常性維持機構の解明
○野口 遼太郎[1,2]、永井 基慈[1,2]、越田 航平[2,3]、高橋 大輔[1]、河村 由紀[2]、土肥 多恵子[2]、長谷 耕二[1]（1.慶應大・院薬・薬科学、2.国立国際医療セ研・肝炎免疫セ・消化器疾患、3.東理大・薬・生命創薬）

[1P-1094] イヌアレルギー患者に対する低アレルゲン化ワクチンの開発
○杉浦 慶亮[1]、櫻井 光智子[1]、中辻 匡俊[1,2]、福冨 友馬[3]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.日本学術振興会特別研究員DC、3.独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター）

[1P-1095] 魚類白血球の細胞傷害に関与するセリンプロテアーゼの精製とその特性解析
○松浦 雄太[1,2]、藪 健史[3]、宮澤 龍一郎[3]、司馬 肇[3]、中西 照幸[3]（1.水産機構・増養殖研、2.学振特別研究員・PD、3.日大・生物資源）

[1P-1096] ヒト M1および M2マクロファージの炎症応答におけるプロポフォールの効果
○鹿毛 まどか[1]、河内山 宰[2]、中山 仁志[1,3]、稲田 英一[2]、岩渕 和久[1,3,4]（1.順天堂大・院医・環境研、2.順天堂大・院医・麻酔科、3.順天堂大・医療看護・生化学、4.順天堂大・院医療看護・感染制御看護）

[1P-1097] 強皮症モデル培養細胞の作成に向けた線維芽細胞に対するブレオマイシンの直接的な影響の検討
○岩本 莉奈[1]、高橋 拓実[2]、雪田 聡[1,2]（1.静大・院教理・生物学、2.静大・教育・総合科学）

[1P-1098] インターロイキン９（ IL9）遺伝子サイレンサーと転写因子 Runx1によるエピジェネティックな IL9転写調節機構の解明
○吉田 大貴[1]、関亦 明子[2]、伊関 憲[3]、関亦 正幸[1]（1.福島医大・医・RI研、2.山形大・医・基礎看護、3.福島医大・医・救急医療）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 3) 感染症（ポスター）

[1P-8-3] 8. 疾患生物学-3) 感染症

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1099] Molecular characterization of Methicillin Resistant Staphylococcus aureus Strains Isolated at Thammasat University Hospital from August 2012 to July 2015
○Pimonwan Phokhaphan[1]、Sumalee Kondo[1]、Pholawat Tingpej[1]、Anucha Apisarnthanarak[1]（1.Faculty of Medicine, Thammasat University, Thailand）

[1P-1100] *Candida albicans*に対する舌癌および口腔扁平上皮癌由来細胞株の免疫学的反応
○檜物 孝樹[1]、栗崎 宏憲[1]、藤本 秀士[1]（1.九大・院医・保健学）

[1P-1101] HIV-1 Nef mRNA 5'非翻訳領域を介する効率的な発現機構の解明と制御法の探索
○渡邉 俊輝[1]、高宗 暢暁[2]、岸本 直樹[3]、三隅 将吾[3]（1.熊本大院・薬・環境分子保健学、2.熊本大・KUICC、3.熊本大院・生科・環境分子保健学）

[1P-1102] *Trypanosoma brucei*における GMP synthetaseの局在の解析
○柴田 朝美[1]、岡田 哲也[1]、石橋 宰[1]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境）

[1P-1103] 本邦における糞線虫症の現状と展望
○生野 博[1]、石川 敬[1]、市村 禎宏[1]、野呂瀬 一美[2]（1.株・ビー・エム・エル総研・細菌検査部・細菌検

査課、2.千葉大・大学院・医学研究院・感染生体防御学）

[1P-1104] インゲンマメレクチンのショウジョウバエにおけるウイルス感染防御効果

○Heny Ekowati[1,2]、Junko Arai[3]、Ayu Sekarani Damana Putri[1,4]、Firzan Nainu[1,5]、白土 明子[1]、中西 義信[1]（1.金沢大・院医薬保、2.Jenderal Soedirman大・健康科学、3.J-オイルミルズ・商品開発研、4.Brawijaya大・医、5.Hasanuddin大・薬）

[1P-1105] バクテリオファージ由来溶菌酵素（エンドライシン）を用いた黄色ブドウ球菌に対する溶菌活性の検討

○藤木 純平[1]、中村 暢宏[1]、大野 葉月[1]、北名 純也[1]、高橋 宏充[1]、古澤 貴章[1]、岩野 英知[1]（1.酪農大・獣医・獣医生化）

[1P-1106] ショウジョウバエの自然免疫応答としてのウイルス感染細胞でのアポトーシス誘導

○松田 拓己[1]、白土 明子[1]、Firzan Nainu[1,2]、中西 義信[1]（1.金沢大院・医薬保健、2.Hasanuddin大・薬）

[1P-1107] 分子動力学計算を用いた抗 HIVウイルス薬の作用機構解析

○小谷 治[1]、横山 勝[1]、Lowela Siarot[2]、佐藤 洋隆[2]、Nopporn Chutiwitoonchai[2]、間 陽子[2]、佐藤 裕徳[1]（1.感染研・病原体ゲノム解析研究センター、2.理研・分子ウイルス）

[1P-1108] in silico プリオン病創薬における薬効特異性の評価

○石橋 大輔[1]、中垣 岳大[1]、石川 岳志[1]、濱田 剛[2]、西田 教行[1,2]（1.長崎大・院・医歯薬、2.長崎大・先端計算研究センター）

[1P-1109] リバビリンは STAT-1欠損マウスのジカウイルス血症を抑制する

○神山 長慶[1]、飛彈野　真也[1]、野口 香緒里[1]、玄同 淑子[1]、尾崎 貴士[1]、園田 光[1]、佐知 望美[1]、田島 茂[2]、高崎 智彦[2]、江下 優樹[1]、小林 隆志[1]（1.大分大・医・感染予防医学、2.国立感染研・ウイルス第一部）

[1P-1110] デングウイルスレポーターレプリコン細胞を用いた抗ウイルス化合物スクリーニング

○加藤 文博[1]、日紫喜 隆行[2]、田島 茂[1]、林 昌宏[1]、西條 政幸[1]（1.国立感染研・ウ1、2.東京都医学研・感制プ）

[1P-1111] ボツリヌス菌 C2毒素の細胞内侵入と酸性スフィンゴミエリナーゼの関係

○永浜 政博[1]、竹原 正也[1]、小林 敬子[1]（1.徳島文理大・薬・微生物）

[1P-1112] 熱帯熱マラリア原虫由来 PV1の機能解析

○中村 真奈美[1]、袴田 一晃[1]、高島 英造[2]、養王田 正文[1]（1.東京農工大・生命工学、2.愛媛大・PROS・マラリア）

[1P-1113] 宿主毒性薬剤選択系を用いたネズミマラリア原虫効率的遺伝子操作法の開発

○曽賀 晃[1]、纐纈 摩美[1]、福本 晋也[1]（1.帯畜大・原虫病研究センター）

[1P-1114] 慢性膿皮症患者の皮膚微生物叢解析

○吉川 実亜[1,2]、出来尾 格[4]、冨田 勝[1,3]、福田 真嗣[1,2,5,6,7]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・院・政策・メディア、3.慶大・環境情報、4.東女医大・東医療セ、5.JST・さきがけ、6.神奈川県立産技総研、7.メタジェン）

[1P-1115] バキュロウイルス発現系を用いた E型肝炎ウイルス（ HEV）ワクチンの開発

○山内 玲奈[1]、黒崎 直子[1]（1.千葉工大・院工・生命環境科学）

[1P-1116] HBV cccDNA再活性化に関連する宿主因子の同定

○伊藤 昌彦[1]、中島 謙治[1]、鈴木 哲朗[1]（1.浜松医大・医・ウイルス寄生虫学）

[1P-1117] *Campylobacter jejuni* 感染で誘導されるオートファジーは、宿主上皮細胞における菌の侵入および生存を促進する

○福島 志帆[1]、下畑 隆明[1]、畑山 翔[1]、木戸 純子[1]、天宅 あや[1]、上番増 喬[1]、馬渡 一諭[1]、高橋 章[1]（1.徳大・院医歯薬学・予防環境栄養）

[1P-1118] 発光タグ HiBiTを使用したフラビウイルスの細胞内侵入および出芽機構の解析

○佐々木 道仁[1]、アニンディタ パウリナ[1]、ポンペオウワンラヤー[1]、カー マイケル[2,3]、小林 進太郎[4]、大場 靖子[1]、澤 洋文[1,2]（1.北大・人獣センター・分子病態診断、2.国際連携研究教育局（GI-CoRE）、3.アイルランド大・ダブリン校、4.北大・獣医・公衆衛生）

[1P-1119] PI3K由来ペプチドによるエンドサイトーシスとインフルエンザウイルス感染の抑制

○藤岡 容一朗[1]、佐藤 絢[1]、堀内 浩水[1]、藤岡 真理[1]、Sarad Paudel[1]、西出 真也[1]、南保 明日香[1]、大場 雄介[1]（1.北大・院医・細胞生理）

[1P-1120] シアリダーゼ阻害剤が*Streptococcus intermedius*のシアリダーゼ活性や溶血活性に及ぼす効果

○日下 信吾[1]、友安 俊文[2]、田端 厚之[2]、長宗 秀明[2]（1.徳島大院・先端技術科学教育・生命テクノサイエ

©日本分子生物学会/日本生化学会

ンス、2.徳島大院・社会産業理工学・生物資源産業学）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 4) 代謝疾患、生活習慣病、メタボロミクス、老化（ポスター）

[1P-8-4] 8. 疾患生物学-4) 代謝疾患、生活習慣病、メタボロミクス、老化

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1121] 老齢モデルマウスにおける振動振盪刺激による腰椎への影響

○鬼頭 巧[1]、西井 一宏[1]、姚 潤宏[1]、寺西 利生[1]、杉山 智久[1]、酒井 一由[2]、松原 守[3]、山田 晃司[1]（1.藤田保衛大・医療・リハビリ、2.藤田保衛大・医療・臨工、3.京都学園大・バイオ環境・分子生物）

[1P-1122] 骨密度低下モデルマウスを用いて骨粗鬆症を予防する新規刺激法の検討

○姚 潤宏[1]、西井 一宏[1]、鬼頭 巧[1]、寺西 利生[1]、杉山 智久[1]、酒井 一由[2]、松原 守[3]、山田 晃司[1]（1.藤田保衛大・医療・リハビリ、2.藤田保衛大・医療・臨工、3.京都学園大・バイオ環境・分子生物）

[1P-1123] 酸化グアニン除去におけるショウジョウバエ遺伝子の同定とそれらが老化に及ぼす影響に関する研究

○奥村 和子[1]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ）

[1P-1124] Keap1-Nrf2 による酸化ストレス応答処理とショウジョウバエの筋肉老化への影響に関する研究

○曹 怡莎[1]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ）

[1P-1125] メトホルミンによるショウジョウバエの筋肉老化の遅延とその作用機序に関する遺伝学的解析

○鈴田 智士[1]、Dat Le[1]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ）

[1P-1126] Melatonin suppresses fibrotic responses induced by cigarette smoke via downregulation of TGF-B1

○Na-Rae Shin[1]、Je-Won Ko[1]、Sung-Hyeuk Park[1]、Jong-Choon Kim[1]、In-Sik Shin[1]（1.Chonnam National University）

[1P-1127] Distribution of Bacterial Hospital-Acquired Infections of Patients at Thammasat Hospital between 2008 and 2014

○Sumalee Kondo[1]、Pimonwan Phokhapha[1]、Pholawat Tingpej[1]、Anucha Apisarnthanarak[1]（1.Faculty of Medicine, Thammasat University, Pathum Thani, Thailand）

[1P-1128] *SGMS2* gene is moderately down-regulated in the sphingomyelin-ceramide metabolic pathway in obesity

○Eric Tzyy Jiann Chong[1]、Yee Soon Ling[2]、Ping-Chin Lee[1,2]（1.Biotechnology Programme, Fac. of Sci. and Natural Resources, Univ. Malaysia Sabah, UMS Road, 88400 Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia、2.Biotechnology Research Inst., Univ. Malaysia Sabah, UMS Road, 88400 Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia）

[1P-1129] Mitochondrial Dysfunction and Dysregulation of Ca2+ Homeostasis in Insulin Insensitivity and Diabetes

○Yau-Huei Wei[1,2]、Chih-Hao Wang[3]、Yu-Ting Wu[1,2]、Ting-Fen Tsai[3]（1.Center for Mitochondrial Medicine and Free Radical Research, Changhua Christian Hospital, Changhua, Taiwan 500、2.Department of Medicine, Mackay Medical College, New Taipei City, Taiwan 252、3.Department of Life Sciences and Institute of Genomic Sciences, National Yang-Ming University, Taipei, Taiwan 112）

[1P-1131] 変異型β２ミクログロブリン(ΔN6β2m)特異的DNAアプタマーによるアミロイド凝集抑制効果の検討

深澤 伽音[1]、○東元 祐一郎[1]、安東 由喜雄[2]、本宮 善恢[3]（1.久留米大・医・化学、2.熊大院・生命・神経内科、3.翠悠会診療所）

[1P-1132] MDM2阻害因子 Dehydrogenase/reductase 2 (DHRS2)の細胞老化における役割

○小田 司[1]、関本 隆志[1]、倉島 公憲[1]、中村 瑠里[2]、松田 美弥子[2]、大圃 真純[2]、山下 孝之[1]（1.群大・生調研・遺伝子情報、2.群大・院保健）

[1P-1133] モデルマウスを用いた SLC19A3欠損症の病態解明とチアミン治療の検証

○山田 憲一郎[1]、鈴木 香[1]、福原 弥生[1]、辻 愛[2]、柴田 克己[2]、若松 延昭[1]（1.愛知県コロニー・研究所・遺伝学部、2.滋賀県大・人間文化・生活栄養・基礎栄養学）

[1P-1134] ドミナントネガティブ変異 HNF1A遺伝子導入トランスジェニックブタの表現型と合併症

○梅山 一大[1,2]、中島 正巳[3]、中野 和明[2]、渡邊 將人[1,2]、松成 ひとみ[1,2]、横尾 隆[4]、長屋 昌樹[1]、長嶋 比呂志[1,2]（1.明大・バイオリソース、2.明大・農・生命、3.日大・医・眼科、4.慈恵医大・内科）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-1135] プロテアソーム機能低下による細胞老化誘導機構の解明
○入木 朋洋[1]、橋本 永一[1]、平山 尚志郎[1]、濱崎 純[1]、村田 茂穂[1]（1.東大・院薬）

[1P-1136] F4/80陽性マクロファージによるマウス分娩後子宮の老化細胞除去と次回妊娠に及ぼす影響
○清水 良子[1]、廣田 泰[2,3]、藤田 知子[2]、江頭 真宏[2,4]、原口 広史[2]、平岡 毅大[2]、赤枝 俊[2]、田中 智基[2]、藤井 知行[2]、大須賀 穣[2]（1.慶應義塾大・医・予防医療センター、2.東大・院医・産婦人科学、3.さきがけ、科学技術振興機構、4.東大・院農・獣医学）

[1P-1137] 網羅的ゲノム編集による細胞外シグナル起因性の細胞老化の制御
○沖田 喜樹[1,2]、渡辺 亮[1]、堀田 秋津[1]、升井 伸治[1]（1.京大・iPS細胞研究所、2.京大・医学研究科・医科学）

[1P-1138] ラミノパチー由来の早期老化現象に対する抵抗性の解明
○谷口 善仁[1]（1.杏林大・医・衛生公衆衛生）

[1P-1139] 日本マウスクリックにおけるマウスの加齢性網羅的表現型解析パイプライン
○若菜 茂晴[1]、田村 勝[1]、金田 秀貴[1]、鈴木 智広[1]、古瀬 民生[1]、小林 喜美男[1]、山田 郁子[1]、三浦 郁生[1]（1.理研・バイオリソースセンター・日本マウスクリニック）

[1P-1140] 高グルコース及び糖化物負荷シュワン細胞における Galectin-3の機能解析
○新見 直子[1]、八子 英司[1]、塚本 雅美[2]、宇都宮 一典[2]、三五 一憲[1]（1.都医学研・糖尿病性神障PJ、2.慈恵医・糖尿病・代謝・内分泌内科）

[1P-1141] 第二世代抗精神病薬オランザピンが、副作用として糖尿病を引き起こす分子メカニズムの解析
～インスリンは、適切なジスルフィド結合形成を阻害され、小胞体関連分解により処理される～
○蜷川 暁[1]、岡田 徹也[1]、梅澤 元[1]、石川 時郎[1]、鳥居 征司[2]、Robert Mackin[3]、長嶺 敬彦[4]、森 和俊[1]（1.京大院・理・生物物理、2.群馬大・生体・分泌制御、3.クレイトン大・バイオ、4.三光舎）

[1P-1142] 脂肪細胞とマクロファージの共培養系における TNF-alphaの分泌動態および 高血糖、肥大化の影響
○藤波 綾[1]、二村 祥平[1]、高橋 佑季[1]、山本 真依子[1]、脇野 薫[1]、多河 典子[1]、加藤 郁夫[1]（1.神戸薬大・病態生化学）

[1P-1143] 糖尿病モデルマウスの in vivo酸化ストレス解析
○上村 尚美[1]、Alexander Wolf[1]、西槙 貴代美[1]、横田 隆[1]、井内 勝哉[1,2]、太田 成男[1,3]（1.日本医大院・細胞生物、2.成蹊大学・理工・細胞分子デバイス、3.順天堂大院・医・神経学）

[1P-1144] 炎症性骨吸収に対する TLR3シグナリングの関与
○秋田 みゆき[1]、富成 司[1]、松本 千穂[1]、平田 美智子[1]、宮浦 千里[1]、稲田 全規[1]（1.農工大・院・生命工）

[1P-1145] 破骨細胞の分化に対するリポカリン２の作用
○猪股 恭子[1]、富成 司[1]、松本 千穂[1]、平田 美智子[1]、宮浦 千里[1]、稲田 全規[1]（1.農工大・院・生命工）

[1P-1146] 破骨細胞形成における ADAMsの関与
○志賀 颯一郎[1]、富成 司[1]、松本 千穂[1]、平田 美智子[1]、稲田 全規[1]、宮浦 千里[1]（1.農工大・院・生命工）

[1P-1147] 老化・寿命制御における FoxO3aの機能解析
○長谷川 陽之[1]、岡田 雅人[1]、名田 茂之[1]（1.阪大・微研・発癌制御）

[1P-1148] ヒストン脱メチル化酵素 Utxによる糖、脂質代謝制御の解明
○太田 一成[1]、古室 暁義[1]、上田 健[1]、岡田 斉[1]（1.近大・医・生化学）

[1P-1149] UCP1発現脂肪細胞の非侵襲イメージング系の作製
○本多 志帆[1]、福田 綾[2]、水野 聖哉[2]、杉山 文博[2]、岡松 優子[3]、斉藤 昌之[3]、林 洋平[2]、西村 健[2]、久武 幸司[2]（1.筑波大・人間総合、2.筑波大・医学医療系、3.北海道大・院・獣医学）

[1P-1150] Klf5 is involved in the pathogenesis of muscle atrophy
○劉 琳[1]、林 晋一郎[1]、大石 由美子[1]（1.東医歯大・難研・細胞分子）

[1P-1151] 膵 B細胞におけるグルコース誘導性エンドサイトーシスの解析
○山岡 真美[1]、寺林 健[1]、石崎 敏理[1]、木村 俊秀[1]（1.大分大・医・薬理学）

[1P-1152] 細胞老化の視点からみた長期培養ラット心筋細胞の機能解析
○野間 直十[1]、石川 冬木[1]（1.京大・院・生命科学）

[1P-1153] Sik3遺伝子変異マウスの肥満・高血糖・骨形成異常の検討
○管野 里美[1]、三好 千香[1]、一久 綾[1]、堀田 範子[1]、柿崎 美代[1]、船戸 弘正[1,2]、柳沢 正史[1]（1.筑波大・国際統合睡眠医科学研究機構、2.東邦大・医・解剖）

[1P-1154] 動脈硬化進展初期過程における平滑筋細胞の Perxoiredoxin 2低下による酸化ストレス亢進と形質変化
○加藤 里奈[1]、嶋崎 萌夏[1]、鈴木 花菜[1]、小澤 雪乃

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、知念 良憲[1]、渡辺 窓香[1]、相内 敏弘[1]、笹部 直子[1]、小浜 孝士[1]、板部 洋之[1]（1.昭和大・薬・生物化学）

[1P-1155] 情報基盤多重モニタリング法（ iMPAQT）を用いた細胞老化代謝ネットワークの解析

○押川 清孝[1]、松本 雅記[2]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学分野、2.九大・生医研・プロテオミクス分野）

[1P-1156] 加齢によって変動する排卵周期における卵巣遺伝子の網羅的発現解析

○諫山 慧士朗[1]、渡邉 健司[2]、村田 智昭[1]、水上 洋一[2]（1.山口大・大学研究推進機構・生命、2.山口大・大学研究推進機構・遺伝子）

[1P-1157] 膵β細胞の小胞体ストレス誘導性アポトーシスにおける CK2βの役割

○井上 佳歩[1]、高井 智子[2]、松田 友和[2]、鈴木 江美[2]、神野 歩[2]、木村 真希[2]、淺原 俊一郎[2]、木戸 良明[1,2]（1.神戸大学院・保健・病態解析・病態代謝、2.神戸大学院・医・糖内）

[1P-1158] 肝実質細胞死におけるグリセルアルデヒド由来終末糖化産物の関与

○逆井-坂井 亜紀子[1]、高田 尊信[1]、竹内 正義[1]（1.金沢医大・総医研）

[1P-1159] 遺伝性早老症ウェルナー症候群患者細胞はRecQヘリケースファミリー WRNタンパク質欠失に起因する細胞老化を呈する

○澁谷 修一[1,2]、飯塚 絹江[1]、横手 幸太郎[1]、清水 孝彦[1]（1.千葉大・院医、2.日本学術振興会特別研究員DC1）

[1P-1160] 老人性色素斑形成における DNA脱メチル化メカニズムに関する解析

○山田 貴亮[1,2,3]、長谷川 靖司[1,3,4]、井上 悠[1]、石井 佳江[2]、堀田 美佳[1,2,4]、有馬 豪[3]、岩田 洋平[3]、山本 直樹[5]、中田 悟[1]、杉浦 一充[3]、赤松 浩彦[2]（1.日本メナード化粧品（株）・総合研究所、2.藤田保健衛生大・医・応用細胞再生医学講座、3.藤田保健衛生大・医・皮膚科学講座、4.名大・院医・メナード協同研究講座、5.藤田保健衛生大・研究支援推進センター・共同利用研究推進施設）

[1P-1161] 摂食時刻の乱れは脂肪細胞を肥大化させることなく肥満を誘導する

○風間 玲[1,2]、安倍 知紀[1]、大石 勝隆[1,2,3]（1.（国研）産総研・バイオメディカル・生物時計、2.東大院・新領域・メディカル情報生命、3.東理大院・理工・応用生物）

[1P-1162] 母体糖尿病が仔の表現型および遺伝子発現へ与える長期的な影響

○井口 志洋[1]、一柳 健司[2]、大石 裕晃[1]、前田 泰孝[4]、小川 佳宏[3,5,6]、井口 登與志[7]、佐々木 裕之[1]（1.九大・生医研・エピゲノム制御学、2.名大院・生命農学、3.九大院・病態制御内科学、4.南昌江内科クリニック・糖尿病臨床研究センター、5.東医歯大院・分子内分泌代謝学分野、6.日本医療研究開発機構、7.福岡市健康づくりサポートセンターあいれふ）

[1P-1163] KLF14欠損マウスにおける肥満誘導時の白色脂肪組織リモデリング異常

○田山 千春[1]、高梨 理絵子[2]、富川 順子[1]、大喜多 肇[3]、松本 健治[4]、秦 健一郎[1]、岡村 匡史[2]、中林 一彦[1]（1.成育医療セ・周産期病態、2.国際医療研究セ・感染症制御、3.慶応大・医・病理学教、4.成育医療セ・免アレ・感）

[1P-1164] ハダカデバネズミ皮膚線維芽細胞株の樹立とゲノム編集

○中曽根 茉季[1,2]、鈴木 輝彦[1]、三浦 恭子[3]、原 孝彦[1,2]（1.都医学研・幹細胞、2.東京医歯大院・医歯学総合、3.北大・遺制研）

[1P-1165] 2型糖尿病モデルマウスにおける新規バイオマーカーの探索

○河村 真緒[1]、土屋 匠子[1]、淺原 俊一郎[2]、木戸 良明[1,2]（1.神戸大・院保・病態解析学、2.神戸大・院医・糖尿病内分泌内科学）

[1P-1166] 妊娠高血圧病態である母体溶血に対する薬剤効果の検討

○中島 実咲[1]、謝 玉瑩[2]、石田 純治[3]、深水 昭吉[3]（1.筑波大学 生命環境学群 生物資源学類、2.筑波大学 生命環境科学研究科、3.筑波大学 生命領域学際研究センター）

[1P-1168] 肥満がもたらす脳の代謝異常のメタボローム解析

○酒井 久美子[1]、櫻井 マミ[1]、千葉 政一[2]（1.大分大・医・全学研究推進、2.大分大・医・分子解剖）

[1P-1169] 糖毒性状態の膵臓ß 細胞において Dclk1はインスリンの発現を抑制する

○井戸 彩詠[1]、樋口 琢磨[2]、戸高 寛[2]、坂本 修士[2]、村尾 孝児[3]、杉山 康憲[1]（1.香川大・農・応用生物科学、2.高知大・総合研究セ・分子生物学、3.香川大・医・内分泌代謝内科）

[1P-1170] カカオ・プロシアニジンによる線虫の老化抑制への感覚神経の関与

○定永 魁人[1]、遠谷 修平[1]、佐伯 英昭[1]、雨笠 航介[1]、小林 咲里奈[1]、角 公一郎[2]、夏目 みどり[2]、井上

©日本分子生物学会/日本生化学会

英史[1]（1.東京薬大・生命、2.（株）明治・食機能科学研究所）

[1P-1171] 膵臓β細胞におけるコレステロール増加はインスリン発現を抑制する

○藤井 修作[1]、飯田 悟史[1]、戸高 寛[2]、樋口 琢磨[3]、坂本 修士[3]、村尾 孝児[4]、杉山 康憲[1]（1.香川大・農・応用生物科学、2.高知大・医・循環制御学、3.高知大・総合研究セ・分子生物学、4.香川大・医・内分泌代謝内科）

[1P-1172] 若齢および老齢マウスの血中 miRNA解析：若齢マウス高発現 miRNAがマウス筋芽細胞に与える筋分化誘導効果

○福岡 聖之[1]、伊藤 尚基[2]、武田 伸一[2]、北條 浩彦[1]（1.国立精神神経セ・神経研・神経薬理、2.国立精神神経セ・神経研・遺伝子疾患治）

[1P-1173] 糖尿病性心筋症モデルマウス心筋における Ca^{2+}シグナル制御破綻の分子メカニズム

○三上 義礼[1]、伊藤 雅方[1]、杉本 結衣[1]、濵口 正悟[2]、冨田 太一郎[1]、村上 慎吾[1]、行方 衣由紀[2]、田中 光[2]、赤羽 悟美[1]（1.東邦大・医・生理学・統合生理学、2.東邦大・薬・薬物学）

[1P-1174] 深層学習による口腔内菌叢解析に基づく口臭の判別

○中野 善夫[1]、谷口 奈央[2]、桑田 文幸[1]（1.日大・歯・化学、2.福歯大・口腔保健）

[1P-1175] 低グルコースに伴うオートファジーの亢進はエンドサイトーシス障害を増悪する

○竹内 真吾[1]、下澤 律浩[2]、保富 康宏[2]、木村 展之[1]（1.長寿研・アルツハイマー病研究部、2.医薬基盤・健康・栄養研究所 霊長類医科学研究センター）

[1P-1176] 血漿由来 exosomesによるラット本態性高血圧症の病態制御機構

○大谷 紘資[1]、横家 舞[1]、兒玉 朋子[1]、堀 貴子[1]、松本 拳悟[1]、岡田 宗善[1]、山脇 英之[1]（1.北里大・獣医・獣医薬理）

[1P-1177] マイクロ RNA導入マウスに発症した拡張型心筋症における還元ストレスの解析

○小川 剛汰[1]、松山 留美子[1]、喬 善楼[1]、小形 岳寛[2]、上田 潤[3]、岩本 隆司[1]（1.中部大・生命医科学科、2.京都府立医・院医・細胞分子機能病理、3.旭川医大・教育研究推進センター）

[1P-1178] 肝臓特異的な転写因子 FOXK1の欠失は過栄養による脂肪肝を抑制する

○藤沼 駿[1]、中津海 洋一[1]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学）

[1P-1179] 時計遺伝子産物 CRY1ヘム結合モチーフへの点変異導入マウスにおける糖代謝および生物時計機能の解析

○松野 秀太朗[1]、岡野 聡[1]、中野 博[1]、中島 修[1]（1.山形大・医・メディカル研）

[1P-1180] ヒト肺若齢及び老齢線維芽細胞における食用植物種子抽出物による時計遺伝子転写因子の制御

○岡田 悦政[1]、岡田 瑞恵[2]（1.愛県大・院看護・健管基老、2.Yms Lab., Age. Nutr. Res., Age. Sect）

[1P-1181] 脂肪細胞分化における Ca^{2+}活性型カリウムチャネル $K_{Ca}3.1$の役割

○中野 友香[1]、成田 沙智世[1]、長田 茂宏[1]、白根 道子[1]、今川 正良[1]、西塚 誠[1]（1.名市大院・薬・分子生物）

[1P-8-5] 8. 疾患生物学-5) 脳、神経、精神疾患

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1182] Aß分解酵素ネプリライシンの活性制御機構と創薬標的

○斉藤 貴志[1]、Per Nilsson[1]、綿村 直人[1]、西道 隆臣[1]（1.理研・脳センター）

[1P-1183] ソマトスタチンによるネプリライシン活性制御機構の網羅的解明

○綿村 直人[1,2]、垣矢 直雅[1]、斉藤 貴志[1]、Nilsson Per[1]、大島 登志男[2]、西道 隆臣[1]（1.理研・脳センター、2.早稲田大・先進理・生命医科学）

[1P-1184] Modulation of Amyloid βby Tetraspanin 7

○Mohammad Moniruzzaman [1]、Mika Nobuhara[1]、Seiko Ishihara[1]、Satoru Funamoto[1]（1.Dept. of Med. Life Sys., Grad. Sch. of Life and Med. Sci., Doshisha Univ.）

[1P-1185] 脊髄損傷急性期の細胞内 ATPのリアルタイムモニタリング

○大西 諭一郎[1]、山本 正道[2]、藤原 翔[1]、鷹羽 良平[1]、森脇 崇[1]、貴島 晴彦[1]（1.阪大・院医・脳神経外科、2.京大・院医・腎臓内科）

[1P-1186] 性別違和（性同一性障害）関連遺伝子の探索：ヒト全エクソーム解析とマウストランスクリプトーム解析から

○仲地 豊[1]、金沢 徹文[2]、康 純[2]、岡崎 康司[1,3,4]（1.埼玉医大・ゲノム医セ・TR、2.大阪医大・神経精神、3.埼玉医大・ゲノム医セ・ゲノム科学、4.順天堂大・難病の診断と治療研究セ）

[1P-1187] ラミニンによるアストロサイトの突起形成促進にはジストログリカンとα－シントロフィンを介した AQP4の発現が関与する

©日本分子生物学会/日本生化学会

○中江 友軌[1]、堀部 紗世[1]、井上 咲那[1]、宇野 槙優[1]、後藤 麻友[1]、西岡 詩織[1]、佐藤 淳哉[2]、河内 正二[3]、佐々木 直人[1]、小林 成美[2]、平田 健一[2]、力武 良行[1]（1.神戸薬大・医療薬学、2.神戸大院・医学・循環器内科学、3.神戸薬大・薬学臨床教育センター）

[1P-1188] 脂肪酸結合蛋白質 FABP3はα-Synucleinの凝集を促進する

○篠田 康晴[1]、程 岸[1]、八戸 嵩仁[1]、福永 浩司[1]（1.東北大院・薬・薬理）

[1P-1189] 免疫関連分子 CCL5/CCR5のマウス発達脳における役割

○中谷 知音[1]、清水 仁美[1]、村上 浩子[1]、和賀 央子[1]、内野 茂夫[1]（1.帝京大・理工・バイオ）

[1P-1190] リーリン機能低下がアルツハイマー病に与える影響の解明

○大嶋 智葉[1]、山影 祐子[1]、赤津 裕康[2]、松川 則之[3]、服部 光治[1]（1.名市大院・薬・病態生化、2.名市大院・医・地域医療医学、3.名市大院・医・神経内科）

[1P-1191] ミトコンドリア膜型ユビキチンリガーゼ MITOLによる老人斑の形成制御と病態解析

○宇田 葵[1]、伊藤 直樹[1]、武田 啓佑[1]、稲留 涼子[1]、柳 茂[1]（1.東薬大・生命）

[1P-1192] 老年性の神経変性疾患に対するスルホニルウレア受容体（ SUR）の神経保護作用の解明

○権 秀明[1]、藤崎 尚規[1,2]、榊原 泰史[1]、関谷 倫子[1]、飯島 浩一[1,2]（1.国立長寿医療研究センター・アルツハイマー病研究部、2.名古屋市立大・薬学系研究科）

[1P-1193] ミクログリアにおける ABCA7を介した Aβ貪食機構

○王 文博[1]、高鳥 翔[1]、富田 泰輔[1]（1.東大・院薬・機能病態）

[1P-1194] ハンチントン病における Rab33遺伝子群の役割

○山内 勇毅[1]、横山 翔平[1]、加藤 章紘[1]、大石 雄一朗[1]、曽我部 壮志[1]、藤田 太河[1]、Joshua Mba[1]、柴沼 敦子[2]、上村 佳子[1]、幸田 敏明[1]（1.北大・生命科学院、2.北大・創成研究機構）

[1P-1195] CRISPR/Cas9システムによる Aβ取り込み経路関連分子のゲノムワイドスクリーニング

○海老沼 五百理[1]、堀 由起子[1]、富田 泰輔[1]（1.東大・院薬・機能病態学教室）

[1P-1196] 脂質代謝酵素ホスホリパーゼ A2による亜急性期脊髄損傷増悪機構の解析

○藤原 翔[1]、新澤 康英[2]、大西 諭一郎[1]、森脇 崇[1]、鷹羽 良平[1]、貴島 晴彦[1]（1.大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学、2.大阪大学大学院医学系研究科分子病態生化学）

[1P-1198] TDP-43 proteinopathyモデルマウスの作製

○細川 雅人[1]、野中 隆[1]、新井 哲明[1,2]、亀谷 富由樹[1]、近藤 ひろみ[1]、秋山 治彦[1,3]、長谷川 成人[1]（1.東京都医学研・認知症プロジェクト、2.筑波大・医、3.横浜市立脳卒中・神経脊椎セ）

[1P-1199] タウのリン酸化と毒性に対するインスリン・インスリン様成長因子シグナリングの役割

○林下 幹輝[1]、齊藤 太郎[1,2]、浅田 明子[1,2]、久永 眞市[1,2]、飯島 浩一[3,4]、安藤 香奈絵[1,2]（1.首都大・院理・生命科学、2.首都大・理工・生命科学、3.国立長寿研・アルツハイマー研究部、4.名市大・院薬）

[1P-1200] 可溶性Aβオリゴマーは初代培養神経細胞においてシナプスの撹乱を引き起こす

○谷口 香織[1]、山本 詞子[1,2]、儘田 直美[2]、玉岡 晃[2]、荒木 亘[1]（1.国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第６部、2.筑波大学 医学医療系 神経内科学）

[1P-1201] ラット網膜光障害感受性を支配する責任遺伝子変異の同定

○大石 健太郎[1]、大坪 正史[1]、尾花 明[2,3]、堀田 喜裕[4]、蓑島 伸生[1]（1.浜松医大・光尖端医学教育研究セ・光ゲノム医学、2.浜松医大・光尖端医学教育研究セ・医学分光応用、3.聖隷浜松病院・眼科、4.浜松医大・医・眼科）

[1P-1202] 家族性パーキンソン病原因遺伝子産物 DJ-1のミトコンドリアに対する影響

○匂坂 有花[1]、安田 樹[2]、有賀(井口) 早苗[2]（1.北大・院生命、2.北大・院農）

[1P-1203] コーヒーは神経芽細胞腫においてプロテアソームを活性化することによって BACE1のタンパク発現を抑制する。

○福山 和也[1]、垣尾 将太[1]、古旗 賢二[2]、鈴木 利治[3]、多胡 めぐみ[1]、田村 悦臣[1]（1.慶應大・院薬・衛生化学、2.城西大・院薬・機能性食品科学、3.北大・院薬・神経科学）

[1P-1204] アルツハイマー型認知症関連因子βセクレターゼ（ BACE1）の細胞内輸送における Lemur kinase（ LMTK1A）の役割

○駒木 圭介[1]、池田 識人[1]、佐藤 裕[1]、淺田 明子[1]、斉藤 太郎[1]、久永 眞市[1]（1.首都大・院理工・生命科学）

[1P-1205] 22q11.2欠失症候群3Mb欠失マウスモデルの解析

○齋藤 遼[1,2]、古戎 道典[2]、澤幡 雅仁[3]、永井 拓[3]、山田 清文[3]、饗場 篤[1,2]（1.東大・院理・生物科学、2.東大・院医・疾生・動物資源学、3.名古屋

©日本分子生物学会/日本生化学会

大・院医・医療薬学）

[1P-1206] Krabbe病（グロボイド細胞白質ジストロフィー）モデルマウスでみられるオリゴデンドロサイトの分化ならびにミエリン化の異常

○稲村 直子[1]、鬼頭 ももこ[2]、浅井 清文[2]、竹林 浩秀[3]、細川 昌則[1]、松田 純子[4]、榎戸 靖[1]（1.愛知県コロニー発達障害研究所・病理、2.名市大・医学研究科、3.新潟大・医歯学総合研究科、4.川崎医大・病態代謝学）

[1P-1207] ペリサイト、オリゴデンドロサイト前駆細胞、血管内皮細胞間の相互作用に対するアミロイドβの病的意義

○豊川 勝[1]、眞木 崇州[2]、浅田 めぐみ[1,2]、梶 誠兒[2]、田代 善崇[3]、高橋 良輔[2]、木下 彩栄[1]（1.京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻、2.京都大学医学部付属病院神経内科、3.京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンターSKプロジェクト）

[1P-1208] 妊娠期ストレスに関連するストレス応答分子、Hitの機能解析

○小泉 惠太[1]、中尾 啓子[1]、中島 日出夫[2,3]（1.埼玉医大・生理学、2.埼玉医大・総合医療センター、3.上尾中央総合病院）

[1P-1209] αシヌクレインの神経毒性により減少するミトコンドリアシャペロンの発現を制御する化合物の探索

○高松 芳樹[1]、赤川 裕美[1]、藁谷 正明[1,2]、井上 聡[3]、橋本 款[1]（1.都医学研・パーキンソン、2.東松戸病院・神経内科、3.都健康長寿医セ研・健康長寿ゲノム）

[1P-1210] オリゴデンドロサイトとその前駆細胞はアミロイドベータを産生し、異なるアミロイドベータ前駆体タンパク質のアイソフォームを発現する。

○飛田 弥咲[1]、眞木 崇州[2]、浅田 めぐみ[1]、高橋 良輔[2]、木下 彩栄[1]（1.京大・院医・人間健康科学、2.京大・附属病院・神経内科）

[1P-1211] 有機リンによる NTE(Neuropathy Target Esterase)の活性阻害について

○阿部 如子[1]、田中 正史[2]、本杉 奈美[2]、伊藤 誠敏[3]、大久保 朋一[3]、木村 穣[2]（1.東海大・院医・医科学、2.東海大・医・分生、3.東海大・伊研部・支援セ）

[1P-1212] ALS患者由来 SQSTM1変異体の神経細胞内局在及びその発現がオートファジーと細胞死に及ぼす影響

○白川 涼平[1]、野崎 昌久[1]、濱 祐太郎[1]、佐藤 海[1]、三井 駿[1]、小野 鈴花[1]、大友 麻子[1,2]、Hui-Fang Shang[3]、秦野 伸二[1]（1.東海大・医・分子生命、2.東海大・マイクロナノ、3.中国・四川大・神内）

[1P-1213] PINK1-Parkinシグナル伝達に関与する新規分子の解析

○柴 佳保里[1]、井下 強[1]、青木 裕子[1]、石濱 泰[2]、今居 譲[3]、服部 信孝[1]（1.順天堂大学 医学研究科 神経学講座、2.京都大学 薬学研究科 製剤機能解析学分野、3.順天堂大学 医学研究科 パーキンソン病病態解明研究講座）

[1P-1214] 微小管関連タンパク質タウとシナプス接着因子Nカドヘリンの関係について

○谷河 杏介[1]、浅田 めぐみ[1,2,3]、植村 健吾[3]、木下 彩栄[1]（1.京都大院医・人間健康科学 、2.滋賀医大、3.京都大学医学部附属病院 臨床神経学）

[1P-1215] 小脳プルキンエ細胞における mTORC1シグナルの活性化は、プルキンエ細胞の細胞死および肥大化を引き起こす

○坂井 祐介[1]、葛西 秀俊[1]、中山 寿子[2]、前田 達哉[3]、中尾 和貴[1]、橋本 浩一[2]、狩野 方伸[4]、饗場 篤[1]（1.東大・院医・疾患生命工学セ・動物資源学、2.広島大・院医歯薬・神経生理学、3.東大・分生研、4.東大・院医・神経生理）

[1P-1216] 視床下部室傍核 μ-オピオイド受容体の活性化を介した抗腫瘍免疫における脳-末梢免疫連関機構の解析

○濱田 祐輔[1]、金尾 奈穂美[1]、吉田 小莉[1]、成田 道子[1]、手塚 裕之[2]、田村 英紀[2]、鈴木 雅美[3]、青木 一教[4]、山中 章弘[5]、葛巻 直子[1]、成田 年[1,2]（1.星薬大・薬理、2.星薬大・先端研 (L-StaR)、3.国立がん研セ・がんゲノミクス、4. 国立がん研セ・分子細胞治療、5.名古屋大・環境医研・神経系II）

[1P-1217] 神経細胞由来エキソソームがミクログリア活性化に及ぼす影響

○大島 睦[1]、関 貴弘[1]、堤 麗帆[1]、倉内 祐樹[1]、久恒 昭哲[2,3]、香月 博志[1]（1.熊本大院・生命・薬物活性、2.熊本大院・先導機構、3.熊本大・リーディング大学院・HIGOプログラム）

[1P-1218] レット症候群の発症機序の解明　～MeCP2ターゲット遺伝子 LBX1の同定とその作用機序の解明～

○堀家 慎一[1]、奥村 兼汰[2]、岡田 源作[1]、目黒 牧子[1]（1.金沢大学・学際科学実験センター・ゲノム機能解析分野、2.金沢大学・医薬保健学域医学類・MRT）

[1P-1219] 一酸化炭素放出分子を用いた一酸化炭素による

Aβ産生への影響の解析

○棒谷 夏希[1]、浦野 泰臣[1]、野口 範子[1]（1.同志社大学大学院・生命医科学研究科・システム生命科学研究室）

[1P-1220] 加齢に伴なう BDNFサブタイプとその受容体の発現変化

○水井 利幸[1]、松井 このみ[1]、青木 智子[1]、小島 正己[1]（1.産総研・バイオメディカル）

[1P-1221] 逆行性軸索輸送の包括的障害が細胞内 Aβの蓄積を誘導する

○木村 展之[1]、鈴木 恵子[1]、土屋 由加子[1]（1.長寿研・アルツハイマー病研究部）

[1P-1222] ヒト疾患特異的 iPS 細胞を用いたパーキンソン病発症初期段階におけるドパミン神経機能障害を導く分子の探索

○葛巻 直子[1]、須田 雪明[1]、岩澤 千鶴[1]、成田 道子[1]、渡邉 萌[1]、田村 英紀[2]、五十嵐 勝秀[2]、牛島 俊和[2,3]、服部 信孝[4]、岡野 栄之[2,5]、成田 年[1,2]（1.星薬大・薬理、2.星薬大・先端研 (L-StaR)、3.国立がんセ・エピゲノム解析、4.順天堂・医・脳神経内科、5.慶應・医・生理学）

[1P-1223] SROB1は脳挫傷による神経細胞死に関与する

○新井 仁明[1]、今村 宰[1]、松村 耕治[2]、伊達木 穣[1]、瀧嶋 邦夫[1]（1.防衛医大・生化学、2.防医大・共利研）

[1P-1224] ローズマリー抽出物の長期投与がアルツハイマーモデルマウスに及ぼす影響

○エングレル マーテー　ヤーノシュ[1]、Hiromi Yamazaki[1]、Kunikazu Tanji[2]、Junsei Mimura[1]、Takashi Saito[3]、Takaomi Saido[3]、Ken Itoh[1]（1.Dept. Stress Res. Sci, Hirosaki Univ. Grad. Sch. of Med.、2.Dept. of Neuropat., Hirosaki Univ. Grad. Sch. of Med、3.Laboratory for Proteolytic Neuroscience, RIKEN Brain Science Institute）

[1P-1225] 線維筋痛症モデルマウス疼痛病態に対する特定周波数発生磁気治療機器の効果

○森田 光咲[1,2]、高田 雅文[1]、木下 香[3]、高木 香織[3]、森内 将貴[1,2]、連川 雄[1,2]、中野 義雄[1,2]、首藤 剛[1]、Mary Suico[1]、木下 巌[3]、甲斐 広文[1]（1.熊本大・院薬・遺伝子機能応用学、2.熊本大・リーディング大学院・HIGO、3.(株) P-mind）

[1P-1226] ロテノンによる2つの行動表現型のターニングポイント

○石堂 正美[1]（1.国環研）

[1P-1228] LSの Oxt-Oxtrシグナルは自閉症モデルマウスの異常な行動を改善する

○堀合 眞知[1]、木野崎 萌[1]、矢田 紗織[1]、日出間 志寿[1]、西森 克彦[1]（1.東北大・院農・応用生命科学・分子生物学）

[1P-1229] 光血栓性脳梗塞モデルにおける Timp/MMPファミリーの発現解析

○廣野 順介[1]、佐名木 遥佳[1]、北田 夏菜[1]、佐田 晴佳[1]、鈴木 篤史[1]、瀬木ー西田 恵里[2]、中川 公恵[1]、長谷川 潤[1]（1.神戸薬大・衛生化学、2.東京理科大・基礎工・生体機能制御）

[1P-1230] 腸内環境改善によるパーキンソン病の神経変性予防への検討

○澤田 浩秀[1,2]、六車 香織[2]、高野 聡美[2]、小木曽 昇[2]（1.神戸常盤大・保健科学・医療検査、2.国立長寿医療研究センター・実験動物管理室）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 6) 遺伝性疾患（ポスター）

[1P-8-6] 8. 疾患生物学-6) 遺伝性疾患

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1231] Dissection of Structure-Function Relationship of ZBTB24 and Molecular Pathology of ICF Syndrome

○Sharmin Aktar[1]、Motoko Unoki[1]、Kyohei Arita[2]、Hiroyuki Sasaki[1]（1.Division of Epigenome, MIB, Kyushu University、2.Graduate School of Medical Life Science, Yokohama City University）

[1P-1232] 低ホスファターゼ症モデルマウスの骨形態計測による骨形成能評価

○根本(山本)　晴子[1]、横井 絵理[1]、小川 京[1]、澤本 圭南子[1]、嶋田 理菜[1]、眞田 奈緒美[1]、清水 武彦[1]（1.日大松戸・小児歯）

[1P-1233] DUX4遺伝子の毒性に必要な領域の特定

○石丸 悟史[1]、本間 優希[2]、三橋 弘明[2]（1.東海大・院工・応用理化学、2.東海大・工・生命化学）

[1P-1234] ラミン A遺伝子変異を持つトランスジェニックゼブラフィッシュの作製

○松崎 香奈[1]、市川 明宏[2]、三橋 弘明[1]（1.東海大・工・生命化学、2.東海大・院工・応用理化学）

[1P-1235] CDC42異常症の原因となる遺伝子変異がアクチンダイナミクスに及ぼす影響について

○大門 江津子[1]、渋川 幸直[1]、山崎 奈津子[1]、岡本 伸彦[2]（1.地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター研究所 代謝部門、2.地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 遺伝診療科）

[1P-1236] 遅発型ファブリー病と機能的多型と考えられるアミノ酸置換の生化学的解析

○重永 雅志[1]、月村 考宏[1]、佐藤 温子[2]、齋藤 静司

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3]、兎川 忠靖[1]、櫻庭 均[2]（1.明治薬大・生体機能分析、2.明治薬大・臨床遺伝、3.北海道情報大・医療情報）

[1P-1237] ナノ液体クロマトグラフィータンデム質量分析法を用いたエーラスダンロス症候群の診断法の開発

○山田 和夫[1,2]、渡辺 淳[3]、古庄 知己[4]、水本 秀二[5]、山田 修平[5]、竹下 治男[1]、松本 健一[2]（1.島根大・医・法医学、2.島根大・総科支セ・生体情報・RI、3.日本医大・附属病院・遺伝診療科、4.信州大・医・附属病院・遺伝子診療部、5.名城大・薬・病態生化学）

[1P-1238] 神経変性疾患橋小脳低形成のモデルサカナの作製

○波田 一誠[1]、八塚 洋之[1]、井上 真紀[1]、白石 裕士[1]、花田 俊勝[1]（1.分大・医・細胞生物）

[1P-1239] ヒト Endoglinとその BMP9複合体の結晶構造解析

○齋藤 貴子[1,5]、Marcel Bokhove[1]、Romina Croci[1]、Sara Zamora-Caballero[1]、 Ling Han[1]、Michelle Letarte[2,3]、Daniele de Sanctis[4]、Luca Jovine[1]（1.Dept. of BioNut and CIMED, Karolinska Inst.、2.Mol. Med. Hosp. for Sick Children, Univ. of Toronto、3.Dept. of Immun., Univ. of Toronto、4.ESRF The European Synchrotron、5.福島医大・医・細胞科学）

[1P-1240] DM1疾患特異的 iPS細胞における CTGリピート伸長メカニズムの解明

○加門 正義[1]、若月 修二[1]、荒木 敏之[1]（1.国立精神・神経センター）

[1P-1241] 家族性脳小血管病患者で報告された変異型 HTRA1蛋白質の機能解析

○上村 昌寛[1]、野崎 洋明[2]、加藤 泰介[3]、小山 哲秀[1]、小野寺 理[1]（1.新潟大・脳研・神内、2.新潟大・保健学・検査、3.新潟大・脳研・分子神経疾患資源解析）

[1P-1242] ゲノム編集を用いた球脊髄性筋萎縮症（ SBMA）における骨格筋病態の解析

○田中 智史[1,2]、伊藤 卓治[1]、太田 明伸[3]、曽根 岳史[4]、今釜 史郎[2]、細川 好孝[3]、岡野 栄之[4]、道勇 学[1]、岡田 洋平[1]（1.愛知医科大学神経内科、2.名古屋大学整形外科、3.愛知医科大学生化学、4.慶應義塾大学生理学）

[1P-1243] *DDHD1*の新規責任変異の同定とCRISPR/Cas9による*Ddhd1*ノックアウトマウスの作成

○森川 拓弥[1]、三浦 史郎[2]、大石 裕晃[3]、藤岡 竜太[4]、森山 耕成[5]、小坂 健悟[1]、下條 智史[1]、柴田 弘紀[1]（1.九州大学 生体防御医学研究所 ゲノミクス分野、2.久留米大学医学部内科学講座 呼吸器・神経・膠原病内科、3.九州大学 生体防御医学研究所 分子機能制御学分野 エピゲノム制御学分野、4.別府大学短期大学部 食物栄養科、5.中村学園大学 栄養科学研究科）

[1P-1244] ドラッグリポジショニングによる CFTRコレクターの開発

○藤原 健[1]、山西 芳裕[2]、田中 健一郎[3]、沖米田 司[1]（1.関学大・理工・生命医化学、2.九大・生体防御医学研究所・システムコホート学、3.武蔵野大・薬学部）

[1P-1245] 常染色体優性遺伝運動性ニューロパチー家系で同定した TDRKH内の新規非同義変異

○小坂 健悟[1]、三浦 史郎[2]、下條 智史[1]、長田 周治[3]、森川 拓弥[1]、藤岡 竜太[4]、野村 拓夫[5]、谷脇 考恭[2]、柴田 弘紀[1]（1.九州大学 生体防御医学研究所 ゲノミクス分野、2.久留米大学 医学部 内科学呼吸器・神経内科、3.久留米大学 医学部 放射医学講座、4.別府大学短期大学部 食物栄養科、5.のむら内科 神経内科クリニック）

[1P-1246] Gorlin症候群責任遺伝子*PTCH1*のディープシークエンス解析

○増田 木理[1]、兼友 裕大[1]、高山 吉永[1]、初瀬 洋美[2]、藤谷 和子[3]、長尾 和右[1]、亀山 孝三[1]、藤井 克則[4]、宮下 俊之[1]（1.北里大学・医療系研究科・分子遺伝学、2.北里大学・医学部・分子遺伝学、3.北里大学・医学部・DNA実験センター、4.千葉大学大学院医学研究院・小児病態学）

[1P-1247] Cas9 nickaseを用いた筋強直性ジストロフィーにおける伸長 CTGリピート配列の除去

○斉藤 史明[1]、池田 美樹[1]、萩原 宏毅[2]、真先 敏弘[2]、清水 輝夫[3]、松村 喜一郎[1]、園生 雅弘[1]（1.帝京大・医・神経内科、2.帝京科学大・医療科学、3.帝京大・医療技術）

ポスター発表 | 9. 神経科学 | 1) 神経系の発達と分化（ポスター）

[1P-9-1] 9. 神経科学-1) 神経系の発達と分化

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1248] シナプス間隙タンパク質 Higは Dα5サブユニットを介してアセチルコリン受容体の集積を制御する

○中山 実[1,3]、西村 理[2]、工樂 樹洋[2]、曽根 雅紀[1]、浜 千尋[3]（1.東邦大学、2.理研 CLST、3.京都産業大学）

[1P-1249] JAK/STATシグナルは生物学的ノイズを除去することで神経幹細胞分化のタイミングを制御す

©日本分子生物学会/日本生化学会

る

○八杉 徹雄[1]、田中 吉太郎[2]、長山 雅晴[3]、栄 伸一郎[2]、佐藤 純[1]（1.金大・新学術、2.北大・理学研究院、3.北大・電子研）

[1P-1250] 小脳顆粒細胞における GSK-3阻害が軸索に与える影響

○稲見 吉祐[1]、小西 慶幸[2,3]、久保田 健太[1]、大村 充[1]（1.福大・院工・知能システム工学、2.福大・院工・生物応用化学、3.福大・ライフ）

[1P-1251] 側坐核・カレハ島の新生 GABAニューロンへの8-オキソグアニンの蓄積は加齢マウスの多動の原因となる

○春山 直樹[1]、作見 邦彦[1]、加藤木 敦央[1]、土本 大介[1]、中別府 雄作[1]（1.九大・生医研・脳機能制御学）

[1P-1252] 突起伸長期ニューロンにおける細胞質からの微小管形成

○山田 美森[1]、林 謙介[1]（1.上智大・院理工・理工）

[1P-1253] STANDファミリー新規遺伝子 NWD1の中枢神経系における局在・機能解析

○山田　晴也[1]、秋山 博紀[1]、榊原 伸一[1]（1.早稲田人間科学 分子神経科学）

[1P-1254] アセチルコリン受容体のシナプス後膜上への集積における Dα5サブユニットの役割

○高橋 郁夫[1]、松下 智樹[1]、中山 実[2]、浜 千尋[1]（1.京都産業大・総合生命、2.東邦大学・理）

[1P-1255] 錐体サブタイプ特異的に発現する miRNAの標的遺伝子の体系的探索

○小原 知輝[1]、大道 裕[1]、瓜生 藍[1]、行者 蕗[1]、横森 類[2]、中井 謙太[2,3]、鈴木 穣[4]、日下部 岳広[1,3]（1.甲南大・理工・生物、2.東大・医科学研究所、3.甲南大・統合ニューロバイオ研究所、4.東大・院新領域創成科学）

[1P-1256] *dab1*のハプロ不全は表層神経細胞の大脳皮質第一層への侵入と CA1錐体細胞層の分離を引き起こす

○本田 岳夫[1]、仲嶋 一範[1]（1.慶應・医・解剖）

[1P-1257] Fynによる CRMP1 Tyr504のリン酸化は Semaphorin 3A情報伝達に関与する

○河嶌 岳[1]、中村 史雄[1,2]、五嶋 良郎[1]（1.横浜市大・院医・分子薬理神経生物学、2.東京女子医大・医・生化学）

[1P-1258] Hasp局在化を制御するシナプスタンパク質の RNAiスクリーニング

○和田 悠太郎[1]、中山 実[2]、浜 千尋[3]（1.京産大・院・生命科学、2.東邦大・理、3.京産大・院・生命科学）

[1P-1259] ニューロンに多く発現している微小管切断酵素 katanin A-like1の性質

○畠山 瑛子[1]、林 謙介[1]（1.上智大・院理工・理工）

[1P-1260] 大脳皮質神経において DLKと JNKは SCG10/stathmin-2のタンパク質量を制御する

山崎 尚[1,4]、宮島 正康[2]、大野 茂男[3]、○平井 秀一[1]（1.和歌山県立医大・医・生物学、2.和歌山県立医大・医・動物、3.横浜市大・医・分子生物学、4.兵庫医大・医・生物学）

[1P-1261] 株化運動ニューロン―シュワン細胞共培養におけるミエリン形成

○高久 静香[1]、新見 直子[1]、八子 英司[1]、三五 一憲[1]（1.都医学研・糖尿病PJ）

[1P-1262] iPS細胞由来神経筋共培養モデルを用いた神経筋疾患の病態解析

○伊藤 卓治[1]、田中 智史[1,2]、下門 大祐[1,3]、道勇 学[1]、岡野 栄之[3]、岡田 洋平[1]（1.愛知医大・医・神経内科、2.名古屋大・院医・整形外科、3.慶応大・医・生理学）

[1P-1263] D-cysteineが初代培養小脳プルキンエ細胞の樹状突起発達に及ぼす影響

○関 貴弘[1]、佐藤 正寛[1]、今野 歩[2]、平井 宏和[2]、倉内 祐樹[1]、久恒 昭哲[3,4]、香月 博志[1]（1.熊本大院・生命・薬物活性、2.群馬大院・医・脳神経再生、3.熊本大院・先導機構、4.熊本大・リーディング大学院・HIGOプログラム）

[1P-1264] 自閉症感受性遺伝子 AUT2 のマウス海馬歯状回における機能解析

○江草 早紀[1]、堀 啓[1]、坂本 亜沙美[1]、阿部 学[2]、崎村 建司[2]、郷 康広[3]、星野 幹雄[1]（1.国立精神・神経セ・神経研・病態生化学、2.新潟大・脳研・基礎神経科学細胞神経生物、3.生理研・発達生理認知行動発達）

[1P-1265] 複眼視細胞軸索形成における*Drosophila* B-type lamin Dm_0の機能解析

○長谷川 優[1]、佐々木 舞[1]、板谷 紗智美[1]、杉山 伸[2]、中馬 吉郎[1]、古川 和広[1]（1.新潟大・理学部・理学科・化学プログラム、2.名古屋大・院・生命理学）

[1P-1266] ヒト神経発生における FAD依存的ヒストン脱メチル化酵素 LSD1の役割

○平野 和己[1]、波平 昌一[1]（1.産業技術総合研究所）

[1P-1267] 脳梁発達期の帯状回パイオニア軸索ガイダンスにおける PlexinA1の役割

○湯川 和典[1]、池谷 明寛[1]、今泉 文孝[1]、MD Hossain[1]、MST-SHARIFA Laboni[1]、MD Bhuiyan[1]、根岸 隆之[1]（1.名城大学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

ポスター発表 | 9. 神経科学 | 2) シナプス伝達、可塑性、記憶、学習、行動（ポスター）

[1P-9-2] 9. 神経科学-2) シナプス伝達、可塑性、記憶、学習、行動

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1268] HCN channels in cerebellar and hippocampal neurons

○Anne Gunther[1,2]、Ted Abel[3]、Arnd Baumann[2]、Thomas Launey[1] （1.Lab. Synaptic Molecules of Memory Persistence, RIKEN Brain Science Institute, Saitama, Japan、2.Institute of Complex Systems 4, Research Center Julich, Julich, Germany、3.Department of Biology, University of Pennsylvania, Philadephia, Pennsylvania, USA）

[1P-1269] 母子分離後の仔マウス輸送反応発現における帯状回コルチコトロピン放出ホルモン受容体シグナルの関与

○吉田 さちね[1,2]、大西 竜子[3]、恒岡 洋右[1]、山本 夕香[1]、小田 哲子[1]、黒田 優[1]、黒田 公美[4]、船戸 弘正[1,5]（1.東邦大・医・解剖微細形態、2.JST・さきがけ、3.琉球大・農、4.理研・脳センター、5.筑波大・WPI-IIIS）

[1P-1270] 少数のニューロン内のキサンチンデヒドロゲナーゼが個体の低温耐性を制御

○高垣 菜式[1,2]、太田 茜[1,2]、水口 洋平[3]、豊田 敦[3]、久原 篤[1,2] （1.甲南大・院自・生物学、2.甲南大・統合ニューロ、3.国立遺伝学研究所）

[1P-1271] ゼブラフィッシュを用いた恐怖条件付け学習に必須な脳領域の遺伝学的研究

○小谷 友理[1]、川上 浩一[1,2] （1.遺伝研、2.総研大）

[1P-1272] 低温馴化における新規遺伝子の同定と温度馴化多様性の分子遺伝学

○岡畑 美咲[1]、井関 敏啓[1]、Aguan Wei[2]、水口 洋平[3]、豊田 敦[3]、太田 茜[1]、久原 篤[1] （1.甲南大・院自・生物学・統合ニューロ、2.Center for Integrative Brain Research, Seattle Children's Research Institute, Seattle, USA、3.国立遺伝学研究所）

[1P-1273] キイロショウジョウバエ腹部のドーパミン作動性ニューロンによる雌の生殖行動の制御

○木村 賢一[1]、佐藤 千晶[1]、山元 大輔[2] （1.北教大・札幌・生物、2.東北大・院・生命）

[1P-1274] 線虫*C. elegans*神経プレシナプスアダプター分子 RIMB-1による電位依存性カルシウムチャネルの局在制御

○櫛引 勇人[1]、鈴木 利治[1]、多留 偉功[1] （1.北大・院薬・神経科学）

[1P-1275] 線虫 C. elegansにおける CREBを介した低温馴化の神経回路

○藤井 智子[1]、五百藏 誠[1]、井上 朋香[1]、久原 篤[1]、太田 茜[1] （1.甲南大学大学院 自然科学研究科）

[1P-1276] 小胞体ネットワーク制御によるモノアミン分泌機構

○川尻 愛子[1]、喜多 泰之[1,2]、中山 敬一[2]、白根 道子[1,2]（1.名市大・院薬・分子生物薬学、2.九大・生医研・分子医科学）

[1P-1277] 大脳皮質および海馬の遺伝子発現差異のイン・シリコ解析

○味岡 雄大[1]、中井 謙太[1] （1.東大・院新領域・メディカル情報生命）

[1P-1278] 神経ネットワークの網羅的解析に向けた「 functional cellomics」の開発

○青木 航[1,2]、山内 悠至[1]、松倉 秀典[1]、万 沢夫[1]、橋本 崇志[1]、油屋 駿介[1]、植田 充美[1] （1.京大・院農・応用生命、2.JST さきがけ）

[1P-1279] マウス大脳皮質におけるパルブアルブミンニューロンと神経細胞周囲網の年齢に関連した変化

○上野 浩司[1,4]、高雄 啓三[2]、末光 俊介[3]、岡本 基[4]、石原 武士[3] （1.川崎医福大・臨検、2.富山大・生命科学ユニット、3.川崎医科大・精神、4.岡大・保健院）

[1P-1280] saposin D欠損マウスの過剰飲水行動とGPR19および Agt1Rの関係

○久樹 晴美[1,3]、宮川 誠[2]、安達-玉盛 三美[3]、内田 俊也[4]、岡崎 具樹[3] （1.帝京大・医療共通教育研究センター、2.帝京大・中央実験動物施設、3.帝京大・医学部・生化学、4.帝京大学・医学部・内科）

[1P-1281] RNG105/Caprin1欠損マウス神経樹状突起における Arf制御因子 mRNAの局在低下

○大橋 りえ[1,2]、木森 義隆[2,3,4]、重信 秀治[2,5]、椎名 伸之[1,2,6] （1.基生研・神経細胞生物学、2.総研大・基礎生物学、3.自然科学研究機構・新分野創成・イメージングサイエンス、4.基生研・多様性生物学、5.基生研・生物機能情報、6.自然科学研究機構・岡崎統合バイオ）

[1P-1282] テスカルシンは神経細胞におけるクラス１ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の標的遺伝子である。

○高松 岳矢[1,2]、片桐 千秋[3]、清水 千草[4]、圓谷 智之[1]、金 美花[5]、若林 繁夫[6]、高山 千利[4]、松下 正之[1]（1.琉球大・院医・分子細胞生理、2.琉球大・院医・精神、3.琉球大・院医・脳外、4.琉球大・院

©日本分子生物学会/日本生化学会

医・分子解剖、5.国循研セ・肺高血圧先端医学研、6.大阪医大・医・薬理）

[1P-1283] セロトニンによる線虫捕食行動の制御機構の解明

○奥村 美紗子[1,2]、Martin Wilecki[1]、Ralf Sommer[1]（1.Dept. for Evol. Biol., Max-Planck Inst for Dev. Biol.、2.広大・院理・生物科学）

[1P-1284] 脱ユビキチン化酵素 USP46の基質探索

○石垣 清啓[1]、村田 知弥[2]、高田 耕司[3]、岩本 武夫[4]、海老原 史樹文[2]（1.関西学院大・院・理工・生命科学、2.関西学院大・理工・生命医化、3.慈恵医大・自然・生物、4.慈恵医大・院・分子診断・治療学）

[1P-1285] ショウジョウバエのゲノム編集を用いたタンパク質局在・発現解析法

○大地 啓太[1]、武智 広樹[1]、荒木 智裕[1]、鈴木 崇之[1]（1.東工大・生命理工）

[1P-1286] アミロイドβオリゴマーを発現するアルツハイマー病モデルマウスの行動学的および電気生理学的解析

○落石 知世[1]、清末 和之[1]、戸井 基道[1]、海老原 達彦[1]、角 正美[2]（1.産総研・バイオメディカル、2.茨城県立医療大・保健医療・医科学センター）

[1P-1287] ショウジョウバエ幼虫の光逃避行動において後退運動を制御する介在神経細胞の同定

○大浦 将弥[1]、高坂 洋史[1]、能瀬 聡直[1,2]（1.東大・院新領域・複雑理工、2.東大・院理・物理）

[1P-1288] ショウジョウバエ近縁種における幼虫行動特性の比較解析

○松尾 悠司[1]、能瀬 聡直[1,2]、高坂 洋史[1]（1.東大・院新領域・複雑理工学、2.東大・院理・物理学）

[1P-1289] L型レクチン VIPLaはゼブラフィッシュの感覚ニューロンにおける電位依存性ナトリウムチャネルの発現に必要である

○有薗 幸恵[1]、Sean Low[2]、平田 普三[1]（1.青学・理工・生命科学、2.ロックフェラー大・感覚神経研）

[1P-1290] 多点相互作用による RIMタンパク質の P/Q-type Ca^{2+} channel活性制御機構の解明

○平野 満[1]、高田 宜則[1]、Chee Fah Wong[1]、山口 一真[1]、小谷 拓史[1]、黒川 竜紀[1]、森 誠之[1]、森 泰生[1]（1.京大・院工・合成・生物）

[1P-1291] ショウジョウバエ視神経系における神経活動依存的なシナプスリモデリングを制御する遺伝子

○荒木 智裕[1]、川村 ひなた[1]、下薗 麻衣[1,2]、杉江 淳[2]、羽毛田 聡子[1]、鈴木 崇之[1]（1.東工大・生命理工学院、2.新潟大・脳病態解析分野）

[1P-1292] 単一ニューロンにおける Ca2+ ダイナミクス

○久下 小百合[1,3]、寺本 孝行[1,3]、徳永 旭将[2,3]、石原 健[1,3]（1.九州大学大学院・理学研究院、2.九州工業大学・情報工、3.CREST）

[1P-1293] 1'-Acetoxychavicol acetateの認知機能改善効果にはプロテアソーム活性の亢進と血清ケトン体濃度の増加が関与する

○湯浅（小島） 明子[1]、夜久 圭介[1]、山本 富矢[1]、広田 栞[1]、川辺 光一[2]、竹中 重雄[3]、湯浅 勲[1]（1.大阪市大・院生活科学・栄養機能科学、2.大阪市大・院文・心理学、3.大阪府大・院生命環境科学・獣医学）

[1P-1294] 線虫*C. elegans*において、記憶の忘却は、感覚応答をコントロールを介して、複数のシグナル伝達経路により、協調的・時期特異的に行われる

○北園 智弘[1]、久下 小百合[2,3]、井上 明俊[1]、藤原 学[1,2]、石原 健[1,2,3]（1.九州大学大学院システム生命科学府、2.九州大学理学研究院生物科学部門、3.CREST）

[1P-1295] マウス海馬スライスにおいてコルチコステロンが引き起こす神経活動変化のレーザー共焦点カルシウムイメージング

岩田 尚樹[1]、浜崎 雄太[2]、小山内 裕美[3]、○斎藤 稔[1,2,3]（1.日大院・総合基・相関理化学、2.日大・文理・物理生命システム、3.日大・文理・自然研）

[1P-1296] 恐怖記憶形成時のパルブアルブミン陽性ニューロン分子動態変化の解析

○矢部 穂乃佳[1]、石川 理絵[1]、喜田 聡[1,2]（1.東京農大院・農・バイオ、2.CREST・JST）

[1P-1297] 転写調節因子 CREB活性化によるビタミンB1欠乏誘導性海馬変性と記憶障害の改善

○辻 竜平[1]、渡辺 玉絵[1]、岸本 拓也[1]、喜田 聡[1,2]（1.東京農大院、2.JST・CREST）

[1P-1298] 光遺伝学的手法を用いた社会行動と社会的認知記憶に対する海馬の役割の解析

○清田 啓輔[1]、谷水 俊之[1]、長葭 大海[1]、石川 理絵[1]、喜田 聡[1,2]（1.東京農大院・農・バイオ、2.CREST・JST）

[1P-1299] フォワード・ジェネティクスにより樹立された睡眠異常マウス家系の行動表現型における分子・神経回路基盤

○本多 隆利[1,2,3]、藤山 知之[1]、三好 千香[1]、船戸 弘正[1,4]、柳沢 正史[1]（1.筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 (WPI-IIIS)、2.日本学術振興会 特別研究員 (DC1）、3.筑波大学 ヒューマンバイオロジー学位プログラム、4.東邦大学 医学部 微細形態学分野）

[1P-1300] 小脳興奮性シナプスにおけるダウン症関連分子

の機能解析

○出羽 健一[1,2]、有村 奈利子[2]、田谷 真一郎[2]、堺 和久[2]、小泉 修一[1]、星野 幹雄[2]（1.山梨大学大学院 薬理学講座、2.国立精神・神経医療研究センター 病態生化学研究部）

[1P-1301] RNA顆粒構成因子 RNG105は、シナプス後部形態の可塑的変化を制御し、記憶形成に必要である

○中山 啓[1,2]、阿部 学[3]、山崎 真弥[3]、藤川 顕寛[4]、野田 昌晴[2,4]、二木 啓[5]、御子柴 克彦[6]、崎村 建司[3]、椎名 伸之[1,2]（1.岡崎統合バイオ・基生研・神経細胞生物学、2.総研大、3.新潟大・脳研・細胞神経生物、4.基生研・統合神経生物学、5.神戸市看護大学・専門基礎科学・医科学、6.理研・脳科学総合研究センター・発生神経生物）

[1P-1302] ラット背外側線条体の習慣形成における機能的半球差

○阪口 幸駿[1]、櫻井 芳雄[1]（1.同志社大・院脳科学・発達加齢脳）

[1P-1303] 脳特異的ヘテロクロマチンプロテイン１（ HP1）欠損マウスにおける行動障害の解析

○堀家 康太[1]、吉原 亨[1]、成瀬 智恵[1]、古関 明彦[2]、浅野 雅秀[1]（1.京大・院医・附属動物実験施設、2.理研・統合生命医科学研究センター）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 5) 遺伝子工学、核酸工学、ゲノム編集（ポスター）

[1P-11-5] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-5) 遺伝子工学、核酸工学、ゲノム編集

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1304（1AW23-1）] 多項目自動血球分析装置（ XN-30）によるマラリア原虫の検出と抗マラリア薬研究への応用

○東岸 任弘[1]、板垣 佐和子[1]、鈴木 裕義[2]、岡崎 智紀[2]、内橋 欣也[2]、堀井 俊宏[1]（1.阪大・微研・分子原虫学、2.シスメックス株式会社）

[1P-1305] 形質導入において有用な新規エレクトロポレーション法の開発

○沼野 利佳[1]、松尾 美奈子[1]、木村 尚文[1]、栗田 弘史[1]、水野 彰[1]、赤松 和土[2]（1.豊橋技術科学大学 環境生命工学系、2.順天堂大学 医学部 ゲノム 再生医療センター）

[1P-1306] 静電界による油中液滴操作を応用した遺伝子導入技術における外来遺伝子発現機構の解明

○岸川 健太[1]、栗田 弘史[1]、沼野 利佳[1]、高島 和則[1]（1.豊橋技科大・環境・生命）

[1P-1307] 新規エレクトロポレーション法を用いたゲノム編集効率の測定

○山田 悠介[1,2]、松尾 美奈子[1,2]、栗田 弘史[1,2]、沼野 利佳[1,2]（1.豊橋技術科学大学、2.豊橋技術科学大学）

[1P-1308] 新規遺伝子導入法の iPS細胞作製への応用

○長瞞 彩香[1]、松尾 美奈子[1]、栗田 弘史[1]、赤松 和土[2]、沼野 利佳[1,2]（1.豊橋技科大・工・環境生命、2.順天堂大・医・再生医療センター）

[1P-1309] 新規エレクトロポレーション法で作製したiPS細胞の安全性

○篠崎 竜登[1]、松尾 美奈子[1]、栗田 弘史[1]、赤松 和土[2]、沼野 利佳[1]（1.豊橋技術科学大学・環境生命工学系、2.順天堂大学・医学部・ゲノム・再生医療センター）

[1P-1310] ヒトサイトカイン遺伝子導入イネの作出とその発現解析

○松井 颯[1]、角田 裕太郎[1]、古谷 綾子[1]、安西 弘行[1]（1.茨城大・遺伝子）

[1P-1311] *Nicotiana tabacum* と *N. benthamiana* 間の接ぎ木による RdDMを介した発現抑制

○伊藤 一成[1]、高島 瞭[1]、中島 颯甫[1]、葛西 厚史[2]、赤田 辰治[2]、原田 竹雄[2]、古谷 綾子[1]、安西 弘行[1]（1.茨城大・遺伝子、2.弘前大・農学生命）

[1P-1313] Development of Chromogenic Detection of Nitrofurans for Aquaculture

○Navarat Chaisri[1]、Fita Pualin[2]、Nontawith Areechon[3]、Kunihiko Futami[4]、Masashi Maita[4]、Ikuo Hirono[5]、Kiattawee Choowongkomon[6,7]、Sasimanas Unajak[1,6,7]（1.Interdisciplinary Graduate Program in Genetic Engineering, Grad. Sch., Kasetsart University of Thailand、2.Universitas Katolik Indonesia Atma Jaya, Indanesia、3."Dept. of Aquaculture, Faculty of Fisheries, Kasetsart University of Thailand"、4.Laboratory of Fish Health Management, Tokyo Univ. of Marine Science and Technology, Tokyo 、5.Laboratory of Genome Science, Grad. Sch. of Tokyo Univ. of Marine Science and Technology, Tokyo、6.Biochemical Research Unit for Feed Utilization Assessment, Faculty of Science, Kasetsart University of Thailand、7.Depart. of Biochemistry, Faculty of Science, Kasetsart University of Thailand）

[1P-1314] MMLV逆転写酵素、耐熱型 DNAポリメラーゼおよび DNA/RNAヘリカーゼの組み合わせによる

©日本分子生物学会/日本生化学会

高感度な one-step RT-PCR

岡野 啓志[1]、馬場 美聡[1]、山崎 朋美[1]、秀瀬 涼太[2]、藤原 伸介[2]、柳原 格[3]、林 司[4]、宇治家 武史[4]、兒島 憲二[1]、滝田 禎亮[1]、○保川 清[1]（1.京大院農、2.関西学院大、3.大阪母子医療センター研究所、4.カイノス）

[1P-1315] 新しい育種技術の消費者理解を深めるための情報提供と消費者受容

○笹川 由紀[1]、佐々 義子[1]、田中 豊[2]（1.NPO法人くらしとバイオプラザ２１、2.大阪学院大・情報）

[1P-1316] iPS細胞に活用可能な遺伝子誘導発現系'pFLEXシステム'

○宮本 健吾[1]、堀込 一彦[1]、池田 篤史[1]（1.大日本住友製薬株式会社）

[1P-1317] マダニ胚由来細胞における遺伝子発現ベクターの探索並びに構築

○田仲 哲也[1]、井戸 明子[1]、草木迫 浩大[1]、諸熊 遥樹[1]、正谷 達謄[2]、Emmanuel Hernandez[1]、Melbourne Talactac[1]、好井　健太朗[3]（1.鹿児島大・共同獣医・感染症、2.鹿児島大・共同獣医・TAD、3.北大・院獣医・公衆衛生）

[1P-1318] 核酸クロマトを使用した腸管病原菌遺伝子検出キット GeneFields Bacteria の評価

○丸岡 弘規[1]、日根野谷 淳[2]、山崎 伸二[2]（1.倉敷紡績株式会社 技術研究所、2.大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科）

[1P-1319] 新たなゲノム編集技術 GONAD法を用いた遺伝子改変ラットの作製法

小林 朋絵[1]、難波 真澄[1]、古家野 孝行[1]、佐藤 正宏[2]、大塚 正人[3,4]、○松山 誠[1]（1.重井医学研究所分子遺伝部門、2.鹿大・医用ミニブタセ・遺伝子発現、3.東海大・医・分子生命、4.東海大・総医研）

[1P-1320] ゲノム編集による高効率点変異導入方法

○岡本 幸子[1]、天石 泰典[1]、榎 竜嗣[1]、峰野 純一[1]（1.タカラバイオ・CDMセンター）

[1P-1321] CRISPR/Cas9システムにおける Cas9とdCas9の作用機序に影響を与える要因の解析

○丸山 翔平[1]、市川 大輔[2]、王 青波[3]、李 雨恬[4]、程 久美子[1,2,3]（1.東大・院新領域・メディカル情報生命、2.東大・院理・ 生物科学、3.東大・理・生物情報、4.UC San Diego・Div. of Biol. Sci.）

[1P-1322] CRISPR/Cas9法を用いた針葉樹スギのゲノム編集技術の開発

○西口 満[1]、二村 典宏[1]、大宮 泰徳[1,2]、遠藤 真咲[3]、三上 雅史[3,4]、土岐 精一[3,4,5]、小長谷 賢一[2]、七里 吉彦[2]、谷口 亨[2]、丸山 E. 毅[1]（1.森林総研・樹木分子遺伝、2.森林総研・森林バイオ、3.農研機構・生物機能利用部門、4.横浜市大・生命ナノ、5.横浜市大・木原生研）

[1P-1323] 簡便なゲノム編集マウス作製法 GONAD法を用いたアルビノマウスのレスキュー実験

○高林 秀次[1]、青島 拓也[1]、佐藤 正宏[2]、大塚 正人[3]（1.浜松医大・光尖端・医用動物、2.鹿大・医用ミニブタ、3.東海大・医・基礎医学）

[1P-1324] CRISPR/Cas9システムを用いた免疫細胞のゲノム編集

○山口 朋奈[1]、川越 智子[1]、藤枝 貴行[1]、近藤 由隆[1]、福島 寛隆[1]、加藤 文法[1]、黒田 賢聖[1]、金田 安史[2]（1.石原産業(株)ライフサイエンス事業本部、2.大阪大・院医・遺伝子治療学）

[1P-1325] Cas9と DNAの結合力が HDRと NHEJの活性を規定する

○加藤 朋子[1]、高橋 剛[1]、許 絲茵[1]、宮岡 佑一郎[1]（1.公益財団法人 東京都医学総合研究所）

[1P-1326] マウス表現型間の関係性の全景

○田中 信彦[1]、桝屋 啓志[1]（1.理研BRC・マウス知識化）

[1P-1327] 簡便かつ高効率な骨髄への細胞デリバリー手法の開発

○口丸 高弘[1]、磯崎 達大[1]、宮原 瞳[1]、峯岸 美紗[1]、門之園 哲哉[1]、近藤 科江[1]（1.東工大・生命）

[1P-1328] ラット凍結前核期胚を使用した遺伝子改変ラット作製

○本村 翔[1]、田中 貴雄[1]、大口 悦宏[1]、神田 由紀[1]、岩山 洋美[1]（1.株式会社ケー・エー・シー）

[1P-1329] がん特異的遺伝子 Cancer-type OATP1B3を標的とした RNA *trans*-splicing分子によるがん自殺遺伝子治療の基盤確立

○井手 秀行[1]、孫 雨晨[1]、原田 まなみ[1]、安西 尚彦[2]、Ulrich Koller[3]、Anna Stierschneider[3]、Josefina Hofbauer[3]、Christina Gruber[3]、千葉 寛[1]、秋田 英万[1]、降幡 知巳[1,2]（1.千葉大院・薬・薬物学、2.千葉大院・医・薬理学、3.Lab. for Mol. Ther., EB-Hause Austria）

[1P-1330] エピゲノム編集：特定の DNAメチル化領域を効率よく操作する方法の開発

○森田 純代[1]、野口 浩史[2]、堀居 拓郎[1]、中林 一彦[3]、木村 美香[1]、岡村 浩司[4]、坂井 淳彦[2]、中嶋 秀行[2]、秦 健一郎[3]、中島 欽一[2]、畑田 出穂[1]（1.群馬大学・生体調節研究所・生体情報ゲノムリソースセンター、2.九州大学大学院医学研究院・応用幹細胞医科学部門応用幹細胞医科学講座・基盤幹細胞学分野、3.国立成育医療研究センター・周産期病態研究

©日本分子生物学会/日本生化学会

部、4.国立成育医療研究センター・システム発生・再生医学研究部）

[1P-1331] 凍結保存胚とエレクトロポレーションを用いたゲノム編集マウスの作製

○国広 弥生[1]、小谷 祐子[1]、山内 祐子[1]、夘野 善弘[1]、吉見 一人[1,2]、真下 知士[1,2]（1.阪大・院医・附属動物実験施設、2.阪大・院医・ゲノム編集センター）

[1P-1332] ウィルソン病患者由来 iPS細胞における R778L変異の CRISPR/Cas9による修復

○高橋 剛[1]、加藤 朋子[1]、許 絲茵[1]、宮岡 佑一郎[1]（1.東京都医学総合研究所 再生医療プロジェクト）

[1P-1333] NHEJ/MMEJを介したゲノム編集による「簡易」で「時短」そして「高効率」な遺伝子改変ヒト ES細胞株の樹立法

○小林 徳彦[1]、湯尾 明[1]、佐伯 久美子[1]（1.国立国際医療研究センター・研究所・疾患制御）

[1P-1334] SLiCEをはじめとする精製酵素を用いないシームレス DNAクローニング法の評価

○本橋 健[1]（1.京都産業大学・総合生命）

[1P-1335] ADARの編集活性を部位特異的に誘導するガイドRNAの構築と編集誘導機構

○野瀬 可那子[1]、野口 龍磨[1]、星野 莉奈[1]、増田 修樹[1]、中川 裕之[2]、福田 将虎[1]（1.福岡大・理・化学、2.福岡大・理・地球圏科学）

[1P-1336] アガロースゲル電気泳動を用いた「リラックス型閉鎖環状 DNA」の直接的・定量的解析法

○水谷 晃子[1,2]、猪子 英俊[2]、田中 正史[2]（1.帝京平成大・健康メディカル、2.東海大・医）

[1P-1337] エレクトロポレーション法による CRISPR/Cas9ゲノム編集マウス作製時における高効率化と生存率向上の試み

○杉本 道彦[1]、有安 大典[1]、石黒 啓一郎[2]、伊藤 慎悟[3]、荒木 喜美[1]（1.熊大・生命資源・疾患モデル、2.熊大・発生研・染色体制御、3.熊大・院生命・微生物薬学）

[1P-1338] マウス線維芽細胞株 NIH3T3 RNase H2遺伝子欠損株の作製

○月足 元希[1]、兒島 憲二[1]、馬場 美聡[1]、滝田 禎亮[1]、保川 清[1]（1.京大・院農・食生科）

[1P-1339] 有用タンパク質生産のための TALENによるカイコのセリシン１遺伝子イントロン領域へのノックイン

○立松 謙一郎[1]、早川 舞[1]、内野 恵郎[1]、瀬筒 秀樹[1]（1.農研機構・生物機能研・カイコ機能）

[1P-1340] MBDと CXXC融合 Luciferaseを用いたグローバル DNAメチル化レベル簡易測定法の開発

○馬場 勇次[1]、軽部 征夫[1]、吉田 亘[1]（1.東京工科大・院バイオ・バイオニクス専攻）

[1P-1341] SUMO化修飾を受けた組み換え蛋白質を大腸菌内で発現精製する方法の開発

○増田 翔[1]、小島 駿[1]、星野 秀和[1]、鳥越 秀峰[1]（1.東京理科大・理・応用化学）

[1P-1342] PPRタンパク質を応用した RNA操作技術の開発

○八木 祐介[1,2]、中村 崇裕[1]（1.九大・農・植物分子、2.エディットフォース株式会社）

[1P-1343] Lox配列の２ステップ導入による効率的なコンディショナルノックアウトマウスの作製

○堀居 拓郎[1]、森田 純代[1]、木村 美香[1]、寺脇 直美[1]、渋谷 海大[1]、畑田 出穂[1]（1.群馬大学・生体調節研究所・生体情報ゲノムリソースセンター）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 6) タンパク質工学、抗体工学、細胞工学（ポスター）

[1P-11-6] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-6) タンパク質工学、抗体工学、細胞工学

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1344] 主鎖環状化を利用した G-CSFの安定化改変

○宮房 孝光[1]、渋谷 理紗[2]、二島 渉[1]、大原 璃恵[2]、吉田 昼也[1]、本田 真也[1,2]（1.産総研・バイオメディカル、2.東大院・新領域・メディカル情報）

[1P-1345] G-CSFの主鎖環状化が構造安定性に及ぼす熱力学的効果

○渋谷 理紗[1]、宮房 孝光[2]、本田 真也[1,2]（1.東大院・新領域・メディカル情報、2.産業技術総合研究所・バイオメディカル）

[1P-1346] マウス人工染色体ベクター上で目的遺伝子を増幅させるための研究

○阿蘇品 愛美[1]、多田 奈津子[2]、田地野 浩司[2]、清水 典明[1]（1.広大・院生物圏・生物機能開発学、2.株式会社chromocenter）

[1P-1347] 反復配列による遺伝子発現抑制 (RIGS; Repeat-induced gene silencing)と、遺伝子発現活性化 (RIGA; repeat-induced gene activation)

○大垣 祐介[1]、福間 美樹[1]、大崎 究[1]、清水 典明[1]（1.広大・院生物圏・生物機能開発学）

[1P-1348] 染色体外因子の安定性と遺伝子増幅に与える SIRT1の影響

○谷口 諒之介[1]、大岡 侑司[1]、宇谷 公一[2]、Mirit Aladjem[2]、清水 典明[1]（1.広大・院生物圏・生物機能開発学、2.Center for Cancer Research, NCI, NIH）

[1P-1349] 配列特異的2本鎖切断が遺伝子増幅と染色体外因

©日本分子生物学会/日本生化学会

子の動態に与える影響
○大畠 吉裕[1]、鈴木 航太[1]、清水 典明[1]（1.広大・院生物圏・生物機能開発学）

[1P-1350] 種間細胞融合による、ヒト染色体の断片化と、安定な染色体外因子 (DM)の形成
○山村 勇貴[1]、坂丸 直人[1]、Rita Kapoor [1]、宇谷 公一[1]、清水 典明[1]（1.広大・院生物圏・生物機能開発学）

[1P-1351] Improved expression of immunodominant antigen (FLAG300) using construct fusion recombinant protein, GroEL-FLAG300
○Sumet Wajanarogana[1]、Kanyanan Kritsiriwuthinan[2]（1.Dept. of Basic Med. Sci., Fac. of Med., Vajira Hosp., Navamin. Univ.、2.Fac. of Med. Tech., Rangsit Univ.）

[1P-1353] Analysis of structural propensity of epitopes for antibody against cancer specific antigen observed in cancer patients
○Hannaneh Ahmadi[1]、Haruka Maruyama[1]、Yuya Ohkawa[1]、Tomoko Honjo[1]、Junichiro Futami[1]、Rie Kinoshita[2]（1.Natu. Sci. Tech. Grad Sch of Okayama Univ.、2.Dept. Cell Biol. Med. Okayama Univ.）

[1P-1354] Towards directed evolution of transcriptional regulators using compartmentalized-partnered replication with a novel optimized Tth DNA polymerase
○Seaim Aye[1]、Nobuhide Doi[1]、Kei Fujiwara[1]（1.Dept. of Biosci. and Informa., Grad. Sch. of Sci. and Tech., Keio Univ.）

[1P-1355] CHARACTERIZATION AND PURIFICATION OF THIAMINE- BINDING PROTEIN FROM GREEN BEAN ON DEVELOPMENT OF THIAMIN LEVEL MEASUREMENT TECHNIQUE IN BLOOD SERUM
○Dwirini Gunarti[1,2]、Rondang Siagian[3]、Witono Basuki[4]、Mohamad Sadikin[1,2]（1.Depertement of Biochemistry and Molecular Biology University of Indonesia、2.Indonesian Society of Biochemistry and Molecular Biology、3.Depertement of Biochemistry University Christian Indonesia、4.Center for Bioindustrial Technology, Agency for the Assessment and Application of Technology ）

[1P-1356] 組換えカイコ由来ウシ顆粒球マクロファージコロニー刺激因子の搾乳直後の乳汁中での安定性
○大田 方人[1]、宮澤 光博[2]、立松 謙一郎[3]、菊 佳男[4]、林 智人[4]、犬丸 茂樹[5]（1.農研機構・動衛研・疾病防除基盤、2.農研機構・生物機能研・生体物質、3.農研機構・生物機能研・カイコ機能、4.農研機構・動衛研・寒地酪農衛生、5.農研機構・動衛研・企画管理部）

[1P-1357] 大腸菌における安息香酸水酸化酵素の異種発現と生物生産システムへの応用
○玉木 峻[1]、今石 浩正[1]（1.神戸大・バイオシグナル総研セ）

[1P-1358] キンギョ抗体遺伝子の多様性解析と抗原特異的scFv断片の取得
岡崎 文美[1,2]、額田 夏生[1]、百瀬 直樹[1]、○田丸 浩[1,2,3]（1.三重大院・生資、2.三重大・先端科学研支セ、3.三重大・新産業創成）

[1P-1359] 標的抗原特異的 CDR3と天然アルパカ CDR1-2領域を使用した VHH抗体の迅速試験管内進化法
○村上 明一[1]、吉田 麻衣子[1,3]、塚原 成俊[2]、東 隆親[3]、岸本 英博[1]（1.琉大・院医、2.イノベックスサイエンス株、3.抗体工学研究センター）

[1P-1360] 抗体の非天然型構造に特異的な小型人工タンパク質 AF.2A1を利用した抗体医薬品の凝集化抑制方法
○千賀 由佳子[1]、渡邊 秀樹[1]、本田 真也[1]（1.産総研・バイオメディカル）

[1P-1361] 免疫系培養細胞を利用した抗体の分子進化工学
○橋本 講司[1]、黒澤 恒平[1]、村山 晃歩[1]、瀬尾 秀宗[1]、太田 邦史[1]（1.東大・総合文化・生命環境）

[1P-1362] キメラ受容体の細胞内局在最適化による高感度タンパク質間相互作用検出系の確立
○垣内 洋祐[1]、長棟 輝行[1,2]、河原 正浩[2]（1.東大院・工・バイオ、2.東大院・工・化生）

[1P-1363] 創薬応用を目指した一本鎖抗体（ scFv）の最適化
○菊地 朝香[1]、角田 真二[1]、山元 崇[1]（1.帝人ファーマ株式会社）

[1P-1364] 免疫細胞で効率的なトランスフェクションを達成するためのツール
○近藤 由隆[1]、藤枝 貴行[1]、川越 智子[1]、山口 朋奈[1]、福島 寛隆[1]、加藤 文法[1]、黒田 賢聖[1]、金田 安史[2]（1.石原産業(株)ライフサイエンス事業本部、2.大阪大・院医・遺伝子治療学）

[1P-1365] 高電圧パルス印加による「その場」タンパク質抽出固定化技術の開発
○平賀 諒太[1]、岸 一希[1]、高橋 俊介[1]、大重 真彦[1]、桂 進司[1]（1.群大・院理工・環境創生）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-1366] キチン結合ドメインを分子骨格とする人工結合タンパク質ファージディスプレイライブラリーの作製
○安井 典久[1]（1.岡山大・院医歯薬・薬）

[1P-1368] ルシフェラーゼを用いた Chemical CALI技術の構築
○石本 哲也[1]、森 寿[1]（1.富山大・院医・分子神経科学）

[1P-1369] ペプチド提示によるアミロイド繊維形成阻害
中鍵 辰哉[1]、鈴木 学[2]、松尾 光一[3]、○佐野 健一[1,4]（1.日本工大・工・創造システム、2.日本工大・先端材料技術C、3.広島大・放射光科学センター、4.日本工大・院工・環境共生）

[1P-1370] トランスジェニックカイコで作出したヒト組換えヒトフィブリノゲンの物性検討
○皆川 吉[1]、中曽 譲[1]、冨田 正浩[2]、武田 公一[2]、五十嵐 武典[2]、関口 哲[1]（1.日本製粉株式会社、2.株式会社免疫生物研究所）

[1P-1371] 糖鎖改変とアミノ酸配列置換の組み合わせが抗体の生物活性に与える影響
○青山 道彦[1]、多田 稔[1]、橋井 則貴[1]、立松 謙一郎[2]、瀬筒 秀樹[2]、石井 明子[1]（1.国衛研、2.農研機構）

[1P-1372] 新規抗体作製技術 ADLibシステムにおける抗体遺伝子多様化の解析
○村山 晃歩[1]、瀬尾 秀宗[1]、太田 邦史[1]（1.東大院・総合文化）

[1P-1373] カチオン化法による Foxa2タンパク質の細胞導入と機能発揮の証明
○渡邉 亮太[1]、周 伯揚[1]、柴田 知希[1]、二見 翠[1]（1.岡理大・工・生体医工）

[1P-1374] REIC/Dkk-3タンパク質の相互作用分子解析による抗がん免疫活性機構の解明
○羽田 彩夏[1]、中川 そらみ[1]、木下 理恵[1,2]、二見 淳一郎[1]（1.岡山大・院・自然科学・生命医用工学、2.岡山大・医・細胞生物）

[1P-1375] 材料表面の抗バイオフィルム化を指向したプロテアーゼの改良
○今村 萌美[1]、本村 圭[1]、石田 丈典[1]、池田 丈[1]、廣田 隆一[1]、舟橋 久景[1]、黒田 章夫[1]（1.広島大・先端研・分子生命）

[1P-1376] 電界を用いた封入体タンパク質の新規リフォールディング技術の開発
○高岩 将太[1]、齊藤 琢太[1]、畠山 拓也[1]、高橋 俊介[1]、大重 真彦[1]、桂 進司[1]（1.群馬大学・院理工・環境創生）

[1P-1377] インターロイキン11シグナルを制御するシングルドメイン抗体の探索
○森 千夏[1]、中木戸 誠[2]、長門石 曉[3]、津本 浩平[2,3]（1.東大・院工・化学生命工学、2.東大・院工・バイオエンジニアリング、3.東大・医科研）

[1P-1378] CP5システム： C末端ミニタグとウサギモノクローナル抗体を用いた高効率タンパク質精製システム
○竹田 浩之[1]、Wei Zhou[1]、城戸 康希[1]、寿野 良二[2]、岩崎 隆弘[1]、小林 拓也[2,3]、澤崎 達也[1]（1.愛媛大・PROS、2.京大・院・医、3.AMED-CREST）

[1P-1379] *Pichia pastoris*を用いたシングルドメイン抗体の産生
○西川 紗織[1]、濱田 貴司[1]、西 義介[1]（1.長浜バイオ大院・バイオサイエンス研究科）

[1P-1380] スプライシング因子の過剰発現及び標的遺伝子配列の操作によるニワトリ B細胞株における遺伝子変異の増強
○太田 愛美[1]、西山 由美子[1]、曲 正樹[1]、徳光 浩[1]、金山 直樹[1]（1.岡山大・院・自然科学・生命医用工学）

[1P-1381] Ligation-based random shuffling法を用いたCDR1, 3領域にランダム変異を導入した semi-synthetic shark V_{NAR} type II libraryの構築と抗原特異的抗体の選択
○濱田 貴司[1]、滝澤 慶治[1,2]、西 秀麗[1,2]、Nan Jiang[1,2]、西 義介[1,2]（1.長浜バイオ大・バイオサイエンス学部、2.長浜バイオ大院・バイオサイエンス研究科）

[1P-1382] リポカリン型プロスタグランジン D合成酵素と難水溶性薬剤との網羅的相互作用解析
○寺岡 佳晃[1,2]、久米 慧嗣[1,3]、林 雨曦[3]、厚地 省吾[1]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.日本学術振興会特別研究員DC、3.理研・CLST）

[1P-1383] ペプチド多クローンを利用するウナギの脳下垂体ホルモンの特異性
○洪 善美[1]、朴 年補[1]、崔 誠槍[1]、朴 舷美[1]（1.マリンバイオ）

[1P-1384] 新規人工タンパク質複合体結合面における疎水性残基の組み合わせの検証
○原田 啓生[1]、八木 創太[1]、山岸 明彦[1]（1.東京薬科・院生命科学・生命科学）

[1P-1385] 人工タンパク質タンパク質相互作用に影響を与える結合面アミノ酸残基の最適化
○大場 創太[1]、八木 創太[1]、吉原 大貴[2]、山岸 明彦[1]（1.東京薬科・院生命科学・生命科学、2.東京農工・院農・生物制御科学）

[1P-1386] 貝の接着機構に着想を得た、ソルターゼ反応に

©日本分子生物学会/日本生化学会

よる接着性 VEGFの調製

○Xueli Ren[1,3]、宮武 秀行[2]、伊藤 嘉浩[1,2]
（1.理研・創発物性科学研究センター・創発生体工学材料研究チーム、2.理研・伊藤ナノ医工学研究室、3.吉林大学薬学部）

[1P-1387] α型葉酸受容体をターゲットとした、葉酸結合ペプチドアプタマーの*In silico*選択

○Roopa Dharmatti [1]、宮武 秀行[1]、伊藤 嘉浩[1,2]
（1.伊藤ナノ医工学研究室、2.理研・創発物性科学研究センター・創発生体工学材料研究チーム）

[1P-1388] DDS用エフェクター分子としての 細菌毒素組換え体の効率的な調製システムの構築

○岡田 千穂[1]、田端 厚之[2]、友安 俊文[2]、長宗 秀明[2]
（1.徳島大院・先端技術科学教育・生命テクノサイエンス、2.徳島大院・社会産業理工学・生物資源産業学）

[1P-1389] トランスジェニックカイコで発現させたがん抗原の発現および精製

○坂東 みのり[1]、近松 一朗[2]、桑原 伸夫[3]、瀬筒 秀樹[4]、立松 謙一郎[4]、武田 茂樹[1]（1.群大・院理工、2.群大・院医、3.群馬蚕技セ、4.農研機構）

[1P-1390] 超高親和性タグを内部に挿入した複数回膜貫通型タンパク質の精製法の検討

○高貫 一徳[1]、大井 里香[1]、有森 貴夫[2]、三宅 拓也[3]、檜作 洋平[3]、秋山 芳展[3]、加藤 幸成[4]、高木 淳一[2]、禾 晃和[1]（1.横浜市大・院・生命医、2.阪大・蛋白研、3.京大・ウイルス・再生医科学研、4.東北大・院・医）

[1P-1391] カイコ-バキュロウィルス発現系による膜タンパク質の生産とナノディスク技術による基質結合能評価系の開発

○久保 裕之[1]、岡部 あや子[1]、加藤 昌彦[1]（1.システムックス）

[1P-1392] 光誘導型発現プロモーターを用いたシアノバクテリア細胞内での NADPH-P450還元酵素およびP450遺伝子の共発現

○深沢 涼子[1]、鈴木 崇章[1]、有川 淳[2]、西澤 明人[3]、菓子野 康浩[4]、生城 真一[5]、木村 成伸[1]（1.茨城大院・理工・量子線科学、2.茨城大院・理工・物質工、3.茨城大・OCCI・VBL、4.兵庫県立大・院・生命、5.富山県立大院・工・生物工）

[1P-1393] シャペロン介在性オートファジー機構を利用した標的蛋白質を人工的に分解する新規手法の開発

○田村 理紗[1]、森 雅正[1]、立澤 桜子[1]、鳥越 秀峰[1]
（1.東京理科大・理・応用化学）

[1P-1394] 終末糖化産物 GA-pyridineに対するー本鎖抗体の抗原特異性と親和性の評価

○森田 光佑[1]、小谷 俊介[1]、中島 誠[1]、福田 夏希[1]、佐藤 卓史[1]、小橋川 敬博[1]、森岡 弘志[1]
（1.熊大・院・薬）

[1P-1395] HER2を標的とする IgG様二重パラトープ抗体の作製

○池内 祐介[1]、平川 泰史[1]、岩瀬 瑛大[1]、北村 昌也[1]、中西 猛[1]（1.阪市大・院工・化生）

[1P-1396] PVDF 膜に固定化した熱変性させた組織非特異型アルカリホスファターゼのリフォールディング

宗田 亜佑美[1]、齋藤 志ほ[1]、松村 智裕[1]、○草野 輝男[1]、折茂 英生[1]（1.日本医大・生化学）

[1P-1397] 変性温度の異なるドメインを持つタンパク質ナノブロックの構築と解析

○笹原 健嗣[1]、木村 尚弥[1]、小林 直也[1]、新井 亮一[1,2]
（1.信州大・繊維・応用生物、2.信州大・菌類微生物セ）

[1P-1398] 巨大リポソーム電気融合による異種細胞へのミトコンドリア導入

○川岸 由[1,2]、久保 純[2,3]、松本 健[2,3]、田中 敦[4]、小椋 利彦[2,3]、野村 伸一郎[1,2]（1.東北大・院・工学・ロボ、2.AMED-CREST、3.東北大・加齢研・神経機能情報、4.山形大・医・メディ推研・生化学解析）

[1P-1399] 愛媛県産ドチザメ近縁種を用いた vNAR抗体作製

○善家 弘貴[1]、柴田 祐稀[1]、清水 孝昭[2]、成田 公義[2]、岸本 聡[3]、中村 翠珠[2]、坂口 秀雄[2]、伊東 祐二[3]、澤崎 達也[1]、竹田 浩之[1]（1.愛媛大・PROS、2.愛媛県・水産研究セ、3.鹿児島大・院・理工・生命化学）

[1P-1400] 高効率なタンパク質発現のための環状 DNA固定化技術の開発

○高島 響[1]、林 一貴[1]、高橋 俊介[1]、大重 真彦[1]、桂 進司[1]（1.群大・院理工・環境創生）

[1P-1401] マイクロアレイでの分子セレクション技術の開発

○上野 真吾[1,2]、佐藤 秀介[1,2]、若井 涼[2]、塩谷 美夏[1]、一木 隆範[1,2]（1.川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター、2.東大院・工・マテリアル工学）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 8) バイオイメージング、バイオセンサー（ポスター）

[1P-11-8] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-8) バイオイメージング、バイオセンサー

©日本分子生物学会/日本生化学会

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1402] バクテリアが産生する膜小胞を介する細胞間コミュニケーションの生細胞イメージング
○菊池 洋輔[1]、清川 達則[2]、森永 花菜[2]、尾花 望[3]、豊福 雅典[3]、野村 暢彦[3]、福森 義宏[1]、田岡 東[1]（1.金沢大・理工、2.筑波大・院生命、3.筑波大・生命）

[1P-1403] 磁性細菌の生細胞内 pHの蛍光イメージング
○江口 友佳子[1]、田岡 東[2]、福森 義宏[2]（1.金沢大院・自然科学、2.金沢大・理工）

[1P-1404] Hydrogel-based biosensor for the immunoassay of hepatitis B core antigen
Siew Lu Lim[1]、Chien Wei Ooi[1]、Chan Eng Seng[1]、○Beng Tey[1]（1.School of Engineering; Advanced Engineering Multidisciplinary Platform (AEP), Monash University Malaysia）

[1P-1405] その切片、どこから採ってきたの？
○多鹿 友喜[1]、村上 徹[1]、高橋一池澤 麻衣子[2]、上野 仁之[1]、依藤 宏[1]（1.群馬大・院医・機能形態学、2.群馬大・院保健・リハビリテーション学）

[1P-1406] ディープ・ラーニングを用いた Single cell解析のためのマイクロウェル内細胞数測定システムの構築
○鎌谷 高志[1]、福永 興壱[1]、宮田 楓[2]、白崎 善隆[2]、田中 順次[4]、馬塲 里英[1]、松坂 雅子[1]、鎌谷 直之[4]、茂呂 和世[3]、別役 智子[1]、上村 想太郎[2]（1.慶應義塾大学医学部呼吸器内科、2.東京大学大学院生物科学、3.理化学研究所、4.スタージェン）

[1P-1407] *Bacillus subtilis*コロニー内部における細胞活性の可視化
○塚本 和己[1]、熊田 薫[2]（1.茨城県立医療大・医セ、2.つくば国際大）

[1P-1408] 蛍光タンパク質を用いた単色型グルコース可視化センサーの開発
○三田 真理恵[1]、伊藤 幹[2]、原田 一貴[1]、上田 宏[3]、坪井 貴司[1,2]、北口 哲也[3,4,5]（1.東大・院総文・生命、2.東大・院理・生物科学、3.東工大・研究院・化生研、4.早稲田シンガポール研・細胞情報、5.早大・総合研究機構）

[1P-1409] 赤色蛍光タンパク質を用いた cGMP蛍光センサーの開発
○石田 りか[1]、三田 真理恵[1]、原田 一貴[1]、上田 宏[2]、北口 哲也[2,3,4]、坪井 貴司[1]（1.東大・院総文・生命、2.東工大・研究院・化生研、3.早稲田シンガポール研、4.早大・総研機構）

[1P-1410] 光干渉断層計を用いた細胞イメージング
○千田 直子[1]、大澤 賢太郎[1]（1.株式会社 日立製作所研究開発グループ）

[1P-1411] Micro-CTイメージングによる高解像度軟組織形態計測法の開発 (II)
○田村 勝[1]（1.理研・BRC）

[1P-1412] 蛍光イメージングを用いた線維化可視化システムの開発
○森 夕海[1]、田中 順子[2]、逆井 智貴[1]、水野 聖哉[2,3]、杉山 文博[2,3]、村谷 匡史[2]、高橋 智[2,3]、三輪 佳宏[2,3]（1.筑波大・人間総合、2.筑波大・医学医療系、3.筑波大・生命科学動物資源センター）

[1P-1413] 唾液中ストレスマーカーの多項目同時測定法
○星野 文彦[1]、杉山 英彦[1]、今枝 孝夫[1]（1.豊田中研）

[1P-1414] DNAアプタマーによる CD4発現細胞の検出
○山田 健人[1]、清水 智夫[1]、白谷 明子[1]、矢野 和義[1]（1.東京工科大・院・バイオニクス）

[1P-1415] 生物物理学的解析に適した膜小胞（エキソソーム）の分離調製
○石井 則行[1,2]、池本 光志[1,3]、小田原 孝行[1]（1.産総研・バイオメディカル、2.岐阜大・院・連合農学、3.東邦大・院・理）

[1P-1416] 分割型ルシフェラーゼを用いたビタミン D受容体リガンドの新規検出系の開発と応用
○真野 寛生[1]、生城 真一[1]、高野 真史[2]、斎藤 望[3]、橘高 敦史[2]、榊 利之[1]（1.富山県大・工、2.帝京大・薬、3.明治薬・薬）

[1P-1417] 出芽酵母の細胞内 ATP濃度変動を制御する仕組み
○高稲 正勝[1,2]、今村 博臣[3]、吉田 知史[1,2]（1.群大・未来先端、2.群大・生体調節研・細胞シグナル、3.京大・院生命科学研究科・高次生体統御）

[1P-1418] ｐ５３のミトコンドリア移行をモニターする発光プローブの構築
○野田 なつみ[1]、Raheela Awais[2]、Robert Sutton[3]、Muhammad Awais[3]、小澤 岳昌[1]（1.東大・院理・分析化学、2.リバプール大・生命科学、3.リバプール大・トランスレーショナルメディスン研究所）

[1P-1419] 高画素 CMOSセンサにより時空間を網羅する生体イメージング
○西村 智[1]（1.自治医科大学 分子病態研究部）

[1P-1420] 近赤外イメージングマウスを応用したリンパ球集積の可視化と炎症反応検出の検討
○逆井 智貴[1]、田中 順子[2]、松田 達志[3]、森 夕海[1]、水野 聖哉[2,4]、濱田 理人[2,4]、高橋 智[2,4]、三輪 佳宏[2,4]（1.筑波大・人間総合、2.筑波大・医学医療系、3.関西医大付属生命医学研・生体情報、4.筑波

©日本分子生物学会/日本生化学会

大・生命科学動物資源センター）

[1P-1421] 高速 AFMによる生細胞表面の分子イメージング
○山下 隼人[1,2]、田岡 東[3,4]、福森 義宏[3]、阿部 真之[1]
（1.阪大・院基礎工、2.JSTさきがけ、3.金沢大・理工、4.金沢大・バイオAFMセンター）

[1P-1422] ヒト細胞内における GFP-p53融合タンパク質を利用した DNA損傷応答可視化システム
○塚田 海馬[1]、島田 幹男[1]、松本 義久[1]（1.東工大・科学創成院・先導原研）

[1P-1423] 新規多点走査型２光子顕微鏡を用いたマウス膵島*ex vivo*及び*in vivo* Ca^{2+}イメージング
○山中 祐実[1,2]、大友 康平[1,2]、根本 知己[1,2]
（1.北大・情報科学・生命人間、2.北大・電子研）

[1P-1424] 線虫*C. elegans* の胚発生における細胞形状の定量解析
○東 裕介[1]、大浪 修一[1]（1.理研・生命システム）

[1P-1425] SRA-luciferase融合蛋白質を用いたヘミメチル化 DNA簡易測定法の開発
○高 夏海[1]、軽部 征夫[1]、吉田 亘[1]（1.東京工科大・院バイオ・バイオニクス専攻）

[1P-1426] 新規蛍光色素 Fluolidを用いた蛍光免疫検出法の開発
○西 健太郎[1]、付 文強[1]、松岡 洋平[1]、矢住 京[1]、水城 圭司[2]、青柳 貞一郎[3]、礒部 信一郎[1]、木山 亮一[1]
（1.九産大・生命科学・生命科学、2.崇城大・工・ナノサイエンス、3.東京医科大・茨城医療センター泌尿器科）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 9) その他（ポスター）

[1P-11-9] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-9) その他

13:15 〜 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[1P-1427] ヒト初代線維芽細胞における衝撃波照射後の細胞の生理機能
○鈴木 俊介[1]、小木 美恵子[2]、長谷部 貴亮[3]、内田 恵理子[4]、豊田 淑江[4]、會澤 康治[3]、山口 照英[2]（1.金沢工大・バイオ・化学・応用バイオ、2.金沢工大・加齢研、3.金沢工大・院工・電気電子工学、4.国立衛研・遺伝子医薬部）

[1P-1428] 水中火花放電及び Nd-YAGレーザにより発生させた衝撃波を利用した遺伝子導入
○加藤 雄基[1]、小木 美恵子[2]、長谷部 貴亮[1]、小林 卓実[1]、山口 照英[2]、會澤 康治[1]（1.金沢工大・院工・電気電子工学、2.金沢工大・加齢研）

[1P-1430] High-throughput droplet microfluidics for single-cell encapsulation and cell-free expression
○Jeewoong Park[1,4,5]、Dwi Larasati Setyaningrum[1,5]、Uzawa Takanori[2]、Yoshihiro Ito[2]、Akihiro Isozaki[1]、Keisuke Goda[1,3]
（1.Department of Chemistry, University of Tokyo、2.Nano Medical Engineering Laboratory, RIKEN、3.Japan Science and Technology Agency, Japan、4.current affiliation: The Institute of Medical Science, The University of Tokyo、5.Equally contributed authors）

[1P-1431] MOLECULAR CHARACTERIZATION OF NILE TILAPIA (*OREOCHROMIS NILOTICUS*) AROMATASEAND INHIBITOR IDENTIFICATION
○Sasimanas Unajak[1]、Kittichai Sukprasong[1]、Kiriwan Duangnapa[1]、Napapol Poopanitpan[1]、Kiattawee Choowongkomon[1]、Nontawith Areechon[2]
（1.Department of Biochemistry, Faculty of Science, Kasetsart University, Bangkok, 10900、2.Department of Aquaculture, Faculty of Fisheries, Kasetsart University, Bangkok, 10900）

[1P-1432] 核酸医薬の網羅的スクリーニングを可能にするEGFP-レポーターアッセイ系の開発
○原 裕子[1]、永田 哲也[2]、井上-上野 由紀子[3]、宮武 正太[1]、滝澤 歩武[1]、溝部 吉高[1]、瀬戸 美也子[1]、倉岡 睦季[1]、井上 高良[3]、武田 伸一[1]、青木 吉嗣[1]（1.国立精神・神経医療研究センター 神経研 遺伝子疾患治療研究部、2.東京医科歯科大学 院医 脳神経病態学分野、3.国立精神・神経医療研究センター 神経研 疾病研究第六部）

[1P-1433] 膜タンパク質の新規可溶化試薬による神経シナプスタンパク質の可溶化と複合体解析への応用
○関谷 敦志[1]、加藤 俊行[2]、長洞 仁[2]、山本 賢[1]
（1.フナコシ株式会社、2.株式会社バイオダイナミクス研究所）

[1P-1434] 血液脳関門透過モチーフに関する探索研究
○小関 弘恵知[1]、吉田 和央[2]、北本 卓也[3]、中西 章[1]
（1.国立長寿医療研究センター研究所、2.国立感染症研究所、3.浜松医科大学）

[1P-1435] 硬骨魚類における熱ショック転写因子の温度生物学的研究
○坂本 丞[1]、菅田 英理子[1]、Cuong Pham[2]、北野 健[3]、亀井 保博[1,4]（1.基生研・生物機能解析センター、2.Univ. of Sci., VNU、3.熊本大院・先端科学、4.総研大・生命機能）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1P-1436] 共培養による活性型 PQQ依存性グルコース脱水素酵素の簡便な調製法の確立
○香川 亜子[1]、北裏 佳代[1]、木川 隆則[1]、美川 務[1]（1.理研・QBiC）

[1P-1437] タイ湾岸由来*Aureobasidium pullulans*YTP6-14によるマッソイアラクトンの生産とそのバイオサーファクタント特性
○森川 正章[1]、Sudarat Luepongpattana[2]、Jiraporn Thaniyavarn[2]（1.北海道大学、2.チュラロンコン大学）

[1P-1438] タンパク質発現を増大させる LEAペプチド共発現法におけるペプチド長の影響
○池野 慎也[1]、Nishit Pathak[1]、矢野 浩平[1]（1.九工大・院生命体工・生体応用工）

[1P-1439] 特定外来生物カミツキガメの環境ＤＮＡによる検出の試み
○山川 央[1]、横山 覚[1]、浅見 結貴[1]、柴田 大輔[1]（1.かずさDNA研・バイオ研究開発部）

[1P-1440] 祖先型改変した担子菌ラッカーゼ変異体の安定性と触媒活性
羽室 勇飛[1]、田島 克哉[2]、松本 明子[2]、坂本 さやか[3]、古川 龍太郎[3]、山岸 明彦[3]、大野 尚仁[2]、○赤沼 哲史[1]（1.早大・人科・環境、2.東薬大・薬・免疫、3.東薬大・生命・応用生命）

[1P-1441] *Agaricus brasiliensis*新規 laccase類のクローニング
○松本 明子[1]、赤沼 哲史[2]、大野 尚仁[1]（1.東京薬大・薬、2.早大・人科）

[1P-1442] 宿主をメス化するボルバキア共生細菌は母から子への性染色体の伝達を阻害する
○陰山 大輔[1]、大野 瑞紀[2]、佐々木 達史[2]、吉戸 敦生[2]、小長谷 達郎[3]、上樂 明也[1]、桑崎 誠剛[1]、金森 裕之[4]、片寄 裕一[4]、成田 聡子[5]、宮田 真衣[6]、Markus Riegler[7]、佐原 健[2]（1.農研機構・生物機能利用、2.岩手大・農、3.京大・院理、4.農研機構・次世代作物、5.医薬基盤研、6.千葉大・院園芸、7.西シドニー大・ハークスベリー環境研）

[1P-1443] 再構成した祖先タンパク質の解析による全生物の共通祖先の生育環境 pHの推定
○張 博文[1]、赤沼 哲史[1]、笹本 峻弘[2]、横堀 伸一[2]、山岸 明彦[2]（1.早大・人科・環境、2.東薬大・生命・応用生命）

[1P-1444] SELEX過程における立体構造を形成したRNAの濃縮の NMRモニタリング
○天野 亮[1,2]、神津 知子[3]、坂本 泰一[1]（1.千葉工大・工、2.東大・医科研、3.埼玉県立がんセンター）

[1P-1445] クルマエビの貪食細胞はインテグリンα鎖に基づき2種類の集団に分類される
○小祝 敬一郎[1]、近藤 秀裕[1]、廣野 育生[1]（1.海洋大）

[1P-1446] ヌクレオシドニリン酸キナーゼを用いた疎水性アミノ酸欠損の影響の検証
○渋江 怜[1]、赤沼 哲史[1]（1.早大・人科・環境）

[1P-1447] 日本語 Webコンテンツ「新着論文レビュー」とほかのコンテンツとの連携
○飯田 啓介[1]、小野 浩雅[1]、山本 泰智[1]（1.ライフサイエンス統合データベースセンター）

[1P-1448] クロマチンアフィニティ精製質量分析のための新規アプタマー開発
○Sujin Lee[1]、近岡 洋子[1]、川村 猛[1]（1.Proteomics Lab, Isotope Sci. Center, Univ. of Tokyo）

[1P-1449] エマルションドロップレットを用いた微生物培養
○森田 直樹[1]、村井 雄大[1]、土居 克実[1]、牟田 滋[1]、久原 哲[1]、田代 康介[1]（1.九大・院農・生物資源環境科学府）

[1P-1450] 空間分解能を有した臓器解析の実現に向けたSiブレードアレイの開発
○塩見 太朗[1]、香川 大地[1]、高尾 英邦[1]、下川 房男[1]、寺尾 京平[1,2]（1.香大・工・知能機械システム、2.JST-さきがけ）

[1P-1451] 双翅目昆虫の雄生殖器回転と交尾体位の進化的協調性における MyosinIDの機能
○稲富 桃子[1]、佐久間 知佐子[2]、嘉糠 洋隆[2]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.慈恵大・熱帯医学）

[1P-1452] アテロコラーゲンゲルに対する各種タンパク質の保持性・徐放性の検討
○藤本 一朗[1]、池田 薫子[1]（1.高研・研究所）

[1P-1453] 繊維芽細胞の増殖・細胞分化へのチタン基板表面紫外線照射による光機能化処理の効果
○渡辺 菜歩[1]、岩田 沙絵[1]、神之浦 雅輝[2]、中島 雄太[3]、森田 金市[4,5]、大橋 広行[4]、中島 昭信[4]、鈴木 信二[4]、興 雄司[5]、久原 哲[1]、田代 康介[1]（1.九州大・院生資環・遺伝子制御、2.熊大大学院・自然科学研究科、3.熊大大学院・先端科学研究部、4.ウシオ電機新規開拓室、5.九大大学院・システム情報科学研究院・I&E・ビジョナリー特別部門）

[1P-1454] 肝臓における窒素代謝の metabolic zonationの機能的意義を探るための数理モデル
○内藤 泰宏[1,2,3]、冨田 勝[1,2,3]（1.慶大・環境情報、2.慶大・先端生命研、3.慶大・院・政策メディア・先端生命）

[1P-1455] 3Dプリント可能な折り紙型ハイドロゲルを用い

©日本分子生物学会/日本生化学会

たスキャフォールドの実現に向けて
○酒井 彩乃[1,2]、冨田 勝[2]、Josephine Galipon[2]
（1.慶大・環境情報、2.慶大・先端生命研）

[1P-1456] 新規ウイルス産生細胞を用いた無毒化ヘルペスウイルスベクターの生産系の確立
○黒田 誠司[1,3,4]、宮川 世志幸[1]、足立 久美[1]、山本 基子[1]、Cohen Justus B. [2]、Glorioso Joseph C.[2]、鈴木 英之[3]、内田 英二[4]、岡田 尚巳[1] （1.日本医科大学 生化学・分子生物学(分子遺伝学)、2.Department of Microbiology and Molecular Genetics, University of Pittsburgh, USA、3.日本医科大学 武蔵小杉病院消化器病センター、4.日本医科大学 消化器外科）

[1P-1457] ホモキラルポリγグルタミン酸によるレアメタル協同吸着現象の熱応答挙動
○白米 優一[1]、河本 友輝[2]、芦内 誠[1,2] （1.愛媛大・院連合農、2.高知大・農）

[1P-1458] 界面通過法を用いた細胞サイズリポソームーバキュロウイルス粒子の膜融合解析と組換え膜タンパク質の組込み
○西上 美佐子[1]、冨田 昌弘[1]、瀧口 金吾[2]、湊元 幹太[1]
（1.三重大・院工・材料科学、2.名古屋大・院理・生命理学）

[1P-1459] 微細管型フローサイトメトリー法を用いた細胞内共生体の宿主内動態評価とその宿主細胞周期との同調性の検出
○高橋 利幸[1] （1.都城高専・物質工学）

[1P-1460] リニアステップを利用したマイクロピペットの電動化
○池田 勝徳[1] （1.マイクロトパーズ株式会社）

[1P-1461] ドラッグデリバリーシステムにおけるミルク由来エクソソームの可能性
○渡邉 大裕[1]、藤木 純平[1]、井上 博紀[1]、樋口 豪紀[2]、岩崎 智仁[3]、曽宮 政晴[4]、吉岡 祐亮[4]、落谷 孝広[4]、山口 昭博[5]、山口 さより[5]、平 敏夫[5]、岩野 英知[1]
（1.酪農大・獣医・獣医生化、2.酪農大・獣医・獣医衛生、3.酪農大・農食環境・応用生化、4.国立がん・研究所・分子細胞治療、5.コスモ・バイオ（株））

[1P-1462] 凍結保護剤を使用しない細胞・食品の凍結保存の検討
奥田 華奈[1,4]、○河内 愛子[1,4]、石井 美憂[1,4]、神田 雛[2]、増田 桃子[2]、梅内 菜々子[2]、蓬田 健太郎[1,2,3]、大和田 哲男[4] （1.武庫女・院食・食物栄養学、2.武庫女・大食・食物栄養学、3.武庫女・バイオサイエンス研究所、4.株式会社アビー）

[1P-1463] マイクロピペットシステムを用いた細胞解析のための局所化学環境制御
○小嶋 勝[1]、世良 京太[1]、前 泰志[1]、新井 健生[2,3]
（1.阪大・基礎工・システム創成、2.電通大・グローバル、3.北京理工大）

[1P-1464] ウェブサイトを用いた難病における試料のトレンド探索
○夛田 まや子[1]、佐々木 光穂[2]、平田 誠[1]、坂手 龍一[1]、松山 晃文[1] （1.医薬健栄研・難病資源、2.医薬健栄研・疾患モデル小動物）

©日本分子生物学会/日本生化学会

2017年12月7日(木)

ポスター・展示会場1-1

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 3) 糖鎖関連酵素（ポスター）

[2P-1-3] 1. 糖質生物学・脂質生物学-3) 糖鎖関連酵素

13:15 〜 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[2P-0001（4P2T25-01）] 古細菌の N型糖鎖供与体（脂質結合型糖鎖）の比較分析
○田口 裕也[1]、藤浪 大輔[1]、神田 大輔[1]（1.九大・生医研・構造生物）

[2P-0002] NEU1はペリリピン１とホルモン感受性リパーゼ（ HSL）の相互作用を制御し脂肪分解を抑制する
名取 雄人[1]、那須井 美和子[1]、○根岸 文子[1]（1.帝京大・薬・基礎生物学）

[2P-0003] 全ヒト糖加水分解酵素の系統プロファイル解析
○中村 孝大[1]、田中 純[1]、小島 寿夫[1]、伊藤 將弘[1]（1.立命館大学大学院・生命科学研究科）

[2P-0004] ポリシアル酸転移酵素 ST8SIA2のヒト特異的変異のポリシアル酸構造と機能への影響
○羽根 正弥[1,2]、Michael Vaill[1]、内藤 裕子[1]、Sandra Diaz[1]、Leela Davies[1]、北島 健[2]、Ajit Varki[1]、佐藤 ちひろ[2]（1.Cell. &Mol. Med., UCSD、2.名大・生物機能セ）

[2P-0005] CMP-シアル酸合成酵素遺伝子の TILLING法によるメダカ変異体の取得とその解析
○北島 健[1,2]、呉 迪[1]、藤田 明子[1]、谷口 善仁[3]、亀井 保博[4]、佐藤 ちひろ[1,2]（1.名大・生物機能開発利用研究センター、2.名大院・生命農学研究科、3.杏林大学・医、4.基生研・光学解析）

[2P-0006] 脊椎動物 CMP-シアル酸合成酵素の細胞内動態の解析
○荒川 広夢[1,2]、呉 迪[1,2]、藤田 明子[1,2]、佐藤 ちひろ[1,2]、北島 健[1,2]（1.名大・生物機能セ、2.名大院・生命農）

[2P-0007] 糸状菌タラロマイセス・セルロリティカス由来エンドキシラナーゼの耐熱化
○渡邊 真宏[1]、深田 はるみ[2]、石川 一彦[3]（1.産総研・機能化学、2.阪府大・理、3.産総研・バイオメディカル）

[2P-0008] *Neurospora crassa*のフィトセラミド型中性スフィンゴ糖脂質α-1,2-グルコシルトランスフェラーゼの糖結合部位の解析
○谷川 友音[1]、山下 泰典[1]、戸部 隆太[1]、谷 泰史[2]、三原 久明[1]（1.立命大・生命科学、2.立命館大・R-GIRO）

[2P-0009] 酸性 PNGase活性を欠損させた*A. thaliana*の表現型と内在する遊離*N*-グリカンの構造特性
○上村 亮太[1]、前田 恵[1]、三崎 亮[2]、藤山 和仁[2]、木村 吉伸[1]（1.岡山大院・環境生命、2.阪大・国際交流セ）

[2P-0010] 植物細胞壁ペクチン成分ラムノガラクツロナンIIの生合成に必要な UDP-アピオースの単離法の開発
○藤森 多恵[1]、松田 諒子[1]、鈴木 真未[1]、武田 陽一[1]、石水 毅[1]（1.立命館大学　生命科学部）

[2P-0011] ポリシアル酸転移酵素 STXおよび PSTのマウスメラノーマにおける癌形質への関与
○荒木 映莉乃[1,2]、津田 佳奈[1,2]、北島 健[1,2]、佐藤 ちひろ[1,2]（1.名大院・生命農学、2.名大・生物機能セ）

[2P-0012] ゲノム編集技術を用いたムチン型糖鎖合成酵素をコードするパラログ遺伝子の二重変異体作製
○中村 直介[1]、塚田 かすみ[1]、辻本 優季[1]、中山 喜明[2]、小西 守周[2]、黒坂 光[1]（1.京産大・総生・生命システム、2.神戸薬・微生物）

[2P-0013] ヒトタンパク質の哺乳動物細胞を用いた細胞内結晶化
○小祝 孝太郎[1]、月本 準[2]、東 哲也[2]、真板 宣夫[3]、山田 悠介[1]、平木 雅彦[4]、加藤 龍一[1]、千田 俊哉[1]、Chavas Leonard[5]、伊藤 孝司[2]、湯本 史明[1]（1.高エネ機構・物構研・構造生物、2.徳大・医歯薬・創薬生命、3.徳大・先端酵素、4.高エネ機構・機械工学、5.シンクロトロン・ソレイユ）

[2P-0014] Ngly1欠損の発病メカニズムの研究
○黄 澄澄[1]、原田 陽一郎[1]、細見 昭[1]、正原（根岸）由紀[1]、清野 淳一[1]、藤平 陽彦[1]、船越 陽子[1]、鈴木 健裕[2]、堂前 直[2]、鈴木 匡[1]（1.理研・糖鎖代謝学研究チーム、2.理研・バイオ解析チーム）

[2P-0015] *Microbacterium* sp.由来エンド-α-*N*-アセチルガラクトサミニダーゼの生化学的解析
○山下 栄樹[1]、日下 大士[1]、川崎 寿[1]、鰺坂 勝美[2]、中松 亘[1]、夏目 亮[1]（1.東電大・院工、2.新潟薬大・応用生科）

[2P-0016] 脳特異的ポリペプチド N-アセチルガラクトサミン転移酵素を欠失したゼブラフィッシュ変異体の作製
中村 直介[1]、○辻本 優季[1]、高橋 由衣[1]、川合 多美子[1]、中山 喜明[2]、小西 守周[2]、黒坂 光[1]（1.京産大・総合生命科学・生命システム、2.神戸薬科大・微生物化学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-0017] マウス大脳皮質の発達におけるヒアルロン酸合成酵素の発現および機能の解析

○武智 美奈[1]、大島 健司[1]、灘野 大太[1]、松田 幹[1]、宮田 真路[1]（1.名大院・生命農）

[2P-0018] 系統プロファイルを用いた複合脂質代謝酵素の進化解析

○岩波 千春[1]、中村 孝大[2]、田中 純[2]、小島 寿夫[1]、伊藤 將弘[1]（1.立命館大・生命科学・生命情報、2.立命館大院・生命科学・生命情報）

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 4) グライコミクス（ポスター）

[2P-1-4] 1. 糖質生物学・脂質生物学-4) グライコミクス

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[2P-0019] 大規模グライコミクスへのインフォマティクスからのアプローチ

○三浦 信明[1]、西風 隆司[2]、花松 久寿[3,4]、古川 潤一[4]、横田 育子[4]、岡田 和恵[4]、関谷 禎規[2]、岩本 慎一[2]、坂本 直哉[3]、田中 耕一[2]、篠原 康郎[5]（1.お茶大・理、2.株式会社 島津製作所 田中耕一記念質量分析研究所、3.北大医・消内、4.北大院・医、5.金城学院・薬）

[2P-0020] Glycoblotting-SALSA 法によるスフィンゴ糖脂質糖鎖の網羅的解析

○花松 久寿[1,3]、西風 隆司[2]、横田 育子[3]、岡田 和恵[3]、坂本 直哉[1]、関谷 禎規[2]、岩本 慎一[2]、田中 耕一[2]、古川 潤一[3]（1.北海道大学大学院 医学研究院 消化器内科学分野、2.島津製作所 田中耕一 記念質量分析研究所、3.北海道大学大学院 医学研究院 先端的糖鎖臨床生物学分野）

[2P-0021] 血清中のスフィンゴ糖脂質および遊離オリゴ糖鎖に特異的な ABO式血液型抗原の解析

○岡田 和恵[1]、横田 育子[1]、花松 久寿[2]、三浦 信明[3]、大西 俊介[2]、湯山 耕平[4]、酒井　祥太[5]、伊東　信[6]、五十嵐　靖之[4]、坂本　直哉[2]、篠原　康郎[7]、古川　潤一[1]（1.北大院・医、2.北大医・消内、3.お茶大・理、4.北大院・先端生命、5.感染研・細胞化学部、6.九大院・農、7.金城学院・薬）

[2P-0022] ニーマン・ピック病 C型の診断および治療効果をモニタリングするための糖鎖関連マーカーの探索

○朴 錦花[1]、古川 潤一[1]、曽我 美南[2]、岡田 和恵[1]、横田 育子[1]、入江 徹美[3]、江良 拓実[2]、篠原 康郎[4]（1.北大院・医、2.熊本大・発生研、3.熊本大・薬、4.金城学院・薬）

[2P-0023] ムチン型糖鎖切りだし方法の比較検討

○五艘 行信[1,3]、菅谷 津貴子[1]、石原 和彦[2]、栗原 誠[3]（1.北里大・医・生化学、2.北里大学保健衛生専門学院、3.神奈川工大・応用バイオ）

[2P-0024] ショウジョウバエの糖鎖合成パスウェイシミュレーション

○赤瀬 幸子[1]、木全 侑輝[2]、木下 聖子[1,2]（1.創価大・工・生命情報、2.創価大院・工・生命情報）

[2P-0025] グライコプロテオミクス技術に基づく小細胞肺がん糖鎖バイオマーカー候補分子の探索と解析

○栂谷内 晶[1]、岩城 隼[1]、梶 裕之[1]、松崎 英樹[1]、久野 敦[1]、平尾 嘉利[1]、野村 将春[2]、野口 雅之[3]、池原 譲[1]、成松 久[1]（1.産総研・創薬基盤研究部門、2.東京医大・病院・第一外科学講座、3.筑波大・院・人間総合科学・分子病理）

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 6) リン脂質（ポスター）

[2P-1-6] 1. 糖質生物学・脂質生物学-6) リン脂質

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[2P-0026] ラビリンチュラ類のスフィンゴリン脂質の局在解析

○永富 正樹[1]、冨永 弦[1]、石橋 洋平[2]、小原 淳一郎[3]、山路 顕子[4]、沖野 望[2]、小林 俊秀[4]、伊東 信[2,5]（1.九大院・生資環・生命機能、2.九大院・農・生命機能、3.九大院・生資環・生物産業創成、4.理化学研究所、5.九大院・農・i-BAC）

[2P-0027] 膜貫通型リゾホスホリパーゼ D、 GDE4過剰発現細胞における脂質の網羅的解析

○大嶋 紀安[1]、荒木 麻理[1,2]、大日方 英[3]、小西 昭充[1]、鈴木 啓[1]、立井 一明[1]、和泉 孝志[1]（1.群馬大・院医・生化学、2.（株）環境技研、3.群馬大・未来先端研究機構）

[2P-0028] 細胞内ホスホリパーゼ A1のリン酸化修飾による活性の制御

○松本 直樹[1]、林 康広[1]、佐々木 洋子[1]、小泉 昂範[1]、杉浦 隆之[1]、山下 純[1]（1.帝京大・薬）

[2P-0029] セラミド輸送蛋白質 CERTのリン酸化による機能制御の構造生物学的解析： CERTー Golgi体の結合が CERTのリン酸化によって抑制されるメカニズムの溶液 NMR法による解明

○杉木 俊彦[1,2,3,4]、江川 大地[5]、熊谷 圭悟[5]、児嶋 長次郎[4,6]、藤原 敏道[4]、竹内 恒[3]、嶋田 一夫[1,3]、花田 賢太郎[5]、高橋 栄夫[3,7]（1.東大・院薬系、2.産総研・JBIC、3.産総研・バイオメディシナル情報研究センター、4.阪大・蛋白研、5.感染研・細胞化学、6.横浜

©日本分子生物学会/日本生化学会

国大院・工学、7.横浜市大院・生命医科学）

[2P-0030] セラミド輸送タンパク質 CERTにおけるリン酸化を介した機能抑制制御に必要な正電荷リピートを持つ coiled-coilモチーフ

○江川 大地[1]、冨重 斉生[2]、山地 俊之[1]、熊谷 圭悟[1]、花田 賢太郎[1]（1.感染研・細胞化学、2.理研・佐甲細胞情報）

[2P-0031] クラミジアのエフェクタータンパク質 IncDと宿主細胞由来のセラミド輸送タンパク質 CERTのPHドメインとの結合には IncDの N末領域とC末領域が必要である

○熊谷 圭悟[1]、Cherilyn Elwell[2]、安藤 秀二[3]、Joanne Engel[2]、花田 賢太郎[1]（1.国立感染研・細胞化学部、2.Univ. of California, San Francisco、3.国立感染研・ウイルスI部）

[2P-0032] スフィンゴミエリン合成酵素遺伝子1によるオートファジー制御機構

○長屋 進吾[1]、谷口 真[2]、橋爪 智恵子[1]、小木曽 英夫[1]、岡崎 俊朗[1]（1.金沢医科大学・医・血液免疫内科学、2.金沢医科大学・総医研・生命科学）

[2P-0033] スフィンゴミエリン合成酵素2ノックアウトマウスにおける大腸炎症および炎症性大腸癌の抑制

○橋爪 智恵子[1]、大西 敏雄[2]、谷口 真[3]、小坂 健夫[2]、岡崎 俊朗[1,3]（1.金沢医大・血液免疫内科、2.金沢医大・消化器外科、3.金沢医大・総医研・生命科学）

[2P-0034] スフィンゴミエリン合成酵素2欠損マウスにおける EL4リンパ腫浸潤抑制

○谷口 真[1]、橋爪 智恵子[2]、上田 善文[3]、松下 倫子[4]、長屋 進吾[2]、小木曽 英夫[2]、古元 秀洋[2]、林 一彦[5]、岡崎 俊朗[2]（1.金沢医大・総医研・生命科学、2.金沢医大・医・血液免疫、3.東大・院・教養、4.鳥取大・保健・病態検査、5.鳥取大・医・分子病理）

[2P-0035（1PT26-03）] TMEM16ファミリーによるリン脂質スクランブリング機構の解析

○形部 小百合[1]、長田 重一[1]（1.阪大・免フロ・免疫・生化学）

[2P-0036（1PT26-04）] ホスファチジルセリンのフリップフロップによる機械受容イオンチャネル PIEZO1の活性化制御機構

○伊藤 可梨[1]、土谷 正樹[1]、長尾 耕次郎[1]、青木 淳賢[2]、大和田 智彦[3]、高山 靖規[4]、富永 真琴[4]、原 雄二[1,5]、梅田 真郷[1]（1.京大・院工・合成・生物化学、2.東北大・院薬・分子細胞生化学、3.東大・院薬・薬化学、4.岡崎統合バイオ(生理研)・細胞生理、5.AMED　PRIME）

[2P-0037（1PT26-05）] 膜親和性ナノ粒子を用いたモデル脂質ラフトの集合離散の制御

○延山 知弘[1]、執行 航希[2]、中辻 博貴[3]、杉山 弘[4,5]、濱田 勉[6]、村上 達也[1,5]（1.富山県立大・院工・生物工学、2.金沢大・バイオAFM先端研究センター、3.阪大・院工・応化、4.京大・院理・化学、5.京大・iCeMS、6.北陸先端大マテ）

[2P-0038（1PT26-06）] 昆虫細胞の特異な膜構築機構と変形能

○塩見 晃史[1]、長尾 耕治郎[1]、従二 直人[1]、鈴木 量[2]、田中 求[2]、程 久美子[3]、梅田 眞郷[1]（1.京大・院工・合成・生物化学、2.京大・物質ー細胞統合システム拠点、3.東大・院理・生物科学）

[2P-0039（1PT26-07）] P210型 BCR-ABL PHドメインのリガンド特性およびその病理的意義の解明

○島崎 健太朗[1]、高橋 美帆[1]、梅田 真郷[2]、舟本 聡[3]、斎藤 芳郎[4]、野口 範子[4]、熊谷 圭吾[5]、花田 賢太郎[5]、塚原 富士子[6]、丸 義朗[6]、柴田 識人[7]、内藤 幹彦[1,7]、西川 喜代孝[1]（1.同志社大院・生命医科・医生命・分子生化、2.京大院・工・合成・生物化学、3.同志社大院・生命医科・医生命・神経病理、4.同志社大院・生命医科・医生命・システム生物、5.国立感染研・細胞化学、6.東京女医大院・医・薬理学、7.国立衛研・遺伝子医薬）

[2P-0040（1PT26-08）] 新規イノシトールリン脂質プローブの開発

○長谷川 純矢[1]、Lois Weisman[1]（1.ミシガン大学 Life Sciences Institute）

[2P-0041（1PT26-09）] 1-ステアロイル-2-アラキドノイル-ホスファチジルイノシトールはデングウイルス感染を抑制する

○佐名木 孝央[1,2]、登 治謙[1,2]、鳥羽 晋輔[1,2]、若林 雅人[1]、吉岡 健[1]、佐藤

©日本分子生物学会/日本生化学会

彰彦[1,2]、吉田 立[1]、澤 洋文[2]（1.塩野義製薬株式会社、2.北海道大学）

[2P-0042（1PT26-10）] 運動疲労による心臓における脂質酸化の亢進は心突然死の原因となる

○幸村 知子[1]、一ノ瀬 栞[1]、中曽根 美咲[1]、今井 浩孝[1]（1.北里大・薬）

[2P-0043（1PT26-11）] リゾホスファチジン酸はマウス腹腔マクロファージから IL-10の産生を促進する

○王 嬌[1]、李 暁威[1]、可野 邦行[1,2]、青木 淳賢[1,2]（1.東北大・院薬、2.AMED・CREST）

[2P-0044（1PT26-12）] 海洋性細菌における分枝鎖脂肪酸特異的な新規リゾリン脂質アシル基転移酵素の欠損は細胞凝集を惹起する

○豊竹 洋佑[1]、川本 純[1]、小川 拓哉[1]、栗原 達夫[1]（1.京大・化研）

[2P-0045（1PT26-13）] 飽和脂肪酸含有リン脂質による炎症応答の誘導

○大木 悠佑[1]、神田 麻優香[1]、嶋中 雄太[1]、河野 望[1,2]、新井 洋由[1,3]（1.東大・院薬・薬科学、2.PRIME, AMED、3.AMED-CREST, AMED）

[2P-0046（1PT26-14）] リン脂質の*sn* -1位脂肪酸の代謝に関わる分子機構の解析

○川名 裕己[1]、青木 淳賢[1,2]（1.東北大院・薬・分子細胞生化学、2.AMED-CREST）

[2P-0047（1PT26-15）] 脂肪細胞のベージュ化に関わるsPLA2の同定

○佐藤 弘泰[1,2]、武富 芳隆[1,2]、三木 寿美[1,2]、村上 誠[1,2,3]（1.東大・院医・健康環境医工学、2.都医学研、3.日本医療研究開発機構）

[2P-0048] Functional Expression of Human Cytosolic Phospholipase $A_2\varepsilon$ as Ca^{2+}-dependent Phosphatidylethanolamine *N*-Acyltransferase

○Zahir Hussain[1]、Toru Uyama[1]、Takeharu Tonai[2]、Natsuo Ueda[1]（1.Department of Biochemistry, Kagawa University School of Medicine、2.Department of Orthopedic Surgery, Shikoku Medical Center for Children and Adults）

[2P-1-9] 1. 糖質生物学・脂質生物学-9) 脂肪酸、貯蔵脂質

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[2P-0049（1PT26-01）] マウス CYP4F39による超長鎖脂肪酸のω位水酸化はアシルセラミド産生および皮膚バリア形成に必須である

○伊藤 成美[1]、佐々 貴之[1,2]、木原 章雄[1,2]（1.北大・薬、2.北大院・薬）

[2P-0050（1PT26-02）] 哺乳類における C24:2多価不飽和脂肪酸含有スフィンゴ脂質の存在と生合成経路の解明

○枝川 茉生[1]、澤井 恵[1]、大野 祐介[2]、木原 章雄[2]（1.北大・薬、2.北大・院薬）

[2P-0051] Higher rate of lipolysis in deep subcutaneous adipose tissue than in visceral adipose tissue in normal– and over–weight pregnant women: observations from a preliminary study

○Kalpani Yasodara Perera Devaligoda Gamage[1]、Tharanga Thoradeniya [1]、Hemantha Senanayake[2]、Chamindri Witharana[1]（1.Dept of Biochemistry and Molecular Biology, Faculty of Medicine, Univ. of Colombo、2.Dept. of Obstetrics &Gynaecology, Faculty of Medicine, Univ. of Colombo）

[2P-0053] ペルオキシソーム欠損により Pex11a欠損マウス脂肪組織の脂質代謝機能障害

Congcong Chen[1,2]、Yi Tan[2]、Lu Cai[2]、Naoharu Iwai[3]、Yukiko Naito[3]、○Huachun Weng[1]（1.中国温州医科大学付属第一病院小児科、2.中国温州医科大学薬学部、3.独立法人国立循環器病研究センター）

[2P-0054] NASHモデルマウスにおける脂質転移タンパク質の脂肪滴形成促進機構

○伊藤 雅方[1]、冨田 太一郎[1]、三上 義礼[1]、村上 慎吾[1]、高橋 佳一[2]、進藤 英雄[2]、清水 孝雄[2]、赤羽 悟美[1]（1.東邦大・医・統合生理学、2.国立国際医療センター・脂質シグナリングプロジェクト）

[2P-0055] 小胞体における脂肪酸α酸化とフィトスフィンゴシン代謝

○毛利 圭佑[1]、関 直哉[2]、小原 隆[2]、宮本 政宗[2]、北村 拓也[2]、木原 章雄[1,2,3]（1.北大・薬、2.北大・院生命、3.北大・院薬）

[2P-0056] ドコサヘキサエン酸によるてんかん発作軽減の

©日本分子生物学会/日本生化学会

分子機構
石原 康宏[1,2]、田中 美樹[1]、伊藤 康一[3]、辻 真弓[4]、川本 俊弘[4]、川戸 佳[5]、Christoph Vogel[2]、○山崎 岳[1]
（1.広大・院総科、2.カリフォルニア大・デービス、3.徳島文理大・香川薬、4.産業医大・医、5.順天堂大・医）

[2P-0057] 必須脂肪酸欠乏にみられる長鎖脂肪酸の産生機構
○林 優里[1]、市 育代[2,3]、藤原 葉子[2,3]（1.お茶大・院ライフ・食品栄養、2.お茶大・基幹研究院、3.お茶大・HLI研）

[2P-0058] 肝臓細胞株で脂肪滴形成を抑制する化合物の同定と、その性質について
高橋 智裕[1]、関根 大晃[1]、○市川 進一[1]（1.新潟薬大・応用生命・動物細胞）

[2P-0059] アミノ酸欠乏に応答して肝細胞に脂質蓄積を引き起こす新機構の解明
○西 宏起[1]、山中 大介[1]、合田 祐貴[1]、熊野 未佳子[1]、豊島 由香[2]、竹中 麻子[3]、伯野 史彦[1]、高橋 伸一郎[1]
（1.東大院・農・応用動物、2.日医・先医研、3.明大・農・農芸化学）

[2P-0060] 肥満における食後満足感誘導因子オレオイルエタノールアミドの生合成低下と摂食行動
○五十嵐 美樹[1]、Daniele Piomelli[2]（1.理化学研究所統合生命医科学研究センター、2.University of California, Irvine）

[2P-0061] 新規脂肪滴検出蛍光色素の開発とその応用
○立中 佑希[1]、坂本 亮[1]、尾関 信之[1]、石山 宗孝[1]
（1.(株)同仁化学研究所）

[2P-0062] エライジン酸がインスリンシグナルとリン脂質の脂肪酸組成に与える影響の解析
○石橋 賢一[1]、大藏 直樹[1]、厚味 厳一[1]（1.帝京大・薬・病態生理学）

[2P-0063] ヒト母乳オリゴ糖とヒト乳脂肪から考えるビフィズス菌とヒトの共進化
○後藤 愛那[1]、岸野 重信[2]、岡田 奈津実[2]、廣瀬 潤子[3]、栗原 新[4]、加藤 紀彦[1]、奥田 修二郎[5]、片山 高嶺[1]、小川 順[2]（1.京大・生命、2.京大・農、3.滋賀県大・人間文化、4.石川県大、5.新潟・医薬）

[2P-0064] 初代培養ラット肝細胞でのトランス脂肪酸による脂質代謝異常とその改善
○中村 徹也[1]、瀬尾 誠[2]、杉原 成美[2]、上敷領 淳[1]、森田 哲生[1]（1.福山大・薬・生化学、2.福山大・薬・衛生薬学）

[2P-0065] ファイトスフィンゴシンは長鎖脂肪酸受容体GPR120の新規リガンドとなる
中道 ひかる[1]、○長澤 智隆[2]、濱 洋一郎[2]、光武 進[2]
（1.佐賀大・院農・生物資源科学、2.佐賀大・農・生命機能科学）

[2P-0066] 無血清培養下における T細胞株の増殖に関する脂質成分の役割
○中村 隆範[1]、山下 賀容子[1]、野中 康宏[1]、小川 崇[1]
（1.香川大学）

[2P-0067] ストラメノパイル間の比較ゲノム解析により見いだされたラビリンチュラ類の新規分泌型リパーゼの機能解析
○石橋 洋平[1]、青木 敬祐[2]、林 雅弘[3]、沖野 望[1]、伊東 信[1,4]（1.九大院・農・生命機能、2.九大院・生資環・生命機能、3.宮大・農・海洋生物、4.九大院・農・i-BAC）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 1) 構造生物学、機能予測（ポスター）

[2P-2-1] 2. タンパク質-1) 構造生物学、機能予測

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[2P-0068（FAOBMB TF-3）] Mechanism of regulation of the flavin reductase activity of *Acinetobacter baumanii p*-hydroxyphenylacetate 3-hydroxylase (HPAH) by aromatic ligands
Anan Yuenyao[1]、Nopphon Petchyam[1]、Pimchai Chaiyen[1,2]、○Danaya Pakotiprapha[1]（1.Mahidol University, Thailand、2.VISTEC）

[2P-0069] Crystal analysis investigates signaling molecule for general response protein RsbQ in *Bacillus subtilis*
○Nipawan Nuemket[1]、Kazuki Omichi[2]、Takashi Kumasaka[1]（1.Protein Crystal Analysis Division, JASRI/SPring-8、2.Kwansei Gakuin University）

[2P-0070] Annotation of missense genomic variations based on various protein 3D structures and application to population genomics data
○Matsuyuki Shirota[1]（1.Div. of Interdisciplinary Med. Sci., Tohoku Univ. ）

[2P-0072] イオンポンプ結晶内の脂質二重膜の可視化の試み
○金井 隆太[1]、杖田 淳子[1]、中路 絢美[1]、椛島 佳樹

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、小川 治夫[1]、豊島 近[1]（1.東大・分生研）

[2P-0073] B型肝炎ウイルスの粒子形成機構の解明
○横川 真梨子[1]、石場 智彬[1]、池田 寿子[1]、藤田 浩平[1]、横田 旭美[1]、大澤 匡範[1]（1.慶大・薬）

[2P-0074] Aβ 産生抑制タンパク質 ILEI/FAM3Cの構造と機能の解析
○日比野 絵美[1]、森田 修平[1]、杉田 昌岳[2]、渡邊 直希[1]、川月 章弘[1]、野村 礼[1]、西村 正樹[1]（1.滋賀医大・神経難病研究セ、2.立命館大・生命科学）

[2P-0075] 構造情報を利用した枯草菌由来金属キレーゼ様タンパク質の性状解析
○藤城 貴史[1]、朝井 計[2]、高橋 康弘[1]（1.埼玉大・理・分子生物、2.東京農業大・生命科学・バイオサイエンス）

[2P-0076] 基本転写因子 TFIIEの構造生物学的研究
○帯田 孝之[1]、三輪 康平[1]、小島 理恵子[2]、大熊 芳明[1]、田村 康[2]、水口 峰之[1]（1.富山大・院薬、2.山形大・院理・物質生命化学）

[2P-0077] Aryl hydrocarbon receptor repressor (AhRR)による AhRの転写抑制機構の構造基盤解明
○櫻井 駿也[1]、大戸 梅治[1]、清水 敏之[1]（1.東大・院薬）

[2P-0078] ニワトリクリプトクロム4の変異体を用いたC末端構造変化の解析
○三浦 宏太[1]、三井 広大[1]、岡野 恵子[1]、岡野 俊行[1]（1.早大・院先進理工・電生）

[2P-0079] ヘムの結合に対するシトクロムb_5のヘム鉄配位ヒスチジン残基置換の許容性
○関口 さやか[1]、瀧 英孝[1]、鈴木 崇章[1]、木村 成伸[1]（1.茨城大院・理工・量子線科学）

[2P-0080] 大腸菌におけるタンパク質膜挿入は糖脂質酵素MPIaseに依存し、 YidCによって促進される
○佐々木 優[1]、松林 英明[2]、車 ゆうてつ[2,3]、上田 卓也[2]、西山 賢一[1]（1.岩手大寒冷バイオ、2.東大新領域メディカルゲノム、3.東工大地球生命研究所）

[2P-0081] アシル化ヒストンテイルペプチドと YEATSドメイン含有タンパク質 Gas41との複合体結晶構造解析
○菊地 正樹[1]、丹羽 英明[1]、佐藤 心[1]、梅原 崇史[1,2]（1.理研CLST、2.JST さきがけ）

[2P-0082] 植物のメチル化 DNA結合タンパク質の構造解析
○大木 出[1]、尾野 有菜[1]、白川 昌宏[1]（1.京大・院工・分子工）

[2P-0083] PFタンパク質結晶構造解析ビームラインによる構造生物学研究支援
○山田 悠介[1,2]、松垣 直宏[1,2]、引田 理英[1,2]、平木 雅彦[2,3]、加藤 龍一[1,2]、千田 俊哉[1,2]（1.高エネ機構・物構研・構造生物、2.総研大・高エネ、3.高エネ機構・共通・機械工学）

[2P-0085] クライオ電顕像のリアルタイム評価用パイプラインプログラムの開発と二次元平均像からの評価について
○牧野 文信[1]、加藤 貴之[1]、難波 啓一[1]、深川 竜郎[1]（1.阪大・生命機能）

[2P-0086] 線虫 Cysteine desulfuraseの生理機能解析
○大塚 瑞樹[1]（1.神戸大学・理学研究科・分子生物化学）

[2P-0087] プロトン駆動型タンパク質膜透過モーターの驚くべき構造変化
○中山 慎太郎[1]、古川 新[1]、吉海江 国仁[1]、田中 良樹[1]、塚崎 智也[1]（1.奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科・膜分子複合機能学）

[2P-0088] 翻訳後修飾型 H-Ras·GTPにおける分子内相互作用による c-Raf-1認識のための立体構造の形成
○松本 篤幸[1]、柯　浩亮[1]、村嶋 陽亮[1]、谷口 - 田村 はるか[1]、宮本 涼生[1]、吉川 陽子[1]、津田 智恵美[1]、熊坂 崇[2]、溝端 栄一[3]、枝松 裕紀[1]、片岡 徹[1]（1.神大・院医・分子生物、2.高輝度光科学研究センター、3.阪大・院工・応用化学）

[2P-0089] *Burkholderia*属細菌由来(*S*)-β-Pheアミノアシラーゼの生化学的解析
○望月 徹[1]、加藤 雄己[1]、夏目 亮[1]、川崎 寿[1]（1.東電大・院・工）

[2P-0090] 天然変性領域を介したドメイン間ダイナミクスによる機能制御の過渡的構造解析
○川嵜 亮祐[1]、栃尾 尚哉[2]、楯 真一[1,2]（1.広島大・院理・数理、2.広島大・RcMcD）

[2P-0091] HIV-2 Nefタンパク質の X線結晶構造
○平尾 憲吾[1]、黒木 喜美子[2]、Sophie Andrews[3]、尾瀬 農之[4]、Sarah Rowland-Jones[3]、前仲 勝実[2]（1.北大・院生命科学、2.北大・院薬学、3.Nuff. Dept. of Med., Univ. of Oxford、4.北大・院先端生命）

[2P-0092] 蛋白質創成のランダム行列理論
○山中 雅則[1]（1.日大・理工・物理）

[2P-0093] 組織非特異型アルカリホスファターゼ２量体形成に影響を与えるアミノ酸変異の解析
○松村 智裕[1]、齋藤 志ほ[1]、齊藤 智望[1]、折茂 英生[1]（1.日医大・医・生化学）

[2P-0094] 植物の鉄トランスポーターの結晶構造解析
○加藤 孝郁[1]、熊崎 薫[1]、谷口 怜哉[1]、和田 美紀[2]、西

澤 知宏[1]、石谷 隆一郎[1]、伊藤 耕一[3]、濡木 理[1]
（1.東大・院理・生物科学、2.東大・医科研、3.東大・新領域・メディカル情報生命）

[2P-0095] クエン酸合成酵素 Cit2の基質結合が誘導する構造変化を介した、 F-boxタンパク質 Ucc1との相互作用制御機構

○西尾 和也[1]、森山 周[1]、中務 邦雄[2]、嘉村 巧[3]、水島 恒祐[1]（1.兵県大・院・生命理、2.名市大・院・システム、3.名大・院理・生命理）

[2P-0096] 排出機能を持つ緑膿菌の多剤排出トランスポーター MexB-MexY、 MexA-MexXキメラ複合体

○林 克彦[1]、櫻井 啓介[2]、中島 良介[2]、西野 邦彦[1]、山口 明人[2]（1.阪大・産研・生体分子制御学、2.阪大・産研・生体防御学）

[2P-0097] 分子シャペロニン CCT/TRiC複合体の動的な機能的非対称性に関わる解析

○新木 和孝[1]、末永 敦[1,3]、夏目 徹[1,2]、福井 一彦[1]
（1.産総研・創薬分子、2.RBI社、3.日大・文理・生命科学）

[2P-0098] ATP作動性チャネル P2X受容体における競合阻害機構の構造基盤

○糟谷 豪[1]、山浦 利章[2]、Xiao-Bo Ma[3]、中村 凌熙[1]、武本 瑞貴[1]、南雲 啓充[2]、田中 英一[2]、堂前 直[4]、中根 崇智[1]、Ye Yu[3]、石谷 隆一郎[1]、松崎 修[2]、服部 素之[5]、濡木 理[1]（1.東大・院理・生物科学、2.旭化成ファーマ株式会社、3.上海交通大・医・薬学・生物化学、4.理研・GRC、5.復旦大・生科・生物物理）

[2P-0099] 重金属トランスポーター TerCホモログの結晶化

○中竹 基晶[1]、郷田 秀一郎[1]、畠山 智充[1]、海野 英昭[1]
（1.長崎大学・院工）

[2P-0100] 枯草菌由来 DME family ホモログの結晶化

○酒井 志碩[1]、郷田 秀一郎[1]、畠山 智充[1]、海野 英昭[1]
（1.長崎大学・院工）

[2P-0101] タンパク質ディスオーダー領域における機能部位予測法の開発

○後藤 亮大[1]、廣瀬 修一[2]、野口 保[1]（1.明薬・数理科学・生命情報、2.長瀬産業・ナガセR&Dセ）

[2P-0102] 転写基本因子 TFIIAの精製法の改善

○安達 成彦[1,2,3]、相沢 恭平[3]、山口 佑香[1]、西條 慎也[1]、清水 伸隆[1,3]、千田 俊哉[1,3]（1.高エネ機構・物構研・放射光・構造生物、2.JST・さきがけ、3.総研大）

[2P-0103] クライオ EM による好熱菌由来 V 型 ATP 合成酵素の単粒子解析

○中西 温子[1]、岸川 淳一[1]、光岡 薫[2]、横山 謙[1]
（1.京産大・総生・生命システム、2.阪大・超高圧電顕センター）

[2P-0104] 電子線トモグラフィー法によるタンパク質の可視化

○三瀬 武史[1]、前川 あゆ美[1]、Ruby Andales[1]、Ulf Skoglund[2]、亀井 朗[1]（1.沖縄プロテイントモグラフィー（株）、2.沖縄科学技術大学院大）

[2P-0105] *Pseudomonas putida*由来$_L$-メチオニン γ-リアーゼ Q349S変異酵素の構造と$_L$-ホモシステインに対する基質特異性変化"

○室田 昌輝[1]、尾上 友基[1]、佐藤 暖[1]、半田 暖尚[2]、安田 絵里[2]、根本 理子[2]、田村 隆[2]、志波 智生[1]、稲垣 賢二[2]、原田 繁春[1]（1.京工繊大・院・工科・応生、2.岡山大・院・環境生命）

[2P-0106] in-cell NMR 法を用いたライソゾーム病関連酵素 Cathepsin D の構造解析

○市村 克也[1]、森本 大智[1]、菅瀬 謙治[1]、白川 昌宏[1]
（1.京大・院工・分子工学）

[2P-0107] 光依存性ホスホジエステラーゼ Rh-PDEの構造解析

○生田 達也[1]、志甫谷 渉[1]、濡木 理[1]（1.東大・院理・生物科学）

[2P-0108] Rhodococcus erythropolis N771株由来 Encapsulinナノ構造体への外来タンパク質の導入に必要なシグナル配列の探索

○金丸 宏輔[1]、藤井 基子[1]、田村 彰朗[1]、福谷 洋介[1]、野口 恵一[2]、尾高 雅文[3]、養王田 正文[1]（1.農工大・院工・生命工、2.農工大・機器分析施設、3.秋田大・院工学資源・生命科）

[2P-0109] 二つの非相同タンパク質 Bcnt/Cfdp1、glutamine synthetaseの共通エピトープは、それぞれのアミノ酸残基が形成する物理化学的環境の空間的類似性によって規定される

○中島 健太郎[1]、岩下 新太郎[1]、河野 俊之[2]、割田 友子[1]、鈴木 健裕[3]、堂前 直[3]、宋 時栄[1]（1.徳島文理大・神経科学研究所、2.北里大・医・生化、3.理研CSRS・生命分子解析ユニット）

[2P-0110] ダイユビキチンの結合様式特異的な動的構造解析によるユビキチン鎖の構造不安定化メカニズムの解明

○高嶋 真吾[1]、Erik Walinda[2]、森本 大智[1]、菅瀬 謙治[1]、白川 昌宏[1]（1.京大・院工・分子工学、2.京大・院医）

[2P-0111] 組換えルブレドキシン様タンパク質の物理化学的性質と結合金属置換

○石井 健太郎[1]、中子 将一[1]、北村 昌也[1]、中西 猛[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.阪市大・院工・化生）

[2P-0112] ウシ卵子透明帯タンパク質 ZP4の精子結合部位に関する研究
○吹田 希[1]、織田 美咲[2,4]、木村 雄大[3]、米澤 直人[4]
（1.千葉大院融合理工学府、2.日本全薬工業株式会社、3.千葉大理学、4.千葉大・院・理学）

[2P-0113] 好熱好酸性アーキア*Thermoplasma acidophilum*における翻訳伸長因子 eEF1Aの活性を制御するジンクフィンガータンパク質 ZPR1ホモログの機能解析
○和田 峻宣[1]、柴沼 佳紀[1]、根本 直樹[1]（1.千葉工大・工）

[2P-0114] 細胞接着に関わるマルチドメインタンパク質 vinculinの溶液 NMRによる構造解析
○会津 貴大[1]、永井 敢[1]、伊藤 隆[1]、三島 正規[1]
（1.首都大・理工）

[2P-0115] ライゲーション反応を用いたマルチドメインタンパク質 PKCの構造解析に向けた試み
○貴堂 晃弘[1]、工藤 工[1]、金場 哲平[1,2]、伊藤 隆[1]、三島 正規[1]（1.首都大学東京理工学研究科、2.ブルカー・バイオスピン株式会社）

[2P-0116] 隣接するβ-strand上に位置するアミノ酸トリプレット配置パターンの解析
○鈴木 博実[1]（1.明治大・農）

[2P-0117] 多機能酵素ヌクレオシドニリン酸キナーゼの DNA 結合活性
○佐古 千菜美[1]、宮本 昌明[3]、赤沼 哲史[2]、増井 良治[1]
（1.大阪市大・院理、2.早大・人科、3.神戸大・研究基盤センター）

[2P-0118] 立体構造解析及びモデリングによる Musashi1タンパク質 RNA結合ドメインの標的 RNA認識機構の解明
岩岡 諒[1,2]、○永田 崇[1,2]、津田 健吾[3]、今井 貴雄[4,5]、岡野 栄之[4]、小林 直宏[6]、片平 正人[1,2]
（1.京大・エネ研、2.京大・院・エネ科、3.理研・CLST、4.慶応・医・生理、5.慶応・医・化、6.阪大・蛋研）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 2) フォールディングと品質管理（ポスター）

[2P-2-2] 2. タンパク質-2) フォールディングと品質管理

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[2P-0119（FAOBMB TF-4）] Inhibitory effect of ionic liquid 1-Butyl-3-methylimidazolium bromide on amyloid fibrillation in lysozyme
○ANIRBAN BASU[1]、Subhash Chandra Bhattacharya[1]、Gopinatha Suresh Kumar[2]
（1.Jadavpur University, India、2.CSIR-Indian Institute of Chemical Biology）

[2P-0120] 神経フェリチン症原因タンパク質の構造と性質
○岡田 裕太[1]、佐藤 大輔[1]、近藤 薫[1]、山本 知輝[1]、藤原 和夫[1]、池口 雅道[1]（1.創価大・工・生命情報）

[2P-0121] 受容体輸送タンパク質 RTP1Sの二量体形成
○玉木 良平[1]、福谷 洋介[1]、池上 健太郎[1]、松波 宏明[2]、養王田 正文[1]（1.東京農工大・院工・生命工、2.Duke大・メディカルセンター・MGM）

[2P-0122] 小胞体内腔における新生ポリペプチド鎖のジスルフィド結合形成をモニタリングするシステムの開発
○金村 進吾[1]、奥村 正樹[1,3]、Neil Bulleid[2]、稲葉 謙次[3,4]（1.東北大・学際科学フロンティア研、2.グラスゴー大・分子細胞システム生物学研、3.東北大・多元研、4.CREST, JST）

[2P-0123] LDL受容体の新生ポリペプチド鎖におけるジスルフィド結合形成機構の解析
○福田 洋[1]、太宰 結[1]、中村 織江[1]、稲葉 謙次[1]、門倉 広[1]（1.東北大・多元研）

[2P-0124] SEL1Lタンパク質による小胞体関連分解の調節機構
○細川 暢子[1]、和田 郁夫[2]（1.京大・ウイルス再生研・細胞機能、2.福島医大・生体情報伝達研・細胞科学）

[2P-0125] シャペロニン GroEL変異体のアミロイド線維化抑制機構
Naoya Fukui[1]、Bimlesh Ojha[1]、Kunihiro Hongo[1]、Tomohiro Mizobata[1]、○河田 康志[1]（1.鳥取大院・工・生物応用）

[2P-0126] GroEL変異体を用いた家族性αシヌクレインタンパク質のアミロイド線維形成抑制
○三宅 真未[1]、福井 直也[2]、山本 英絵[2]、本郷 邦広[1,2]、溝端 知宏[1,2]、河田 康志[1,2]（1.鳥取大院・持続性社会創生科学・工、2.鳥取大院・工・生物応用）

[2P-0127] アミロイド形成タンパク質が細胞内で毒性を生む要因の探求
○蔡 暁晨[1]、松崎 哲郎[1]、八代田 英樹[1]、村田 茂穂[1]（1.東大・院薬）

[2P-0128] 好熱性真菌 Chaetomium thermophilum由来プ

©日本分子生物学会/日本生化学会

レフォルディンの機能構造解析

○森田 健斗[1]、堀 綾佳[1]、山本 陽平[1]、宇野 裕子[1]、野井 健太郎[3]、小椋 光[4]、Valpuesta Jose[5]、野口 恵一[2]、養王田 正文[1]（1.東京農工大学・工学府・生命工学専攻、2.東京農工大学・機器分析施設、3.大阪大学・基礎工学研究科・機能創生専攻、4.熊本大学・発生医学研究所、5.Centro Nacional de Biotecnologia (CNB-CSIC)）

[2P-0129] アミロイド線維形成抑制に働く天然物化合物の探索

○進藤 愛未[1]、小川 健二郎[2]、本郷 邦宏[1,3]、溝端 知宏[1,3]、小林 沙織[2]、河田 康志[1,3]（1.鳥取大院・医・機能再生、2.株式会社わかさ生活、3.鳥取大院・工・生物応用）

[2P-0130] ヒストンの血管内皮細胞障害を阻害するPTX3の凝集パターン解析

○早田 敬太[1]、中木戸 誠[3]、太期 健二[1]、高松 佑一郎[1]、山下 雄史[2]、岩成 宏子[1]、津本 浩平[3]、浜窪 隆雄[1]（1.東大・先端研・計量生物医学、2.東大・先端研・システム生物医学、3.東大・院工・バイオエンジニアリング）

[2P-0131] 膜タンパク質生合成における小胞体膜タンパク質複合体(EMC)の機能の遺伝学的解析

○平松 直樹[1]、佐藤 卓至[1]、佐藤 明子[1]（1.広大・院総）

[2P-0132] GroELの ATP加水分解に関わる新規変異体の解析

○増田 恵[1]、鈴木 のぞみ[1]、高橋 淳聞[1]、小池 あゆみ[1]（1.神奈川工大・応用バイオ）

[2P-0133] ClpBのミドルドメインによる協同的な活性調節

○石崎 貴裕[1]、山崎 孝史[2]、鍵井 桂[2]、林 清夏[1]、渡辺 洋平[1,2,3]（1.甲南大・自然科学・生物、2.甲南大・理工・生物、3.甲南大・統合ニューロ）

[2P-0134] ClpBのミドルドメインを介したサブユニット間相互作用に重要なアミノ酸残基の特定

○杉田 沙織[1]、渡邊 久美子[1]、橋本 佳奈[1]、渡辺 洋平[1,2]（1.甲南大・自然科学・生物、2.甲南大・統合ニューロ）

[2P-0135] プロテアソーム阻害に伴う小胞体レドックス状態の還元化機構

○青木 健悟[1]、藤村 多嘉朗[1]、奥 勇紀[2]、阪井 康能[1,2,3]、寶関 淳[1,3,4]（1.京大院農・応用生命、2.京大院・総合生存、3.京大・生理化学ユニット、4.京都学園大・バイオ環境）

[2P-0136] ヒト由来 Hsp60のアピカルドメインによるαシヌクレインアミロイド線維形成抑制

○山崎 杏奈[1]、福井 直也[2]、本郷 邦広[2]、溝端 知宏[2]、河田 康志[2]（1.鳥取大・医・機能再生、2.鳥取大・工・生物応用）

[2P-0137] 高度好熱菌由来 PDIのタンパク質の高温リフォールディング活性

平島 史崇[1]、倉光 成紀[1]、根本 理子[1]、稲垣 賢二[1]、○田村 隆[1]（1.岡山大院・環境生命）

[2P-0138] マウス由来ネイティブプリオンタンパク質の生理的条件下でのアミロイド線維形成とその細胞毒性

○王 美惠子[1]、川添 亜沙美[1]、八木 寿梓[1]、本郷 邦広[1]、溝端 知宏[1]、河田 康志[1]（1.鳥取大院・工・生物応用）

[2P-0139] トランスフェリンとヘモペキシンは TTR V30Mのアミロイド形成を促進する

○高岡 裕[1,2]、菅野 亜紀[1,2]、波多野 直哉[3]、佐藤 泰生[4]、大田 美香[1,2]、山村 研一[5]（1.神戸大・医・医療情報、2.神戸常盤大・ライフサイエンス研、3.神戸大院・医・質量分析セ、4.岩手医大・歯・口腔病理、5.熊大・生命資源研究支援セ）

[2P-0140] 哺乳動物細胞における XBP1u の機能性翻訳休止機構の解明

○大古殿 美加[1]、曽川 愛守榮[2]、木俣 行雄[1]、河野 憲二[3]（1.奈良先端大・バイオ、2.大阪国際がんセンター、3.奈良先端大・研究推進機構）

[2P-0141] ミオグロビン中のヒスチジン残基の水素／重水素交換質量分析法による酸塩基特性解析

○高梨 美咲[1]、片岡 麻衣[1]、中澤 隆[1]（1.奈良女子大・院人間文化・化）

[2P-0142] 低分子抗体の大腸菌発現におけるコドン設計の影響

○齋 琢磨[1]、中澤 光[1]、杉山 在生人[1]、亀田 倫史[2]、梅津 光央[1]（1.東北大・院工・バイオ工学、2.産総研・人工知能研究センター）

[2P-0143] ゴルジ体ストレス応答によって転写が制御されるシアル酸転移酵素遺伝子 SIAT7Bのプロモーター解析

○若林 貞夫[1]、岸本 夕季[1]、池崎 美穂[1]、谷口 麻衣[1]、佐々木 佳奈江[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県立大学・院・生命理学）

[2P-0144] 小胞体における N結合型糖鎖と GPIアンカーの機能的関係

○藤田 盛久[1]、Yi-Shi Liu[1]、Xin-Yu Guo[1]、平田 哲也[2]、木下 タロウ[2]（1.江南大学・生物工程、2.大阪大学・微研、免疫学フロンティア）

©日本分子生物学会/日本生化学会

ポスター会場1-2

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 3) タンパク質分解（ポスター）

[2P-2-3] 2. タンパク質-3) タンパク質分解

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0145] 出芽酵母トリアシルグリセロールリパーゼの制御メカニズムの解析

○藤澤 宗隆[1]、中務 邦雄[2]、小原 圭介[1]、奥村 文彦[1]、嘉村 巧[1]（1.名大・院理・生命理学、2.名市大・院システム自然科学）

[2P-0146] 非定型ポリユビキチン鎖によるリンカーヒストン分解機構の解析

○土屋 光[1]、新井 直子[1]、海保 愛[1]、田中 啓二[1]、佐伯 泰[1]（1.都医学研・蛋白質代謝研究室）

[2P-0147] 8千年前の動物骨に残るコラーゲンの質量分析による劣化構造の解析

○苅野 茉央[1]、伊藤 優貴[2]、犬塚 ま子[2]、門脇 誠司[3]、西秋 良宏[4]、中沢 隆[2]（1.奈良女子大・院人間文化・化、2.奈良女子大・理・化学生命環境、3.名大・名大博物館、4.東大・総合研究博物館）

[2P-0148] ミスローカライズした GPIアンカー型タンパク質の代謝における BAG6の新規機能

○大野 靖枝[1]、横田 直人[1]、川原 裕之[1]（1.首都大・院理工・生命科学）

[2P-0149] UBQLN4の基質認識機構の解明

○鈴木 勘司[1]、川原 裕之[1]、鈴木 理滋[1]（1.首都大・院理・生命科学）

[2P-0150] ユビキチンリガーゼ UBR4とヒトパピローマウイルス E7の分子相互作用

○田崎 隆史[1]（1.金沢医大・生命科学・蛋白質制御）

[2P-0151] 細菌の表層ストレス応答に関わる膜内切断プロテアーゼ RsePの新規機能調節領域の解析

○三宅 拓也[1]、檜作 洋平[1]、秋山 芳展[1]（1.京大・ウイルス再生研）

[2P-0152] 出芽酵母におけるキチン合成酵素 Chs2の E3リガーゼの同定

○小林 周平[1]、奥村 文彦[1]、小原 圭介[1]、嘉村 巧[1]（1.名大・院理・生命理学）

[2P-0153] Hxk2リン酸化酵素 Tsk1はプロテアソーム依存的に分解される。

○田邉 理志[1]、奥村 文彦[1]、小原 圭介[1]、嘉村 巧[1]（1.名大・院理・生命理学）

[2P-0154] 26Sプロテアソームと20S core particleとの量比は、グルコース濃度によって制御される。

○池浦 隆真[1]、八代田 英樹[1]、村田 茂穂[1]（1.東大・院薬・薬科学）

[2P-0155] 脊髄小脳変性症原因変異型 CD10は小胞体に蓄積し ERADで分解される

○田村 拓[1]、加藤 渚[1]、大内 風花[1]、疋田 正喜[1]（1.秋田大・理工・生命科学）

[2P-0156] ミトコンドリア m-カルパイン阻害ペプチドによる細胞障害機序の解析

○大河内 裕史[1]、尾崎 拓[2]、宮崎 雅雄[1]、山下 哲郎[1]（1.岩手大院・農・応用生物化学、2.岩手大・理工・生命）

[2P-0157] S期開始を制御するユビキチンリガーゼ SCF^{Cdc4}の基質

林 宏樹[1]、○岸 努[1]（1.日大・工・生命応用）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 4) タンパク質修飾（ポスター）

[2P-2-4] 2. タンパク質-4) タンパク質修飾

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0158] N-ミリストイル化と S-パルミトイル化の二重のアシル化修飾を生ずるヒトタンパク質の探索とその多様な細胞内局在

○黄波戸 亜哉[1]、谷川 綾音[1]、吉川 祐希[1]、守屋 康子[1]、内海 俊彦[1]（1.山口大・院創成科）

[2P-0159] グリコーゲンオートファジー（ Glycophagy）関連タンパク質 STBD1に生ずる N-ミリストイル化の解析

○吉川 祐希[1]、谷川 綾音[1]、黄波戸 亜哉[1]、守屋 康子[1]、内海 俊彦[1]（1.山口大・院創成科）

[2P-0160] HDAC6による HSP105との結合を介した HSP70の機能制御

○安田 邦彦[1,2]、廣瀬 翔[1]、齊藤 洋平[2]、森 望[3]、中山 祐治[2]（1.東海学院大・健康福祉、2.京都薬大・生化、3.長崎大・医・神経解剖）

[2P-0161] 直鎖状ユビキチン鎖生成酵素(LUBAC)に対する新規阻害剤の細胞・生化学機構と疾患治療への応用

○及川 大輔[1]、葛谷 早喜子[1,2]、花田 和希[3]、寺脇 正剛[1]、鶴田 大輔[2]、坂本 信二[3]、徳永 文稔[1]（1.大阪市大・院医・分子病態学、2.大阪市大・院医・皮膚病態学、3.日本たばこ産業（株）・医薬総合研・医薬探索研）

[2P-0162] コラーゲン特異的カルバミレーションの同定とそのコラーゲン架橋形成への影響

○多賀 祐喜[1]、田中 啓友[1]、濱田 千江子[2]、楠畑 雅[1]、後藤 希代子[1]、服部 俊治[1]（1.ニッピ・バイオマトリックス研究所、2.順天堂大学・腎臓内科）

[2P-0163] AMPKによる SRSF1のリン酸化を介した選択的スプライシング制御機構の解明

©日本分子生物学会/日本生化学会

○松本 英里[1]、佐藤 僚[1]、福田 朝[1]、秋山 果穂[1]、山本 祐司[1]、松本 雄宇[1]、鈴木 司[1]（1.東農大・応生）

[2P-0164] 蛋白質 O-GlcNAc化を定量的かつ簡便に検出する新たな解析法の開発

○久保田 裕二[1]、藤岡 興[1]、武川 睦寛[1]（1.東大・医科研・分子シグナル制御分野）

[2P-0165] NDP52のユビキチン結合性は NF-κBと細胞死制御に関与する

○葛谷 早喜子[1,2]、及川 大輔[1]、徳永 文稔[1]（1.大阪市大・院医・分子病態、2.大阪市大・院医・皮膚病態）

[2P-0166] 出芽酵母における K48/K63分岐型ポリユビキチン鎖の解析

○河野 有紗[1,2]、大竹 史明[1]、佐伯 泰[1]、田中 啓二[1]（1.都医学研・蛋白質代謝研究室、2.お茶の水大院・ライフサイエンス・生命科学）

[2P-0167] SUMO化を介したパーキンソン病関連転写因子PARISのユビキチン化制御

○西田 有[1]、山田 芳司[1]（1.三重大・先端科学研究支援センター）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 5) プロテオミクス（ポスター）

[2P-2-5] 2. タンパク質-5) プロテオミクス

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0169] A proteomic analysis reveals candidate proteins involved in silibinin treatment for NASH

○Nam Min Jeong[1]、Lee Su Jin[1]、Lee Da Eun[1]、Kwon Oh-Shin[1]（1.Sch. of Life Sci., BK21 Plus KNU Creative BioResearch Group, Kyungpook National University, Daegu 702-701, Korea）

[2P-0170] 変性剤混入サンプルの超高感度プロテオミクス分析

○市村 徹[1]、田岡 万悟[2]（1.防衛大・応化、2.首都大・院理・生物化学）

[2P-0171] 神経細胞の蛋白質プロファイルに与えるメマンチンの影響

○黒川 真奈絵[1]、関口 潔[2]、佐藤 政秋[3]、佐藤 利行[3]、土屋 貴大[3]、表山 和樹[3]、有戸 光美[3]、末松 直也[3]、加藤 智啓[3]（1.聖マ医大院・疾患BM・標的分子制御学、2.聖マ医大院・最新医学研究コース、3.聖マ医大院・疾患プロテオーム・分子病態治療学）

[2P-0172] プロテオームおよび生化学的解析を通した昆虫共生ストレプトミセス属放線菌の有する植物バイオマス分解能力の解明

○大橋 慧介[1]、Cameron Currie[2]、Fox Brian[2,4]、高須賀 太一[1,3,4]（1.北大・院国際食資源、2.ウィスコンシン大学マディソン校・微生物部門、3.北大・農学研究院、4.北大・GI-CORE）

[2P-0173] 表面プラズモン共鳴（ SPR）分光法を用いた ERK2と EBITEIN1の結合解析

○三浦 賢司[1]（1.防衛医大・再生発生/共利研）

[2P-0174] 早期胃癌細胞由来エクソソームを介した癌微小環境制御による抗癌剤耐性化機構の解明

○大西 なおみ[1]、最知 直美[1]、藤井 理沙[1]、村上 健太郎[2]、松原 久裕[2]、植田 幸嗣[1]（1.公益財団法人がん研究会がんプレシジョン医療研究センター、2.千葉大学大学院医学研究院）

[2P-0175] ほ乳類細胞における翻訳停止を引き起こす新生ポリペプチド鎖のプロテオミクス解析

○下畑 宣行[1]、原田 裕大[1]、早野 俊哉[1]（1.立命館・院生命・生医）

[2P-0176] 腕足動物における殻体タンパク質のプロテオーム解析

○磯和 幸延[1,2]、更科 功[3]、紀藤 圭治[4]、大島 健志朗[5]、服部 正平[5,6]、川島 武士[7]、藤江 学[8]、佐藤 矩行[9]、遠藤 一佳[2]（1.明治大・研究知財、2.東大・院理・地球惑星科学、3.東大・博物館、4.明治大・農・生命科学、5.東大・新領域・メディカル情報生命、6.早稲田大・先進理工・先進健康科学、7.遺伝研・生命情報、8.OIST・DNAシークエンス、9.OIST・マリンゲノミックス）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 6) その他（ポスター）

[2P-2-6] 2. タンパク質-6) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0177] カイコ絹糸腺由来高分子セリシンの抽出

○藁科 友朗[1]、Josephine Galipon [2]、冨田 勝[2]（1.慶大・環境情報、2.慶大・先端生命研）

[2P-0178] ショウジョウバエ囲食膜タンパク質 Peritrophin-15 の機能解析

○深江 由望[1]、槇 光輝[1]、柴田 俊生[2]、川畑 俊一郎[2]（1.九大院・システム生命科学、2.九大院・理・生物）

[2P-0179] 公共データベースを活用した新規遺伝子の機能解析

○田中 雅深[1]、徳田 雄市[1]、八木 知人[1,2]、田代 啓[1]（1.京都府立医科大・ゲノム医科学、2.神戸国際大・リハビリ）

[2P-0180] ハブ血清に含まれる新規ハブ毒活性中和因子の単離・特徴付け

○平江 敦[1]、千々岩 崇仁[1]、姫野 航[1]、宗 修平[1]、大野 素徳[1]、服部 正策[2]（1.崇城大・生物生命・応用生

©日本分子生物学会/日本生化学会

命、2.東京大学理化学研究所）

[2P-0181] ハブ毒阻害血清タンパク質混合画分の調整
○前崎 木綿美[1]、平江 敦[1]、千々岩 崇仁[1]、宗 修平[1]、服部 正策[2]（1.崇城大・生物生命・応用生命、2.東京大学理化学研究所）

[2P-0182] 赤血球α-synucleinの分子形態解析
○天谷 亮介[1]、竹平 早希[1]、小西 なつみ[1]、星野 佑太[1]、小池 夏美[1]、額田 均[2]、松本 紋子[1]（1.東邦大・理・生物、2.額田医生研）

[2P-0183] Iowa変異型アポ A-Iのアミロイド線維形成に及ぼすホスファチジルセリンとコレステロールの影響
○水口 智晴[1,2]、伊藤 恵理子[1]、中村 光希[1]、扇田 隆司[1]、馬場 照彦[3]、島内 寿徳[4]、奥平 桂一郎[2]、斎藤 博幸[1]（1.京都薬大、2.徳島大院・薬、3.産総研、4.岡山大院・環境生命）

[2P-0184] GPCRの熱安定性および長期安定性の新規スルホベタイン類による向上
○若松 馨[1]、神山 亮司[1]、山井 俊英[1]、小森谷 美歌[1]、武田 茂樹[1]、寺脇 慎一[1]（1.群大・理工・分子科学）

[2P-0185] ヒト免疫受容体 NKRP1AによるリガンドLLT1の分子認識機構
○田所 高志[1]、喜多 俊介[1]、松原 永季[2]、笠井 宣征[1]、玉置 貴晴[1]、岡部 由紀[1]、日下 裕規[1]、石山 夢美[1]、福原 秀雄[1]、上敷領 淳[3]、尾瀬 農之[4]、黒木 喜美子[1]、前仲 勝実[1]（1.北海道大学 薬学研究院、2.高エネ研、3.福山大学　薬学部、4.北海道大学　理学研究院）

[2P-0186] ヒト細胞膜アミノリン脂質フリッパーゼATP11Cの Thr418Asn変異体の異常発現メカニズム
○新敷 信人[1]、中村 史雄[1]（1.東女医大・医・生化学）

[2P-3-1] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-1) 酵素の反応機構、調節、阻害

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0187] カビ毒テヌアゾン酸の環状骨格を形成するTAS1 KSドメインの X線結晶構造解析
○西本 一希[1]、尹 忠銖[2]、本山 高幸[2]、長田 裕之[2]、日野 智也[1]、永野 真吾[1]（1.鳥取大・院工・化学生物、2.理研・環境資源科学・ケミカルバイオロジー）

[2P-0188] 高い基質寛容性を示す Stremtomyces sp. SN-593由来インドールプレニル基転移酵素IptAの結晶構造
○西村 道官[1]、高木 海[2]、高橋 俊二[2]、日野 智也[1]、永野 真吾[1]（1.鳥取大・院工・化学生物、2.理研CSRS生合成研究ユニット）

[2P-0189] 高度好熱菌由来長鎖脂肪酸アシル CoA合成酵素(ttLC-FACS)の基質特異性と酵素反応速度
今井 美希[1]、齊野 廣道[1]、吾郷 日出夫[2]、○宮野 雅司[1]（1.青山学院大学理工学研究科、2.理研・SPring-8）

[2P-0190] 高度好熱菌由来長鎖脂肪酸アシル CoA合成酵素(ttLC-FACS)のアロステリック制御機構
○今井 美希[1]、齊野 廣道[1]、吾郷 日出夫[2]、宮野 雅司[1,2]（1.青山学院大・理工、2.理研・SPring-8）

[2P-0191（1PT11-01）] Methanosarcina mazei由来ヘテロマー型 cis-プレニルトランスフェラーゼの機能解析
○江見 晃一[1]、吉村 徹[1]、邊見 久[1]（1.名大・院生命農・応用分子生命科学）

[2P-0192（1PT11-02）] カルパイン-1と2の機能差を示唆するプロテアーゼドメイン内の自己分解
○大内 史子[1]、進藤 真由美[2]、秦 勝志[1]、反町 洋之[1]（1.都医学研・カルパイン、2.都医学研・基盤技術研究センター）

[2P-0193（1PT11-03）] チオレドキシンによるセレノリン酸合成酵素へのセレニド供給メカニズム
○清水 敦貴[1]、桐山 海斗[1]、波北 悟[1]、戸部 隆太[1]、田村 隆[2]、小川 拓哉[3]、栗原 達夫[3]、Tejo Prakash[4]、三原 久明[1]（1.立命大・生命科学、2.岡山大院・環境生命、3.京大・化所、4.Sch. of Energ. Environ., Thapar Univ.）

[2P-0194（1PT11-04）] 細菌由来セリンパルミトイル基転移酵素における基質アナログ複合体の結晶構造解析
○高橋 亜弥[1]、生城 浩子[2]、後藤 春菜[2]、伊藤 恵実[3]、生城 真一[4]、平林 義雄[3]、矢野 貴人[2]、神谷 信夫[1,5]、宮原 郁子[1]（1.大阪市大・院理、2.大阪医大・医・生化学、3.理化学研究所・脳科学総合研究センター、4.富山県大・工・生物

©日本分子生物学会/日本生化学会

工、5.大阪市大・複合先端）

[2P-0195（1PT11-05）] キノヘムプロテイン・アミン脱水素酵素の翻訳後修飾におけるフラビン含有酵素の役割

○大関 俊範[1]、中井 忠志[2]、谷澤 克行[1]、岡島 俊英[1]（1.阪大・産研、2.広島工大・生命）

[2P-0196（1PT11-06）] *Trypanosoma*科原虫のAcetate:succinate CoA transferase /Succinyl-CoA Synthetaseサイクルの生化学的解析

○望月 恒太[1]、稲岡 ダニエル健[2]、バロガン エマニュエル[3]、志波 智生[4]、原田 繁春[4]、フレデリック ブリンゴード[5]、平山 謙二[1]、北 潔[2]（1.長崎大・熱研・免疫遺伝学、2.長崎大・院TMGH研究科、3.東大・院医・生物医化学、4.京工繊大・院工芸・応用生物学、5.ボルドー大・CNRS・LFMP）

[2P-0197（1PT11-07）] ダイナミックな構造変化を介したAAA+プロテアーゼ Lonの制御メカニズム

○西井 亘[1]、藤井 佳史[1]、松村 義隆[2]、仙石 徹[1]、小島 正樹[2]、横山 茂之[1]（1.理研・構造生物、2.東薬大・生命）

[2P-0198（1PT11-08）] レドックス修飾によるシスタチオニンγ-リアーゼ活性制御

○荒木 笙馬[1]、高田 剛[1]、土屋 幸弘[1]、渡邊 泰男[1]（1.昭和薬大・薬理学）

[2P-0200] Molecular cloning and characterization of the enzyme deoxyxylulose 5-phosphate synthase from the thermophilic bacterium *Thermotoga maritima*

Victor Gimenez-Oya[1]、Josep Joan Centelles[1]、Albert Boronat[1]、○Santiago Imperial[1]（1.Dep. Biochemistry and Molecular Biomedicine. School of Biology. University of Barcelona）

[2P-0201] Eadie-Hofftee vs. Lineweaver-Burk plots to teach Biochemistry and Enzymology to students

Santiago Imperial[1]、○Josep Centelles[1]（1.Dep. Biochemistry and Molecular Biomedicine. School of Biology. Universitat de Barcelona）

[2P-3-2] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-2) 酸化還元酵素、金属酵素

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0202] *Sphingobium* sp. TCM1株 PhoKアルカリホスファターゼの酵素学的諸特性の解析

○諸岡 由佳[1]（1.長岡技科大・院工・生物工学）

[2P-0203] 液体培養条件下で生産される担子菌*Flammulina velutipes*由来ラッカーゼアイソザイムの触媒特性およびその芳香族系色素脱色への応用

○渡邉 彰[1]、名田 悠矢[1]、稲田 和真[1]、麻田 恭彦[1]（1.香川大・農）

[2P-0204] ヘム生合成制御因子 Irrにおけるヘムによる標的DNAへの結合制御機構

○南 多娟[1]、内田 毅[1,2]、齋尾 智英[1,2]、Mark R. O'Brian[3]、石森 浩一郎[1,2]（1.北大・院総合化、2.北大・院理、3.Grad. Sch. of Med., SUNY Buffalo）

[2P-0205] D-アミノ酸資化能を有する好熱性真菌の単離とその D-アミノ酸オキシダーゼの酵素学的諸特性解析

○七五三掛 湧也[1]、高橋 祥司[1]、阿部 勝正[1]、解良 芳夫[1]（1.長岡技科大院・生物機能工）

[2P-0207] 疑似基質存在下でシトクロム P450が触媒する非天然基質の不斉酸化反応

○鈴木 和人[1]、荘司 長三[1,2]、Joshua Stanfield[1]、柳澤 颯太[1]、杉本 宏[3]、城 宜嗣[4]、渡辺 芳人[5]（1.名大・院理・化学、2.JST CREST、3.理研・SPring-8、4.兵庫大・院理・生命理学、5.名大・物国セ）

[2P-0208] ナノポーラス構造によるシトクロム P450反応の効率的な電気化学制御

○三重 安弘[1]、池上 真志樹[1]、小松 康雄[1]（1.産総研・生物プロセス）

[2P-0209] ヘム蛋白質における高原子価活性種生成と電子移動反応のアロステリック効果

○宮口 侑生[1]、菊井 雄基[1]、万 為衆[1]、Yoshitaka Hiruma[2]、Marcellus Ubbink[2]、野尻 正樹[1]（1.阪大・院理・化学、2.ライデン大学）

[2P-0210] C1資化性脱窒菌由来の希土類金属含有アルコール脱水素酵素の生化学的キャラクタリゼーション

○墨 岳夫[1]、市田 尚久[1]、宮口 侑生[1]、砂川 巧己[1]、平 大輔[2]、野尻 正樹[1]（1.大阪・院理・化学、2.崇城・生

©日本分子生物学会/日本生化学会

物生命・応用生命科学）

[2P-0211] ドメインに応じた発現条件の最適化によるP450BM3の再構成

○大村 慧太[1]、愛場 雄一郎[1]、荘司 長三[1,2]、渡辺 芳人[3]（1.名大・院理、2.JST CREST、3.名大・物国）

[2P-0212] DAO分子表面に結合する阻害分子の計算科学的解析

○加藤 有介[1]、古曳 泰規[2]、西川 祐輔[2]、佐川 幾子[2]、傳田 将也[2]、猪熊 翼[2]、宍戸 裕二[1]、重永 章[2]、大高 章[2]、福井 清[1]（1.徳大・酵素研、2.徳大・院・医歯薬学）

[2P-0213] 特殊なフラビン-基質配置: サイトキニン脱水素酵素

○佐藤 恭介[1]（1.熊本大・院生命科学・分子生理）

[2P-0214] 一酸化窒素還元酵素の新規異種発現系の構築

○齋藤 明宏[1]、片岡 邦重[1]、櫻井 宣彦[2]、櫻井 武[1]（1.金沢大院・自然科学、2.名市大院・システム）

[2P-0215] システイン残基の導入と化学修飾によるビリルビンオキシダーゼの基質認識制御

○西尾 拓真[1]、櫻井 武[1]、片岡 邦重[1]（1.金沢大院・自然科学）

[2P-0216] anammoxのヒドラジン合成酵素タンパク質複合体

○平 大輔[1]、北村 龍史[1]、中村 照也[2]、山縣 ゆり子[2]、古川 憲治[3]、藤井 隆夫[1]（1.崇城大・生命、2.熊本大・院薬、3.熊本大・院自然）

ポスター発表 | 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー | 3) 酵素一般（ポスター）

[2P-3-3] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-3) 酵素一般

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0217] Characterization of *Bacillus licheniformis NWMF1* alkaline protease enzyme activity

○Janith Manohara Bandara Wanigasekara Wanigasekara Mudiyanselage[1]、Deepal Mathew[1]、Chamindri Witharana[1]、Sharmila Manoji Tarita Jayasena[1]、Wijepurage Sandhya Sulochana Wijesundera[1]（1.Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Faculty of Medicine, University of Colombo.）

[2P-0218] 食事誘導性肥満が脂肪組織のケトン体利用経路に対して与える影響の検討

○山崎 正博[1]、尾崎 正太郎[1]、長谷川 晋也[1]、今井 正彦[1]、福井 哲也[2]、高橋 典子[1]（1.星薬大・薬・衛生、2.立命館大・薬）

[2P-0219] アデニル酸キナーゼアイソザイム3ノックアウトHeLa細胞の解析

○藤澤 浩一[1,2]、高見 太郎[2]、松崎 彩[2]、野間 隆文[3]、坂井田 功[1,2]（1.山口大学大学院 医学系研究科 再生医療教育研究センター、2.山口大学大学院 医学系研究科 消化器内科学、3.徳島大学大学院 医歯薬学研究部 分子医化学分野）

[2P-0220] 3ーメルカプトピルビン酸硫黄転移酵素の反応中間体から硫化水素やポリスルフィドが産生される

○永原 則之[1]、小池 伸[2]、韮澤 崇[3]、木村 英雄[4]、小笠原 裕樹[2]（1.日医大、アイソトープ研究室、2.明薬大、分析化学、3.ブルカ ダルトニクス、4.国立神経研、分子薬理）

[2P-0221] ヒトノイラミニダーゼ4(NEU4)に関する新知見

○月本 準[1]、伊藤 孝司[2]（1.徳島大・薬・創薬生命工学、2.徳島大院・薬・創薬生命工学）

[2P-0222] アセトバクター属酢酸菌の膜結合型アルデヒド脱水素酵素におけるシトクロムサブユニットの機能

○一木 愛[1]、新納 俊[2]、松谷 峰之介[1]、片岡 尚也[1,2,3]、薬師 寿治[1,2,3]、Gunjana Theeragool[4]、松下 一信[1,2,3]（1.山口大・院創成科学、2.山口大・農、3.山口大・微研セ、4.Kasetsart Univ.）

[2P-0223] 陸生軟体動物アフリカマイマイの D-アミノ酸分解系の解明

○下地 康介[1]、小那覇 眞子[1]、稲福 周[1]、石田 哲夫[1]（1.琉大・理・海自・化学）

[2P-0224] *Myxococcus xanthus* が有する Nudix hydrolaseの基質特異性について

○梶本 紗也佳[1]、木村 義雄[1]、坂井 亜衣[1]、山本 優花[1]（1.香大・学農・生物科学）

[2P-0225] *Myxococcus xanthus*におけるポリリン酸キナーゼ1の酵素学的諸性質の解析

○鎌谷 しおり[1]、木村 義雄[1]（1.香大・院農・生物資源利用学）

[2P-0226] 多糖類資化細菌 NT5株のペクチン質資化に関する遺伝子群

○川瀬 貴典[1]（1.信州大・繊維・応用生物）

[2P-0227] 新規多糖類資化細菌 NT5株が保有するエンド型とエキソ型のアルギン酸リアーゼの発現と酵素特性

○三上 翼[1]、川瀬 貴典[1]、中野 繭[2]、森脇 洋[1]、野村 隆臣[1]（1.信州大・繊維・応用生物、2.信州大・理学・生物）

[2P-0229] 高度好塩性アーキアがもつ2種類の

©日本分子生物学会/日本生化学会

geranylgeranylglyceryl phosphate synthaseの解析
○船戸 萌里[1]、柴沼 佳紀[1]、根本 直樹[1]（1.千葉工大・工）

[2P-0230] 冷水病に罹患したアユから単離された*Flavobacterium psychrophilum* 由来コラゲナーゼの大腸菌での分泌発現
○森 真璃子[1]、森下 諒[1]、落合 菜摘[2]、中山 仁志[3]、田中 啓友[4]、服部 俊治[4]、滝田 禎亮[1,2]、保川 清[1,2]（1.京大・院農・食生科、2.京大・農・食生科、3.和歌山県水産試験場、4.株式会社ニッピ）

[2P-0231] 超好熱アーキア Pyrobaculum islandicum由来リコンビナントグルタミン酸脱水素酵素の活性に対するプロリン異性化の影響の解析
○八木 惇平[1]、山口 博哉[1]、海野 英昭[1]、畠山 智充[1]、郷田 秀一郎[1]（1.長崎大・院工）

[2P-3-4] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-4) 補酵素、ビタミン、ミネラル

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0232（1PT11-10）] セレン化合物を応用した角膜障害治療
○樋口 明弘[1,2]、坪田 一男[2]（1.大分大・全学研究推進機構、2.慶應大・医・眼）

[2P-0233（1PT11-11）] 24S-Hydroxycholesterol誘導性神経細胞死に対するビタミンEの効果
○木村 勇輝[1]、浦野 泰臣[1]、野口 範子[1]（1.同志社大学大学院 生命医科学研究科 システム生命科学研究室）

[2P-0234] NAD^+代謝における poly(ADP-ribose)polymerase-2の関与について
○原 伸正[1]、長子 晴美[1]、日吉 峰麗[1]、三浦 美樹子[1]、土屋 美加子[1]（1.島根大・医・代謝生化学）

[2P-0235] ピロロキノリンキノンとイミダゾロピロロキノリンの神経系細胞への効果の比較検討
○西居 和哉[1]、中路 昌志[1]、中西 慧[1]、山田 康枝[1]（1.近畿大工）

[2P-0236] 出芽酵母の分裂寿命を制御するビタミン B_6 依存性酵素遺伝子の同定
○十一 智教[1]、山本 聡一郎[1]、亀井 優香[2]、向 由起夫[2]（1.長浜バイオ大・院バイオ・分子バイオ、2.長浜バイオ大・バイオ・バイオ）

[2P-0237] 補酵素 B12関与 diol dehydrataseβおよびγサブユニットの N末領域による低溶解性化能の解析
○池田 渓太[1]、平田 佳久[1]、森 光一[1]、世良 貴史[1]、虎谷 哲夫[1]、飛松 孝正[1]（1.岡山大・院自然・生命医用工）

[2P-0238] タンパク質アセチル化への細胞内 NAD^+濃度の影響
○中村 健志[1]、原 伸正[1]、長子 晴美[1]、日吉 峰麗[1]、三浦 美樹子[1]、土屋 美加子[1]（1.島根大・医・代謝生化学）

[2P-3-5] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-5) 生体エネルギー変換、電子伝達系

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0239（1PT11-12）] ショウジョウバエのミトコンドリアにおける超複合体形成によらない独特の呼吸適応
島田 悟[1,3]、大崎 麻里加[1]、高橋 涼子[1]、上根 滋史[1]、柳澤 幸子[1]、月原 富武[1,2,4]、○伊藤（新澤） 恭子[1]（1.兵庫県立大・生命理学、2.大阪大学・蛋白研、3.神戸天然物化学、4.戦略的創造研究推進事業）

[2P-0240（1PT11-13）] 分子モーターが動いている瞬間を見る: 時分割動的 X線結晶構造解析による哺乳類 F_1の回転力発生機構の分析
○鈴木 俊治[1,2,3]、平田 邦生[4]、山下 栄樹[5]、飯田 直也[6]、遠藤 斗志也[3]、久堀 徹[2]、吉田 賢右[3]、野地 博行[1]（1.東大・院工・応化、2.東工大・化学生命研、3.京産大・総合生命、4.理研・SPring8センター、5.阪大・蛋白研、6.早大・物理）

[2P-0241（1PT11-14）] 化合物スクリーニングによるミトコンドリアと NLRP3インフラマソームの関連性の解明
○北見 俊守[1]、Uyen Tran[1]（1.理研・統合生命・融合領域）

[2P-0242（1PT11-15）] オートファジーを介した糖代謝エネルギーシフトを標的とした白血病治療戦略
○青木 重樹[1]、平尾 卓也[1]、山口 正視

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2]、守田 倫恵[1]、白鳥 麗香[1]、伊藤 晃成[1]（1.千葉大・院薬・生物薬剤、2.千葉大・真菌）

[2P-0243] Functional analysis of a novel target gene of NASH/NAFLD-related microRNA miR-27b

○Marcos Taracena[1]、Tsutomu Imaizumi[1]、Eiko Sakai[1]、Fuminori Sakurai[1]、Hiroyuki Mizuguchi[1,2,3]（1.Grad. Sch. of Pharm. Sci., Osaka Univ.、2.Nat. Inst. Biomed. Innov. Health Nutr.、3.Ctr. Adv. Med. Engin., Osaka Univ.）

[2P-0244] ナノディスクに組み込んだ筋小胞体 Ca^{2+}-ATPaseの活性に対する膜表面電荷の影響

○山崎 和生[1]、大保 貴嗣[1]、Stefania Danko[1]、安田 哲[1]、鈴木 裕[1]（1.旭川医大・生化学）

[2P-0245] 酵母 ATP合成酵素阻害タンパク質 IF1の N末端欠失変異体の作製と機能解析

吉村 優穂[1]、○市川 直樹[1]（1.大阪市大・院・生活科学・食健康科学）

[2P-0246] 筋小胞体カルシウムポンプの活性に対する界面活性剤の影響

○大保 貴嗣[1]、山崎 和生[1]、Stefania Danko[1]、安田 哲[1]、鈴木 裕[1]（1.旭川医大・生化学）

[2P-0247] ミトコンドリア由来活性酸素種による E2F1転写機能と細胞増殖制御

○日暮 大渡[1]、石川 文博[1]、森 一憲[1]、柴沼 質子[1]（1.昭和大・薬・腫瘍細胞生物学）

[2P-0248] 病原真菌*Candida albicans*から分離した呼吸変異株 KA1にみられる代謝変化とタンパク質発現変化

○木村 道夫[1]、野口 遥[1]、安藤 彩[1]、高橋 冴和子[1]、福島 圭[1]、喜名 あかね[1]、山本 博之[1]、下川 修[1]（1.日本薬科大学）

[2P-0249] *Streptococcus mutans* の耐酸性における F-ATPaseの重要性

○關谷 瑞樹[1]、泉澤 信太郎[1]、櫛桁 安生[1]、芳賀 雅人[1]、下山 佑[2]、佐々木 実[2]、木村 重信[3]、佐々木 由香[4]、岩本（木原） 昌子[4]、中西（松井） 真弓[1]（1.岩手医大・薬、2.岩手医大・歯、3.関西女子短大・歯、4.長浜バイオ大・バイオサイエンス）

[2P-0250] 多様な補酵素特異性を持つアフリカ型トリパノソーマのグリコソームに局在するイソクエン酸脱水素酵素

○Xinying Wang[1,2]、稲岡 ダニエル健[1,2]、Emmanuel Balogun[1]、浜野 文三江[3]、Nicole Ziebart[4]、Stefan Allmann[5]、Michael Boshart[4,5]、Frederic Bringaud[5]、徳舛 富由樹[6]、志波 智生[7]、原田 繁春[7]、北 潔[1,2]（1.東大・院医・生物医化学、2.長崎大・グローバルヘルス研究科、3.国立国際医療研究センター・脂質シグナリンクプロジェクト、4.Biocenter, Genetics, Univ. of Munich、5.Magnetic Resonance Center of Biological Systems, Univ. of Bordeaux、6.東大・医学系研究科・リピドミクス社連携講座、7.京都工繊大・応用生物学・構造生物工学）

[2P-0251] *Cryptosporidium parvum*のマイトソームに存在する呼吸酵素 (NDH-2、 AOX、 MQO) の生化学的解析

○松尾 祐一[1]、稲岡 ダニエル　健[1]、北 潔[1]（1.長崎大院・熱帯医学・グローバルヘルス）

[2P-0252] 大腸菌 ATP合成酵素の ATP分解/合成とプロトン輸送のエネルギー共役における"フック"を含むεサブユニット領域の役割

○西村 友宏[1]、櫻田 洋人[1]、加藤 俊之[1]、岩本(木原) 昌子[1]（1.長浜バイオ大・バイオサイエンス）

[2P-0253] ミトコンドリア呼吸鎖スーパーコンプレックスと optic atrophy protein 1オリゴマーの解析

○原 司[1]、吉野 淳樹[1]、土方 翔平[1]、芝田 祐貴[1]、秋山 詩歩[1]、三木 湧斗[1]、松本 紋子[1]（1.東邦大・理・生物）

[2P-0254] フリッパーゼの生化学的反応機構の解析

○安田 哲[1]、山崎 和生[1]、大保 貴嗣[1]、高津 宏之[2]、申 恵媛[2]、Stefania Danko[1]、鈴木 裕[1]（1.旭川医大・生化学、2.京大院・薬）

[2P-0255] ATP合成活性を阻害して寿命伸長をもたらす物質の探索

○林田 優希[1]、岸川 淳一[2]、藤川 誠[3]、今村 博臣[4]、横山 謙[2]（1.京都産業大学大学院 生命科学研究科、2.京都産業大学 総合生命科学部 生命システム学科、3.東京医科歯科大学大学院 細胞薬理、4.京都大学生命科学研究科 高次生体）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 2) 核と細胞小器官の構造と機能（ポスター）

[2P-4-2] 4. 細胞の構造と機能-2) 核と細胞小器官の構造と機能

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0256] Platelet keep, transport and release mitochondria of stem cell in vivo

○Nemekhbayar Baatartsogt[1]、Asuka Sakata[1]、Sou Nakamura[2]、Koji Eto [2]、Satoshi Nishimura [1,3]（1.Research Division of Cell and Molecular Medicine, Center for Molecular Medicine, Jichi

©日本分子生物学会/日本生化学会

Medical University School of Medicine、2.CIRA, Kyoto University、3.JST-PREST, Kawaguchi, JAPAN）

[2P-0257] Ups1非依存経路によるカルジオリピンの合成と蓄積
○合田 尚人[1]、宮田 暖[1]、法華津 雄士[1]、松尾 慶次[1]、久下 理[1]（1.九州大院・理・化学）

[2P-0258] 新規ミトコンドリア内リン脂質輸送因子の同定
○宮田 暖[1]、久下 理[1]（1.九大・院理・化学）

[2P-0259] BAFの核および細胞質における機能
○中村 良典[1]、安田 花苗[1]、山林 拓[1]、森田 貴大[1]、近松 歩美[1]、野間 菜実子[1]、早野 俊哉[1]（1.立命大・院生命・生命科学）

[2P-0260] 新規中心体タンパク質 Cep169/CRBP1による一次繊毛制御機構の解析
○新冨 美雪[1,2]、谷山 ゆき[2]、白鳥 幹大[2]、越後 裕太[2]、根岸 瑠美[4]、小林 哲夫[3]、寺田 泰比古[2]（1.東大・院理・生物科学、2.早大・先進理工・化学生命化、3.奈良先端大・バイオ、4.東大・分生研）

[2P-0261] ミトコンドリア内膜局在プロテアーゼ PARLにより機能調節を受ける新規基質探索と機能解析
○今井 賢一郎[1]、深沢 嘉紀[2]、富井 健太郎[2]、Paul Horton[2]（1.産総研・Molprof、2.産総研・AIRC）

[2P-0262] 健常者及びパーキンソン病患者 iPS細胞由来の神経細胞を用いたミトコンドリア機能解析
○村田 等[1]、山本 健一[1]、木下 理恵[1]、阪口 政清[1]（1.岡山大・院医歯薬・細胞生物）

[2P-0263] ヒトミトコンドリアマトリクスに局在するプロテアーゼ Lonの特異的基質の探索
○松島 雄一[1]、高橋 和也[1]、瀬戸山 大樹[2]、康 東天[1]（1.九大・院医・臨床検査医学、2.九大・病院・検査）

[2P-0264] モヤモヤ病タンパク質ミステリンの細胞内機能
○杉原 宗親[1]、森戸 大介[1]、會退 詩央莉[1]、永田 和宏[1]（1.京産・生命科学・生命科学）

[2P-0265] ミトコンドリアの膜と mtDNAのダイナミクスを制御する因子の探索
○石原 孝也[1]、石原 直忠[1]（1.久留米大・分子生命研・高分子化学　）

[2P-0266] ANT1の発現を低下させると炎症が抑制される
○中原 一貴[1]、田中 達英[1]、奥田 洋明[2]、石西 綾美[1]、森田-竹村 晶子[1]、辰巳 晃子[1]、和中 明生[1]（1.奈良医大・医・第二解剖、2.金沢大・医・機能解剖）

[2P-0267] 病原性突然変異型 mtDNA分子種は骨格筋の萎縮ならびに肥大を誘導する
○石崎 光理[1]、小笠原 絵美[2]、三藤 崇行[2,3]、石川香[1,2]、林 純一[2]、中田 和人[1,2,4]（1.筑波大・院生命環境、2.筑波大・生命環境、3.ヘルシンキ大・分子神経研、4.筑波大・TARA）

[2P-0268] ミトコンドリアが感知する細胞内鉄動態と応答するミトコンドリアダイナミクスの変化
○田中 敦[1]、井上 弘章[1]、Sevan Mattie[2]、Heidi McBride[2]（1.山形大・医・メディカルサイエンス、2.Montreal Neuro. Inst., McGill Univ）

[2P-0269] *PEX14*障害マウスにおける小脳形態異常
○阿部 雄一[1]、本庄 雅則[1]、大城 遼平[2]、藤木 幸夫[1]（1.九大・生医研・オルガネラホメオスタシス、2.九大院・システム生命科学）

[2P-0270] ミトコンドリア蛋白 p32の心筋、脳　特異的ノックアウトマウスにおける遺伝子発現とミトコンドリア機能解析の相違
○八木 美佳子[1]、内海 健[1,2]、瀬戸山 大樹[2]、康 東天[1,2]（1.九大・院医・臨床検査医学、2.九大・病院・検査部）

[2P-0271] ミトコンドリアポリンタンパク質 Por1は外膜透過装置 TOM複合体のアセンブリー調節因子として機能する
○阪上 春花[1]、石坂 直也[2]、塩田 拓也[3]、田村 康[4]、遠藤 斗志也[5]（1.京産大・タンパク質動態研、2.名大・院理・物質理学、3.モナシュ大・微生物学、4.山形大・理、5.京産大・総生）

[2P-0272] 生細胞内に導入した人工ビーズの周辺で起こる核膜形成過程の解析
○小林 昇平[1]、荒神 尚子[1]、糀谷 知子[1,3]、小坂田 浩子[1]、森 知栄[1]、佐橋 律子[1]、平岡 泰[1,2]、原口 徳子[1,2]（1.情報通信研究機構・未来ICT研究所、2.阪大・院・生命機能、3.日本女子大・理）

[2P-0273] MITOLは小胞体-ミトコンドリア接触場において小胞体ストレス応答を制御する
○武田 啓佑[1]、長島 駿[1]、徳山 剛士[1]、稲留 涼子[1]、柳茂[1]（1.東薬大・生命）

[2P-0274] RBM10の活動度を制御する自己調節機構： S1-1 NB-targeting
○井上 晃[1,2]、國本 浩之[2]、王 凌宇[2]、肖 勝軍[3]、小島 裕正[2]、山本 隆博[4]、山本 直樹[5]、木村 政継[6]、徳永 和明[7]、谷 時雄[7]、中嶋 弘一[2]、井口 広義[1]（1.阪市大・院医・耳鼻咽喉病態、2.阪市大・院医・免疫制御、3.桂林医科大・病理、4.北大・理、5.都多摩総合医療センター・精神神経科、6.阪市大・院医・RI実験施設、7.熊本大・理・生命科学）

[2P-0275] ナンセンス mRNA分解に関与する*ski3*遺伝子欠損がミトコンドリア病様表現型を伴う呼吸鎖機

©日本分子生物学会/日本生化学会

能障害を引き起こす

○大沼 康平[1]、木下 善仁[2]、武尾 里美[1]、神田 将和[2]、村山 圭[3]、志村 優[3]、大竹 明[4]、佐藤 由紀子[1]、朝野 維起[1]、岡崎 康司[2]、相垣 敏郎[1]（1.首都大・院理工・生命科学、2.順天堂大・院医学、3.千葉こども病院・代謝科、4.埼玉医科大学病院・小児科）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 3) 細胞内物流システム（ポスター）

[2P-4-3] 4. 細胞の構造と機能-3) 細胞内物流システム

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0276] カルシウム結合タンパク質 ALG-2は MISSL、MAP1Bと結合して分泌経路を制御する

○新居 裕美香[1]、井上 国子[1]、高原 照直[1]、柴田 秀樹[1]、牧 正敏[1]（1.名大院・生命農・応用分子生命科学）

[2P-0277] ALS2及びその新規結合因子 Rab30の細胞内動態解析

○大友 麻子[1,2]、松井 香奈[1]、小野寺 和歌奈[1]、串田 隆志[3]、白川 涼平[1]、三井 駿[1]、佐藤 海[1]、小野 鈴花[1]、野崎 昌久[1]、福田 光則[4]、秦野 伸二[1]（1.東海大・基礎医学・分生、2.東海大・マイクロナノ研究セ、3.東海大・院・工、4.東北大・院・生命科学）

[2P-0278] VAMP5はファゴソーム形成過程における膜融合に機能する

○櫻井 千恵[1]、東 健人[1]、山下 菜摘[1]、初沢 清隆[1]（1.鳥取大・医・生命科学・分子生物）

[2P-0279] COPII小胞の外被覆に相互作用する因子の探索と同定

○伊藤 仰喜[1]、桑田 啓子[2]、高原 照直[1]、牧 正敏[1]、柴田 秀樹[1]（1.名大・院生命農・応用分子生命科学、2.名大・WPI-ITbM）

[2P-0280] 非標準オートファジー (LAP) 関連因子 MORN2発現マクロファージの機能解析

○森田 真矢[1]、梶江 真由[1]、櫻井 千恵[1]、初沢 清隆[1]（1.鳥大・院医・生命科学）

[2P-0281] CP-フォールディングプローブによる小胞体トランスロコンにおける伸長透過共役因子の解析

○十倉 麻友子[1]、小坂 優里菜[1]、中川 知香[1]、高原 教代[1]、菅 公秀[1]、阪口 雅郎[1]（1.兵県大・院・生命理）

[2P-0282] セクレトグラニン IIIがプロホルモンとプロホルモン活性化酵素の輸送で果たす役割

○對馬 健[1]、前田 佳紀[1]、渡部 剛[2]、穂坂 正博[1]（1.秋田県立大学 生物資源科学研究科、2.旭川医科大学 解剖学講座）

[2P-0283] アドヘシン膜貫通ドメインのシグナル配列非依存的な大腸菌外膜局在

○青木 英莉子[1]、藤原 和夫[1]、高瀬 明[1]、池口 雅道[1]（1.創価大・工・生命情報）

[2P-0284] IFT-B複合体のサブユニット IFT70の機能に関する研究

○武井 領汰[1]、加藤 洋平[1]、中山 和久[1]（1.京大・院薬・生体情報）

[2P-0285] CCN2と Rab14の相互作用が骨・軟骨細胞の小胞輸送に及ぼす役割

○星島 光博[1,2]、服部 高子[3]、青山 絵理子[2]、西田 崇[3]、田中 智代[4]、久保田 聡[3]、上岡 寛[1]、滝川 正春[2]（1.岡大・院医歯薬・歯科矯正、2.岡大・院医歯薬・先端領域研究センター、3.岡大・院医歯薬・口腔生化、4.岡大病院・矯正歯科）

[2P-0286] 細胞質ダイニン単頭１分子の変位と速度解析

○木下 慶美[1]、西川 香里[1]、神原 丈敏[1,2]、茅 元司[1]、樋口 秀男[1]（1.東大・院理・物理、2.理研QBiC）

[2P-0287] 細胞膜近傍でのクラスリン集合を担うCALMの欠損は何故 MVB/後期エンドソームを介する分解経路の異常を引き起こす原因を探る

○増田 成美[1]、住吉 麻実[1]、小河 穂波[1]、鈴木 麻衣[1]、渡邊 俊雄[1]（1.奈良女子大・院人間文化・共生自然科学）

[2P-0288] Munc18-2によるマクロファージ syntaxin11の膜局在化とそのダイナミクス制御

○常松 眞史[1]、木下 大生[1]、森田 真矢[1]、櫻井 千恵[1]、初沢 清隆[1]（1.鳥取大・医・生命科学・分子生物）

[2P-0289] 低分子量 GTPase Rab11に対する新規 GEF SH3BP5/SH3BP5Lの哺乳類における生理機能解析

○諸岡 信克[1]、佐藤 美由紀[1]、佐藤 健[1]（1.群大・生調研）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 4) オートファジー（ポスター）

[2P-4-4] 4. 細胞の構造と機能-4) オートファジー

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0290] 分裂酵母の窒素源飢餓時の経時寿命維持に必要な新奇 RING fingerタンパク質 Pqr1の機能解析

○武田 鋼二郎[1,2,3]、上野 琹里[1]、澤田 尚哉[3]、神崎 さやか[3]（1.甲南大・院自・生物学、2.甲南大・統合ニューロバイオロジー研、3.甲南大・理工・生物学）

[2P-0291] Pib2複合体はグルタミンを認識し Gtr/EGO経路非依存的に TORC1を制御する

○鵜飼 洋史[1]、荒木 保弘[2]、吉良 新太郎[2]、及川 優[3]、野田 健司[1,2]（1.阪大・院生命・生命、2.阪大・院歯・フロンティア、3.東工大・科学創生・細胞制御）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-0292] 三次元光-電子相関顕微鏡法によるオートファゴソーム関連構造体の解析
○角田 宗一郎[1]、内山 安男[1]（1.順天堂大学大学院医学研究科）

[2P-0293] 新しい E2Fファミリーメンバーである E2F3dはミトコンドリアに局在し、マイトファジーを誘導する
○荒木 啓吾[1]、尾田 衡弥[1]、大谷 清[1]（1.関学・院理工・生命医化学）

[2P-0294] ミトコンドリアユビキチンリガーゼ MITOLによる Parkinのユビキチン化を介したマイトファジーの制御機構
○椎葉 一心[1]、武田 啓佑[1]、稲留 涼子[1]、柳 茂[1]（1.東薬大・生命）

[2P-0295] *Trypanosoma cruzi* 感染細胞における選択的オートファジーアダプター因子 p62 の解析
○高橋 裕子[1]、鬼塚 陽子[1]、番場 みのり[1]、植松 亜美[1]、新城 翔子[1]、瀬戸 絵理[2]、嶋田 淳子[1]（1.群馬大・院保・生体情報検査科学、2.群馬大・院医・教育研究支援センター）

[2P-0296] 腸管寄生性原虫赤痢アメーバオートファジー関連タンパク質 Atg8による解糖系酵素制御
宮本 絵梨[1,2]、野崎 智義[1,2,3]、○津久井 久美子[1]（1.感染研・寄生動物、2.筑波大・院・生命環境、3.東大・院医・生物医化学）

[2P-0298] マクロファージはオートファジーを活性化することで炎症反応を終結に導く
○米野 雅大[1]、芦田 久[1]（1.近畿大・院生物理工・生物工学）

[2P-0299] オートファジー関連遺伝子の線虫変異体における腸内顆粒の形成と飢餓応答
○白石 博久[1]、丹治 貴博[1]、錦織 健児[1]、大橋 綾子[1]（1.岩手医大・薬・生体防御）

[2P-0300] 低分子蛍光プローブによるオートファジーの可視化；マイトファジーとオートリソソームのライブセルイメージング
○岩下 秀文[1]、鳥居 暁[2]、坂本 亮[1]、尾関 信之[1]、清水 重臣[2]、石山 宗孝[1]（1.（株）同仁化学研究所、2.東京医歯大・難研・病態細胞生物）

[2P-0301] TBK1による ATG8ファミリー分子 GABARAPL2のリン酸化の機能解析
○茂谷 康[1]、梶本 真弓美[1]、小迫 英尊[1]（1.徳大・先端酵素研・藤井センター）

[2P-0302] オートファゴソーム SNAREタンパク質 syntaxin17の膜挿入機構の解析
○中野 沙緒里[1]、山本 林[1]、板倉 英祐[2]、水島 昇[2]（1.東大・院医・分子生物、2.千葉大・院理・生物）

[2P-0303] 膵β細胞における VAMP7によるオートファゴソーム形成の制御機構
○青柳 共太[1]、西脇 知世乃[1]、中道 洋子[1]、福冨 俊之[2]、鳥居 征司[3]、牧山 智彦[1]、櫻井 裕之[2]、板倉 誠[4]、今泉 美佳[1]（1.杏林・医・生化、2.杏林・医・薬理、3.群大・生調研・分泌制御、4.北里・医・生化）

[2P-0304] HK-2細胞におけるシャペロン介在性オートファジーの検討
○園 陽平[1]、中谷 嘉寿[1]、高見 勝弘[1]、中野 志仁[1]、有馬 秀二[1]（1.近大・医・腎臓）

[2P-0305] *SPNS1*は、ニーマンピック病 C型のオートファジー不全と関連している
○柳澤 比呂子[1]、秋山 けい子[1]、石井 智裕[2]、渡部 和彦[3]、遠藤 堅太郎[4]、河上 江美子[4]、小松 雅明[5]、山元 大輔[6]、衞藤 義勝[1]（1.脳神経疾患研・先端医研＆遺伝病治療研、2.慶應義塾大・薬学・薬理学、3.杏林大・保健学・臨床検査技術学、4.都医学研・基盤技術研究センター、5.新潟大・大学院医歯学総合・ 分子遺伝学、6.東北大・大学院生命科学・脳機能遺伝）

[2P-0306] 脂肪細胞のインスリンシグナル調節におよぼす飢餓誘導オートファジーの意義
○井川 寛章[1]、菊地 晶裕[1]、御簾 博文[1]、簟 俊成[1]（1.金沢大・院医・内分泌代謝学）

[2P-0307] ゲラニルゲラノイン酸（ GGA）が誘導するオートファジゴソームとリソソームの融合阻害に関する研究
○岡本 恭子[1]、四童子 好廣[1]（1.長崎県大・看栄・栄健・細胞生化学）

[2P-0308] AMBRA1は ATG７を介するオートファジー経路とは独立に TCRシグナルによる代謝制御に関与する
○赤塚 尚子[1,2]、増原 香織[1,2]、Odontuya Davaadorji[3]、大塚 正人[2]、井ノ上 逸朗[4]、木村 穣[2]、佐藤 健人[1]（1.東海大・医・基礎医学系生体防御学、2.東海大・医・基礎医学系分子生命科学、3.東海大・医・専門診療学系眼科学、4.国立遺伝学研究所人類遺伝研究部門）

[2P-0309] オートファジーレセプター p62/SQSTM1 の調節による効果的な遺伝子導入法の確立とその分子機構の解明
○小川 英知[1,2]、土屋 恵[1]、荒神 尚子[2]、森 知栄[2]、小坂田 裕子[2]、小林 昇平[2]、平岡 泰[1,2]、原口 徳子[1,2]（1.大阪大院・生命機能、2.情報通信研究機構）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-4-5] 4. 細胞の構造と機能-5) 細胞骨格、細胞運動、細胞接着、細胞外マトリックス

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0310] Rab6a, Rab8aと相互作用する RhoGEF ARHGEF10は lamellipodia形成に関与する。

○柴田 理志[1]、山本 明日香[1]、稲垣 忍[1] （1.阪大・院医・保健学）

[2P-0311] アファディン新規スプライシングバリアントの発現様式とその生化学的性質

○榊原 正太郎[1]、丸尾 知彦[1]、宮田 宗明[1]、塩谷 元[1]、萬代 研二[1]、水谷 清人[1]、高井 義美[1] （1.神戸大学・院医・病態シグナル学）

[2P-0312] 細胞-ECM間接着領域における細胞膜脂質組成の解析

○箕浦 広大[1]、市川 尚文[1]、大町 朋弘[1]、植田 和光[1,2]、木岡 紀幸[1] （1.京大・院農・応用生命、2.京大・iCeMS）

[2P-0313] 免疫グロブリンスパーファミリーメンバー BT－IgSF(IgSF11)は細胞接着調節を介した神経回路形成に関わる。

○宍戸 直美[1]、武藤 理[2]、上田 翼[3]、平 義樹[4]、春見 達郎[5]、林 要喜知[1] （1.旭川医大・生命科学、2.旭川医療センター、3.市立敦賀病院、4.旭川医大・基礎看護学、5.旭川医大・顕微解剖学）

[2P-0314] 脂肪細胞の大きさ制御における Yap/Tazの役割

○加村 啓一郎[1]、佐々木 洋[1] （1.阪大・生命機能）

[2P-0315] 力覚応答に関与する Rho-GEF, Soloの上皮細胞の集団移動における機能解析

○磯崎 友亮[1]、酒井 高輝[1]、藤原 佐知子[2]、水野 健作[1]、大橋 一正[1] （1.東北大・院・生命、2.阪大・院・基礎工）

[2P-0316] メラノサイト移動に及ぼす新規因子と細胞周辺環境の影響

○山田 麻衣子[1]、佐々 祥子[1]、黒住 元紀[1]、錦織 秀[1]、濱中 祥弘[1]、近藤 千尋[1] （1.ポーラ化成工業(株)）

[2P-0317] 放射線による CTGF/CCN2発現増加における microRNAの機能について

○矢野 博之[1]、濱中 良志[3,4]、太田 三紀[3]、張 娟娟[2]、松尾 哲孝[2]、吉岡 秀克[2,5] （1.大分大・全学研究推進機構、2.大分大・医・マトリックス医学、3.大分大・医・細胞生物学、4.大分県立看護大・人間科学講座、5.新別府病院・臨床検査科）

[2P-0318] 細胞外小胞形成における IRSp53の役割

○笹倉 直人[1]、矢倉 加代子[1]、塙 京子[1]、末次 志郎[1] （1.奈良先端大・バイオサイエンス）

[2P-0319] miR-29bは、マウス培養細胞において基本プロモーター調節と協調して、転写後の Col5a1遺伝子発現を調節する

○張 娟娟[1]、矢野 博之[2]、佐々木 隆子[1]、松尾 哲孝[1]、吉岡 秀克[1,3] （1.大分大・医・マトリックス医学、2.大分大・全学研究推進機構、3.新別府病院・臨床検査科）

[2P-0320] ダイナミン-コルタクチンらせん状複合体の解析：機械的なアクチン線維束形成とアクチン脱重合保護作用

○阿部 匡史[1]、山田 浩司[1]、竹田 哲也[1]、内橋 貴之[2]、安藤 敏夫[3]、竹居 孝二[1] （1.岡山大・院医歯薬・生化学、2.名古屋大・院・理、3.金沢大・バイオAFMフロンティアリサーチセンター）

[2P-0321] 心筋細胞に備わった昇温誘起の収縮振動はミオシンの巧みな集団運動で応答性を保ち振動周期を一定に調整する

○新谷 正嶺[1,2]、鷲尾 巧[3]、樋口 秀男[1] （1.東京大学 理学部 物理学科、2.日本学術振興会 特別研究員、3.東京大学 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻）

[2P-0322] Study the regulation of lipoic acid in LPS-induced IL-6 expression in C2C12 myotube

Pei-Fung Wu[1]、Ching-Wen Liu[2]、Yu-Hsuan Yen[3]、○Li-Ching Chang[4] （1.Dept. of Kinesiology, Health and Leisure Studies, Nat. of Kaohsiung、2.School of Pharmacy, Kaohsiung Medical University、3.Dept. of Occupational Therapy, I-Shou University、4.School of Medicine, I-Shou University）

[2P-0323] 細胞-基質接着の微細構造、分子動態および力分布の間の密接な関係性

○出口 真次[1]、徳永 昌也[1]、松井 翼[1]、福島 修一郎[1] （1.阪大・基礎工）

[2P-0324] Prominin-1による細胞突起形成過程における役割

○堀一西 晶子[1]、安国 勇貴[1]、西出 賢次[2]、近藤 亨[3]、笹井 紀明[1] （1.奈良先端・バイオ・発生医科学、2.理研・発生・再生センター、3.北大・遺伝子病制御・幹細胞生物学）

[2P-0325] インテグリンα9β1阻害抗体の医薬としての有用性を規定する作用様式

○大谷 水景[1]、西道 教尚[2]、伊藤 益美[2]、吉栖 正生[4]、横崎 恭之[2,3] （1.広島大・院医・インテグリン、2.広島大・保健管理・インテグリン、3.広大病院・遺伝子診療、4.広島大・院医・心臓血管生理医

学）

[2P-0326] 骨細胞における Perlecan/HSPG2の発現部位は細胞の成熟とともに細胞体から細胞突起へと変化する

○鳥原 秀美[1,2]、大野 充昭[1]、佐々木 隆子[3]、上岡　寛[2]、大橋 俊孝[1]（1.岡大・院医歯薬・分子医化学、2.岡大・院医歯薬・歯科矯正学、3.大大・医学部・マトリックス医学）

[2P-0327] 骨芽細胞様細胞株 SaOS-2より抽出した基質小胞の、構成タンパク質と石灰化機構の解析。

○片山 映[1]、栗原 佐知子[1,2]、鈴木 英紀[3]、小黒 辰夫[3]、宇部 卓司[4]、石黒 孝[4]、折茂 英生[1]（1.日本医科大学・生化学・分子生物学(代謝・栄養学)、2.日本医科大学・女性診療科、3.日本医科大学・共同研究施設 形態解析研究室、4.東京理科大学・基礎工学部 ・材料工学科）

[2P-0328] 新規ホスファターゼが担う飢餓ストレス応答機構解明に向けた分子イメージング手法の開発

○岡田 千沙[1]、中村 彰男[2]、小濱 一弘[4]、金子 堯子[3]（1.東海大学 生命科学統合支援センター、2.群馬大学大学院 学系研究科 病態腫瘍薬理学講座、3.日本女子大学 理学部 物質生物科学科、4.武蔵野大学 薬学研究所）

[2P-0329] 転写因子 LEF-1はβ-catenin/γ-cateninダブルノックアウト MDCK細胞でも上皮-間葉転換を誘導する

○小林 和香子[1]、小沢 政之[1]（1.鹿大院・医歯学・生化学・分子生物学）

[2P-0330] 浸潤・非浸潤細胞の分別回収を目的とした新規浸潤測定法の開発

○滝野 隆久[1]（1.金沢大・国基院）

[2P-0331] 大腸がん細胞の遊走能獲得過程における DNAメチル化修飾の役割

○田中 裕基[1]、西田 憲生[1]、西條 早希[1]、板井 美樹[1]、西川 達哉[1]、桑野 由紀[1]、六反 一仁[1]（1.徳島大院・医歯薬学研・病態生理）

[2P-0332] I型コラーゲンゲル上培養における増殖適応カルシウム濃度は、ヒト表皮角化細胞株 HaCaTと FEPE1L-8で異なる

○藤崎 ひとみ[1]、二木 杉子[2]、山田 雅司[3]、関口 清俊[3]、池嶋 喬[4]、林 利彦[4]、服部 俊治[1]（1.（株）ニッピ・BM研、2.阪医大・生命科学・解剖、3.阪大・蛋白研、4.瀋陽薬大・中日医薬研）

[2P-0333] VI型コラーゲンの腸管神経堤由来細胞移動に及ぼす影響

○吉崎 尚良[1]、西田 翔一[1]、安井 良僚[1]、桑原 強[1]、清川 悦子[2]、河野 美幸[1]（1.金沢医大・小児外科、2.金沢医大・腫瘍病理）

[2P-0334] α-tubulinの SUMO化による微小管動態の制御

○武正 夏実[1]、秋山 博紀[1]、榊原 伸一[1]（1.早稲田大・院人科・分子神経科学）

[2P-0335] 心臓における新規 AMPK基質の同定

○矢澤 一生[1]、新谷 泰範[1,2]、高島 成二[1,2]（1.阪大・院生命、2.阪大・院医）

[2P-0336] 筋線維芽細胞分化におけるインテグリンα8β1と TGF-βの役割

○西道 教尚[1]、伊藤 益美[1]、大谷 水景[1]、横崎 恭之[1,2]（1.広島大・保健管理・インテグリン、2.広島大学病院・遺伝子診療）

[2P-0337] ショウジョウバエの細胞のキラルな振る舞いを制御する I型ミオシンの一分子動態

○宇都宮 聡介[1]、笹村 剛司[1]、宮永 之寛[2]、上田 昌宏[2]、松野 健治[1]（1.大阪大・院理、2.大阪大・院生命機能）

[2P-0338] ARHGEF10は Rab8aが関与する細胞形態形成で機能する。

○山本 明日香[1]、柴田 理志[1]、辻 智波[1]、手嶋 佑依[1]、稲垣 忍[1]（1.阪大・院医・保健学）

[2P-0339] 線虫γ-チューブリン複合体の会合と制御メカニズム

○春田 奈美[1]、本多 優[1]、住吉 英輔[1]、寺澤 匡博[2]、杉本 亜砂子[1]（1.東北大・生命院、2.阪大・蛋白研）

[2P-0340] 血管内皮細胞と線維芽細胞による共培養スフェロイドを用いた血管新生モデルにおける基底膜構築

○守矢 あかね[1]、辛 英哲[1,2,3]、遠西 祐太[3]、今村 保忠[1,2,3]（1.工学院大・院・化学応用、2.工学院大・先進工・生命化学、3.工学院大・工・応化）

[2P-0341] 細胞運動・接着における PCTK3による FAKの制御

○川本 晃平[1]、松田 真弥[1]、辻 明彦[2]、湯浅 恵造[2]（1.徳島大院・先端技術、2.徳島大・生物資源）

[2P-0342] 間葉系幹細胞に見られる足場の硬さ依存的なカルシウムスパーク

○田中 瑞奈[1,2]、平野 拓真[1]、曽我部 正博[3]、小林 剛[1]（1.名古屋大院・医・統合生理学、2.東北大院・生命科学研究科・ゲノム継承システム分野、3.名古屋大院・医・メカノバイオロジーラボ）

[2P-0343] 横紋筋肥大・再生時の筋原線維形成および核配置における N-WASPの役割

○高野 和儀[1]、栗原 優介[1]、辻田 和也[2]、遠藤 剛[1]（1.千葉大・院・理・生物、2.神戸大・バイオシグナ

ル研・生体膜機能）

[2P-0344] アクチン結合タンパク質 adducinの ERKリン酸化は、 F-actinとの結合を調節する

○田川 茉由子[1]、飯田 直幸[1]、服部 成介[1] （1.北里大・薬・生化学）

[2P-0345] 非拡散性膜タンパク質 syntaxin4が引き起こす上皮-間葉転換(EMT)の分子機構

○廣瀬 友衣奈[1]、平井 洋平[1] （1.関学・院理・生命科学）

[2P-0346] コラーゲン結晶の配向が誘導するひれ骨のかたち

○中川 日々紀[1]、荒巻 敏寛[1]、黒田 純平[1]、近藤 滋[1] （1.阪大院・生命機能）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 6) 細胞周期、細胞分裂、細胞極性（ポスター）

[2P-4-6] 4. 細胞の構造と機能-6) 細胞周期、細胞分裂、細胞極性

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0347（FAOBMB TF-6）] Lineage specific functions of a microcephaly gene (wdr62) and interactions with Aurora A Kinase promote neural stem cell proliferation and brain growth.

Belal Shohayeb[1]、Nicholas R. Lim[2]、Sean S. Millard[1]、Zhiheng Xu[3]、Leonie M. Quinn[4]、○Ng Dominic C[1] （1.School of Biomedical Science, University of Queensland, Australia、2.Program in Cancer and Stem Cell Biology, Duke-NUS Medical School, Singapore、3.State Key Laboratory of Molecular Developmental Biology, Institute of Genetics and Developmental Biology, Chinese Academy of Sciences, China 、4.Department of Cancer Biology and Therapeutics, John Curtin School of Medical Research, Australia.）

[2P-0348] THE ROLE OF NUCLEOPORIN NUP58 DURING MITOSIS

○Hartono Hartono[2]、Masaharu Hazawa[1,2]、Firli Rahmah Primula Dewi[2]、Akiko Kobayashi[2]、Mahmoud Shaaban Mohamed[2,3]、Richard W. Wong[1,2,3] （1.Cell-Bionomics Research Unit, Innovative Integrated Bio-Research Core, Institute for Frontier Science Initiative, Kanazawa University, Kanazawa, Ishikawa, Japan.、2.Laboratory of Molecular Cell Biology, School of Natural System, Institute of Science and Engineering, Kanazawa University, Kanazawa, Ishikawa, Japan.、3.Bio-AFM Frontier Research Center, Kanazawa University, Kanazawa, Ishikawa, Japan.）

[2P-0349] ５型キネシンを必要としない新規 M期紡錘体構造形成経路

○登田 隆[1,2]、岡崎 雅紀[1]、山内 智瑛[1]、山田 侑亮[1]、河上 友基[1]、湯川 格史[1,2] （1.広島大・院先端研・分子生命、2.広島大・健康長寿）

[2P-0350] 新規 aPKC結合タンパク p200による上皮細胞極性の調節機構

○佐々木 和教[1]、麹谷 典子[1]、廣瀬 博子[1]、吉濱 陽平[1,2]、高柳 亜由美[1,3]、山下 暁朗[1]、平野 久[4]、大野 茂男[1] （1.横浜市大・院医・分子細胞生物学、2.東大・院農生・動物細胞制御学、3.東京理大・院薬・分子医科学、4.横浜市大・先端研）

[2P-0351] 細胞質分裂における3細胞間タイト結合分子の局在と役割

○金野 匠[1]、幸野 貴之[1]、菊池 真[2]、嶋田 浩志[3]、郷久 晴朗[3]、齋藤 豪[3]、小島 隆[1] （1.札幌医科大学 医学部附属フロンティア医学研究所 細胞科学部門、2.札幌医科大学 医学部 解剖学第一講座、3.札幌医科大学 医学部 産婦人科学講座）

[2P-0352] 転写因子 YB-1による細胞老化抑制機構

○有川 和沙[1]、田原 圭一郎[1]、苗村 円佳[1]、澤田 悠賀[1]、北川 雅敏[2]、神武 洋二郎[1] （1.近大大学院・産業理工・細胞生物工学、2.浜松医大・医・分子生物）

[2P-0353] マウス卵母細胞における動原体依存的な紡錘体二極化機構の解明

○吉田 周平[1]、北島 智也[1] （1.理研・CDB）

[2P-0354] Ridaifen-Bによる結腸癌細胞の細胞周期停止

○東 史倫[1]、芝田 夏実[2]、椎名 勇[2]、四宮 貴久[1]、長原 礼宗[1] （1.東京電機大・理工、2.東京理科大・理工）

[2P-0355] γ-Taxilinによる Nek2Aを介した中心体分離の制御機構

©日本分子生物学会/日本生化学会

○牧山 智彦[1,2]、坂根 洋[1,3]、野上 識[1,4]、東 覚[1]、白瀧 博通[1]（1.獨医大・医・分子細胞生物学、2.杏林大・医・生化学、3.福山大・薬・免疫生物学、4.東大・理学系研究科）

[2P-0356] キネトコア構築における CENP-Cのドメイン解析

○柿薗 絵理[1]、原 昌稔[1]、深川 竜郎[1]（1.阪大・院生命機能）

[2P-0357] 腎臓線維化における細胞周期遅延の病態的意義の解明

○古家野 孝行[1]、難波 真澄[1]、小林 朋絵[1]、福島 正樹[2]、松山 誠[1]（1.重井医学研究所、2.重井医学研究所附属病院）

[2P-0358] HeLa細胞を用いたポリ ADPリボシル化反応と細胞周期進行との関連性研究

○山下 幸子[1]、井田 智恵理[2]、田中 正和[3]、三輪 正直[1]、西 義介[1]（1.長浜バイオ大学大学院 バイオサイエンス、2.名古屋女子大学 生活学科、3.鹿児島大学 分子病理病態研究分野）

[2P-0359] 螺旋卵割において non-muscle myosin IIは紡錘体形成に関与する

○佐々木 和哉[1]、渡邉 靖矢[1]、阿部 真典[2]、黒田 玲子[1,2]（1.東理大・院理工・応用生物科学、2.東理大・総研院）

[2P-0360] 一時的な核内の IL-33の消失は表皮角化細胞の細胞分裂を抑制する

○津田 英利[1]、小宮根 真弓[1]、大槻 マミ太郎[1]（1.自治医大・皮膚科学）

[2P-0361] 線虫 C. elegansと P. pacificus初期胚の 細胞極性化機構の比較解析

○佐々木 大地[1]、生井 聡史[1]、杉本 亜砂子[1]（1.東北大・院生命科学）

[2P-0362] 分裂酵母においてロイシン又はマグネシウム枯渇条件では経時寿命延長因子 Ecl1の発現量が上昇する

○加藤 敬典[1]、滝浪 奨洋[1]、大塚 北斗[1]、饗場 浩文[1]（1.名大・院創薬科学）

[2P-0363] Kintoun/ H10BH-BPは Topoisomerase 2Aの分解制御に関与する

○古川 真帆[1]、橋本 吉民[1]、田中 弘文[1]（1.東京薬科大学）

[2P-0364] C6orf62と相互作用する因子の同定

○三上 麻綾[1]、大石 奈央子[1]、前本 佑樹[1]、橋本 吉民[1]、田中 弘文[1]（1.東京薬科大学）

[2P-0365] Prl2c3は SIRT1により負に発現制御を受ける老化誘導タンパクである

○細田 隆介[1]、堀本 浩平[2]、國本 梨沙[1]、山下 利春[2]、瀬堀 理生[1]、久野 篤史[1]、堀尾 嘉幸[1]（1.札幌医大・医・薬理学、2.札幌医大・医・皮膚科）

[2P-0366] 心臓と肝臓の再生能力の違いの原因は何か？～cyclin D1に着目して

○平田 早紀[1]、園田 夕貴[1]、佐藤 幸夫[1]、林 利憲[1]、竹内 隆[1]（1.鳥大・院医・生命科学）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 7) アポトーシス、細胞死（ポスター）

[2P-4-7] 4. 細胞の構造と機能-7) アポトーシス、細胞死

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0367] Synergistic effects of Sageone, a diterpene from Rosmarinus officinalis, with cisplatin in SNU-1 human gastric cancer cells

YeonWoo Song[1,2]、○Ji-Yeon Ryu[3]、So Yae Koh[2]、Somi Kim Cho[1,2]（1.Subtropical/Tropical Organism Gene Bank, Jeju National University, Jeju 63243, Republic of Korea、2.Faculty of Biotechnology, College of Applied Life Sciences, Jeju National University, SARI, Jeju 63243, Republic of Korea、3.School of Biomaterials Sciences and Technology, College of Applied Life Sciences, SARI, Jeju National University, Jeju 63243, Republic of Korea）

[2P-0368] 鉄依存性細胞死フェロトーシスにおける膜脂質過酸化

○久保田 知里[1,2]、神徳 亮介[1,3]、瀧川 雄太[4]、山田 圭一[5]、好本 裕平[3]、竹内 利行[1]、輿石 一郎[4]、鳥居 征司[1]（1.群馬大・生体調節研・分泌制御、2.(独）日本学術振興会RPD、3.群馬大・院医・脳外、4.群馬大・院保、5.群馬大・院理工・分子科学）

[2P-0369] プロフィリンはβアクチン C末端側15kDa断片による細胞死誘導を抑制する

○伊東 奈那子[1]、刀祢 重信[1]、田中 眞人[1]（1.東電大・院理工・生命理工）

[2P-0370] ゲラニルゲラノイン酸はヒト肝癌由来細胞株において TLR4介在性パイロトーシスを誘導する

○薮田 末美[1]、四童子 好廣[1]（1.長崎県立大・院・細胞生化学）

[2P-0371] TMEM117が関与する小胞体由来の ROSの解明

○乙高 俊徳[1]、玉木 智也[1]、杉山 友康[1]（1.東京工科大・情報バイオ・バイオニクス・杉山研究室）

[2P-0372] RASGRP2による血管内皮細胞死の抑制

○佐藤 拓真[1]、瀧野 純一[1]、長嶺 憲太郎[1]、堀 隆光[1]（1.広島国際大薬）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-0373] 各種ガン細胞におけるバクテリオファージ由来溶菌タンパク質 Holinのアポトーシス誘導
○千羽 啓太[1]、黒木 未知瑠[1]、白澤 拓海[1]、原田 額郎[2]、片倉 喜範[1,2]、土居 克実[1]（1.九大・生資環、2.九大・シス生）

[2P-0374] 膵β細胞モデル MIN6はセレノプロテイン P発現を介して抗酸化システムを維持する
○中尾 昌平[1]、三田 雄一郎[1]、斎藤 芳郎[1]、野口 範子[1]（1.同大・院生命・医生命）

[2P-0375] JNKシグナル強度の制御を介した細胞排除現象の遺伝学的解析
○中村 麻衣[1]、井垣 達吏[1]（1.京大・院生命・システム機能学）

[2P-0376] M型ピルビン酸産生酵素 PKM1は膵臓β細胞の小胞体ストレス依存的な細胞死を抑制する
○中津 大貴[1]、堀内 雄太[2]、加納 ふみ[1]、村田 昌之[1,2]（1.東工大・科学技術創成・細胞制御工学、2.東大・院総合文化）

[2P-0377] 小胞体上の BH3オンリータンパクである BNip1は小胞輸送の過剰な活性化により細胞死を誘導する
○西脇 優子[1]、政井 一郎[1]（1.沖縄科学技術大学院大学・神経発生ユニット）

[2P-0378] *O*-GlcNAc修飾タンパク質による *ICERII*の増加を介したアポトーシスの亢進作用
○東 祐太郎[1]、江野澤 瞳[1]、津山 崇[1]、多田 周右[1]（1.東邦大・薬・分子生物学）

[2P-0379] 細胞競合の普遍的メカニズムの遺伝学的探索
○越智 直孝[1]、永田 理奈[1]、中村 麻衣[1]、井垣 達吏[1]（1.京大院・生命・システム機能学）

[2P-0380] ABCG2 siRNA導入によるがん細胞のアポトーシス誘導
○小渕 浩嗣[1]、藤田 洋史[2]（1.岡山大・院医歯薬学・細胞化学、2.岡山大・院医歯薬学・細胞組織学）

[2P-0381] 非小細胞肺癌細胞株におけるシスプラチンによるアポトーシスの考察
○中道 真仁[1]、中嶋 亘[1]、松本 優[1]、田中 信之[1]（1.日本医大・先端研・遺伝子）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 8) その他（ポスター）

[2P-4-8] 4. 細胞の構造と機能-8) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0382] 細菌細胞外膜の構造的欠陥がもたらす膜小胞取り込みの活性化
○高木 航太郎[1]、長谷川 雄将[1]、二又 裕之[1]、田代 陽介[1]（1.静岡大院・総合科技）

[2P-0383] 血管内皮細胞の管腔形成初期過程における CRIM1の役割
○新屋 智寛[1]、泉 美桜[1]、井上 志穂[1]、高橋 悟[1]（1.武庫川女子大・薬・免疫生物学）

[2P-0384] アメーバへの細菌感染における細胞小器官の相互作用
○下河原(古島） 理江子[1,2,3]、八木田 健司[1]（1.感染研、2.東理大、3.東医歯大）

[2P-0385] NAMPT高発現マウス初代細胞は superoxide dismutase 2 および catalase 遺伝子を高発現し細胞老化が遅延する
○中畑 泰和[1]、Fiqri Khaidizar[1]、松井 貴輝[1]、別所 康全[1]（1.奈良先端大・バイオ・遺伝子発現制御）

[2P-0386] 発達段階のマウス網膜の網羅的発現解析により同定された血管新生関連遺伝子の機能解析
○足立 博子[1]、富永 洋之[1]、丸山 悠子[2]、米田 一仁[2]、丸山 和一[2,4]、外園 千恵[2]、木下 茂[3]、中野 正和[1]、田代 啓[1]（1.京府医大・ゲノム医科学、2.京府医大・眼科学、3.京府医大・感覚器未来医療学、4.阪大・医・視覚先端医学）

[2P-0387] 環状デプシペプチド destruxin Eを用いた破骨細胞形態制御機構の解析
○丹羽 悠菜[1]、山口 駿太[2]、林 宣宏[2]、中川 大[3]（1.中部大院・応用生物学、2.東京工業大・生命理工学院、3.中部大・応用生物学部）

[2P-0388] ステロイド誘導体の構造の違いと細胞膜への影響の関係性
○林 啓太[1]、森本 和寿[1]、亀井 稔之[1]、市川 創作[2]、中村 秀美[1]（1.奈良高専・物化、2.筑波大・生命環境）

[2P-0389] レプトスピラべん毛繊維の大量調製と多型変換
○田中 暢晃[1]、寺脇 慎一[1]、林 史夫[2]、若松 馨[1]（1.群大・院理工・物質生命、2.群大・機器分析）

[2P-0390] GATA-6への変異導入による細胞増殖及び遺伝子発現の変動
○牛島 弘雅[1]、太田 健斗[1]、藤本 康之[1]（1.岩手医大・薬・分子生物）

[2P-0391] Apoptosis-inducing factor (AIF)の核内作用解明ためのミトコンドリア局在性 AIF変異体細胞の構築
○近藤 一成[1]、加藤 怜子[1]、中村 公亮[1]、坂田 こずえ[1]（1.国立医薬品食品衛生研究所）

ポスター発表 | 5. 細胞応答 | 1) 細胞外シグナル分子、受容体、イオンチャネル（ポスター）

[2P-5-1] 5. 細胞応答-1) 細胞外シグナル分子、受容体、イオンチャネル

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-0392（2AT12-07）] メダカの侵害刺激センサーTRPV1の刺激応答性についての研究
○浅野 麻己子[1]、安田 隆ノ介[1]、桑 慎一郎[2]、久保 義弘[2]、齊藤 修[1]（1.長浜バイオ大学大学・院・バイオサイエンス、2.生理学研究所　神経機能素子）

[2P-0393] 魚類 TRPA1の高温応答特性を決定する分子基盤の検討
○織田 麻衣[1]、齊藤 修[1]（1.長浜バイオ大学 バイオサイエンス学部）

[2P-0394（2AT12-01）] G蛋白質共役型受容体の基礎活性の生成には、一過的なダイマー形成が重要である
○笠井 倫志[1]（1.京大・ウイルス・再生研）

[2P-0395（2AT12-02）] リゾフォスファチジルイノシトールによるグルカゴン様ペプチド-1分泌機構
○原田 一貴[1]、北口 哲也[2,3]、神谷 泰智[1]、Aung Kyaw[4]、中村 和昭[4]、太田 邦史[1]、坪井 貴司[1]（1.東大・院総文・生命、2.早稲田シンガポール研・細胞情報、3.早大・総合研究機構、4.成育医療センター・薬剤治療）

[2P-0396（2AT12-03）] 視床下部オレキシン神経に対するドーパミンの長期的作用の解析
○向井 康敬[1,2]、田中 謙二[3]、永井 健治[4]、山中 章弘[1]（1.名大・環医研・神経２、2.名大・院医、3.慶應大・医・精神神経科学、4.阪大・産研・生体分子機能科学）

[2P-0397（2AT12-04）] 脳虚血再灌流モデルマウスの脳病態におけるプロトン感知性受容体 TDAG8の役割
○佐藤 幸市[1]、茂木 千尋[1]、岡島 史和[2]（1.群馬大・生体調節研究所、2.青森大・薬学部）

[2P-0398（2AT12-05）] 心臓ペースメーカー細胞の L型 Ca^{2+}チャネルは Na^{+}電流を誘発して拍動リズムの形成に寄与する
○豊田 太[1]、丁 維光[1]、松浦 博[1]（1.滋賀医大・細胞機能生理学）

[2P-0399（2AT12-06）] RBM20による心筋 L型カルシウムチャネルの制御
○森永 聡仁[1]、伊藤 淳平[1]、Andres Maturana[1]（1.名大・院農・生命技術）

[2P-0400（2AT12-09）] ポリサルファイドの生体内合成メカニズム：酵素による生合成と、硫化水素/一酸化窒素の化学的相互作用
○木村 由佳[1]、豊福 優希子[1]、小池 伸[2]、渋谷 典広[1]、永原 則之[3]、David Lefer[4]、宮本 亮[1]、小笠原 祐樹[2]、木村 英雄[1]（1.国立精神・神経医療研究セ・神経研究所、2.明治薬大・分析化学、3.日本医大・RIセ、4.Dept. Pharmacol. Exp. Ther., LSU Health Sci. Center）

[2P-0401（2AT12-10）] フタホシコオロギ*Gryllus bimaculatus*を用いた内分泌ネットワークによる脂肪組織での代謝制御および摂食行動へ与える影響の解析
○福村 圭介[1]、久保 健一[1]、清家 瞳[1]、永田 晋治[1]（1.東大・新領域・先端生命科学）

[2P-0402（2AT12-12）] 新規抗炎症性 RAGE阻害剤の創製とその抗炎症機構の解析
○中島 槙吾[1]、玉田 賢弥[1]、吉森 篤史[2]、佐藤 聡[1]、田沼 靖一[1]（1.東京理大薬、2.(株)理論創薬研究所）

[2P-0403] Study on the regulation of URAT1 in IL-6 overexpressed renal cells
○Pei-Fung Wu[1]、Cheng-Tse Lee[2]、Li-Ching Chang[3]（1.Department of Kinesiology, Health and Leisure Studies, National University of Kaohsiung, Kaohsiung, Taiwan、2.Division of Orthopedics, Zuoying Branch of Kaohsiung Armed Forces General Hospital, Kaohsiung, Taiwan、3.Department of Occupational Therapy, I-Shou University, Kaohsiung, Taiwan）

[2P-0404] アポトーシスにおける細胞収縮に関わるカリウムチャネル THIK-1の同定とその作用機序の解明
○酒巻 和弘[1]、坂田 利弥[2]、竹内 綾子[3]、高木 知世[4]、篠田 肇[5]、齋藤 暁子[2]、永井 健治[5]、松岡 達[3]、上野

©日本分子生物学会/日本生化学会

直人[4]（1.京大・院生命・高次遺伝情報学、2.東大・院工学・マテリアル工学、3.福井大・医・統合生理学、4.基生研・形態形成、5.阪大・産研・生体分子機能科学）

[2P-0405] 神経細胞における MEGF10の機能解析

○藤田 融[1]、前田 智司[2]、瀋 雪峰[1]、鄒 鶤[1]、駒野 宏人[1]（1.岩手医大・薬・神経科学、2.日本薬大・生命医療薬学）

[2P-0406] *In silico*創薬手法に基づいた新規抗炎症性RAGE阻害剤の創製

○玉田 賢弥[1]、中島 槙吾[1]、吉森 篤史[2]、高澤 涼子[1]、佐藤 聡[1]、田沼 靖一[1]（1.東京理大・薬、2.(株)理論創薬研究所）

[2P-0407] Wnt5b含有エクソソームは癌細胞の増殖及び運動能を亢進させる

○原田 武志[1]、山本 英樹[1]、菊池 章[1]（1.阪大・院医・分子病態生化学）

[2P-0408] two-pore型カリウムチャネル K_{2P}5.1スプライスバリアントの同定と活性化 Tリンパ球における pre-mRNAスプライシング阻害剤による K_{2P}5.1活性抑制

○遠藤 京子[1]、黒川 なつ美[1]、たぎし 和隆[1]、清水 彩夏[1]、鬼頭 宏彰[1]、丹羽 里実[1]、藤井 正徳[1]、大矢 進[1,2]（1.京都薬大・薬理、2.名市大・院医・薬理）

[2P-0409] 細胞外情報を統合する CCNファミリー遺伝子の糖代謝を介した制御

○明石 翔[1,2]、西田 崇[1]、El-Seoudi Abdellatif[1]、滝川 正春[3]、飯田 征二[2]、久保田 聡[1,3]（1.岡大・院医歯薬・口腔生化学、2.岡大・院医歯薬・顎口腔再建外科学、3.岡大・歯・先端領域研究センター）

[2P-0410] 味細胞以外の細胞におけるヒト苦味受容体の発現とその局在について

○前川 直斗[1]、山本 千晶[1]、藤原 友幹[1]、中村 元直[1]（1.岡山理科大・院理・臨床生命科学）

[2P-0411] ストア作動性カルシウム流入(SOCE)に応答する NIuc NFATレポーター系の開発

○阿知波 卓也[1]、張 維[1]、寺西 直樹[1]、村松 彩夏[1]、松尾 里奈[1]、高原 照直[1]、柴田 秀樹[1]、牧 正敏[1]（1.名大院・生命農・応用分子生命）

[2P-0412] 乳癌細胞におけるクロライドチャネル阻害によるヒト上皮成長因子受容体 HER2転写抑制

○大矢 進[1,2]、藤本 万由[2]、鬼頭 宏彰[2]、遠藤 京子[2]、松井 未来[2]、丹羽 里実[2]（1.名市大・院医・薬理、2.京都薬大・薬理）

[2P-0413] 金属イオンによる OGR1, GPR4を介した応答解析

○武者 詩織[1]、根岸 潤[1]、永山 純礼[1]、持丸 雄太[1]、戸村 秀明[1,2]（1.明大・農・生命科学、2.明大・内分泌研）

[2P-0414] 軸索誘導因子セマフォリンと受容体プレキシンにおける結合選択性の分子基盤

○田中 翼[1]、根谷崎 牧子[1]、大井 里香[1]、三原 恵美子[2]、野田 勝紀[4]、内山 進[3,4]、高木 淳一[2]、禾 晃和[1]（1.横浜市大・院生命医、2.阪大・蛋白研、3.岡崎統合バイオ、4.阪大・院工）

[2P-0415] 表面プラズモン共鳴法を用いたセマフォリン6Dとプレキシン A1の低親和性相互作用の定量化

○永友 芽里[1]、金川 櫻[1]、田中 翼[1]、根谷崎 牧子[1]、下地 恵令奈[1]、池口 満徳[1]、禾 晃和[1]（1.横浜市大・院・生命医）

[2P-0416] ヒト Kv1.5チャネルの SKF-96365およびエホニジピンによるブロック作用の分子基盤の解析

○上田 梨加[1]、丁 維光[1]、松浦 博[1]（1.滋賀医大・医・生理）

[2P-0417] AGEs-RAGE間相互作用に影響を与える生理活性因子の同定と性状

○森 秀治[1]、渡邊 政博[1]、和氣 秀徳[2]、劉 克約[2]、勅使川原 匡[2]、高橋 英夫[3]、西堀 正洋[2]、豊村 隆男[1]（1.就実大・薬・生体情報、2.岡山大・院・医歯薬・薬理、3.近畿大・医・薬理）

[2P-5-2] 5. 細胞応答-2) 核内受容体

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0418] エストロゲン受容体αに結合する環境化学物質・新世代ビスフェノール類のライブラリースクリーニング

○松島 綾美[1]、枡屋 宇洋[1]、劉 暁輝[1]、下東 康幸[2]（1.九大・院理・化学、2.九大・リスクサイエンス）

[2P-0419] 有害化学物質・新世代ビスフェノール類のエストロゲン受容体βに対する結合試験

○枡屋 宇洋[1]、波佐間 裕太[1]、劉 暁輝[1]、袈裟丸 仁志[1]、野瀬 健[1,2]、松島 綾美[1]（1.九大・院理・化学、2.九大・基幹教育院）

[2P-0420（2AT12-11）] テオフィリンはグルココルチコイド刺激による脂肪細胞からの IL-6産生を抑制する

○三谷 塁一[1]、片山 茂[2]、中村 宗一郎[2]（1.信州大・先鋭領域・バイオメディカル、2.信州大・総合理工学（農学））

[2P-0421（2AT12-13）] Combinatorial regulation of

©日本分子生物学会/日本生化学会

UDP-Glucuronosyltransferase (UGT)-1A8 Gene by Intestinal Factors Cdx2 (Caudal-Related Homeodomain Protein-2) and HNF4a (Hepatocyte Nuclear Factor-4 Alpha)
○Siti Mubarokah[1]、Peter I MacKenzie[1]、Robyn Meech[1]
（1.Department of Clinical Pharmacology, Flinders University, Adelaide, SA, Australia ）

[2P-0422（2AT12-14）] 核内受容体 Ad4BP/SF-1によるステロイドホルモン産生へ向けた全プロセスの制御
○馬場 崇[1]、Man Ho Choi[2]、諸橋 憲一郎[1]（1.九大・院医・性差生物学、2.Molecular Recognition Research Center, KIST）

[2P-0423（2AT12-15）] NR5Aサブファミリーにおける核内受容体複合体の構造生物学
○湯本 史明[1]、サブリン エリーナ[2]、清水 伸隆[1]、加藤 龍一[1]、フレッテリック ロバート[2]、千田 俊哉[1]
（1.高エネ機構・物構研・構造生物セ、2.カリフォルニア大学サンフランシスコ校）

[2P-0424] 不活性な ERα-AF1ドメイン欠損体は自発活性化型核内受容体 ERRにより活性化される
○劉 暁輝[1]、松山 祐昂[1]、杉山 真季子[1]、松島 綾美[1]、下東 美樹[2]、○下東 康幸[3]（1.九州大・院理・化学、2.福岡大・理・生物、3.九州大・リスクサイエンス）

[2P-0425] 内分泌撹乱物質ビスフェノール Aによる子宮体癌細胞株悪性度促進機構の解明
○矢口 貴博[1]、亀野 美咲[2]、佐々木 菜摘[2]、川上 純司[2]
（1.倉敷芸科大・院・機能物質化学専攻、2.甲南大学・FIRST・生命化学）

[2P-0426] ビスフェノール Aのハロゲン置換が引き起こす核内受容体 ERα結合性および転写活性に対する影響
○袈裟丸 仁志[1]、金子 周平[1]、大久保 貴史[1]、巣山 慶太郎[2]、劉 暁輝[3]、松島 綾美[3]、野瀬 健[1,2]（1.九大・院理・化学、2.九大・基幹教育院、3.九大・院理・化学）

[2P-0427] 甲状腺ホルモン受容体の転写活性は構成的自発活性な核内受容体により強く増強される
松山 祐昂[1]、劉 暁輝[1]、杉山 真季子[1]、松島 綾美[1]、下東 美樹[2]、○下東 康幸[3]（1.九大・院理・化学、2.福岡大・理・生物、3.九大・リスクサイエンス）

[2P-0428] 成長ホルモンはラット肝臓において核内受容体 CARの発現を抑制する
○中田 朋子[1]、勝又 晴美[1]、時田 玲子[1]、南 史朗[1]
（1.日本医大・先端医学研・生体機能制御学）

[2P-0429] マウス肝臓における肝臓Ｘ受容体（ Lxr）の in vivo動態解析
○山崎 泰広[1]、上野 歩美[1]、山口 賢彦[1]、菅谷 純子[1]、黒川 洵子[1]（1.静岡県大・薬・生体情報分子解析学）

[2P-0430] プロピオン酸菌由来 DHNAによる AhR活性化および免疫賦活化作用
○工藤 生[1]、畠山 詩織[1]、岡本 知也[1]、伊藤 英晃[1]
（1.秋田大・院理工・総合理工）

[2P-0431] ヒト PXRノックインマウスを用いたビタミン K2による遺伝子発現調節の解析
○渡邉 きみか[1]、Halima Sultana[1]、白川 仁[1]、駒井 三千夫[1]（1.東北大・院農・栄養学）

[2P-0432] 骨格筋タンパク質代謝制御への介入に基づく抗肥満療法の開発にむけて
○清水 宣明[1]、田中 廣壽[1]（1.東大・医科研・附属病院）

[2P-0433] 変異型グルココルチコイド受容体(GR)発現酵母株の樹立とリガンド応答性評価
○原島 小夜子[1]、川西 優喜[1]、八木 孝司[1]（1.大阪府大・院理・生物科学）

[2P-0434] ヒト前立腺癌 LNCaP細胞において25(OH)D3は1,25(OH)2D3の標的遺伝子と類似した遺伝子群を制御する
○諏佐 崇生[1]、飯塚 眞由[1]、安達 三美[1]、岡崎 貝樹[1]
（1.帝京大・医・生化学）

[2P-0435] ウシガエルとトノサマガエルの TRα発現レポーターアッセイ酵母株の作製
○松下 奈生[1]、松井 聡子[1]、原島 小夜子[1]、川西 優喜[1]、八木 孝司[1]（1.府大・院理・生物科学）

[2P-0436] 細胞壁マンナンタンパク質遺伝子 *TIR1* を欠損させた高感度なエストロゲン応答酵母株の樹立
○野村 智文[1]、原島 小夜子[1]、川西 優喜[1]、八木 孝司[1]
（1.大阪府立大・院理・生物科学）

[2P-5-3] 5. 細胞応答-3) Gタンパク質、シグナル伝達タンパク質

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-0437] GSK-3は Grb14の BPSドメインのリン酸化を介してインスリン受容体と Grb14の複合体形成に関与する
○平 順一[1]、??田 圭佑[1]、稲富 孝平[1]、小松 英幸[1]、坂本 寛[1]（1.九工大・院情報工・生命）

[2P-0438] Degradation of PDCD4, a tumor suppressor, is regulated by both proteasome and autophagy.
○Md. Manirujjaman[1]、Ozaki Iwata[1,2]、Jing Guo[1]、Jinghe Xia[1]、Kenichi Tanaka[1]、Hirkazu Takahashi[1]、Keizo Anzai[1]、Sachiko Matsuhashi[1]（1.Dept. of Int. Med., Saga Med. Sch., Saga Univ.、2.Health Administlation Cen., Saga Med. Sch., Saga Univ.）

[2P-0439] Guanine nucleotide-independent functions of heterotrimeric G proteins in plants
○Natsumi Maruta[1]、Trusov Yuri[1]、Daisuke Urano[2]、Jose R. Botella[1]（1.SAFS, Univ. of Queensland, Australia、2.Temasek Life Sci. Laboratory, Singapore）

[2P-0440] Hippoシグナルのエフェクター、 YAP/TAZがヒト結膜線維化モデルに及ぼす影響
○二口 亜希子[1]、井上 俊洋[1]、井上 みゆき[1]、藤本 智和[1]、谷原 秀信[1]（1.熊本大・院生命・眼科学）

[2P-0441] GSK3βは WNKシグナル伝達経路の正の制御因子として機能する
○佐藤 淳[1]、澁谷 浩司[1]（1.東医歯大・難研・分子細胞生物）

[2P-0442] ユビキチン C末端加水分解酵素 UCH-L1の TGF-βシグナル経路への寄与
○佐粧 彩海[1]、鈴木 理子[1]、永田 麻未[1]、下田 裕太[1]、藤川 雄太[1]、伊東 史子[1]、井上 英史[1]（1.東京薬大・生命）

[2P-0443] M-COPAによる分泌経路の阻害はマスト細胞腫のエンドリソソームにおける Kitのがんシグナルを抑制する
○原 泰志[1]、小幡 裕希[1]、堀川 啓太[1]、田崎 靖崇[2]、鈴木 恭平[2]、村田 貴嗣[2]、椎名 勇[2]、安部 良[1]（1.東京理科大・生命医研・免疫生物、2.東京理科大・理・応用化学）

[2P-0444] GPCRシグナル伝達系における三量体 Gタンパク質シャトリングの分子機構
○上村 陽一郎[1,2]、宮川 武朗[1,2]、小手石 泰康[1,2]、上田 昌宏[1,2]（1.理研・生命システム研究センター・細胞シグナル動態研究グループ、2.阪大院・生命機能研究科・一分子生物学）

[2P-0445] 脳由来神経栄養因子（ BDNF）による R-Rasの活性化と軸索形態制御の分子機構
○梅田 健太郎[1]、加藤 裕教[1,2]、根岸 学[1,2]（1.京大・院薬・神経機能制御学、2.京大・院生命・生体システム学）

[2P-0446] B-Raf阻害剤耐性メラノーマに対する Ras阻害剤の新規薬効と作用メカニズムの解析
○森元 智行[1]、吉川 陽子[2]、白川 慶徳[1]、森 一郎[1]、片岡 徹[2]、島 扶美[1]（1.神戸大・院・科学技術イノベーション研究科、2.神戸大・医学・分子生物学）

[2P-0447] ASK1の NOD-RIPK2経路における機能解析
○高柳 早希[1]、服部 一輝[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[2P-0448] Ras変異体が誘導する発がんシグナルにおける受容体型チロシンキナーゼ Mer (MerTK) の機能解析
○太田 聡[1]、多胡 憲治[1]、松儀 実広[1]、柳澤 健[1]（1.自治医大・生化学）

[2P-0449] PDCD4 knockdown induces senescence in hepatoma cells by up-regulating p21 expression
○郭 じん[1]、尾崎 岩太[2]、夏 京合[1]、Md Manirujjaman[1]、桑代 卓也[1]、小島 基靖[1]、高橋 宏和[1]、江口 有一郎[1]、安西 慶三[1]、松橋 幸子[1]（1.佐賀大・医学部・内科、2.佐賀大・医学部・保健管理センター）

[2P-0450] C2C12筋管細胞における、 IGF-Iのセストリンの及ぼす効果
○和気 郁実[1]、澤 蘭[1]、山本 優[1]、置村 康彦[1]（1.神戸女子大・院家・食物栄養）

[2P-0451] ヒト肝癌細胞において BCAAによる YAP転写因子阻害における PKCアイソフォームの役割
○夏 京合[1]、尾崎 岩太[2]、郭 チン[1]、Manirujjaman Md.[1]、田中 賢一[1]、桑代 卓也[1]、高橋 宏和[1]、江口 有一郎[3]、安西 慶三[1]、松橋 幸子[1]（1.佐大・医・内科、2.佐大・医・保健管理センター、3.佐大・医・肝疾患センター）

[2P-0452] 解糖系阻害が骨芽細胞のユビキチンープロテアソーム機構に及ぼす影響
○大西 智和[1]、楠山 譲二[1]、Amir Subhan[3]、榮樂 菜保子[2]、松口 徹也[1]（1.鹿大・院医歯学・口生化、2.鹿大・院医歯学・歯周病、3.鹿大・院医歯学・口外科）

[2P-0453] 歯周靭帯由来細胞における神経栄養因子 NGFの発現機構に関する研究

©日本分子生物学会/日本生化学会

○太田 麻衣子[1,2]、帖佐 直幸[1]、横田 聖司[1]、客本 斎子[1]、加茂 政晴[1]、佐藤 健一[2]、城 茂治[3]、石崎 明[1]
（1.岩手医科大学生化学講座細胞情報科学分野、2.岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野、3.岩手医科大学補綴インプラント学講座摂食嚥下口腔リハビリテーション学分野）

[2P-0454] 変形性顎関節症に伴う下顎頭の骨吸収機構を分子レベルで明らかにする研究
○松本 識野[1,2]、横田 聖司[1]、帖佐 直幸[1]、菊池 恵美子[2]、木村 仁迪[2]、加茂 政晴[1]、佐藤 和朗[2]、石崎 明[1]
（1.岩手医大・生化学・細胞情報、2.岩手医大・口腔保健育成学・歯科矯正）

[2P-0455] ゼブラフィッシュにおける GPCR活性化検出系の確立
○柴田 剛明[1]、井上 飛鳥[1,2]、木瀬 亮次[1]、川上 耕季[1]、青木 淳賢[1,3]（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.AMED-PRIME、3.AMED-CREST）

[2P-0456] 分裂酵母を用いたドーパミンセンサーの開発
○松本 明日香[1]（1.東工大・生命理工）

[2P-0457] 上皮間葉転換関連因子の細胞内代謝変化における役割
○竹洞 裕貴[1]、岩澤 脩斗[1]、高倉 勇気[1]、岡田 和之[1]、本田 拓也[1]、森井 真理子[1]、山口 直人[1]、山口 憲孝[1]
（1.千葉大・院薬・分子細胞生物学）

[2P-5-4] 5. 細胞応答-4) プロテインキナーゼ、ホスファターゼ

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0458] 腸上皮の恒常性制御における Tsc2-mTORC1シグナルの役割
○Jajar Setiawan[1]、小谷 武徳[1]、金野 祐[1]、今田 慎也[1]、朴 貞河[1]、澤田 直樹[1]、齊藤 泰之[1]、村田 陽二[1]、的崎 尚[1]（1.神戸大・院医・シグナル統合学）

[2P-0459] Akt抑制因子 PHLDA3の新規結合分子 PH3IPはAkt活性を制御する
○山口 陽子[1]、西川 雷羅[2]、陳 ヨ[2]、斎藤 梢[2]、広川 貴次[3]、八田 知久[3]、夏目 徹[3]、永田 喜三郎[1]、大木 理恵子[2]（1.東邦大学・理・生物分子・分医、2.国立がんセ・研・基礎腫瘍、3.産総研・創薬プロ研）

[2P-0460] NPM-ALKの細胞内局在制御機構の解析
○内原 脩貴[1]、多胡 めぐみ[1]、多胡 憲治[2]、田村 悦臣[1]
（1.慶應大・薬・衛生化学、2.自治医大・生化学）

[2P-0461] ゴナドトロピン産生細胞での GnRH受容体刺激による ERKの活性化反応と ErbB4の切断反応
○山本 秀幸[1]、大本 裕次郎[1]、澳津 志帆[1]、仲嶺 三代美[1]（1.琉大院・医・生化）

[2P-0462] 出芽酵母の酸性ホスファターゼによるチアミン代謝遺伝子発現を介した分裂寿命制御
○中島 俊雄[1]、向 由起夫[1]（1.長浜バイオ大・バイオ・バイオ）

[2P-0463] 出芽酵母における分裂寿命を制御するPho85サイクリンの同定
○森松 貴輝[1]、向 由起夫[1]（1.長浜バイオ大・院バイオ・バイオ）

[2P-0464] 担子菌キノコ*Coprinopsis cinerea*に存在するcalmodulin 2 (CcCaM2) は149番目のシステイン残基を介したジスルフィド結合により二量体を形成する
○山田　寛樹[1]、小林 博子[1]、金子 啓祐[1]、山下 雅史[1]、亀下 勇[1]、末吉 紀行[1]（1.香川大・農・応用生物科学）

[2P-0465] Ser/Thrホスファターゼ PPM1Dによる脂肪細胞分化と脂肪滴形成の制御
○木村 望[1]、鎌田 瑠泉[1]、吉村 文彦[1]、谷野 圭持[1]、坂口 和靖[1]（1.北大院・理・化）

[2P-0466] STK38/NDR1の安定性制御メカニズム
○榎本 敦[1]、深澤 毅倫[1,2]、宮川 清[1]（1.東大・院医・放射線分子医学、2.東大・医・皮膚科）

[2P-0467] λphosphataseを恒常的に発現する大腸菌株BL21(DE3)pλPPを利用した高活性型 casein kinase 1の簡便な調製法
○秋月 一駿[1]、遠山 拓[1]、石田 敦彦[2]、亀下 勇[1]、末吉 紀行[1]（1.香川大・農・応用生物科学、2.広島大院・総合科学）

[2P-0468] 線虫 Enigmaホモログによる Rhoキナーゼシグナルを介した神経軸索再生制御
○清水 達太[1]、松本 邦弘[1]、久本 直毅[1]（1.名大・院理・生命理学）

[2P-0469] コンドロイチン硫酸は加齢依存的な切断神経軸索の再生能の低下に関与する
○竹生 実希子[1]、松本 邦弘[1]、久本 直毅[1]（1.名大・院理・生命理学）

[2P-0470] ショウジョウバエ細胞外フォスファターゼの探索
○久保 瑛子[1]、土井 由香[1]、石川 裕之[1]（1.千葉大・理・生物）

[2P-0471] protein phosphatase 2 Aの調節サブユニット PPP2R5Eは微小管架橋因子 MTCL1の発現量を制御する。
○兵頭 寿典[1]、稲見 恵理[2]、太田 明伸[1]、シバスンダラ

©日本分子生物学会/日本生化学会

ン カルナン[1]、小西 裕之[1]、細川 好孝[1]（1.愛知医大・院・医・生化学、2.名大・院・医・ベルリサーチ産学協同）

[2P-0472] 核内 c-Ablによる転写因子 NFYAのチロシンリン酸化の解析

○帯刀 隆[1]、本田 拓也[1]、森井 真理子[1]、岩澤 脩斗[1]、鈴木 亘[1]、山口 憲孝[1]、山口 直人[1]（1.千葉大・院薬・分子細胞生物学研究室）

[2P-0473] CRISPR/Cas9システムによるMnk1/Mnk2ノックアウト HeLa細胞の作成とシグナル伝達経路の解析

○小笠原 慎[1]、井上 潤子[1]、大谷 侑平[1]、金谷 祥吾[1]、水野 和史[1]、藤井 忍[1]、藤井 俊裕[1]、尾崎 恵一[2]、福永 理己郎[1]（1.大阪薬大・生化、2.大阪薬大・基礎センター）

[2P-0474] JNKの活性化動態は炎症性サイトカインの発現制御に影響を及ぼす

○山口 君空[1]、冨田 太一郎[1]、伊藤 雅方[1]、村上 慎吾[1]、三上 義礼[1]、赤羽 悟美[1]（1.東邦大・医・統合生理）

[2P-0475] 植物 S6キナーゼの活性メカニズムの解析

○矢口 美咲希[1]、木嵜 暁子[2]（1.静大・院理・生物科学、2.静大・理）

[2P-0476] セリン・スレオニンキナーゼ CK2によるクロマチン機能への関与

○本間 美和子[1]、坂東 優篤[2]、横田 直子[2]、中戸 隆一郎[2]、白髭 克彦[2]、本間 好[1]（1.福島医大・医・生体物質、2.東大・分生研・エピゲノム）

[2P-5-5] 5. 細胞応答-5) ストレス応答、レドックス応答

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0477] 多数回膜貫通タンパク質の凝集による Unfolded protein response誘起のメカニズム

○木戸 裕之[1]、木俣 行雄[1]、木俣（石渡） 有紀[1]（1.奈良先端大・バイオ）

[2P-0478] YAP-ROCK2の発現を介した物理的環境の変化による抗がん剤感受性への影響

○杉本 渉[1]、江畑 貴弘[1]、三井 靖雅[1]、前田 美穂[1]、伊藤 功彦[1]、平田 宏聡[2]、川内 敬子[1]（1.甲南大・FIRST、2.名大・院医学科）

[2P-0479] 環境ストレスに応答した糸状菌ガラクトフラノース糖鎖構造制御と免疫細胞との相互作用における役割

○田中 大[1]、岡 拓二[2]、佐々木 雅人[1]、伊藤 文恵[1]、柴田 信之[1]（1.東北医薬大・薬、2.崇城大・応微工）

[2P-0480] eIF2αリン酸化-ATF4経路を制御する BAG-1のレドックスセンシング機構の解析

○武田 洸樹[1]、猪瀬 敦史[1]、色川 隼人[1]、久下 周佐[1]（1.東北医薬大・薬・微生物）

[2P-0481] ストレス応答 MAPK経路によって制御されるmiRNAの機能解析

○渡海 紀子[1]、中村 貴紀[1]、武川 睦寛[1]（1.東大・医科研）

[2P-0482] ピルビン酸キナーゼ M2型（ PKM2）のレドックス制御機構の解析と酸化ストレス応答への寄与について

○色川 隼人[1]、加藤 慎[1]、沼崎 賢史[1]、高橋 庄太[1]、久下 周佐[1]（1.東北医薬大・薬・微生物）

[2P-0483] グアニン四重鎖の形成にプロリンが与える影響

○安井 貴俊[1]、杉本 渉[1]、三好 大輔[1]、川内 敬子[1]（1.甲南大・フロンティアサイエンス・生命化）

[2P-0484] 蛹化時における細胞内 ROS量と SODタンパク質の解析

○野島 陽水[1]、横山 岳[1]、天竺桂 弘子[1]（1.東京農工大院・農）

[2P-0485] Nrf2/AREシグナル伝達経路の活性化による5-ヒドロキシ-4-フェニル-ブテノライドの抗酸化効果

○田部井 陽介[1]、室冨 和俊[1]、梅野 彩[1]、堀江 祐範[1]、辻野 義雄[2]、桝谷 文武[3]、吉田 康一[1]、中島 芳浩[1]（1.産業技術総合研究所 健康工学研究部門、2.北陸先端科学技術大学院大学　マテリアルサイエンス系、3.日本恒順株式会社）

[2P-0486] カルシニューリン B様蛋白質3（ CHP3）は低酸素により誘発される心肥大を制御する

○金 美花[1]、若林　繁夫[2]、古林　創史[4]、土持　裕胤[3]、曽野部　崇[3]、ピアソン　ジェームズ[3]、白井 幹康[1]、大郷 剛[1]（1.国立循環器病研究セ・肺高血圧症先端医学 、2.大阪医大・医・薬理学、3.国立循環器病研究セ・心臓生理機能部、4.昭和大・薬学部 生体制御機）

[2P-0487] 酸化ストレスが細胞内の鉄イオン動態に与える影響

○吉原 大作[1]、藤原 範子[1]、平山 祐[2]、丹羽 正人[2]、江口 裕伸[1]、崎山 晴彦[1]、永澤 秀子[2]、鈴木 敬一郎[1]（1.兵医大・生化、2.岐薬大・薬化）

[2P-0488] シアノバクテリア Synechococcus elongatus PCC 7942における増殖相・リン酸欠乏に応じた染色体コピー数制御

○辻出 亘寛[1]、大林 龍胆[2]、兼崎 友[3]、吉川 博文[1]、廣田 隆一[4]、渡辺 智[1]（1.東京農大・院・バイオ、2.遺伝

©日本分子生物学会/日本生化学会

研、3.東京農大・ゲノム解析セ、4.広島大院・先端）

[2P-0489] 細胞質型 SIRT3は PC12細胞でのアミロイドベータ誘発神経細胞死を抑制する
松下 隆司[2]、林 貴士[1]、○岩原 直敏[1]、下濱 俊[2]、堀尾 嘉幸[1]（1.札医大・薬理、2.札医大・神内）

[2P-0490] 放射線適応応答誘導における上皮増殖因子受容体の役割の検討
○高橋 知花[1]、松本 健吾[1]、立花 章[1]（1.茨大・理学部）

[2P-0491] シアノバクテリア*Synechocystis* sp. PCC 6803における RecAタンパク質の機能解析
青柳 智大[1]、栗原 亜実[1]、大林 龍胆[2]、兼崎 友[3]、○渡辺 智[1]（1.東京農大・バイオ、2.遺伝研、3.東京農大・NGRC）

[2P-0492] 高圧損傷した枯草菌栄養細胞における遺伝子発現解析
○稲岡 隆史[1]、Nguyen Huyen[1]、中井 雄治[2]、森松 和也[3]、木村 啓太郎[1]、中浦 嘉子[1]、山本 和貴[1]（1.農研機構・食品部門、2.弘前大・食料研、3.愛媛大・農）

[2P-0493] Ras誘導性細胞老化における ROCK2の重要性
○前田 美穂[1]、伊藤 功彦[1]、杉本 渉[1]、江畑 貴弘[1]、平田 宏聡[2]、川内 敬子[1]（1.甲南大・フロンティア、2.名大・院医）

[2P-0494] 慢性的な機械的過負荷に対する骨格筋の適応における Vgll2の機能解析
○本多 賢彦[1]、日高 京子[2]、土持 裕胤[3]、森崎 隆幸[1,4]（1.国循セ・研・分子生物学部、2.北九大・基盤教育セ、3.国循セ・研・心臓生理機能部、4.東京工科大・医療保健）

[2P-0495] 持続放射線照射環境を用いた細胞老化の分子機構解析
○河合 秀彦[1]、笹谷 めぐみ[1]、金井 昭教[2]、稲葉 俊哉[2]、神谷 研二[1]（1.広大・原医研・分子発がん、2.広大・原医研・がん分子病態）

[2P-0496] 市販きのこに濃集する放射性セシウムの比較（日本産8種類・フランス産3種類）
○坂本 文徳[1]、Fabiola Guido[1]、Kazuya Tanaka[1]、香西 直文[1]（1.原子力機構）

[2P-0497] 膜脂質変化と熱ストレスによって活性化するMAPキナーゼ経路の上流因子の探索
○丸井 將平[1]、辻 智子[1]、河野 望[1,3]、末廣 勇司[2]、三谷 昌平[2]、新井 洋由[1,4]（1.東大・院薬・衛生化学、2.東京女子医大・医・第二生理、3.PRIME, AMED、4.AMED-CREST, AMED）

[2P-0498] 重金属応答遺伝子の発現誘導を指標とした酵母レポーターアッセイ法の確立
○西村 元志[1]、水谷 結[1]、原島 小夜子[1]、川西 優喜[1]、八木 孝司[1]（1.大府大・院理・生物科学）

[2P-0499] 次世代のマウスの遺伝子発現に影響を与える転写因子 ATF7の役割
○前川 利男[1]、吉田 圭介[1]、石井 俊輔[1]（1.理研・筑波）

[2P-0500] がん制御因子 PICT1の安定化機構
○前濱 朝彦[1]、宮地 洋佑[1]、西尾 美希[1]、鈴木 聡[1]（1.神戸大・院医・分子細胞生物学）

[2P-0501] 酸化ストレス存在下の BAG6複合体の役割
○横田 直人[1]、川原 裕之[1]（1.首都大・院理工・生命科学）

[2P-0502] UVストレスに応答するシアノバクテリア RNase Eの発現制御機構の解析
○沼倉 萌[1]、大竹 祥太[1]、渡辺 智[1]（1.農大・院・バイオ）

[2P-0503] 熱ショックタンパク質はクマムシの乾燥耐性を向上させるか？
○堀川 大樹[1,3]、西野 綾介[1,3]、吉田 祐貴[1,2]、冨田 勝[1,2,3]、荒川 和晴[1,2,3]（1.慶大・先端生命研、2.慶大院・政策・メディア研究科、3.慶大・環境情報）

[2P-0504] 分裂酵母 Pumilioの酸化ストレス応答における役割
○稲荷 正大[1]、萩原 加奈子[1]、原 伸樹[1]、田中 千晶[1]、佐藤 亮介[1]、高崎 輝恒[1]、Wolf Dieter A.[2]、杉浦 麗子[1]（1.近大・薬、2.Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute）

[2P-0505] Insulin receptor substrate 2 (IRS2) に相互作用するタンパク質、 Pyrroline-5-carboxylate reductase 2 (PYCR2) が細胞死に及ぼす影響の解析
○蒲 瑛介[1]、曽根（米澤） 芽里[1]、伯野 史彦[1]、高橋 伸一郎[1]（1.東大・院・農生科）

[2P-0506] DNA傷害ストレスにより誘導されるシアノバクテリア SSBタンパク質の局在化に関する研究
○栗原 亜実[1]、大林 龍胆[2]、吉川 博文[1]、渡辺 智[1]（1.東京農大・院・バイオ、2.遺伝研）

[2P-0507] 表皮の細胞死と細胞老化に対する Syntaxin3の影響解析
○宇多 美規[1]、島 亜沙美[2]、宅見 信哉[2]、中嶋 安弓[2]、矢野 博子[2]、平井 洋平[1]（1.関学・院理・生命科学、2.小林製薬株式会社）

[2P-0508] HIF-1α及び IKKに対する PHDアイソフォームの活性の違いについて
○北山 晃嗣[1]、大黒 亜美[1]、今岡 進[1]（1.関学・理

工・生命医化）

[2P-0509] マウス発生におけるリボソーム結合性因子GCN1L1の役割

○山嵜 博未[1]、叶 鵬[1]、葛西 秋宅[1]、三村 純正[1]、猪瀬-丸山 敦史[1]、伊東 健[1]（1.弘前大・院医・分子生体防御）

[2P-0510] アセチルコリン受容体信号系における NOSによるレドックス制御の意義

○土屋 幸弘[1]、井出 亜弓[1]、内藤 恵[1]、丹澤 夏実[1]、高田 剛[1]、居原 秀[2]、渡邊 泰男[1]（1.昭和薬大・薬・薬理学、2.大阪府大・院・理・分子生物）

[2P-0511] *Synechocystis* sp. PCC6803のヒ素の感知に関わる制御因子*arsR*欠損株における*sll0914*の転写解析

○中原 凌波[1]、石川 晴菜[2]、甲賀 英貴[2]、板垣 文子[2]、岩田 直也[2]、兼崎 友[3]、吉川 博文[4]、内山 純爾[5]、太田 尚孝[1,2,5]（1.東理大・院理・科学教育、2.東理大・院科学教育・科学教育、3.東農大・ゲノム解析センター、4.東農大・応用生物、5.東理大・理学部）

[2P-0512] 低酸素シグナルによるマクロファージ機能制御機構

○Shuoyu Wei[1]、砂河 孝行[1]、江口 正倫[1]、佐藤 大輔[1]、池田 聡司[1]、河野 浩章[1]、前村 浩二[1]（1.長大・医歯薬・循内）

[2P-0513] オルガネラストレスによる細胞内ユビキチン化修飾の変動

○森口 美里[1]、伊藤 昭博[2]、渡部 匡史[1]、藤室 雅弘[1]（1.京都薬大・細生、2.理研）

[2P-0514] 乳癌細胞株の微小管阻害薬パクリタキセルに対する分子機構の解析

○中嶋 亘[1]、浅野 由三[1]、武井 寛幸[2]、田中 信之[1]（1.日医大・先端研・遺伝子制御学、2.日医大・院・乳腺外科）

[2P-0515] mTORを介した核内ストレス構造体の熱ストレス下における形成機構

○井上 歩実[1]、渡邉 和則[1]、岡田 真実[1]、山本 理紗子[1]、大槻 高史[1]（1.岡大・院・自然科学）

[2P-0516] 大腸菌における栄養環境の変化と遺伝子発現応答

○牧 泰史[1]、武藤 愛[2]、上田 雅美[3]、和田 明[3]、古池 晶[1]、中東 憲治[4]、吉田 秀司[1]、森 浩禎[2]（1.大阪医大・物理、2.奈良先端・バイオサイエンス・生体情報、3.吉田生物研、4.Spiber株式会社）

[2P-0517] 5-アミノレブリン酸（ ALA）に対するヒト皮膚線維芽細胞（ HDF）の応答性について

○光田 陽香[1]、前川 紗恵子[1]、荒田 優磨[2]、石塚 昌宏[3]、石井 琢也[3]、北嶋 勇也[3]、市橋 正光[4]、西方 敬人[2]（1.甲南大学大学院・FIRST、2.甲南大学・FIRST、3.SBIファーマ株式会社、4.同志社大学大学院・医科研抗加齢）

[2P-0518] ヒト線維芽細胞の貪食能解析に向けた評価系の確立

○前川 紗恵子[1]、光田 陽香[1]、荒田 優磨[2]、安藤 秀哉[3]、市橋 正光[4]、西方 敬人[2]（1.甲南大学大学院・FIRST、2.甲南大学・FIRST、3.岡山理科大学・工・バイオ応用化学、4.同志社大学大学院・医科研抗加齢）

[2P-0519] マウス初代線維芽細胞の長期間維持培養中における貪食能の変化と不死化との関連

○荒田 優磨[1]、光田 陽香[2]、前川 紗恵子[2]、市橋 正光[3]、西方 敬人[1]（1.甲南大学・FIRST、2.甲南大学大学院・FIRST、3.同志社大医科研抗加齢）

[2P-0520] 培養ヒト角膜上皮細胞におけるエピガロカテキンガレートの上皮間葉転換抑制効果の検討

○濱野 将大[1]、坂田 喜美[1]、吉田 浩二[2]（1.近畿大・院生物理工・生体システム工学、2.近畿大・生物理工・医用工）

[2P-0521] 培養尿細管上皮細胞におけるエピガロカテキンガレートの上皮間葉転換抑制効果の検討

○坂田 喜美[1]、濱野 将大[1]、吉田 浩二[2]（1.近大・院生物理工・生体システム工学、2.近大・生物理工・医用工）

[2P-0522] ERAP1結合型エキソソームによるマクロファージの古典的活性化

○後藤 芳邦[1]、小川 裕子[1]、津元 裕樹[2]、三浦 ゆり[2]、中村 孝博[3]、小川 健司[4]、服部 明[5]、秋元 義弘[6]、川上 速人[6]、遠藤 玉夫[2]、矢ノ下 良平[1]、辻本 雅文[1]（1.帝京平成大・薬、2.都健康長寿医セ研・老化機構、3.明治大・農、4.理研・化学遺伝、5.京大・薬、6.杏林大・医・解剖学）

[2P-0523] ヒト唾液由来エキソソームの表面に存在する分子は免疫活性化作用を制御する

○小川 裕子[1]、村上 舞[1]、本車田 悠希[1]、吉川 侑[1]、市川 結樹[1]、陰山 采夏[1]、鈴木 恵理香[1]、平山 碧穂[1]、桑田 奈宝子[1]、後藤 芳邦[1]、辻本 雅文[1]、秋元 義弘[2]、川上 速人[2]、矢ノ下 良平[1]（1.帝京平成大・薬、2.杏林大・医・解剖学）

[2P-0524（2AT12-08）] 形態形成における機械刺激応答を介した細胞周期の可塑的制御

©日本分子生物学会/日本生化学会

○森本 健太[1]、鈴木 えみ子[2]、Wu-min Deng[3]、田守 洋一郎[2]（1.慶大院・政策メディア・先端生命、2.国立遺伝学研究所、3.フロリダ州立大学）

[2P-0525] Depletion of β-sitosterol and enrichment of quercetin and rutin in *Cissus quadrangularis* Linn extracts enhanced osteogenic but reduced osteoclastogenic marker expression

○Jetsada Ruangsuriya[1]、Chalermpong Saenjum[2]、Suporn Charumanee[2]、Supat Jiranusornkul[2]、Panee Sirisa-ard[2]、Busaban Sirithunyalug[2]、Jakkapan Sirithunyalug[2]（1.Dept. of Biochemistry, Facul. of Med., Chiang Mai Univ., Chiang Mai, Thailand、2.Dept. of Pharmaceutical Sci, Facul. of Pharm., Chiang Mai Univ., Chiang Mai, Thailand）

[2P-0526] マンゴスチン機能性成分によるメラニン生成抑制作用の解析

○四元 陽香[1]、周 思奇[1]、坂本 和一[1]（1.筑波大院・生命環境）

[2P-0527] 有機酸によるマウス3T3-L1細胞の脂肪代謝能に対する生理作用

○Boling Song[1]、Siqi Zhou[1]、坂本 和一[1]（1.筑波大院・生命環境）

[2P-0528] 培養毛乳頭細胞に対するニーム葉抽出液の効果

○堂道 京子[1]、佐野 桂[1]、原 小太郎[1]、渡部 俊弘[2]、渡邉 啓一[3]、ウィジェセカラ サマン[4]、メダガマガマゲスニル[5]（1.株式会社アルビオン、2.東京農大・生物・食香・生化、3.佐賀大・農・生命機能、4.ワヤンバ大・畜産水産栄養、5.トントンランカ社）

[2P-0529] 死菌ビフィズス菌は DAF-16を介して線虫(C. elegans)の寿命を延伸する

○菅原 賢也[1]、坂本 和一[1]（1.筑波大院・生命環境）

[2P-6-1] 6. ゲノムと遺伝情報-1) ゲノム、染色体、核の構造と機能

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0530] BAFの機能発現における二本鎖 DNA結合能の役割

○森田 貴大[1]、橋本 礼雄[1]、近松 歩美[1]、野間 菜実子[1]、早野 俊哉[1]（1.立命館大学・院生命・生命科学）

[2P-0531] 分裂酵母 Ptr8pのセントロメアヘテロクロマチン形成における機能解析

○坂本 実鈴[1]、前田 雄大[1]、水谷 文哉[1]、水城 史貴[1]、谷 時雄[1]（1.熊大・院・自然科学研究科）

[2P-0532] マウス初期胚の3D-FISH法による細胞核内構造の空間配置の可視化―哺乳動物胚用 EASI-FISH chamber glassの考案―

○高松 晋吾[1]、中家 雅隆[1]、田辺 秀之[2]、細川 美咲[1]、黒坂 哲[1,3]、三谷 匡[1,3]（1.近大・院生物理工・生物工学、2.総研大・先導化学・生命共生体進化進化学、3.近大・先端技術総合研究所）

[2P-0533] 分裂酵母 Rif1と SUMO E3リガーゼ Pli1の相互作用

Mutiara Ningtyas[1]、浅井 拓馬[1]、浅井 駿祐[1]、藤澤 志帆[1]、林 亜紀[1]、○田中 克典[1]（1.関学大・理工・生命）

[2P-0534] *SRY*遺伝子をもたないアマミトゲネズミにおける雄特異的領域の解析

○徳久 杏奈[1]、岡野 真佑[2]、梶谷 嶺[2]、伊藤 武彦[2]、豊田 敦[3]、川原 玲香[4]、河野 友宏[4,5]、黒木 陽子[6]、水島 秀成[1]、黒岩 麻里[1]（1.北大・生命科学、2.東工大・生命理工、3.遺伝研・生命情報、4.東京農大・NGRC、5.東京農大・バイオ、6.成育医療セ・ゲノム医療）

[2P-0535] 概要ゲノム配列を用いたチャノコカクモンハマキの薬剤抵抗性関連遺伝子の解析

○上樂 明也[1]、横井 翔[1]、秋月 岳[1]、浅野 美和[1]、内山 徹[2]、小澤 朗人[2]、篠田 徹郎[1]（1.農研機構・生物機能、2.静岡県茶研センター）

[2P-0536] 近交系マウス ES細胞由来神経細胞の神経分化特異的ゲノム刷り込みの評価系の確立

○栄徳 勝光[1]、近藤 伸二[2]、鈴木 穣[3]、高田 豊行[4]、加藤 英政[5]、城石 俊彦[4]、菅沼 成文[1]、清澤 秀孔[1,6]（1.高知大・医・環境医学、2.ROIS・ゲノム解析支援センター、3.東大・院新領域・情報生命、4.遺伝研・哺乳動物遺伝研究室、5.愛媛大・医・器官・形態、6.千葉工大・生命科学・ゲノム科学）

[2P-0537] HSV-TKを用いた染色体ロスを高感度かつ定量的に解析する実験系の構築

○鈴木 雄也[1]、廣田 耕志[1]、阿部 拓也[1]（1.首都大・院理工・分子物質化学）

[2P-0538] 蛍光 in situ hybridizationによるインフルエンザウイルスゲノム分節末端領域のアクセシビリティ評価

○百瀬 文隆[1]、森川 裕子[1]（1.北里大・院・感染制御科学府）

[2P-0539] 核小体の形成における UBF酸性領域の機能

○佐藤 大亮[1]、上島 州平[2]、永田 恭介[2]、奥脇 暢[2]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.筑波大学 大学院 人間総合科学研究科 フロンティア医科学専攻、2.筑波大学 医学医療系）

[2P-0540] ToMMo地域住民コホートにおけるコピー数多型の検出

○伊藤 信[1]、津田 薫[2]、金野 なつみ[3]、安田 純[1]、檀上 稲穂[1]（1.東北大・ToMMo、2.東芝・ライフサイエンス解析センター、3.東北大病院・脳神経外科）

[2P-0541] 細胞分裂の制御に関わる Satellite lncRNP複合体構成因子候補 YB-1の機能解析

○河野 貴亮[1]、井手上 賢[1]、荒木 令江[2]、谷 時雄[1]（1.熊大・院・自然科学研究科、2.熊大・院・生命科学）

[2P-0542] カイコ分散型動原体を構成する DNA結合タンパク質の解析

○門 宏明[1]、佐藤 昌直[2]、李 在萬[1]、日下部 宜宏[1]（1.九大・院農・昆虫ゲノム科学、2.北大・院農・応用分子昆虫学）

[2P-0543] 泡盛酵母の芳香生成及び栄養要求性関連遺伝子群の構造解析

○佐伯 隆登[1]、仲宗根 薫[1]（1.近畿大学工学部・化学生命工学科）

[2P-0544] SSPをコードする新規遺伝子の発見と SSP遺伝子の獲得過程の考察

○稲丸 賢人[1]、千々岩 崇仁[1]、柴田 弘紀[2]、服巻 保幸[2]、服部 正策[3]、大野 素徳[1]（1.崇城大・生物生命、2.九大・生医研・トランスオミクス、3.東大・医科研）

[2P-0545] 泡盛黒麹菌由来フェノール酸脱炭酸酵素遺伝子の機能解析

大花 健人[1]、兼崎 友[3]、和久 豊[2]、吉川 博文[3]、○仲宗根 薫[1]（1.近畿大学工学部・化学生命工学科、2.株式会社 ビオック、3.東京農業大学・生物資源ゲノム解析センター）

[2P-0546] 雑種個体を用いた高効率・超高分解能連鎖地図作成手法の確立

吉武 和敏[1]、五十嵐 洋治[1]、水越 美咲[1]、木下 滋晴[1]、満山 進[1]、鈴木 穣[2]、斉藤 和敬[3]、渡部 終五[4]、○浅川 修一[1]（1.東大・院・農、2.東大・新領域、3.秋田県水産振興センター、4.北里大学・海洋生命）

[2P-0547] 高度好塩性アーキア*Haloarcula japonica*の*tbp*遺伝子プロモーターの構造及び機能解析

○本藤 一登[1]、仲宗根 薫[1]（1.近畿大学工学部・化学生命工学科）

[2P-0548] 分裂酵母核膜タンパク質 Lem2と Bqt4の協調的機能の解析

○衣笠 泰葉[1]、平野 泰弘[1]、近重 裕次[2]、浅川 東彦[1]、原口 徳子[1,2]、平岡 泰[1,2]（1.阪大・生命機能、2.NICT・未来ICT）

[2P-0549] 「岩国のシロヘビ」アルビノ変異原因遺伝子の同定

○岩西 修造[1]、財津 将平[1]、柴田 弘紀[3]、仁田坂 英二[2]（1.九大・システム生命、2.九大・院理、3.九大・生医研）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 2) クロマチン、エピジェネティクス（ポスター）

[2P-6-2] 6. ゲノムと遺伝情報-2) クロマチン、エピジェネティクス

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0550（FAOBMB TF-5）] ABERRANT METHYLATION ASSOCIATED WITH SILENCING OF *TUBB2A*, *SOCS3* and *CCNA1* IN *FLT3-ITD* AND *NPM1* POSITIVE ACUTE MYELOID LEUKEMIA(AML) PATIENTS

○Asma MJ[1]、Hamid A. Al-Jamal[3]、Shaharum Shamsuddin[2]、Farid M. Johan[1]（1.Hematology Department, School of Medical Sciences, Universiti Sains Malaysia, Malaysia 、2.Dean's office, School of Health Sciences, Universiti Sains Malaysia, Malaysia、3.Diagnostic and Biomedicine, Faculty of Health Science, Universiti Sultan Zainal Abidin, Gong Badak Campus, Malaysia）

[2P-0551] クロマチンのアクセシビリティを制御する因子の CRISPRゲノムワイドスクリーニング

○石井 智子[1,2,3]、田川 綾子[1,2]、宮成 悠介[1,2,3]（1.基礎生物学研究所、2.岡崎統合バイオサイエンスセンター、3.総合研究大学院大学）

[2P-0552] マウス初期胚・胎盤発生過程における片親性DNAメチル化の継承とリプログラミングの全容解明

○小林 久人[1]、小池 佐[2]、坂下 陽彦[2]、隈本 宗一郎[2]、神尾 明日香[1]、河野 友宏[2]（1.東京農大・ゲノム、2.東京農大・バイオ）

[2P-0553] SmcHD1欠損マウス胚における X染色体不活性

©日本分子生物学会/日本生化学会

化

○榊原 祐樹[1]、長尾 恒治[2]、Blewitt Marnie[3]、佐々木 裕之[1]、小布施 力史[2]、佐渡 敬[4]（1.九大・生医研・エピゲノム制御学、2.阪大・理学・生物科学、3.The Walter and Eliza Hall, Institute of Medical Research、4.近大・農学部・動物分子遺伝学）

[2P-0554] P300/CBP は syntaxin 1A遺伝子の神経特異的発現誘導に関わるエピゲノム因子である：異常行動への関与

○中山 高宏[1]、福富 俊之[2]、藤原 智徳[1]、寺尾 安生[1]、赤川 公朗[1]（1.杏林大・医・細胞生理、2.杏林大・医・薬理）

[2P-0555] ヒストンリモデリングによる SOD3発現制御機構の解析

○市原 茉莉[1]、青山 由佳[1]、神谷 哲朗[1]、原 宏和[1]、足立 哲夫[1]（1.岐阜薬大・臨床薬剤学）

[2P-0556] ヘテロクロマチンの揺らぎにより発現制御される遺伝子の解析

荻野 裕平[1]、綾野 貴仁[1]、内田 博之[1]、○沖 昌也[1,2]（1.福井大学 大学院工学研究科 生物応用化学専攻、2.福井大学 ライフサイエンスイノベーションセンター）

[2P-0557] ヒストン脱メチル化酵素 KDM6Aによるがん細胞の上皮間葉転換の制御

○鈴木 健之[1]、寺島 農[1]、ワンナウドム サシトーン[1]、石村 昭彦[1]（1.金沢大・がん研・機能ゲノム）

[2P-0558] 残基特異的アセチル化ヌクレオソームを利用した YEATSドメインタンパク質の機能評価

○五島 美絵[1]、森田 鋭[1]、菊地 正樹[1]、若森 昌聡[1]、花田 和晴[1]、赤坂 領吾[1]、大沢 登[1]、白水 美香子[1]、梅原 崇史[1,2]（1.理化学研究所・ライフサイエンス技術基盤研究センター、2.JST さきがけ）

[2P-0559] ヒストン H4Thr^{71}における新規*O*-GlcNAc修飾

○奈良 大輔[1]、廣澤 瑞子[1]、西谷 健汰[1]、早川 晃司[1]、塩田 邦郎[1,2]、田中 智[1]（1.東大・院農・応用動物科学、2.早大・理工総研）

[2P-0560] ヒト子宮内膜脱落膜分化で観察されるエピゲノム変動

○加藤 紀子[1,2]、中林 一彦[2]、冨川 順子[2]、尾崎 理恵[1]、落合 阿沙子[1]、緒方 広子[2]、北出 真理[1]、竹田 省[1]、黒田 恵司[1]、秦 健一郎[2]（1.順大・医・産婦人科学、2.成育医療研究セ・周産期病態研究部）

[2P-0561] 細胞増殖抑制機能を持つ*Timp3*遺伝子のわずかな DNAメチル化の増加がこの遺伝子の乳癌細胞における発現を抑制している可能性がある。

○畠山 大輝[1]、本間 桂一[1]（1.前工大・院・生命情報学）

[2P-0562] チイランリンカーを用いるイソペプチド類似構造を介したユビキチン化ヒストンタンパク質の調製

○川上 徹[1]、三島 優一[1]、北條 裕信[1]、末武 勲[1,2]（1.阪大・蛋白研、2.AMED-CREST）

[2P-0563] クロマチン高次構造に基づいた細胞系列特異的エンハンサーの探索

○冨川 順子[1]、高田　修治[2]、岡村 浩司[2]、阿久津 英憲[3]、田中 智[4]、秦 健一郎[1]、中林 一彦[1]（1.成育医療セ・周産期病態、2.成育医療セ・システム医学、3.成育医療セ・生殖医療、4.東大・院農・応用動物科学）

[2P-0564] ポリアミンによる翻訳レベルでのヒストンアセチル化酵素合成促進

○坂本 明彦[1]、照井 祐介[1]、吉田 健人[1]、五十嵐 一衛[2,3]、柏木 敬子[1]（1.千葉科学大・薬、2.千葉大院・薬、3.アミンファーマ研）

[2P-0565] Beckwith-Wiedemann症候群患者の H19-ICR内に見出された Oct3/4結合配列の変異・欠損は脱メチル化誘導を抑制し低メチル化維持能力を低下させる

○久保 修一[1]、村田 千洋[1]、酒瀬川 琢[1]、堀 直裕[1]、初沢 清隆[1]（1.鳥取大学・院医・分子生物）

[2P-0566] ミクログリア BV-2細胞における炎症関連因子発現に対する DNAメチル基転移酵素阻害薬の作用

○高橋 萌香[1]、倉内 祐樹[1]、久恒 昭哲[2,3]、関 貴弘[1]、香月 博志[1]（1.熊本大院・生命・薬物活性、2.熊本大院・先導機構、3.熊本大・リーディング大学院・HIGOプログラム）

[2P-0567] Tfap2c-Bmp7遺伝子座で互いに反目方向に並ぶ２つの CTCF結合クラスターは、クロマチンの隣接コンタクトドメインを分断し、かつ内部コンタクトパターンに関与する。

○辻村 太郎[1,2]、高瀬 敦[1,2]、吉川 真弘[1,2]、佐野 悦子[1,2]、高戸 毅[3]、豊田 敦[4]、岡野 栄之[2]、菱川 慶一[1,2]（1.慶應・医・iPSエピジェネティクス、2.慶應・医・生理、3.東大・医・TE部、4.遺伝研・比較ゲノム）

[2P-0568] HDAC複合体が線虫*C. elegans*の初期胚発生に及ぼす影響の解析

○大西 優斗[1]、野元 優介[1]、小島 寿夫[1]、伊藤 將弘[1]（1.立命館大学大学院・生命科学・生命情報）

[2P-0569] ヒストン H3K9のメチル化、脱メチル化は、細胞周期のどのタイミングで起こっているのか？

○福田 幹子[1]、阪上-沢野 朝子[2]、宮脇 敦史[2]、眞貝

©日本分子生物学会/日本生化学会

洋一[1]（1.理研・細胞記憶、2.理研・BSI）

[2P-0570] マウス胚性腫瘍細胞の神経分化過程における Prdm遺伝子の機能解析

○馬場 映[1]、土井 信太郎[1]、須和田 拓耶[2]、久原 哲[1]、田代 康介[1]（1.九州大・院生資環・遺伝子制御、2.九州大・農・応生・遺伝子制御）

[2P-0571] 分子状水素は H3K27のメチル化状態を変化させ遺伝子発現を修飾し mtUPRを誘導する

○祖父江 沙矢加[1]、井上 千聖[1]、堀 文子[1]、西沢 祐治[1]、村手 隆[1]、市原 正智[1]（1.中部大・生命健康）

[2P-0573] 変温動物コイの UCP-1遺伝子発現調節におけるプロモーター領域の DNAメチル化

○林 滉平[1]、舟場 正幸[2]、村上 賢[1]（1.麻布大・獣医、2.京大院農・動物栄養）

[2P-0574] Cyclin D1プロモーターから転写される lncRNAにおける m6A修飾の効果

○米田 竜馬[1]、上田 奈緒美[1]、崔 巍[1]、黒川 理樹[1]（1.埼玉医科大学・ゲノム医学研究センター・遺伝子構造機能部門）

[2P-0575] ヒストン H3バリアント CENP-Aの CATDドメインはヌクレオソーム中の H4K20のモノメチル化を促進する

○高木 大輝[1]、立和名 博昭[1,4]、有村 泰宏[1]、堀 哲也[2]、深川 竜郎[2]、胡桃坂 仁志[1,3]（1.早稲田大・院・先進理工、2.大阪大・院・生命機能、3.早稲田大・構造創薬研、4.がん研究会・がん生物部）

[2P-0576] Gene body領域の細胞種特異的エピジェネティック状態とゲノム配列要素の調和による心筋細胞特異的遺伝子プロファイルの形成

○小田 真由美[1]、若林 俊一[1]、福田 恵一[2]、牧野 伸司[2]（1.慶應大・医・システム医学、2.慶應大・医・循環器内科）

[2P-0577] 分裂酵母 Clr4とマウス HP1αによるヒストン H3 K9me依存的な出芽酵母の生育阻害

○川窪 恭平[1]、藤原 悠太郎[1]、配島 俊哉[1]、須賀 則之[1]（1.明星大・理工・総合理工・生命科学・化学系）

[2P-0578] パイオニア転写因子 GATA3とヌクレオソームの相互作用解析

○加藤 大貴[1]、熊川 雄祐[1]、有村 泰宏[1]、高久 誉大[2]、Paul Wade[2]、胡桃坂 仁志[1,3]（1.早稲田大・院・先進理工、2.Epigenetics and Stem Cell Biol. Lab., NIEHS、3.早稲田大・構造創薬研）

[2P-0579] メトホルミンによる KDM2A依存的な rRNA転写抑制は栄養素により調節される

○田中 祐司[1]、和泉 桃佳[1]、南雲 美奈代[1]、植竹 愛美[1]、剣持 榛名[1]、岡本 健吾[1]、常岡 誠[1]（1.高崎健康福祉大学）

[2P-6-3] 6. ゲノムと遺伝情報-3) DNA複製、DNA組換え、 DNAの変異と修復

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[2P-0580] A New Role of Srs2 DNA helicase during Meiosis

○Hana Sakurai[1]、Hiroyuki Sasanuma[2]、Akira Shinohara[1]（1.Osaka Univ. Inst. of Pro. Res.、2.Kyoto Univ.）

[2P-0581] IEEにより誘導される大腸菌染色体への外来 DNAの挿入の解析

○若月 晴菜[1]、寺田 祥子[1]、斉藤 星沙[1]、岡安 芳[1]、斎藤 貴[1]、関根 靖彦[1]（1.立教大・理・生命理学）

[2P-0582] マウス Rif1タンパク質のグアニン４重鎖 DNA結合活性の生化学的解析

○森山 賢治[1]、吉沢 直子[1]、正井 久雄[1]（1.都医学研・ゲノム医科学・ゲノム動態）

[2P-0583] 正常胸腺での Tcrb D2-J2間の hybrid joint(J)、続いて V14 capture後の coding J、signal Jの triple formation

○藤本 真慈[1]、柿沼 志津子[2]（1.京大・ウイルス・再生研・細胞機能調節、2.放医研・防護センター・発達期）

[2P-0584] AMPKによる DDB1のリン酸化修飾が DNA損傷の修復に及ぼす影響の解析

○秋山 果穂[1]、齊藤 卓弥[1]、齊藤 雅樹[2]、大塚 由佳[2]、松本 雄宇[1,2]、鈴木 司[1,2]、山本 祐司[1,2]（1.東農大院・農・農芸化学、2.東農大・応生・化学）

[2P-0585] PolD-PCNA-DNA複合体の単粒子解析

○真柳 浩太[1]、沖 啓輔[2]、石野 園子[2]、宮崎 直幸[3]、岩崎 憲治[3]、神田 大輔[1]、白井 剛[4]、石野 良純[2]（1.九大・生医研、2.九大・院農・生命機能科学、3.阪大・蛋白研、4.長浜バイオ大・バイオサイエンス学部）

[2P-0586] DNA損傷応答における BAFの役割

○近松 歩美[1]、森田 貴大[1]、野間 菜実子[1]、早野 俊哉[1]（1.立命大・院生命・生命）

[2P-0587] DNAダメージによる出芽酵母 Mps3の SPBからの解離

○小池 直暉[1]、尾崎 稜太[2]、丑丸 敬史[2]（1.静大・院理・バイオサイエンス、2.静大・院総合科学技術・理学）

[2P-0588] ヒストン H3K36メチル化酵素 NSD2を介したゲ

©日本分子生物学会/日本生化学会

ノム維持機構の解析

○鈴木 慈[1]、原田 佳歩[1]、佐々 彰[1]、福戸 敦彦[2]、田代 聡[2]、足立 典隆[3]、浦 聖恵[1]（1.千葉大・院理・生物、2.広大・原医研・細胞修復制御、3.横浜市立大・院ナノシステム科学）

[2P-0589] カシス抽出液が rDNA領域の安定性及び寿命に与える影響

○大岡 浩之[1]、若月 剛[1]、佐々木 真理子[1]、小林 武彦[1]（1.東大・分生研）

[2P-0590] DNA-PKcs R3715X変異体メダカ胚由来細胞を用いたメダカ種内変異型 Nbs1 (H170)のDSB修復機能の解析

○五十嵐 健人[1]、浅香 智美[1]、保田 隆子[1]、小林 純也[2]、藤原（石川） 智子[3]、藤堂 剛[3]、尾田 正二[1]、三谷 啓志[1]（1.東大・院・新領域、2.京大・放生研、3.阪大・医）

[2P-0591] スプライシング因子 SART1の相同組換え修復における役割

○山内 基弘[1]、副島 悠生[2]、平川 美弥子[3]、辻田 啓子[2]、ハン ムームー[4]、柿田 聖太[2]、柴田 淳史[5]、安原 崇哲[6]、鈴木 啓司[1]、松田 尚樹[1]（1.長崎大・原研、2.長崎大・医、3.長崎大・先導セ、4.長崎大・院・医歯薬、5.群馬大・院・医、6.東京大・院・医）

[2P-0592] 相同組換えに関わるヒト SWSAP1-SWS1複合体の機能解析

○石川 達也[1]、松嵜 健一郎[1]、篠原 彰[1]（1.阪大・蛋白質研究所）

[2P-0593] 超好熱性アーキア *Thermococcus kodakarensis*の DNA複製フォーク進行機構に関わる GANと HANの機能解析

○永田 麻梨子[1]、石野 園子[1]、山上 健[1]、Jan-Robert Simons[2]、金井 保[2]、跡見 晴幸[2]、石野 良純[1]（1.九大院・農、2.京大院・工）

[2P-0594] 定常期における分裂酵母 Rad51リコンビナーゼの量的・質的制御機構

○黒川 裕美子[1]、村山 泰斗[2]、岩崎 博史[3]（1.東工大・情報生命博士教育院、2.国立遺伝研・新分野創造センター、3.東工大・科学技術創成研究院）

[2P-0595] 真核生物の複製開始に必須な ORCと Cdc6における二重鎖ならびに一本鎖 DNA結合部位の探索

○川畑 健太[1]、千々布 壮陽[1]、川上 広宣[1]、大橋 英治[2]、釣本 敏樹[2]、片山 勉[1]（1.九大・院薬・分子生物、2.九大・理・生物）

[2P-0596] 紫外線照射による G1期 CRL4Cdt2の活性化におけるミスマッチ修復系の関与

高原 教代[1]、田中 美如[1]、貫名 康平[1]、林 晃世[1]、酒井 恒[2]、菅澤 薫[2]、塩見 泰史[1]、○西谷 秀男[1]（1.兵庫県立大・院生命理学、2.神戸大・バイオシグナル）

[2P-0597] 複製ヘリカーゼ Mcm動態のシングルセルプロット解析

○林 陽子[1,2]、大久保 義真[2]、長尾 恒治[2]、木村 宏[3]、小布施 力史[2]（1.北大・先端生命、2.阪大・理・生物、3.東工大・生命理工）

[2P-0598] ヒト REV7の抑制は抗癌剤抵抗性胚細胞腫瘍のシスプラチン感受性を増強する

○櫻井 靖高[1]、吉田 和樹[2]、仲田 典広[1]、高橋 雅英[2]、村雲 芳樹[1]（1.北里大・医・病理、2.名大・院医・分子病理）

[2P-0599] マイクロサテライト不安定性の一形式である EMASTの発生過程における p53の役割

○有田 通恒[1]、小池 淳一[2]、近藤 元就[1]、逸見 仁道[1]（1.東邦大・医・免疫学、2.東邦大・医・外科学）

[2P-0600] 複製開始タンパク質 DnaAを活性化する特異的な DNA配列 DARS (DnaA reactivating sequence)における DnaA間相互作用様式の解析

○杉山 諒[1]、加生 和寿[1]、片山 勉[1]（1.九大・院薬・分子生物）

[2P-0601] DNA損傷認識タンパク質 DDB2の SUMO化の解析

○萩原 遥太[1]、荒川 和彦[1]、奥嵜 雄也[1]、金岡 英徳[1]、飯島 信司[1]（1.名大・院工・生命分子）

[2P-0602] 酸化損傷を受けた RNA鎖に結合する新規因子の同定

○石井 健士[1]、井川 達弘[2]、関口 猛[3]、関口 睦夫[2]、早川 浩[1]（1.福岡歯科大学機能生物化学講座生化学分野、2.福岡歯科大学先端化学研究センター、3.九州大学医学系学府細胞工学講座）

[2P-0603] ヌクレオチド除去修復における損傷認識機構の解析

○多田 遥人[1,2]、大西 優貴[1,2]、岩井 成憲[3]、菅澤 薫[1,2]（1.神戸大・バイオシグナル総研、2.神戸大・院理、3.阪大・院基礎工）

[2P-0604] 相同組換えにおける RAD51パラログ複合体の機能解析

○松嵜 健一郎[1]、石川 達也[2]、篠原 彰[1,2]（1.阪大・蛋白研、2.阪大・院理・生物科学）

[2P-0605] 受精直後の精子核 DNA二本鎖切断を生きたまま可視化・定量化する方法の開発

○小栗 未生奈[1]、半田 哲也[2]、杉本 瑞紀[1]、鈴木 由華[1]、波多野 裕[1]、野老　美紀子[1,3]、八尾 竜馬[1,4]、細井 美彦[1]、野崎　直仁[5]、木村 宏[2]、山縣 一夫[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.近大・生物理工、2.東工大・科学技術創成院・細胞制御工学セ、3.浅田レディース・生殖医研、4.扶桑薬品・研開、5.(株)モノクロ研）

[2P-0606] 出芽酵母の接合型に依存した染色体形態の変化

○定塚 勝樹[1,2]（1.基礎生物学研究所、2.総合研究大学院大学）

[2P-0607] B型肝炎ウイルス cccDNA形成過程に関与するflapエンドヌクレアーゼ FEN1の解析

○喜多村 晃一[1]、島津 美幸[1]、小浦 美樹[1]、村松 正道[1]（1.金沢大学・医薬保健・分子遺伝学）

[2P-0608] Cdt2-PCNA融合体は CRL4Cdt2の抑制制御を損なう

○荻野 寛行[1]、植田 麻紗子[1]、林 晃世[1]、塩見 泰史[1]、西谷 秀男[1]（1.兵県大・院生命）

[2P-0609] ゲノム維持に関わる E3ユビキチンリガーゼ CRL4-Cdt2の基質認識サブユニット Cdt2のリン酸化による制御の解析

○貫名 康平[1]、塩見 泰史[1]、西谷 秀男[1]（1.兵庫県立大・院生命）

[2P-0610] ファミリー D DNA ポリメラーゼがプライマーゼを複製複合体へ繋いでいる

○沖 啓輔[1]、永田 麻梨子[1]、高島 夏希[1]、山上 健[1]、石野 園子[1]、石野 良純[1]（1.九大院・農）

[2P-0611] ヒト細胞の高 LET放射線に対する応答における*Artemis*と*XRCC4*の機能

○勝部 孝則[1]、劉 強[2]、謝 漪[3]、王 冰[1]（1.量研機構・放医研、2.中国医学科学院・放射医学研究所、3.中国科学院・近代物理研究所）

[2P-0612] DNA修復因子 PNKPの機能解析と BRCA1/2変異との合成致死における感受性の検討

○加瀬 直也[1]、島田 幹男[1]、中野 洋文[2]、中村 浩之[2]、松本 義久[1]（1.東京工業大学 科学技術創成研究院 先導原子力研究所、2.東京工業大学 科学技術創成研究院 化学生命科学研究所）

[2P-0613] 出芽酵母に保存されている APエンドヌクレアーゼ、*APN1*と*APN2*はそれぞれ異なる方法でミトコンドリアの品質管理に貢献する

○船越 昌史[1]、松田 涼佑[1]、秋山 (張) 秋梅[1]（1.京大・院理・生物科学）

[2P-0615] ヒト細胞の DNA損傷応答におけるヒストンシャペロン Anti-silencing function 1の機能の解析

○山崎 あかね[1]、島田 幹男[2]、松本 義久[2]（1.東工大・院理工・原子核工学、2.東工大・先導原子力研究所）

[2P-0616] ベンゾ[*a*]ピレン混餌投与によるマウス前胃腫瘍発生に対する Polκの寄与

○赤木 純一[1]、Young-Man Cho[1]、豊田 武士[1]、水田 保子[1]、横井 雅幸[2,3]、花岡 文雄[2,4]、大森 治夫[2]、小川 久美子[1]（1.国立衛研・病理、2.学習院大・理・生命、3.神戸大・バイオシグナル研、4.筑波大・生命領域学際研）

[2P-0617] 多能性誘導過程における DNA損傷応答について

○熊崎 泰成[1]（1.総研大・生命科学・基礎生物学）

[2P-0618] 酸化ストレスに対するヒト OGG1遺伝子高発現細胞の感受性

吉川 幸宏[1]、TingYi Zhao[1]、山崎 晃[1]、高尾 雅[2]、小林 純也[3]、富田 雅典[4]、鈴木 雅夫[5]、○秋山張 秋梅[1]（1.京大・院理・生物科学、2.東北大学加齢医学研究所、3.京大・放射線放射線生物研究センター、4.電力中央研究所、5.量子科学技術研究開発機構）

ポスター・展示会場2

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 4) 転写調節（ポスター）

[2P-6-4] 6. ゲノムと遺伝情報-4) 転写調節

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[2P-0619] Functional analysis of G-quadruplex structure-forming GGA repeat in Ccnb1ip1 enhancer

○Izzul Islam[1,2]、Isao Karube[1]、Wataru Yoshida[1]（1.Graduate School of Bionics, Tokyo University of Technology、2.Faculty of Biotechnology, Sumbawa University of Technology）

[2P-0620] Whole Transcriptome Analysis of Thousands of Single Cells with nanoCAGE and CAGEscan

○Stephane Poulain[1]、Ophelie Arnaud[1]、Sachi Kato[1]、Soo Hyeon Kim[2]、Toshiro Maekawa[2]、Mina Yoshida[2]、Martin Frith[3]、Kazunori Nagasaka[4]、Teruo Fujii[2]、Charles Plessy[1]（1.RIKEN Center for Life Science Technologies, Division of Genomic Technologies, Yokohama Campus、2.Applied Microfluidic Systems Lab, Institute of Industrial Science, Univ. of Tokyo、3.Dept. of Comp. Biol. and Med. Sci., Univ. of Tokyo、4.Dept. of Obstetrics and Gynecology, Grad. Sch. of Med., Univ. of Tokyo）

[2P-0621] ビタミン D受容体は毛周期の成長期から退縮期への移行を制御する

○上甲 裕大[1]、沢津橋 俊[2]、山本 陽子[3]、福本 誠二[4]、松本 俊夫[4]（1.徳大・院医教・医科学、2.徳大・先端酵素研、3.東大病院、4.徳大・藤井センター）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-0622] 転移遺伝子の転写活性化メカニズム：ゲノムの変動はどのようにしてトランスクリプトームに伝わるのか
○畑 貴之[1]、佐藤 壮一郎[1,2]、高田 直東[1]、内木場 友裕[2]、立川 誠[1]、松尾 充啓[1]、Kushnir Sergei[3]、小保方 潤一[1,2]（1.京都府大・院生命環境、2.京都府大・生命環境学部、3.Vale Institute of Technology Sustainable Development）

[2P-0623] パートナー転写因子存在下における Ets1のコンフォーメーション分布の変化と活性制御機構
○内山 晃子[1]、椎名 政昭[1]、浜田 恵輔[1]、馬場 しほ[1]、岡田 千佳子[1]、鈴木 香絵[1]、佐藤 光[1]、緒方 一博[1]（1.横浜市大・院医・生化学）

[2P-0624] 基本転写因子 TFIIEの転写開始から伸長への移行段階における役割の解析
○田中 亜紀[1]、福岡 瑞希[1]、平山 翼[1]、廣瀬 豊[1]、大熊 芳明[2]（1.富山大・院・医薬、2.長崎大・院・医歯薬総合）

[2P-0625] 遺伝子発現フィードバック制御に普遍的な機構は存在するのか
○北村 大樹[1]、中村 麻衣[1]、井垣 達吏[1]（1.京大・院生命・システム機能学）

[2P-0626] 卵巣顆粒膜細胞での CYP19遺伝子は2ヶ所のオープンクロマチン領域によって転写調節される
琴村 直恵[1]、原田 信広[1]、○石原 悟[1]（1.藤田保健衛生大学医学部）

[2P-0627] マウスβ4-ガラクトース転移酵素2遺伝子の5'-非翻訳領域及びプロモーター領域の解析
○岡部 竜丞[1]、三浦 貴志[1]、佐藤 武史[1]（1.長岡技科大院・糖鎖生命工学）

[2P-0628] Identification of transcription factors required for senescence-dependent induction of vitamin B_6 synthase *SNZ1* gene in budding yeast
○山本 聡一郎[1]、亀井 優香[1]、向 由起夫[1]（1.長浜バイオ大・院バイオ・バイオ）

[2P-0629] プロテアソーム転写因子 Nrf1活性化に働く新規プロテアーゼ DDI2阻害剤探索
○高野 滉平[1]、小泉 峻[1]、濱崎 純[1]、村田 茂穂[1]（1.東大・院薬・薬科学）

[2P-0630] 6-MSITC による糖新生系酵素 *PEPCK* 遺伝子の転写調節機構の解析
○林 桃子[1]、田中 みすず[1]、高木 勝広[1]（1.松本大院・健康科学）

[2P-0631] 転写制御因子 BLIMP1の細胞系譜横断的解析
○三谷 忠宏[1,4]、栗本 一基[1,4]、斎藤 通紀[1,2,3,4]（1.京大・院医・機能微細、2.京大・CiRA、3.京大・iCeMS、4.JST・ERATO）

[2P-0632] マウス ES細胞における2細胞期特異的遺伝子 Zscan4の転写制御機構の解明
○鈴木 翔子[1]、柴田 紘孝[1]、山口 雄輝[1]（1.東工大・生命理工）

[2P-0633] 大腸菌アミロイド線維形成に関与する新規遺伝子群の同定と機能解明
○井出 有佳里[1]、加藤 佑輝[1]、杉本 真也[2]、小笠原 寛[3,4]（1.信州大・院総合理工・応生、2.慈恵医大・医・細菌、3.信州大・基盤研究支援セ・遺伝子、4.信州大・菌類・微生物ダイナミズム創発セ・超分子）

[2P-0634] 骨芽細胞におけるオステオポンチンの転写制御機構
○沖藤 明日香[1,2]、穐山 雅子[1]、細道 純[2]、小野 卓史[2]、中浜 健一[1]（1.東京医科歯科大学 大学院 分子細胞機能学分野、2.東京医科歯科大学 大学院 咬合機能矯正学分野）

[2P-0635] PARP-1による C/EBPa転写制御における抑制作用の解析
○村田 拓哉[1]、野尻 久雄[1]（1.帝京大・薬）

[2P-0636] ラット顆粒膜細胞の黄体化に伴う Vegf遺伝子発現の新規転写調節機構
○品川 征大[1]、田村 功[1]、前川 亮[1]、岡田 真紀[1]、白蓋 雄一郎[1]、城崎 幸介[1]、佐藤 俊[1]、竹谷 俊明[1]、浅田 裕美[1]、田村 博史[1]、杉野 法広[1]（1.山口大・院医・産科婦人科学）

[2P-0637] ショウジョウバエ転写因子 DREFによる*Discs Large*遺伝子の転写制御機構の解析
○吉岡 泰秀[1]、島路 耕平[2,3]、山口 政光[2,3]（1.摂南大・理工・生命科学、2.京工繊大・応用生物、3.京工繊大・昆虫バイオ）

[2P-0638] RNAアプタマーによるショウジョウバエ転写因子 GAFの機能解析
○法邑 賢一[1]、平芳 一法[1]（1.京大・ウイルス再生研・細胞機能調節学）

[2P-0639] 遺伝子共発現ネットワークにおけるタンパク質細胞内局在の影響
○青木 裕一[1,2]、大林 武[2]、木下 賢吾[1,2]（1.東北大・東北メディカルメガバンク機構、2.東北大・院・情報科学）

[2P-0640] リン酸化 CTD結合因子 PCIF1による遺伝子発現調節機構の解明
杉田 愛[1]、○伊藤 志帆[1]、柳澤 奈月[1]、石黒 尋保[1]、佐藤 崇之[1]、田渕 圭章[2]、大熊 芳明[3]、廣瀬 豊[1]（1.富山

©日本分子生物学会/日本生化学会

大院・医学薬学教育部（薬）、2.富山大・生命科学先端研究支援ユニット、3.長崎大院・医歯薬総合研究科）

[2P-0641] 試験管内再構成系を用いたヒトメディエーター複合体 Kinaseモジュールの機能解析

○原子 空[1]、林 裕人[2]、藤田 智陽[2]、飯田 智[2]、廣瀬 豊[2]、大熊 芳明[3]、丹澤 円香[2]（1.富山大・薬・創薬科学、2.富山大院・医学薬学研究部（薬）、3.長崎大院・医歯薬総合研究科）

[2P-0642] Nucleostemin欠損 ES細胞における Oct3/4転写因子の DNA結合特異性の変化

○浅賀 正充[1]、平崎 正孝[1]、西本 正純[1]、鈴木 歩[1]、浦西 洸介[1]、奥田 晶彦[1]（1.埼玉医大 ゲノム医学研究センター 発生・分化・再生部門）

[2P-0643] ユビキチン様ドメインを有する Pol II-CTD脱リン酸化酵素による遺伝子発現制御

○杉田 愛[1]、和仁 翔太郎[1,2]、加藤 ありさ[1]、加納 未由希[1]、石黒 尋保[1]、田渕 圭章[3]、大熊 芳明[4]、廣瀬 豊[1]（1.富山大院・医学薬学研究部、2.東京医科歯科大学・遺伝子発現制御、3.富山大・生命科学先端研究支援ユニット、4.長崎大院・医歯薬総合研究科・生化学）

[2P-0644] ヒト肺癌細胞と神経芽腫において異なるβ4-ガラクトース転移酵素3遺伝子の転写制御

○丹下 梨穂[1]、佐藤 武史[1]（1.長岡技科大院・糖鎖生命工学）

[2P-0645] lncRNA *Tesra*によるマウス精母細胞特異的 Tessp-2遺伝子の転写活性化機構の解析

○佐藤 優衣[1]、武井 夏海[1]、川村 翔平[1]、小谷 友也[1,2]、木村 敦[1,2]（1.北海道大・院生命、2.北海道大・院理）

[2P-0646] マウス生体内における Inscuteable遺伝子の発現制御機構の解析

○石橋 理基[1]、松山 奈央[1,2]、阿部 浩太[1,2]、豊島 文子[1,2]（1.京大・ウイルス・再生、2.京大院・生命・細胞増殖統御）

[2P-0647] DNA損傷応答における転写抑制メカニズムとその生理的意義の解析

○鈴木 秀文[1]、前田 亮[2]、木村 宏[1]、浦 聖恵[2]、田村 隆明[2]、山口 雄輝[1]（1.東工大・生命理工、2.千葉大・院・理）

[2P-0648] Bookmarking候補転写因子の分裂期クロマチンへの結合能の評価

○高橋 将史[1]、後藤 峻也[1]、安恒 徳美[1]、稲山 純生[1]、柏葉 脩一郎[1]、村上 康文[1]（1.東理大・基礎工学・生物工学）

[2P-0649] 核小体因子 NPM1による*MHC*遺伝子発現調節の新たな機構

○阿部 真弓[1,2]、永田 恭介[2,3]、奥脇 暢[1,2]（1.筑波大学グローバル教育院ヒューマンバイオロジー学位プログラム、2.感染生物学研究室、3.筑波大学医学医療系）

[2P-0650] Nrf2経路と ATF4経路の協調作用

○三村 純正[1]、伊東 健[1]（1.弘前大・院医・分子生体防御学）

[2P-0651] ヒト脳血管内皮細胞における細胞接着分子 CLDND1の転写調節因子の解析

○志摩 亜季保[1]、松岡 浩史[1]、村上 仁生[1]、宮 薫子[1]、片山 未由[1]、道原 明宏[1]（1.福山大・薬）

[2P-0652] 真核生物 RNAポリメラーゼ IIは転写初期段階に外側と内側からダイナミックな構造と機能の変化を誘起される

○大熊 芳明[1,2,3,5]、中村 考秀[2]、加藤 大騎[3]、鈴木 吾大[3]、松本 靖彦[4]、田中 亜紀[2]、大矢 禎一[3]、関水 和久[4,5]（1.長崎大・院・医歯薬総合、2.富山大・院・医薬、3.東大・院・新領域、4.帝京大・医真菌セ、5.ゲノム創薬研）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 5) RNAプロセシング、輸送、翻訳、非コードRNA（ポスター）

[2P-6-5] 6. ゲノムと遺伝情報-5) RNAプロセシング、輸送、翻訳、非コード RNA

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[2P-0653] Error-Prone Splicing Controlled by the Ubiquitin Relative Hub1

○Sittinan Chanarat[1,2]、Ramazan Karaduman[1]、Stefan Jentsch[1]（1.Department of Molecular Cell Biology, Max Planck Institute of Biochemistry, Am Klopferspitz 18, Martinsried, Germany、2.Department of Biochemistry, Faculty of Science, Mahidol University, 272 Rama VI Road, Bangkok, Thailand）

[2P-0654] The roles of miR-1236 and miR-4328 in HULC-associated apoptosis of hepatoma cells

○J-Ann Marie Lego[1]、John Paul Rigor[1]、Kenneth Anthony Roquid[1]、Reynaldo L. Garcia[1]（1.Disease Molecular Biology and Epigenetics Laboratory, National Institute of Molecular Biology and Biotechnology, University of the Philippines Diliman）

[2P-0655] デオキシリボザイムと固相化 DNAプローブ法を

©日本分子生物学会/日本生化学会

併用した長鎖 RNA分析法の検討
○上崎 晃輔[1]、荒川 芳樹[1]、堀 弘幸[1]（1.愛媛大・院理工・物質生命工学）

[2P-0656] ヒト TNRC6Aノックアウト細胞の作製と核内トランスクリプトーム解析
○野口 賢太郎[1]、須澤 壮崇[2]、西 賢二[2]、秦 裕子[3]、尾山 大明[1,3]、程 久美子[1,2]（1.東大・院新領域創成科学・メディカル情報生命、2.東大・院理・生物科学、3.東大・医科研・疾患プロテオミクスラボラトリー）

[2P-0657] Thermoplasma acidophilum tRNAにおける4-チオウリジンの生合成経路
○上田 隼也[1]、松本 奈津美[1]、河村 卓也[1]、堀 弘幸[1]（1.愛媛大・院理工・物質生命工学）

[2P-0658] microRNA (miRNA) 応答性 CRISPR System
○松本 宙[1,2]、小松 馨[1]、齊藤 博英[1]（1.京大・iPS細胞研究所、2.京大・農・応用生命科学）

[2P-0659] 立体構造解析に向けたスプライシング因子複合体に結合する RNA配列の取得
○柳澤 拓也[1]、桑迫 香奈子[2]、天野 亮[1]、瀧澤 将行[2]、武藤 裕[2]、坂本 泰一[1]（1.千葉工大、2.武蔵野大）

[2P-0660] 古細菌 Thermoplasma acidophilum tRNALeuのアンチコドン1文字目修飾に関わるタンパク質複合体調製法の検討
○玉井 章悟[1]、東口 実結[1]、河村 卓哉[1]、坂口 裕理子[2]、安楽 遼[1]、鈴木 勉[2]、堀 弘幸[1]（1.愛媛大・院理工・物質生命工学、2.東大・院工）

[2P-0661] イントロン領域にノンコーディングＲＮＡ遺伝子を持つタンパク質をコードする遺伝子の発現量の比較解析
○近藤 洋介[1]、宮崎 智[1]（1.東京理科大・薬・生命創薬科学）

[2P-0662] アポトーシスにおける Y RNA分解の解析
○緒方 洵[1]、幸谷 愛[1]（1.東海大・総医研・造血腫瘍）

[2P-0663] 大腸菌リボソーム蛋白 L31, L36パラログは*zur*変異によって恒常的に発現する
○上田 雅美[1]、和田 千恵子[1]、別所 義隆[2,3]、和田 明[1]（1.吉田生物研究所・バイオ情報研究部門、2.理研・SPring-8センター、3.中央研究院・生化学研究所）

[2P-0664] ゲノムコピー数増加に伴い活性化される複数のマイクロ RNAが協調して肺扁平上皮癌の予後不良に関わる
○横井 左奈[1,2]、兼松 宗太郎[2]、末永 雄介[1]、飯笹 俊彦[3]、守屋 康充[1]（1.千葉県がんセンター研究所がんゲノムセンター、2.千葉県がんセンター遺伝子診断部、3.千葉県がんセンター呼吸器科）

[2P-0665] α-MSH誘導メラニン生成過程における miRNA-141および miRNA-200aの役割について
○伊藤 智広[1]、中島 綾香[2]、鈴木 健吾[2]（1.三重大院・生資・生物圏生命科学、2.（株）ユーグレナ）

[2P-0666] リボソーム RNA遺伝子の不安定化に関わるRNA分解複合体の役割の解明
○細山田 舜[1]、佐々木 真理子[1]、小林 武彦[1]（1.東大・分生研）

[2P-0667] mRNA核外輸送を阻害する天然化合物の同定と解析
○中島 啓太[1]、糀本 大和[1]、前田 沙希[1]、五十嵐 雅之[2]、谷 時雄[1]（1.熊本大・院・自然科学・生命科学、2.微生物化学研究所）

[2P-0668] 転写調節メカニズムの解明へ向けた HTLV-1感染細胞のプロウイルストランスクリプトーム解析
○宮里 パオラ[1,2]、タン ベンジ　ジェック　ヤン[2]、徳永 美知代[1,2]、勝屋 弘雄[1,2]、松尾 美沙希[1,2]、稲田 優紀[3]、伊東 潤平[4]、佐藤 賢文[1,2]（1.熊本大学国際先端医学研究機構、2.熊本大学エイズ学研究センター、3.熊本大学大学院生命科学研究部、4.国立遺伝研究所人類遺伝）

[2P-0669] RNA顆粒タンパク質 RNG140複合体主要要素 eIF3の同定
○片山 香織[1,2]、椎名 伸之[1,2,3]（1.基生研・神経細胞生物学、2.総研大、3.岡崎統合バイオ）

[2P-0670] TRA2β4の RNAメチル化を介した大腸癌悪性化の分子基盤
○桑野 由紀[1]、山中 佐織[1]、西川 達哉[1]、佐竹 譲[1]、藤田 絹代[1]、西條 早希[1]、田中 裕基[1]、西田 憲生[1]、六反 一仁[1]（1.徳島大院・医歯薬学研・病態生理学）

[2P-0671] ヒト骨肉腫細胞における HOTAIR による ALPL のエピジェネティックな制御機構の解析
○三沢 彩[1]、折茂 英生[1]（1.日本医科大学・生化学・分子生物学（代謝・栄養学））

[2P-0672] 翻訳エンハンサー dMac3の機能部位の解析
○田向 良子[1]、青木 裕美[2]、寺村 浩[1]、島田 浩章[1]（1.東京理科大・生物工、2.理研・環境資源科学研究センター）

[2P-0673] hnRNP familyを介した超保存領域を内在する*TRA2β4* RNAの発現調節メカニズムの解明
○西川 達哉[1]、桑野 由紀[1]、高原 由実子[1]、西條 早希[1]、田中 裕基[1]、板井 美樹[1]、西田 憲生[1]、六反 一仁[1]（1.徳島大院・医歯薬学研・病態生理学）

[2P-0674] リボソームタンパク質 uL11 N末端ドメインの役

©日本分子生物学会/日本生化学会

割に関する機能解析
○伊藤 美穂[1]、阿部 綾乃[1]、田中 淳也[1]、内海 利男[2]、野村 隆臣[1]（1.信州大・繊維・応用生物、2.新潟大・理・生物）

[2P-0675] ショウジョウバエ Dicer-2による二本鎖RNA切断反応の一分子解析
○永沼 政広[1]、多田隈 尚史[3]、泊 幸秀[1,2]（1.東大・分生研、2.東大院・新領域、3.阪大・蛋白研）

[2P-0676] HOXA5遺伝子領域を含む新規転写産物の同定と機能解析
○西條 早希[1]、西田 憲生[1]、桑野 由紀[1]、六反 一仁[1]（1.徳島大院・医歯薬学研・病態生理学）

[2P-0677] 全身性強皮症の過剰な1型コラーゲン産生におけるマイクロ RNA let-7aの関与の検討
○牧野 雄成[1]、神人 正寿[1]、尹 浩信[1]（1.熊大・院生命・皮膚分野）

[2P-0678] ヒト CPT1a mRNA 3'-UTR中の逆向き Alu配列は A-to-I RNA編集を受ける
○河口 由佳[1]、徳橋 尚紀[2]、山崎 尚志[1,2]、篠原 康雄[1,2,3]、滝口 祥令[1,2]（1.徳島大学大学院薬科学教育部、2.徳島大学薬学部、3.徳島大学先端酵素学研究所）

[2P-0679] 環状 RNAとして発現する pre-miRNA阻害剤「 pRING」
○地白 和樹[1]、木内 雄大[1]、立花 亮[1]（1.大阪市大・院工・化生系）

[2P-0680] NELFを中心としたポリ(A)付加部位の選択機構の解析
○山本 淳一[1]、Fajar Muhamad[2]、瑞慶覧 安里[2]、舘野 峻平[2]、半田 宏[1]、山口 雄輝[2]（1.東京医大・ナノ粒子、2.東工大・生命理工学院）

[2P-0681] 環状 RNAを用いた終わりのない回転式翻訳によるタンパク質合成の効率化
○児玉 亜有実[1]、阿部 奈保子[1]、友池 史明[1]、木村 康明[1]、伊藤 嘉浩[2]、松本 健[2]、吉田 稔[2]、清水 義宏[2]、亀田 倫史[3]、阿部 洋[1,2]（1.名大・院理・化学、2.理研、3.産総研）

[2P-0682] 生体内における LincRNA-p21の発現解析
○古畑 理樹[1]、今坂 舞[1]、伊東 春香[1]、荒木 正健[2]、吉信 公美子[2]、山村 研一[3]、荒木 喜美[1]（1.熊大・疾患モデル分野、2.熊大・バイオ情報分野、3.熊大・山村プロジェクト研究室）

[2P-0683（4P1T18-09）] metabolic stress-induced lncRNA(mlonRNA)転写はクロマチン再編成を誘導し、転写と減数分裂期組換えを活性化させる。
○千松 賢史[1]、浅田 隆大[1]、廣田 耕志[1]（1.首都大・理工・分子物質化学）

[2P-0684] 非コード RNA *CCDC26*の骨髄性白血病細胞赤芽球様分化における役割
鶴田 智美[1]、田中 祐佳[1]、石田 敦彦[1]、山崎 岳[1]、○平野 哲男[1]（1.広島大学）

[2P-0685] ヒト特異的レトロコピーが形成する新規転写産物の同定
○田中 麻紗乃[1]、林 正晃[1]、藤井 博[1]、鈴木 俊介[1]（1.信大・院理工・農学）

[2P-0686] USP15は TUT1脱ユビキチン化を介してRNAスプライシングを制御する
Jaehyun Kim[1]、○鶴田 文憲[1]、千葉 智樹[1]（1.筑波大・生命環境）

[2P-0687] 大腸菌 Hfqによる遺伝子発現抑制の解析
○風間 大輝[1]、須藤 直樹[1]、関根 靖彦[1]（1.立教大・院理・生命）

[2P-0688] 原始脊索動物ホヤにおける*trans*-splicingの*in silico*解析
○横森 類[1]、島井 光太郎[2]、日下部 岳広[2]、中井 謙太[1]（1.東大・医科研・ヒトゲノム解析センター、2.甲南大・理工・生物学）

[2P-0690] mRNA分解を介した肥満遺伝子の発現誘導メカニズム
○高橋 明格[1]、松木 泰子[2]、Haytham Mohamed[1]、稲田 利文[2]、山本 雅[1]（1.沖縄科学技術大学院大学 細胞シグナルユニット、2.東北大・院薬・遺伝子制御薬学）

[2P-0692] 翻訳終結因子による CGAセンスコドンの解読の意義
○和田 美紀[1,2]、伊藤 耕一[1]（1.東大・院・新領域、2.東大・医科研）

[2P-0693] snRNAプロセシング因子 Integrator複合体の分子構造解析
○舘野 峻平[1,2]、Thiengtrong Benjarart [1]、山口 雄輝[1]（1.東工大・院生命理工、2.東工大・ACLS）

[2P-0694] 非コードＲＮＡによるミトコンドリア機能の制御
○水野 洋介[1]、木下 善仁[1,2]、神田 将和[1,2]、岡崎 康司[1,2]（1.埼玉医大・ゲノム医セ・ゲノム科学、2.順天堂大・難病の診断と治療研究センター）

[2P-0695] リボソームストークと GTP結合型翻訳伸長因子 EF1A間複合体の X線結晶構造解析
○丸山 圭[1]、川村 桃子[1]、今井 大達[1]、伊東 孝祐[1,2]、内

©日本分子生物学会/日本生化学会

海 利男[1,2]（1.新潟大・院・自然研、2.新潟大・理・生物）

[2P-0696] 褐色脂肪細胞分化における転写後調節の関わり

○楠堂 達也[1]、宮越 あみ[2]、山口 奈津絵[2]、向井 貴子[1]、片岡 直也[3]、山下 均[2]（1.帝塚山学院・人間科学・食栄、2.中部大・生命健康・生命医科、3.名大・院医・統合生理）

[2P-0697] ネムリユスリカの乾燥耐性における non-coding RNAの役割

○鈴木 健吾[1]、黄川田 隆洋[1]（1.東大・新領域・先端生命）

[2P-0698] A型肝炎ウイルスの細胞種特異性を生み出す、IRES依存的翻訳制御機構の解析

○貞廣 暁利[1]、小坂 実央[2]、深尾 亜喜良[2]、竹内 理[1]、藤原 俊伸[2]（1.京大・ウイルス再生研・感染防御、2.近大・院薬・生化学）

[2P-0699] 受精卵の形に異常を示す線虫変異株への cer-2a導入による表現型の回復

○牛田 千里[1,2]、尾崎 大意[1]、小山 昂志[2]、上松 興生[1]（1.弘前大・院農学生命・分子生命、2.岩手大学・連合院・農学）

[2P-0700] コドン最適化による放線菌蛋白質発現量の調節

齋藤 裕[1]、北川 航[2]、田村 具博[2]、○亀田 倫史[1]（1.産総研・人工知能、2.産総研・生物プロセス）

[2P-0701] ヒト tRNA (m^2_2G26) methyltransferase

○粟井 貴子[1]、久野 翔平[1]、穐近 慎一郎[2]、鈴木 健夫[2]、鈴木 勉[2]、石塚 盛雄[1]（1.中央大・理工・応化、2.東大・院工・化学生命）

[2P-0702] トリパノソーマ原虫 mRNA再キャッピングの分子メカニズム

Anna Ignatochkina[1]、Jesavel Iguchi[1]、○Kiong Ho[1]（1.筑波大学・医学医療系）

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 1) 生殖細胞、受精（ポスター）

[2P-7-1] 7. 発生・再生-1) 生殖細胞、受精

13:15 〜 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[2P-0703] 網羅的遺伝子解析技術を用いた体外精子形成法の分子生物学的評価

○安部 丈[1,3]、西村 創[3]、小島 一晃[1]、三條 博之[1,2]、佐藤 卓也[1]、鈴木 治和[3]、小川 毅彦[1,2]、鈴木 貴紘[1,3]（1.横市大・生命医科学、2.横市大・医学、3.理研・CLST・DGT）

[2P-0704] 霊長類子供期に特有な生殖細胞の運命決定と分子機構

○岡田 佐和子[1]、伊藤 達矢[1]、黒木 康太[1]、今村 公紀[1]（1.京都大学霊長類研究所）

[2P-0705] ヌクレオプラスミン２を用いた精子ヒストン残存領域の再評価

○山口 幸佑[1]、岡田 由紀[1]（1.東大・分生研）

[2P-0706] アフリカツメガエルの生殖細胞形成におけるカドヘリンの機能解析

○藤田 晋[1]、小宮 透[1]（1.大阪市大・院理・生物地球系専攻）

[2P-0707] マウス初期二次卵胞を用いた新たな体外発育操作と代謝酵素遺伝子の活性化の検討

○小笠原 里奈[1]、東 里香[2]、西村 愛実[3]、中川 隆生[4]、小木曽 力[1]、鷲津 朱理[1]、松本 淳希[1]、森脇 奈央[1]、安齋 政幸[5]（1.近畿大学生物理工学部、2.近畿大学大学院、3.関西医科大学附属生命医学研究所、4.(株)紀和実験動物研究所、5.近畿大学先端技術総合研究所）

[2P-0708] 初期胚特異的レトロトランスポゾン MERVLの活性化に伴う核内変化

○奥野 智美[1]、山口 壮輝[1]、濱田 歩花[1]、竹林 真理愛[1]、守田 昂太郎[1]、樋口 智香[1]、神谷 拓磨[1]、安齋 政幸[1,2]、山縣 一夫[1]、細井 美彦[1]、Jullien Jerome[3]、松本 和也[1]、宮本 圭[1]（1.近大院生物理工、2.近大先技総研、3.ケンブリッジ大ガードン研）

[2P-0709] DNA複製非依存的リプログラミングシステムの構築

○神谷 拓磨[1]、本上 遥[1]、久米 健太[1]、山口 壮輝[1]、守田 昂太郎[1]、樋口 智香[1]、奥野 智美[1]、山縣 一夫[1]、細井 美彦[1]、松本 和也[1]、宮本 圭[1]（1.近大院生物理工）

[2P-0710] ショウジョウバエ母性因子 Mamoと CBPとの間の生化学的相互作用の解析

○宮形 奈紗[1]、中村 翔一[2]、中島 諒子[3]、平 誠司[4]、小林 悟[3,5]、向 正則[3]（1.甲南大・院自・生物学、2.甲南大・院自・生命機能、3.甲南大・理工・生物、4.基生研、5.筑波大・TARA）

[2P-0711] 淡水産巻貝*Lymnaea stagnalis*の生殖巣での左右巻型母性遺伝メカニズムの解明に向けて-*in situ* hybridization解析

○清水 ゆり[1]、黒田 玲子[2]、阿部 真典[2]（1.東理大・院理工・応用生物科学、2.総研院）

[2P-0712] 体外成熟培養中の L-Carnitineは胚発生時の脂肪酸代謝関連遺伝子を安定化させる

○小木曽 力[1]、西村 愛美[3]、東 里香[2]、中川 隆夫[4]、小笠原 里奈[1]、鷲津 朱理[1]、松本 淳希[1]、森脇 奈央[1]、安齋 政幸[2,5]（1.近畿大学生物理工学部、2.近畿大学大学院、3.関西医科大学附属生命医学研究所、4.(株)紀和実験動物研究所、5.近畿大学先端技術総合研究所）

[2P-0713] マウス子宮上皮における転写因子*Sox17*の発現

©日本分子生物学会/日本生化学会

は着床の成立に必須である

○平手 良和[1]、早川 佳那[1]、中野 有紀[1]、上村 麻実[1,2]、三浦 健人[2]、金井 克晃[2]、金井 正美[1]（1.東京医歯大・実験動物セ、2.東大・獣医解剖）

[2P-0714] ショウジョウバエの極端に長い精子とその巨大なミトコンドリアの相関の解析

○杉山 伸[1]、金子 蒼平[2]（1.名古屋大学 理学研究科 生命理学専攻 、2.名古屋大学 理学部 生命理学科 ）

[2P-0715] マウスでの卵管収縮と受精卵輸送

○熊谷 麻友[1]、山内（石川） 祐[1,2]、馬場 忠[1,2,3]（1.筑波大・生命環境系、2.筑波大・院・ヒューマンバイオロジー、3.生命領域学術研究センター）

[2P-0716] ダウン症候群男性患者の不妊機構の解明

○藤井 隆[1]、米村 剛志[2]、江頭 恒[3]（1.熊本大・理・生物、2.熊本大・院自然科学・生命科学、3.熊本大・院自然科学・生命科学）

[2P-0717] 非ヒト霊長類における精巣の生後発達を制御する分子基盤の解明

○黒木 康太[1]、今村 公紀[1]（1.京大・霊長類研）

[2P-0718] 線虫精子形成・活性化過程におけるスフィンゴミエリン合成酵素の関与

○鳥越 大平[2]、宮原 浩二[1,2]、武谷 浩之[1,2]（1.崇城大・生物生命・応生、2.崇城大院・工学・応生）

[2P-0719] Maxは体細胞分裂から減数分裂への切り替えを制御するか

○鈴木 歩[1]、平崎 正孝[1]、浅賀 正充[1]、浦西 洸介[1]、西本 正純[1]、奥田 晶彦[1]（1.埼玉医科大 ゲノム医学研究センター 発生・分化・再生部門）

[2P-0720] ゼブラフィッシュ sycp2遺伝子における未成熟終止コドンとマイナーイントロン保持の相関

○竹本 一政[1]、酒井 則良[1,2]（1.総研大・生命・遺伝学、2.国立遺伝学研究所）

[2P-0721] ゼブラフィッシュ PGC形成における RNA結合タンパク質 DNDの機能解析

○小林 真奈美[1]、松花 沙織[1]、大川 保郁[1]、坂本 博[1]、井上 邦夫[1]（1.神戸大・院理・生物学科）

[2P-0722] プロテアソーム関連タンパク質 PA200及び Ecm29の二重欠損は雄性不妊機構の解析

○佐藤 伴[1]、千葉 智樹[1]（1.筑波大・生命環境・生物科学）

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 2) 初期発生、器官形成、形態形成（ポスター）

[2P-7-2] 7. 発生・再生-2) 初期発生、器官形成、形態形成

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[2P-0723] Left-right asymmetric migration of nuclei in the visceral muscles is a first cue for the laterality formation of embryonic gut in Drosophila

○Dongsun Shin[1]、Yoshitaka Morishita[1]、Mototsugu Eiraku[2]、Takeshi Sasamura[1]、Mikiko Inaki[1]、Kenji Matsuno[1]（1.Department of Biological Science, Osaka University、2.Institute for Frontier Life and Medical Sciences, Kyoto University）

[2P-0724] Roles of Drosophila Almondex in vesicular trafficking of Notch for activation of the Notch signaling pathway

○Puspa Das[1]、Tomoko Yamakawa[1]、Satoshi Kuwana[1]、Motoo Kitagawa[2]、Kenji Matsuno[1]（1.Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Osaka University、2.Dept. of Mol. and Tumor Pathology, Grad. Sch. of Med., Chiba University）

[2P-0725] 羊膜と同一起源をもつ心臓新規系譜の解析

○羽田 優花[1,2]、宮川-富田 幸子[1,3]、内島 泰信[1]、田口 明糸[4]、山本 尚吾[5]、福田 史朗[5]、興梠 貴英[6]、淺井 理恵子[7]、石下 聡[8]、松田 洋一[8]、和田 洋一郎[4]、油谷 浩幸[5]、武田 洋幸[2]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学、2.東大・院理・生物科学、3.ヤマザキ学園大・動物看護学、4.東大・アイソトープ、5.東大・先端研・ゲノムサイエンス、6.自治医大・医療情報、7.カリフォルニア大学・ CVRI、8.名大・院農・鳥類バイオサイエンス研究センター）

[2P-0726] 再生モデル昆虫における自然免疫シグナル経路を介した再生開始メカニズム

○板東 哲哉[1]、奥村 美紗[2]、坂東 優希[2]、萩原 万優子[2]、濱田 良真[1]、大内 淑代[1]（1.岡山大・院・医・細胞組織、2.岡山大・医・医）

[2P-0727] ヘテロクロマチン因子はショウジョウバエ成虫原基の運命転換を制御する

○増子 恵太[1]、布施 直之[1]、古橋 寛史[1]、倉田 祥一朗[1]（1.東北大・院薬）

[2P-0728] ショウジョウバエ中腸の部域分化制御機構

○上岡 早紀[1]、田上 和[2]、藤本 啓太[2]、吉村 裕一[2]、有重 昌彦[2]、下岡 リリー[3]、原田 由美子[1]、村上 柳太郎[1]（1.山口大・院創成科学、2.山口大・院医、3.山口大理）

[2P-0729] ショウジョウバエ*polished rice*遺伝子を介した時期特異的な遺伝子発現制御は、気管先端細胞の分化に必要である

○平 雄樹[1]、和田 宝成[2]、林 茂生[2]、影山 裕二[1,3]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.神戸大・院理・生物、2.理研・CDB、3.神戸大・バイオシグナル総合研究センター）

[2P-0730] マウス壁側内胚葉細胞の維持と SOX17、SOX7の相補的機能

五十嵐 瞳[1]、平松 竜司[1]、上村 麻実[2]、平手 良和[2]、九郎丸 正道[1]、吉村 祐貴[3]、橋下 晴夫[3]、末水 洋志[3]、金井 正美[2]、○金井 克晃[1]（1.東京大・獣医、2.東京医科歯科大・実験動物センター、3.実中研）

[2P-0731] ショウジョウバエ精巣での RNAiを用いた左右非対称性形成に関わるアクチン制御因子の探索

○磯貝 拓己[1]、岡崎 紘子[1]、稲木 美紀子[1]、笹村 剛司[1]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物科学）

[2P-0732] 単一細胞トランスクリプトーム解析によって明らかになった心臓内神経堤細胞の多様性

○岩瀬 晃康[1,2]、内島 泰信[1]、瀬谷 大貴[1]、松居 一悠[1]、田口 明糸[3]、山本 尚吾[4]、福田 史朗[4]、興梠 貴英[5]、和田 洋一郎[3]、油谷 浩幸[4]、宮川-富田 幸子[1,6]、榎本 和生[2]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学、2.東大・院理・生物科学、3.東大・アイソトープ、4.東大・先端研・ゲノムサイエンス、5.自治医大・医療情報部、6.ヤマザキ学園大・動物看護学）

[2P-0733] *C. elegans*の UNC-51（ ser/thr kinase）とその結合分子 UNC-14（ RUN domain protein）は、 UNC-33/CRMPの細胞内局在を制御することにより軸索・樹状突起の極性形成を制御する。

○小倉 顕一[1]（1.横浜市大・医・薬理）

[2P-0734] 小胞輸送を制御する Arf GTPase 活性化因子 SMAP1と SMAP2の二重欠損胚におけるエンドサイトーシス経路の異常

○大塚 瑞希[1]、大桑 良菜[2]、住吉 麻美[1]、増田 成美[1]、小河 穂波[1]、木村ー吉田 千春[3]、松尾 勲[3]、渡邊 利雄[1]（1.奈良女子大・院人間文化、2.奈良女子大・理・生物、3.大阪母子医療センター・病因病態部門）

[2P-0735] 骨芽細胞様細胞 MC3T3-E1における分化段階に応じた機械的刺激による骨形成制御応答の解析

○鈴木 啓[1]、大嶋 紀安[1]、小西 昭充[1]、立井 一明[1]、佐藤 精一[2]、和泉 孝志[1]（1.群大・院医・生化学、2.北大・遺制研・分子生体防御）

[2P-0736] 内耳発生における転写制御因子 Sox8と Sall4による*Sox3*遺伝子の発現制御機構

岡本 優[1]、西村 なおこ[1]、松田 一成[1]、Deshani Ranawakage[2]、蒲池 雄介[2]、近藤 寿人[1,3]、○内川 昌則[1]（1.阪大・生命機能、2.高知工大・環境理工学群、3.京産大・総合生命科学）

[2P-0737] ヘンゼン結節は脊索前板の発生を介して、Otx2を発現するエピブラストに頭部を形成させる

○吉氷 康矢[1]、近藤 寿人[1]（1.京産大・生命科学）

[2P-0738] 胎生期血管内皮遺伝子 Tmem100の心血管形態形成における発現制御機構の解析

○片山 由美[1]、冨松 彩佳[1,2]、渡邉 裕介[1,2]、瀬谷 大貴[1]、荒井 勇二[3]、磯本 祥恵[3]、斎藤 能彦[4]、中川 修[1,2]（1.国循・研究所・分子生理　、2.奈良医大・院医、3.国循・研究所・動物実験管理 、4.奈良医大・第一内科 ）

[2P-0739] 神経管閉鎖過程におけるイオンチャネル TRPM6の機能解析

○古宮 裕子[1,2]、Raymond Habas[3]、Loren Runnels[2]（1.東理大・基礎工・教養、2.Rutgers Univ.、3.Temple Univ.）

[2P-0740] マウス胚の前後軸形成期における VE細胞の集団移動と apical constrictionの関与

○塩井 剛[1]、星野 秀治[2]、阿部 高也[1]、清成 寛[3]、中尾 和貴[4]、古田 泰秀[1]、藤森 俊彦[5]、相澤 慎一[1,2]（1.理研ＣLST、2.理研CDB、3.理研ＣLST、4.東大、5.基生研）

[2P-0741] Semaphorin3E-PlexinD1シグナルは冠動脈形成に重要である。

○丸山 和晃[1]、富田-宮川　幸子[1]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学）

[2P-0742] ゼブラフィッシュを用いた*hox*クラスター変異体の作製と解析

○荒木 颯[1]、赤間 燿[1]、弥益 恭[1]、川村 哲規[1]（1.埼玉大・院理工）

[2P-0743] マウス気管発生時にみられる、増殖低下を伴う組織成熟化メカニズムの解明

○清川 寛文[1]、岸本 圭史[1]、森本 充[1]（1.理研 CDB）

[2P-0744] マウス着床前初期胚を構成する割球がもつ全能性の評価

○前村 万里野[1]、中島 友紀[2]、大川 泰行[1]、束田 裕一[2]（1.九州大学生体防御医学研究所、2.稲盛フロンティア研究センター）

[2P-0745] Protein KinaseC delta(PKCδ)はマウス初期発生において重要な機能を持つ

○新野 由子[1]、小倉 潔[1]、多屋 長治[2]、川島 育夫[1]、笠原 浩二[1]（1.都医学研・細胞膜、2.都医学研・遺伝子改変動物）

[2P-0746] 脊椎動物各系統における brachyuryパラログの独立した機能分化

○安岡 有理[1]、佐藤 矩行[1]（1.OIST・マリンゲノム）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-0747] 冠輪動物特異的 Homeobox遺伝子と割球特異化機構に見られる発生システム浮動
○守野 孔明[1]、和田 洋[1]（1.筑波大・院・生命環境）

[2P-0748] ホヤ胚におけるレチノイン酸合成酵素 Raldh2の転写調節
畠山 宙大[1,3]、吉鷹 玲奈[1,4]、田頭 彩佳[1]、緒方 拓也[1]、森山 裕菜[1]、Brad Davidson[2]、○藤原 滋樹[1]（1.高知大・理工・化学生命理工、2.Swarthmore大・生物、3.現所属：　基生研・分子発生、4.現所属：　奈良先端大・院バイオ）

[2P-0749] Rlpply3発現細胞は鰓上板由来の神経節と内耳神経節を生み出す
○大久保 直[1]、原 景子[1]、狩野 雅也[1]、高田 慎治[2]（1.北里大学・医学部・実験動物学、2.自然科学研究機構・岡崎統合バイオ・分子発生）

[2P-0750] 転写因子 FOXO1および CXCL12-CXCR4系によるリンパ管新生の制御
○新美 健太[1,2]、香原 美咲[1]、福本 萌[1]、稲垣 忍[1]、古山 達雄[2]（1.阪大・院医・保健・神経生物、2.香川県立保医大・教養）

[2P-0751] ショウジョウバエの蛹化タイミングを決める生物タイマーシステムに影響を及ぼす分子
○Hamdy Aly[1]、Kazutaka Akagi[2]、Yuji Kageyama[3,4]、Hitoshi Ueda[1,5]（1.The Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University、2.National Center for Geriatrics and Gerontology、3.Biosignal Research Center, Kobe University、4.Department of Biology, Graduate School of Science, Kobe University、5.Department of Biology, Faculty of Science, Okayama University）

[2P-0752] 神経管閉鎖時における Grainyhead-like 3遺伝子発現表皮細胞の機能解析
○木村-吉田 千春[1]、持田 京子[1]、水谷 武臣[2]、松尾 勲[1]（1.大阪母子医療センター研究所 病因病態部門、2.北海学園大学 工学部）

[2P-0753] 線虫の MIG-17/ADAMTSプロテアーゼ欠損変異体の新規サプレッサー
○中村 久子[1]、柴田 幸政[1]、西脇 清二[1]（1.関西学院大・院理・生命科学）

[2P-0754] 発生期大脳皮質のサブプレートニューロンは多極性細胞との一過的なシナプス形成を介して口コモーションモードへの移行を促進する
○丸山 千秋[1]、岡本 麻友美[2]、遠藤 堅太郎[3]、金子 乃愛[1,4]、大島 実莉[1,4]、由良 敬[4]、宮田 卓樹[2]、前田 信明[1]（1.都医学研・神経回路形成、2.名大医・細胞生物、3.都医学研・基盤技術、4.お茶大・理・生物）

[2P-0755] CRISPR/Casシステムを用いたマウス Msx1遺伝子 in vivo DNA deletion assay
○泰江 章博[1]、荒井 大志[1]、三井 なおみ[1]、親泊 政一[2]、田中 栄二[1]（1.徳島大・医歯薬・矯正、2.徳島大・プロテオゲノム・生体機能）

[2P-0756] 顔面の構造は、発生原基の構成をどこまで反映するのか？
○東山 大毅[1,2]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理、2.学振・SPD）

[2P-0757] 細胞外基質プロテアーゼによる放射状神経細胞移動制御
○金子 乃愛[1,2]、丸山 千秋[1]、大島 実莉[1,2]、由良 敬[2]、前田 信明[1]（1.都医学研・神経回路形成、2.お茶大・理・生物）

[2P-0758] 真獣類特異的遺伝子*Peg11/Rtl1*は胎盤および胎仔の発生に重要である
○北澤 萌恵[1]、林 晋一郎[2]、今村 道博[3]、武田 伸一[3]、大石 由美子[2]、金児一石野 知子[4]、石野 史敏[1]（1.東医歯大・難研・エピジェネティクス分野、2.東医歯大・難研・細胞分子医学分野、3.国立精神・神経医療研究センター・遺伝子疾患治療研究部、4.東海大・健康科学部）

[2P-0759] グリア細胞の分化における新規分泌性因子, ゼブラフィッシュ *brorin-like* の役割
○藤林 英徳[1]、高橋 都史樹[1]、三宅 歩[1]（1.京大・院薬・遺伝子）

[2P-0760] 心臓前駆細胞特異的 Hoxa2異所性発現から見る Hoxa2の遺伝子ネットワーク制御
○柳 のど香[1,2]、栗原 由紀子[1]、内島 泰信[1]、田口 明糸[3]、山本 尚吾[4]、福田 史朗[4]、興梠 貴英[5]、和田 洋一郎[3]、油谷 浩幸[4]、久保 健雄[2]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学、2.東大・院理・生物科学、3.東大・アイソトープ、4.東大・先端研・ゲノムサイエンス、5.自治医大・医療情報）

[2P-0761] ゲノム倍加に伴うエンハンサー減衰変異と機能低下型コード変異の共蓄積
越智 陽城[1]、川口 茜[2]、田内 幹大[3]、鈴木 菜花[1]、熊田 樹[1]、岩田 唯[3]、○荻野 肇[3]（1.山形大・医、2.長浜バイオ大・アニマルバイオ、3.広大・両生研）

[2P-0762] 細胞性粘菌多細胞体の再生における細胞トラッキングと制御機構の解析
○毛利 蔵人[1]、田中 稜大[1]、長野 正道[1]（1.立命館大・生命科学・生命情報）

[2P-0763] 転写因子 Mkxによる腱の発生と再生
○片岡 健輔[1]、千葉 朋希[1]、伊藤 義晃[2]、中道 亮[3]、浅

©日本分子生物学会/日本生化学会

原 弘嗣[1,4]（1.東京医科歯科大学大学院 システム発生再生・医学分野、2.東京医科歯科大学 リサーチコアセンター、3.岡山大学医歯学薬学総合研究科、4.スクリプス研究所）

[2P-0764] LGR4の脳における局在および機能解析

○神宮司 文菜[1]、小橋 功紀[1]、日出間 志寿[1]、西森 克彦[1]（1.東北大・院農・分子生物）

[2P-0765] 複数回のゲノム倍加によるマウス多倍体化初期胚の発生

今井 啓之[1,2,3]、日下部 健[2,3]、木曽 康郎[2,3]、○加納 聖[1,2,3]（1.山口大・共同獣医・発生、2.山口大・共同獣医・獣医解剖、3.山口大・院連合獣医）

[2P-0766] 前脳形成におけるゼブラフィッシュ*fgf22*の機能

○中西 和也[1]、村川 由佳[1]、三宅 歩[1]（1.京大・院薬・遺伝子）

[2P-0767] 単一細胞遺伝子発現分析を用いた血管新生調節機構の解析

○内島 泰信[1]、戸澤 英人[1,2]、礪波 一夫[1]、栗原 由紀子[1]、田久保 直子[1,2]、苗村 和明[1]、田口 明糸[2]、椎名 香織[3]、小林 美佳[2]、山本 尚吾[3]、仲木 竜[4]、興梠 貴英[5]、和田 洋一郎[2]、油谷 浩幸[3]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学、2.東大・アイソトープ総合センター、3.東大・先端研・ゲノムサイエンス、4.Rhelixa Inc.、5.自治医科大学）

[2P-0768] ショウジョウバエ胚消化管の左右非対称性形成における Septate Junctionの内臓筋での機能

○松山 容子[1]、川勝 康弘[1]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物科学）

[2P-0769] 細胞の自己接着構造に特有な力学的特性は上皮管の伸長を促進する

○林 茂生[1]、和田 宝成[1]、佐藤 勝彦[2]、FuLai Wen[2]、本多 久夫[1]、柴田 達夫[2]（1.理研・多細胞システムセンター、2.理研・生命システムセンター）

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 3) 幹細胞、細胞分化（ポスター）

[2P-7-3] 7. 発生・再生-3) 幹細胞、細胞分化

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[2P-0770（2AW16-3）] エピゲノム情報の系統解析による細胞分化過程の推定　-哺乳類の血球系細胞分化をモデルとして

○小柳 香奈子[1]（1.北大・情報）

[2P-0771] 低線量率放射線が造血に与える影響

○大野 芳典[1]、竹立 恭子[1]、山藤 幹茂子[1]、郭 芸[2]、菅野 雅元[2]、白須 直人[3]、安永 晋一郎[3]、大坪 素秋[4]、瀧原 義宏[1,5]（1.広島大・原医研・幹細胞機能学、2.広島大・医歯薬保健学研究院・免疫学、3.福岡大・医学部・生化学、4.別府大・食物栄養科学部・発酵食品学科、5.日赤・大阪府赤十字血液センター）

[2P-0772] 造血幹細胞の細胞周期と分化の制御におけるGeminの分子機能

○竹立 恭子[1]、大野 芳典[1]、山藤 幹茂子[1]、白須 直人[2]、大坪 素秋[3]、安永 晋一郎[2]、瀧原 義宏[4]（1.広島大・原医研・幹細胞機能学、2.福岡大・医学部・生化学、3.別府大・食物栄養科学部・発酵食品学科、4.日赤・大阪府赤十字血液センター）

[2P-0773] Isolation, culture and characterization of chicken amniotic mesenchymal stem cells

○Karina Saheki[1]、Ryo Ezaki[1]、Fumiya Hirose[1]、Shuichi Furusawa[1]、Hiroyuki Horiuchi[1]（1.Lab. of Immunobiol., Grad. Sch. of Biosp. Sci., Acad. of Biol. and Life Sci., Hiroshima Uni.）

[2P-0774] 接着斑タンパク質ビネキシンおよび CAPは YAP/TAZの核局在を調節する

○黒田 美都[1,2]、植田 和光[1]、木岡 紀幸[1]（1.京大院・農・応生、2.日本学術振興会・特別研究員DC1）

[2P-0775] 接着斑タンパク質ビネキシンがレチノイン酸により制御される間葉系幹細胞分化に与える効果

○高田 恭子[1]、黒田 美都[1,3]、木村 泰久[1]、植田 和光[1,2]、木岡 紀幸[1,2]（1.京大・院農・応用生命、2.iCeMS、3.日本学術振興会特別研究員DC）

[2P-0776] 骨格形成過程における亜鉛トランスポーターの役割

○安原 理佳[1]、深田 俊幸[3]、岩本 資己[4]、田中 準一[1]、川嶋 章弘[2]、入江 太朗[1]、関沢 明彦[2]、美島 健二[1]（1.昭和大学 歯学部 口腔病態診断科学講座 口腔病理学部門、2.昭和大学 医学部 産婦人科学講座、3.徳島文理大学 薬学部 病態分子薬理学研究室、4.フィラデルフィア小児病院 整形外科）

[2P-0777] 脂肪組織由来幹細胞を用いた神経細胞誘導方法の確立

○川嶋 章弘[1]、安原 理佳[2]、美島 健二[2]、関沢 明彦[1]（1.昭和大・医・産婦人科学、2.昭和大・歯・口腔病理）

[2P-0778] Investigation of culture conditions for enhancing the proliferation and osteogenic differentiation potential of adipose-derived stem cells

○Xiaohui Tian[1,2]、Shohei Kasugai[1]、Masa-Aki Ikeda[2]（1.Department of Oral Implantology and Regenerative Dental Medicine,Graduate School of Medical and Dental Science, Tokyo Medical and

©日本分子生物学会/日本生化学会

Dental University, Tokyo, Japan、2.Department of Molecular Craniofacial Embryology, Graduate School of Medical and Dental Science, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan）

[2P-0779] マウス毛包の再生に対するガンマ線の影響

○菅谷 公彦[1]（1.放医研/量研機構・分子イメ診断治療）

[2P-0780] バイシストロニックな共発現系を用いたヒトiPS細胞由来視細胞の可視化

○本間 耕平[1]、小澤 洋子[1]（1.慶應・医・眼科）

[2P-0781] マウス胎生中期 AGM領域の未分化血球系細胞塊における Sox17と TETファミリーによる未分化性維持機構の解明

○齋藤 清香[1]、信久 幾夫[1]、田賀 哲也[1]（1.医科歯科大・難研）

[2P-0782] 造血幹細胞の分化多能性維持と Midbodyの動態

○田中 洋介[1]、福島 剛[1]、北村 俊雄[1]（1.東大・医科研・細胞療法）

[2P-0783] 腸管ニッチ細胞の新たな分子特性としてのフコシル化糖鎖発現

○菅原 大介[1]、福冨 俊之[2]、小林 夕香[3]、秋元 義弘[1]、川上 速人[1]（1.杏林大・医・解剖、2.杏林大・医・薬理、3.株式会社J-オイルミルズ）

[2P-0784] クロマチンリモデリング因子 CHD8による幹細胞老化の防止機構の解明

○仁田 暁大[1]、西山 正章[1]、武藤 義治[1]、片山 雄太[1]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学）

[2P-0785] 歯科材料からの溶出成分がヒト間葉系幹細胞の骨芽細胞分化に与える影響

○根本 章[1,2]、帖佐 直幸[1]、客本 齊子[1]、横田 聖司[1]、加茂 政晴[1]、野田　守[2]、石崎　明[1]（1.岩手医科大学生化学講座細胞情報科学分野、2.岩手医科大学歯科保存学講座う蝕治療学分野）

[2P-0786] Trop2-creノックインマウスを用いた肝前駆細胞(LPC)の性状解析

○長島 有里[1,2]、松井 理司[1,2]、宮田 奈保子[2]、宮島 篤[1]、田中 稔[1,2]（1.東大・分生研、2.国立国際医療研究センター）

[2P-0787] 筋サテライト細胞に発現する Pax7の可視化と応用

○北嶋 康雄[1,2]、小野 悠介[1]（1.長崎大学、2.日本学術振興会特別研究員(SPD)）

[2P-0788] mCRY1-C414A変異体過剰発現マウスの膵臓における tubular complexからの膵β細胞の新生とKPNA2の発現

○岡野 聡[1]、安井 明[2]、菅野 新一郎[2]、佐藤 賢一[3]、早坂 清[1,4]、五十嵐 雅彦[5]、中島 修[1]（1.山形大・医学系研究科、2.東北大・加齢研、3.東北医科薬科大学病院・消化器内科、4.みゆき会病院・小児科、5.山形市立病院済生館・糖尿病内分泌内科）

[2P-0789] 大脳新皮質発生における p57 インプリント鎖の役割の解明

○今泉 結[1]、渡邊 知幸[1]、古舘 昌平[1]、川口 大地[1]、後藤 由季子[1]（1.東大・院薬・分子生物学）

[2P-0790] 新規 G_0マーカー　mVenus-p27K⁻をもちいた造血幹細胞解析

○福島 剛[1]、田中 洋介[1]、沖 俊彦[2]、北村 俊雄[1]（1.東大・医科研・細胞療法、2.ハーバド大学・幹細胞生物学）

[2P-0791] マウス ES細胞から血液細胞への分化における転写因子 Gata2のドメイン特異的な機能

○北島 健二[1]、鹿子田 真衣[1,2]、原 孝彦[1,2]（1.都医学研・幹細胞、2.東京医歯大院・医歯学総合）

[2P-0792] 妊娠期の腹側皮膚伸展を可能とする表皮幹細胞ダイナミクスの解明

○一條 遼[1,2]、小林 大毅[1,2]、米田 早織[1,2]、飯塚 ゆい[1,2]、久保 嘉一[1,2]、松村 繁[1,2]、北野 さつき[3]、宮地 均[3]、本田 哲也[4]、豊島 文子[1,2]（1.京大・ウイルス再生・組織恒常性、2.京大・生命・高次、3.京大・ウイルス再生、4.京大・医・皮膚科）

[2P-0793] 新規核タンパク質 Ahedは表皮角化細胞の増殖・分化に関わる

○高石 樹朗[1]、石元 達士[1]、徳永 正浩[2]、國府 力[2]、竹田 潤二[2]、佐野 栄紀[1]（1.高知大・医・皮膚科、2.阪大・院医・環境生体機能学）

[2P-0794] DMSOによる HL-60細胞分化機構における K-Ras の関与

○横山 紀子[1]、鹿毛 まどか[1]、中山 仁志[1,2]、岩渕 和久[1,2]（1.順天堂大学大学院医学研究科環境医学研究所、2.順天堂大学医療看護学部生化学）

[2P-0795] 低酸素環境下で甲状腺ホルモン刺激によって発現誘導される転写因子 Runx1はオリゴデンドロサイト前駆細胞を体性幹細胞化させる

○徳元 康人[1,2,3]、玉置 親平[4]、加部 泰明[2,5]、田久保 圭誉[4,5]、末松 誠[2]（1.埼玉医大・アドミッションセンター、2.慶應大・医・医化学、3.JST-ERATO、4.国立国際医療センター・生体恒常性、5.AMED-CREST）

[2P-0796] 妊娠期の皮膚拡張における転写因子 Tbx3の機能解析

○久保 嘉一[1,2]、一條 遼[1,2]、山本 拓也[3]、豊島 文子[1,2]（1.京大・ウイルス再生研・組織恒常性、2.京大・院生命・高次生命科学、3.京大・iPS研・未来生命科学開

拓）

[2P-0797] マウス筋前駆細胞における BMP刺激非依存的なアルカリ性フォスファターゼの発現誘導
○橋本 有弘[1]（1.国立長寿医療センター・再生再建医学）

[2P-0798] 小胞体ストレス応答分子 XBP1が骨格筋分化過程の細胞の恒常性維持に及ぼす効果
○徳武 優佳子[1]、山田 啓太[2]、渡邉 敬文[2]、平松 浩二[1,2]、米倉 真一[1,2,3]（1.信州大・院総合工、2.信州大・院農、3.信州大・バイオメディカル研）

[2P-0799] ヒト脂肪由来幹細胞の能力と個人差
○堀田 美佳[1,2,3]、石井 佳江[3]、山田 貴亮[1,3,4]、長谷部 祐一[1,2]、伊達 靖[1,2]、有馬 豪[4]、岩田 洋平[4]、沼田 茂樹[4]、小林 束[4]、山本 直樹[5]、長谷川 靖司[1,2,4]、中田 悟[1]、杉浦 一充[4]、赤松 浩彦[3]（1.日本メナード化粧品（株）・総合研究所、2.名大・院医・メナード協同研究講座、3.藤田保健衛生大・医・応用細胞再生医学講座、4.藤田保健衛生大・医・皮膚科学講座、5.藤田保健衛生大・研究支援推進センター・共同利用研究推進施設）

[2P-0800] バルプロ酸によるラット脂肪組織幹細胞の神経分化の促進と硫化水素の関与
○並木 湧佑[1]、藤本 真理[1]、大久保 巧[2]、宮崎 陽子[2]、田中 和明[2]、滝沢 達也[2]（1.麻布大学 獣医学部 動物応用科学科、2.麻布大学大学院 獣医学研究科）

[2P-0801] ゼブラフィッシュを用いた腸神経系傷害後の機能回復機構の解明
○大野 真理愛[1]、堀内 奈津美[1]、二階堂 昌孝[1]、八田 公平[1]（1.兵庫県立大・院生命理・生命科学）

[2P-0802] バルプロ酸によるラット脂肪組織幹細胞の神経分化の促進と S-ニトロシル化の関与
○黒川 健太[1]、大久保 巧[1]、宮崎 陽子[1]、田中 和明[1]、滝沢 達也[1]（1.麻布大学大学院 獣医学研究科 動物応用科学専攻）

[2P-0803] 核内受容体 HNF4γによる肝がん細胞の再分化誘導
○浦部 瑞穂[1]、佐々木 翔太[1]、前田 つかさ[1]、鈴木 淳子[1]、入江 亮太[1]、阪口 政清[2]、Frank Gonzalez[3]、井上 裕介[1]（1.群馬大・院理工、2.岡山大・院医歯薬、3.米国NCI）

[2P-0804] CRISPR/Cas9システムを用いた転写因子 FOXA2、 SOX17欠損ヒト iPS細胞株の作製と内胚葉細胞への分化能の解析
○井貝 圭佑[1]、高山 和雄[1,2,3]、櫻井 文教[1]、水口 裕之[1,2,4]（1.阪大・院薬・分子生物学、2.医薬健栄研・肝分化プロジェクト、3.JST・さきがけ、4.阪大MEIセ）

[2P-0805] ヒト多能性幹細胞用増殖制御基礎培養液 Xyltechを用いたヒト iPS細胞の新規ウィークエンドフリー培養法の検討
○滝澤 佐季子[1,2]、平島 寛司[3]、吉留 明子[3]、友常 大八郎[3,4]、岳 鳳鳴[3]、中村 駿介[3]、藤本 俊介[2]、横山 忠幸[1,2]、佐々木 克典[3,4]（1.カ）ブルボン再生医科研、2.カ）ブルボン・健康科学研、3.信大・医・組織発生、4.信大・先鋭領域・バイメディカル研）

[2P-0806] エピブラスト幹細胞株から樹立された領域特性をもつ神経幹細胞株の解析
○中村 香絵[1]、Claire Boitet[1]、佐竹 沙耶佳[1]、吉氷 康矢[1]、石井 泰雄[1]、近藤 寿人[1]（1.京産大・生命科学）

[2P-0807] Foxa2とともに nEGFPを発現するエピブラスト幹細胞を用いた、初期発生過程の研究
○稲森 祥子[1]、石井 泰雄[1]、近藤 寿人[1]（1.京産大・院・生命科学）

[2P-0808] 新規造血ニッチ分子 MGPは正常および悪性造血幹・前駆細胞を調節する
○横井 彩[1]、後藤 千恵[1]、黒沼 加菜[1]、前川 昌保[1]、松原 怜央[1]、福永 貴子[1]、長谷川 菜摘[1]、原田 雅充[2]、浅野 茂隆[2]、伊藤 光宏[1,2,3]（1.神戸大・保健学研究科・病態解析学、2.早稲田大・ナノ・ライフ創新研究機構、3.ロックフェラー大・生化学・分子生物学）

[2P-0809] *Oct4*型 POU遺伝子*pou2/pou5f3*はゼブラフィッシュ胚の尾芽において神経発生を制御する.
○結川 達也[1]、池田 真彬[1]、津田 佐知子[1]、弥益 恭[1]（1.埼玉大・院理工・生命科学）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 1) がん（ポスター）

[2P-8-1] 8. 疾患生物学-1) がん

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[2P-0810] Delivery of Liposomal Paclitaxel Glycoside to Glioblastoma Cells Targeting CD44
○Apriliana Khayrani[1]、Tomonari Kasai[1]、Hafizah Mahmud[1]、Tsukasa Shigehiro[1,2]、Arun Vaidyanath[1]、Aung Ko Ko Oo[1]、Koji Hara[3]、Hiroki Yamada[4]、Yuhki Seno[5]、Takadatsu Mandai[5]、Du Juan[1]、Masaharu Seno[1]（1.Department of Medical Bioengineering, Graduate School of NaturaScience and Technology, Okayama University, Okayama, Japan、2.Japan Society for the Promotion of Science, Tokyo, Japan、3.Ensuiko Sugar Refining Co., Ltd., Tokyo, Japan、4.Faculty of Science, Okayama University of Science, Okayama,

©日本分子生物学会/日本生化学会

Japan、5.Faculty of Life Science, Kurashiki University of Science and the Arts, Kurashiki, Japan）

[2P-0811] Glucosamine suppresses stemness properties in ALDH+ human breast cancer stem cells via inhibition of STAT-3 phosphorylation

○Septelia Wanandi[1]、Rendy Hosea[2]、Novi Silvia Hardiany[1]（1.Dept. of Biochem. and Mol. Biol., Fac. of Med., Univ. Indonesia、2.Master Prog. in Biomed. Sci., Fac. of Med, Univ. Indonesia）

[2P-0812] Liposomes Conjugated with Monomeric Fusion Protein of Chlorotoxin (M-CTX-Fc) Targeting to Malignant Glioblastoma Cells

○Hafizah Mahmud[1]、Tomonari Kasai[1]、Apriliana Cahya Khayrani[1]、Arun Vaidyanath[1]、Aung Koko Oo[1]、Du Juan[1]、Masaharu Seno[1]（1.Department of Medical Bioengineering, Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University, Okayama, Japan.）

[2P-0813] Antiproliferative activity of leaf and fruit extracts from *Cerbera odollam* against human cholangiocarcinoma cell line

○Apaporn Menakongka[1]、Sukanda Chaiyong[2]、Tuangporn Suthiphongchai[3]（1.Dept. of Basic Med. Sci., Fac. of Medicine Vajira Hospital, Navamindradhiraj Univ.、2.Div. of Biol., Fac. of Sci., Chandrakasem Rajabhat Univ.、3.Dept. of Biochemistry, Fac. of Sci., Mahidol Univ.）

[2P-0814] Analysis of the differential methylated regions in the cancer stem cell model converted from iPSCs

○Aung Oo[1]、Arun Vaidyanath[1]、Anna Sanchez Calle[1]、Hafizah Mahmud[1]、Neha Nair[1]、Apriliana Cahya Khayrani[1]、Md Jahangir Alam[1]、Tomonari Kasai[1]、Masaharu Seno[1]（1.Department of Medical Bioengineering, Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University.）

[2P-0815] The alteration of HIF-1 alpha expression in advanced breast cancer patients after neoadjuvant therapy

○Syarifah Dewi[1,3]、Ramadhan Karsono[2]、Mohamad Sadikin[3]、Septelia Inawati Wanandi[3]（1.Doctoral Programme of Biomedical Sciences, Faculty of Medicine Universitas Indonesia、2.Department of Oncology Surgery, Dharmais National Cancer Hospital、3.Department of Biochemistry and Molecular Biology, Faculty of Medicine Universitas Indonesia）

[2P-0816] Analysis of the Conversion of iPSCs into Cancer Stem Cells with Non-mutagenic Chemical Compounds

○JUAN DU[1]、Tomonari Kasai[1]、Aung Ko Ko Oo[1]、Saki Sasada[1]、Apriliana Cahya Khayrani[1]、Hafizah Mahmud[1]、Neha Nair[1]、Arun Vaidyanath[1]、Masaharu Seno[1]（1.Department of Medical Bioengineering, Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University, Okayama, Japan）

[2P-0817] Kringle-like domain is essential in GPNMB-induced breast cancer formation

○Rudy Xie[1]、Yukari Okita[1]、Mitsuyasu Kato[1]（1.Department of Experimental Pathology, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, Faculty of Medicine, University of Tsukuba）

[2P-0818] Combined arsenic trioxide-cisplatin treatment synergistically suppresses proliferation of Bcr-Abl-positive leukemic cells

○Md Wahiduzzaman[1]、Akinobu Ota[1]、Sivasundaram Karnan[1]、Toshinori Hyodo[1]、Hiroyuki Konishi[1]、Shinobu Tsuzuki[1]、Yoshitaka Hosokawa[1]（1.Dept. of Biochemistry, Aichi Medical Univ. Sch. of Medicine, Nagakute, Aichi, Japan）

[2P-0819] The effect of exogenous Cripto-1 in cancer stem cells developed from iPSCs

○Md Alam[1]、Akifumi Mizutani[1]、Hiroshi Murakami[1]、Aung Ko Ko Oo[1]、David S. Salomon[2]、Masaharu Seno[1]（1.Dept. of Med. Bioeng., Grad. Sch. of Nat. Sci. and Tech., Okayama Univ., Okayama、2.Mouse Cancer Genetics Prog., Center for Cancer Res., Natl. Cancer Inst., USA）

[2P-0820] Anti-inflammatory and anti-cancer effect of Dicentrine via down-regulated NF-κB activity

○Supachai Yodkeeree[1]、Pornngarm Limtrakul[1]（1.Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiangmai University, Chiang Mai 50200, Thailand）

[2P-0821] NIR-Stimulated Single-Walled Carbon Nanotube (SWCNT)-Mediated Cancer

©日本分子生物学会/日本生化学会

Therapy and its Long-Term Biodistribution
○Mariah Mikhaela Chua[1]、Jobi F. Subosa[1]、Kamila Isabelle A. Navarro[1]、Cynthia P. Saloma[1]
（1.National Institute of Molecular Biology and Biotechnology, College of Science, University of the Philippines Diliman, Quezon City 1101, Philippines）

[2P-0822] HL156A, a new metformin derivative, prevents cancer progression by inhibiting the IGF/Akt/mTOR pathways in oral cancer cells
Thuy Giang Lam[1]、○Sang-Gun Ahn[1]
（1.Department of Pathology, School of Dentistry, Chosun University, Gwangju, 61452, Republic of Korea）

[2P-0823] 非小細胞肺がんの転移を抑制する分子標的薬の探索
○三浦 奈美[1]、鬼谷 薫[1]、庄司 広和[1]、白石 英晶[1]、本田 一文[1,2]（1.国立がん研究セ・研・早期診断、2.日本医研究開発機構, CREST）

[2P-0824] がん細胞の NAD^+生合成経路の特性を生かした新規制がん戦略の構築
○高井 祐輔[1]、佐藤 聡[1]、荻野 暢子[1]、葛城 粛貴[1]、山本 哲也[2]、吉森 篤史[2]、大山 貴央[3]、阿部 英明[3]、田沼 靖一[1]（1.東京理大・薬、2.（株）理論創薬研究所、3.ヒノキ新薬（株））

[2P-0825] The Cancer Genome Atlasの活用による Exonic Splicing Enhancer機能喪失体細胞変異の大規模探索
○谷本 幸介[1]（1.医科歯科大・難研・ゲノム解析室）

[2P-0826] トリプルネガティブ乳がん関連遺伝子と予後予測遺伝子候補 CPIG7.2との関連性
○丹下 正一朗[1]、増田 清士[1]、河本 知大[1]、齋藤 雅子[1]、井本 逸勢[1]（1.徳島大・院医歯薬・人類遺伝）

[2P-0827] SOCS3遺伝子組込み型アデノウイルスによる前立腺癌遺伝子治療の開発および免疫細胞療法との併用による抗腫瘍効果の検討
○米田 智美[1]、斉藤 大樹[2]、福井 悠夏[1]、北川 孝一[2]、世良田 聡[3]、仲 哲治[3]、白川 利朗[1,2]（1.神大・院科学イ・先端医療、2.神大・院医、3.国研法・医薬基）

[2P-0828] 胃がん発生に関与する長鎖 non-coding RNAの同定
○北嶋 洋志[1]、丸山 玲緒[2]、山本 英一郎[1,3]、新沼 猛[1]、甲斐 正広[1]、時野 隆至[4]、仲瀬 裕志[3]、鈴木 拓[1]（1.札医大・医・分子生物、2.がん研・研・がんエピゲノム、3.札医大・医・消化器内科学、4.札医大・ゲノム医科）

[2P-0829] 膵臓癌幹細胞ニッチを擬態する合成ポリマーのスクリーニング
○室田 吉貴[1]、Sara Schmidt[2]、桝 康一[1]、伊藤 浩光[3]、田中 真二[3,4]、Mark Bradley[2]、田賀 哲也[1]（1.東京医歯大・難治研・幹細胞制御、2.エジンバラ大・化・ハイスループットケミカルバイオロジー、3.東京医歯大・院医歯学総合・肝胆膵総合外科、4.東京医歯大・院医歯学総合・分子腫瘍医学）

[2P-0830] ヒストン H3F3A遺伝子変異小児グリオーマの全ゲノムメチローム解析
○三月田 祐平[1,2]、荒木 啓充[2]、三浦 史仁[2]、吉本 幸司[1]、飯原 弘二[1]、伊藤 隆司[2]（1.九大・院医・脳神経外科、2.九大・院医・医化学）

[2P-0831] 核内受容体 FXRで誘導される新規 miRNAによる細胞増殖抑制機構の解析
○清水 清幾[1]、久保田 千晶[2]、川村 悠気[2]、藤井 博[3]（1.信州大・院総合理工・生命医工、2.信州大・院農・応用生命、3.先鋭領域融合・バイオメディカル・代謝ゲノミクス）

[2P-0832] 線維芽細胞と相互作用する肺がん細胞膜上蛋白質の解明
○鈴木 英暢[1,2]、宮崎 允[2]、大友 亮[3]、日比谷 優子[2]、中島 綾奈[2,4]、阿部 尚実[2]、市村 幸一[2]、富山 新太[2,5]（1.東京医科歯科大・NCC腫瘍医科学、2.国立がん研究セ・研・脳腫瘍連携、3.岩手医科大学、4.横市大大院・生命医科学、5.防衛医科大学校・脳神経外科）

[2P-0833] リガンド非依存的 EGFR活性が、 ErbB3シグナルを介して cetuximabの抗癌効果を低下させる
○野崎 正美[1]、安井 大樹[1,2]、大西 祐一[1,2]（1.阪大・微研・細胞機能、2.大歯・第二口外）

[2P-0834] 腫瘍関連炎症による間質活性化を介した胃癌進展メカニズムの解明
○三宅 慧輔[1,2]、内原 智幸[1,2]、江藤 二男[1,2]、有馬 浩太[1,2]、澤山 浩[1]、日吉 幸晴[1]、岩槻 政晃[1]、馬場 祥史[1]、宮本 裕士[1]、吉田 直矢[1]、馬場 秀夫[1]、石本 崇胤[1,2]（1.消化器外科・院医・熊大、2.国際先端医学研究機構）

[2P-0835] 慢性骨髄性白血病におけるアポトーシス阻害因子 Survivin発現の分子機構
○森山 健太[1]、前田 木実[1]、大島 遙香[1]、西 良太郎[1]、堀 利行[1]（1.立命館大・生命研・生医）

[2P-0836] 癌細胞における FABP5依存的浸潤能促進機構の解析
○小林 なるみ[1]、千賀 匠悟[2]、川口 耕一郎[3]、藤井 博[1,2,4]（1.信州大・院総合理工・生命医工、2.信州

大・院総合工・生物・食料科学、3.国立長寿医療研究センター、4.先鋭研・バイオメディカル研・代謝ゲノミクス）

[2P-0837] Cancer microbiomeおよびがん細胞間の増殖制御に関わる因子の解析

○浦部 達弘[1]、須郷 彩[1]、冨田 森太郎[1]、蓮見 惠司[1]、鈴木 絵里子[1]（1.東農工大・農学院・応用生命化学）

[2P-0838] 癌関連遺伝子を分子標的とした新規抗腫瘍活性分子の同定と作用機構の解析

○石原 知里[1]、松本 桐子[2]、川口 耕一郎[2]、真壁 秀文[3]、藤井 博[1,3]（1.信州大院・総合理工学・生命医工学、2.信州大院・農学・応用生命科学、3.信州大・先鋭領域融合研究群 バイオメディカル研究所）

[2P-0839] 腸管炎症関連疾患における Wnt5aの機能解析

○前原 奈都美[1]、佐藤 朗[2]、麓 勝己[1]、菊池 章[1]（1.阪大・院医・分子病態生化学、2.滋賀医・生化学分子生物学・分子病態生化学）

[2P-0840] 三次元培養細胞における細胞接着因子に着目した腫瘍形成機序の探索

○横山 智哉子[1]、久富 寿[2]（1.山形大・院理工・バイオ化学工学、2.成蹊大・理工・物質生命）

[2P-0841] 亜鉛トランスポーター ZIP7の大腸がんにおける機能解析

○山峯 直樹[1]、大橋 若奈[1]、織田 哲郎[1]、洞口 龍介[1]、服部 裕一[1]（1.富山大学大学院医学薬学研究部分子医科薬理学講座）

[2P-0842] 血中 miRNAマーカーによる大腸癌増殖の効果

○溝口 敦子[1]、高山 愛子[1]、荒井 大河[1]、木田 悠歩[1]、河内 淳平[1]、須藤 裕子[1]（1.東レ株式会社）

[2P-0843] RHEBの欠損は正常造血に重篤な欠陥を起こさずに T-ALLの発症を抑制する

○彭 卉[1]、笠田 篤郎[1]、上野 将也[1]、星居 孝之[1]、河野 晋[1]、西村 建徳[1]、高橋 智聡[1]、後藤 典子[1]、平尾 敦[1]（1.金大・がん研）

[2P-0844] 悪性リンパ腫に対する脂質代謝阻害剤の有効性

○藤原 章雄[1]、Hasita Horlad[1]、Cheng Pan[1]、矢野 浩夢[1]、西東 洋一[1]、宮川 育子[1]、中川 雄伸[1]、竹屋 元裕[1]、菰原 義弘[1]（1.熊大・院医・細胞病理）

[2P-0845] aPKC依存的な ALDH1陽性乳癌幹細胞の生存機構の解析

○野崎 優香[1,2]、多森 翔馬[1,2]、片山 鈴花[1]、中根 裕美[1]、南島 治[1]、阿部 真実[1]、小野寺 祐佳[1]、和氣 由布子[1]、石原 侑佳[1]、早川 美菜子[1]、佐藤 圭子[3]、原 泰志[4]、安部 良[4]、今井 美沙[5]、川上 隆雄[7]、田沼 靖一[1,6]、大野 茂男[8]、秋本 和憲[1,2]（1.東理大・薬、2.東理大・TRセンター、3.東理大・理工、4.東理大・生命医科学研、5.順天大・JLRCDR、6.東理大・ゲノム創薬センター、7.株式会社メディカルプロテオスコープ、8.横市大・医）

[2P-0846] 悪性癌細胞株における FABP5を介した新規脂質代謝制御機構の解析

○千賀 匠悟[1]、小林 なるみ[2]、川口 耕一郎[1]、藤井 博[3]（1.信州大学院 総合工学系研究科 生物・食料科学専攻、2.信州大学院・総合理工学系研究科、3.信州大学院・先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所・代謝ゲノミクス部門）

[2P-0847] DNA架橋剤メルファランは多発性骨髄腫細胞株において主要組織適合抗原クラス II (MHC II)の転写活性化因子 CIITAの発現を促進する

○中村 瑠里[1]、小田 司[2]、関本 隆志[2]、松田 美弥子[1]、大圃 真純[1]、半田 寛[1]、笠松 哲光[1]、齋藤 貴之[1]、村上 博和[1]、山下 孝之[2]（1.群大・院保健、2.群大・生調研・遺伝子情報）

[2P-0848] 胎生期における PRC2を介した遺伝子発現変化が MYCNによる神経芽腫の発生と臨床結果を規定する

○坪田 庄真[1]、岸田 聡[1]、島村 徹平[2]、大平 美紀[3]、山下 聡[4]、曹 東亮[1]、清成 信一[1]、牛島 俊和[4]、門松 健治[1]（1.名大・院医・分子生物学、2.名大・院医・システム生物学、3.埼玉県立がんセ・臨床腫瘍研究所、4.国立がん研究セ・研・エピゲノム解析）

[2P-0849] 胎盤特異的プロテインキナーゼ Nrkが司る細胞増殖制御機構の解明

○伝田 公紀[1]、二口 充[2]、丹野 正隆[3]、田邉 暢子[1]、林 宣宏[1]（1.東工大・生命理工学院、2.名古屋市大・院医・生体防御、3.川崎幸病院・病理）

[2P-0850] 胃がん患者腫瘍に存在する高い自己複製能をもつがん細胞分画の分離と解析

○岩崎 里紗[1,2]、馬島 哲夫[1]、川田 直美[1,3]、熊谷 厚志[4]、佐野 武[4]、山口 研成[3]、清宮 啓之[1,2]（1.がん研・化療セ・分子生物治療、2.東大院・新領域・メディ・がん分子標的、3.がん研・有明病院・消化器内科、4.がん研・有明病院・消化器胃外科）

[2P-0851] 肺癌切除前後の血中濃度比較に基づく4種の早期肺癌診断マーカー候補マイクロ RNAの評価

○相磯 聡子[1]、上田 真樹子[1]、大塚 弘毅[2]、苅田 真[3]、横山 琢磨[4]、松木 奈央子[5]、大西 宏明[2]（1.杏林大・保健・臨床検査、2.杏林大・医・臨床検査医学、3.杏林大・医・外科、4.杏林大・医・内科、5.杏林大・医・眼科）

[2P-0852] 腫瘍関連マクロファージにおける HIF活性化因

子 Mint3の機能解析
○林 哲郎[1]、福井 優也[1]、坂本 毅治[1]、村上 善則[1]
（1.東大・医科研・人癌病因遺伝子分野）

[2P-0853] ヒト肺腺がん細胞株における微小管阻害剤感受性関連因子の探索
○岡崎 仁美[1,2]、鈴木 絢子[1]、土原 一哉[1,2]（1.国立がん研究セ・先端医療開発セ・ゲノム TR、2.東大・院新領域・先端生命）

[2P-0854] SASP因子の相乗効果による肥満誘導性肝がん形成促進機構の解明
○山崎 翔太[1]、蒲池 史卓[1]、中村 大[1]、中島 将博[1]、Loo Mun[2]、吉本 真[2]、新井 達也[1]、田口 速男[1]、中江 進[3]、原 英二[4]、大谷 直子[5]（1.理科大・院理工・応用生物、2.がん研・がん生物部、3.東大・医科研・シスバイオ、4.阪大・医・医、5.阪市大・医・医）

[2P-0855] ALK阻害剤と p53活性化剤の併用による神経芽腫に対する新規治療法の開発
○宮崎 允[1]、日比谷 優子[1]、鈴木 英暢[1,2]、中島 綾奈[1,3]、阿部 尚実[1]、市村 幸一[1]、富山 新太[1,4]（1.国立がん研セ・脳腫瘍連携研究分野、2.東京医科歯科大・NCC腫瘍医科学、3.横浜市大院・生命医科学、4.防衛医科大学校・脳神経外科）

[2P-0856] 大腸癌細胞における FABP5遺伝子の発現制御機構の解析
○大橋 翼[1]、川口 耕一郎[3]、湯本 千沙[2]、藤井 博[1,2,3]（1.信州大学大学院総合理工学研究科、2.信州大学農学部、3.信州大学総合工学系研究科）

[2P-0857] がん転移における細胞接着因子／細胞外マトリックス相互作用と弾性係数の検討
○芝口 浩智[1]、白須 直人[1]、安永 晋一郎[1]（1.福岡大・医・生化学）

[2P-0858] がん細胞に誘起される繊維芽細胞遊走を阻害する小分子探索
○渡辺 信元[1,2]、Kruthi Suvarna[1,2]、本田 香織[1]、近藤 恭光[3]、長田 裕之[3]（1.理研・環境資源セ・生理活性物質探索研究U、2.東京医歯大・医歯学総合研究科・理研生体分子制御、3.理研・環境資源セ・ケミカルバイオロジー研究G）

[2P-0859] ３次元培養法を用いた抗がん剤に対する薬剤耐性の評価
○伊東 里紗[1]、鈴木 俊宏[1]、山岡 利光[2]、大森 亨[2]、西尾 和人[3]、小笠原 裕樹[1]（1.明薬大・分析化学、2.昭和大・腫瘍分子生物学研、3.近畿大・医・ゲノム生物学）

[2P-0860] TLR2-COX2-PGE2経路を介する抗腫瘍免疫応答の抑制は、肥満誘導性肝がんを進展させる
○渡辺 喜洋[1]（1.東理大）

[2P-0861] 悪性胸膜中皮腫の早期診断腫瘍マーカーの検討
○シバスンダラン カルナン[1,2]、Akinobu Ota[1]、Ichiro Hanamura[2]、Hideki Murakami[3]、Toshinori Hyodo[1]、Wahiduzzaman Md[1]、Hiroyuki Konishi[1]、Shinobu Tsuzuki[1]、Yoshitaka Hosokawa[1]（1.愛知医大、2.愛知医大、3.愛知医大）

[2P-0862] 非小細胞肺癌の治療標的としての miR-130 familyの評価
○廣野 貴之[1]、江川 博[1]、廣瀬 遼[1]、中辻 由乃[1]、神宮司 健太郎[1]、北惠 郁緒里[1]、上田 裕子[1]、長谷 拓明[1]、中村 好宏[2]、古川 龍彦[3]、佐藤 雅美[2]、辻川 和丈[1]（1.阪大・院薬・細胞生理、2.鹿児島大・院医・呼吸器外科、3.鹿児島大・院医・分子腫瘍）

[2P-0863] 前立腺癌細胞の細胞増殖におけるグルコース代謝調節
○森井 優輝[1]、渡邊 健太[2]、平田 美智子[1]、稲田 全規[1,2]、宮浦 千里[1,2]（1.農工大・院・生命工、2.農工大・グローバルイノベーション研究院）

[2P-0864] 前立腺癌細胞による骨形成促進のメカニズム解析
○古川 愛也佳[1]、渡邊 健太[2]、平田 美智子[1]、宮浦 千里[1,2]、稲田 全規[1,2]（1.農工大・院・生命工、2.農工大・グローバルイノベーション研究院）

[2P-0865（4P1T26-06）] がん微小環境との相互作用により悪性化した腎細胞がん細胞は好中球の動態変化を誘発して肺転移を促進する
○西田 純[1]、高橋 恵生[1]、江幡 正悟[1]、宮園 浩平[1]（1.東大・院医・分子病理）

[2P-0866] 飢餓条件下における前立腺癌の細胞応答解析
○野村 美沙[1]、渡邊 健太[2]、平田 美智子[1]、稲田 全規[1,2]、宮浦 千里[1,2]（1.農工大・院・生命工、2.農工大・グローバルイノベーション研究院）

[2P-0867] CBPノックアウト細胞株を用いた合成致死標的の探索
○佐々木 麻里子[1,2]、荻原 秀明[1]、河野 隆志[1,2]（1.国がん・研・ゲノム生物学、2.慈恵医大・院医）

[2P-0868] エナメル上皮癌における EMT誘導と CK15の発現抑制
○吉本 尚平[1]、田中 文恵[1,2]、岡村 和彦[1]、池邉 哲郎[2]、橋本 修一[1]（1.福歯大・病理、2.福歯大・口腔外科）

[2P-0869] レポーターアッセイを用いた Foxp3低分子阻害化合物の探索

©日本分子生物学会/日本生化学会

○園田 祐大[1]、村岡 大輔[1]、三好 奈央[1]、小郷 尚久[1]、浅井 章良[1]（1.静岡県大・院薬）

[2P-0870] プロトンポンプ阻害剤はシスプラチンによるがん細胞障害を増強する

○山岸 直子[1]、山本　悠太[1]、西 利男[1]、伊藤 隆雄[1]、上山 敬司[1]（1.和医大・医・解剖学第一）

[2P-0871] M-CSFによる担がんマウス脾細胞の IFN-γ分泌抑制

○公 せい[1]、Kamita Moses[1]、新藤 充[1,2]、狩野 有宏[1,2]（1.九大・院総理工、2.九大先導研）

[2P-0872] トリプルネガティブ乳がんにおけるエピゲノム不均一性の解析

○桑川 昂平[1]、楊 麗英[1]、丸山 玲緒[1]（1.がん研究会がん研究所・がんエピゲノムプロジェクト）

[2P-0873] HIV関連リンパ腫の早期診断を目指した発症前DNAメチル化変動の解析

○松永 章弘[1]、岡 雅子[1,2]、柳川 泰昭[3]、栂野 富輝[4]、今留 健一[5]、潟永 博之[3]、岡 慎一[3]、萩原 槳太郎[4,6]、石坂 幸人[1]、志村 まり[1]（1.国立国際医療研究セ・難治性疾患、2.国立国際医療研究セ・疾患制御、3.国立国際医療研究セ・エイズ治療研究開発セ、4.国立国際医療研究セ・血液内科、5.国立生育医療研究セ・高度先進医療、6.東京女子医大・血液内科）

[2P-0874] 分子シミュレーション解析による EGFRへのゲフィチニブの感受性予測

○菅野 亜紀[1,2]、中村 豊[3]、大田 美香[1,2]、栄田 敏之[4]、高岡 裕[1,2]（1.神戸大・医・医療情報、2.神戸常盤大・ライフサイエンス研、3.岩手医大・アレルギー免疫内科、4.京薬大・薬物動態）

[2P-0875] MyD88シグナルは NFκB-HIF1αを介して癌化を誘導する

○谷村 篤子[1]、中里 茜[1]、田中 信之[1]（1.日医大・先端研・遺伝子制御）

[2P-0876] 非遺伝毒性発がん剤投与のラット肝マクロファージにおける phospholipase A2と転写因子C/EBPβの発現

○清水 武史[1]、七島 直樹[2]、山田 俊幸[1,3]、土田 成紀[1,4]（1.弘前大・院医・ゲノム生化学、2.弘前大・院保健・生体検査、3.日薬大・薬・生命分子薬学、4.弘前医療福祉大・保健・医療技術）

[2P-0877] 3次元培養を用いた変異 p53と SREBP2依存的コレステロール合成経路の乳癌悪性化機構に対する役割

○中山 哲俊[1]、鈴木 佐和子[1]、樋口 誠一郎[2]、小田 瑞穂[3]、松本 雅記[3]、横手 幸太郎[1]、田中 知明[2]（1.千葉大・院医学研・細胞治療、2.千葉大・院医学研・分子病態、3.九大・生体防医研・トランスオミクス医研・プロテオミクス）

[2P-0878] 大腸がんにおける IKK-εによる EZH2高発現の誘導

○新城 恵子[1]、土肥 名月[2]、畑中 彬良[2]、勝島 啓佑[1]、近藤 豊[1]（1.名大・院医・腫瘍生物学、2.名市大・院医・遺伝子制御学）

[2P-0879] 腫瘍微小環境を有する患者由来ヒト膵癌オルガノイドの創出

○奥田 諒[1]、関根 圭輔[1]、上野 康晴[1]、井上 達也[1]、金子 千夏[1]、碓井 彩華[1]、谷口 英樹[1]（1.横浜市大・院医・医）

[2P-0880] EBウイルス関連胃癌における BRD4による PD-L1の発現制御

○国田 朱子[1]、大井手 慶[1]、阿部　浩幸[2]、深山　正久[1]（1.東大・院医・人体病理、2.東大病院・病理）

[2P-0881] ショウジョウバエ個体を用いたがん微小環境における腫瘍細胞―正常細胞相互作用の解析

○長谷川 景太[1]、倉永 英里奈[1]、中嶋 悠一朗[1,2]（1.東北大・生命科学研究科・細胞動態制御分野、2.東北大学学際科学フロンティア研究所）

[2P-0882] 新規 BRCA1結合分子 BIP2と BRCA1のバランスが正常な中心体複製に重要である

○吉野 優樹[1]、小林 輝大[1]、宮西 優太郎[1]、齋 匡成[1]、遠藤 栞乃[1]、新藤 一葉[1]、千葉 奈津子[1]（1.東北大・加齢研・腫瘍生物学）

[2P-0883] 誘導型*PARG* K.D.システムを用いた*PARG*機能阻害条件下における合成致死性遺伝子の同定

○佐々木 由香[1,2,3]、藤森 浩彰[1,3]、穂積 美幸[3,4]、村上 康文[4]、小泉 史明[5]、井上 謙吾[6]、益谷 美都子[1,2,3]（1.長崎大院・医歯薬・フロンティア生命、2.国がん研究セ・研・遺伝医学、3.国がん研究セ・研・創薬臨床、4.東京理科大・基礎工、5.都立駒込病院・臨床研究支援室、6.静岡県産業振興財団ファルマバレーセンター）

[2P-0884] 3番染色体転座・逆位を伴う白血病における GATA2遺伝子発現減少の貢献

○鈴木 未来子[1]、山岡 彩香[2]、片山 紗乙莉[2]、山本 雅之[2]（1.東北大・院医・ラジオアイソトープセンター、2.東北大・院医・医化学）

[2P-0885] 転写超保存領域 Uc.160+の胃癌におけるメチル化解析

○本間 りりの[1]、後藤 景介[1,2]、坂本 直也[1]、関野 陽平[1,2]、仙谷 和弘[1]、大上 直秀[1]、安井 弥[1]（1.広大・院医歯薬保・分子病理、2.広大・院医歯薬保・腎泌尿器）

[2P-0886] low-risk HPV E6/E7と EBV LMP-1の二重発現

モデルを用いた形質転換能の評価
○上原 佳里奈[1,2]、喜名 振一郎[2]、新崎 章[2]、金城 貴夫[1]
（1.琉大・医・保健・形態病理、2.琉大・医・顎顔面口腔機能再建学）

[2P-0887] 腫瘍内過酸化水素のイメージングを用いた腫瘍促進作用の解析
○植田 誉志史[1]、清中 茂樹[1]、井上 圭亮[1]、森 泰生[1]
（1.京大・工学研・合成・生物化学）

[2P-0888] *Apc* $^{Min/+}$ マウスを用いた低線量、低線量率放射線発がんリスク評価の試みとその腫瘍解析
○笹谷 めぐみ[1]、飯塚 大輔[2]、河合 秀彦[1]、Elena Zaharieva[3]、神谷 研二[1]（1.広大・原医研・分子発がん、2.量研・放医研・放射線影響、3.広大・原医研・放射線ゲノム疾患）

[2P-0889] 乳癌細胞におけるグルタミン代謝と細胞増殖
○山崎 基[1]、渡邊 健太[2]、平田 美智子[1]、稲田 全規[1,2]、宮浦 千里[1,2]（1.農工大・院・生命工、2.農工大・グローバルイノベーション研究院）

[2P-0890] チロシンキナーゼ阻害剤耐性ヒト膠芽腫細胞における ABCB4の機能解析
○鍋島 龍一[1]、津田 真寿美[2,3]、鈴鹿 淳[2]、王 磊[2,3]、谷野 美智枝[2]、田中 伸哉[2,3]（1.北大・医、2.北大・院医・腫瘍病理、3.北大・国際連携研究教育局・ソフトマターグローバルステーション）

[2P-0891] 乳がんにおける新規がん抑制性 microRNA-Xの機能
○三橋 愛[1,2]、勝田 毅[1]、山本 雄介[1]、落谷 孝広[1]
（1.がんセ・分子細胞治療研究分野、2.順天堂大・医学研究科・最先端がん臨床研究コース）

[2P-0892] Cited2は CBP/p300-beta-catenin-Sox9を介して小児悪性固形腫瘍である神経芽腫の腫瘍形成と転移を抑制する
○岸田 聡[1]、曹 東亮[1]、成田 敦[2]、吉田 安子[3]、高橋 義行[2]、門松 健治[1]（1.名大・院医・生物化学講座分子生物学、2.名大・院医・小児科、3.名大・予防早期医療創成センター）

[2P-0893] Wilms' tumor 1抗原発現ビフィズス菌を用いた経口癌ワクチンのマウス前立腺癌に対する抗腫瘍効果の検討
○五ノ井 玲菜[1]、北川 孝一[2]、古田 拓也[1]、辰巳 真帆[1]、橋井 佳子[3]、片山 高嶺[4]、白川 利朗[1,2]（1.神大・院科学技術イノベーション・先端医療学、2.神大・院医・バイオロジクス探索研究、3.阪大・院医・小児科学、4.京大・院生命科学・分子応答機構学）

[2P-0894] ヒストン脱メチル化酵素機能阻害による乳がん悪性化への影響
○古室 暁義[1]、太田 一成[1]、上田 健[1]、岡田 斉[1]
（1.近大・医・生化学）

[2P-0895] 成人 T 細胞白血病（ ATL）の新規治療薬としてのメナキノン-４の機能
○山口 純平[1]、黒崎 直子[1]、尾留川 亨惟[1]（1.千工大・院工・生命環境科学）

[2P-0896] アンドロゲンとビタミン D3による前立腺癌の細胞増殖調節
○五十嵐 晃[1,2,3]、渡邊 健太[2]、由井 理洋[1]、笹川 覚[1]、平田 美智子[3]、稲田 全規[2,3]、宮浦 千里[2,3]、伊藤 和幸[1]（1.野崎徳洲会病院附属研究所、2.農工大・院・共同先進健康科学、3.農工大・工学・生命工）

[2P-0897] Src/FAK依存性チロシンリン酸化はヒト膀胱癌細胞における抗アポトーシス機構を伴う細胞増殖と細胞運動に寄与する
○荒井 華菜香[1]、西川 裕貴[1]、Alexander Tokmakov[1]、佐藤 賢一[1]（1.京産大・生命科学）

[2P-0898] カルレチキュリン変異を有する血球前駆細胞は巨核球への分化偏向性を有する
○竹井 拓[1]、眞野 修一[1,2]、増渕 菜弥[1,3]、水上 喜久[1,4]、今井 美沙[1,5]、森下 総司[6]、枝廣 陽子[1]、弘中 由美[1]、ぬで島 麻衣[1]、常田 聡[2]、遠藤 大[7]、中村 壮[7]、江藤 浩之[7]、大坂 顯通[6]、荒木 真理人[6]、小松 則夫[1]
（1.順大・院医・血液内科学、2.早大・院先進・生命医科学、3.順大・院医・老研セ、4.順大・院医・ゲノム再医、5.順大・院医・先導がん医開研、6.順大・院医・輸血幹細胞、7.京大・CiRA・臨床応用）

[2P-0899] I型インターフェロンの癌幹細胞及び発がんに対する効果
○上原 郁野[1]、田中　信之[1]（1.日医大・先端研・遺伝子制御）

[2P-0900] 乳腺幹細胞の三次元組織学的観察法の確立とそれを用いた低線量被ばく影響解析
○飯塚 大輔[1,2]、今岡 達彦[1]、笹谷 めぐみ[2]、西村 由希子[1]、神谷 研二[2]、柿沼 志津子[1]（1.量研・放医研・放射線影響、2.広大・原医研・分子発がん）

[2P-0901] がん抑制遺伝子 PHLDA3の機能喪失性変異の同定と機能解析
○冨永 航平[1,2]、西川 雷羅[1]、山口 陽子[2]、永田 喜三郎[2]、大木 理恵子[1]（1.国立がん研究センター・研・基礎腫瘍　、2.東邦大・院理・生物分子）

[2P-0902] 癌型ＫーＲａｓにより誘導される非小細胞肺癌発症関連遺伝子座の検出と解析
○齋藤 浩充[1]、鈴木 昇[1]（1.三重大・地域イ・先端科学・動物機能ゲ）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-0903] 小胞膜輸送を介したがん原遺伝子産物 Srcの制御機構
○田中 健太郎[1]、岡田 雅人[1]、名田 茂之[1]、梶原 健太郎[1]、阿部 雄一[2]（1.阪大・院理・生物科学、2.医薬基盤研）

[2P-0905] NF-kB DSE-FRET assayを用いた RelA-DNA結合阻害剤の発見及び機能解析
○藤田 豪[1]、城間 喜智[2]、木根原 匡希[2]、幾尾 真理子[2]、嶋本 顕[2]、田原 栄俊[2]（1.広大・薬科・細胞分子生物、2.広大・院医歯薬保健学・細胞分子生物）

[2P-0906] 食道がんにおける FGFR3IIIcアイソフォーム発現の臨床的意義
上野 信洋[1]、上田 修吾[2]、浅野 弘嗣[1]、神吉 正太郎[1]、菖蒲池 香奈[1]、○瀬尾 美鈴[1]（1.京都産業大・総合生命、2.北野病院・医学研究所）

[2P-0907] 乳癌組織に存在するミトコンドリアゲノムDNA変異によるがん細胞増殖への影響
○渡邉 健司[1]、山本 滋[2]、諫山 慧士郎[3]、岡 正朗[2]、永野 浩昭[2]、水上 洋一[1]（1.山大・大研・遺伝子実験施設、2.山大・院医・消化器・腫瘍外科学分野、3.山大・大研・生命科学実験施設）

[2P-0908] T lymphoma細胞移植マウスの呼気における一酸化炭素濃度の上昇
○石川 哲也[1]、中川 梨沙[1]、有川 裕美子[1]、佐藤 妃映[1]、高原 潤子[2]、佐藤 康晴[1]、片岡 幹男[1]（1.岡山大・保健・検査、2.岡山大・医・耳鼻咽喉）

[2P-0909] PI3 kinase様タンパク質リン酸化酵素SMG1阻害による抗腫瘍効果の解析：SMG1による NRF2活性制御の発見
○藤川 由美子[1]、山下 暁朗[1]、大貫 哲男[2]、鈴木 香絵[1]、青柳 杏子[1]、黒澤 瞳[1]、廣瀬 博子[1]、永井 陽子[1]、上村 博司[3]、吉田 稔[2]、大野 茂男[1]（1.横浜市大・医・分子細胞、2.理研・吉田化学、3.横浜市大・市民総合医療センター）

[2P-0910] 高水溶性新規ルシフェリンアナログの創製と実用化
○齊藤 亮平[1]、木山 正啓[1]、北田 昇雄[1]、東 翔子[1]、盛満 玲[1]、Shijia Lu[1]、小畠 りか[3]、平野 誉[1]、牧 昌次郎[1,2]（1.電気通信大学 大学院情報理工学系研究科 基盤理工学専攻、2.電気通信大学 脳科学ライフサポートセンター、3.慶應義塾大学）

[2P-0911] ヘム生合成経路の律速酵素 ALAS1の分解経路の低下によるゲノム不安定性の誘導
○久保田 美子[1]、久慈 強[1]、古山 和道[1]（1.岩手医大・医・生化学）

[2P-0912] アルクチゲニンの抱合、脱抱合とその安全性と有効性の関係の解明
○藤岡 ルミ[1]、岸野 吏志[2]、与茂田 敏[3]、土原 一哉[1]、江角 浩安[4]（1.国立がん研究セ・EPOC・TR、2.明治薬科大薬剤情報解析学教室、3.クラシエ製薬（株）、4.東理大生研）

[2P-0913] 骨肉腫の低酸素状態における MICA認識回避のメカニズム
○山田 直子[1]、山根木 康嗣[1]、西浦 弘志[1]、中正 恵二[1]、寺田 信行[1]（1.兵庫医大・病理）

[2P-0914] 悪性中皮腫に対するシアル酸結合性レクチン(cSBL) と他剤との併用効果
○佐藤 稔之[1,2]、立田 岳生[2]、菅原 栄紀[2]、原 明義[1]、細野 雅祐[2]（1.東北医薬大・薬物治療、2.東北医薬大・分生研・分子認識）

[2P-0915] 脱ポリ(ADP-リボシル)化反応の制御機構とがん細胞の増殖能に及ぼす影響
○矢作 有希[1]、大山 貴央[2]、真辺 友香[1]、阿部 英明[2]、佐藤 聡[1]、内海 文彰[1]、田沼 靖一[1]（1.東京理大・薬、2.ヒノキ新薬(株)）

[2P-0916] ホスホリパーゼ Cε選択的阻害剤は、抗がん効果と抗炎症効果を示す
○藤島 尚人[1]、吉川 陽子[1]、衣斐 亜希[1]、馬 寧[1]、伊佐 真幸[1]、枝松 裕紀[1]、片岡 徹[1]（1.神戸大・院医・分子生物）

[2P-0917] BRCA1の新規結合分子 Ola1のノックアウトマウスの表現型の解析
吉田 貴大[1]、吉野 優樹[1]、小河 穂波[2]、佐々木 伯大[1]、渡邊 利雄[2]、○千葉 奈津子[1]（1.東北大・加齢研・腫瘍生物学、2.奈良女子大学大学院・人間文化研究科）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 2) 免疫、免疫疾患（ポスター）

[2P-8-2] 8. 疾患生物学-2) 免疫、免疫疾患

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[2P-0918（FAOBMB TF-2）] DDX3X modulates antiviral cytokine expression via the exportin-1 pathway
○Steven Heaton[1]、Sarah C Atkinson[1]、Melissa N Sweeney[1]、Natalie A Borg[1]（1.Dept. of Biochem. &Mol. Biol., Monash Univ.）

[2P-0919] Allergen-sensitization profiles of selected Filipinos with HIV using RIDA qLine Allergy system
○Dianne Philline Chan[1]、John Donnie A. Ramos[1,2,3]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.Grad. Sch., Univ. of Sto. Tomas、2.Res. Ctr. for the Nat. and Appl. Sci., Univ. of Sto. Tomas、3.Col. of Sci., Univ. of Sto. Tomas）

[2P-0921] JunB regulates IL-23 dependent pathogenicity of Th17 cells

○Shukla Sarkar[1]、Shinichi Koizumi[1]、Daiki Sasaki[1]、Hiroki Ishikawa[1]（1.Okinawa Institute of Science and Technology）

[2P-0922] *Glossogyne tenuifolia (Hsiang-ju)*extract regulates activation-induced cell death of T cell via inhibition of c-Jun N-terminal kinase

○Li-Wen Fang[1]、Jer-Yiing Houng[1]、Tzong-Shyuan Tai[2,3]（1.Department of Nutrition, I-Shou University, Kaohsiung City 82445, Taiwan、2.School of Medicine for International Students, I-Shou University, Kaohsiung City 82445, Taiwan、3.Department of Medical Research, E-Da Hospital, Kaohsiung City 82445, Taiwan）

[2P-0923] CDCP1細胞外 CUB2ドメインの癌転移に対する新規治療標的としての可能性

○澤山 忠司[1]、上北 尚正[1]（1.防大・応化・ゲノム生物）

[2P-0924] ゲノム編集を利用した MHC class Iの発現抑制

○秋元 彩佳[1]、八代 拓也[1]、笠倉 和巳[1]、西山 千春[1]（1.東理大・基礎工・生物工）

[2P-0925] mRNA 3 'UTRを介した PD-L1発現調節機構の解明

○岩佐 康之[1]、野口 あや[1]、横田 直人[1]、川原 裕之[1]（1.首都大学・院理工・生命科学）

[2P-0926] DNAマイクロアレイ解析による正常ヒト皮膚三次元モデルにおける細胞外 ATP誘導性免疫応答因子の探索

○小針 由佳[1]、齋藤 るみ子[2]、大原 宏司[1]（1.奥羽大・薬、2.東北大・東北メディカルメガバンク機構）

[2P-0927] ヒト免疫グロブリンによる B細胞の恒常的増殖抑制能の解析

○堀 采音[1]、藤村 孝志[1]、河本 正次[1]（1.広大院・先端・分子生命）

[2P-0928] がん免疫療法のターゲットとなる分子と予後との関連の解析

○高島 康郎[1]、川口 淳[2]、金山 知彦[1]、早野 あづさ[1]、山中 龍也[1]（1.京都府立医大・医学研究科・腫瘍分子標的治療学講座、2.佐賀大・医・地域医療科学教育研究センター）

[2P-0929] B細胞における complexin2依存性の抗体分泌制御機構の解明

○都留 英美[1]、溝渕 雅章[1,2]、茂川 拓紀[1,2]、澤田 健[3]、津田 雅之[1]（1.高知大・総研セ・動物資源開発分野、2.高知大・設備サポート戦略室、3.高知大・医・神経精神科）

[2P-0930] NK92MI細胞が産生する Granzyme 3の性状

○稲垣 弘文[1]、平田 幸代[1]（1.日本医大・衛生公衆衛生）

[2P-0931] 関節リウマチにおける血小板活性化受容体 CLEC-2の役割の解明

○佐々木 知幸[1]、白井 俊光[1]、築地 長治[1]、小山 賢介[2]、田村 彰吾[3]、大竹 志門[1]、長田 誠[4]、佐藤 金夫[5]、波呂 浩孝[2]、尾崎 由基男[6]、井上 克枝[1]（1.山梨大・医・臨床検査医学、2.山梨大・医・整形外科学、3.名古屋大・院医・病態解析学、4.群馬パース大・検査技術学科、5.山梨大病院・検査部、6.笛吹中央病院）

[2P-0932] マスト細胞の概日時計による血中ヒスタミン濃度の調節

○中村 勇規[1]、中尾 篤人[1]（1.山梨大学・医学・免疫学）

[2P-0933] 熱ショックタンパク質発現誘導による鼻炎症状の緩和についての検討

○山本 紗由美[1]、宇高 裕太[1]、橋川 成美[1]、橋川 直也[1]（1.岡山理大・院理・臨床生命）

[2P-0934] カスパーゼ-1活性化を介した Lamtor1のインフラマソーム及びパイロトーシスの制御

○木庭 太郎[1]、葉山 善友[1,2]、木村 哲也[3]、高松 漂太[1,2]、熊ノ郷 淳[1,2]（1.大阪大学呼吸器・免疫内科学、2.大阪大学免疫学フロンティア研究センター、3.大阪大学微生物病研究所）

[2P-0935] 脾臓は骨髄増殖性腫瘍の悪化を促進する潜在的な白血病ニッチである

○小田 朗永[1]、雨宮 祐輔[1,2]、細田 祥子[1,2]、西山 千春[2]、後飯塚 僚[1]（1.東理大・生命研・発生老化、2.東理大・院基礎工・生物工）

[2P-0936] 腸内細菌によるリノール酸代謝産物の免疫系への作用

○新井 達也[1]、蒲池 史卓[1]、有田 誠[3,4,5]、岸野 重信[6]、小川 順[6]、大谷 直子[1,2]（1.東理大・院理工・応用生物、2.大阪市大・院医・病態生理、3.慶応大・薬・薬、4.横浜市大・院生命医科、5.理研・統合生命医科学研究センター 、6.京大・院農・応用生物）

[2P-0937] ケモカイン CCL20の発現誘導機構と腸管組織における病態生理学的役割の解析

○佐知 望美[1]、飛彈野 真也[1]、神山 長慶[1]、野口 香緒里

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、尾崎 貴士[1]、園田 光[1]、玄同 淑子[1]、小林 隆志[1]
（1.分大・院医・医学）

[2P-0938] マウス自己免疫性胃炎の病態形成における顆粒球の役割
○渡邊 暁哉[1]、石附 充[1]、高橋 華菜[2]、岩下 智江里[2]、杉本 健吉[1]、藤間 真紀[2]（1.新潟大・院・自然科学、2.新潟大・理・生物）

[2P-0939] アレルギー性接触皮膚炎に対するクエルセチンの抑制効果
○大谷 真志[1]、篠崎 大輔[1]、豊島 理紗[1]、高橋 桃花[1]、渡辺 直子[1]（1.東邦大・理・生物分子）

[2P-0940] マクロファージの自然免疫応答におけるグルタミン酸の影響
○笠原 恵美子[1]、堀 美香[1]、村山 真人[1]、竹中 美月[1]、関山 敦生[1]（1.阪大・院薬・先制心身医薬学）

[2P-0941] スルファサラジンは、脂質酸化を亢進することによって好中球細胞外トラップを促進する
○千葉 達矢[1]、四元 聡志[1]、室井 惟知[1]、曲澤 恵[1]、大村 里緒[1]、米山 真紀[1]、青柳 良平[2]、有田 誠[2]、田中 正人[1]（1.東薬大・生命科学・免疫制御学、2.理研・統合生命・メタボローム）

[2P-0942] マウス胸腺皮質上皮細胞亜集団における Wnt/β-cateninシグナル経路の活性化
○藤森 さゆ美[1,3]、大東 いずみ[1]、竹本 龍也[2]、高浜 洋介[1]、高田 慎治[3,4]（1.徳島大・先端酵素学研究所・免疫系発生学、2.徳島大・先端酵素学研究所・発生生物学、3.自然科学研究機構・岡崎統合バイオサイエンスセンター・分子発生学、4.総研大）

[2P-0943] 核内受容体 AhRは RANK/c-Fosシグナル伝達経路を介して破骨細胞の分化を制御する
○井澤 俊[1]、新垣 理恵子[2]、田中 栄二[1]、石丸 直澄[2]（1.徳大・院歯・口腔顎顔面矯正学、2.徳大・院歯・口腔分子病態学）

[2P-0944] Fas^{lpr}自己免疫疾患モデルマウスにおける IκB$_{NS}$の欠損
○関 優花[1]、中嶋 菜都美[1]、西野 茜[1]、杉本 健吉[1]、藤間 真紀[1]（1.新潟大・院・自然科学）

[2P-0945] 自然免疫系を活性化する新規受容体 Gyc76Cのリガンドの探索
○上野 春奈[1]、渡辺 亮[1]、布施 直之[1]、倉田 祥一朗[1]（1.東北大・院薬）

[2P-0946] 免疫原性を有する低分子 RNAとその阻害剤の同定
○中島 由希[1]、根岸 英雄[2]、谷口 維紹[2]（1.東大・院医・免疫、2.東大・生産研・免疫）

[2P-0947] CRISPR/Cas9ゲノム編集技術を用いたがん抗原特異的 CD8+T細胞の作製
○大内 靖夫[1]、Ashwini Patil[2]、西増 弘志[3]、濡木 理[3]、中井 謙太[2]、植松 智[1]（1.千葉大・医学研究院・粘膜免疫学、2.東大医科研・ヒトゲノムセンター、3.東大・院理・生物科学）

[2P-0948] Interleukin-1αの線維芽細胞における細胞内局在制御機構
○早弓 恵里香[1]、田内 香帆[1]、林 亜里香[1]、山崎 岳[1]、石田 敦彦[1]、平野 哲男[1]（1.広大院・総科）

[2P-0949] LPS投与炎症モデルにおけるグリチルリチンの作用効果とオートファジー関連遺伝子
○黒田 範行[1]、佐藤 哲二[1]（1.鶴見大・歯・解剖組織）

[2P-0950] 自己免疫マウスにおける実験的自己免疫性脳脊髄炎耐性機構の解析
○桑原 卓[1]、安井 優太郎[1]、秋葉 靖[1]、石川 文雄[1]、内藤 拓[1]、田中 ゆり子[1]、近藤 元就[1]（1.東邦大学・医・免疫学）

[2P-0951] CRISPR/Cas9技術を用いたジカルボン酸トランスポーター欠損マウスの作製とその疫学的・生化学的解析
○山田 裕貴[1]、長谷 耕二[2]、渡会 浩志[1]（1.東大・医科研・幹細胞セロミクス分野、2.慶應・院薬・生化学）

[2P-0952] RNA結合タンパク質 Ptbp1は B細胞による抗体産生に必須である
○笹沼 寛樹[1]、小沢 学[1]、坂本 麗子[1]、吉田 進昭[1]（1.東大・医科研・発生工学）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 3) 感染症（ポスター）

[2P-8-3] 8. 疾患生物学-3) 感染症

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[2P-0953] Structural basis of inositol phosphate recognition in the HIV-1 gag matrix
○Halilibrahim Ciftci[1]、Hiroshi Tateishi[1]、Kotaro Koiwai[2]、Ryoko Koga[1]、Masami Otsuka[1]、Mikako Fujita[3]、Fumiaki Yumoto[2]、Toshiya Senda[2]（1.Department of Bioorganic Medicinal Chemistry, School of Pharmacy, Kumamoto University、2.Structural Biology Research Center, KEK/High Energy Accelerator Research Organization、3.Research Institute for Drug Discovery, School of Pharmacy, Kumamoto University）

[2P-0954] Development of a PCR Assay for Diagnosing Trematode (*Opisthorchis* and *Haplorchis*) Infections in Human Stools

○Pheophet Lamaningao[1,2]、Seiji Kanda[1,2]、Sakhone Laimanivong[3]、Takaki Shimono[1,2]、Andrew Waleluma Darcy[1]、Amphay Phyaluanglath[4]、Nobuyuki Mishima[1]、Toshimasa Nishiyama[1]
（1.Department of Public Health, Kansai Medical University, Japan、2.Regenerative Research Center for Intractable Diseases, Kansai Medical University, Japan、3.Center of Malariology, Parasitology, and Entomology, Ministry of Health, Laos、4.Clinical Laboratory, Mahosot Hospital, Ministry of Health, Laos ）

[2P-0955] 原虫小胞体の積荷選別輸送における膜タンパク質アダプター因子の解析

○二瓶 浩一[1]、中西 雅之[2]、澤 竜一[1]、柴崎 正勝[1]
（1.微化研、2.松山大・薬）

[2P-0956] デングウイルス2型レプリコン安定発現細胞株の樹立

○登 治謙[1,2]、鳥羽 晋輔[1,2]、吉田 立[1]、大場 靖子[2]、澤 洋文[2]、佐藤 彰彦[1,2] （1.塩野義製薬 創薬疾患研究所、2.北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター）

[2P-0957] H5N1高病原性鳥インフルエンザウイルスのシアル酸非依存的な細胞侵入経路の解析

○梶原 直樹[1]、野村 奈美子[1]、宇梶 麻紗子[1]、貞任 大地[1]、山本 直樹[2]、小原 道法[2]、安井 文彦[2]、迫田 義博[3]、喜田 宏[4]、芝崎 太[1] （1.都医学研・ゲノム・分子医療、2.都医学研・ゲノム・感染制御、3.北大・獣医・微生物学、4.北大・人獣共通感染症・リサーチセンター）

[2P-0958] PLSCR1は EBウイルス感染上咽頭がん細胞株において EBウイルス転写因子 BZLF1と相互作用しその転写活性化を抑制する

○草野 秀一[1]、池田 正徳[1] （1.鹿大・難治ウイルス研・分子ウイルス）

[2P-0959] A群レンサ球菌が保有する NAD-glycohydrolaseは HeLa細胞への侵入を負に制御する

○藤 博貴[1]、相川 知宏[1]、中島 慎太郎[1]、野澤 孝志[1]、野澤 敦子[1]、中川 一路[1] （1.京大院・医・微生物）

[2P-0960] ヘリコバクター・ピロリ sabA遺伝子の多様性とSabAタンパク質発現と胃十二指腸疾患との関連

邵 力[1]、○張 旭紅[2]、大谷 勝実[1]、武田 弘明[3]、福井 忠久[4]、上野 義之[3]、本郷 誠治[5] （1.山形大・院医・公衆衛生学、2.山形大・院医・生化学・分子生物学、3.山形大・医・消化器内科、4.山形大・医・臨床腫瘍学、5.山形大・医・感染症学）

[2P-0961] マラリア感染時の免疫応答における NADの役割

○夜久 圭介[1]、中川 崇[1] （1.富山大・医・病態代謝解析学）

[2P-0962] インフルエンザ Aウイルス感染においてクラリスロマイシン投与により MMP-9と MCP-1の発現誘導が抑制され、肺と心臓の炎症が軽減される

○高橋 悦久[1]、澤淵 貴子[1]、木本 貴士[1]、堺 聡子[1]、木戸 博[1] （1.徳大・酵素研・病態代謝）

[2P-0963] マラリア原虫感染ー治療処理を行ったマウスにおける樹状細胞の解析

○田村 隆彦[1]、足立 龍亮[1]、吉田 栄人[1] （1.金沢大・薬学系・ワクチン免疫科学）

[2P-0964] 慢性膿皮症患者の抗菌薬治療に伴う皮膚常在菌叢の変化

○松本 怜奈[1,2]、吉川 実亜[1,3]、出来尾 格[4]、冨田 勝[1,5]、福田 真嗣[1,3,6,7,8] （1.慶大・先端生命研、2.慶大・総合政策、3.慶大院・政策メディア・先端生命、4.東女医大・東医療セ、5.慶大・環境情報、6.JST・さきがけ、7.神奈川産技総研、8.メタジェン）

[2P-0965] マラリア原虫における核増殖メカニズムの解明：発育ステージ間によるヒストンメチル化の役割

○荒木 球沙[1,2]、川合 覚[3]、野崎 智義[1,4]、案浦 健[1] （1.国立感染研・寄生動物部、2.筑波大・院・生命環境、3.獨協医大・熱帯病寄生虫病、4.東大・院医・生物医化学）

[2P-0966] 細胞内の金属イオンを標的とする抗マラリア活性化合物の創出

○和田 章[1]、川谷 誠[2]、二村 友史[2]、室井 誠[2]、青野 晴美[2]、渡邉 信元[3]、長田 裕之[2] （1.理研・ライフサイエンス技術基盤研究センター・非天然型アミノ酸技術研究チーム、2.理研・環境資源科学研究センター・ケミカルバイオロジー研究グループ、3.理研・環境資源科学研究センター・生理活性物質探索研究ユニット）

[2P-0967] 蛋白質凝集体「プリオン」による抗インフルエンザウイルス活性機構

○原 英之[1]、千田 淳司[1]、坂口 末廣[1] （1.徳島大・先端酵素研）

[2P-0968] 放射線ばく露マウスにおける腸管障害と腸内細菌の変化

○山内 可南子[1]、坂本 倭[1]、辻口 貴清[1] （1.弘大・院保）

[2P-0969] 交感神経遮断薬であるグアンファシン抗HCV活性機構について

○武田 緑[1]、前園 夏絵[1]、上高原 美奈[1]、脇田 隆字

[2]、加藤 宣之[3]、池田 正徳[1]（1.鹿児島大・難治ウイルス研・分子ウイルス、2.感染研・ウイルス第二部、3.岡山大・医歯薬・腫瘍ウイルス学）

[2P-0970] 第四次革新的手法を用いたウイルスおよび宿主動物の共進化メカニズムの解明

○松尾 直也[1]、中野 祥吾[2]、伊藤 創平[2]、關 文緒[3]、竹田 誠[3]、常盤 広明[1,4]（1.立教大・理、2.静岡県大・食品栄養、3.国立感染研・ウイルス第三部、4.立教大・未来分子研究セ）

[2P-0971] マラリア原虫スポロゾイトの感染性の違いは、肝臓感染のどのステップで生じるのか

○石野 智子[1]、鳥居 本美[1]（1.愛媛大・PROS・寄生病原体学）

[2P-0972] iPS細胞より分化誘導した肝細胞を用いた in vitro HBV 感染系

○黒木 和之[1]、志村 瞳[1]（1.金沢大・がん研）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 4) 代謝疾患、生活習慣病、メタボロミクス、老化（ポスター）

[2P-8-4] 8. 疾患生物学-4) 代謝疾患、生活習慣病、メタボロミクス、老化

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[2P-0973（FAOBMB TF-1）] 分裂肝細胞への栄養供給: 肝再生期の代謝の解析

○Matias Caldez[1,2]、Noemi Van Hul[1,13]、Hiromi Koh[3]、Xing Teo[4]、Jun Fan[5,6,7]、Peck Tan[8]、Matthew Dewhurst[9]、Peh Too[8]、Zakiah A Talib[1]、Beatrice Chiang[1]、Uwe Sauer[10]、Walter Stunkel[8]、Hanry Yu[5,11,12,13]、Philip Lee[4]、Hyun Choi[1,3]、Mikael Bjorklund[14]、Philipp Kaldis[1]（1.IMCB, ASTAR、2.Dept. of Biochem., NUS、3.School of Public Health, NUS、4.SBIC, ASTAR、5.IBN, ASTAR、6.SMART, Singapore-MIT Alliance for Research and Technology、7.Dept. of Orthopaedic Surgery, Fourth Military Medical Univ.、8.SICS, ASTAR、9.Faculty of Biol., Univ. of Manchester、10.Institute of Molecular and System Biol., ETH Zurich、11.Dept. of Physiology, NUS、12.Mechanobiology Institute, NUS、13.Gastroenterology Dept., Southern Medical Univ.、14.Division of Cell and Dev. Biol., Univ. of Dundee）

[2P-0974] 肥満・２型糖尿病モデルマウスの膵β細胞における桑葉経口投与の効果

○Patlada Suthamwong[1,2]、塩飽 乃野海[1,2]、岡田 峻明[1]、上杉 真以[1,2]、安井 美加[2]、南 学[2]、横出 正之[2]、亀井 加惠子[1]（1.Dept of Biomolecular Eng., Kyoto Inst. Technol.、2.Dept. Clin. Innov. Med., Kyoto Univ. Grad. School of Med.）

[2P-0975] 加齢に伴うラット肝臓における熱ショックファクター活性化と熱ショックタンパク質発現

○高橋 良哉[1]、大寺 恵子[1]（1.東邦大・薬・生化学）

[2P-0976] ハダカデバネズミ細胞を用いた老化におけるFOXOの機能解析

○Junhyeong Kim[1,2]、名田 成之[2]、森 俊介[3]、岡野 栄之[5]、三浦 恭子[4]、岡田 雅人[2]（1.阪大・院理・生物科学、2.阪大・微研・発癌制御、3.理研・CDB・立体組織形成、4.北大・遺制研・動物機能医、5.慶應大・院理・生理）

[2P-0977] キイロショウジョウバエの*seven-up/samuel*変異体解析による NASH/NAFLD発症分子機構の解明

○岩澤 藍里[1]、西村 茉優[1]、小瀬 博之[1]（1.ICU・教養・自然科学）

[2P-0978] ラット肝臓における Akt1レベルの加齢と高齢期食餌制限の影響

○大寺 恵子[1]、尚 奕[2]、Ramesh Sharma[3]、柿沼 志津子[2]、島田 義也[2]、高橋 良哉[1]（1.東邦大・薬・生化学、2.量研機構・放医研、3.Dept. of Biochem., North-Eastern Hill Univ.）

[2P-0979] 血管内皮細胞における解糖系を通した血管新生の制御

○越智 俊樹[1,2]、Christina O'Neill[1]、Lydia Eeles[1]、Pietro Bertelli[1]、Reinhold Medina[1]（1.クイーンズ大学、2.岡大・医学・細胞生物）

[2P-0980] 米ぬか摂取による大腸炎抑制機構の解明

○田中 一己[1,2]、Aw Wanping[1,3]、鈴木 健大[4]、冨田 勝[1,2,3]、福田 真嗣[1,3,5,6,7]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.慶大院・政策メディア・先端生命、4.国立環境研、5.JST・さきがけ、6.神奈川県

©日本分子生物学会/日本生化学会

立産技総研、7.メタジェン）

[2P-0981] メタボローム解析による血液検体保管条件の検討

○井上 仁[1]、三枝 大輔[1]、工藤 久智[1]、峯岸 直子[1,2]、小柴 生造[1]、山本 雅之[1,2]（1.東北大学 東北メディカル・メガバンク機構、2.東北大学大学院 医学系研究科）

[2P-0982] Dock7変異遺伝子(misty)を有しないレプチン受容体欠損マウスラインを用いた時期特異的レプチンシグナル動態の解析

○牛飼 美晴[1]、Pulong Pralampita[1]、阿部 正治[1]、川口 博明[1]、堀内 正久[1]（1.鹿大・医歯研・衛生学・健康増進医学分野）

[2P-0983] ポリアミンによるヌクレオチド代謝への影響

○吉澤 祐希[1]、吉野 哲彦[1]、戸井田 敏彦[1]、五十嵐 一衛[1,2]、西村 和洋[1]（1.千葉大院・薬、2.アミンファーマ研）

[2P-0984] 線虫 *C. elegans*における生存日数に伴う活動量の測定

○宮田 真衣[1]、廣田 恵子[2]、鈴木 芳代[3]、深水 昭吉[4]（1.筑波大・生命環境・生物資源、2.筑波大・生命環境、3.量研高崎研・放射線生物応用研究、4.筑波大・生命領域学際研究センター）

[2P-0985] マウス前駆脂肪細胞の分化過程でのβ4-ガラクトース転移酵素5のプロモーター活性と転写因子Sp1の発現との相関

○石井 孝幸[1]、丸山 拓朗[1]、佐藤 武史[1]（1.長岡技科大院・糖鎖生命工学）

[2P-0986] 脂肪代謝での NPY欠損による性的二形：エストロゲンの影響

○朴 盛浚[1]、小松 利光[1]、林 洋子[1]、森 亮一[1]、下川 功[1]（1.長崎大・医・病理学）

[2P-0987] 3T3-L1細胞の TNF-α応答における NLRP3の役割

○古岡 真菜[1]、尾崎 恵一[2]、谷村 進[1]、武田 弘資[1]（1.長崎大・院医歯薬・細胞制御、2.大阪薬科大・基礎薬学教育研究センター）

[2P-0988] RNA 結合タンパク質を介した新たな膵β細胞増殖機構の解明

○Sylvia Lai [1]、樋口 琢磨[1]、津田 雅之[2]、森澤 啓子[1]、杉山 康憲[3]、坂本 修士[1]（1.高知大・総合研究セ・分子生物学、2.高知大・総合研究セ・動物施設、3.香川大・農・応用生物学）

[2P-0989] ヒトの老化を誘発する遺伝子の破壊によるミトコンドリア老化モデルマウスの作製および解析

○谷 春菜[1]、大西 彩紀子[1]、設楽 浩志[2]、三藤 崇行[3]、橋爪 脩[1]、石川 香[1,3]、中田 和人[1,3,4]、林 純一[3]（1.筑波大・院生命環境、2.都医学研、3.筑波大・生命環境、4.筑波大・TARA）

[2P-0990] シスタンシェおよびニトラリア植物抽出物の糖化抑制効果の解析

○直原 沙来[1]、井上 沙樹子[1]、大和屋 健二[1]、吉見 陽児[2]、加藤 智彦[3]、池北 雅彦[2]、中田 一弥[1]（1.東理大・理工・応用生物、2.山口東理大、3.エイチ・ホルスタイン株式会社）

[2P-0991] 分化状態に依存した軟骨細胞の石灰化メカニズム

○伊藤 俊治[1]、鍵弥 朋子[2]、畑村 育次[1]（1.関西医療大・院・保健医療、2.関西医療大・保健医療・臨床検査学）

[2P-0992] 抗炎症薬サリチル酸と抗糖化薬ピリドキサミンによるマウス糖尿病腎症予防効果の検討

○原島 愛[1]、棟居 聖一[1]、Tarek Abouzed[1]、河野 修平[1]、田中 麻莉子[1]、増尾 友佑[2]、加藤 将夫[2]、山本 博[1]、山本 靖彦[1]（1.金大・院医・血管分子生物学、2.金大・院薬・分子薬物治療学）

[2P-0993] ニトラリアエキス中の新規有用物質の探索

○井上 沙樹子[1]、直原 沙来[1]、大和屋 健二[1]、加藤 智彦[3]、中田 一弥[1]（1.東理大・理工、2.山口東理大、3.エイチ・ホルスタイン株式会社）

[2P-0994] アロニア果汁摂取による Arrdc3発現調節を介した脂肪蓄積減少効果

○山根 拓也[1,2,3]、小塚 美由記[4]、今井 ももこ[1,5,6]、山本 好男[7]、竹中 重雄[5]、坂本 龍司[1,2]、乾 博[1,5]、大久保 岩男[8]、中垣 剛典[3]、中野 長久[1,2]（1.大阪府大・生資セ、2.大阪府大・生命環境、3.中垣技術士事務所・食科研、4.北海道文教大・健康栄養、5.大阪府大・地域保健、6.相愛大・発達栄養、7.三重大・地域拠点、8.市立三笠総合病院）

[2P-0995] 高脂肪食負荷 GCN2欠損マウスの膵島における mTORC1シグナル調節機構の解明

○古林 鮎子[1]、神野 歩[2]、増田 勝久[1]、吉冨 理紗[1]、木村 真希[2]、松田 友和[2]、淺原 俊一郎[2]、木戸 良明[1,2]（1.神戸大学院・保健・病態解析・病態代謝、2.神戸大学院・医・糖内）

[2P-0996] 急性期脳梗塞の患者血清における FOXJ2自己抗体レベルの上昇

○日和佐 隆樹[1]、後藤 憲一郎[1]、張 暁萌[1]、新免 奈津子[1]、杉山 隆夫[2]、峯 清一郎[3,6]、西 英一郎[4]、大野 美紀子[4]、竹本 稔[5]、北村 健一郎[6]（1.千葉大・院・医・遺伝子生化、2.(独)国立病院機構・下志津病院・リウマチ膠原病センター、3.千葉県循環器病センター・脳

©日本分子生物学会/日本生化学会

外、4.滋賀医大・薬理、5.国際医療福祉・医・糖尿病・代謝・内分泌内科、6.山梨大・医・内科学第3）

[2P-0997] ケトン食摂取と運動負荷が生体代謝に与える相乗効果の検討
○斎藤 葉月[1]、清水 梢[1]、角 佳奈子[1]、畑中 由衣子[1]、飯田 薫子[1,2]（1.お茶大・院・人間文化創成科学、2.お茶大・ヒューマンライフイノベーション研究所）

[2P-0998] 脂肪酸誘導性肝炎モデル HepG2細胞における大豆イソフラボンの効果の検討
○須釜 彩子[1]、金津 純子[1]、飯田 薫子[1,2]（1.お茶大・院・人間文化創成科学、2.お茶大・ヒューマンライフイノベーション研究所）

[2P-0999] 3T3-L1脂肪細胞のインスリン依存的な糖取り込みに果たす Akt基質、 AS47と AS105の機能
○中田 理沙[1]、曽根（米澤）芽里[1]、緒形 友美[1]、笠原 浩平[1]、高橋 伸一郎[1]、伯野 史彦[1]（1.東大院・農・応用動物）

[2P-1000] ガレクチン-1と糖尿病腎症との関連性
○吉田 雄斗[1]、甲田 晃楊[1]、三五 一憲[2]、山本 利春[3]、菊地 壮也[1]、門屋 利彦[1]（1.前橋工科大・工・生物工、2.東京都医学総合研究所、3.神奈川歯科大・歯・口腔科学）

[2P-1001] 柑橘系抗酸化物質による動脈硬化抑制分子機序の検討
○齋藤 容一朗[1]、加藤 和則[1]（1.東洋大学大学院・理工・生体医工）

[2P-1002] レスベラトロールの心血管系機能に対する効果と PPARα活性化の関与
○中田 理恵子[1]、山上 小百合[1]、有沢 玲[1]、堀 徳江[1]、本郷 翔子[1]、井上 裕康[1]（1.奈良女子大・食物栄養）

[2P-1003] 膵β細胞モデル MIN6における過剰 Selenoprotein Pによるセレン運搬作用を介した ERストレス誘導メカニズムの解析
○長村 尭浩[1]、稲荷 尚吾[1]、三田 雄一郎[1]、野口 範子[1]、斎藤 芳郎[1]（1.同志社大学・院・生命医・システム生命科学）

[2P-1004] 雌雄マウスでのアスコルビン酸欠乏が骨格筋に及ぼす影響
○滝沢 晶子[1,2]、近藤 嘉高[1]、滝野 有花[1]、船越 智子[1]、野田 義博[3]、町田 修一[4]、相垣 敏郎[2]、石神 昭人[1]（1.都健康長寿研・分子老化制御、2.首都院理工・細胞遺伝、3.都健康長寿研・実験動物施設、4.順天堂大・スポーツ健康科学）

[2P-1005] 高血圧自然発症ラット(SHRs)肝臓における Nrf2-Keap1機構に関する検討
○沖胡 由希子[1]、山田 芽吹[2]、佐藤 僚太[2]、藤本 和[2]、藤井 春佳[2]、山本 和彦[1,2]（1.近大・システム工、2.近大・工・化学生命工）

[2P-1006] ファイトケミカルによる肝細胞内の脂肪蓄積抑制効果の研究
○中野 将[1]、加藤 和則[1]（1.東洋大学大学院・理工・生体医工）

[2P-1007] グルココルチコイドにより視床下部 AgRPが発現増強する臓器連関メカニズムの解明
○志内 哲也[1]、大塚 愛理[1]、清水 紀之[1]、近久 幸子[1]、勢井 宏義[1]（1.徳島大・院医・統合生理）

[2P-1008] 膵臓β細胞のインスリン発現に対する希少糖の影響
○井開 柊太[1]、藤井 修作[1]、吉原 明秀[2]、村尾 孝児[3]、杉山 康憲[1]（1.香川大・農・応用生物科学科、2.希少糖研究センター、3.香川大・医・内分泌代謝内科）

[2P-1009] 加齢に伴う皮膚のステロイド濃度と局在の変化
○原口 省吾[1]、杉浦 悠毅[2]、宮崎 章[1]（1.昭和大・医・生化学、2.慶應大・医・医化学）

[2P-1010] 新規蛍光プローブ SPiDER-βGalによる細胞老化マーカー SA-β-galの迅速検出
○小松 恭佳[1]、野口 克也[1]、大内 雄也[1]、石山 宗孝[1]（1.株式会社同仁化学研究所）

[2P-1011] 糖尿病性腎症におけるレチノイン酸受容体アゴニスト Palovaroteneの作用機序の解析
○藤田 結衣[1]、冨永 辰也[1]、田蒔 昌憲[1]、村上 太一[1]、岸 誠司[1]、長井 幸二郎[1]、安部 秀斉[1]、肥塚 靖彦[2]、一圓 剛[2]、土井 俊夫[1]（1.徳大・院医、2.（株）ヒュービットジェノミクス）

[2P-1012] プロリン異性化酵素 Pin1は、糖尿病性腎症発症に関与する
○井上 賢紀[1]、中津 祐介[1]、松永 泰花[1]、山本屋 武[1]、上田 浩二[1]、井上 由貴[1]、浅野 知一郎[1]（1.広島大院・医歯薬・医化学）

[2P-1013] 培地中アミノ酸量は細胞老化の誘導に影響を与える
○高氏 裕貴[1,2]、山田 なつき[1]、三木 健輔[1,2]、鮎澤 大[1,2]、藤井 道彦[1]（1.横浜市大院・生命ナノシステム、2.イチバンライフ（株））

[2P-1014] 消化管粘膜バリア機構における LRRK2の機能解析
○川上 文貴[1]、井阪 勇輝[1]、水邊 慧子[1]、石川 勇太[1]、山下 真裕佳[1]、川島 麗[1]、前川 達則[1]、市川 尊文[1]（1.北里大院・医療系・生体制御生化学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-1015] PGAMを介した解糖系新規制御機構の解析
○三河 拓己[1]、伊藤 健[1]、稲垣 暢也[1]、横出 正之[3]、近藤 祥司[2]（1.京都大学医学部附属病院　糖尿病内分泌栄養内科、2.京都大学医学部附属病院　地域ネットワーク医療部、3.京都大学医学部附属病院　探索医療センター）

[2P-1016] 最終糖化産物(AGEs)はヒト血小板において、Srcファミリーキナーゼの活性化を介して脳由来神経栄養因子(BDNF)の放出を促進させる。
○古川 和郎[1,2]、布施 一郎[3]、岩倉 百合子[1]、外山 英和[1]、羽入 修[2]、那波 宏之[1]、曽根 博仁[2]、武井 延之[1]（1.新潟大学 脳研究所 分子神経生物学分野、2.新潟大学大学院医歯学総合研究科 血液・内分泌・代謝内科学分野、3.新潟県赤十字血液センター）

[2P-1017] 早老症への BAFの関与
○木下 侑里香[1]、辻川 翔一[1]、近松 歩美[1]、森田 貴大[1]、早野 俊哉[1]（1.立命大・院生命・生命）

[2P-1018] ヒト培養表皮を用いたアスコルビン酸の 紫外線による細胞傷害抑制効果および関連遺伝子発現への影響
○河島 早紀[1,2]、滝野 有花[1]、近藤 嘉高[1]、永田 喜三郎[3]、斉藤 紀克[4]、大澤 肇[4]、栗田 克己[4]、佐藤 安訓[5]、吉田 雅幸[2]、石神 昭人[1]（1.都長寿研・分子老化制御、2.東京医科歯科大・院・先進倫理医科学、3.東邦大・理・生物分子科学、4.株式会社リソウ、5.北陸大・薬・生体環境薬学）

[2P-1019] NASH モデルマウスの肝細胞において Nuclear Factor 90 の発現は増加する
○樋口 琢磨[1]、宗景 玄祐[2]、矢生 健一[1]、森澤 啓子[1]、Sylvia Lai[1]、松川 和嗣[3]、津田 雅之[4]、小野 正文[2]、坂本 修士[1]（1.高知大・総合研究セ・分子生物学、2.高知大・医・消化器内科学、3.高知大・総合科学系生命環境医学部門、4.高知大・総合研究セ・動物実験施設）

[2P-1020] 皮膚の自然加齢に伴う炎症反応の分子機序の解析
○川口 耕一郎[1]、杉山 大二朗[2]、丸山 光生[1]（1.国立長寿研・老化機構、2.第一三共ヘルスケア）

[2P-1021] 熱ショックタンパク質発現誘導による大動脈粥状硬化症の進行との関係
○森田 裕奈[1]、橋川 成美[1]、橋川 直也[1]（1.岡山理大・院理・臨床生命）

[2P-1022] 膵 b細胞間相互作用によるインクレチン応答性獲得に関与するアミノ酸トランスポーターの同定
○マヒラ アシム[1]、横井 伯英[1]、グプルジャン ゲニ[1]、高橋 晴美[1]、清野 進[1]（1.神戸大学大学院医学研究科 分子代謝医学）

[2P-1023] 酸化ストレスによる血管形成誘導メカニズムの解析
○藤井 裕紀[1]、渡邊 健太[2]、平田 美智子[1]、宮浦 千里[1,2]、稲田 全規[1,2]（1.農工大・院・生命工、2.農工大・グローバルイノベーション研究院）

[2P-1024] 慢性腎不全モデルラットの肝臓に及ぼす影響
○石田 杏奈[1]、片倉 賢紀[1]、杉林 堅次[1]（1.城西大学薬学部栄養生理学）

[2P-1025] タンパク質摂取量の違いが中高齢マウスの血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響
○近藤 嘉高[1]、青木 仁史[2]、笹原 由雅[2]、滝野 有花[1]、杉原 伸郎[2]、石神 昭人[1]（1.都健康長寿研・分子老化制御、2.（株）ニチレイフーズ・研究開発部）

[2P-1026] αA-クリスタリン66-80ペプチド中での Asp^{76}の異性化によるペプチドの機能変化
○眞上 晃輔[1]、高田 匠[2]、金 仁求[2]、木野内 忠稔[2]、藤井 紀子[2]（1.京大・院理・化学、2.京都大学原子炉実験所）

[2P-1027] 2型糖尿病ゼブラフィッシュの腸内細菌叢の比較マイクロバイオーム解析
○島田 康人[1,2]、岡崎 文美[2,3]、臧 黎清[4,5]、中山 寛子[4]、西村 訓弘[4]（1.三重大・院医・薬理、2.三重大・先端セ・バイオインフォ、3.三重大・院生資・生命、4.三重大・院地域イノベ、5.バンダービルト大・院・医）

[2P-1029] ヒスタミン H3アゴニストによる心腎病態への抗炎症プログラミング
○石田 純治[1]、野口 和之[1,2]、金 俊達[1]、水上 早瀬[3]、陸 偉哲[4]、権 哲源[3]、加香 孝一郎[3]、石丸 友博[3]、川崎 祥平[3]、山縣 邦弘[5]、深水 昭吉[1,4]（1.筑大・TARA、2.筑大・人間総合、3.筑大・生命環境、4.筑大・グローバル教院・HBP、5.筑大・医・腎内）

[2P-1030] ローヤルゼリーは運動機能の改善により健康寿命を延伸する
○奥村 暢章[1]、戸田 年彦[2]、小澤 裕介[2]、渡辺 憲史[2]、生田 智樹[1]、立藤 智基[1]、橋本 健[1]、清水 孝彦[2]（1.株式会社 山田養蜂場・みつばち健康科学研究所、2.千葉大・院医・先進加齢医学）

[2P-1031] 子宮内高血糖環境は AGEs/RAGEシグナルによる心筋細胞の慢性炎症を引き起こす。
○中村 彰男[1]、今井 美緒[2]、井上 梓[2]、大上 桜香[2]、佐藤 亜耶[2]、矢野 杏菜[2]、河原田 律子[2]（1.群馬大学大学院 医学系研究科 病態腫瘍薬理学、2.高崎健康福祉大学

©日本分子生物学会/日本生化学会

健康福祉学部 健康栄養学科）

[2P-1032] 脈絡膜血管新生におけるG蛋白活性調節因子の機能

○林 寿来[1]、Abdullah Mamun[1]、山村 彩[1]、佐喜眞 未帆[1]、武山 正行[2]、雑喉 正泰[2]、矢ヶ崎 莉菜[3]、中原 努[3]、瓶井 資弘[2]、佐藤 元彦[1]（1.愛知医大・医・生理、2.愛知医大・医・眼、3.北里・薬・分子薬理）

[2P-1033] 高脂肪食負荷マウスを用いたワカメの II型糖尿病に対する予防効果の検討

○今井 基貴[1]、川上 文貴[1]、加原 卓[2]、吉永 恵子[2]、丸山 弘子[1]（1.北里大・院・医療系、2.理研ビタミン株式会社）

[2P-1034] 膵β細胞における低酸素誘導因子 BHLHE40の機能解析

○佐藤 叔史[1]、津山 友徳[1]、吉澤 達也[1]、井上 正宏[2]、山縣 和也[1]（1.熊大・生命科学・病態生化学、2.大阪国際がんセンター・生化学）

[2P-1035] 青色光照射後の酸化ストレスによるマウス網膜組織への影響

○横田 隆[1]、Wolf Alexander[1]、上村 尚美[1]、小原澤 英彰[2]、五十嵐 勉[2]、高橋 高橋浩[2]、太田 成男[3]（1.日本医大院・細胞生物、2.日本医大院・眼科学、3.順天堂大院・医・神経学）

[2P-1036] 脂肪細胞のナルディライジンはインスリン感受性および脂肪組織の慢性炎症を制御する

○松田 真太郎[1]、西 清人[1]、森田 雄介[1]、大野 美紀子[2]、木村 剛[1]、西 英一郎[2]（1.京大・院医・循内、2.滋賀医大・薬理）

[2P-1037] トリグリセリド減少効果を有するサプリメントの複数同時添加による効果の検討

○泉 宜秀[1]、李 賢哲[1]、横溝 岳彦[1]（1.順大・医・生化学第一講座）

[2P-1038] アンドロゲン受容体ノックアウトマウスの肥満発症と腸内細菌の特徴

○花田 一貴[1]、原田 直樹[1]、乾 博[2]、山地 亮一[1]（1.大阪府大院・生命・応用生命、2.大阪府大・栄養）

[2P-1039] 新規肥満症鍵分子 neudesinの寒冷ストレス暴露による発現変化および機能解析

○迎 武紘[1]、太田 紘也[2]、山田 祐維[1]、中山 喜明[1]、増田 有紀[1]、木村 郁夫[3]、伊藤 信之[4]、小西 守周[1]（1.神薬大・微生物化学、2.名古屋大・環境医学、3.東京農工大・農学研究科、4.京大・院医・医）

[2P-1040] 脂肪組織における LRRK2の機能解析

○井阪 勇輝[1]、川上 文貴[1]、石川 勇太[3]、丸山 弘子[2]、川島 麗[1]、前川 達則[1]、市川 尊文[1]（1.北里大院・医療系研究科・生体制御生化学、2.北里大・医療衛・再生医療、3.北里大・医療衛・生体制御生化学）

[2P-1041] アミノ酸のアマドリ化合物がニワトリ胚由来筋芽細胞のグルコース吸収に及ぼす影響

○川嶋 夏輝[1]、喜多 一美[1]（1.岩手大・農）

[2P-1042] 破骨細胞分化抑制因子としての SHIL004の機能解析

○豊村 隆男[1]、渡邊 政博[1]、和氣 秀徳[2]、勅使川原 匡[2]、劉 克約[2]、高橋 英夫[3]、西堀 正洋[2]、森 秀治[1]（1.就実大・薬、2.岡山大・院・医歯薬総研、3.近畿大・医）

[2P-1043] 魚が宇宙で過ごすとどうなるの？　～宇宙滞在実験の結果より～

○佐藤 文規[1]、Minyong Choi[1]、王 梓[1]、岩瀬 海里[1]、今村 聖実[2]、堀内 映美[2]、内田 智子[3]、谷垣 文章[4]、村谷 匡史[5]、小林 純也[6]、高橋 昭久[7]、菅野 純夫[8]、鈴木 穣[2]、川上 浩一[9]、瀬原 淳子[1]（1.京大・ウイルス・再生研、2.東大・創域、3.日本宇宙フォーラム、4.宇宙航空研究開発機構、5.筑波大・医学医療系、6.京大・放生研、7.群大・重粒子線医学研究センター、8.東大・医科研、9.遺伝研）

[2P-1044] 脂肪酸結合タンパク質の発現抑制が非アルコール性肝疾患の改善に及ぼす効果

○向井 貴子[1]、江川 美貴[2]、山下 均[2]、楠堂 達也[1]（1.帝塚山学院・人間科学・食栄、2.中部大・生命健康・生命医科）

[2P-1045] 肥満者における口腔内上皮細胞での時計遺伝子発現の季節差

○佐藤 麻紀[1,2]、林 寿来[1]、池本 辰則[3]、牛田 享宏[3]、カニコフスカ ドミニカ[4]、佐藤 元彦[1]（1.愛知医科大学医学部生理学講座、2.愛知医科大学医学部IR室、3.愛知医科大学運動療育センター、4.ポツナン医科大学医学部病態生理学講座）

[2P-1046] 受容体型プロテインチロシンホスファターゼ PTPRJによるレプチンシグナルの制御機構とレプチン抵抗性への関与

○新谷 隆史[1,2]、東 覚[2]、鈴木 亮子[1]、竹内 靖[1]、伊香賀 玲奈[3]、山崎 聖美[3]、小林 憲太[4]、野田 昌晴[1]（1.基生研・統合神経、2.総研大・生命科学、3.健康・栄養研究所・主要栄養素、4.生理研・ウイルスベクター開発室）

[2P-1047] Runx3による cyst形成抑制メカニズム

○鄭 由依[1]、高西 美沙紀[1]、夏目 知佳[1]、青山 朋子[1]、田中 公輔[1]、藤田 隆司[1]（1.立命館大学）

[2P-1048] ヒト血液中の AGEsの分析

○宮本 紅[1]、三原 瞳[1]、上田 悦子[2]、能見 祐理[3]、大倉

©日本分子生物学会/日本生化学会

毅[2]、山本 一博[2]、河原 和夫[4]、大塚 譲[1]（1.戸板女子短期大学、2.鳥取大学医学部、3.新潟薬科大学、4.東京医科歯科大学 医学部）

[2P-1049] TRPM7キナーゼ活性は肝臓の脂質代謝調節に関与する

○片桐 千秋[1,2]、貝塚 拓[3]、井上 華[4]、清水 千草[5]、小西 真人[4]、富澤 一仁[3]、高山 千利[5]、コザック アショット[6]、松下 正之[1]（1.琉大・院医・分子細胞生理学、2.琉大・院医・脳神経外科、3.熊大・院医・分子生理学、4.東京医科大・細胞生理学、5.琉大・院医・分子解剖学、6.ライト州立大・神経科学）

[2P-1050] 血中 AGE s に及ぼす食事の影響

○三原 瞳[1]、宮本 紅[1]、上田 悦子[2]、能見 祐理[3]、大倉 毅[2]、山本 一博[2]、河原 和夫[4]、大塚 譲[1]（1.戸板女子短期大学、2.鳥取大学医学部、3.新潟薬科大学、4.東京医科歯科大学 医学部）

ポスター・展示会場3

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 5) 脳、神経、精神疾患（ポスター）

[2P-8-5] 8. 疾患生物学-5) 脳、神経、精神疾患

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1051（2AT26-01）] 家族性片頭痛マウスモデルとしてのナトリウムポンプα２サブユニット遺伝子欠損マウス

○川上 潔[1]、畝川 美悠紀[2]、池田 啓子[3]、富田 裕[2]、鈴木 則宏[2]（1.自治医大・分子病態研・細胞生物、2.慶応大・医学部・神経内科、3.国際医療福祉大・医学部・生理学）

[2P-1052（2AT26-02）] 神経活動依存的に発現する転写因子 Npas4は脳梗塞後のニューロン生存に必須である

○高橋 弘雄[1]、朝比奈 諒[1]、吉原 誠一[1]、坪井 昭夫[1]（1.奈良医大・先端研・脳神経システム）

[2P-1053（2AT26-03）] 骨粗鬆症治療薬クロドロン酸は小胞型ヌクレオチドトランスポーターを標的として慢性疼痛を改善する

○加藤 百合[1,2]、日浅 未来[2]、市川 玲子[3]、蓮澤 奈央[4]、門脇 敦史[5]、岩槻 健[3,6]、島 和弘[7]、遠藤 康男[7]、北原 吉郎[3]、井上 剛[5]、野村 政壽[4]、表 弘志[2]、森山 芳則[1,2,8]、宮地 孝明[1]（1.岡山大・自然研セ、2.岡山大・院薬・生化学、3.味の素イノベーション研、4.九州大・院医・内分泌、5.岡山大・院薬・生物物理、6.東京農大・食品・生体環境、7.東北大・院歯・口腔分子、8.松本歯大・歯・生化学）

[2P-1054（2AT26-04）] 脂質酸化依存的細胞死フェロトーシスを抑制する新規化合物の神経保護効果

○星野 友則[1,2]、松澤 秀一[1,2]、高橋 良輔[2]（1.京都大学大学院 医学研究科 創薬インキュベーションラボ、2.京都大学大学院 医学研究科 臨床神経学）

[2P-1055（2AT26-05）] Kleefstra症候群における脳機能不全の後天的エピゲノム改変による病状改善への挑戦

○山田 亜夕美[1]、西村 佳也子[1]、平澤 孝枝[2]、眞貝 洋一[1]（1.理化学研究所・眞貝細胞記憶、2.帝京大・理工・バイオサイエンス）

[2P-1056（2AT26-06）] 筋萎縮性側索硬化症におけるシスタチン Cの神経保護効果

○渡邊 征爾[1]、小峯 起[1]、遠藤 史人[1]、山中 宏二[1]（1.名大・環医・病態神経）

[2P-1057（2AT26-07）] 全身性 SQSTM1高発現は SOD1^{H46R}発現 ALSマウスモデルの発症の早期化と発症後の生存延長をもたらす

○三井 駿[1]、大友 麻子[1]、野崎 昌久[1]、小野 鈴花[1]、佐藤 海[1]、白川 涼平[1]、足立 弘明[2]、青木 正志[3]、祖父江 元[4]、Hui-Fang Shang[5]、秦野 伸二[1]（1.東海大・医・分子生命、2.産業医科大・神内、3.東北大院・神内、4.名大院・神内、5.四川大・華西医院）

[2P-1058（2AT26-08）] 細胞内コレステロール輸送異常が惹起するミエリン形成不全の分子病態メカニズム

○榎戸 靖[1]、岸 宗一郎[1]、稲村 直子[1]、細川 昌則[1]、道川 誠[2]、檜垣 克美[3]、竹林 浩秀[4]（1.愛知県コロニー・発達障害研究所、2.名市大院・医学研究科、3.鳥取大・生命機

©日本分子生物学会/日本生化学会

能研究支援センター、4.新潟大院・医歯学総合研究科）

[2P-1059（2AT26-09）] ATP制御薬による細胞内ATP維持はMPTPパーキンソン病モデルにおいて発症を緩和する

○中野 将希[1]、今村 博臣[1]、笹岡 紀男[1]、山本 正道[2]、上村 紀仁[3]、首藤 敏之[1,4]、渕上 智弘[4]、高橋 良輔[3]、垣塚 彰[1]（1.京大・生命・高次生体統御学、2.京大・医・腎臓内科学、3.京大・医・臨床神経学、4.Daito Chemix）

[2P-1060（2AT26-10）] 神経新生促進によるダウン症モデルにおける脳発達障害の是正

○小林 亜希子[1]、粟屋 智就[1]、喜井 勲[1]、隅田 有人[2]、奥野 友紀子[3]、和根崎 圭子[1]、吉田 優[2]、隅田 ともえ[2]、井上 治久[4]、細谷 孝充[2]、萩原 正敏[1]（1.京大・院医・形態形成機構学、2.東医歯大・生材研・生命有機化学、3.京大・院医・医学研究支援センター、4.京大・iPS細胞研究所）

[2P-1061（2AT26-11）] 言語能力保持型Rett症候群のGenotype-phanotype relationshipと治療反応性の分子制御機構

○織本 健司[1]、松石 豊次郎[2]、弓削 康太郎[3]（1.ふれあい東戸塚ホスピタル 総合診療内科、2.聖マリア病院 小児総合研究センター・レット症候群研究センター、3.久留米大学病院 小児科）

[2P-1062（2AT26-12）] 糖クリックケミストリーを用いたセクレトーム解析による新規自閉症バイオマーカーの探索

○長友 亮太[1]、名尾 洋亮[1]、木村 美咲[1]、伊藤 弦太[1]、高鳥 翔[1]、富田 泰輔[1]（1.東大・院薬・機能病態学）

[2P-1063（2AT26-13）] *ABCA*ファミリー遺伝子を標的としたショウジョウバエの新規自閉症モデルの確立

○上岡 伊吹[1]、川島 和[2]、小西 篤[2]、青木 幹雄[2]、田中 領[1]、吉田 英樹[1]、前田 徹[3]、尾崎 まみこ[3]、山口 政光[1]（1.京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 応用生物学専攻、2.大日本住友製薬株式会社、3.神戸大・院・理学研究科）

[2P-1064（2AT26-15）] ストレスによるうつ形成のトランスレーショナル・バイオマーカーの検討

森本 健揮[1]、笠原 恵美子[1]、伊藤 史穂[1]、竹中 美月[1]、村山 真人[1]、堀 美香[1]、○関山 敦生[1]（1.大阪大・院薬・先制心身）

[2P-1065] Natural (Δ-THC) and synthetic (JWH-018) cannabinoids induce seizures by acting through cannabinoid CB1 receptor

○Olga Malyshevskaya[1]、Kosuke Aritake[1,2]、Mahesh K. Kaushik[1]、Nahoko Uchiyama[3]、Yoan Cherasse[1]、Ruri Kikura-Hanajiri[3]、Yoshihiro Urade[1]（1.International Institute for Integrative Sleep International Institute for Integrative Sleep Medicine (WPI-IIIS), University of Tsukuba、2.Daiichi University of Pharmacy、3.Division of Pharmacognosy, Phytochemistry, and Narcotics, National Institute of Health Sciences）

[2P-1066] 内在性分子 p3-Alcβは Aβ oligomerの神経毒性を抑制する

○齋藤 遥[1]、大森 智織[1]、木村 彩乃[1]、藁谷 正明[2]、前田 雅弘[3]、羽田 沙緒里[1]、鈴木 利治[1]（1.北大・神経科学、2.東松戸病院、3.免疫生物研究所）

[2P-1067] 神経系及び非神経系細胞におけるILEI/FAM3C遺伝子の転写制御解析

○渡邊 直希[1]、庄司　航[1]、川月 章弘[1]、日比野 絵美[1]、野村　礼[1]、西村 正樹[1]（1.滋賀医大・神経難病研究セ）

[2P-1068] Parkin機能喪失に由来するパーキンソン病モデルマウスの作製と解析

○平石 萌[1,2]、小谷野 史香[1]、久永 眞市[2]、中田 和人[3]、田中 啓二[1,4]、松田 憲之[1]（1.都医学研・ユビキチン、2.首都大学東京、3.筑波大学、4.都医学研・蛋白質代謝）

[2P-1069] 自閉スペクトラム症のCNVに基づくモデル神経細胞のトランスクリプトーム解析

○六峰 弘晃[1,2]、Amila Zuko[2]、河野 掌[3]、Jay Shin[3]、Pierro Carninci[3]、三澤 日出巳[1]、野村 淳[2]、内匠 透[2]（1.慶大・院薬・薬科学、2.理研・BSI、3.理研・CLST）

[2P-1070] ストレス環境下での脳微小炎症は、新規神経回

©日本分子生物学会/日本生化学会

路活性化を介し、致死性胃十二指腸潰瘍を誘導する

○有馬 康伸[1]、大木 拓究人[1]、西川 直樹[1]、樋口 光太郎[1]、アンドレア ストフコバ[1]、吉村 昭彦[2]、上村 大輔[1]、村上 正晃[1]（1.北大・遺制研・分子神経免疫学、2.慶大・医・免疫学）

[2P-1071] 蛍光性アプタマーを用いた神経疾患関連リピート RNAの可視化

○紀 嘉浩[1]、正木 泰行[1]、滝谷 美香[1]、佐藤 準一[1]（1.明治薬科大・薬・バイオインフォ）

[2P-1072] 多価不飽和脂肪酸含有ホスファチジルエタノールアミンによる小胞体ストレス及び酸化ストレスからの Neuro2a細胞保護効果

○左神 大輝[1]、長井 薫[1]（1.甲子園大）

[2P-1073] Sema4D KOが脳梗塞後 microgliaの Polyamine合成と増殖に与える影響の解析

○澤野 俊憲[1,2]、土橋 遼[1]、松山 知弘[2]、稲垣 忍[1]（1.阪大・院医・神経生物、2.兵医科・先端研・神経再生）

[2P-1074] miR-17-92クラスターは感覚神経の神経損傷において電位依存性カリウムチャネル機能を調節する

○坂井 敦[1]、齋藤 文仁[1]、丸山 基世[1,2]、三宅 紀子[3]、三宅 弘一[3]、岡田 尚巳[3]、鈴木 秀典[1]（1.日本医大・薬理、2.日本医大・実動、3.日本医大・生化・分生）

[2P-1075] VCPが TDP-43細胞質凝集の形成に影響する

○余 玉嬌[1]、中川 直[1]、中山 啓子[1]（1.東北大学医学系研究科細胞増殖制御分野）

[2P-1076] 副腎白質ジストロフィー: 骨髄移植による神経変性抑制効果の解析

○守田 雅志[1]、大山 拓郎[1]、螺澤 太郎[1]、依田 大輝[1]、渡辺 志朗[2]、今中 常雄[3]（1.富大・院薬・分子細胞、2.富大・和漢研・栄養代謝、3.広島国際大・薬）

[2P-1077] リポタンパク質受容体 LRP1を介した視神経保護と網膜グリア細胞の働き

○林 秀樹[1]、森 みすず[1]、橋爪 達哉[1]、原嶋 美奈[1]、降矢 実穂[1]、森 寛子[1]、袁 博[1]、高木 教夫[1]（1.東薬大・薬・応用生化）

[2P-1078] 細胞内カリウムレベルの調節による NMDA誘発性神経変性に対する保護効果

○東 紘史[1]、大塩 美知子[1]、新宅 美紀[1]、金城 俊彦[1]、倉本 展行[1]（1.摂南大学 薬学部 薬効薬理学研究室）

[2P-1079] mTOR阻害剤投与による胎生期バルプロ酸曝露マウスの自閉症様行動への影響

○村上 浩子[1,2]、小林 敏之[3]、柏井 洋文[4]、佐藤 敦志[5]、萩野 洋子[1]、田中 美歩[6]、西藤 泰昌[7]、高松 幸雄[7]、内野 茂夫[2]、池田 和隆[1]（1.東京都医学総合研究所 依存性薬物プロジェクト、2.帝京大学 理工学部 バイオサイエンス学科、3.順天堂大学 医学部 大学院医学研究科、4.東京大学大学院 医学系研究科、5.東京大学医学部付属病院 小児科、6.国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所　知的障害研究部、7.東京都医学総合研究所 基盤技術研究センター）

[2P-1080] 多系統萎縮症モデルマウスにおけるオリゴデンドロサイトのα-synuclein蓄積のメカニズム

○佐々木 飛翔[1]、金 成花[1]、矢澤 生[1]（1.国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・研究所・バイオリソース研究室）

[2P-1081] パーキンソン病病因遺伝子産物 LRRK2が Rab7L1リン酸化に果たす役割

藤本 哲太[1]、○桑原 知樹[1]、岩坪 威[1]（1.東大・院医・神経病理）

[2P-1082] 野菜抽出物によるパーキンソン病原因タンパク質α-synucleinの凝集阻害効果

○松原 守[1]、井上 宮銘[1]、深見 治一[2]（1.京都学園大・バイオ環境・分子生物、2.京都学園大・バイオ環境・食品機能）

[2P-1083] 神経傷害による長鎖非コード RNAの発現変化

○丸山 基世[1,2]、坂井 敦[1]、岩崎 宏俊[3]、鈴木 秀典[1]（1.日本医大・薬理、2.日本医大・実動、3.日本医大・麻酔）

[2P-1084] 中枢神経細胞障害時の LRP1プロセッシングに関わるタンパク質分解酵素と神経生存

○山田 まりこ[1]、林 秀樹[2]、井上 大輔[2]、岩谷 結衣[2]、鈴木 かおり[2]、袁 博[2]、高木 教夫[2]（1.東薬大・院薬・応用生化、2.東薬大・薬・応用生化）

[2P-1085] 光駆動型プロトントランスポーターの CHCHD2変異型パーキンソン病治療への応用

○荒野 拓[1]、今居 譲[2,3]、服部 信孝[2,3]（1.順天堂大学 ゲノム・再生医療センター、2.順天堂大学大学院医学研究科パーキンソン病病態解明研究講座、3.順天堂大学大学院医学研究科神経学講座）

[2P-1086] パーキンソン病病因遺伝子産物*LRRK2*のリソソーム恒常性維持における役割

○江口 智也[1]、桑原 知樹[1]、櫻井 まりあ[1]、伊藤 弦太[2]、岩坪 威[1]（1.東大・院医・神経病理、2.東大・院薬・機能病態）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 6) 遺伝性疾患（ポスター）

[2P-8-6] 8. 疾患生物学-6) 遺伝性疾患

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-1087] Comparison of skin related hereditary diseases caused by insufficiency of DNA repair systems
○Tobias PreII[2]、Michio Asahi[1]、Kiichiro Tomoda[1]（1.Dept. of Pharm., Osaka Medical College、2.Dept. of Medicine, Univ. of Munich (LMU)）

[2P-1088] ジストロフィン遺伝子産物である Dp71はリン酸化とユビキチンプロテアソーム系によって発現制御される
○藤本 崇宏[1]、矢追 毅[1]、伏木 信次[1]、伊東 恭子[1]（1.京都府立医科大学大学院医学研究科分子病態病理学）

[2P-1089] ダイナミン2のシャルコー・マリー・トゥース病の原因変異は腎ポドサイトのアクチン再構成を阻害する
○和木田 夏輝[1]、The Mon La[1]、隅田 健斗[1]、竹田 哲也[1]、阿部 匡史[1]、竹居 孝二[1]、山田 浩司[1]（1.岡大・院医歯薬・生化学）

[2P-1090] カテプシン A欠損モデルマウス小脳の病理学的解析と初代培養神経系の構築
○堀井 雄登[1]、池 啓伸[1]、田中 優希[2]、辻 大輔[1]、伊藤 孝司[1]（1.徳島大院・薬・創薬生命工学、2.徳島大・薬・創薬生命工学）

[2P-1091] ジストロフィン欠損における血清microRNAの解析
○柴﨑 浩之[1,2]、倉岡 睦季[1]、松坂 恭成[3]、谷端 淳[4]、内海 文彰[2]、田沼 靖一[5,6]、今村 道博[1]、武田 伸一[1]（1.国立精神神経セ・神経研・遺伝子疾患治、2.東京理大・薬・遺伝子制御学、3.国立国際医療セ・研・遺伝子診断治療、4.慈大・細生理、5.東京理大・薬・生化学、6.東京理大・ゲノム創薬研セ）

[2P-1092] マレーシア人低ホスファターゼ症患者に見出された組織非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子変異の解析
○折茂 英生[1]、渡邉 淳[2,3]、齊藤 智望[1]、松村 智裕[1]、齋藤 志ほ[1]、佐々木 元子[3]、岡田 尚巳[2]、Bee Chin Chen[4]、Hui Bein Chew[4]、Wee Teik Keng[4]（1.日本医大・生化・分子生物（代謝・栄養）、2.日本医大・生化・分子生物（分子遺伝）、3.日本医大付属病院・遺伝診療、4.クアラルンプル病院・遺伝）

[2P-1093] NFκB活性抑制能と凝集性を指標とした、オプチニューリン変異の蛋白機能に与える影響の検討
○大坪 正史[1]、堀田 喜裕[2]、蓑島 伸生[1]（1.浜松医大・光ゲノム医学、2.浜松医大・眼科）

[2P-1094] 加齢黄斑変性の発症に伴う HTRA1の発現調節機構の解析
○家島 大輔[1]、岩田 岳[1]（1.東京医療センター・分子細胞生物）

[2P-1095] CRISPR/Cas9システムを用いた NBCCS疾患モデル iPS細胞の作製
○荒井 佑斗[1]、加藤 千勢[1]、長尾 和右[1]、初瀬 洋美[2]、高山 吉永[1]、亀山 孝三[1]、梅澤 明弘[3]、藤井 克則[4]、宮下 俊之[1]（1.北里大学・医療系研究科・分子遺伝学、2.北里大学・医学部・分子遺伝学、3.国立成育医療研究センター研究所・再生医療センター、4.千葉大学大学院医学研究院・小児病態学）

[2P-1096] Emerinの新規機能の解析
○阿部 貴佳子[1]、吉澤 亮輔[1]、早野 俊哉[1]（1.立命大・院・生命科学）

[2P-1097] リンチ症候群患者に見出された変異型MSH2を持つヒト細胞株の樹立とその解析
○林田 元気[1,2]、中津 可道[2]、日高 京子[3]、藤兼 亮輔[4]、日高 真純[3]、織田 信弥[5]、釣本 敏樹[6]、續 輝久[7]（1.九大・院・システム生命、2.九大・院医・基礎放射線、3.北九大・基盤教育セ、4.福歯大・細胞分子生物・分子機能制御、5.九州がんセ・臨床研究セ・腫瘍遺伝、6.九大・院理・生物、7.福歯大・先端科学研究セ）

[2P-1098] ラット由来*Tsc2*欠損 ES細胞にみられるエピゲノム・遺伝子発現異常
○西川 桂子[1,2]、小林 敏之[1,2]、樋野 興夫[1,2]（1.順天堂大学医学部 病理・腫瘍学、2.順天堂大学大学院医学研究科 分子病理病態学）

[2P-1099] キメラ NOTCH3導入ショウジョウバエを用いた遺伝性脳小血管病 CADASIL病態解明へのアプローチ
○水田 依久子[1]、東 裕美子[1]、吉田 英樹[2,3]、山口 政光[2,3]、水野 敏樹[1]（1.京府医大・神経内科、2.京工繊大・応生、3.京工繊大・昆虫先端研セ）

[2P-1100] RASopathy 変異の病態発症メカニズム解明
○渋川 幸直[1]、山崎 奈津子[1]、大門 江津子[1]、岡本 伸彦[1,2]（1.地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター研究所 代謝部門、2.地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 遺伝診療科）

[2P-1101] 本邦の特発性膵炎患児における*CFTR*遺伝子バリアント
○磯 まなみ[1,2]、柳 久美子[1]、鈴木 光幸[2]、櫻井 由美子[2]、箕輪 圭[2]、清水 俊明[2]、要 匡[1]（1.成育医療セ・ゲノム医療、2.順天・小児科）

[2P-1102] 改変型 U1snRNAを用いた TREM2那須ハコラ病

関連スプライシング異常の矯正

○柳津 茂慧[1]、紀 嘉浩[1]、佐藤 準一[1]（1.明治薬科大学・薬・バイオインフォ）

[2P-1103] 希少・未診断疾患イニシアチブ

○要 匡[1]、柳 久美子[1]、湊川 真理[1]、磯 まなみ[1]、細木 華奈[1]、黒木 陽子[1]、岡村 浩治[2]、緒方 広子[3]、中林 一彦[3]、河合 智子[3]、秦 健一郎[3]、佐藤 万仁[1]、小崎 健次郎[4]、松原 洋一[5]（1.国立成育医療研究セ・研究所・ゲノム医療、2.国立成育医療研究セ・研究所・組織工学室、3.国立成育医療研究セ・研究所・周産期病態、4.慶応大・臨床遺伝セ、5.国立成育医療研究セ・研究所）

[2P-8-7] 8. 疾患生物学-7) 診断・検査、異物代謝、毒性学

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1104] Anti-carcinogenic Properties of *Perilla frutescens* Leaf Extract

○Teera Chewonarin[1]、Chakkrit Khanaree[1,2]、Komsak Pintha[2]、Maitree Suttajit[2]（1.Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand、2.Division of Biochemistry and Nutrition, School of Medical Sciences, University of Phayao, Thailand）

[2P-1105] 子宮肉腫の鑑別のための新規高感度診断システムの開発

○水谷 哲也[1]、前野 光生[1,2]、山田 雅己[1]、西村 研吾[3]（1.福井大・学術・医・分子生体情報学、2.東洋紡・バイオ事業開発部、3.東洋紡・敦賀バイオ研）

[2P-1106] マウスにおける酸化チタンの雄性生殖系への影響

○大谷 勝己[1]、北條 理恵子[1]、吉岡 弘毅[2]、三浦 伸彦[1]（1.労働安全衛生総合研究所、2.金城学院大・薬）

[2P-1107] 新規合成レチノ安息香酸の催奇性

○和田 有輝子[1]、小峰 卓也[1]、大和屋 健二[1]、吉見 陽児[2]、斎藤 慎一[3]、池北 雅彦[2]、中田 一弥[1]（1.東理大・理工、2.山口東理大、3.東理大・理）

[2P-1108] 中皮腫の高精度診断マーカー HEG1の同定と抗HEG1抗体のエピトープの解析

○辻 祥太郎[1]、松浦 利絵子[1]、今井 浩三[1,2]（1.神奈川がんセ・研、2.東大・医科研）

[2P-1109] オキシリピン Plakevulin A の新規薬剤活性の探索

○樺澤 美咲[1]、大和屋 健二[1]、倉持 幸司[1]、池北 雅彦[2]、中田 一弥[1]（1.東理大・理工、2.山口東京理科大学）

[2P-1110] 食品由来のニトロソアミン化合物の代謝活性化に対する CYP2E1の遺伝子多型の効果

○藤山 友里[1]、今石 浩正[2]（1.神戸大・院農・生命機能科学、2.神戸大・バイオシグナル総合研究セ）

[2P-1111] 前立腺がん特異的糖鎖構造変化を呈するキャリア糖タンパク質解析

○數野 彩子[1]、藤村 務[1,2]、三浦 芳樹[1]、上野 隆[1]（1.順大・院医・生体分子、2.東北医薬大・薬・臨床分析化学）

[2P-1112] ヒト肝臓細胞株における DNAアダクトーム法を用いた反応性代謝物の推定

○竹下 俊英[1]、田尾 文哉[2]、小島 伸彦[2]、Robert Kanaly[2]（1.横浜市大・学部・生命環境、2.横浜市大・院生命ナノ・生命環境システム）

[2P-1113] 老化血小板検出による血栓症リスク評価

○坂田 飛鳥[1]、西村 智[1]（1.自治医大・分子病態）

[2P-1114] ラット肝潅流によるビスフェノール類の代謝動態の解明

○家子 貴裕[1]、岡田 美和[1]、林 良弥[1]、大谷 尚子[1]、井上 博紀[1]、藤木 純平[1]、岩野 英知[1]（1.酪農大・獣医・獣医生化学）

[2P-1115] 急性放射線症候群の初期診断のための血清中マイクロ RNA

○千葉 満[1]（1.弘前大・保健・生体検査）

[2P-1116] ヒト血清コリンエステラーゼに対する Sandwich ELISAの確立

○平田 幸代[1]、佐藤 美奈代[1]、稲垣 弘文[1]、川田 智之[1]（1.日本医大・衛生公衆衛生）

[2P-1117] 新規レチノ安息香酸のレチノイン酸およびレチノイン酸結合タンパク質への影響

○小峰 卓也[1]、和田 有輝子[1]、大和屋 健二[1]、斎藤 慎一[2]、中田 一弥[1]（1.東理大・理工、2.東理大・理）

[2P-1118] 個別化医療を目指したダニ喘息の定量的分子種診断法の開発

○村上 亮太[1]、藤村 孝志[1]、住田 紘之介[1]、田中 明彦[2]、小埜 和久[1]、河本 正次[1]（1.広大院・先端・分子生命、2.昭和大・医・呼内）

[2P-1119] 薬害スモンを引き起こしたクリオキノールによる遺伝子発現の変化とその意義

○勝山 真人[1]、矢部 千尋[2]（1.京府医大院・医・中研RI、2.京府医大院・医・病態分子薬理）

[2P-1120] 遺伝子診断における1分子ロングリードシーケンサーの有用性

○柳 久美子[1,2]、佐藤 万仁[1]、保 日奈子[2]、安次嶺 典子

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2]、南 茉緯子[2]、平野 隆[2]、要 匡[1,2]（1.国立成育医療研究センター研究所 ゲノム医療研究部、2.（株）先端医療開発 研究開発部 沖縄研ゲノム解析室）

[2P-1121] スプライシング部位点変異とその病的意義の検討 –Real time PCRと digital PCRによる比較–

○湊川 真理[1]、柳 久美子[1]、松原 洋一[2]、要 匡[1]（1.成育医療研究センター・ゲノム医療研究部、2.成育医療研究センター研究所）

[2P-1122] 炎症性疾患の新規診断技術の開発

○山本 龍一[1]、荒井 啓輔[2]、福本 巧[2]、今石 浩正[1,3]（1.神戸大・院・農・自然科学、2.神戸大・院・医・肝胆膵、3.神戸大・バイオシグナル総合研セ）

[2P-1123] FNAB(fine-needle aspiration biopsy)検体を用いたセミバルク細胞のトランスクリプトーム解析

○永澤 慧[1]、土屋 一成[1]、関 真秀[1]、久世 裕太[1]、今村 聖実[1]、鈴木 穣[1]（1.東大・院新領域・メディカル情報生命）

[2P-1124] 近赤外ルシフェリンアナログを用いた発光イメージング技術の開発

○盛満 玲[1]、木山 正啓[1]、齊藤 亮平[1]、北田 昇雄[1]、東 翔子[1]、岩野 智[3]、平野 誉[1]、牧 昌次郎[1,2]（1.電気通信大学大学情報理工学研究科、2.電気通信大学脳科学ライフサポート研究センター、3.理化学研究所）

[2P-1125] 血中遊離 DNA（ ctDNA）による免疫チェックポイント阻害剤の治療効果判定

○弘津 陽介[1]、飯島 裕基[2]、小俣 政男[1,3]（1.山梨県立中央病院ゲノム解析センター、2.山梨県立中央病院肺癌・呼吸器病センター、3.東京大学）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 8) その他（ポスター）

[2P-8-8] 8. 疾患生物学-8) その他

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1126] NMNの PC12細胞におけるミトコンドリア機能亢進を介した酸化ストレスからの細胞保護効果

○伊藤 章悟[1]、長井 薫[1]（1.甲子園大・栄養）

[2P-1127] 炎症性腸疾患における *REG* 遺伝子ファミリーの発現

○土田 親次[1,2]、土田 澄代[1]、武田 麻衣子[1,3]、広中 安佐子[1]、山内 晶世[1]、三須 政康[1]、牧野 舞[1]、正畠 良吾[1]、内山 智子[1,3]、大林 千穂[3]、高沢 伸[1]（1.奈良県立医科大学生化学、2.済生会奈良病院薬剤部、3.奈良県立医科大学病理診断学）

[2P-1128] 真社会性昆虫ヤマトシロアリの長寿命分子メカニズムの解明に挑む

○田崎 英祐[1,2]、小林 和也[3]、松浦 健二[1]、井内 良仁[2,4]（1.京大・院農・昆虫生態、2.鳥取大院・連農・生資、3.京大・FSERC・北海道研究林、4.山口大院・創科）

[2P-1129] 多発性嚢胞腎症のモデル動物である PCKラットにおける飲水量増加による病態進行抑制に対する塩分摂取の影響

○釘田 雅則[1]、山口 太美雄[2]、長村 洋一[2]、Harold Aukema[3]、長尾 静子[1]（1.藤田保健衛生大・疾患モデル、2.鈴鹿医療大・医療栄養学、3.マニトバ大・人間栄養学）

[2P-1130] 妊娠高血圧症候群発症における RAGEの関与

○赤坂 珠理晃[1]、常見 泰平[1]、佐道 俊幸[1]、広中 安佐子[2]、山内 晶世[2]、牧野 舞[2]、高沢 伸[2]、小林 浩[1]（1.奈良医大・産婦人科学教室、2.奈良医大・生化学教室）

[2P-1131] 三次元培養歯周炎関連線維芽細胞によるコラーゲン分解に及ぼすメカブの影響

○山口 洋子[1,2]、福村 基徳[3]、室伏 貴久[1]、津田 啓方[1,2]、鈴木 直人[1,2]（1.日大・歯・生化学、2.日大・総歯研・機能形態、3.昭和大・薬学・臨床薬学・天然医薬治療学）

[2P-1132] HAI-1は Protease activated receptor - 2（ PAR-2）活性制御を介して表皮及び毛髪の形態形成を維持する

○川口 真紀子[1]、山本 晃士[1]、福島 剛[1]、片岡 寛章[1]（1.宮大・医・病理）

[2P-1133] アストロサイトの STAT1シグナルは、トキソプラズマ脳炎のコントロールに重要である。

○飛彈野 真也[1]、Christoph Konradt[2]、Daniel Beiting[2]、Lothar Hennighausen[3]、Anita Koshy[4]、神山 長慶[1]、小林 隆志[1]、Christopher Hunter[2]（1.大分大・医・感染予防医学講座、2.Dept. of Pathobiol., Sch. of Vet. Med., Univ. of Pennsylvania、3.Lab. of Genetics and Physiol., NIDDK., NIH、4.Dept. of Immunobiol., BIO5 Inst., Univ. of Arizona）

[2P-1134] 血管・リンパ管内皮細胞の TGF-βファミリーシグナルは成体の生存に必須である

○稲川 俊彦[1]、齊藤 裕紀[1]、宮本 樹[1]、渡部 琢也[1]、伊東 進[2]、久保田 義顕[3]、伊東 史子[1]（1.東京薬大・生命、2.昭和薬大・薬、3.慶大・医）

[2P-1135] 腎糸球体ポドサイト障害に伴い発現が誘導される新規 non-coding RNA variantの発現解析

○堀川 彩[1]、米田 智美[1]、矢尾板 永信[2]、山口 勝司[3]、重信 秀治[3]、乾 隆[1]、石橋 宰[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.新潟大・医・腎研、3.基生研・機能解析セ）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-1136] 生薬セイタイ含有成分の潰瘍性大腸炎モデルマウスに対する効果の検討

○小澤 佳[1]、森 大地[1]、山本 朱音[1]、畑中 歩夢[1]、山内 優子[1]、高坂 和芳[1]、池谷 幸信[2]、西澤 幹雄[1]、田中 秀和[1]（1.立命館大・生命科学・生命医科、2.立命館大・薬・薬）

[2P-1137] ヒトの腋窩アポクリン腺における腋臭症リスク決定因子 ABCC11の発現に関する研究

○豊田 優[1]、高田 龍平[1]、五味 常明[2]、宮田 大資[1]、石川 智久[3]、鈴木 洋史[1]（1.東大病院・薬剤部、2.五味クリニック、3.NPO地方再興・個別化医療支援）

[2P-1138] 黄色靭帯における PAX9下流因子 FGF18の同定

○森 大気[1]、酒井 義人[2]、原田 敦[2]、村澤 裕介[3]、新飯田 俊平[1]、渡辺 研[4]（1.長寿研・メディカルゲノム、2.長寿研・整形、3.長寿研・健康長寿支援、4.長寿研・運動器疾患）

[2P-1139] 妊娠高血圧症候群の原因解明を目指した長鎖型シークエンサーによる HLA-G遺伝子解析技術の開発

○西澤 絢子[1,2]、熊田 和貴[1]、舘野 恵子[1]、和形 麻衣子[2]、勝岡 史城[1]、山本 雅之[1]、菅原 準一[1]、安田 純[1]（1.東北大・東北メディカル・メガバンク機構、2.東北大・院医・医科学）

[2P-1140] 鍼治療としてのフェムト秒レーザー照射

○大田 美香[1,2]、細川 陽一郎[3]、波多野 直哉[4]、菅野 亜紀[1,2]、井上 敬夫[5]、鈴木 高史[2]、伊藤 彰彦[5]、高岡 裕[1,2]（1.神戸大・医・医療情報、2.神戸常盤大・ライフサイエンス研、3.奈良先端大・物質創成・生体プロセス、4.神大・医・質量分析総合セ、5.近畿大・医・病理）

[2P-1141] 骨格筋において過剰発現した NF90-NF45は赤筋化を誘導する

○坂本 修士[1]、森澤 啓子[1]、Sylvia Lai[1]、樋口 琢磨[1]、戸高 寛[2]、池 恩燮[1]、杉山 康憲[3]、津田 雅之[4]（1.高知大・総合研究セ・分子生物学、2.高知大・医・循環器制御学、3.香川大・農・応用生物科学、4.高知大・総合研究セ・動物実験施設）

[2P-1142]「 Cell3 iMager」シリーズを用いた三次元培養細胞のラベルフリー解析とその応用

○森 勇貴[1]、久富 利恵[1]、長谷部 涼[1]、黒見 靖[1]、三浦 丈苗[1]（1.SCREENホールディングス　ライフサイエンス事業室）

[2P-1143] 筋ジストロフィー・心筋症モデル動物治療標的としてのイオン輸送体の病態生理学的役割

○岩田 裕子[1]、平山 円[1]（1.国立循環器病研究センター・臨床研究部）

[2P-1144] クラススイッチ組換えにおけるメチルトランスフェラーゼ FBLの役割

○森脇 隆仁[1]、Afzal Husain[1]、小林 牧[1]、本庶 佑[1]（1.京都大学医学部免疫ゲノム医学研究室）

ポスター発表 | 9. 神経科学 | 1) 神経系の発達と分化（ポスター）

[2P-9-1] 9. 神経科学-1) 神経系の発達と分化

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1145] ラット由来培養神経幹細胞の分化に及ぼすテオブロミンの影響

○並木 渓[1]、片倉 賢紀[1]、杉林 堅次[1]、杉本 直俊[2]、松崎 健太郎[3]、柴藤 治[3]（1.城西大学薬学部栄養生理学、2.金沢大学医学系、3.島根大学医学部環境生理学）

[2P-1146] テオブロミンのマウス海馬神経幹細胞増殖に及ぼす影響

○井野 綾音[1]、片倉 賢紀[1]、杉林 堅次[1]、杉本 直俊[2]、松崎 健太郎[3]、柴藤 治[3]（1.城西大学薬学部栄養生理学、2.金沢大学医学系、3.島根大学医学部環境生理学）

[2P-1147] 低酸素がヒト iPS細胞由来神経系前駆細胞の分化成熟に与える影響

○岡田 梨奈[1,2]、李 家暐[1]、小野寺 一成[1,3]、伊藤 卓治[1]、勝野 雅央[3]、祖父江 元[4]、岡野 栄之[5]、道勇 学[1]、岡野 ジェイムズ洋尚[2]、岡田 洋平[1]（1.愛知医科大・医・神経内科、2.東京慈恵会医科大・再生医学、3.名古屋大・院医・神経内科、4.名古屋大・院医、5.慶應義塾大・医・生理学）

[2P-1148] ゼブラフィッシュのマウスナー細胞を抑制するGABA作動性ニューロンのシナプスの解析

馬場 俊平[1]、○青木 澪[1]、井上 智裕[2]、東 毅[2]、角本 貴進[1]、池永 隆徳[1,2,3]、二階堂 昌孝[1,2]、八田 公平[1,2]（1.兵庫県立大学理学部、2.兵庫県立大学大学院生命理学研究科、3.鹿児島大学大学院理工学研究科）

[2P-1149] 小脳における Meis1の果たす役割

○大輪 智雄[1]、田谷 真一郎[1]、宮下 聡[1]、西岡 朋生[2]、後飯塚 僚[4]、中村 卓郎[3]、貝淵 弘三[2]、星野 幹雄[1]（1.国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 病態生化学研究部、2.名大・院医・薬理、3.がん研究所 発ガン研究部、4.東京理科大学 生命科学研究所 発生及び老化研究部門）

[2P-1150] 神経突起伸長作用を有する Nr4aファミリー遺伝子の発現制御機構

○谷尾 啓介[1]、渕上 祐希[2]、山添 亮輔[1]、下家 浩二[1,2]（1.関西大・院理工、2.関西大・化学生命工・生命生物）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-1151] Bisphenol Aが神経細胞に与える形態変化とその作用機構の分子生物学的解析
○松浦 玖実[1]、山添 亮輔[1]、下家 浩二[2]（1.関西大・院理工、2.関西大・化学生命工・生命生物）

[2P-1152] HDAC阻害剤による特定遺伝子群の発現上昇と神経突起伸長作用との関連
○井戸 大記[1]、高橋 亮太[2]、山添 亮輔[1]、下家 浩二[1,2]（1.関西大・院理工、2.関西大・化学生命工・生命生物）

[2P-1153] 海馬神経細胞において内在性に発現するGPR3が神経極性形成に与える影響
○田中 茂[1]、嶋田 直人[1]、宮城 達博[1]、白榊 紘子[1]、秀和泉[1]、白藤 俊彦[1]、酒井 規雄[1]（1.広島大・医歯薬保・神経薬理）

[2P-1154] ニューロン分化過程におけるクロマチン構造変化
○坂井 星辰[1]、岸 雄介[1]、後藤 由季子[1]（1.東大・院薬）

[2P-1155] 神経軸索に存在するリボソームのライブイメージング
○吉田 周平[1]、清水 悠太朗[2]、荒木 功人[2,3]（1.岩手大・院工・応化生命、2.岩手大・院連合農、3.岩手大・理工・生命）

[2P-1156] ゼブラフィッシュ幼生の腸の運動と関連して活動する細胞の同定
○高御堂 大慈[1]、西田 さやか[1]、兒島 卓也[1]、二階堂 昌孝[2]、岡本 晋一[2]、八田 公平[2]（1.兵庫県立大学理学部、2.兵庫県立大学大学院生命理学研究科）

[2P-1157] 小脳顆粒細胞の発生における F-boxタンパク質の機能解析
○山下 真梨子[1,2]、宮下 聡[1]、星野 幹雄[1]（1.国立精神・神経セ・神経研・病態生化学、2.東医歯大・難治疾患研・発生再生生物）

[2P-1158] ホヤ幼生の運動制御神経回路を構成するニューロンの細胞系譜解析
○村上 誠[1]、大沼 耕平[1]、日下部 岳広[1]（1.甲南大学・理工学部・統合ニューロバイオロジー研究所）

[2P-1159] 神経細胞の突起伸長における p39-Cdk5の役割
○淺田 明子[1]、三橋 真海子[1]、安藤 香奈絵[1]、久永 眞市[1]（1.首都大・生命）

ポスター発表 | 9. 神経科学 | 2) シナプス伝達、可塑性、記憶、学習、行動（ポスター）

[2P-9-2] 9. 神経科学-2) シナプス伝達、可塑性、記憶、学習、行動

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1160] Lmtk3 knockout mice exhibit schizophrenic-like behaviour
○Kristopher Montrose[1]、Tadashi Yamamoto[1]（1.Okinawa Institute of Science and Technology）

[2P-1161] ゼブラフィッシュ幼生の単純な腸のカルシウムイメージングと光遺伝学解析
岡本 晋一[1]、高御堂 大慈[2]、西田 さやか[2]、兒島 卓也[2]、二階堂 昌孝[1,2]、○八田 公平[1,2]（1.兵庫県立大学大学院生命理学研究科、2.兵庫県立大学理学部）

[2P-1162] 恐怖記憶制御に対する海馬 TNFαの役割の解析
○高橋 翔平[1]、福島 穂高[1,2]、喜田 聡[1,2]（1.東農大・応生科・バイオ、2.CREST,JST）

[2P-1164] Lemur kinase 1A (LMTK1A)は Rab11A依存的なエンドソームの輸送を介して樹状突起スパインの形成を制御する
○西野 尋紀[1]、高野 哲也[1]、堤 弘次[1]、淺田 明子[1]、斎藤 太郎[1]、安藤 香奈絵[1]、友村 美根子[2]、久永 眞市[1]（1.首都大・院理工・生命科学、2.MPL・明海大・歯学）

[2P-1165] 記憶・学習行動における熱ショックタンパク質の役割
○田上 凌[1]、川添 慎之介[1]、橋川 成美[1]、橋川 直也[1]（1.岡山理大・院理・臨床生命）

[2P-1166] 単食性のショウジョウバエ*Drosophila sechellia*の産卵判断行動
萩原 亜美[1]、岩本 佳子[1]、大石 悠起子[1]、○近藤 るみ[1]（1.お茶の水女子大学 理学部 生物学科）

[2P-1167] マウスにおける母体の Mat2a遺伝子変異による仔の遺伝子発現・行動表現型の修飾
○古瀬 民生[1]、幸田 尚[2]、串田 知子[1]、山田 郁子[1]、三浦 郁生[1]、金田 秀貴[1]、小林 喜美男[1]、石野 史敏[2]、若菜 茂晴[1]（1.理研・BRC・日本マウスクリニック、2.東京医科歯科大学・難治疾患研究所・エピジェネティクス分野）

[2P-1168] 線虫*C. elegans*の連合学習における E3ユビキチンリガーゼの制御機構の解析
○池 泰明[1]、姜 涛[1]、富岡 征大[1]、飯野 雄一[1]（1.東大・院理・生物科学）

[2P-1169] 発達期メチルドナー欠乏マウスに対する急性ストレス暴露によるモノアミン濃度の効果
○後藤 誠[1]、松澤 大輔[1]、佐原 佑治[1]、淵田 孝大[1]、須藤 千尋[1,2]、清水 栄司[1,2]（1.千葉大学大学院医学研究院　認知行動生理学、2.千葉大院・医・子どものこころの発達研究センター）

[2P-1170] 代謝型グルタミン酸受容体サブタイプ1のシナ

©日本分子生物学会/日本生化学会

プス局在のメカニズム

○内藤 里佳[1,2]、葛西 秀俊[1]、渡久川 兼誉[1]、中尾 和貴[1]、Sabine Schoenherr[3]、Francesco Ferraguti[3]、饗場 篤[1,2]（1.東大・院医・疾患生命工学セ・動物資源、2.東大・院理・生物科学、3.インスブルック医大・薬理）

[2P-1171] 哺乳類におけるカルシンテニンの機能：トリプルノックアウトマウスを用いた解析

○森 啓太[1]、古戎 道典[2]、小林 静香[3]、城山 優冶[4]、真鍋 俊也[3]、饗場 篤[2]、飯野 雄一[1]（1.東大・院理・生物科学、2.東大・院医・疾患生命・動物資源、3.東大・医科研・基礎医科・神経ネットワーク、4.東大・先端研）

[2P-1172] 摂食関連因子にニューロエストロゲンが及ぼす影響

○林 孝典[1]、西尾 永司[2]、原田 信広[1]（1.藤田保健衛生大・医・生化、2.藤田保健衛生大・医・産婦人科）

[2P-1174] *C. elegans* のドーパミン依存性塩化イオンチャネルの生体内機能の解析

○菊池 あゆみ[1]、山崎 修平[1]、Niels Ringstad[2]、木村 幸太郎[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.Skirball Inst. Biomol. Med., New York Univ.）

[2P-1175] 線虫の全脳イメージングによる学習依存的な神経回路活動変化の解明に向けて

○三浦 拓也[1]、温 琛涛[1]、池尻 洋輔[1]、藤江 由香子[1]、石原 健[2]、木村 幸太郎[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.九大・院理・生物科学）

[2P-1176] 線虫 C. elegansの CLC型クロライドチャネル CLH-1の塩濃度走性における機能の解明

○Chanhyun Park[1]、櫻井 裕樹[1]、飯野 雄一[1]、國友 博文[1]（1.東大・院理・生物科学）

[2P-1177] 小脳神経細胞におけるゴルジ体酸性環境の重要性

○曽 友深[1]、角田　宗一郎[2]、前田　祐輔[3]、木下　タロウ[3]、崎村　建司[4]、内山 安男[2]、小池 正人[1]（1.順大・院・神経生物学形態学、2.順大・院・神経疾患病態構造学、3.阪大・微生研・生体防御、4.新潟大・脳研・細胞神経生物）

[2P-1178] ショウジョウバエにおける新規オクトパミン受容体の機能解析

○中川 寛之[1]、前原 志穂里[2]、冨田 淳[1]、太田 広人[2]、桑 和彦[1]（1.名市大・院薬・神経薬理、2.熊大・院自然）

[2P-1179] 低温応答性タンパク質が与える脳内オートファジーへの影響

○相原 拓馬[1]、鶴田 文憲[1]、佐藤 伴[1]、千葉 智樹[1]（1.筑波大学大学院）

ポスター発表 | 9. 神経科学 | 3) 感覚、生物時計、光周性（ポスター）

[2P-9-3] 9. 神経科学-3) 感覚、生物時計、光周性

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1180] ステロイド産生臓器における3β-水酸化ステロイド脱水素酵素の定量的酵素活性計測

○鑓水 大介[1]、土居 雅夫[1]、岡村 均[1]（1.京大・院薬・システムバイオロジー）

[2P-1181] 概日リズム中枢・視交叉上核の時差再同調過程における数理モデル解析

○前川 洋太[1]、山口 賀章[1]、岡村 均[1]、郡 宏[2]（1.京都大学大学院薬学研究科システムバイオロジー分野、2.お茶の水女子大学情報科学科）

[2P-1182] 発生および慢性疼痛下の一次知覚神経における RNA編集の変動

○内田 仁司[1]、松村 伸治[2]、崎村 建司[1]、伊藤 誠二[2]（1.新潟大・脳研・細胞神経、2.関西医大・医化学）

[2P-1183] 哺乳類における睡眠覚醒コンソリデーション制御機構の薬理学的解析

○張 千惠[1]、上田 泰己[1,2]（1.東大・院医・システムズ薬理学、2.理研・生命システム研究センター）

[2P-1184] 新規抗体を用いたイムノブロットによる培養マウス繊維芽細胞における内因性 PER2蛋白質の概日変動の検出

○井ノ上 雄一[1]、土居 雅夫[1]、岡村 均[1]（1.京大・院薬・システムバイオ）

[2P-1185] 匂い刺激によってナメクジ嗅覚中枢神経系に引き起こされる NO放出の蛍光イメージング

○石田 康平[1]、村田 桃[2]、渡辺 恵[3]、斎藤 稔[1,2]（1.日大院・総合基・相関理化学、2.日大・文理・物理生命システム、3.国立精神・神経セ神経研微細構造）

[2P-1186] 概日時計遺伝子 Per2の cAMP/Ca^{2+}応答エレメントを介した転写誘導

○嶋谷 寛之[1]、土居 雅夫[1]、岡村 均[1]（1.京大・院薬・医薬創成情報科学）

[2P-1187] Asn391点変異体を用いたニワトリクリプトクロム4の光反応サイクルの解析

○三井 広大[1]、大塚 浩晨[1]、三浦 宏太[1]、岡野 恵子[1]、岡野 俊行[1]（1.早大・院先進理工・電生）

[2P-1188] 動物細胞における時計遺伝子発現リズムの CO、NOによる制御

○竹多 景子[1]、小野 美姫[1]、石嶌 純男[1]、佐上 郁子[1]（1.京都府大院・生命環境・細胞高分子）

[2P-1189] 体内時計中枢の時間制御を担う Gzは cAMP抑制

©日本分子生物学会/日本生化学会

性のシグナル持続型 G蛋白質である
○國末 純宏[1]、土居 雅夫[1]、岡村 均[1]（1.京大・院薬・医薬創成情報科学）

[2P-1190] 軟骨組織におけるメラトニン合成とその受容体発現は概日リズムを持ち、軟骨細胞の代謝に影響を及ぼす
○服部 高子[1]、Shanqi Fu[1]、桑原 実穂[1]、内田 瑶子[2]、近藤 星[1]、林 大智[1]、下村 侑司[1]、高垣 安紗美[1]、西田 崇[1]、丸山 雄介[3]、池亀 美華[4]、服部 淳彦[3]、久保田 聡[1]（1.岡山大・院医歯薬・口腔生化、2.岡山大・院医歯薬・予防歯科、3.医科歯科大・教養・生物、4.岡山大・院医歯薬・口腔形態）

[2P-1191] 時計神経における新規睡眠関連遺伝子*Sik3*の機能
○小林 里帆[1]、中根 伸[1]、中川 寛之[1]、冨田 淳[1]、船戸 弘正[2]、柳沢 正史[2]、桑 和彦[1]（1.名市薬・神経薬理、2.筑波大学・国際統合睡眠科学研究所）

[2P-1192] 時計遺伝子 BMAL1による骨格筋の Caシグナル伝達制御を介したエネルギー代謝調節
○和田 平[1]、市橋 裕也[1]、鈴木 英美[1]、澤村 順哉[1]、小菅 康弘[1]、内山 武人[1]、榛葉 繁紀[1]（1.日本大・薬）

[2P-9-4] 9. 神経科学-4) その他

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1193（2AT26-14）] うつ病発症における脳白質構造変化とオリゴデンドロサイト機能変化の関連
○宮田 信吾[1]、清水 尚子[1]、石野 雄吾[1]、山本 彬世[1]、川上 あゆみ[1]、遠山 正彌[1,2]（1.近大・東医・分子脳科学、2.大阪府立病院機構）

[2P-1194] A role for the CCR4-NOT deadenylase complex in the brain
○Patrick N Stoney[1]、Kristen Fang[1]、Tadashi Yamamoto[1]（1.Okinawa Institute of Science and Technology）

[2P-1195] 逆行性時間認知処理の神経基盤と自己組織化臨界の役割
○平林 美樹[1]、大橋 弘忠[1]（1.東大・院工・シス創）

[2P-1196] メチル水銀は、神経分化させた SH-SY5Y細胞において酸化ストレスから始まる p38 MAPK-CREB経路を介した神経細胞の過剰活性化を引き起こし、神経細胞死を導く
○藤村 成剛[1]、臼杵 扶佐子[2]（1.国立水俣病総合研究センター・基礎研究部、2.国立水俣病総合研究センター・臨床部）

[2P-1197] 家族性 ALSに関連する変異型 SOD1のミスフォールディングを抑制する蛋白の同定
○佐藤 ふみ[1]、長野 清一[2]、荒木 敏之[1]（1.国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第五部、2.大阪大学大学院医学系研究科 神経内科学）

[2P-1198] 神経軸索内におけるミトコンドリアの動態と分布様式の解析
○松本 望[1]、堀 生実[2]、三宅 誠司[3,4]、小西 慶幸[2,4]（1.福大・院工・知能システム　、2.福大・院工・生物応用化学、3.福大・院医・眼科、4.福大・ライフ）

[2P-1199] TolI様受容体3のアゴニストは培養ヒト脳微小血管内皮細胞における CCL5発現を誘導する
○今泉 忠淳[1]、松宮 朋穂[1]、吉田 秀見[1]（1.弘前大学大学院医学研究科脳血管病態学）

[2P-1200] 生物発光を利用した BDNF遺伝子発現変化の計測
○福地 守[1,4]、和泉 宏謙[2]、森 寿[2]、木山 正啓[3]、大塚 智史[3]、牧 昌次郎[3]、田渕 明子[4]、津田 正明[4]（1.高崎健康福祉大・薬・分子神経科学、2.富山大院・医薬・分子神経科学、3.電気通信大・情報理工・先進理工、4.富山大院・医薬・分子神経生物学）

[2P-1201] 細胞外マトリックス・テネイシン Xは末梢神経の血管形成に関与する
○堺 弘道[1]、松本 健一[1]（1.島根大・総科支援センター・生体情報RI）

[2P-1202] ラット脳神経細胞膜の脂質ラフトにおいて AnnexinVIは c PLA_2および $iPLA_2$と共局在する
○千菊 雅也[1]、林 文夫[1]、前川 昌平[1]（1.神戸大・理・生物 ）

[2P-1203] カルシニューリンと脂質の相互作用解析
○丸山 陽子[1]、林 文夫[1]、前川 昌平[1]（1.神戸大・院理・生物学）

[2P-1204] 神経系における NAP-22 結合因子の解明
○上野 里子[1]、三好 洋[2]、妹尾 圭司[3]、林 文夫[1]、前川 昌平[1]（1.神戸大・院理・生物学、2.聖アリマンナ医大・医学・微生物学、3.浜松医大・医学）

[2P-1205] 膜輸送を介して突起伸展を促進する Rhoファミリー Gタンパク質 TC10は末梢神経の軸索再生に働く
○鯉沼 真吾[1,2]、野村 理子[1,3]、小島 拓哉[4]、根岸 亮太[1,5]、竹内 公平[1]、瀬木(西田) 恵里[3]、後飯塚 僚[1,2]、古市 貞一[2,5]、岩倉 洋一郎[1,2]、和田 直之[5]、高橋 直樹[4]、郡山 恵樹[6]、木山 博資[7]、中村 岳史[1,2]（1.東理大・生命研、2.ヒト疾患モデル研究センター、3.東理大・基礎工・生物工、4.東大・院農・農学生物科

©日本分子生物学会/日本生化学会

学、5.東理大・理工・応用生物、6.鈴鹿医科大・薬・薬、7.名大・院医・医学）

[2P-1206] 爆傷後の一過性血液脳関門破綻は早期に起こる

○西井 清雅[1]、佐藤 泰司[1]、松井 利康[1]、樫谷 賢士[2]、齋藤 大蔵[1]、小林 靖[1]（1.防衛医科大学校、2.防衛大学校）

[2P-1207] MALDI MSイメージングでの生体高分子の検出やLC-MS/MS分析でも質量イメージングを可能にする技術の確立

○鈴木 弘美[1]、Andrea Anas[1]、大矢 倫子[1]、小野 健治[1]、大石 幸一[1]、澤田 誠[1]（1.名大・環医研・脳機能）

[2P-1208] CRISPR/Casを用いたOxtr KO、Oxtr ires-Cre KI平原ハタネズミの作製と解析

○堀江 謙吾[1]、矢田 沙織[1]、平山 貴士[2]、日出間 志寿[1]、西森 克彦[1]（1.東北大・院農・分子生物学、2.順天堂大・産婦人科）

[2P-1209] 中枢神経組織における小胞体品質機構の破綻に起因する運動障害のメカニズム

○杉山 崇史[1]、村尾 直哉[1]、西頭 英起[1]（1.宮崎大・医・機能生化学）

[2P-1210] 脱SUMO化酵素SENP5の新規アイソフォームの機能解析

○秋山 博紀[1]、中舘 和彦[2]、榊原 伸一[1]（1.早大・人間科学、2.明治薬大・薬学教育センター）

[2P-1211] シナプス前末端におけるシナプス形成時のcAMP応答の解析

○向井 友規[1]、久保 遥平[1]、石川 裕貴[1]、川田 聖香[1]、堀 哲也[1]、齋藤 直人[1]（1.同大・生命・医シス）

[2P-1212] 鉄イオンがアミロイド沈着を抑制する

○鄒 鶚[1]、沈 雪峰[1]、劉 俊俊[1]、劉 姝余[1]、藤田 融[1]、菊池 光太[1]、小原 俊樹[1]、下館 真衣[1]、武部 綾璃咲[1]、千葉 紀蘭理[1]、佐山 理恵子[1]、高橋 朋子[1]、松江 藍[1]、駒野 宏人[1]（1.岩手医科大学・薬学部・神経科学講座）

[2P-10-2] 10. 植物、農生物学、食品科学-2) 植物ゲノムと遺伝子、オミックス解析

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1213] Promoter of citrus peel-specific expressed gene, CuCRTISO-like, respond to hormones and abiotic stresses in transgenic Arabidopsis

○Chang-Ho Eun[1]、In-Jung Kim[2]（1.Subtropical/Tropical Organism Gene Bank, Jeju National University, Republic of Korea、2.Faculty of Biotechnology, College of Applied Life Sciences and Research Institute for Subtropical Agriculture and Biotechnology, SARI, Jeju National University, Republic of Korea）

[2P-1214] 植物のミロシン細胞分化における新規制御因子の探索

○宗田 匡史[1]、白川 一[1]、伊藤 寿朗[1]（1.奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 花発生分子遺伝学研究室）

[2P-1215] 植物のミロシン細胞分化における FAMA－RBR複合体の機能解析

○月川 麻央[1]、白川 一[1]、伊藤 寿朗[1]（1.奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 花発生分子遺伝学研究室）

[2P-1216] 植物色素合成遺伝子に着目した遺伝子発現と変異誘発頻度の関係を調べるための検出系の開発

○平田 翔也[1,2]、北村 智[2]、佐藤 勝也[2]、鳴海 一成[1]、大野 豊[2]（1.東洋大・院・生命科学、2.量研・高崎・放射線生物応用）

[2P-1217] アブラナ科植物における低分子RNAを介した優劣性制御機構の解明

○小林 利紗[1]、和田 七夕子[1]、三浦（宇野） 栄子[1]、下田 大貴[1]、柴 博史[3]、高山 誠司[2]、伊藤 寿朗[1]（1.奈良先端大・バイオ、2.東大院・農学生命、3.筑波大・遺伝子）

[2P-1218] LEA14Aの生理機能の解析

○宮崎 香穂[1]、鈴木 麟太郎[1]、田代 涼夏[1]、草野 博彰[2]、島田 浩章[1]（1.東理大・生物工、2.現 京大・生存圏研）

[2P-1219] イネのFLO2ホモログであるFLL1、FLL2の機能解析

○古澤 純[1]、小澤 義典[1]、今村 智弘[2]、草野 博彰[3]、島田 浩章[1]（1.東理大・生物工、2.石川県立大・生物資源工、3.京大・生存圏研）

[2P-1220] 花幹細胞の増殖を制御する*KNUCKLES*遺伝子の発現制御機構の解析

○澤田 遥[1]、松下 夏純[1]、山口 暢俊[1,2]、伊藤 寿朗[1]（1.奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科　花発生分子遺伝学研究室、2.JST さきがけ）

[2P-1221] *asura* 変異の原因遺伝子の解析とASURAタンパク質と相互作用する因子の同定

○高橋 佳那[1]、大谷 恵[1]、和泉 翔子[1]、西野 友紀子[1]、小野寺 瞳[1]、今村 智弘[3]、草野 博彰[2]、寺村 浩[1]、島田 浩章[1]（1.東理大・生物工、2.京大・生存圏研、3.石川県立大学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-1222] イネ FLO2遺伝子産物の解析

○和田 千紗都[1]、宮野 大輝[1]、寺村 浩[1]、草野 博彰[2]、島田 浩章[1]（1.東理大・生物工、2.京大・生存圏研）

[2P-1223] イネ未熟種子における FLOCの機能解析

○鈴木 麟太郎[1]、今村 智弘[1,2]、草野 博彰[1,3]、関根 健太郎[4]、山下 哲郎[5]、島田 浩章[1]（1.東京理科大・生物工、2.現・石川県立大・生物資源工、3.現：京都大・生存圏研、4.琉球大・農・亜熱帯生物、5.岩手大・農・応用生物化学）

[2P-1225] シロイヌナズナ CLEペプチド遺伝子を標的とした CRISPR/Cas9による変異体コレクションの作成

山口 泰華[1]、吉村 美香[2]、今村 悠子[1]、島岡 知恵[1]、澤 進一郎[1]、○石田 喬志[2]（1.熊本大学・自然科学研究科、2.熊本大学・国際先端科学技術研究機構 ）

[2P-10-3] 10. 植物、農生物学、食品科学-3) 光合成、環境応答、植物病原微生物

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1226] 酸性ストレスによるシアノバクテリア*Synechocystis* sp.PCC6803の肥大化に関与する遺伝子の転写解析

○甲賀 栄貴[1]、板垣 文子[1]、石川 晴菜[1]、中原 凌波[2]、内山 純爾[3]、太田 尚孝[1,2,3]（1.東理大・院・科学教育、2.東理大・院・理学、3.東理大・理学部）

[2P-1227] シロイヌナズナのヒストン修飾酵素と相互作用する因子の同定と機能解析

○阿部 真人[1]、山口 暢俊[1,2]、伊藤 寿朗[1]（1.奈良先端科学技術大学院大学　バイオサイエンス研究科　花発生分子遺伝学研究室、2.JST さきがけ）

[2P-1228] *Red clover necrotic mosaic virus*感染時のAGO2遺伝子の発現誘導に関する研究

○末森 彩洋子[1]、中村 光希[2]、奥野 哲郎[3]、竹田 篤史[1,2]（1.立命大・院・生命科学、2.立命大・生命科学、3.龍谷大・農）

[2P-1229] シロイヌナズナ系統間雑種における雑種強勢機構の解明

○布平 竜也[1]、和田 七夕子[1]、羽根 佑樹[1]、高山 誠司[2]、伊藤 寿朗[1]（1.奈良先端大・バイオ、2.東大院・農学生命）

[2P-1230] イネの Ca^{2+}-依存性プロテインキナーゼ8を介した過敏感細胞死の誘導機構

○土本 尚輝[2]、榊原 悠大[1]、神村 麻友[1]、蔡 晃植[1,2]（1.長浜バイオ大・バイオサイエンス、2.長浜バイオ大院・バイオサイエンス）

[2P-1231] *Acidovorax avenae* の新規エフェクタータンパク質によるイネの過敏感細胞死誘導機構

○中村 みなみ[1]、近藤 真千子[2]、古川 岳人[2]、川口 雄正[1]、山田 考樹[2]、蔡 晃植[1,2]（1.長浜バイオ大院・バイオ、2.長浜バイオ大・バイオ）

[2P-1232] シングル分子シグナル解析：ジャガイモ疫病菌に対する抵抗性過敏感細胞死の機構

○Naotaka Furuichi[1]、Masatoshi Ohta[2]（1.AAAS, USA、2.新潟大）

[2P-1233] 二つの異なるフラジェリン認識システムの植物種間における分布

○村上 貴彦[1]、平井 洋行[2]、古川 岳人[2]、蔡 晃植[1,2]（1.長浜バイオ大院・バイオサイエンス、2.長浜バイオ大・バイオサイエンス）

[2P-1234] シロイヌナズナにおける概日リズムによって制御される DNAメチル化領域の同定

○宮崎 裕士[1]、Tu Le[2]、佐瀬 英俊[1]（1.沖縄科学技術大学院大学、2.北陸先端大）

[2P-1235] *Synechocystis* sp.PCC6803の酸性ストレス応答性 ncRNA SyR47の転写解析および翻訳制御の解析

○内山 純爾[1]、太田 尚孝[1,2]（1.東理大・理、2.東理大・科学教育）

[2P-1236] アブラナ科野菜に特異的に感染する根コブ病菌の感染機構理解にむけた試験管内実験系の構築

○岡田 香保[1]、早崎 君江[1]、櫛谷 綾香[2]、東 慶直[1,2]（1.近大院・生物理工学、2.近大・生物理工）

[2P-1237] EF-Tuにより誘導されるイネの免疫反応を阻害する化合物の探索

○片岡 千佳[1]、李 佳欣[2]、古川 岳人[2]、平井 洋行[2]、浅見 忠男[3]、蔡 晃植[1,2]（1.長浜バイオ大院・バイオ、2.長浜バイオ大・バイオ、3.東大院・農生科・応生化）

[2P-1238] 2つの異なる EF-Tu認識システムの植物種間における分布

○枡谷 豊[1]、古川 岳人[2]、平井 洋行[2]、松田 智裕[1]、蔡 晃植[1,2]（1.長浜バイオ大院・バイオ、2.長浜バイオ・バイオ）

[2P-1239] シロイヌナズナにおけるアスコルビン酸再生

○寺井 佑介[1]、小川 貴央[1]、石川 孝博[1]、丸田 隆典[1]（1.島根大・生資科）

[2P-1240] 植物の光ストレス応答における H2O2代謝ネットワークの役割

○三冨 弦[1]、寺井 佑介[1]、小川 貴央[1]、澤 嘉弘[1]、石川

©日本分子生物学会/日本生化学会

孝博[1]、丸田 隆典[1]（1.島根大・生資科・生命工）

[2P-1241] 植物における転写開始点のゆらぎと環境ストレス応答性翻訳制御の関係性に関する研究

○糸川 嘉則[1]、松浦 秀幸[1]、岸田 百世[1]、高橋 弘喜[2]、御田 洋介[1]、山崎 将太朗[3]、原田 和生[1]、加藤 晃[3]、平田 收正[1]（1.阪大・院薬、2.千葉大・真菌、3.奈良先）

ポスター発表 | 10. 植物、農生物学、食品科学 | 5) 農生物学、食品科学（ポスター）

[2P-10-5] 10. 植物、農生物学、食品科学-5) 農生物学、食品科学

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1242] CANCER CHEMOPREVENTIVE PROPERTIES OF RICE PROTEINS FROM RICE BRAN RESIDUES

○Aroonrat Pharapirom[1,2,3,4]（1.Biochem. Aroonrat Pharapirom、2.Biochem. Sirinya Taya、3.Biochem. Bantarawan Chankhieo、4.Biochem. Rawiwan Wongpoomchai）

[2P-1243] Induction of ER-stress associated apoptosis by the major component 5,7,4'-trimethoxyflavone from Kaempferia parviflora tea infusion

○Jeong Yong Moon[1]、Hyeonji Kim[2]、Supawadee Burapan[3]、Jaehong Han[3]、Somi Kim Cho[1,2]（1.Subtropical/Tropical organism gene bank, Jeju National University, Republic of Korea、2.Faculty of Biotechnology, College of Applied Life Sciences, SARI, Jeju National University, Republic of Korea、3.Metalloenzyme Research Group and Department of Integrative Plant Science, Chung-Ang University, Republic of Korea ）

[2P-1245] 独自のベクターと高密度水耕栽培法を活用したコメ品質改良のためのゲノム編集研究

○黒田 昌治[1]、山口 知哉[1]、山川 博幹[1]（1.農研機構・中央農研北陸）

[2P-1246] 微生物二段発酵茶葉及びそれを用いて調製したヨーグルトからの乳酸生成菌の単離と種類の同定

○長澤 治子[1]、岸本 結衣[2]、山本 勇[1]、稲垣 善茂[3]（1.神戸女子大・院家政・食物栄養、2.神戸女子大・家政・管理栄養、3.神戸女子大・文・教育）

[2P-1247] タデ藍の葉の3,5,4'-トリヒドロキシ-6,7-メチレンジオキシフラボン-O-グリコシドとアグリコンの抗炎症活性

中井 翔太[1,3]、木村 英人[1]、石原 朋恵[1]、地阪 光生[2,3]、○横田 一成[2,3]（1.寿製菓、2.島根大・生物資源科・生命工、3.鳥取大院・連農・資源利用化）

[2P-1248] 運動による筋線維タイプの変化によって豚肉の肉質がどう変わるか？

○澤野 祥子[1]、大座 啓史[2]、辰巳 隆一[2]、中村 真子[2]、水野谷 航[2]（1.福女短・食物栄養、2.九大・院農・畜産化学）

[2P-1249] LAMP法を用いた有毒キノコの迅速判別法の構築ー国内産クサウラベニタケ判別法の開発についてー

○菅野 陽平[1]、青塚 圭二[1]、坂田 こずえ[2]、中村 公亮[2]、鈴木 智宏[1]、近藤 一成[2]（1.北海道立衛生研究所、2.国立医薬品食品衛生研究所）

[2P-1250] イネの高温登熟障害の緩和に関する遺伝子座の解析

○松本 莉奈[1]、白石 真也[1]、王 蕾蕾[1]、松原 香菜[1]、辻内 香澄[1]、島田 浩章[1]（1.東理大・基礎工・生物工）

[2P-1251] 中鎖脂肪による高脂肪食誘導性肥満マウスの耐糖能異常改善効果と肝臓における遺伝子発現の変化

○川村 武蔵[1]、望月 和樹[1]（1.山梨大院・生環）

[2P-1252] イネの高温登熟障害の緩和に関する遺伝子座の同定の試み

○白石 真也[1]、松本 莉奈[1]、王 蕾蕾[1]、松原 香菜[1]、辻内 香澄[1]、島田 浩章[1]（1.東理大・基礎工・生物工）

[2P-1253] SIRT6活性化食品の探索とその機能性

○尾上 詩織[1]、松岡 沙季[1]、藤田 幸祐[1]、片倉 喜範[2]（1.九大院・生資環、2.九大院・農院）

[2P-1254] 高吸収クルクミン製剤による腸発がん抑制効果のメカニズム解析

○鱧屋 隆博[1,2]、足立 紗依子[3]、宮本 真吾[1]、藤井 元[4]、中西 るり[1]、小宮 雅美[1]、田村 秀哉[1]、黒川 友理絵[1]、高橋 麻衣子[1]、十島 二朗[2]、田代 康介[3]、武藤 倫弘[1,4]（1.国立がん研・社健セ・予防研究部、2.東理大・院・基礎工学、3.九大・農学・遺伝子制御学、4.国立がん研・研・発がん予防）

[2P-1255] 育毛促進成分の探索とその機能性

○松尾 花佳[1]、久保 智里[2]、片倉 喜範[3]（1.九大院・シス生、2.九大院・生資環、3.九大院・農院）

[2P-1256] プラセンタ抽出物パウダーから得られたエキソソーム様小胞体による老化ヒト正常線維芽細胞の複製寿命の延長

○高山 和江[1]、福永 早央里[2]、大野 真貴[1]、岡本 知也[1]、坪井 誠[1]、田原 栄俊[2]（1.一丸ファルコス株式会社、2.広大・院医歯薬保健学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-1257] メタボローム解析を用いたカイコガ摂取による肥満抑制機構の解明
○熊上 尚樹[1,2]、Wanping Aw[1,3]、冨田 勝[1,2,3]、福田 真嗣[1,3,4,5,6]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.慶大・院・政策・メディア、4.JST・さきがけ、5.神奈川県立産技総研、6.メタジェン）

[2P-1258] 紅藻類大型海藻ツルシラモの成長に及ぼす植物成長制御因子の影響
○垣田 浩孝[1]、小比賀 秀樹[2]（1.日大・文理、2.産総研・健康工学）

[2P-1259] 薬剤誘導型遺伝子発現抑制システムによる標的遺伝子のスイッチングの試み
○立島 彩音[1]、山本 祐子[1]、松崎 ひかる[1]、櫛谷 明日香[1]、今村 智弘[2]、島田 浩章[1]（1.東京理科大学・生物工、2.石川県立大学）

[2P-1260] ビルベリー抽出物の糖尿病性網膜症発症・進行予防効果に関する基礎的研究
○浅野 真未[1]、芳賀 早苗[2]、柴崎 彩[3]、黒澤 和也[3]、荘厳 哲哉[4]、尾崎 倫孝[1,2]（1.北大院・保健・健康イノベーションセンター、2.北大院・生体応答制御医学分野、3.北大・医学・保健学科、4.(株)わかさ生活）

[2P-1261] リポ多糖(LPS)刺激マクロファージにおけるターミナリアベリリカ抽出物及び没食子酸の炎症反応ならびに酸化ストレス制御メカニズムの解明
○田中 未央里[1]、岸本 良美[2]、佐藤 あかり[1]、佐々木 瑞穂[1]、神谷 智康[4]、近藤 和雄[2,5]、飯田 薫子[1,3]（1.お茶の水女子大・院・ライフサイエンス、2.お茶の水女子大・「食と健康」、3.お茶の水女子大・ヒューマンライフイノベーション研究所、4.株式会社東洋新薬、5.東洋大・ライフイノベーション研究所）

[2P-1262] ベータカロテンの過剰摂取は、脂肪肝を発症したスナネズミにおいて炎症関連タンパク質の発現を増大させる
○近藤 真之祐[1,2]、安田 隆史[1,2]、針谷 夏代[3,4]、望月 和樹[1,2]（1.山梨大学、2.生命環境学専攻、3.山梨学院大学、4. 健康栄養学部 管理栄養学科）

[2P-1263] 妊娠授乳期の母親のコーヒー摂取が子供に与える影響
○石川 春奈[1]、郭　暁旭[1]、都築 毅[1]（1.東北大院・農）

[2P-1264] 発酵前後の味噌がマウスの運動能に与える影響
○大河内 蘭[1]、岩垣 ゆい[1]、都築 毅[1]（1.東北大院・農）

[2P-1265] 稲わらの糖化性を高める遺伝子の探索
○伊藤 叶裕[1]、阿部 友美[1]、伊藤 幸博[1]（1.東北大・院農）

[2P-1266] ブラジル原産アンディローバ由来リモノイドは脂肪細胞の分化を抑制する
○松本 ちひろ[1]、馬場 靜[1]、田中 麗子[2]、藤森 功[1]（1.大阪薬大・院薬・病態生化学、2.大阪薬大・薬・医薬品化学）

[2P-1267] マクロファージにおける緑茶カテキン EGCGのmicroRNA発現調節作用とその機能
○山田 脩平[1]、牧尾 彰子[1]、福富 拓哉[1]、立花 宏文[1]（1.九大院・農院・生機科）

[2P-1268] ノリに含まれる非タンパク質構成アミノ酸 teneraic acidの体内動向
○堀 由歩[1]、石川 雄樹[1]、横山 雄彦[2]、長阪 玲子[1]（1.海洋大院、2.北里大）

[2P-1269] 肥満／2型糖尿病 ob/obマウスの盲腸内細菌叢に及ぼす白身魚および赤身魚由来タンパク質摂取の影響
○池田 祐生[1]、細見 亮太[1]、前多 隼人[2]、下埜 敬紀[3]、神田 靖士[3]、西山 利正[3]、吉田 宗弘[1]、福永 健治[1]（1.関大・化生工・食品化学、2.弘前大・農学生命、3.関西医大・医学）

[2P-1270] 梅加工工場排水処理施設から単離した新規ハロモナス菌の解析
○辻 彩花[1]、半田 瞳[2]、木地 翼[2]、東 慶直[1,2]（1.近大院・生物理工学・生物工学、2.近大・生物理工）

[2P-1271] 食餌中構成脂肪酸の違いによるラットの盲腸内細菌叢の変化
○松堂 杏菜[1]、細見 亮太[1]、下埜 敬紀[2]、神田 靖士[2]、西山 利正[2]、吉田 宗弘[1]、福永 健治[1]（1.関西大学化生工、2.関西医大公衆衛生）

[2P-1272] 越冬前後における赤カブ 温海かぶ" の代謝物質組成の変化"
○鶴巻 萌[1,2]、若山 正隆[1,3]、曽我 朋義[1,2,3]、冨田 勝[1,2,3]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.慶大院・政策メディア・先端生命）

[2P-1273] ニジマス筋初代培養細胞の筋分化に及ぼす小胞体ストレス経路の影響
○笠原 万有璃[1]、石川 雄樹[1]、星 剛流[1]、細田 萌菜美[1]、長阪 玲子[1]（1.東京海洋大学）

[2P-1274] カルノシンによる腸管アンチエイジングとその分子機構の解明
○花山 なな子[1]、藤井 薫[3]、佐藤 三佳子[2]、片倉 喜範[3]（1.九大院・生資環、2.日本ハム株式会社 中央研究所、3.九大院・農院）

[2P-1275] 過剰なベータカロテン摂取による耐糖能異常促

©日本分子生物学会/日本生化学会

進作用 ベータカロテン蓄積モデルスナネズミによる検討

○安田 隆史[1]、近藤 真之祐[1]、望月 和樹[1]、針谷 夏代[2]（1.山梨大・院・生命環境学・バイオサイエンス、2.山梨学院大・健康栄養学・管理栄養）

ポスター発表 | 10. 植物、農生物学、食品科学 | 6) その他（ポスター）

[2P-10-6] 10. 植物、農生物学、食品科学-6) その他

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1276] Gateway recycling cloning法によって連結した遺伝子発現カセットの植物での発現解析

○木村 哲哉[1]、岡田 大輝[1]、黒田 侑希[1]、國武 絵美[1]、粟冠 真紀子[1]、粟冠 和郎[1]、中川 強[2]（1.三重大院・生資、2.島根大・総研）

[2P-1277] 2種の植物用2遺伝子クローニングシステムの開発と発現・局在・相互作用解析

Mostafa Aboulela[1]、田中 優史[1]、木村 哲哉[2]、○中川 強[1]（1.島根大・総科セ・遺伝子、2.三重大院・生資）

[2P-1278] タバコ葉における dual site Gateway binary vector（ DSpGWB）を用いた2遺伝子一過的同レベル同時発現

○横山 頌弥[1,2]、西村 浩二[1]、木村 哲哉[3]、中川 強[1]（1.島根大・総科センター・遺伝子、2.島根大院・生資、3.三重大院・生資）

[2P-1279] Xylooligosaccharide production from fruit peels by xylanase hydrolysis

○Jidapha Tinoi[1]、Pornpailin Meakarkat[1]、Thippawan Khunyotying[2]（1.Dept. of Chem., Fac. of Sci., CMU、2.Grad. Sch., CMU）

[2P-1282] 走査型プローブ顕微鏡を用いたボルボックスの推進力の解析

○三留 規誉[1]、堀永 晃作[1]、伊藤 瑞希[1]、新留 愛理[1]、若林 十雲[1]、植木 紀子[2]、若林 憲一[2]、藤田 和孝[3]、島袋 勝弥[1]（1.宇部工業高等専門学校　物質工学科、2.東京工業大学　化学生命科学研究所、3.宇部工業高等専門学校　機械工学科）

[2P-1283] オオムギ由来Ｌ-メチオニンγ-リアーゼの構造と機能解析

○杉本 学[1]、田中 英彦[2]、村上 允唯[2]（1.岡大・植物研、2.機能性食品開発研究所）

[2P-1284] ウイルス RNAサイレンシングサプレッサーの機能解析に向けた RNAサイレンシング活性定量系の確立

○後藤 尚隆[1]、竹内 信弘[1]、竹田 篤史[1]（1.立命大院・生命科学）

[2P-1285] 35Sプロモーターを含んだ T-DAN挿入変異体における外来遺伝子の過剰発現系の構築

○竹内 信弘[1]、竹田 篤史[1]（1.立命大・院・生命科学）

[2P-1286] ヘビノネゴザの根のカドミウムストレス耐性機構に関する微視的解析

○鵜飼 優子[1]、鎌田 まなか[1]、北崎 一義[2]、橋田 慎之助[2]、庄子 和博[2]、後藤 文之[2]、吉原 利一[1,2]、島田 浩章[1]（1.東理大・基礎工・生物工、2.電中研）

[2P-1287] ウシ第１胃（ルーメン）における生体防御とケモカインの関係

○西原 昂来[1]、鈴木 裕[2]、金 多慧[1]、芳賀 聡[3]、盧 尚建[1]（1.東北・院農・動物生理、2.北海道・院農・動物機能栄養、3.農研・畜産研・放牧家畜）

[2P-1288] タンジンの遺伝的多様性についての解析

○小此木 明[1]、田 園[1]、高橋 隆二[1]（1.クラシエ製薬（株）漢方研究所）

[2P-1289] PGPBによるシロイヌナズナの植物生長促進作用メカニズムの解析

○中岡 知規[1]、澤田 祥子[1]、大浦 麻里[1]、阿野 貴司[1]、岡南 政宏[1]（1.近畿大院・生物理工）

[2P-1290] オオムギの形質転換能に関わるゲノム領域の同定

○久野 裕[1]、Patrick Hayes[2]、佐藤 和広[1]（1.岡山大・植物研、2.オレゴン州立大）

[2P-1291] ヒラタケ (*Pleurotus* sp.) 子実体の自己消化におけるトレハラーゼについて

○アラスト アリレザ[1]、中澤 昌美[1]、阪本 龍司[1]、楠田 瑞穂[1]、小林 仁[2]、大内 謙二[2]、稲富 聡[2]、上田 光宏[1]（1.阪府大院・生環科、2.ホクト・きのこ総合研究所）

[2P-1292] ヤナギマツタケ（ Agrocybe cylindracea）の子実体特異的蛋白質 PRI4の解析

○橋本 みつき[1]、山崎 香奈[1]、進 正志[1]、岩田 眞人[2]、松元 俊彦[1]、安藤 祥司[1]（1.崇城大・院工・応用微生物、2.IMB）

[2P-1293] テオフィリン依存型人工リボスイッチを用いたシアノバクテリアにおけるアルカン増産の試み

○金子 太樹[1]、福田 寛史[2]、武波 洋志[1]、朝山 宗彦[1]、中平 洋一[1]（1.茨城大・農、2.東大・院・農学生命）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 1) バイオインフォマティクス（ポスター）

[2P-11-1] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-1) バイオインフォマティクス

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-1294] タンパク質の相互作用面のネットワーク表現と特徴づけ
○赤塚 圭亮[1]、太田 元規[1]（1.名大・院情・複雑系科学）

[2P-1295] 統合的転写開始点リファレンス(refTSS)の開発
○野口 修平[1]、Imad Abugessaisa[1]、長谷川 哲[1]、川路 英哉[2]、粕川 雄也[1]（1.理研・CLST、2.理研・PMI）

[2P-1296] *O*-GlcNAc修飾タンパク質の種間解析
○田中 純[1]、藤井 正興[1]、小島 寿夫[1]、伊藤 將弘[1]（1.立命館大学大学院・生命科学研究科）

[2P-1297] Lactobacillus plantarumの比較ゲノム解析
○堀井 元貴[1]、太田 元規[1]（1.名大・院情・複雑系科学）

[2P-1298] マイクロアレイのメタ解析による色素上皮由来因子 PEDFの関連遺伝子探索
○坂口 達也[1]、東元 祐一郎[1]（1.久留米大・医・化学）

[2P-1299] バクテリアの有するグループIIイントロンの網羅的比較および進化解析
○三浦 昌浩[1,2]、永田 祥平[1,2]、玉木 聡志[1]、冨田 勝[1,2,3]、金井 昭夫[1,2,3]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.慶大院・政策メディア・先端生命）

[2P-1300] Atom Mapping Matrixと Connectivity matrixの相互変換
○太田 潤[1]（1.岡山大・院医歯薬総・生化学）

[2P-1301] マウス ES細胞をモデルとした ChIP-SeqおよびRNA-Seq解析データの統合アプローチ
○市川 巧[1]、山根 万里子[1]、松浦 公美[1]、小田 真由美[2]、洪 実[2]、丹羽 仁史[1]（1.熊本大・発生研・多能性幹細胞、2.慶應大・医・システム医学）

[2P-1302] 機械学習を用いた天然変性領域中の機能部位予測～予測精度向上への試み～
○安保 勲人[1]、天貝 宏樹[1]、福地 佐斗志[1]（1.前工大・院工・生命情報）

[2P-1303] スプライシング操作化合物 TG003の標的エキソン探索アルゴリズムの開発、および改良
○飯田 慶[1]、豊島 裕美[1]、佐久間 真紀[1]、出縄 政嗣[1]、萩原 正敏[1]（1.京都大学大学院 医学研究科）

[2P-1304] 系統プロファイルを用いた全ヒトヒストン修飾酵素の進化解析
○下崎 五津子[1]、中村 孝大[2]、田中 純[2]、小島 寿夫[1]、伊藤 將弘[1]（1.立命館大学生命科学部生命情報学科、2.立命館大学生命科学研究科生命科学コース）

[2P-1305] 系統プロファイル法による小胞体ならびにゴルジ体におけるヒトタンパク質の進化解析
○那須 敦也[2]、田中 純[1]、中村 孝大[1]、伊藤 將弘[2]、小島 寿夫[2]（1.立命館大・院生・生命情報、2.立命館大・生命科学・生命情報）

[2P-1306] ヒト核内 long non-coding RNAの進化解析
○内田 晴基[1]、中村 孝大[2]、田中 純[2]、小島 寿夫[1]、伊藤 將弘[1]（1.立命館大・生命科学・生命情報、2.立命館大院・生命科学・生命情報）

[2P-1307] レコメンドアルゴリズムを用いた遺伝子が関与する疾患の予測
○里山 翔吾[1]、藤 博幸[1]（1.関西学院大学・院理工・生命科学）

[2P-1308] ロングリードによるヒトゲノム構造多型検出に向けて
○原薗 陛正[1]、笠原 雅弘[1]（1.東大・大学院・新領域・メディカル情報生命）

[2P-1309] 次世代シーケンシングによるピロールイミダゾールポリアミドの生化学的評価 Chem-seqプラットフォームの開発
○Jason Lin[1,2]、高取 敦志[1]、平岡 桐子[1]、養田 裕行[1]、Sakthisri Krishnamurthy[1]、井上 貴博[1]、渡部 隆義[1]、Tony Kuo[2]、篠崎 喜脩[1]、越川 信子[1]、Paul Horton[2]、永瀬 浩喜[1]（1.千葉県がんセンター研究所・がん遺伝創薬研究室、2.産業技術総合研究所・人工知能研究センター）

[2P-1310] 異なる個人由来の Bifidobacterium longum菌株の比較ゲノム解析
○渡部 翔[1,2]、吉田 祐貴[1,2]、鈴木 治夫[1,3]、冨田 勝[1,2,3]、荒川 和晴[1,2,3]、福田 真嗣[1,2,4,5,6]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・院・政策・メディア、3.慶大・環境情報、4.JST・さきがけ、5.神奈川県立産技総研、6.メタジェン）

[2P-1311] Mutation@A Glance: ヒトにおける意義不明バリアントの解明を目指した統合解析ツール
○土方 敦司[1]、白井 剛[1]（1.長浜バイオ大）

[2P-1312] ガン関連 long-noncoding RNAの発現制御の解析
○林 大介[1]、近藤 洋介[2]、宮崎 智[2]（1.東京理科大・院薬・薬科学専攻、2.東京理科大・薬・生命創薬科学）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 2) システムバイオロジー、合成生物学（ポスター）

[2P-11-2] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-2) システムバイオロジー、合成生物学

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1313] ゲノム領域の分節化によるＲＮＡファージゲノムの再構築

©日本分子生物学会/日本生化学会

○井口 義夫[1]、木下 暈輔[1]、箱島 紀子[1]（1.帝京大・理工・バイオサイエンス）

[2P-1314] 哺乳動物の全細胞系譜追跡にむけたDNAバーコード技術の開発

○増山 七海[1,2,3]、石黒 宗[1,2,4]、森 秀人[1,2,4]、増井 修[5]、関 元昭[1]、松尾 采佳[1,2,3]、西田 敬二[6]、榊 健太郎[1]、近藤 昭彦[6,7]、冨田 勝[2,3,4]、油谷 浩幸[1]、古関 明彦[5]、谷内江 望[1,2,4,8,9]（1.東大・先端研、2.慶大・先端生命研、3.慶大・環境情報、4.慶大・政策メディア・先端生命、5.理研・IMS、6.神戸大・院・イノベーション、7.神戸大・院・工、8.東大・院・理・生物科学、9.JST・さきがけ）

[2P-1315] 解糖系をエネルギー源とした無細胞転写翻訳系の再構築

○木下 紗希[1]、藤原 慶[1]、土居 信英[1]（1.慶大・院理工）

[2P-1316] 無細胞タンパク質合成システムを用いたMinシステムの挙動解析

○吉田 葵[1]、光山 隼史[1]、土居 信英[1]、藤原 慶[1]（1.慶大・院理・生命分子工学）

[2P-1317] 酵母フェロモンシグナル伝達を利用した遺伝子回路の構築と数理モデル化

○大沼 泰秀[1,2]、冨田 勝[1,3,4]、谷内江 望[1,4,5]、内藤 泰宏[1,3,4,5]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・総合政策、3.慶大・環境情報、4.慶大・院・政策メディア・先端生命、5.東大・先端研・合成生物学）

[2P-1318] 非天然型修飾の導入による RNAの機能改善と細胞への応用

○赤峰 冴[1,2]、大野 博久[2]、齊藤 博英[2]（1.京大・院医・医科学、2.京大・CiRA）

[2P-1319] 出芽酵母における重力への適応メカニズム

○根本 翔太[1]、大貫 慎輔[1]、大矢 禎一[1]（1.東大・院新領域・先端生命）

[2P-1320] 遺伝子回路の確率的な振る舞いと集団の挙動の数理モデル

○成田 明未[1,2]、冨田 勝[1,2,3]、内藤 泰宏[1,2,3]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.慶大院・政策メディア・先端生命）

[2P-1321] 組換えバキュロウイルスを利用した球状支持二重膜(SS-BLM)への膜タンパク質再構成法の検討

○中西 航平[1]、冨田 昌弘[1]、湊元 幹太[1]（1.三重大・院工・分子素材工学）

[2P-1322] 高次元形態表現型に基づく遺伝子機能特異的表現型自動抽出法の開発

○大貫 慎輔[1]、徐 聴涛[1]、大矢 禎一[1]（1.東大・院新領域・先端生命）

[2P-1323] DNAオリガミを用いた直行性を有する転写デバイスの合理的設計

○増渕 岳也[1,2]、遠藤 政幸[3]、飯塚 怜[4]、井口 彩香[5]、Dong Yoon[5]、関口 哲志[6]、Hao Qi[7]、飯沼 良介[2]、宮薗 侑也[2]、庄子 習一[5]、船津 高志[4]、杉山 弘[8]、原田 慶恵[9]、上田 卓也[2]、多田隈 尚史[9]（1.東大・分生研、2.東大・新領域、3.iCeMS・京大、4.東大・院薬、5.早稲田・先進理工、6.早稲田・ナノ・ライフ創新研究機構、7.天津大・化工、8.京大・院化、9.阪大・蛋白研）

[2P-1324] 心筋細胞の拍動同期現象に関する数理モデル

○林 達也[1,4]、時弘 哲治[1,4]、栗原 裕基[2,4]、安田 賢二[3,4]（1.東大・院数理、2.東大・院医、3.早大・先進理工、4.科学技術振興機構 CREST）

[2P-1325] クロマチン状態変化による NF-kappaBスーパーエンハンサーの制御機構

○岩本 一成[1]、岡田 眞里子[1,2]（1.阪大・蛋白研、2.理研・統合生命医科学）

[2P-1326] B細胞の生存を制御する BAFF受容体シグナルの数理解析の試み

○安田 翔也[1]、Yang Zhou[2]、Ji-Yang Wang[2]、山村 雅幸[3]（1.東工大・院総理・知シス科学、2.復旦大・免疫学系、3.東工大・情理工院・情報工学系）

[2P-1327] 第二世代 OGAB法に適した、新規二本鎖DNA調達方法の開発

○高橋 俊介[1]、柘植 謙爾[1]、近藤 昭彦[1]（1.神戸大・科学技術イノベ）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 3) 分子進化、分類（ポスター）

[2P-11-3] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-3) 分子進化、分類

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1328] 徳島県産発酵茶茶葉と台湾茶発酵茶茶葉の微生物系統解析

岩田 晴花[1]、野々市 元[1]、長谷川 愛[1]、荒井 誠司[1]、駒原 大樹[1]、藤井 美月[1]、井上 翔太[2]、秋吉 研二[2]、○佐藤 高則[3]（1.徳島大・総科・生化、2.徳島大院・総科・生化、3.徳島大院・理工・生化）

[2P-1329] 徳島県三好市で生産される阿波番茶および非発酵茶葉中の微生物相解析

○藤井 美月[1]、岩田 晴花[1]、野々市 元[1]、長谷川 愛[1]、荒井 誠司[1]、駒原 大樹[1]、秋吉 研二[2]、佐藤 高則[3]（1.徳島大・総科・生化、2.徳島大院・総科・生化、3.徳島大院・理工・生化）

[2P-1330] 配列類似性ネットワークを通じた HIV-1におけ

©日本分子生物学会/日本生化学会

るアンチセンスタンパク質遺伝子の進化解析
○梁田 麻佳[1,2]、永田 祥平[1,2]、冨田 勝[1,2]、佐藤 裕徳[3]、金井 昭夫[1,2]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.感染研・病原体ゲノム）

[2P-1331] 種の壁としての APOBEC3Gとレンチウイルスの適応進化
○中野 雄介[1]、山本 啓輔[1]、熊田 隆一[2]、麻生 啓文[1]、Andrew Soper[1]、三沢 尚子[1]、今野 順介[1]、木村 出海[1]、長岡 峻平[1]、Guillermo Juarez-Fernandez[1]、佐藤 佳[1,3]、小柳 義夫[1]（1.京大・ウイルス再生研・システムウイルス学、2.京大・理、3.CREST, JST）

[2P-1332] ヤマカオジロショウジョウバエの性比異常現象における２つの要因の比較研究
○和多田 正義[1]、芳村 奏夢[1]、杉本 貴史[2]、加藤 雄大[1]、陰山 大輔[2]（1.愛媛大・院裡・生物、2.農研機構・生物機能）

[2P-1333] ヒト poly-Q配列反復多型はリスクを抱えながらもなぜ維持されるのか
○嶋田 誠[1]、前田 明[1]（1.藤田保衛大・総医研・遺伝子発現機構学）

[2P-1334] 真骨魚類の孵化酵素遺伝子はプロモーターと一緒に retrotranslocationを起こした
○長澤 竜樹[1,2]、川口 眞理[3]、矢野 十織[2]、安増 茂樹[3]、岡部 正隆[2]（1.学振・PD、2.慈恵医大・解剖、3.上智大・理工）

[2P-1335] タンパク質進化の配列空間探索に及ぼす安定性の影響
○太田 夏子[1]、倉橋 亮[1]、佐野 智[1]、高野 和文[1]（1.京府大・生命環境）

[2P-1336] 宿主ゲノム中の分子化石が明らかにするエビ病原ウイルスの起源と進化
○川戸 智[1]、野崎 玲子[1]、近藤 秀裕[1]、廣野 育生[1]（1.海洋大・院）

[2P-1337] 植物寄生・共生菌に特徴的な新規バクテリオロドプシンオルソログの発見
○齋藤 禎一[1]、峯田 克彦[1]、五條堀 孝[1]（1.CBRC, KAUST）

[2P-1338] ゴキブリの腸から得られた *Entamoeba* の遺伝的多様性
○川野 哲郎[1,2]、今田 美穂子[2,4]、Pennapa Chamavit[3]、小林 正規[4]、橋本 哲男[1,5]、野崎 智義[2,6]（1.筑波大・院・生命環境、2.感染研・寄生動物、3.Fac. Med. Tech., Hauchiew Univ.、4.慶應大・医、5.筑波大・計算科学センター、6.東大・医）

[2P-1339] 転移因子が拡大させたシス制御配列の多様性
○西原 秀典[1]（1.東工大・生命理工）

[2P-1340] 好熱性細菌 strain Kps3の分類および性質決定
○門本 彩[1]、前島 克樹[1]、早川 准平[1]、粟井 貴子[1]、石塚 盛雄[1]（1.中央大・理工・応化）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 4) オミックス解析技術（ゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクス）（ポスター）

[2P-11-4] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-4) オミックス解析技術（ゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクス）

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1341] マルチオミクス解析とデータベース解析の融合による SPN-4の胚発生過程の遺伝子カスケード解析
○野元 優介[1]、大西 優斗[1]、小島 寿夫[2]、伊藤 將弘[2]（1.立命館大・院生・生命情報、2.立命館大・生命科学・生命情報）

[2P-1342] 新しい1本鎖 DNAアダプターの連結反応を用いた高効率な WGBSのライブラリー調製法
○三浦 史仁[1,2]、三浦 美希[1]、柴田 由希子[1]、伊藤 隆司[1]（1.九大・院医・医化学、2.JST・さきがけ）

[2P-1343] アルツハイマー病関連ノンコーディングバリアントの染色体高次構造解析
○菊地 正隆[1]、原 範和[2]、長谷川 舞衣[1]、宮下 哲典[2]、桑野 良三[3]、池内 健[2]、中谷 明弘[1]（1.大阪大学大学院医学系研究科、2.新潟大学脳研究所、3.旭川荘総合研究所）

[2P-1344] トランスクリプトーム解析によるクマムシ樽形成の意義の解析
○西野 稜介[1,2]、吉田 祐貴[1,3]、冨田 勝[1,2,3]、堀川 大樹[1,3]、荒川 和晴[1,2,3]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.慶大・政策メディア・先端生命）

[2P-1345] 哺乳類染色体複製ドメイン構造を単一細胞レベルで解析できる scRepli-seq法の開発
○竹林 慎一郎[1]、柴田 隆豊[1]、高橋 沙央里[2]、三浦 尚[2]、平谷 伊智朗[2]、奥村 克純[3]、緒方 正人[1]（1.三重大・院医・機能プロテオミクス、2.理研・CDB・発生エピジェネティクス、3.三重大・院生資・分子細胞生物学）

[2P-1346] 100pg total RNAからの RNA-seq
○野間 将平[1]、田上 道平[1]、高橋 知登世[1]、伊藤 昌可[1,2]（1.理研 CLST DGT、2.理研 PMI）

[2P-1347] ダブシルラベルによる D-アミノ酸定量法の開発
○小那覇 眞子[1]、下地 康介[1]、稲福 周[1]、石田 哲夫[1]（1.琉大・海自・化学）

[2P-1348] 微量検体からのショットガンシーケンスによるメタゲノム解析手法の標準化

○木村 剛隆[1]、蘆田 尚子[1]、奥田 華代[1]、佐藤 将一[1]、辻本 善政[1]、嶌田 雅光[1]、北川 正成[1]（1.タカラバイオ株式会社 バイオメディカルセンター）

[2P-1349] マルチオミクスデータを利用した分子ネットワーク解析

○谷口 理恵[1]、重高 美紀[1]、井上 陽子[1]、岩崎 奈可子[1]、太田 美枝子[1]、増野 和子[1]、鈴木 菜穂[1]、宮原 静[1]、重高 誠[1]（1.株式会社KMデータ）

[2P-1350] 哺乳類細胞においてタンパク質発現量の限界を測定する実験系の確立および解析

○森 吉弘[1]、吉田 由紀[3,4]、北野 弘明[3,4]、佐藤 あやの[1]、守屋 央朗[2]（1.岡大・院自・生医工、2.岡大・異分野コア、3.理研IMS疾患システムモデリング研究グループ、4.ソニーCSL）

[2P-1351] 16SrRNA遺伝子を用いた細菌叢解析の分析性能評価

○奥田 華代[1]、蘆田 尚子[1]、木村 紗綾佳[1]、久保 恵子[1]、木村 剛隆[1]、佐藤 将一[1]、辻本 善政[1]、嶌田 雅光[1]、北川 正成[1]（1.タカラバイオ株式会社）

[2P-1352] マルチオミクスによる蜘蛛糸遺伝子の網羅的比較解析

○河野 暢明[1]、藤原 正幸[1]、中村 浩之[2]、大利 麟太郎[2]、冨田 勝[1]、荒川 和晴[1]（1.慶大・先端生命研、2.Spiber株式会社）

[2P-1353] ABCD1ノックアウト細胞における極長鎖脂肪酸CoAの定量

○濱 弘太郎[1]、藤原 優子[1]、山下 純[1]、横山 和明[1]（1.帝京大・薬）

[2P-1354] 小胞体ストレスとミトコンドリア膜電位に関与する TMEM117の機能の解析

○玉木 智也[1]、鎌塚 健太[1]、佐藤 琢[1]、師岡 俊太郎[1]、大塚 康介[1]、服部 正蔵[2]、杉山 友康[1]（1.東京工科大、2.RNAi Inc）

[2P-1355] tRNAの稼働率に着目した物質生産性の向上

○廣瀬 修一[1]、劉 暁麗[1]（1.長瀬産業株式会社・研究開発部）

[2P-1356] *Euglena gracilis*の葉緑体欠損変異株の遺伝子発現変動解析

○土澤 優里[1,2]、吉田 祐貴[1,3]、石井 侑樹[4,5]、冨田 勝[1,2,3]、石川 孝博[4,5]、荒川 和晴[1,2,3]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.慶大院・政策メディア・先端生命、4.島根大・生物資源、5.JST・CREST）

[2P-1357] NGSと機械学習を用いた in silicoプロテオミクス

Markus de Ruijter[1,2]、冨田 勝[1]、○Josephine Galipon[1]（1.慶大・先端生命研、2.アムステルダム大）

[2P-1358] マルチオミクス解析による希少遺伝性疾患発症責任因子の同定

○岡 泰由[1]、中沢 由華[2]、荻 朋男[1]（1.名古屋大学、2.長崎大学）

[2P-1359] ジャポニカアレイ V2を用いた東北メディカル・メガバンク・コホート1.8万人分のゲノムワイド SNP解析

○檀上 稲穂[2]、田宮 元[2,3]、牧野 悟士[3]、木村 雅恵[2]、伊藤 信[2]、五丁 千夏[2]、相馬 聡[2]、Study Group ToMMo[4]、木下 賢吾[1]、山本 雅之[1]（1.東北大・メガバンク・ゲノム解析、2.東北大・メガバンク・ゲノム解析・アレイ解析、3.東北大・メガバンク・ゲノム解析・リスク統計、4.東北大・メガバンク）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 5) 遺伝子工学、核酸工学、ゲノム編集（ポスター）

[2P-11-5] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-5) 遺伝子工学、核酸工学、ゲノム編集

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1360] A survey of Clustered Regularly Interspaced Short Palindromic Repeats (CRISPR) elements among antibiotic resistant strains of Enterococcus: implications on virulence

Noel H Tan Gana[1]、Ji Soo Lee[2]、Ma. Carmela M Vinzon[2]、Merab A Chan[2]、Rosario G Monsalud[1]、○Neil Tan Gana[2]（1.PNCM, BIOTECH, UP Los Banos、2.Dept. of Biology, Ateneo de Manila Univ.）

[2P-1361] ゲノム編集が広げるラットリソースの可能性：NBRP-Ratと先端モデル動物支援

○宮坂 佳樹[1]、吉見 一人[2]、國廣 弥生[1]、服部 晃佑[1]、山内 祐子[1]、小谷 祐子[1]、清水 加奈子[1]、宮川 真智子[1]、水野 洋子[1]、外野 善弘[1]、真下 知士[1,2]（1.阪大・医・附属動物実験施設、2.阪大・院医・附属共同研・ゲノム編集センター）

[2P-1362] パーティクルボンバードメント法による植物生殖細胞への CRISPR/Cas9の導入

○永原 史織[1]、栗原 大輔[2]、東山 哲也[1,2]、水多 陽子[1,3]（1.名大・トランスフォーマティブ生命分子研究所、2.名大院・理、3.JST・さきがけ）

[2P-1363] RNPエレクトロポレーションによるラット前核期胚の高効率なゲノム編集

○水野 直彬[1]、佐藤 秀征[1]、加藤ー伊藤 めぐみ[1]、山口 智之[1]、中内 啓光[1,2]（1.東大医科研・幹細胞治

©日本分子生物学会/日本生化学会

療、2.スタンフォード大）

[2P-1364] NGS解析を用いたスクリーニングによるゲノム編集 iPS細胞クローンの取得
○天石 泰典[1]、安益 公一郎[2]、岡本 幸子[1]、辻本 善政[2]、榎 竜嗣[1]、峰野 純一[1]（1.タカラバイオ株式会社 CDMセンター、2.タカラバイオ株式会社 バイオメディカルセンター）

[2P-1365] 複製サイクル増幅法を用いた10万塩基対を超える長鎖ゲノム領域の無細胞クローニング
○加納 巧希[1]、倉田 竜明[1]、篠原 赳[1]、末次 正幸[1]（1.立教大・理・生命理）

[2P-1366] 植物用 TALEN構築のための高効率2遺伝子発現ベクターの開発
○堀江 峻晃[1]、小野寺 瞳[1]、紀平 望帆[1]、青木 裕美[1,2]、大沼 万里子[1]、草野 博彰[1,3]、寺村 浩[1]、島田 浩章[1]（1.東京理科大・生物工、2.理研・環境資源科学研究センター、3.京都大・生存圏研究所）

[2P-1367] エピゾーマル複製型ベクターを用いた新規 shRNAの探索
○奥山 亮之[1]、杉山 友康[1]（1.東京工科大・院バイオ・バイオニクス）

[2P-1368] マウスがん幹細胞株 miPS-LLCcmへのエピゾーマルベクターの導入効率の検討
○森川 大生[1]、笠井 智成[2]、妹尾 昌治[2]、杉山 友康[1]（1.東京工科大学・院・バイオ・情報メディア研究科、2.岡山大学・院・自然科学研究科）

[2P-1369] 翻訳エンハンサー dMac3を利用したゲノム編集による低アミロースジャガイモの作出
○大沼 万里子[1]、草野 博彰[1,2]、堀江 峻晃[1]、市野澤 大[1]、朝日 貴大[1]、青木 裕美[1,3]、紀平 望帆[1]、浅野 賢治[4]、野田 高弘[4]、寺村 浩[1]、島田 浩章[1]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.京大・生存研、3.理研・CSRS、4.農研機構・北海道農業研究センター）

[2P-1370] 膜酸化細胞評価系を用いたガン細胞の ROS発生に関与する新規 shRNAの探索
○平塚 達也[1]、杉山 友康[1]（1.東京工科大・院バイオ・バイオニクス）

[2P-1371] ゲノム編集技術を用いたヒト iPS細胞からの MyoD誘導型骨格筋分化誘導法の確立
○大友 淳[1]、ウォルツェン クヌート[1]、櫻井 英俊[1]（1.京都大学 iPS細胞研究所）

[2P-1372] アプタマーの標的タンパク質への結合にポリアミンが及ぼす影響
○古川 朋永[1]、佐藤 央之[1]、天野 亮[1]、岸 美穂子[1]、神津 知子[2]、坂本 泰一[1]（1.千葉工大、2.埼玉県立がんセンター）

[2P-1373] 細胞質 RNAウイルスベクターを利用した新規 microRNA発現系の開発
○佐野 将之[1]、中須 麻子[1]、大高 真奈美[1]、中西 真人[1]（1.産総研・創薬基盤研究部門）

[2P-1374] SA-β-galを指標とした細胞老化評価系による新規 shRNAの探索
○瀧 政宏[1]、中村 直輝[1]、杉山 友康[1]（1.東京工科大・院バイオ・バイオニクス）

[2P-1375] 翻訳エンハンサーを利用した有用物質生産法の開発の試み
○和食 麻衣[1]、今村 智弘[2]、青木 裕美[4]、佐藤 航平[1]、草野 博彰[3]、寺村 浩[1]、島田 浩章[1]（1.東理大・生物工、2.石川県立大学、3.京大・生存圏研、4.理研・環境資源科学研究センター）

[2P-1376] ALAS2変異による遺伝性鉄芽球性貧血のモデル細胞樹立
○金子 桐子[1]、千田 大誠[1]、久保田 美子[1]、野村 和美[1]、古山 和道[1]（1.岩手医科大学医学部生化学講座）

[2P-1377] エレクトロポレーション法による受精卵ゲノム編集
○中尾 和貴[1]、中尾 晴美[1]、饗場 篤[1]（1.東大・医・動物資源）

[2P-1378] マウス受精卵での CRISPR/Cas9によるノックインマウス作製の最適化
○阿部 高也[1,2]、井上 健一[1]、清成 寛[1,2]、古田 泰秀[1,2]（1.RIKEN CLST・生体モデル開発ユニット、2.RIKEN CLST・生体ゲノム工学研究チーム）

[2P-1379] ゲノム編集技術を利用した新しいコンディショナルノックアウト法による Ddx1の機能解析
○鈴木 輝彦[1]、田中 貴代子[1]、原 孝彦[1]（1.都医学研・幹細胞）

[2P-1380] CRISPR/Cas9システムを用いたネムリユスリカ培養細胞のゲノム編集とその応用
○宮田 佑吾[1,2]、徳本 翔子[3]、櫻井 実[1]、黄川田 隆洋[2,3]（1.東工大、2.農研機構、3.東大）

[2P-1381] 長鎖環状 DNAの複製サイクル増幅における oriCトランスポゾンの利用
○奈良 聖亜[1]、末次 正幸[1]（1.立教大・理・生命理）

[2P-1382] 広範なゲノム領域を正確に編集可能なゲノム編集技術の開発
○黒田 浩一[1]、里村 淳[1]、植田 充美[1]（1.京大院・農・応用生命）

[2P-1383] 高正確性 PCR酵素を使用した DNAメチル化解析
○新井 康広[1]、小林 哲大[1]、黒板 敏弘[1]（1.東洋紡株式会社 敦賀バイオ研究所）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2P-1384] クロマトグラフィー技術を用いた8型アデノ随伴ウイルスベクター(rAAV8) の精製

○伴野 太郎[1,2]、増田 千明[1]、宮川 世志幸[1]、岡田 浩典[1]、平井 幸彦[1]、石井 亜紀子[3]、玉岡 晃[3]、岡田 尚巳[1]（1.日本医大・院医・分子遺伝医学、2.筑波大・院人間総合科学・疾患制御医学、3.筑波大・医学医療・神経内科）

[2P-1385] イオン交換カラムクロマトグラフィー技術による組換え5型アデノ随伴ウイルス精製法の開発

○増田 千明[1]、伴野 太郎[1]、宮川 世志幸[1]、岡田 浩典[1]、平井 幸彦[1]、岡田 尚巳[1]（1.日本医大・生化学・分子生物学（分子遺伝学））

[2P-1386] HeLa細胞における21番染色体トリソミーのダイソミー化

○佐藤 浩[1]、加藤 大樹[1]、山座 治義[1]、増田 啓次[2]、Huong Nguyen[1]、Thanh Pham[1]、韓 旭[1]、廣藤 雄太[1]、野中 和明[1]（1.九大・院歯・小児口腔、2.九大・九大病院・小児歯・スペシャルニーズ歯）

[2P-1387] 複製サイクル再構成型増幅法による多断片連結環状 DNAのクローニング

○倉田 竜明[1]、小野 敬子[1]、萩生田 絵美[1]、末次 正幸[1]（1.立教大・理・生命理）

[2P-1388] 人工リボスイッチを活用した葉緑体遺伝子発現誘導系の評価

○山根 里佳[1]、小川 敦司[2]、戸澤 譲[3]、椎名 隆[4]、中平 洋一[1]（1.茨城大・農、2.愛媛大・PROS、3.埼玉大・院・理工、4.京都府大・院・生命環境）

[2P-1389] CRISPR-Cas9システムを用いた大腸菌ゲノム編集

○三宅 裕可里[1]、菅原 真悟[2]、須藤 美紗樹[2]、山内 えりか[1]、石浜 明[3]、山本 兼由[1,2,3]（1.法政大・院理工・生命、2.法政大・生命、3.法政大・ナノテクセンター）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 6) タンパク質工学、抗体工学、細胞工学（ポスター）

[2P-11-6] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-6) タンパク質工学、抗体工学、細胞工学

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1390] ファージディスプレイによるメチル化リジン特異的抗体の取得

○石井 美咲[1]、中木戸 誠[1]、津本 浩平[1,2]（1.東大・院工・バイオエンジニアリング、2.東大・医科研）

[2P-1391] キリディウス・ポッペイ由来 GFP様タンパク質変異体の開発

○清水 晃尚[1]、白鳥 行大[1]、堀井 克紀[1]、和賀 巌[1]（1.NECソリューションイノベータ株式会社）

[2P-1392] RNA結合タンパク質 PUFの認識塩基数拡張と内在 RNAの制御

○篠田 昂樹[1]、今西 未来[1]、二木 史朗[1]（1.京大・化研）

[2P-1393] PEGA樹脂上にポリリジンを介して固定化した酵素の触媒能と安定性

○山口 浩[1]、熊本 紗也加[2]、荒木 朋洋[2]（1.東海大・阿蘇教養、2.東海大・農・バイオ）

[2P-1394] 2種のがん関連抗原を標的とする三重特異性T細胞リクルート抗体の作製

○中村 亮太[1]、津村 千尋[1]、北村 昌也[1]、中西 猛[1]（1.阪市大・院工・化生）

[2P-1395] 無細胞タンパク質合成法を用いたセレノシステイン導入によるタンパク質の機能改変

○関 英子[1]、柳沢 達夫[1]、横山 茂之[1]（1.理研・構造生物）

[2P-1396] 核酸医薬の DDSに利用可能な低分子抗体の設計

○三浦 大輔[1]、服部 峰充[1]、二井手 哲平[1]、中澤 光[1]、梅津 光央[1]（1.東北大・院工・バイオ工学）

[2P-1397] キメラ抗原受容体 T細胞療法への利用を目指した腫瘍抗原特異的なラクダ科ドメイン抗体の単離

○川妻 加奈[1]、吉田 麻衣子[2]、塚原 成俊[3]、村上 明一[2]、岸本 英博[2]（1.琉大・医、2.琉大・院医、3.イノベックスサイエンス社）

[2P-1398] 新規デコイ受容体発現 T細胞療法を見据えた抗免疫チェックポイント関連分子抗体の作製

○小渡 由菜[1]、吉田 麻衣子[2]、塚原 成俊[3]、村上 明一[2]、岸本 英博[2]（1.琉大・医、2.琉大・院医、3.イノベックスサイエンス株）

[2P-1399] LARFHと sulerythrinの共重合により形成される人工タンパク質線維の分岐の抑制

○内山 智尋[1]、八木 創太[1]、山岸 明彦[1]（1.東京薬科・院生命科学・生命科学）

[2P-1400] 一本鎖抗体融合分子を用いた血清 AGEs修飾タンパク質の分離・濃縮法の開発

福田 夏希[1]、山内 聡一郎[1]、早野 翼[2]、佐藤 卓史[1]、増田 豪[3]、堀内 正隆[4]、小橋川 敬博[1]、大槻 純男[3]、○森岡 弘志[1]（1.熊大・院薬・生命分析化学、2.熊大・薬・生命分析化学、3.熊大・院薬・微生物薬学、4.北海道医療大・薬）

[2P-1401] タンパク質ナノブロック戦略による人工レクチン超分子複合体の創出を目指して

○入間川 伸[1]、舘野 浩章[2]、平林 淳[2]、新井 亮一[1,3]（1.信州大・繊維・応用生物、2.産総研・創薬基

©日本分子生物学会/日本生化学会

盤、3.信州大・繊維微生物セ）

[2P-1402] 立体構造認識モノクローナル抗体の分子生化学的解析
○市川 敬介[1]、宮前 智帆[1]、磯崎 勇志[1]、湊元 幹太[1]、冨田 昌弘[1]（1.三重大・院工・分子生物工学）

[2P-1403] 量子ドットナノプローブを用いたTauリピートペプチドによるアミロイド線維形成過程の経時的観察
○橋 友理香[1,2]、田井中 玲奈[2]、上井 幸司[2]、徳楽 清孝[2]（1.山野短大・美容総合、2.室工大院・工）

[2P-1404] 免疫疾患治療薬の開発を目指したTNFR1選択的アンタゴニスティックTNF変異体タンパク質の構造最適化
○井上 雅己[1,2]、安藤 大介[2,3]、鎌田 春彦[2,3,4]、新山 真由美[2]、堤 康央[3,4]、角田 慎一[1,2,4]（1.神戸学院大・薬、2.医薬健栄研、3.阪大院・薬、4.阪大MEIセ）

[2P-1405] 大腸菌ペリプラズムペプチドディスプレイ技術を用いたペプチドスクリーニング技術
○木村 忠史[1]（1.産総研・創薬基盤）

[2P-1406] Nanodiscを用いたセロトニン受容体の活性条件検討
○吉田 浩平[1]、長門石 曉[1,2]、津本 浩平[1,2]（1.東大院・工、2.東大医科研）

[2P-1407] ファージディスプレイ法を用いた金属ナノ粒子の作製と利用
○久我 瑞樹[1]、西村 克史[3]、谷川 実[2]、小池 美弥[2]、梅垣 哲士[2]（1.日大・院理工・応化、2.日大・理工・応化、3.日大・短大・生命）

[2P-1408] ヒトタンパク質由来天然変性ペプチドが示す凍結保護作用
○合田（天野） 名都子[1]、松尾 直紀[1]、廣明 秀一[1]（1.名古屋大・院創薬）

[2P-1409] ペプチドセグメントの伸長進化による人工タンパク質の機能・構造創出
○渡邊 秀樹[1]、本田 真也[1]（1.産総研・バイオメディカル）

[2P-1410] PURE*frex*によるラベル化環状ペプチドの調製
中村　美紀子[1]、對比地　久美子[1]、加藤　静恵[1]、○古城 周久[1]（1.ジーンフロンティア（株））

[2P-1411] 昆虫捕食性カメムシの唾液腺毒素の生産と機能解析
○高光 恭代[1]、小林 淳[1]（1.山大・院・創成科学）

[2P-1412] VHH抗体の熱安定性獲得メカニズム解明を目指した熱ストレス時の構造および結合性に関する解析
○池内 江美奈[1]、黒田 大祐[1]、中木戸 誠[1]、吉田 麻衣子[2]、塚原 成俊[3]、村上 明一[2]、津本 浩平[1,4]（1.東大・院工・バイオエンジ、2.琉大・院医・寄生虫・免疫病因病態学講座、3.イノベックスサイエンス株式会社、4.東大・医科研・疾患プロテオミクスラボラトリー）

[2P-1413] ヒトフィブロネクチンIII型ドメインを足場とする小型HER2結合分子の創製
○太田 優美[1]、門之園 哲哉[1]、口丸 高弘[1]、瀧 真清[2]、伊東 祐二[3]、近藤 科江[1]（1.東工大・生命理工、2.電通大・情報理工、3.鹿大・理工）

[2P-1414] 多数の細胞核への機械刺激負荷を実現するマイクロ流体デバイスの作製および改良
○戸谷 匡宏[1]、小嶋 勝[1]、洞出 光洋[2]、前 泰志[1]、小椋 利彦[3]、金子 真[2]、新井 健生[4,5]（1.阪大・院基礎工・システム創成、2.阪大・院工・機械工学、3.東北大・加齢研・神経機能情報、4.北京理工大、5.電通大）

[2P-1415] 耐熱性α-ヘリックス型ペプチドナノファイバーの人工設計
○大津 知也[1]、田村 厚夫[1]（1.神戸大・院理・化）

[2P-1416] 天然構造を持つ抗原に対する抗体産生細胞を特異的にラベルする技術とそのモノクローナル抗体作製
○中嶋 千佳[1]、赤城 幸[2,4]、三浦 大尭[2]、田中 陽一郎[3]、栗原 靖之[2]（1.横浜国大・理工学部、2.横浜国大院・工学府、3.横浜国大・機器分析評価センター、4.アステラス製薬・モダリティ研究所）

[2P-1417] N末端蛍光標識Ｉｇ Ｇによる抗原の蛍光検出
○芳坂 貴弘[1]、福永 圭祐[1]、Dian Novitasari[1]、渡邉 貴嘉[1]（1.北陸先端大・マテリアルサイエンス）

[2P-1418] VHHの試験管内スクリーニングにおける初期ナイーブライブラリの有用性検討
○新井 秀直[1]、熊地 重文[1]、根本 直人[1,2]（1.（株）Epsilon Molecular Engineering、2.埼大・院理工）

[2P-1419] ヘム獲得系を標的とした緑膿菌選択的な殺菌法
○四坂 勇磨[1]、岩井 佑介[1]、山田 志歩[1]、杉本 宏[2]、城 宜嗣[3]、荘司 長三[1]、渡辺 芳人[4]（1.名大・院理、2.理研・SPring-8、3.兵県大・院理・生命理学、4.名大・物国セ）

[2P-1420] In vivo及びIn vitro蛋白質発現系を使用した光機能基を有する非天然アミノ酸のタンパク質への導入
○芝 るみ[1]、渡邉 貴嘉[1]、芳坂 貴弘[1]（1.北陸先端大・マテリアル）

[2P-1421] 顕微鏡撮像を用いた高感度蛍光ウェスタン法
○比嘉 辰一郎[1]、近藤 友佳里[1]、岩崎 健[1]、原田 哲仁

[1]、大川 恭行[1]（1.九大・生医研・トランスクリプトミクス分野）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 7) ケミカルバイオロジー（ポスター）

[2P-11-7] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-7) ケミカルバイオロジー

13:15 〜 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1422] アマクサシダ成分11a-OH Kaurenのメラニン合成抑制機構

○伊藤 弘成[1]、黒井 梓[2,5]、杉村 康司[3,4]、渕野 裕之[3]、川原 信夫[3]、山原 年[2]、竹森 洋[1,5]（1.岐阜大学・工・化学・生命工学、2.桃谷順天館（株）、3.医薬基盤・健康・栄養研究所・薬用植物、4.熊本大学・薬、5.医薬基盤・健康・栄養研究所・難病）

[2P-1423] マウス B16F10メラノーマのメラニン合成におけるチアゾリジン誘導体の構造活性相関解析

○五十川 健太[1]、黒井 梓[2]、山原 年[2]、竹森 洋[1]（1.岐阜大学・工学部・化学生命工学科、2.桃谷順天館(株)）

[2P-1424] アゼピン誘導体によるメラニン合成への影響

○岡島 沙也花[1]、黒井 梓[2]、山原 年[2]、竹森 洋[1]（1.岐阜大学・工学部・化学生命工学科、2.桃谷順天館（株））

[2P-1425] キノリン誘導体（ HCOQ）によるメラニン合成抑制機構

○加藤 慎也[1]、黒井 梓[2]、山原 年[2]、竹森 洋[1]（1.岐阜大学・工学部・化学生命工学科、2.桃谷順天館（株））

[2P-1426] マイメディシン： CANDDYケミカルノックダウン創薬プラットフォーム

○宮本 悦子[1]、小沢 正晃[1]、黄 麗娟[1]、板倉 祥子[1]、大橋 広行[1]、金沢 水樹[1]、有吉 絢香[1,2]、佐藤 悠理[1]（1.東理大・生命研・生命科学研究科、2.東理大・理工・応用生物）

[2P-1427] 次世代分子標的薬の基盤技術「ケミカルノックダウン： CANDDY法」の開発

○小沢 正晃[1]、黄 麗娟[1]、金沢 水樹[1]、板倉 祥子[1]、宮本 悦子[1]（1.東理大・生命研・生命科学研究科）

[2P-1428] IVV-HiTSeqを用いた肝細胞がん誘導因子デオキシコール酸(DCA)の標的タンパク質の探索

○有吉 絢香[1,2]、小沢 正晃[1]、黄 麗娟[1]、大谷 直子[3]、宮本 悦子[1]（1.東理大・生命研・生命科学研究科、2.東理大・理工学研究科・応用生物科学専攻、3.大阪市大・大学院医学研究科・医学部医学科）

[2P-1429] タンパク質ノックダウン制御に基づく新規コンディショナルマウスの創製

○黄 麗娟[1]、小沢 正晃[1]、宮本 悦子[1]（1.東理大・生命研・生命科学研究科）

[2P-1430] 細膜透過ペプチドコンジュゲートによるタモキシフェン誘導体 RID-Fの26Sプロテアソーム阻害効果の向上

○田中 誠[1]、朱 耘浩[1]、太田 のぞみ[2]、芝田 夏実[2]、椎名 勇[2]、佐々木 隆造[1]、水上 民夫[1]、長谷川 慎[1]（1.長浜バイオ大・院・バイオサイエンス、2.東京理科大・院・理学部応用化学科）

[2P-1431] 進化分子工学的手法によるプロテアソーム阻害ペプチドの探索と構造活性相関研究

○朱 耘浩[1]、田中 誠[1]、早川 結実子[1]、小牧 明日美[1]、北村 幸一郎[2]、水上 民夫[1]、長谷川 慎[1]（1.長浜バイオ大学、2.メスキュージェナシス株式会社）

[2P-1432] フッ素フラグメントライブラリーを利用したTob1-CNOT7相互作用阻害剤の開発

○副田 康平[1]、長門石 曉[2]、加藤 悦子[4]、山本 雅[5]、津本 浩平[2,3]（1.東大院・工・化生、2.東大・医科研、3.東大院・工・バイオエンジ 、4.農研機構、5.沖縄科技大院）

[2P-1433] 新規 Activatable型 Carboxypeptidase活性検出蛍光プローブの開発と応用

○栗木 優五[1]、神谷 真子[2,3]、小松 徹[1]、上野 匡[1]、山下 俊[2]、國土 典宏[2]、浦野 泰照[1,2,4]（1.東大・院薬、2.東大・院医、3.JSTさきがけ、4.AMED CREST）

[2P-1434] ヒト白血病細胞増殖抑制効果における合成レチノイド Am80とエピジェネティック阻害剤との併用効果

○湯浅 磨里[1]、浴本 久雄[2]、影近 弘之[1]（1.東京医科歯科大学 生体材料工学研究所、2.テムリック株式会社）

[2P-1435] DSE-FRET assay を用いたテロメア結合タンパク質阻害剤開発と機能解析

○城間 喜智[1]、藤田 豪[1]、木根原 匡希[1]、幾尾 真理子[1]、嶋本 顕[1]、田原 栄俊[1]（1.広大・医歯薬保健学・細胞分子生物）

[2P-1436] 網羅的感受性遺伝子探索に基づいた抗がん活性物質 JBIR-140の標的経路の解析

○高瀬 翔平[1,2]、近藤 恭光[3,4]、鈴木 健裕[5]、堂前 直直[5]、新家 一男[6]、長田 裕之[3,4]、久城 哲夫[2]、松本 健[1,7,8]、吉田 稔[1,7,8]（1.理研CSRS・ケミカルゲノミクス、2.明治大院・農、3.理研CSRS・ケミカルバイオロジー、4.理研CSRS・創薬ケミカルバンク、5.理研CSRS・生命分子解析、6.産総研・創薬基

©日本分子生物学会/日本生化学会

盤、7.理研・化学遺伝学、8.理研CSRS・創薬シード）

[2P-1437] Duchenne型筋ジストロフィーに対して変異ジストロフィンエキソンのスキッピング誘導活性を有する経口投与可能な新規 CLK1阻害剤の開発

○佐古 有季哉[1]、二宮 賢介[1]、奥野 友紀子[2]、豊本 雅靖[1]、西田 篤史[3]、小池 悠華[1]、大江 賢治[1]、喜井 勲[1]、吉田 優[5]、橋本 有弘[4]、細谷 孝充[5]、松尾 雅文[3]、萩原 正敏[1]（1.京大・院医・形態形成、2.京大・院医・医学研究支援セ、3.神院大・総合リハ、4.長寿医療セ・再生再建、5.東医歯大・生材研・生命有機化学）

[2P-1438] 大腸ガン増殖抑制作用を持つ土壌微生物叢の探索研究

○市川 俊輔[1]、西田 郁美[2]、岡崎 文美[3,4]、中山 寛子[5]、西村 訓弘[5]、島田 康人[4,6]（1.三重大・教育・理科、2.三重大・院教育・教職、3.三重大・院生資・生命、4.三重大・先端セ・バイオインフォ、5.三重大・院地域イノベ、6.三重大・院医・薬理）

[2P-1439] Pathway-oriented screening法による解糖系酵素阻害剤の探索

○柳 光一[1]、小松 徹[1]、小島 宏建[3]、岡部 隆義[3]、長野 哲雄[3]、浦野 泰照[1,2,4]（1.東大院薬、2.東大院医、3.創薬機構、4.AMED CREST）

[2P-1440] 受容体型チロシンキナーゼの活性制御ペプチドの探索

○松下 舞[1]、姫野 梨花[2]、赤星 璃[2]、雨宮 舜[1]、佐藤 卓史[1]、森岡 弘志[1]、小橋川 敬博[1]（1.熊大・院・薬、2.熊大・薬）

[2P-1441] ピロリシル tRNA合成酵素による寛容な非天然型アミノ酸認識の構造基盤

○柳沢 達男[1]、倉谷 光央[1]、関 英子[1]、樋野 展正[3]、坂本 健作[2]、横山 茂之[1]（1.理研・横山構造生物学研、2.理研・CLST、3.阪大院・薬）

[2P-1442] 真菌由来化合物 dinapinone類が示す中性脂質蓄積阻害活性の作用機序解析

○小林 啓介[1]、大城 太一[1]、小山 信裕[1]、大手 聡[1]、供田 洋[1]（1.北里大・薬）

[2P-1443] 1型筋強直性ジストロフィーに見られる MBNL1-CUG_{exp}相互作用における新規イソキノリン誘導体の阻害効果

○松本 惇[1]、李 金星[1]、村田 亜沙子[1]、堂野 主税[1]、中谷 和彦[1]（1.阪大・産研・精密制御化学）

[2P-1444] 人工 RINGフィンガーを用いたがん細胞の E2活性の測定

○砂川 真弓[1]、中谷 有沙[1]、齋藤 一樹[1]、宮本 和英[1]（1.姫路獨協大学 薬学部）

[2P-11-8] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-8) バイオイメージング、バイオセンサー

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1445] 多点電位記録システムとレーザー共焦点カルシウムイメージングによるヒト iPS細胞由来ニューロンにおける神経活動の同時測定

幅 菜摘[1]、白川 由佳[3]、村上 正将[2]、○浜崎 雄太[2]、斎藤 稔[1,2,3]（1.日大院・総合基・ 相関理化学、2.日大・文理・物理生命システム、3.日大・文理・自然研）

[2P-1446] 細胞内の遊離ヘムの定量に向けたタンパク質性バイオプローブの開発

○中島 音海[1]、平 順一[1]、松田 祥子[1]、小松 英幸[1]、坂本 寛[1]（1.九工大院・情報工・生命）

[2P-1447] 環境応答性蛍光色素に結合する RNAアプタマーの細胞内２色蛍光イメージングへの利用

○廣實 佑真[1]、日向 麻須美[1]、加藤 輝[1]（1.東京工科大学院・バイオ）

[2P-1448] ヘム定量において非特異的に吸着したヘムの遊離処理法の検討

○吉村 崇志[1]、中島　幸徳[1]、平 順一[1]、小松 英幸[1]、谷岡 野人[2]、清水 裕子[2]、森松 博史[2]、坂本 寛[1]（1.九工大院・情報工・生命、2.岡大院・医歯薬・麻酔蘇生）

[2P-1449] 非アルコール性脂肪性肝炎（ NASH）をイリジウム錯体の発光で探索する

○栢森 藍佳[1]、畠 恵司[2]、樋渡 一之[2]、佐々木 玲[2]、高橋 純一郎[3]、鳥居 征司[4]、吉原 利忠[5]、飛田 成史[5]、穂坂 正博[1]（1.秋田県立大院・生物資源科学研究科、2.秋田県総合食品研究センター、3.株式会社スカイライト・バイオテック、4.群馬大・生体調節研究所、5.群馬大・理工学府）

[2P-1450] Whole-body/organ profiling of cancer metastasis with CUBIC-Cancer analysis

○久保田 晋平[1]、高橋 恵生[1]、西田 純[1]、江幡 正悟[1]、田井中 一貴[3]、上田 泰己[2]、宮園 浩平[1]（1.東大・院医・分子病理、2.東大・院医・システ薬、3.新潟大・脳研）

[2P-1451] 高速原子間力顕微鏡を用いたミトコンドリア膜の高分解能ダイナミクス観察

○村田 愛[1]、江崎 雅俊[1]、小椋 光[1]（1.熊大・発生研・分子細胞制御）

[2P-1452] 患者モデルマウス血清と P450酵素との相互作用

©日本分子生物学会/日本生化学会

を利用したバイオマーカーの開発
○養父 隆承[1]、山本 龍一[2]、今石 浩正[1,2,3]（1.神戸大・農、2.神戸大・院・農・自然科学、3.神戸大・バイオシグナル総研セ）

[2P-1453] 蛍光共鳴エネルギー移動(FRET)を基盤とするグルタチオン(GSH)濃度センサー分子による生細胞イメージング
○谷原 元大[1]、原 直人[2]、鈴木 美穂[1]（1.埼大・院理工、2.埼大・工）

[2P-1454] マウス耳介を用いたがん細胞および血管の非侵襲*in vivo*イメージング法の確立
○喜多 清[1]、樋口 秀男[1]（1.東大・院理・物理）

[2P-1455] 発光細菌青色蛍光タンパク質コード遺伝子組換え大腸菌による環境毒性イメージング
○岩上 諒太朗[1]、伊原 裕[1]、柄谷 肇[1]（1.京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科）

[2P-1456] 凝集誘起発光(AIE)体と蛍光タンパク質(FP)の会合体による薬物送達イメージング
○高野 修杜[1]、小松 沙耶花[1]、村上 史浩[1]、幡野 健[1]、鈴木 美穂[1]（1.埼大・院理工）

[2P-1457] ゲノム編集技術を用いた蛍光蛋白ラベル法による内在性 p53蛋白動態の1細胞解析
○荒牧 佑磨[1]、小西 昭充[1]、和泉 孝志[1]（1.群大・院医・生化学）

[2P-1458] デュアルモニター人工染色体ベクターを用いた前脳領域特異的な神経分化誘導
○平塚 正治[1,4]、兎谷 翔太[2]、篠谷 豪太[1]、尾崎 充彦[3]、香月 康宏[2,4]、押村 光雄[4]（1.鳥大・医・生命・細胞工学、2.鳥大・院医・遺伝子機能工学、3.鳥大・医・生命・病態生化、4.鳥大・染色体工学研究セ）

[2P-1459] アルギン酸ゲルに固定化された生物発光大腸菌による活性酸素種誘導性毒性物質の可視化
○葛川 大毅[1]、巴山 博之[1]、伊原 裕[1]、柄谷 肇[1]（1.京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科）

[2P-1460] 無細胞反応系を用いた抗菌剤検出のための紙基板バイオセンサーの開発
○松浦 秀幸[1]、氏家 和紀[1]、Thi My Duyen Tran[2]、原田 和生[1]、平田 收正[1]（1.阪大・薬、2.カントー大・水産）

[2P-1461] ダイヤモンド NVCを用いた細胞内ナノスケール計測技術の開発
○田邉 竜太郎[1]、五十嵐 龍治[1]、白川 昌宏[1]（1.京大・院工・分子工学）

[2P-1462] 近赤外生物発光材料の生体内イメージングにおける有用性
○北田 昇雄[1]、木山 正啓[1]、齊藤 亮平[1]、岩野 智[3]、丹羽 治樹[2]、平野 誉[1]、牧 昌次郎[1,2]（1.電通大先進理工、2.電通大脳科学ライフサポートセンター、3.理研）

ポスター発表 | 12. その他 | 1) その他（ポスター）

[2P-12-1] 12. その他-1) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[2P-1463] 研究不正防止を目指した実践的大学院カリキュラムの構築―滋賀県立大学の事例―
○原田 英美子[1]、浦部 美佐子[1]、高倉 耕一[1]、西田 隆義[1]、丸尾 雅啓[1]（1.滋賀県立大学）

[2P-1464] 日本の研究倫理教育のゴールはどこだ
○池上 徹[1]（1.東大・医科研）

©日本分子生物学会/日本生化学会

2017年12月8日(金)

ポスター・展示会場1-1

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 5) 糖脂質（ポスター）

[3P-1-5] 1. 糖質生物学・脂質生物学-5) 糖脂質

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[3P-0001] *Pantoea agglomerans* 由来リポ多糖の O抗原多糖の化学構造解析
○佐藤 瑠音[1]、大薗 まみ[1]、稲川 裕之[2]、杣 源一郎[2]、橋本 雅仁[1]（1.鹿児島大・理工、2.香川大・医）

[3P-0002] *Acetobacter pasteurianus* 由来リポ多糖の O抗原多糖の化学構造解析
○馬場 梨沙子[1]、池田 剛[1]、橋口 周平[1]、橋本 雅仁[1]（1.鹿児島大・理工）

[3P-0003（4P2T25-02）] B3GALT4はグリコシルホスファチジルイノシトールの側鎖にガラクトースを転移する
○王 宜成[1]、平田 哲也[1]、村上 良子[1]、前田 裕輔[1]、木下 タロウ[1]（1.阪大・微研）

[3P-0004（4P2T25-03）] 脂質フリッパーゼの新奇基質としてグルコシルセラミドの発見とその輸送メカニズム
○内藤 朋樹[1]、Bartholomew Roland[2]、高津 宏之[1]、中山 和久[1]、Todd Graham[2]、申 惠媛[1]（1.京大・院薬・生体情報、2.Dept. of Biol. Chem., Vanderbilt Univ.）

[3P-0005（4P2T25-04）] Zymomonas mobilisのセラミドUDP-グルクロン酸転移酵素の同定
○李 夢白[1]、沖野 望[2]、石橋 洋平[2]、伊東 信[2,3]（1.九大・院生資環・生命機能、2.九大・院農・生命機能、3.九大・院農・i-BAC）

[3P-0006（4P2T25-05）] O-GlcNAc化を介したスフィンゴ糖脂質代謝制御機構
○郷 慎司[1,2]、松田 純子[1]、井ノ口 仁一[2]（1.川崎医科大学、2.東北医科薬科大学・分子生体膜研究所）

[3P-0007（4P2T25-06）] 極長鎖脂肪酸（C24）を含むラクトシルセラミドはヒト好中球による CD14を介した貪食に必要である
○中山 仁志[1,2]、栗原 秀剛[3]、堀田 知美[2]、岩渕 和久[1,2]（1.順天堂大・医看・生化、2.順天堂大・院医・環境研、3.順天堂大・医・解剖）

[3P-0008（4P2T25-07）] スフィンゴリピドーシスにおける神経細胞死に及ぼすlysoスフィンゴ糖脂質の役割
○渡邊 綾佑[1]、辻 大輔[1,2,3]、田中 裕大[2]、宇野 マイケル新太郎[2]、沖野 望[4]、伊東 信[4]、伊藤 孝司[1,2,3]（1.徳島大・薬・創薬生命工学、2.徳島大院・薬・創薬生命工学、3.AMED・ACT-MS、4.九大院・生資環・生命機能）

[3P-0009（4P2T25-08）] グリオシド GD3によるグリオーマの腫瘍微小環境の制御機構
○張 璞[1,2]、大川 裕樹[2]、加藤 彰[3]、小峯 起[4]、百田 洋之[3]、Robiul Bhuiyan[2]、大海 雄介[2]、古川 圭子[2]、若林 俊彦[3]、岡島 徹也[1]、山中 宏二[4]、古川 鋼一[1,2]（1.名大・医学系研究科・生化学第二講座、2.中部大・生命健康科学研究所、3.名大・医学系研究科・脳外科、4.名大・環境医学研究所・病態神経科学）

[3P-0010（4P2T25-09）] 筋分化過程における GM3上のシアル酸とセラミド構造の変化の分子機構の解明
○郷 詩織[1,2]、郷 慎司[3]、井ノ口 仁一[4]、佐藤 ちひろ[1,2]、北島 健[1,2]（1.名大院・生命農学、2.名大・生物機能セ、3.川崎医大、4.東北医科薬科大・分子生体膜研）

[3P-0011] High expression of hydroxylated glycosphingolipids in cholangiocarcinoma tissues
○Krajang Talabnin[1,4]、Chutima Talabnin[2,4]、Tadahiro Kumagai[3]、Mayumi Ishihara[3]、Parastoo Azadi[3]（1.School of Pathology, Institute of Medicine, Suranaree University of Technology, Nakhon Ratchasima 30000, Thailand. 、2.School of Chemistry, Institute of Science, Suranaree University of Technology, Nakhon Ratchasima

©日本分子生物学会/日本生化学会

30000, Thailand.、3.Complex Carbohydrate Research Center, The University of Georgia, Athens, Georgia 30602, USA.、4.Liver Fluke and Cholangiocarcinoma Research Center, Khon Kaen University, Khon Kaen 40002, Thailand.）

[3P-0012] Roles of ganglioside GD1α in human cancer cells
○Robiul Bhuiyan[1,2]、Yuji Kondo[2]、Yuki Ohkawa[1]、Yuhsuke Ohmi[1]、Pu Zhang[1,2]、Keiko Furukawa[1]、Tetsuya Okajima[2]、Koichi Furukawa[1,2]（1.Dept. of Biomed. Sci., Chubu Univ. College of Life and Health Sci.、2.Dept. of Biochem II, Nagoya Univ. Grad. Sch. of Med.）

[3P-0013] 糖脂質を利用した抗体誘導性障害糸球体ポドサイトのネフリン正常化効果の検討
○川島 永子[1]、内藤 正吉[1]、中村 和生[2]、竹内 康雄[1]、仲山 賢一[3]（1.北里大・医・腎臓内科、2.北里大・院医療系・分子病態、3.産総研・機能化学）

[3P-0014] メタノール資化性酵母 *Ogataea minuta* の *PER1*、*GUP1*、*CWH43* 遺伝子は細胞壁の強度維持に関与する
胥 欣欣[1,2]、小松崎 亜紀子[1]、千葉 靖典[1]、高 暁冬[2]、○横尾 岳彦[1]（1.産総研・創薬基盤、2.江南大学（中国））

[3P-0015] 魚類肝臓細胞におけるガングリオシド脱シアリル化を介した脂質蓄積制御機構の解明
○大石 一樹[1]、宮崎 未奈[2]、高瀬 諒[2]、西村 渉[2]、小松 正治[1,2]、塩崎 一弘[1,2]（1.鹿大・連農・応用生命科学、2.鹿大・水産・食品生命科学）

[3P-0016] キラルカラムを用いた生体サンプル中のスフィンゴ糖脂質の解析
○藤原 優子[1]、濱 弘太郎[1]、横山 和明[1]（1.帝京大学・薬）

[3P-0017] *Acetobacter pasteurianus* 由来外膜小胞の分離と免疫刺激能
○橋本 雅仁[1]、松元 太一[1]、中村 佳祐[1]、馬場 梨沙子[1]、大薗 まみ[1]、橋口 周平[1]（1.鹿児島大・理工）

[3P-0018] 出芽酵母の複合スフィンゴ脂質代謝破綻下における高浸透圧応答シグナルの生育保護機能
山口 雄太郎[1]、甲木 佑佳[1]、川口 諒太郎[1]、田中 聖也[1]、池田 拓真[2]、船戸 耕一[2]、○谷 元洋[1]（1.九州大院・理・化学、2.広島大院・生物圏）

[3P-0019] 生物分類指標としてのスフィンゴ糖脂質の糖鎖構造　ー輪形動物シオミズツボワムシのスフィンゴ糖脂質の構造解析ー
○糸乗 前[1]、足立 明日華[1]、地頭江 美穂[1]、清水 颯太[1]、安原 嘉紀[1]、大槻 絵里奈[1]、小島 寿夫[2]、伊藤 將弘[2]（1.滋賀大・教育・化学、2.立命館大・生命科学・情報生物）

[3P-0020] 癌関連スフィンゴ糖脂質による細胞動態の制御：蛍光標識糖脂質によるタイムラプス解析
○古川 圭子[1]、神戸 真理子[1]、大川 祐樹[1]、大海 雄介[1]、竹内 理香[1]、田島 織絵[1]、安藤 弘宗[2]、古川 鋼一[1]（1.中部大・生命健康・生命医科、2.岐阜大・生命の鎖統合研究センター）

[3P-0021] BODIPY標識ラクトシルセラミドを用いた糖脂質の動態解析
○新井 健太[1]、蟹江 善美[2]、蟹江 治[2]、樺山 一哉[1]、深瀬 浩一[1]（1.阪大・院理・化学、2.東海大・工・生命化）

[3P-0022] 糖鎖改変マウスにおける肝脂肪蓄積抑制の分子メカニズム
○田島 織絵[1]、古川 圭子[1]、古川 鋼一[1]（1.中部大・生命医科）

[3P-0023] 糖鎖型抗体によるガン治療を目指したガン関連糖鎖抗原の有機化学合成
○櫻井 翔[1,2]、藪下 侑平[3]、山口 真範[1]（1.和歌山大・教育・有機生化学、2.和歌山県医大・院医・生化学、3.和歌山大・院教育・有機生化学）

[3P-0024] 疼痛におけるシアル酸分解酵素の鎮痛効果とスフィンゴ糖脂質の機能
○渡辺 俊[1]、佐川 眞美[1]、森田　元樹[1]、野村　夏美[1]、尾山　美砂[1]、岩井　孝志[1]、田辺　光男[1]（1.北里大・薬・薬理学）

[3P-0025] 皮膚バリア機能における SMS1および2の役割
○斉場 遼介[1]、永根 大幹[1]、石川 三友紀[1]、山下 匡[1]（1.麻布大・獣・生化学）

[3P-0026] グリア細胞上の脂質ラフトにおけるガングリオシドの役割
○大海 雄介[1]、大川 祐樹[1]、張 僕[1,2]、小林 伊織[1]、小谷 典弘[3]、本家 孝一[4]、古川 圭子[1]、河原 敏男[1]、古川 鋼一[1]（1.中部大・生命健康、2.名古屋大・院・医、3.埼玉医大・医・生化、4.高知大・医・生化）

[3P-0027] 出芽酵母の細胞壁機能維持における特異的複合スフィンゴ脂質の役割
○田中 聖也[1]、森元 雄士[1]、谷 元洋[1]（1.九州大院・理・化学）

[3P-0028] 病原性真菌*Aspergillus fumigaus* のエルゴステリル-β-グルコシド分解酵素 (EGCrP2)　欠損株の作製と解析
○溝口 正輝[1]、渡辺 昂[2]、石橋 洋平[2]、沖野 望[2]、伊東

信[2]（1.九大院・生資環・生命機能、2.九大院・農・生命機能）

[3P-0029] 脂質組成変化に伴うグロビン発現制御機構の解明

○野田 和彦[1]、鈴木 佑典[1]、香取 正人[1]、宮本 佳菜子[1]、佐藤 あかり[1]、山地 俊之[2]、櫛 泰典[1]（1.日大・理工・応化、2.感染研・細胞化学部）

[3P-0030] ガングリオシド GM3とインスリン受容体の膜貫通ペプチドの静電的相互作用解析

○二村 友香[1]、樺山 一哉[1]、朝比奈 雄也[2]、花島 慎弥[1]、北條 裕信[2]、村田 道雄[1]、深瀬 浩一[1]（1.阪大・院理、2.阪大・蛋白研）

[3P-0031] グラム陰性菌リポ多糖構成分子 lipid AのLC-MS分析法の開発

○大橋 咲香[1]、橘詰 力[1]、三好 規之[1]（1.静岡県立大学・食品栄養科学部）

[3P-0032] 出芽酵母のエルゴステリルグルコシド排出マシーナリの同定

○渡辺 昂[1]、谷 元洋[2]、石橋 洋平[1]、沖野 望[1]、伊東 信[1]（1.九大院・農・生命機能、2.九大院・理・化学）

[3P-0033] スフィンゴミエリン合成酵素1の SAM領域はセラミドグルコシルトランスフェラーゼとのヘテロ複合体形成に関わる

○林 康広[1]、佐々木 洋子[1]、松本 直樹[1]、小泉 昂範[1]、川上 紗英[1]、野水 旭[1]、濱 弘太郎[1]、横山 和明[1]、山下 純[1]（1.帝京大・薬）

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 7) 生理活性脂質（ポスター）

[3P-1-7] 1. 糖質生物学・脂質生物学-7) 生理活性脂質

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[3P-0034] 肺線維症モデルにおけるリゾフォスファチジン酸受容体・産生酵素の発現解析

○大藤 瞳[1]、大前 直樹[1]、可野 邦行[1,2]、青木 淳賢[1,2]（1.東北大院・薬・分子細胞生化学分野、2.AMED-CREST）

[3P-0035（3PT12-12）] 新規特発性肺線維症急性増悪モデルにおける LPA_3の保護作用

○大前 直樹[1]、大藤 瞳[1]、可野 邦行[1,2]、青木 淳賢[1,2]（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.AMED-CREST）

[3P-0036（3PT12-01）] 赤血球前駆細胞株における新規スフィンゴシン1リン酸輸送体の同定

○小林 直木[1]、西（川崎） 晶子[2]、土井 康平[1]、三木 悠史[1]、大塚 正人[1]、山口 明人[3]、西 毅[2,4]（1.摂大・薬、2.阪大・産研、3.阪大・産研、4.阪大・院薬）

[3P-0037（3PT12-02）] スフィンゴ脂質を介した熱ストレス細胞での転写制御メカニズム

○糸瀬 邦之[1]、山銅 ゆかり[2]、岡 昌吾[1]、竹松 弘[1]（1.京大・医・人間健康、2.京大・生命科学）

[3P-0038（3PT12-03）] ω末端修飾型脂肪酸プローブを用いた脂肪酸修飾タンパク質の探索および同定

○徳永 智久[1]、渡辺 文太[1]、木村 駿作[1]、川本 純[1]、栗原 達夫[1]（1.京大・化研）

[3P-0039（3PT12-04）] 種々の脂肪酸残基を有するセラミドの化学合成とその生理活性

○辻 和樹[1]、島田 明奈[1]、宮崎 徹[1]、高橋 尚子[1]、伊賀 永里奈[1]、Rahman Md.Motiur[1]、中尾 允泰[1]、佐野 茂樹[1]、小暮 健太朗[1]、田中 保[1]（1.徳島大・院薬）

[3P-0040（3PT12-05）] チトクローム P450によるアラキドン酸代謝物の神経細胞における生理機能解析

○大黒 亜美[1]、今岡 進[1]（1.関学・理工・生命医化）

[3P-0041（3PT12-06）] リゾホスファチジン酸受容体 LPA5を介した T細胞の分化運命決定機構

○丸山 貴司[1]、大戸 貴代[1]、石井 聡[1]（1.秋大・医・生体防御）

[3P-0042（3PT12-07）] Gα12/13共役型リゾホスファチジン酸受容体が調節する血管新生の分子機構

○安田 大恭[1]、石井 聡[1]（1.秋田大・院医・生体防御学）

[3P-0043（3PT12-08）] プロスタグランジン E_2は視索前野特異的に神経突起伸長を促進する

○北條 寛典[1]、吉岡 美樹[2]、土屋 裕義[3]、土屋 創健[1,4]、瀬木一西田 恵里[5]、杉本 幸彦[1,4]（1.熊本大・薬、2.京都大・薬、3.自治医科大・医、4.AMED-CREST、5.東京理

©日本分子生物学会/日本生化学会

科大・基礎工）

[3P-0044（3PT12-09）] ジアシルグリセロールキナーゼη欠損による躁様行動惹起の分子メカニズム
○米野井 優[1]、坂根 郁夫[1]（1.千葉大・院理・化学）

[3P-0045（3PT12-10）] 脂質代謝酵素ジアシルグリセロールキナーゼ gammaの皮膚における機能解析
菊永 佐紀子[1]、横谷 美由希[2]、藤原 祥高[3]、上田 修司[1]、山之上 稔[1]、高岡 幸二[2]、伊川 正人[3]、○白井 康仁[1]（1.神戸大学大学院 農学研究科 応用生命化学講座 動物資源利用化学分野、2.DSR、3.大阪大・微研・附属遺伝情報実験センター・遺伝子機能解析分野）

[3P-0046（3PT12-11）] ウシ生乳中リポカリン型プロスタグランジン D合成酵素の精製と酵素学的性質ならびに乳房炎のバイオマーカーとしての検討
○長崎 祐樹[1]、川井 恵梨佳[1]、田中 充樹[1]、戸田 圭祐[1]、川上 祐生[1]、高橋 吉孝[1]、木本 眞順美[1]、三木 寿美[2,3]、山本 圭[4,5]、村上 誠[2,3,6]、山本 登志子[1]（1.岡山県大・栄養、2.東大・院医・健康環境医工学、3.都医学研、4.徳島大院・社会産業理工・生物資源産業、5.日本医療研究開発機構PRIME、6.日本医療研究開発機構AMED-CREST）

[3P-0047（3PT12-13）] ATX-LPAシグナルは細胞間接着の形成に重要である
○木瀬 亮次[1]、新上 雄司[1]、可野 邦行[1,3]、井上 飛鳥[1,2]、青木 淳賢[1,3]（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.PRIME、3.AMED-CREST）

[3P-0048] Neuroprotective activity of phytoceramide 1-phosphate on serum deprivation-induced apoptosis of Neuro2a cells
○Md Rahman[1]、Erina Iga[1]、Akina Shimada[1]、Tohru Miyazaki[1]、Naoko Takahashi[1]、Mina Fujiwara[1]、Kazuki Tsuji[1]、Kentaro Kogure[1]、Tamotsu Tanaka[1]（1.Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School）

[3P-0049] Antiulcer effect of lysophosphatidic acid-rich medicinal herbs and its mechanism
○Sheuli Afroz[1]、Katsuya Morito [1]、Kouki Fujikawa [1]、Ayano Yagi [1]、Kazunori Toida [2]、Emi Kiyokage[2]、Kentaro Kogure[1]、Shiro Watanabe[3]、Akira Tokumura[4]、Tamotsu Tanaka[1]（1.Institute of Health Biosciences, Tokushima University、2.Department of Anatomy, Kawasaki Medical School, Kurashiki, Okayama、3.Institute of Natural medicines, Toyama university 、4.Faculty of Pharmacy, Yasuda Women's University）

[3P-0050] ジアシルグリセロールキナーゼδとジアシルグリセロール供給酵素との相互作用の解析
○村上 千明[1]、坂根 郁夫[1]（1.千葉大・院理・化）

[3P-0051] 骨芽細胞分化におけるアディポネクチン受容体遺伝子発現
○鎌田 愛子[1]、吉川 美弘[1]、堂前 英資[1]、池尾 隆[1]（1.大歯大・歯・生化）

[3P-0052] 子宮におけるジアシルグリセロールキナーゼηの機能解明
○鈴木 勇史[1]、米野井 優[1]、塩谷 貴生[1]、坂根 郁夫[1]（1.千葉大・院理工・化学）

[3P-0053] メラノーマ細胞でジアシルグリセロールキナーゼŮが選択的に産生するホスファチジン酸分子種の同定
○秋山 璃乃[1]、村上 千明[1]、坂根 郁夫[1]（1.千葉大・院理工・化）

[3P-0054] ミリスチン酸の持続的投与は NSYII型糖尿病モデルマウスの血糖値上昇を防ぐ
○岩田 海[1]、高戸 珠恵[1]、村上 千明[1]、和田 裕子[1]、坂根 郁夫[1]（1.千葉大・院理工・化学）

[3P-0055] 脳におけるジアシルグリセロールキナーゼδの欠損は強迫性障害様の行動を引き起こす
○陸 強[1]、臼木 貴子[1]、高戸 珠恵[1]、坂根 郁夫[1]（1.千葉大・院理工・化学）

[3P-0056] 酸化脂質に応答する霊長類特異的受容体、MRGX4のマウス機能的ホモログの同定
○岸 貴之[1]、井上 飛鳥[1,2,3]、青木 淳賢[1,4]（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.さきがけ・JST、3.AMED・AMED-PRIME、4.AMED・AMED-CREST）

[3P-0057] プロスタグランジン D_2変換産物の同定と定量解析
○柴田 貴広[1]、犬塚 恵美[1]、内田 浩二[2,3]（1.名大・院生命農・応用分子生命、2.東大・院農生科・応用生命化学、3.名大・未来社会創造機構）

[3P-0058] プロスタグランジンは複数受容体を介して着床

を制御する

○大窪 喜丸[1]、馬 驍彦[1]、稲住 知明[1,2]、杉本 聡子[1,2]、土屋 創健[1,2]、竹本 賢司[3]、竹尾 透[3]、中潟 直己[3]、成宮 周[4]、杉本 幸彦[1,2]（1.熊本大・院薬、2.AMED-CREST、3.熊本大・生命資源セ、4.京都大・院医）

[3P-0059] 自己免疫性リンパ球増殖症における新規LysoPS受容体の役割

○深見 郁也[1]、奥谷 倫世[1]、巻出 久美子[1]、青木 淳賢[1,2]（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.AMED-CREST）

[3P-0060] Gタンパク質共役型受容体 GPR55リガンドのリンパ球に及ぼす影響

○谷川 尚[1]、岡 沙織[1]、中島 圭佑[1]、山下 純[1]、荒田 洋一郎[1]、杉浦 隆之[1]（1.帝京大・薬）

[3P-0061] プロスタグランジン D_2は CRTH2受容体を介して脂肪分解を抑制する

若井 恵里[1]、有竹 浩介[2]、裏出 良博[3]、○藤森 功[1]（1.大阪薬科大・薬・病態生化学、2.第一薬科大・薬・薬品作用解析学、3.筑波大・国際統合睡眠医科学研究機構）

[3P-0062] 液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析によるヒト血漿中のセラミド及びセラミド 1-リン酸の解析

○清水 良多[1]、山下 量平[1]、伊賀 永里奈[1]、Md. Rahman[1]、東 桃代[2]、小暮 健太朗[1]、田中 保[1]（1.徳島大・院薬、2.徳島大学病院・感染制御部）

[3P-0063] スフィンゴシン１リン酸の新規担体分子の探索

○和田 優[1]、大日方 英[2]、Steven Swendeman[3]、Catherine Liu[4]、南雲 理恵子[1]、Timothy Hla[3]、和泉 孝志[1]（1.群大・院医、2.群大・未来先端、3.Harvard Med. Sch.、4.Weill Cornell Med. Col.）

[3P-0064] 赤米プロアントシアニジンによるプロスタグランジン E_2産生抑制効果

○戸田 圭祐[1]、長崎 祐樹[1]、津嘉山 泉[1]、田中 将夢[1]、川井 恵梨佳[1]、我如古 菜月[1]、伊東 秀之[1]、川上 祐生[1]、高橋 吉孝[1]、三木 寿美[2,3]、山本 圭[4,5]、村上 誠[2,3,6]、山本 登志子[1]（1.岡山県大・栄養、2.東大・院医・健康環境医工学、3.都医学研、4.徳島大院・社会産業理工・生物資源産業、5.日本医療研究開発機構PRIME、6.日本医療研究開発機構AMED-CREST）

[3P-0065] 哺乳動物における癌予防ゲラニルゲラノイン酸の生合成について

○田端 佑規[1]、佐上 博[1]、四童子 好廣[1]（1.長崎県立大・院・細胞生化学）

[3P-0066] バイオマーカーとしての血漿中脂肪酸アミドの定量解析

○岡本 拓也[1]、柴田 貴広[1]、吉武 淳[2]、内田 浩二[2,3]（1.名大院・生命農、2.名大・未来社会、3.東大院・農学生命）

[3P-0067] ロイコトリエン A4水解酵素の代謝における解析

○鵜澤 博嗣[1,2]、古賀 友紹[1,3]、佐伯 和子[1]、宮塚 健[2]、綿田 裕孝[2]、横溝 岳彦[1]（1.順大・院医・細胞機能制御学、2.順大・院医・代謝内分泌内科学、3.熊大・発生研・細胞医学分野）

[3P-0068] ジアシルグリセロールキナーゼα阻害による癌細胞に対するアポトーシス誘導効果

○八巻 篤実[1]、坂根 郁夫[1]（1.千葉大・院理・化学）

[3P-0069] LPA_3選択的アゴニストを用いた精巣におけるLPA_3の機能の解析

○菅原 拓海[1]、可野 邦行[1,2]、青木 淳賢[1,2]（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.AMED-CREST）

[3P-0071] BLT2の C末端領域は BLT2の細胞間接着部位への局在に重要である

○原 琢弥[1,2]、佐伯 和子[1]、横溝 岳彦[1]（1.順大・医・生化一、2.興和株式会社）

[3P-0072] 静脈麻酔薬プロポフォールは5-リポキシゲナーゼに結合してロイコトリエンの産生を抑制する

○奥野 利明[1]、Sophia Koutsogiannaki[2,3]、大場 麻生[1]、Matthew Chamberlain[2]、Weiming Bu[4]、Fu-Yan Lin[5]、Roderic Eckenhoff[4]、横溝 岳彦[1]、結城 公一[2,3]（1.順大・院医・生化学、2.ボストン小児病院・麻酔科、3.ハーバード大・麻酔科、4.ペンシルベニア大・麻酔科、5.ボストン小児病院・細胞分子医学）

ポスター発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 8) ステロール、ステロイド、リポタンパク質（ポスター）

[3P-1-8] 1. 糖質生物学・脂質生物学-8) ステロール、ステロイド、リポタンパク質

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[3P-0073（3PT12-14）] コレステロール結合性細菌毒素ストレプトリジン Oを用いたABCA1の機能解析

○小笠原 史彦[1]、加納 ふみ[3,4]、村田 昌之[3,4]、木村 泰久[1]、植田 和光[1,2]（1.京大・院農・応用生命科学、2.京大・物質ー細胞統合システム拠点、3.東大・院総文・広域科学、4.東工大・科学技術創成研究院・細胞制御工学研究センター）

[3P-0074（3PT12-15）] 胆汁酸構造類似体がウェルシュ菌

食中毒分離株の芽胞形成に与える影響

○平田 祥太郎[1]、安木 真世[1]、中辻 匡俊[2]、乾 隆[2]、三宅 眞実[1]（1.大阪府大・生命環境・獣医公衆衛生、2.大阪府大・生命環境・生体高分子機能）

[3P-0075] Impaired erythroid maturation in dogs due to the mutations of the TSPO2 gene through an altered cholesterol redistribution

○Benjaporn Kiatpakdee[1]、Takuya Tsumita[1]、Akito Yamamoto[1]、Leo Kawata[1]、Kota Sato[1]、Yoshikazu Sugimoto[1]、Kensuke Takada[1]、Jumpei Yamazaki[1]、Mutsumi Inaba[1]（1.Lab. of Mol. Med., Grad. Sch. of Vet. Med., Hokkaido Univ.）

[3P-0076] アンドロゲンによる骨格筋増強機構

○榊原 伊織[1,2]、今井 祐記[2]（1.東大・先端研、2.愛媛大・プロテオ）

[3P-0077] 単量体アポ A-I変異体は ABCA1非依存的にマクロファージ泡沫化細胞から脂質をマイクロソルビライズさせる

○辻田 麻紀[1]、Paul Weers[2]（1.名古屋市立大学・院医・病態生化学、2.カルフォルニア州立大学ロングビーチ校・生物化学）

[3P-0078] 膵β細胞における非内分泌型ステロイド産生と機能

○荻島 正[1]、榎 剛史[1]、樋口 貴大[1]（1.九大院・理・化学）

[3P-0079] 昆虫における組織のステロイドバランス維持システムの解明

○竹島 実加[1]、荻原 麻理[1]、片岡 宏誌[1]（1.東大・新領域・先端生命）

[3P-0080] NPC1L1阻害による腸管経由のコレステロール逆輸送機序の解明

○中野 貴成[1]、井上 郁夫[2]、竹中 康浩[3]、片山 茂裕[2]、村越 隆之[1]（1.埼玉医科大学生化学、2.埼玉医科大学 内分泌内科・糖尿病内科、3.日本医科大学 大学院生体統御科学分野）

[3P-0081] メバロン酸経路から分岐しコレステロール生合成を抑制する新規フェリニン経路の制御機構解明

○弗田 彩心[1]、山下 哲郎[1]、宮崎 雅雄[1]（1.岩手大・農）

[3P-2-1] 2. タンパク質-1) 構造生物学、機能予測

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館1階)

[3P-0082（4LT03-01）] 電子顕微鏡と高速 AFMの組み合わせにより明らかになった脂質二重膜中オリゴ糖転移酵素の動的構造

○川崎 由貴[1]、眞柳 浩太[1]、Ashutosh Srivastava[2]、有山 弘高[4]、Florence Tama[2,3]、安藤 敏夫[4,5]、神田 大輔[1]（1.九大・生医研・構造生物、2.名大・理学・物理、3.理研・計算科学、4.金大・バイオAFM先端研究センター、5.金大・物理）

[3P-0083（4LT03-02）] The effect of different target nucleic acids on the structural change of TLS

○Nesreen Hamad[1,2]、Tsukasa Mashima[1,2]、Hiroki Watanabe[3]、Takayuki Uchihashi[3]、Riki Kurokawa[4]、Takashi Nagata[1,2]、Masato Katahira[1,2]（1.Inst. of Adv. Energy, Kyoto Univ.、2.Grad. Sch. of Energy Sci., Kyoto Univ.、3.Dept. of phys., Nagoya Univ.、4.RCGM, Saitama Medical Univ.）

[3P-0084（4LT03-03）] Development of a new protein labeling system to map subunits &domains of macromolecular complexes for electron microscopy (EM)

○Zuben Brown[1,2,3]、Kenji Iwasaki[1]、Junichi Takagi[1]（1.Osaka U., IPR, Lab. Prot. Syn.、2.Osaka U., FBS、3.Osaka U., Humanwear Innov. Prog.）

[3P-0085（4LT03-04）] Toll様受容体7の新規リガンド認識機構

○張 志寰[1]、大戸 梅治[1]、清水 敏之[1]（1.東大・院薬・構造）

[3P-0086（4LT03-05）] クライオ電子顕微鏡とプロテイントモグラフィー法を用いた一分子構造レベルにおける低分子化合物と蛋白質の結合領域同定手法の開発

○前川 あゆ美[1]、三瀬 武[1]、Ulf Skoglund[2]、亀井 朗[1]（1.沖縄プロテ

©日本分子生物学会/日本生化学会

イントモグラフィー（株）、2.沖縄科学技術大学院大・構造細胞生物学）

[3P-0087（4LT03-06）] FliLは細菌べん毛モーター固定子を制御するメカノセンサーか？
○竹川 宜宏[1]、伊角 実優[1]、朱 世偉[2,3]、西野 優紀[2]、佐久間 麻由子[2,4]、小嶋 誠司[2]、本間 道夫[2]、今田 勝巳[1]（1.阪大・院理・高分子科学、2.名大・院理・生命理学、3.Dept. of Pathol. and Laboratory Medicine, McGovern Medical School at UTHealth、4.名大・RIセンター）

[3P-0088（4LT03-07）] LTTR-DNA複合体の MR-native SAD法による結晶構造解析
○千田 美紀[1]、Maharani Koentjoro[2,3]、安達 成彦[1]、小川 直人[2]、千田 俊哉[1]（1.高エネ研・構造生物、2.静大・農、3.岐大・院農）

[3P-0089（4LT03-08）] Functional structure of Kv1.2 ion channel in lipid environment
○Hideki Shigematsu[1]、Mikako Shirouzu[1]、Fred Sigworth[2]（1.DSSB, RIKEN CLST、2.Dept. Cell &Mol. Phys., Yale Univ. Med. School）

[3P-0090（4LT03-09）] 黄疸の原因物質ビリルビンの生成反応機構の解明 -ビリベルジン還元酵素-基質複合体の結晶構造解析-
高尾 春奈[1]、福山 恵一[2]、杉島 正一[3]、○和田 啓[4]（1.宮崎大・院医獣、2.阪大・院工、3.久留米大・医、4.宮崎大・医）

[3P-0091（4LT25-01）] 選択的 mRNA核外輸送に機能する UAP56ならびに URH49の立体構造解析による遺伝子発現調節機構の解明
○入江 みどり[1]、藤田 賢一[1]、伊藤 慶紗[1]、引間 孝明[2]、小島 正樹[3]、三上 文三[4]、増田 誠司[1]（1.京大・院生命、2.理研・放射光科学総合研究センター 利用システム開発研究部門、3.東京薬科大・生命科学、4.京大・院農）

[3P-0092（4LT25-02）] リン酸化を介して DNA 結合能が制御される新奇な DNA 結合タンパク質の立体構造解析
○高尾 和也[1]、飯尾 洋太[2]、井上 真男[2,3]、藤井 裕己[4]、倉光 成紀[2]、増井 良治[1]（1.大阪市大・院理、2.大阪大・院理、3.京都大・院農、4.大阪大・院生命機能）

[3P-0093（4LT25-03）] ヒト小胞体カルシウムポンプ SERCA2aの構造機能解析
○作田 菜奈美[1]、井上 道雄[1]、渡部 聡[1]、潮田 亮[2]、永田 和宏[2]、稲葉 謙次[1]（1.東北大・多元研、2.京産大・総合生命）

[3P-0095（4LT25-05）] Argonauteタンパク質構造変化の1分子解析
○坪山 幸太郎[1,2]、多田隈 尚史[3]、泊 幸秀[1,2]（1.東大・院新領域・メディカル情報、2.東大・分生研、3.阪大・蛋白研）

[3P-0096（4LT25-06）] 光活性化 cyclicAMP合成酵素 PACの構造生物学
○大木 規央[1]、伊関 峰生[2]、松永 茂[3]、柴山 修哉[4]、朴 三用[1]（1.横浜市大院・生命医、2.東邦大・薬学部、3.浜ホト・中央研、4.自治医大）

[3P-0097（4LT25-07）] 基礎的な転写伸長因子が結合した RNAポリメラーゼ II転写伸長複合体の構造
○江原 晴彦[1]、横山 武司[1]、重松 秀樹[1]、横山 茂之[2]、白水 美香子[1]、関根 俊一[1]（1.理研・CLST・DSSB、2.理研・構造生物）

[3P-0098（4LT25-08）] 溶液 NMR法を用いた MAPK p38αによるストレス刺激に適合した基質選別機構の解明
○徳永 裕二[1,2]、竹内 恒[1]、高橋 栄夫[3]、嶋田 一夫[1,4]（1.産総研・創薬分子、2.バイオ産業情報化コンソ、3.横浜市大・生命医科、4.東大・院薬）

[3P-0099（4LT25-09）] 髄膜炎菌由来の翻訳因子 EF-Pのラムノース修飾による活性化の構造的基盤
○仙石 徹[1]、鈴木 健裕[2]、堂前 直[2]、渡邉 千鶴[3]、本間 光貴[3]、疋田

©日本分子生物学会/日本生化学会

泰士[1]、山口 芳樹[4]、高橋 英之[5]、横山 茂之[1]、柳沢 達男[1]（1.理研・横山構造、2.理研・CSRS、3.理研・CLST、4.理研・GRC、5.感染研・細菌第一部）

[3P-0100] 疎水性残基導入が難結晶性タンパク質の結晶化に与える影響

○小坂 恵[1]、山田 秀徳[2]、二見 淳一郎[2]、多田 宏子[1]、今村 維克[2]、玉田 太郎[3]（1.岡山大・自然生命科学セ、2.岡山大・院・自然科学、3.量子機構・量子ビーム）

[3P-0101] 溶液 NMR法を用いた RNA結合性タンパク質 SHARPの構造解析

○永井 敢[1]、小林 彩保[1]、伊藤 隆[1]、三島 正規[1]（1.首都大・理工）

[3P-0102] 糸状菌 Trichoderma viride由来 LysOX前駆体の活性調節の構造基盤

○北川 征樹[1]、伊藤 菜奈子[1]、松本 侑也[2]、天野 万里[2]、田村 隆[2]、日下部 均[2,3]、稲垣 賢二[2,3]、今田 勝巳[1]（1.阪大・院理・高分子科学、2.岡大・院・環境生命、3.(株)エンザイムセンサ）

[3P-0103] 免疫補助制御分子 CD160とリガンド HVEMの分子認識機構に向けた研究

○岩森 美樹[1]、黒木 喜美子[1]、齊藤 貴士[1,2]、阿部 千紘[1]、小島 理恵子[3]、前仲 勝実[1]（1.北海道大学大学院薬学院、2.北海道薬科大学薬学部、3.山形大学理学部）

[3P-0104] 長波長励起型チャネルロドプシン、 Chrimsonの構造解析

○小田 和正[1]、大石 賢実[1]、谷口 怜哉[1]、西澤 知宏[1]、石谷 隆一郎[1]、濡木 理[1]（1.東大・院理・生物科学）

[3P-0105] ヒト NBS1の N末端部位の精製法とその性質

○杉山 里奈[1]、田内 広[1]、鈴木 啓司[3]、海野 昌喜[1,2]（1.茨城大・院理工・量子線、2.茨城大・フロンティア、3.長崎大・原研医療）

[3P-0106] バキュロウイルス昆虫細胞発現系を用いたマウス嗅覚受容体の大量発現及び機能構造解析

○川端 孝明[1]、池上 健太郎[1]、玉木 良平[1]、野口 恵一[2]、福谷 洋介[1]、松波 宏明[3]、養王田 正文[1]（1.農工大・院工・生命工、2.農工大・機器分析施設、3.デューク大・メディカルセンター・MGM）

[3P-0107] 緑膿菌のヘム獲得機構解明を目指したヘム獲得蛋白質複合体 (PhuUV-PhuT) の発現と精製

○榊原 えりか[1]、荘司 長三[1]、渡辺 芳人[2]（1.名大・院理、2.名大・物国）

[3P-0108] シマミミズ由来生デンプン分解酵素の低温活性保持機構

○平野 優[1]、有木 真吾[2]、中 裕規[2]、上田 光宏[2]、玉田 太郎[1]（1.量研・量子ビーム、2.大阪府大・院生命）

[3P-0109] PTPRDと SALMによるシナプス形成誘導機構の構造基盤

○伊藤（後藤） 桜子[1,2,3]、山形 敦史[1,2,3,4]、佐藤 裕介[1,2,3,4]、植村 健[3,5]、城島 知子[1,2,3]、前田 亜沙美[1,2,3]、今井 彩子[6]、森 寿[6]、吉田 知之[6,7]、深井 周也[1,2,3,4]（1.東大・分生研、2.東大・放射光卓越拠点、3.CREST、4.東大・新領域、5.信州大・医、6.富山大・医、7.PRESTO）

[3P-0110] 最先端クライオ電子顕微鏡による近原子分解能解析の支援提供

岩崎 憲治[1]、宮崎 直幸[1]、○廣瀬 未果[1]、常住 規代[1]（1.阪大・蛋白研）

[3P-0111] αシヌクレイン凝集体の構造の違いによる細胞への影響

○井村 成[1,2]、鈴木 元治郎[2]、長谷川 成人[2]、久永 眞市[1]（1.首都大・院理・生命科学、2.医学研・認知症PJ）

[3P-0112] オートファゴソーム形成初期段階に関与するVMP1の精製法の確立

○井爪 珠希[1]、志甫谷 渉[1]、田村 律人[2]、山本 林[2]、水島 昇[2]、濡木 理[1]（1.東大・院理・生物科学、2.東大・院医・分子生物学）

[3P-0113] ヒストンメチル化酵素 SETDB2結合因子 SMBP1の機能ドメイン解析

○真鼻 裕[1]、有吉 眞理子[2]、長尾 恒治[3]、小布施 力史[3]、白川 昌宏[1]（1.京大・院工・分子工、2.阪大・生命機能、3.阪大・院理・生物科学）

[3P-0114] クライオ EMなどによる多階層構造データのためのウェブサーバー

○鈴木 博文[1,2]、川端 猛[1]、中村 春木[1,2]、栗栖 源嗣[1,2]（1.阪大・蛋白研、2.PDBj）

[3P-0115] ヒト TRPV1アンキリンリピートドメインの構造生物学的研究

○早川 香織[1]、小川 臨[2]、黒川 竜紀[2]、森 泰生[2]、海野 昌喜[1,3]（1.茨大・院理・量子線科学、2.京大・院工・合成生物化学、3.茨大・iFRC）

[3P-0116] Sphingobium sp. SYK-6株由来メチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素(MetF)の代謝フラックス及び構造解析に関する研究

○于 宏洋[1,2]、桑原 直之[2]、千田 俊哉[1,2]（1.総合研究大学院大学、2.高エネルギー加速器研究機構）

[3P-0117] eIF4Aと Rocaglamideによる配列選択的翻訳抑制の構造基盤

○伊藤 拓宏[1]、岩崎 わかな[1]、高橋 真梨[1]、岩崎 信太郎

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2]、Nicholas Ingolia[3]（1.理研CLST、2.理研・岩崎RNAシステム生化学研究室、3.Dept. of Mol. Cell Biol., UC Berkeley）

[3P-0118] コレラ菌走化性受容体 Mlp24, 37のリガンド認識機構の差異

○高橋 洋平[1]、西山 宗一郎[2]、川岸 郁朗[2]、今田 勝巳[1]（1.阪大・院理、2.法大・生命科学）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 2) フォールディングと品質管理（ポスター）

[3P-2-2] 2. タンパク質-2) フォールディングと品質管理

13:15 〜 15:45 ポスター・展示会場1-1 (神戸国際展示場 1号館 1階)

[3P-0119] ダイズ PDIファミリーと Ero1の分子間活性制御

○松崎 元紀[1]、奥田 綾[1]、廣瀬 明歩[1]、河野 慧一[1]、土 雄一朗[1]、増田 太郎[1]、裏出 令子[1]（1.京大・院農・農学）

[3P-0120（4AT25-07）] 複数のダイズ PDIファミリータンパク質とダイズ Ero1による協調的なタンパク質の酸化的フォールディング

○奥田 綾[1]、松崎 元紀[1]、河野 慧一[1]、土 雄一朗[1]、廣瀬 明歩[1]、増田 太郎[1]、裏出 令子[1]（1.京大・院農・農学）

[3P-0121] 複合体の結晶化を目的とした高純度ニューロセルピンの精製法の確立

○津田 美代子[1]、原田 彰大[1]、恩田 真紀[1]（1.大阪府立大・理・生物）

[3P-0122] 分子間 SH/S-S交換反応を利用した refoldingによる tPAの調製

原田 彰大[1]、津田 美代子[1]、○恩田 真紀[1]（1.大阪府立大・理・生物）

[3P-0123（4AT25-01）] 再構成型細胞様 GUVを利用したポリグルタミンタンパク質の凝集と凝集抑制の解析

○町田 幸大[1,2]、神澤 空流[1]、井寄 真仁[1]、山本 悠貴[1]、岡留 壮志[1]、今高 寛晃[1,2]（1.兵庫県立大・院工・応用化学、2.理研・ライフサイエンス）

[3P-0124（4AT25-02）] Hsp70シャペロンによる AAA+プロテアーゼ分解基質のトリアージ

○杉本 真也[1]、寺尾 明莉[1]、山中 邦俊[2]、小椋 光[2]、水之江 義充[1]（1.慈恵医大・医・細菌、2.熊本大・発生研・分子細胞制御）

[3P-0125（4AT25-03）] AAA molecular chaperone Cdc48 functions with the 20S proteasome to maintain protein homeostasis

○Md Tanvir Islam[1,2]、Seiya Kaneko[1]、Teru Ogura[1,2,3]、Masatoshi Esaki[1,3]（1.Dept. of Mol. Cell Biol., Inst. of mol. Embryo. and Genetics, Kumamoto Univ.、2.Prog. for Lead. Grad. Sch. 'HIGO Program', Kumamoto Univ.、3.Core Res. for Evolu. Sci. and Tech. Japan Sci. and Tech. Agency）

[3P-0126（4AT25-04）] 新規リボソーム品質管理因子 Vms1による新生ミトコンドリアタンパク質の品質管理機構

○井澤 俊明[1,2]、Sae-Hun Park[1]、Liang Zhao[1]、Ulrich Hartl[1]、Walter Neupert[1,2]（1.Department of Cellular Biochemistry, Max Planck Institute of Biochemistry、2.Department of Cell Biology, Biomedical Center, Medical Faculty, University of Munich）

[3P-0127（4AT25-05）] プロテオグリカン型糖鎖修飾酵素遺伝子の転写を制御するゴルジ体ストレス応答経路の解析

○谷口 麻衣[1]、小森 亮太[1]、奥田 知穂[1]、田中 隆也[1]、高木 菜耶[1]、糸井 雄基[1]、佐々木 桂奈江[1]、若林 貞夫[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院・生命理学）

[3P-0128（4AT25-06）] P5による酸化的フォールディングの触媒機構の解明

○奥村 正樹[1,2]、金村 進吾[2]、荒井 堅太[3]、秋山 修志[4]、稲葉 謙次[1,5]（1.東北大・多元研、2.東北大・学際研、3.東海大・理・化、4.分子研、5.CREST・JST）

[3P-0129（4AT25-08）] 亜鉛イオンは ERp44によるタンパク質品質管理機構を制御する

○天貝 佑太[1]、渡部 聡[1]、原山 麻奈美

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、山田 桃[1]、Sara Sannino[2]、Roberto Sitia[2]、稲葉 謙次[1]（1.東北大・多元研、2.IRCCS Ospedale San Raffaele, Italy）

[3P-0130（4AT25-09）] 二本鎖フォールディング反応によるウシ膵臓インスリンおよびセレノインスリンの調製

○荒井 堅太[1]、武居 俊樹[2]、奥村 正樹[3,4]、渡部 聡[3]、天貝 佑太[3]、朝比奈 雄也[2]、北條 裕信[2,3]、稲葉 謙次[3,5]、岩岡 道夫[1]（1.東海大・理・化、2.阪大・蛋白研、3.東北大・多元研、4.東北大・学際研、5.CREST・JST）

[3P-0131（4AT25-10）] リポカリン型プロスタグランジン D合成酵素において高度に保存されたジスルフィド結合が構造安定性およびペプシン消化に与える影響

○厚地 省吾[1]、寺岡 佳晃[1,2]、李 映昊[3]、後藤 祐児[3]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.日本学術振興会特別研究員DC、3.阪大・蛋白研）

[3P-0132（4AT25-11）] 植物小胞体に含まれる遊離*N*-グリカン (FNGs) 構造解析とFNGs のタンパク質フォールディング促進活性

○勝部 諒[1]、阿部 義人[2]、前田 恵[1]、植田 正[2]、木村 吉伸[1]（1.岡山大院・環境生命、2.九州大院・薬学府）

[3P-0133（4AT25-12）] 高度好熱菌 protein kinase TpkD の構造安定性に対する ATP の効果

○藤野 友輔[1]、井上 真男[2]、藤井 裕己[3]、倉光 成紀[4]、増井 良治[1]（1.大阪市大・院理、2.京大・院農、3.阪大・院生命機能、4.阪大・院理）

[3P-0134（4AT25-13）] 部位特異的*in vivo*光架橋法による生細胞内での新生タンパク質のフォールディング・複合体形成の動的過程の解析

○宮崎 亮次[1]、明後 尚美[1]、森 博幸[1]、秋山 芳展[1]（1.京大・ウイルス再生研）

[3P-0135（4AT25-14）] シャペロニン工学：大腸菌GroELの特性を活かした医学・工学的応用可能性3例

○溝端 知宏[1]、島 陽子[1]、福井 直也[1]、Bimlesh Ojha[1]、本郷 邦広[1]、河田 康志[1]（1.鳥取大院・工・化学生物応用）

[3P-0136（4AT25-15）] 大腸菌 Hsp90 (HtpG)によるHsp70シャペロンシステムのフォールディング反応制御機構

○元島 史尋[1,2]、元島ー宮崎 優子[2]、吉田 賢右[2]（1.富県大・工、2.京産大・総合生命）

[3P-0137] ヒト由来分子シャペロン Hsp60によるαシヌクレインアミロイド線維化抑制に関する研究

○山本 英絵[1]、藤井 祐樹[1]、福井 直也[1]、本郷 邦広[1]、溝端 知宏[1]、河田 康志[1]（1.鳥取大院・工・生物応用）

[3P-0138] ユビキチン様タンパク質 MNSFβの脱凝集化と細胞増殖制御機構の解明

○野津 香織[1]、中村 守彦[1]（1.島根大・産学連携セ・地域医学）

[3P-0139] ユビキチン過剰発現によりアミノ酸アナログ感受性が抑圧される変異株の探索

○増田 亮[1]、木村 洋子[1]、筒井 優[1]（1.静大・総合科学技術・農学）

[3P-0140] 脂肪酸結合蛋白質 FABP3が及ぼす alpha-Synuclein のアミロイド線維形成に対する影響

○福井 直也[1]、進藤 愛未[2]、蓮尾 剣史郎[1]、篠田 康晴[3]、本郷 邦広[1]、溝端 知宏[1]、福永 浩司[3]、河田 康志[1]（1.鳥取大院・工・生物応用、2.鳥取大院・医・機能再生、3.東北大院・薬・薬理）

[3P-0141] ゴルジ体におけるカルシウム恒常性破綻に対するストレス応答制御

○佐々木 桂奈江[1]、谷口 麻衣[1]、若林 貞夫[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院・生命理学）

[3P-0142] PDI familyによるヒト血清アルブミン新生鎖の酸化的フォールディング触媒機構の解明

○平山 千尋[1]、奥村 正樹[1,2]、町田 幸大[3]、今高 寛晃[3]、稲葉 謙次[1]（1.東北大・多元研、2.東北大・学際科学フロンティア研、3.兵庫県立大・大学院工学研究科）

[3P-0143] 小胞体の予防的品質管理における新規合成タンパク質の分解機構

○門脇 寿枝[1]、西頭 英起[1]（1.宮崎大・医・機能生化学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0144] タイト結合膜蛋白 occludinはジスルフィド結合とユビキチン化を介して安定性が調節され、アポトーシス誘導を制御する

○田中 敏[1,2]、高澤 啓[2]、村田 雅樹[2]、小山内 誠[2]、澤田 典均[2]（1.北大・院医・死因究明センター病理、2.札幌医大・医・第二病理）

ポスター会場1-2

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 3) タンパク質分解（ポスター）

[3P-2-3] 2. タンパク質-3) タンパク質分解

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0146] プロテアソーム制御因子 UBE3Cと UCHL5の機能的関連性の解析

○岡本 一将[1]、岡田 麻衣子[1]、宇井 彩子[1]（1.東京工科大学 応用生物学部）

[3P-0147（4LT01-01）] 高浸透圧ストレス応答におけるプロテアソーム依存的な ASK3不活性化機構とその意義

○周 翔宇[1]、渡邊 謙吾[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[3P-0148（4LT01-06）] 異なる細胞内分解経路に関わる CFTR 変異体のポリユビキチン化修飾解析

○原 寛幸[1]、遠藤 彬則[2]、寺川 真奈[1]、加藤 知希[1]、駒田 雅之[2]、沖米田 司[1]（1.関学大・理工・生命医化学、2.東工大・理工・生命理工）

[3P-0149（4LT01-08）] SCF^{FBXO27}による損傷リソソームから細胞質へ露出した糖蛋白質のユビキチン化はリソファジーの引き金となる

○吉田 雪子[1]、安田 さや香[2]、藤田 敏治[3]、濱崎 万穂[3]、村上 有沙[1]、川脇 純子[1]、岩井 一宏[4]、佐伯 泰[2]、吉森 保[3]、松田 憲之[1]、田中 啓二[2]（1.都医学研・ユビキチン、2.都医学研・蛋白質代謝、3.阪大・医・遺伝学、4.京大・医・細胞機能）

[3P-0150（4P1T25-01）] 新規小胞体膜タンパク質 ERjd8はオートファゴソームの大きさを制御する

○葛西 綾乃[1]、山本 洋平[2]、瀧野 友愛[1]、杉原 宗親[1]、上田 洋行[3]、梅本 哲雄[3]、濱崎 万穂[3]、佐藤 美由紀[4]、佐藤 健[4]、Richard Morimoto[5]、八田 知久[6]、夏目 徹[6]、荒井 律子[7]、和栗 聡[7]、Shoshana Bar-Nun[8]、吉森 保[3]、永田 和宏[2]（1.京産大・総合生命、2.京産大・タンパク動態研、3.阪大・医、4.群大・生体研、5.ノースウエスタン大、6.産総研、7.福島医大・医、8.テルアビブ大）

[3P-0151（4P1T25-02）] 新規小胞体膜タンパク質 ERdj8の生理機能の解析

○瀧野 友愛[1]、山本 洋平[2]、Richard Morimoto[4]、佐藤 美由紀[3]、佐藤 健[3]、永田 和宏[1,2]（1.京産大総合生命、2.京産大タンパク動態研、3.群大生体機能研、4.ノースウエスタン大）

[3P-0152（4P1T25-03）] 皮膚特異的カルパイン12の活性異常は乾癬の発症に関与する

○秦 勝志[1]、山本 圭[2]、西藤 泰昌[3]、北村 ふじ子[1]、村上 誠[4]、反町 洋之[1]（1.都医学研・カルパインPJ、2.徳島大・生物資源産業、3.都医学研・基盤技術研究セ、4.東大・医・疾患生命工学セ・健康環境医工学）

[3P-0153（4P1T25-04）] 細菌 Rhomboidファミリープロテアーゼ GlpGはべん毛 III型分泌装置の構成因子の分解に関与する

○檜作 洋平[1]、照島 功祐[1]、秋山 芳展[1]（1.京大 ウイルス・再生研）

[3P-0154（4P1T25-05）] II型膜貫通セリンプロテアーゼの新規基質としての受容体型チロシンキナーゼの同定

○岡島 梓[1]、藤元 次郎[1,2]、渡辺 慎哉[3]、仙波 憲太郎[1,3]（1.早大・先進理工、2.一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム、3.福島医大・医産TRセンター）

[3P-0155] Comparative kinetics study of amyloid βdegradation by neprilysin and transthyretin

○Piranun Rattanakul[1]、Ladda Leelawatwattana[1]、Porntip Prapunpoj[1]（1.Department of Biochemistry, Faculty of Science, Prince of Songkla University, Thailand）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0156] A Single Amino Acid Mutation of NV of Viral Hemorrhagic Septicemia Virus Increases Protein Stability
○Mi So Seong[1]、So Young Kim[1]、Ye Eun Jeong[1]、Jae Hun Cheong[1]（1.Department of Molecular Biology, Pusan National University, Busan, Republic of Korea.）

[3P-0157] ER膜アンカー型転写因子 MyRFはユビキチンリガーゼ SCFFbxw7の新規基質である
○中山 省悟[1]、弓本 佳苗[1]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学）

[3P-2-4] 2. タンパク質-4) タンパク質修飾

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0158（4LT01-02）] 2種類のユビキチンリガーゼを介した癌抑制遺伝子STK11/LKB1の新たな発現量調節機構
○高橋 祐介[1]、平田 祐介[1]、野口 拓也[1]、松沢 厚[1]（1.東北大・院薬・衛生化学）

[3P-0159（4LT01-03）] LUBACユビキチンリガーゼの複合体安定性、機能における新規相互作用の役割
○藤田 宏明[1]、徳永 暉[2]、白川 昌宏[2]、岩井 一宏[1]（1.京大院・医・細胞機能、2.京大院・工・分子工）

[3P-0160（4LT01-04）] LUBAC活性を制御する新規RING型ユビキチンリガーゼの機能解析
○阿部 貴則[1]、後藤 栄治[1]、及川 大輔[1]、高橋 宏隆[2]、堀居 拓郎[3]、寺脇 正剛[1]、畑田 出穂[3]、澤崎 達也[2]、徳永 文稔[1]（1.大阪市立大学・大学院医学研究科・分子病態学、2.愛媛大学・プロテオサイエンスセンター、3.群馬大学・生体情報ゲノムリソースセンター）

[3P-0161（4LT01-07）] ライソゾームに局在するユビキチンリガーゼ RNF182はアミノ酸トランスポーター LAT1の輸送を調節する
○金子 雅幸[1]、郭 暁鵬[1]、今泉 和則[1]（1.広島大・院医歯薬保・分子細胞情報学）

[3P-0162（4P1T25-06）] The mechanism of Sentrin-specific protease 2 in substrate recognition and its role in TGF-beta induced tumorigenesis
Chia-Ju Lin[1]、Tsai-Ling Ho[1]、Hsin-Mei Liu[1]、Ruei-Ting Chang[1]、○CHE-CHANG CHANG[1]（1.Graduate Institute of Translational Medicine, College of Medical Science and Technology, Taipei Medical University）

[3P-0163（4P1T25-08）] 接着分子 CADM1のシェディング感受性は選択的スプライシングと糖鎖修飾により規定される
○白壁 恭子[1]、大村 卓也[1]、柴垣 芳夫[2]、三原 恵美子[3]、本間 桂一[4]、加藤 幸成[5]、吉村 昭彦[6]、村上 善則[7]、高木 淳一[3]、服部 成介[2]、小川 佳宏[1,8,9]（1.東医歯大・院医歯・分子内分泌代謝、2.北里大・薬・生化、3.阪大・蛋白研・分子創製、4.前橋工大・生命情報、5.東北大・院医・抗体創薬、6.慶應大・医・免疫制御、7.東大・医科研・人癌病因、8.九大・医・病態制御、9.AMED・CREST）

[3P-0164（4P1T25-09）] CKAP4の脂質修飾を介する機能制御
○佐田 遼太[1]、木村 公一[1]、麓 勝己[1]、山本 英樹[1]、菊池 章[1]（1.阪大・院医・分生化）

[3P-0165（4P1T25-11）] PRMT1スプライスバリアント欠損が個体機能へ及ぼす影響
○水上 早瀬[1]、金 俊達[2]、石田 純治[2]、深水 昭吉[2]（1.筑波大・院・生命環境科学、2.筑波大・生命領域学際研究センター）

[3P-0166（4P1T25-12）] 加齢に応じた水晶体機能の低下に関与するアスパラギン酸の異性化修飾
○高田 匠[1]、藤井 紀子[1]（1.京大・原子炉・基礎老化）

[3P-0167] PEG化タンパク質精製法の確立に向けた新規構

©日本分子生物学会/日本生化学会

造化 PEG分子の設計と機能解析
〇山田 千聖[1]、Adam Wawro[2,3]、黒木 喜美子[1]、高橋 愛実[1]、村岡 貴博[2,3]、金原 数[2,3]、前仲 勝実[1]
（1.北大・院・薬、2.東工大・院・生命理工、3.東北大・多元研）

[3P-0168] グリセルアルデヒド-3-リン酸脱水素酵素の補酵素 Aによる S-チオール化
〇辻 幸盛[1,2,3]、尹 基石[1,2,3]、小江 誠司[1,2,3]
（1.九大・院工・応化、2.九大・小分子エネルギーセンター、3.WPI-I2CNER）

[3P-0169] 一酵素・二活性（ PRMT8）が制御する脳機能と生理的意義の解明
〇Jundal Kim[1]、水上 早瀬[2]、加香 孝一郎[2]、石田 純治[1]、深水 昭吉[1] （1.筑波大学・生命領域学際研究センター、2.筑波大学・生命環境科学研究科）

[3P-0170] 脂質異常症に関連した修飾血清アルブミン構造の解析
〇中島 史恵[1]、柴田 貴広[1]、菊地 良介[2]、松下 正[2]、内田 浩二[3] （1.名大院・生命農、2.名大院・医、3.東大院・農学生命）

[3P-2-5] 2. タンパク質-5) プロテオミクス

13:15 〜 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0171] jPOST：プロテオーム統合データベースプロジェクト
〇奥田 修二郎[1]、渡辺 由[1]、守屋 勇樹[2]、河野 信[2]、山本 格[1]、松本 雅記[3]、高見 知代[3]、小林 大樹[4]、荒木 令江[4]、吉沢 明康[5]、田畑 剛[5]、杉山 直幸[5]、田中 聡[6]、五斗 進[2]、石濱 泰[5] （1.新潟大、2.DBCLS、3.九州大、4.熊本大、5.京都大、6.Trans-IT）

[3P-0172] jPOST: 同定結果の FDR改善を目指す再解析プロトコルの開発
〇吉沢 明康[1]、田畑 剛[1]、守屋 勇樹[2]、河野 信[2]、奥田 修二郎[3]、渡辺 由[3]、山本 格[4]、松本 雅記[5]、高見 知代[5]、小林 大樹[6]、荒木 令江[6]、杉山 直幸[1]、田中 聡[7]、五斗 進[2]、石濱 泰[1] （1.京大・院薬、2.情シス研・DS施設・DBCLS、3.新潟大・院医歯、4.新潟大・生体液、5.九大・生体防御、6.熊本大・院生命、7.Trans-IT）

[3P-0173] jPOST: プロテオームデータベースの開発
〇守屋 勇樹[1]、河野 信[1]、奥田 修二郎[2]、渡辺 由[2]、山本 格[3]、松本 雅記[4]、高見 知代[4]、小林 大樹[5]、荒木 令江[5]、吉沢 明康[6]、田畑 剛[6]、杉山 直幸[6]、田中 聡[7]、五斗 進[1]、石濱 泰[6] （1.情シス研・DS施設・DBCLS、2.新潟大・院医歯、3.新潟大・産学連携、4.九大・生体防御、5.熊本大・院生命、6.京大・院薬、7.Trans-IT）

[3P-0174（4LT01-09）] 大規模細胞プロテオームデータを用いた包括的ユビキチン結合モチーフ解析
〇小塚（秦） 裕子[1]、廣木 朋子[1]、北村 亜矢[1]、市倉 慎也[1]、津本 浩平[1,2]、井上 純一郎[1,3]、尾山 大明[1]
（1.東大・医科研・疾患プロテオミクス、2.東大・院工・バイオエンジ、3.東大・医科研・分子発癌）

[3P-0175（4P1T25-07）] マウス心臓におけるβ1-アドレナリン受容体のリン酸化解析
〇林 浩三[1]、後藤 正光[1]、松井 俊勝[2]、今橋 憲一[2]、山下 良[1]、高見 律子[1]、西本 誠之[2]、小林 博幸[1] （1.武田薬品・医薬研究本部・基盤技術研究所、2.武田薬品・医薬研究本部・循環代謝創薬ユニット）

[3P-0176（4P1T25-13）] 細胞質から核への蛋白質輸送を担う12種類の importin-βファミリー輸送因子の基質の同定
〇木村 誠[1]、森中 祐理子[1]、今井 賢一郎[2]、小瀬 真吾[1]、Paul Horton[2]、今本 尚子[1] （1.理研・細胞核機能、2.産総研・人工知能/創薬基盤）

[3P-0177（4P1T25-14）] Dissecting multi-protein signalling complexes by Bimolecular Complementation Affinity Purification (BiCAP).
Mary Iconomou[1]、Jordan F Hastings[1]、Sean P Kennedy[1,2]、Jeremy ZR Han[1]、Robert F Shearer[1]、Jessie McKenna[1]、Darren N Saunders[1,3]、〇David Croucher[1,4,5] （1.The Kinghorn Cancer Centre, Garvan Institute of Medical Research, Australia、2.Systems Biology Ireland, Univ. College Dublin, Ireland、3.Sch. of Med. Sci., Univ. of New South Wales, Australia、4.St Vincent's Hosp.

©日本分子生物学会/日本生化学会

Clin. Sch., Univ. of New South Wales, Australia、5.Sch. of Med., Univ. College Dublin, Ireland）

[3P-0178（4P1T25-15）] タンパク質末端大規模解析に向けた新規タンパク質末端ペプチド濃縮法の開発
○山本 英人[1]、張 智翔[1]、木村 迪子[1]、杉山 直幸[1]、石濱 泰[1]
（1.京大・院薬・薬科学）

[3P-0179] Identification of Noninvasive Biomarker Candidates for Cadmium-induced Nephrotoxicity by Two Proteomic Analyses
○Aree Moon[1]、Sun Young Kim[1]、Hye Min Lee[1]、Kyeong Seok Kim[2]、Hyung Sik Kim[2]（1.College of Pharmacy, Duksung Womens University, Seoul 132-714, Republic of Korea、2.School of Pharmacy, Sungkyunkwan University, Suwon 440-746, Republic of Korea）

[3P-0180] 精密定量プロテオミクスが明らかにした培養条件依存的なタンパク質の発現変動
○松本 結香[1,2]、松本 雅記[2]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学、2.九大・生医研・プロテオミクス）

ポスター発表 | 2. タンパク質 | 6) その他（ポスター）

[3P-2-6] 2. タンパク質-6) その他

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0181（4LT17-02）] OPA1およびカルジオリピンの一方向性のはたらきによるミトコンドリアの選択的な融合機構
○伴 匡人[1]、石原 直忠[1]（1.久留米大・分子生命化学）

[3P-0182（4LT17-04）] 反転膜小胞を用いた細菌べん毛III型分泌装置によるタンパク質輸送の in vitro再構成
○寺島 浩行[1,2]、川本 晃大[3]、巽 千夏[1]、難波 啓一[3,4]、南野 徹[3]、今田 勝巳[1]（1.阪大・院理・高分子、2.名大・院理・生命、3.阪大・院生命機能、4.理研・QBiC）

[3P-0183（4P1T25-10）] トランスグルタミナーゼとポリアミンを介した NF-κB転写因子の調節機構
○槇 光輝[1]、柴田 俊生[2,3]、川畑 俊一郎[1,2]（1.九大院・システム生命科学、2.九大院・理・生物、3.九大院・高等研究）

[3P-0184] Differential regulation of mouse and human Mu opioid receptor gene depends on the single stranded DNA structure of its promoter and PCBP1
Su-Lim Kim [1]、Ji-Hyang Kim [1]、Hong-Yuan Deng [1]、Dong-Sun Lee[1,2]、○Hack Sun Choi[1,2]（1.Dept. of Biotech, College of Appl. Life Sci, Jeju National Univ.、2.Subtropical/Tropical Organism Gene Bank Inst, Jeju National Uni.）

[3P-0185] 脂質変換大腸菌による真核生物膜タンパク質の発現
○今井 友也[1]、中島 啓介[2]、石水 毅[3]（1.京都大学、2.沖縄科学技術大学院大学、3.立命館大学）

[3P-0186] ハブゲノム解読から見出された新規 Three-finger toxinsの発現と機能解析
○土生津 光[1]、齋藤 浩唯[1]、柴田 弘紀[2]、大野 素徳[3]、服部 正策[4]、松井 崇[1]、田中 良和[1]、村本 光二[1]、小川 智久[1]（1.東北大・院生命、2.九大・生医研、3.崇城大、4.東大・医科研）

[3P-0187] ニワトリ ZP1 の分子間ジスルフィド結合形成機構の解析
○武田 祐真[1]、栗山 亘[1]、松田 幹[2]、氏田 稔[1]、奥村 裕紀[1]（1.名城大・院農・生命科学、2.名大・院生命農・応用分子生命科学）

[3P-0188] ニワトリ ZP3 アイソフォームの構造解析と機能解析
○水野 綺香[1]、岩本 英莉[1]、西尾 俊介[2]、松田 洋一[3]、松田 幹[2]、氏田 稔[1]、奥村 裕紀[1]（1.名城大・院農・生命科学、2.名大・院生命農・応用分子生命科学、3.名大・院生命農・鳥類バイオサイエンス研究セ）

[3P-0189] 神経分化過程でκ-caseinと相互作用するタンパク質の探索
○井上 良介[1]、小林 隆信[1]、鈴木 雅代[2]、因藤 有里[1]、安部 千晶[1]、喜納 克仁[1]、宮澤 宏[1]（1.徳島文理大・香川薬、2.広島国際大・薬）

[3P-0190] LI-cadherinのホモ二量体形成機構に関する物理化学的手法による解析
○由井 杏奈[1]、菊池 智佳[2]、工藤 翔太[2]、秋葉 宏樹[1]、長門石 曉[1]、新井 修[3]、岩成 宏子[3]、浜窪 隆雄[3]、津本 浩平[1,2,4]（1.東大院・工・バイオエンジ、2.東大院・工・化生、3.東大・先端研、4.東大・医科研）

ポスター発表 | 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー | 1) 酵素の反応機構、調節、阻害（ポスター）

[3P-3-1] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-1)

©日本分子生物学会/日本生化学会

酵素の反応機構、調節、阻害

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0191] Inhibition of Cytochrome P450 2A6 by Kaempferol and Myricetin

○Khanistha Prakobsri[1]、Supattra Boonruang[1]、Phisit Pouyfung[2]、Aruna Prasopthum[2]、Pornpimol Rongnoparut[2]、Songklod Sarapusit[2,3]

（1.Bioengineering Program, Faculty of Engineering, Burapha University, 169 Long-Hard Bangsaen Rd., Muang, Chonburi 20131, Thailand.、2.Department of Biochemistry, Faculty of Science, Mahidol University, 272 Rama 6 Rd., Ratchathewi, Bangkok 10400, Thailand.、3.Department of Biochemistry and Center for Innovation in Chemistry, Faculty of Science, Burapha University, 169 Long-Hard Bangsaen Rd., Muang, Chonburi 20131, Thailand. ）

[3P-0192] Inhibition of Cytochrome P450 2A13 by Kaempferol and Myricetin

○Supattra Boonruang[1]、Khanistha Prakobsri[1]、Phisit Pouyfung[2]、Aruna Prasopthum[2]、Pornpimol Rongnoparut[2]、Songklod Sarapusit[3]

（1.Bioengineering Program, Faculty of Engineering, Burapha University, 169 Long-Hard Bangsaen Rd., Muang, Chonburi 20131, Thailand.、2.Department of Biochemistry, Faculty of Science, Mahidol University, 272 Rama 6 Rd., Ratchathewi, Bangkok 10400, Thailand.、3.Department of Biochemistry and Center for Innovation in Chemistry, Faculty of Science, Burapha University, 169 Long-Hard Bangsaen Rd., Muang, Chonburi 20131, Thailand. ）

[3P-0193] Inhibition of human monoamine oxidase (MAO) enzymes by some Thai medicinal plant extracts

○Sopa Ninted[1]、Ekaruth Srisook[2]、Songklod Sarapusit[1]（1.Department of Biochemistry and Center for Innovation in Chemistry, Faculty of Science, Burapha University, Saensook, Muang, Chonburi 20131, Thailand、2.Department of Chemistry and Center for Innovation in Chemistry, Faculty of Science, Burapha University, Saensook, Muang, Chonburi 20131, Thailand）

[3P-0194] リポタンパク質代謝酵素の分泌における有機カチオントランスポーター(OCT)の関与

○遠竹 偲乃[1]、中村 徹也[1]、上敷領 淳[1]、森田 哲生[1]（1.福山大・薬・生化学）

[3P-0195] 脱ユビキチン化酵素 USP47の C末端ホモロジー領域はそのポリユビキチン鎖認識機構に重要である

○福岡 啓太[1]、服部 明[1]、掛谷 秀昭[1]（1.京大・院薬・医薬創成情報科学）

[3P-0196] 反応中間体構造解析のための酵素反応遅延条件の探索

○杉山 玲[1]、田中 伊知朗[2]（1.茨城大・院理工・量子線、2.茨城大・工・生体分子）

[3P-0197] SIRT1は筋機能維持と筋障害軽減に働く

○瀬堀 理生[1]、久野 篤史[1]、細田 隆介[1]、堀尾 嘉幸[1]（1.札幌医大・医・薬理）

[3P-0198] 酵素阻害に対する酸化グラフェンのサイズ効果と阻害様式の解明

○丸木 さくら[1]、山口 佳宏[2]、金 善南[1]、和知野 純一[3]、黒崎 博雅[4]、荒川 宜親[3]、栗原 清二[1]（1.熊大・院自・物質生命化学、2.熊大・環境安全センター、3.名大・医、4.金城院大・薬）

[3P-0199] リボソームにおけるペプチド結合形成の反応機構に関する分子間相互作用を考慮した量子化学計算による理論的研究

○福島 和明[1]、江嵜 啓祥[1]（1.兵庫医大・化学）

[3P-0200] 癌代謝物である2-ヒドロキシグルタル酸がヒト由来ペプチド C末端アミド化酵素 PAMに与える影響

○下川 千寿[1]、城田（原田） 沙織[1]、佐藤 秀明[1]、杉島 正一[1]、原田 二朗[1]、東元 祐一郎[1]、Mario Amzel[2]、野口 正人[3]（1.久留米大医、2.Johns Hopkins University School of Medicine、3.帝京大福岡医療技術）

[3P-0201] 植物アスコルビン酸生合成関連酵素 GDP-L-ガラクトースホスホリラーゼ活性調節機構の検討

○崎山 佳祐[1]、小川 貴央[1]、丸田 隆典[1]、石川 孝博[1]（1.島根大・生資化・生命工）

[3P-0202] 好熱性真正細菌 Strain Kps3由来 Homing Endonucleaseの機能解析

○千葉 翔太[1]、石川 凌也[1]、大山 颯[1]、石橋 奈々[1]、馬野 航[1]、早川 准平[1]、赤沼 元気[1]、粟井 貴子[1]、石塚 盛雄[1]（1.中央大・理工・応化）

[3P-0203] アピオス塊茎由来 Kunitz型プロテアーゼインヒビターの分離精製、性質と cDNA クローニング

○劉 佳[1]、上妻 由章[2]（1.農工大・連合農(茨大）、2.茨大・農）

[3P-0204] ニワトリリゾチームおよびハマグリリゾチームの構造と機能に関する研究

©日本分子生物学会/日本生化学会

○冨所 修平[1]、米田 一成[1]、荒木 朋洋[1]（1.東海大・農・バイオ）

[3P-0205] グルタチオン-S-トランスフェラーゼを標的とした共有結合性阻害剤の開発

宍戸 裕子[1,2]、藤川 遥加[3]、○友池 史明[4]、木村 康明[2]、桑田 啓子[5]、村上 優子[6]、福井 健二[7]、関戸 好孝[6]、矢野 貴人[7]、周東 智[1]、阿部 洋[2]（1.北大院・薬、2.名大院・理、3.名市大院・薬、4.名大・物国センター、5.名大・WPI-ITbM、6.愛知がんセンター研究所、7.大阪医大）

[3P-0206] 活性イオウ分子によるカルモデュリンキナーゼIの活性制御機構

○高田 剛[1]、土屋 幸弘[1]、渡邊 泰男[1]（1.昭和薬大・薬・薬理学）

[3P-0207] 心臓特異的ミオシン軽鎖キナーゼの活性制御機構の解明

○宇山 侑希[1]、塚本 蔵[1,2]、高島 成二[1,2]（1.阪大・院生命機能、2.阪大・院医）

[3P-0208] 位置選択的モナピノン二量体化酵素 MCEの基質特異性に関する研究

○大城 太一[1]、豊田 雅幸[1]、川口 未央[1]、供田 洋[1]（1.北里大院薬）

[3P-3-2] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-2) 酸化還元酵素、金属酵素

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0209] ゲノム編集法により作製したＣＹＰ２７Ｂ１遺伝子欠損およびビタミンＤ受容体遺伝子改変ラットを用いたビタミンＤ作用メカニズムの解明

○西川 美宇[1]、安田 佳織[1]、高松 将士[1]、阿部 圭祐[1]、堀部 恭平[1]、岡本 海利[1]、真野 寛生[1]、中川 公恵[2]、津川 尚子[3]、岡野 登志夫[2]、生城 真一[1]、榊 利之[1]（1.富山県立大・工、2.神戸薬科大・衛生化学、3.大阪樟蔭女子大・健康栄養）

[3P-0210] ゲノム編集法で作出した I型くる病モデル CYP27B1遺伝子欠損ラットへの25-ヒドロキシビタミン D3投与の効果

○堀部 恭平[1]、西川 美宇[1]、安田 佳織[1]、高松 将士[1]、阿部 圭祐[1]、岡本 海利[1]、真野 寛生[1]、中川 公恵[2]、津川 尚子[3]、岡野 登志夫[2]、生城 真一[1]、榊 利之[1]（1.富山県大・工、2.神戸薬大・薬、3.大阪樟蔭女子大・健康栄養）

[3P-0211] ゲノム編集法で作出した CYP27B1 KOおよび変異型 VDR導入ラットの比較による25-ヒドロキシビタミン D3の作用メカニズムの解明

○阿部 圭祐[1]、西川 美宇[1]、安田 佳織[1]、堀部 恭平[1]、高松 将士[1]、トウ キンエキ[1]、真野 寛生[1]、岡本 海利[1]、中川 公恵[2]、津川 尚子[3]、岡野 登志夫[2]、生城 真一[1]、榊 利之[1]（1.富山県立大・工、2.神戸薬科大・薬、3.大阪樟蔭女子大・健康）

[3P-0212] LC/MS/MSを利用した血中ビタミン D3代謝物の一斉分析法の確立

○安田 佳織[1]、西川 美宇[1]、岡本 海利[1]、高松 将士[1]、阿部 圭祐[1]、中川 公恵[2]、津川 尚子[3]、岡野 登志夫[2]、生城 真一[1]、榊 利之[1]（1.富山県大・工、2.神戸薬大・薬、3.大阪樟蔭女子大・健康栄養）

[3P-0213] CYP24A1遺伝子欠損ラットを用いた25-ヒドロキシビタミン D3代謝様式の解明

○岡本 海利[1]、安田 佳織[1]、西川 美宇[1]、高松 将士[1]、阿部 圭祐[1]、真野 寛生[1]、中川 公恵[2]、津川 尚子[3]、岡野 登志夫[2]、生城 真一[1]、榊 利之[1]（1.富山県大・工、2.神戸薬大・薬、3.大阪樟蔭女子大・健康栄養科学）

[3P-0214] SufBCD複合体への変異導入解析から見えてきた鉄硫黄クラスターの生合成機構

○湯田 瑛樹[1]、田中 尚志[1]、藤城 貴史[1]、平林 佳[2]、福山 恵一[3]、和田 啓[2]、高橋 康弘[1]（1.埼大・理工・生命科学、2.宮崎大・医、3.阪大・工・応用化学）

[3P-0215] 鉄硫黄クラスター生合成系の多様性：グラム陽性菌に見られるキメラ型生合成系の解析

○横山 奈央[1]、丸山 ちひろ[1]、野中 ちひろ[1]、田中 尚志[1]、葛山 智久[2]、朝井 計[3]、高橋 康弘[1]（1.埼玉大・院理工・生命科学、2.東大・生物工学セ、3.東京農大・生命科・バイオ）

[3P-0216（3AT12-06）] ブラシノステロイド生合成における鍵酵素 CYP90B1の結晶構造及び基質の位置・立体特異的な水酸化メカニズム

○藤山 敬介[1]、日野 智也[1]、Jae Lee Hyoung[2]、水谷 正治[2]、永野 真吾[1]（1.鳥取大院・工・化学生物、2.神戸大院・農・生命機能）

[3P-0217] 膜貫通型アルカン水酸化酵素 AlkBにおける精製タグや界面活性剤による水酸化活性への影響

○岡本 貴樹[1]、宮内 祐輝[2]、永野 真吾[2]、日野 智也[2]（1.鳥取大院・持続性社会創生、2.鳥取大・院工・化学生物）

[3P-0218] トマチンの無毒化など多様なトマチン代謝の初発反応に関わる2-オキソグルタル酸依存性ジオ

©日本分子生物学会/日本生化学会

キシゲナーゼの発現と精製

○安田 早希[1]、藤山 敬介[2]、日野 智也[2]、水谷 正治[3]、永野 真吾[2]（1.鳥取大・工・生物応用、2.鳥取大・院工・化学生物、3.神大・院農・生命機能）

[3P-0219（3AT12-01）] パルスラジオリシス法による転写因子 SoxRの反応性評価

○田中 隆裕[1]、小林 一雄[1]、古澤 孝弘[1]（1.阪大・産研）

[3P-0220（3AT12-02）] カルノシンジペプチダーゼ2 (CN2)に結合する金属イオンと基質特異性の解析

○奥村 宣明[1]、高尾 敏文[1]（1.阪大・蛋白研）

[3P-0221（3AT12-03）] 緑膿菌由来一酸化窒素還元酵素の保存されたグルタミン酸残基の役割

○倉橋 拓也[1]、山際 来佳[1]、武田 真理子[1]、新井 博之[2]、澤井 仁美[1,3]、當舎 武彦[3]、城 宜嗣[1,3]（1.兵県大・院・生命理、2.東大院・農生科・応生工、3.理研・播磨）

[3P-0222（3AT12-04）] 仮性結核菌が持つヘム分解酵素の機能

恩塚 誠士[1]、宮川 大司[1]、下村 直道[1]、○小崎 紳一[1]（1.山口大・創成科学研究科）

[3P-0223（3AT12-05）] 亜鉛欠乏は正常な細胞外ATP代謝を妨げる

○武田 貴成[1]、宮崎 志保[1]、神戸 大朋[1]（1.京大・院生命・統合生命）

[3P-0224（3AT12-07）] 蛍光プローブを用いた生体膜近傍レドックス環境の解析

○羽鳥 勇太[1]、井上 幸江[1]、赤木 玲子[1]（1.安田女子大・薬）

[3P-0225] Effect of Acalypha Indica Linn and Centella asiatica in combination on oxidative stress in heart and kidney of hypoxic rat

○Ani Prijanti[1]、Fadhil Muhammad[2]、David David[1]、Erni Hernawati Purwaningsih[1,3]（1.Dept. of Biochem &Mol. Biol, Faculty of Medicine, Universitas Indonesia、2.Undergraduate Program, Faculty of Medicine, Uneversitas Indonesia、3.Dept. of Medical Pharmacy, Faculty of Medicine, Universitas Indonesia）

[3P-0226] トリプトファン分解酵素の分子進化の新局面 IX

○湯浅 創[1]、杉浦 真由美[2]、春本 晃江[2]（1.高知大・理工・生化学、2.奈良女子大・理・生物科学）

[3P-3-3] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-3) 酵素一般

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0227（3AT12-10）] 表皮形成におけるタンパク質架橋化酵素の機能解析

○田辺 勇輝[1]、加藤 まなみ[1]、山根 美樹[1]、高間 寛之[2]、秋山 真志[2]、辰川 英樹[1]、人見 清隆[1]（1.名大院・創薬科学、2.名大院・医）

[3P-0228] メダカを用いた血液凝固に必須なタンパク質架橋化酵素（ Factor XIII）の遺伝子変異個体の確立と解析

堀水 里麻[1]、渡邊 優子[1]、辰川 英樹[1]、木下 政人[2]、橋本 寿史[3]、○人見 清隆[1]（1.名大院・創薬科学、2.京大院・農、3.名大・生物機能開発利用研究セ）

[3P-0229] ミクログリアにおける D-アミノ酸酸化酵素遺伝子の発現調節機構の解明

○宍戸 裕二[1]、曽我部 浩史[1]、Soo Hyeon Kim[1]、Wanitcha Rachadech[1]、頼田 和子[1]、加藤 有介[1]、福井 清[1]（1.徳島大・先端酵素研・病態システム）

[3P-0230] 哺乳動物細胞における D-アミノ酸酸化酵素タンパク質の代謝経路の解析

○曽我部 浩史[1]、宍戸 裕二[1]、Soo Hyeon Kim[1]、Wanitcha Rachadech[1]、頼田 和子[1]、加藤 有介[1]、福井 清[1]（1.徳大・先端酵素研・病態システム）

[3P-0231（3AT12-08）] ヤスデ由来ヒドロキシニトリルリアーゼの探索と異種発現系の確立

○山口 拓也[1,2,4]、伊奈 隆年[1,2]、田辺 力[3]、浅野 泰久[1,2]（1.富山県大・生工研セ、2.JST, ERATO、3.熊本大・教育、4.筑波大・生命環境）

[3P-0232（3AT12-09）] *Xanthomonas*属細菌由来β-L-アラビノフラノシダーゼの結晶構造

○澤野 孝太[1]、丸山 瞬[1]、荒川 孝俊[1]、中村 正幸[2]、石渡 明弘[3]、伊藤 幸成[3]、藤田 清貴[2]、伏信 進矢[1]（1.東大・院農・応生工、2.鹿児島大・農・食生科、3.伊藤細胞制御化学研・理研）

[3P-0233（3AT12-11）] 酢酸菌膜結合型ヘテロ三量体ソ

©日本分子生物学会/日本生化学会

ルビトール脱水素酵素の分子構築：小サブユニットの役割

○藥師 寿治[1,2,3]、Wichai Soemphol[4]、Huynh Phong[5]、片岡 尚也[1,2,3]、外山 博英[6]、松下 一信[1,2,3]（1.山口大・院創成科学、2.山口大・微研セ、3.山口大・農、4.Khon Kaen Univ.、5.Can Tho Univ.、6.琉球大・農）

[3P-0234（3AT12-12）] 生理活性物質硫化水素とポリサルファイドの産生機構

○渋谷 典広[1]、小池 伸[2]、宮本 亮[1]、湯浅 磨里[1]、田中 真紀子[1]、木村 由佳[1]、高野 陽子[3]、花岡 健二郎[3]、永原 則之[5]、福井 清[4]、浦野 泰照[3]、小笠原 裕樹[2]、木村 英雄[1]（1.国立精神・神経医療研究センター・神経研、2.明治薬大・分析化学、3.東大・院薬・薬品代謝化学、4.徳島大・疾患酵素、5.日医大・アイソトープ）

[3P-0235（3AT12-13）] *Thiobacillus thioparus* THI115の硫化カルボニル加水分解酵素による COS分解の硫黄同位体分別係数の決定

○小川 貴弘[1]、服部 祥平[2]、亀崎 和輝[2]、加藤 広海[3]、吉田 尚弘[2,4]、片山 葉子[1]（1.東農工大・院農、2.東工大・物質理工学院、3.東北大・院生命、4.東工大・地球生命研）

[3P-0236（3AT12-14）] 東京のワルファリン抵抗性ラットの抵抗性獲得機序の解明：ペントースリン酸経路の亢進を通したワルファリン代謝の活性化

○武田 一貴[1]、池中 良徳[1,2]、田中 和之[3]、中山 翔太[1]、谷川 力[3]、水川 葉月[1]、石塚 真由美[1]（1.北大・院獣・毒性学、2.ノースウェスト大・環境科学、3.イカリ消毒(株)・技術研究所）

[3P-0237（3AT12-15）] D-セリンデヒドラターゼの基質となるヒト尿中未知アミノ酸の同定

○戸野 真由香[1]、伊藤 智和[1]、邊見 久[1]、吉村 徹[1]（1.名大・院・生命農学）

[3P-0238] 4-Hydroxycinnamic acid protects mice from cigarette smoke-induced pulmonary inflammation via MAPK pathways

○Sung-Hyeuk Park[1]、Je-Won Ko[1]、Na-Rae Shin[1]、In-Sik Shin[1]、Kim Jong-Choon[1]（1.College of Veterinary Medicine BK21 Plus Project Team, Chonnam National University, Gwangju 61186, Republic of Korea）

[3P-0239] 細菌における非標準的 D-アミノ酸合成酵素の同定及び機能解析

○宮本 哲也[1]、小里 拓也[1]、和田 大樹[1]、片根 真澄[1]、齋藤 康昭[1]、関根 正恵[1]、本間 浩[1]（1.北里大・薬）

[3P-0240] Ｄ－アスパラギン酸特異的エンドペプチダーゼ生産菌*Paenibacillus* sp. B38由来メタロカルボキシペプチダーゼの性質

○韮澤 悟[1]、吉矢 拓[2]、熊谷 久美子[2]、高橋 砂織[3]（1.国際農研、2.ペプチド研究所、3.秋田県総食研）

[3P-0241] 植物由来リコンビナント FtsH2と FtsH5の機能解析

○土居 直仁[1]、天野 豊己[1]（1.静岡大・理・生物科学）

[3P-0242] シアノバクテリア FtsH2/FtsH3ヘテロ6量体の大腸菌での共発現系の構築

○佐野 美桜[1]、天野 豊己[1]（1.静岡大・理・生物科学）

[3P-0243] イオン液体を用いた酵素の長期安定性・耐熱性の検討：酵素安定化剤、反応溶媒への応用に向けて

○金子 恒太郎[1]、河合 功治[1]（1.ミヨシ油脂株式会社）

ポスター発表 | 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー | 6) その他（ポスター）

[3P-3-6] 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー-6) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0244] ペルオキシ亜硝酸は IL-18をニトロ化し、STAT3のリン酸化を阻害する

○江口 裕伸[1]、崎山 晴彦[1]、吉原 大作[1]、藤原 範子[1]、鈴木 敬一郎[1]（1.兵庫医大・生化）

[3P-0245] 指頭血と静脈血による酸化ストレス測定値の相違点

○新井 智子[1]（1.埼玉県立大学 健康開発学科）

[3P-0246] キヌレニンアミノトランスフェラーゼ遺伝子破

©日本分子生物学会/日本生化学会

壊株の構築とそのトリプトファン感受性
○大橋 一登[1]、高稲 正勝[1,2]、吉田 知史[1,2]
（1.群大・生調研、2.群大・未来先端）

[3P-0247] 培養神経芽腫細胞のエネルギー代謝におけるプロリルオリゴペプチダーゼの役割
○今 海斗[1]、藤本 佳奈[2]、天野 佑美[2]、三森 美佳[2]、田中 智[2]、坂口 実[2]（1.大薬大・院・薬科学、2.大薬大・薬）

[3P-0248] Penicillium janthinellum由来セルラーゼの単離と機能解析
○河上 悠太郎[1]、濱田 貴司[1]、嶺井 隆平[1,2]、宇佐美 昭二[1]、西 義介[1,2]（1.長浜バイオ大・バイオサイエンス学部、2.長浜バイオ大院・バイオサイエンス研究科）

[3P-4-1] 4. 細胞の構造と機能-1) トランスポーター
13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0249] 口腔レンサ球菌におけるナトリウム輸送型 V-ATPaseの同定およびその解析
○山地 有紀奈[1]、川崎 祐美[1]、丸橋 優那[1]、関藤 孝之[1]、河田 美幸[1]（1.愛媛大・院農・生命機能）

[3P-0250] 出芽酵母液胞アミノ酸トランスポーター Avt4の転写／翻訳後段階での活性調節
○村上 瑛夢[1]、兵頭 美波[1]、児玉 理美[1]、佐藤 有美香[1]、石本 晶也[1]、河田 美幸[1]、関藤 孝之[1]（1.愛媛大・院農・生命機能）

[3P-0251（4P2T17-06）] リソソーム膜を介したビタミン B_{12}輸送機構の解析
○岡元 拓海[1]、川口 甲介[1]、守田 雅志[1]、今中 常雄[1,2]（1.富山大・院薬、2.広島国際大・薬）

[3P-0252（4P2T17-08）] ヒト ABCB4の第4膜貫通ヘリックスの機能解析
○小川 峻[1]、末永 健人[1]、木岡 紀幸[1]、木村 泰久[1]、植田 和光[1]（1.京大院・農・応用生命科学専攻）

[3P-0253] がんウイルスによる細胞内のＰ糖タンパク質の発現誘導機構の解析
○上野 友輔[1]、細川 晃平[1]、清原 美咲[1]、山岸 伸行[2]、渡部 匡史[1]、藤室 雅弘[1]（1.京都薬科大学 薬学部 細胞生物学分野、2.摂南大学 薬学部 生体分析学研究室）

[3P-0254] HDL形成に関与する脂質トランスポーター ABCA1とその発現および機能調節タンパク質間の相互作用機構
○梶 友里恵[1]、谷口 詩保[2]、中原 賢海[2]、藤 果[2]、杉本 直紀[2]、佐伯 和弘[1,2]、田口 善智[1,2]（1.近畿大院・生物理工、2.近畿大・生物工・遺伝子）

[3P-0255] NPC1-Like1依存性コレステロール輸送におけるORP10の役割
○仲宗根 眞恵[1]、大西 由希[1]、松本 光司[1]、二宮 治明[1]（1.鳥取大・医・生体制御）

[3P-0256] NPC1依存性コレステロール輸送において、ORP11は Rab9のエフェクターとして機能する
○大西 由希[1]、仲宗根 眞恵[1]、松本 光司[1]、二宮 治明[1]（1.鳥取大・医・生体制御）

[3P-0257] イネ由来 Mg^{2+}輸送タンパク質 OsMRS2-1は Al^{3+}存在下でも Mg^{2+}を輸送する
○居田 萌[1]、宇田 美沙紀[1]、佐上 郁子[1]、石嶌 純男[1]（1.京府大院・生命環境・細胞高分子）

[3P-0258] Mg^{2+}輸送タンパク質 AtMRS2-1、 AtMRS2-10の細胞外 loop領域がもたらす Al^{3+}阻害効果への影響
○徳増 慧乃[1]、堀田 あゆみ[1]、居田 萌[1]、佐上 郁子[1]、石嶌 純男[1]（1.京府大院・生命環境・細胞高分子）

[3P-0259] 細菌の Zn^{2+}輸送タンパク質 ZntBに構造類似のイネ由来機能未知膜タンパク質 OsZntB-likeは Zn^{2+}輸送する
○津守 雄太[1]、佐上 郁子[1]、石嶌 純男[1]（1.京府大院・生命環境・細胞高分子）

[3P-0260] 酸性多糖の輸送に関わる基質結合タンパク質とABCトランスポーターとの相互作用様式
金子 あい[1]、老木 紗予子[1]、丸山 如江[2]、三上 文三[3]、村田 幸作[2]、○橋本 渉[1]（1.京大・院農・食品生物、2.摂大・理工・生命科学、3.京大・院農・応用生命）

[3P-0261] 植物における5-アミノレブリン酸(ALA)トランスポーターの局在性と機能
○中来田 卓磨[1]、小西 真帆[2]、黒田 修司[1,3]、山形 裕士[1]、宇野 知秀[1]、金丸 研吾[1]（1.神戸大・院農・応用生命、2.神戸大・農・応用生命、3.神戸大・自然科学系先端融合研究環）

[3P-0262] 分子内 FRETを用いたヒト多剤排出ポンプ MDR1(ABCB1)の構造変化解析手法の確立
○二股 良太[1]、小笠原 史彦[1]、市川 尚文[1]、木村 泰久[1,2]、木岡 紀幸[1]、植田 和光[1,2]（1.京大・院農・応用生命、2.京大iCeMS）

[3P-0263] 定量的アプローチによる ABCA1と apoA-Iによる脂質排出メカニズムの解明
○三好 里奈[1]、小笠原 史彦[1]、石神 正登[1]、木村 泰久[1]、木岡 紀幸[1,2]、植田 和光[1,2]（1.京大・院農・応用生

©日本分子生物学会/日本生化学会

命、2.京大iCeMS）

[3P-0264] 分裂酵母六炭糖輸送体 Ght5の細胞内局在のリン酸化による制御機構
○豊田 雄介[1]、佐二木 健一[2]、柳田 充弘[2]、齋藤 成昭[1]（1.久留米大・分子生命・細胞工学、2.沖縄科学技術大学院大学 (OIST)・G0ユニット）

[3P-0265] リン脂質フリッパーゼ ATP11Cのスプライシングバリアント間の機能的相違
○高山 真裕[1]、高津 宏之[1]、中山 和久[1]、申 惠媛[1]（1.京大・院薬・生体情報）

[3P-0266] アフリカツメガエル卵母細胞に発現させたアクアポリンのホウ酸輸送活性
○熊谷 詩織[1]、加藤 明[1]、水谷 学[1]、キム ジュユン[1,2]、Michael Romero[3]（1.東工大・生命理工学院、2.SAIC、3.Mayo Clinic）

[3P-0267] ヘム ABCトランスポーターの輸送機構に関する分光学的研究
○林 沙英[1]、杉本 宏[2]、城 宜嗣[3]、池本 夕佳[4]、木村 哲就[1,5]（1.神戸大・院理・化、2.理研・SPring-8、3.兵県大・院生命理、4.高輝度光科学研究センター、5.K-CONNEX）

[3P-0268] マウス小腸における Na依存性グルコース吸収機構と傍細胞経路の関連
○中山 美智子[1]、石塚 典子[1,2]、林 久由[1,2]（1.静県大・院食・生理学、2.静県大・食・生理学）

[3P-0269] 遷移パスシミュレーションによる Na+/H+ antiporterの輸送メカニズム
○岡崎 圭一[1,2]、Gerhard Hummer[2]（1.分子科学研究所、2.マックスプランク生物物理学研究所）

[3P-0270] ポルフィリンのカルボキシル基はヒト ABCB6によるポルフィリン認識に重要である
○西澤 奈美[1]、木村 泰久[1]、大貫 元[1]、木岡 紀幸[1]、植田 和光[1,2]（1.京大・院農・応用生命、2.京大・iCeMS）

[3P-0271] ABCC7/CFTRを細胞膜の apical側へ標的化させるシグナルの探索
○衣斐 義一[1]、阪口 雅郎[1]（1.兵庫県立大・院・生命理学）

[3P-0272] 非アポトーシス細胞におけるリン脂質フリッパーゼ ATP11Cの制御機構
○高津 宏之[1]、高山 真裕[1]、中山 和久[1]、申 惠媛[1]（1.京大・院薬・生体情報）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 2) 核と細胞小器官の構造と機能（ポスター）

[3P-4-2] 4. 細胞の構造と機能-2) 核と細胞小器官の構造と機能

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0273] Anthracycline系トポイソメラーゼ II阻害剤 Aclarubicinと Doxorubicinの細胞毒性の一端はミトコンドリア呼吸阻害に由来する
○飯星 悠[1]、石原 孝也[2]、石原 直忠[2]、斉藤 寿仁[3]（1.熊大・理・生物、2.久留米大・分子生命科学研・高分子化学、3.熊大・院・先端科学・生物）

[3P-0274] アミロイド結合性蛍光色素 Thioflavin T（ ThT）による生細胞の構造観察と細胞増殖の制御
○高鉾 結衣[1]、斉藤 寿仁[1,2]（1.熊大・理・生物、2.熊大・院・先端科学・生物）

[3P-0275] Giant Plasma Membrane Vesicles（ GPMVs）の大量調整と生化学解析および情報伝達キャリアーとしての利用
○岡田 咲耶[1]、袁川 智吏[1]、斉藤 寿仁[1,2]（1.熊大・理・生物、2.熊大・院・先端科学・生物）

[3P-0276（4LT01-05）] SUMOとユビキチンによる不完全ポリペプチド鎖の核内凝集と離散の制御
松尾 花佳[1]、魚住 直毅[1]、松本 蛍[1]、○斉藤 寿仁[1,2]（1.熊大・理・生物、2.熊大・院・先端科学・生物）

[3P-0277（4LT18-01）] 細胞小器官ミトコンドリアにおける複雑でユニークな DNA複製メカニズム
○安川 武宏[1]、Ian Holt[2]、康 東天[1]（1.九大・院・医・臨床検査医学、2.Biodonostia Research Institute）

[3P-0278（4LT18-02）] Drp1欠損細胞においてmtDNAからなる核様体の配置がミトコンドリア機能制御に関与する
○太田 あずさ[1,2]、石原 孝也[2]、石原 直忠[2]（1.久留米大・院医、2.久留米大・分子生命研・高分子化学）

[3P-0279（4LT18-03）] アフリカツメガエルにおける DNA量依存的な核サイズ制御機構
○平城 裕子[1]、原 裕貴[1]（1.山口大・院創成科学）

[3P-0280（4LT18-04）] 二核性生物テトラヒメナの大小核核膜孔複合体の違い
○岩本 政明[1]、小坂田 裕子[1]、森 知栄

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、福田 康弘[2]、長尾 恒治[3]、小布施 力史[3]、平岡 泰[1,3,4]、原口 徳子[1,3,4]（1.情報通信研・未来ICT、2.東北大・院農、3.大阪大・院理・生物科学、4.大阪大・院・生命機能）

[3P-0281（4LT18-05）] 小胞体膜タンパク質 OASISの核膜への局所的集積とその生理的意義

〇浅田 梨絵[1]、金子 雅幸[1]、今泉 和則[1]（1.広島大・院・医歯薬保・分子細胞情報学）

[3P-0282（4LT18-06）] ショウジョウバエの GPI合成酵素 PIG-Bは、核膜で機能する必要がある

〇山本（日野） 美紀[1]、勝俣 恵理[1]、鈴木 えみ子[4]、前田 裕輔[2]、木下 タロウ[3]、後藤 聡[1]（1.立教大・生命理学、2.阪大・微研、3.阪大・免疫フロンティア、4.国立遺伝研）

[3P-0283（4LT18-07）] 分裂酵母に特異的な核膜孔複合体の構造

〇淺川 東彦[1]、糀谷 知子[2,3]、Hui-Ju Yang[1]、小坂田 裕子[2]、大槻 千鶴[1]、長尾 恒治[4,5]、小布施 力史[4,5]、平岡 泰[1,2,5]、原口 徳子[1,2,5]（1.大阪大・院生命機能、2.情報通信研究機構・未来ICT研、3.日本女子大・理、4.北大・生命科学院、5.大阪大・院理）

[3P-0284（4LT18-08）] 植物体細胞におけるセントロメア配置の制御メカニズムと意義の解析

〇坂本 卓也[1]、坂本 勇貴[2]、山下 朋恵[1]、御子 侑香[1]、松永 幸大[1,2]（1.東理大・理工・応用生物科学、2.東理大・総研院・イメージングフロンティア）

[3P-0286（4P2T19-01）] ホスファチジルセリン脱炭酸酵素を用いた細胞質側ホスファチジルセリン消去系の開発

〇向井 康治朗[1]、松平 竜之[1]、新井 洋由[1,2,3]、田口 友彦[2]（1.東大院・薬・衛生化学、2.東大院・薬・疾患細胞、3.AMED-CREST）

[3P-0287（4P2T19-02）] Split-GFPを用いたオルガネラ膜間テザリング因子の探索

〇柿元 百合子[1]、遠藤 斗志也[2]、田村 康[1]（1.山形大・院理工学・理、2.京産大・総合生命科学・生命システム）

[3P-0288（4P2T19-03）] VAT-1による小胞体-ミトコンドリア間リン脂質輸送の構造的および機構的洞察

〇渡邊 康紀[1]、田村 康[2]、遠藤 斗志也[3]（1.愛媛大・院農、2.山形大・理、3.京産大・総合生命）

[3P-0289（4P2T19-04）] ミトコンドリア膜透過中に翻訳停止したリボソーム・新生鎖複合体の構造・機能研究

〇荒磯 裕平[1]、包 明久[2]、André Heuer[3]、Roland Beckmann[3]、吉川 雅英[2]、遠藤 斗志也[1]（1.京産大・総合生命、2.東大・院医、3.ミュンヘン大学・Gene Center）

[3P-0290（4P2T19-05）] 通過途上の疎水性配列と相互作用する Sec61トランスロコン内部位のマッピング

〇木田 祐一郎[1]、阪口 雅郎[1]（1.兵庫県大・院・生命理）

[3P-0291（4P2T19-06）] ペルオキシソーム膜透過装置複合体の同定と輸送メカニズムの解明

〇田村 茂彦[1,2]、河村 優子[1]、藤木 幸夫[3]（1.九大院・システム生命、2.九大・基幹教育院、3.九大・生医研）

[3P-0292（4P2T19-07）] モヤモヤ病タンパク質ミステリンの活性・機能相関

〇會退 詩央莉[1]、森戸 大介[1]、杉原 宗親[1]、永田 和宏[1]（1.京産大・総合生命）

[3P-0293（4P2T19-08）] ANKHD1による小胞形成と細胞機能の解析

〇北又 学[1]、塙 京子[1]、丸山 耕平[1]、末次 志郎[1]（1.奈良先端大・バイオサイエンス）

[3P-0294（4P2T19-09）] ユビキチンリガーゼ活性による小胞体の新しい形態調節機構

〇梶保 博昭[1]、山本 泰憲[1]、匂坂 敏朗[1]（1.神戸大・院医・膜動態

©日本分子生物学会/日本生化学会

学）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 3) 細胞内物流システム（ポスター）

[3P-4-3] 4. 細胞の構造と機能-3) 細胞内物流システム

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0295] 酵母 Eps15タンパク質 Pan1pによるアクチン骨格を介したクラスリン小胞輸送の調節
○吉田 奈央[1]、長野 真[1]、十島 純子[2]、十島 二朗[1]（1.東京理大・基礎工・生物工、2.東京工科大・医療保健）

[3P-0296] 酵母 Arf-GAP Glo3pと Rab6のエンドソーム-ゴルジ間逆行性輸送における必要性
○山下 春香[1]、小林 宣[1]、長野 真[1]、十島 純子[2]、十島 二朗[1]（1.東京理大・基礎工・生物工、2.東京工科大・医療保健）

[3P-0297（4P2T17-07）] エンドサイトーシス経路における PtdIns(3)P産生の調節機構
○草苅 健太[1]、鱧屋 隆博[1]、長野 真[1]、十島 純子[2]、十島 二朗[1]（1.東京理大・基礎工・生物工、2.東京工科大・医療保健）

[3P-0298] ゴルジ体 PI4-キナーゼ Pik1pの機能欠損によるエンドサイトーシス経路への影響
○青嶋 海斗[1]、山本 航[1]、草苅 健太[1]、長野 真[1]、十島 純子[2]、十島 二朗[1]（1.東京理大・基礎工・生物工、2.東京工科大・医療保健）

[3P-0299] 出芽酵母 Rhoファミリータンパク質によるエンドサイトーシスにおけるアクチン細胞骨格の制御
○樫村 絵里子[1]、池田 みづ希[1]、小澤 彩夏[1]、長野 真[1]、十島 純子[2]、十島 二朗[1]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.東京工科大・医療保健）

[3P-0300] Rab5非依存的な経路における酵母 Rab7による液胞形成機能の解析
○島村 洋輝[1]、河田 千絵[1]、長野 真[1]、十島 純子[2]、十島 二朗[1]（1.東京理大・基礎工・生物工、2.東京工科大・医療保健）

[3P-0301] エンドサイトーシスと VPS経路の融合に必要なタンパク質のスクリーニング
○塚原 彩菜[1]、長野 真[1]、十島 純子[1,2]、十島 二朗[1]（1.東京理大・基礎工・生物工、2.東京工科大・医療保健）

[3P-0302] M期における出芽酵母 Rab11の輸送制御機構
○長野 真[1]、十島 純子[2]、十島 二朗[1]（1.東京理大・基礎工・生物工、2.東京工科大・医療保健）

[3P-0303] 出芽酵母 Eps15タンパク質 Pan1pの仲介するアクチン依存的な初期エンドソームの運動
○十島 純子[1]、長野 真[2]、益田 淳史[2]、吉田 奈央[2]、古屋 英里[2]、十島 二朗[2]（1.東京工科・医療保健、2.東京理大・基礎工・生物工）

[3P-0304（4LT17-01）] 膜タンパク質の小胞体標的化を抑制する機能モチーフ（ ETS）と作用因子
○阪口 雅郎[1]、高原 教代[1]、森川 真衣[1]、寶澤 雅也[1]、阪上 春花[2]（1.兵庫県大・院・生命理学、2.京産大・総生）

[3P-0305（4LT17-05）] IFT-B複合体に依存する BBSome複合体の繊毛内移行
○野崎 梢平[1]、加藤 洋平[1]、中山 和久[1]（1.京大院・薬・生体情報）

[3P-0306（4LT17-06）] 小胞体膜のコレステロールセンサーである SCAPは、小胞体-ゴルジ体接触部位においてVAPA-OSBP-Sac1複合体と相互作用する
○根本 拓海[1]、若菜 裕一[1]、林 開人[1]、多賀谷 光男[1]（1.東京薬大・生命）

[3P-0307（4LT17-07）] αシヌクレイン凝集体が引き起こす細胞障害メカニズムの解析：分裂酵母モデル生物を用いた細胞内輸送システムとの関わり
○高崎 輝恒[1]、吉本 佐紀[1]、萩原 加奈子[1]、佐藤 亮介[1]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大・薬）

[3P-0308（4LT17-08）] 細胞毒性を激減させた変異 Equinatoxin-IIの創出とスフィンゴミエリンプローブとしての生細胞への応用
○仁木 隆裕[1]、牧野 麻美[3]、小林 俊秀[3]、田口 友彦[2]、新井 洋由[1,4]（1.東大・院薬・衛生化学、2.東大・院薬・疾患細胞生物学、3.理研・佐甲細胞情報研究室、4.AMED-CREST, AMED）

[3P-0309（4LT17-09）] 高速原子間力顕微鏡を用いた細胞表面膜構造動態のライブセルイメージング
○吉田 藍子[1,2]、酒井 信明[3]、植草 良嗣[3]、桑田 昌宏[1]、吉村 成弘[1]、大場

©日本分子生物学会/日本生化学会

雄介[2]（1.京大・院生命科学・統合生命科学、2.北大・院医・細胞生理、3.オリンパス・技術開発）

[3P-0310（4P2T17-01）] ダイニン2複合体の構築様式および IFT複合体との相互作用の解明

○濱田 勇輝[1]、鶴見 侑大[1]、加藤 洋平[1]、中山 和久[1]（1.京大・院薬・生体情報）

[3P-0311（4P2T17-02）] COP２コート因子のリン酸化/脱リン酸化による小胞輸送制御メカニズムの解明

○島川 純一[1]、依光 朋弘[1]、佐藤 健[1]（1.東大・総合文化）

[3P-0312（4P2T17-03）] TANGO1は Sec16を ER exit siteにリクルートし、小胞体からの効率的なタンパク質分泌を可能にする

○前田 深春[1]、堅田 利明[2]、齋藤 康太[1]（1.東京大学 大学院薬学系研究科 生理化学教室、2.武蔵野大学 薬学部 分子細胞生物学研究室）

[3P-0313（4P2T17-04）] REI-1 homolog, Parcasはロドプシンのポストゴルジ輸送に必要である

○大塚 侑奈[1]、佐藤 卓至[1]、稲葉 諒太[1]、佐藤 明子[1]（1.広大・院総科）

[3P-0314（4P2T17-05）] 浸潤性がん細胞特異的な新規SNARE複合体は浸潤突起へのMT1-MMPの効率的な輸送に必要である

○長谷川 花奈[1]、宮川 拓也[1]、青木 瑶子[1]、渡邉 卓也[1]、山口 英樹[2]、多賀谷 光男[1]、井上 弘樹[1]（1.東京薬科大・生命科学・分子細胞、2.国立がん研究センター・難治進行がん研究分野）

[3P-0315（4P2T17-09）] 神経突起伸長におけるリン脂質分解酵素 PA-PLA$_1$の役割

○前本 佑樹[1]、根本 和彰[1]、本橋 愛依[1]、馬場 崇[1,2]、伊藤 昭博[1]、谷 佳津子[1]（1.東京薬大・生命、2.アメリカ国立衛生研究所）

[3P-4-4] 4. 細胞の構造と機能-4) オートファジー

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0316（3PT19-01）] オートファゴソーム形成の生細胞観察と物理モデル構築

○小山一本田 郁子[1]、立川 正志[2]、境 祐二[1,2]、田村 律人[1,3]、望月 敦史[2]、水島 昇[1]（1.東大・院医・分子生物学、2.理研、3.医歯大・院医歯学総合）

[3P-0317（3PT19-02）] アミノ酸飢餓により誘導されるオートリソソームの成熟機構

○朽津 芳彦[1]、藤田 尚信[1]、福田 光則[1]（1.東北大院・生命・膜輸送機構解析）

[3P-0318（3PT19-03）] 脂質化に依存しない Atg8の機能および新規ヘリックス様Atg8結合モチーフの解析

○山崎 章徳[1]、Liu Xiao-Man[2]、Du Li-Lin[2]、野田 展生[1]（1.(公財)微生物化学研究会、2.北京生命科学研究所）

[3P-0319（3PT19-04）] ノックアウトマウスを用いた選択的オートファジー基質の探索

○栗川 義峻[1]、大出 晃士[2]、上田 泰己[2,3]、水島 昇[1]（1.東大・院医・分子生物、2.東大・院医・システムズ薬理、3.理研・QBiC）

[3P-0320（3PT19-05）] ゼブラフィッシュを用いたオートファジー関連因子群の in vivo機能解析

○森下 英晃[1]、水島 昇[1]（1.東大・医・分子生物）

[3P-0321（3PT19-06）] リソソームに局在する c-Srcによる LC3量の変化

○鈴木 亘[1]、本田 拓也[1]、平田 健介[1]、高倉 勇気[1]、赤津 亜希[1]、安藤 充岐[1]、山口 憲孝[1]、山口 直人[1]（1.千葉大院薬・分子細胞生物学）

[3P-0322（3PT19-07）] ネッタイツメガエルの変態における*atg5*と*atg7*の関与

○重田 美津紀[1]、山本 卓[1]、鈴木 賢一[1]（1.広大・院理・数理分子生命理学）

[3P-0323] オートファジーにおける Atg9小胞と Atg2-Atg18複合体の相互作用に関する解析

○土屋 聡明[1]、小谷 哲也[1]、中戸川 仁[1]（1.東工大・生

©日本分子生物学会/日本生化学会

命理工）

[3P-0324] オートファジーの分子機構を応用した脂肪滴分解システムの構築
○高山 かおり[1]、辰巳 嵩征[2,5]、石井 俊輔[3]、松浦 彰[4]、塚本 智史[5]、板倉 英祐[4]（1.千葉大・院融合・ナノバイオ、2.東医歯大・院医歯・生殖機能、3.千葉大・理・生物、4.千葉大・院理・生物、5.放医研・実験動物）

[3P-0325] オートファジーによる DNA傷害誘導性アポトーシスの制御
○鳥居 暁[1]、吉田 達士[1]、荒川 聡子[1]、本田 真也[1]、清水 重臣[1]（1.東京医歯大・難研・病態細胞生物）

[3P-0326] メチル水銀による MAPキナーゼの活性化とオートファジー誘導
○高根沢 康一[1]、原田 遼平[1]、中村 亮介[1]、曽根 有香[1]、浦口 晋平[1]、清野 正子[1]（1.北里大・薬）

[3P-0327] メチル水銀によるユビキチン結合蛋白質p62の発現誘導と防御機構の解析
○原田 遼平[1]、高根沢 康一[1]、中村 亮介[1]、曽根 有香[1]、浦口 晋平[1]、清野 正子[1]（1.北里大・薬）

[3P-0328] 転写因子 CHOPによるオートファジー関連遺伝子の発現制御に関する研究
○石田 憲香[1]、小倉 一樹[2]、平山 響子[2]、三津田 秋雅[2]、石川 春風[2]、小宮 南海[2]、吉田 健一[1]（1.明大・院農・生命科学、2.明大・農・生命科学）

[3P-0329] リソソーム病におけるオートファジー異常とSNAREタンパク質の関与
○田中 裕大[1]、辻 大輔[1,2,3]、渡邊 綾佑[2]、宇野 新太郎[1]、伊藤 孝司[1,2,3]（1.徳島大院・薬・創薬生命工学、2.徳島大・薬・創薬生命工学、3.AMED, ACT-MS）

[3P-0330] 新規オートファジーを制御する AAG3の機能解析
○山口 啓史[1]、荒川 聡子[1]、清水 重臣[1]（1.東京医歯大・難治研・病態細胞生物学）

[3P-0331] 新規オートファジーを特異的に誘導する低分子化合物の探索
○桜井 一[1]、室橋 道子[1]、荒川 聡子[1]、清水 重臣[1]（1.医科歯科大・難研・病態細胞）

[3P-0332] オートファゴソームの閉鎖は ESCRTに依存する
○守田 啓悟[1]、小山ー本田 郁子[1]、山下 義博[2]、上野 敏秀[2]、森田 英嗣[3]、間野 博行[2]、水島 昇[1]（1.東大・院医・分子生物 、2.東大・院医・細胞情報、3.弘大・農・細胞分子生物）

[3P-0333] 小胞体からゴルジ体への小胞輸送に関わるSNAREタンパク質のオートファゴソーム形成における役割の解析
○佐藤 良昭[1]、志摩 喬之[1]、中戸川 仁[1]（1.東工大・生命理工）

[3P-0334] ヒト老化歯根膜細胞におけるマイトファジーの機能低下
○山下 元三[1]、鈴木 美麻[1]、池上 久仁子[1]、中村 友美[1]、西川 有彩[1]、北村 正博[1]、村上 伸也[1]（1.阪大・院歯・歯周科）

[3P-0335] アメリカトリパノソーマ感染による宿主オートファジー関連 SNARE 分子の解析
○鬼塚 陽子[1]、高橋 裕子[1]、番場 みのり[1]、瀬戸 絵理[2]、嶋田 淳子[1]（1.群大・院保・生体情報検査科学、2.群大・院医・教育研究支援センター）

[3P-0336] デキサメタゾンがシャペロン介在性オートファジー及びミクロオートファジーに及ぼす影響
○佐藤 正寛[1]、関 貴弘[1]、今野 歩[2]、平井 宏和[2]、倉内 祐樹[1]、久恒 昭哲[3,4]、香月 博志[1]（1.熊本大院・生命・薬物活性、2.群馬大院・医・脳神経再生、3.熊本大院・先導機構、4.熊本大・リーディング大学院・HIGOプログラム）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 5) 細胞骨格、細胞運動、細胞接着、細胞外マトリックス（ポスター）

[3P-4-5] 4. 細胞の構造と機能-5) 細胞骨格、細胞運動、細胞接着、細胞外マトリックス

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0337（4P1T17-01）] 微小管リモデリングとWnt/PCPシグナルの相互依存性を制御する新規分子メカニズム
○菊池 浩二[1]、中村 輝[2]、新田 昌輝[3]、石 東博[4]、中川 真美[4]、田中 翼[2]、上村 匡[3]、藤森 俊彦[4]、菊池 章[5]、中西 宏之[1]（1.熊大・院生命科学・細胞情報薬理、2.熊大・発生研・生殖発生、3.京大・院生命・細胞認識学、4.基生研・初期発生、5.大阪大・院医・分子病態生化学）

[3P-0338（4P1T17-02）] ホスホイノシチドホスファターゼ SHIP2によるPI(3,4)P2産生を介した MDA-MB-231転移性乳がん細胞のfocal adhesion形成と浸潤能の制御

©日本分子生物学会/日本生化学会

○伊集院 壮[1]、福本 末記[2]、竹縄 忠臣[2]（1.神戸大・院医・生化学、2.神戸大・院医・分子細胞生物学）

[3P-0339（4P1T17-03）] 膨張顕微鏡法を用いた一次繊毛の超解像イメージング

○加藤 洋平[1]、千葉 秀平[2]、中山 和久[1]（1.京大・院薬・生体情報、2.大阪市立大・院医・細胞機能制御学）

[3P-0340（4P1T17-04）] NEDD8化シグナル伝達経路は血管内皮細胞運動を制御する

○坂上 倫久[1,2]、前川 大志[2]、藤崎 亜耶子[2]、高橋 宏隆[3]、澤崎 達也[3]、泉谷 裕則[1]、東山 繁樹[2]（1.愛大・院医・心外、2.愛大・PROS・細胞増殖・腫瘍制御、3.愛大・PROS・無細胞生命）

[3P-0341（4P1T17-05）] 表面プラズモン共鳴イメージングを利用した細胞表面分子間相互作用のスクリーニング

○笠井 優[1]、伊東 剛[1]、大橋（熊谷） 友紀[1]、鈴木 大輔[1]、入倉 大祐[2]、三宅 司郎[2]、村上 善則[1]（1.東大・医科研・人癌病因遺伝子、2.堀場製作所・先行開発センター）

[3P-0342（4P1T17-06）] RacGAP因子 FilGAPは癌細胞の運動において前後軸極性の維持に関与する

○斉藤 康二[1]、神原 仁人[1]、太田 安隆[1]（1.北里大・理・細胞生物）

[3P-0343（4P1T17-07）] FilGAPは Rho/ROCKの下流で細胞運動と細胞接着の制御を介して上皮管腔形成の成熟に関与する

○隨念 卓也[1]、堤 弘次[1]、太田 安隆[1]（1.北里大・院理・生物科学・細胞生物）

[3P-0344（4P1T17-08）] 微小管モータータンパク質 Kinesin-5は創傷治癒において細胞運動に抑制的に働く

○宮崎 碧[1]、堤 弘次[1]、柴垣 芳夫[2]、服部 成介[2]、太田 安隆[1]（1.北里大・理・生物科学、2.北里大・薬・生化学）

[3P-0345（4P1T17-09）] 収縮力の発生による大腸がん細胞の細胞間接着の回復

○伊藤 祥子[1]、竹市 雅俊[1]（1.理研・CDB）

[3P-0346（4P1T17-10）] Cep104は微小管重合活性を持ち一次繊毛の伸長に寄与する

○山添 隆史[1]、梅田 真也[1]、菅谷 優子[2]、永井 友朗[1]、水野 健作[1]（1.東北大・院・生命科学、2.東北大・理・生物）

[3P-0347（4P1T17-11）] Rho-GEF Soloは細胞-基質間接着における力覚応答に関与し上皮腺房形成を制御する

○藤原 佐知子[1]、出口 真次[1]、松井 翼[1]、水野 健作[2]（1.阪大・院・基礎工、2.東北大・院・生命科学）

[3P-0348（4P1T17-12）] 上皮形態形成における活性化 Srcの時空間的制御

○梶原 健太郎[1]、松本 邦夫[2]、岡田 雅人[1]（1.阪大・微研・発癌制御、2.金沢大・がん研・腫瘍動態制御）

[3P-0349（4P1T17-13）] AMPKによるリン酸化はタイトジャンクション分子 cingulinの分子形態を変化させる

○矢野 智樹[1]、鳥澤 嵩征[2]、大岩 和弘[2]、月田 早智子[1]（1.大阪大学大学院生命機能研究科／医学系研究科、2.情報通信研究機構 未来ICT研究所）

[3P-0350（4P1T17-14）] 接着・非接着による細胞骨格制御機構の解析

○立花 宏一[1]（1.産総研・バイオ）

[3P-0351（4P1T19-01）] ヒト扁平上皮がん A431細胞の集団浸潤におけるインテグリン α2β1の機能

○熊谷 祐二[1]、小林 純子[2]、芳賀 永[3]（1.北大・院・生命科学、2.北大・院・医学、3.北大・院・先端生命）

[3P-0352（4P1T19-02）] 上皮細胞形状ゆらぎに伴う細胞間張力変化と細胞接着分子動態の相互関係

○原 佑介[1]、Murat Shagirov[1]、Kok Hwee Lim[1]、遠山 祐典[1,2]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.シンガポール国立大学 メカノバイオロジー研究所、2.シンガポール国立大学 生命科学）

[3P-0353（4P1T19-03）] FoxO3aはオートファジーを介して創傷治癒に影響を及ぼす

○森田 貴士[1]、森山 麻里子[1]、後藤 ありさ[1]、森田 遼[1]、丸谷 祐樹[1]、松本 諭以子[1]、早川 堯夫[1]、森山 博由[1]（1.近大・薬総研）

[3P-0354（4P1T19-04）] 骨石灰化形成機構の解明

○桑田 裕太[1]、内山 大輝[1]、木原 隆典[1]（1.北九大・院理・国際環境工学）

[3P-0355（4P1T19-05）] 腎糸球体足細胞の足突起形成におけるエズリンの役割

○波多野 亮[1]、川口 高徳[1]、浅野 真司[1]（1.立命館大・薬・分子生理）

[3P-0356（4P1T19-06）] 高浸透圧下での TRAF2による ASK3の不活性化

○塩田 光司[1]、渡邊 謙吾[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[3P-0357（4P1T19-07）] 新規がん関連因子 CKAP4による細胞運動調節機構

○大杉 祥仁[1]、麓 勝巳[1]、菊池 章[1]（1.阪大・院医・分子病態生化学）

[3P-0358（4P1T19-08）] ライブイメージングによるI型コラーゲンの分泌およびプロセシング過程の解析

○田中 利明[1]、生駒 俊之[2]（1.東工大・生命理工、2.東工大・物質理工）

[3P-0359（4P1T19-09）] Cdc42依存性メンブレントラフィッキングによる管腔臓器の形成・維持機構

○設楽 彰子[1,4]、Christopher Bleck[2]、Matthew Hoffman[3]、Roberto Weigert[4]（1.朝日大・歯・歯科薬理、2.米国衛生研・心肺血液研、3.米国衛生研・頭蓋顔面研、4.米国衛生研・癌研）

[3P-0360（4P1T19-10）] 細胞発生力を評価する画像解析手法の開発

○松井 翼[1]、三浦 壮[1]、出口 真次[1]（1.阪大・院基礎工・生体工学）

[3P-0361（4P1T19-11）] Circumferential actin beltの張力は、 Merlinの核細胞質シャトリングを介してYAP/TAZの核局在を抑制する

○古川 可奈[1]、山下 和成[1]、大野 茂男[1]（1.横浜市大・医・分子生物）

[3P-0362（4P1T19-12）] Possible Role of Amphiphysin 1 in Glomerular Podocyte

○The Mon La[1]、Natsuki Wakita[1]、Kento Sumida[1]、Tetsuya Takeda[1]、Tadashi Abe[1]、Kohji Takei[1]、Hiroshi Yamada[1]（1.Dep. of Neurosci., Grad. Sch. of Med., Dent. and Pharm. Sci., Okayama Univ.）

[3P-0363（4P1T19-13）] 脳室壁上衣細胞における平面内細胞極性と運動性多繊毛の配向

○高岸 麻紀[1]、高橋 雅英[1]（1.名大・院医・腫瘍病理）

[3P-0364（4P1T19-14）] 平面内細胞極性制御因子Dapleを介した気管多繊毛同調運動の制御メカニズム

○中山 彰吾[1]、Elisa Herawati[1,6]、高岸 麻紀[2]、鳥澤 嵩征[3]、難波 利典[4]、矢野 智樹[1,5]、石原 秀至[4]、大岩 和弘[3]、高橋 雅英[2]、月田 早智子[1,5]（1.阪大院・医学、2.名大院・医学、3.国立情報通信研究機構、4.東大院・総合文化、5.阪大院・生命機能、6.Dept. of Biology, Faculty of Mathematics and Natural Science, Universitas Sebelas Maret）

[3P-0365（4P1T19-15）] 内耳感覚毛の「根」の形成および維持における TRIOBPアイソフォームの役割

○勝野 達也[1]、太田 啓介[2]、池谷 真[3]、小野 和也[1,4]、大森 孝一[1]、伊藤 壽一[1,5]、北尻 真一郎[1,6]（1.京大・医・耳鼻咽喉科、2.久留米大・院医・解剖、3.京大・CiRA・未来生命科学、4.Lab. of Mol. Biol., NIDCD/NIH、5.滋賀県立成人病センター研究所、6.信大・医・耳鼻咽喉科）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0366] Identification of New Target Proteins Involved in Src-Mediated Tumor Progression
○Shuchismita Basu[1]、Kentaro Kajiwara[1]、Yuichi Abe[2]、Takeshi Tomonaga[2]、Masato Okada[1]
（1.Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Osaka Univ.、2.Proteome Research Center, Lab. of Proteome Res., NIBIOHN）

[3P-0367] 外力駆動型の細胞配置換え制御機構の解明
○井川 敬介[1]、杉村 薫[1]（1.京大・iCeMS）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 6) 細胞周期、細胞分裂、細胞極性（ポスター）

[3P-4-6] 4. 細胞の構造と機能-6) 細胞周期、細胞分裂、細胞極性

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0368（3PW10-7）] 卵母細胞の大きな細胞質の意義
○京極 博久[1]、北島 智也[1]（1.理研CDB）

[3P-0369] ヒト細胞株における cyclin A-CDK活性の亢進による M期停滞機構の解析
○赤池 康範[1]、渡辺 開智[1]、千葉櫻 拓[1]（1.東農大院・バイオ）

[3P-0370（4AT19-03）] がん細胞における p27機能抑圧因子の探索
○米谷 達哉[1]、河崎 優太郎[1]、松下 凪沙[1]、美根 崇志[1]、千葉櫻 拓[1]
（1.東農大院・バイオ）

[3P-0371] スピンドルチェックポイント因子 Mad1の発現は転写因子 Rst2を介してプロテインキナーゼ Aによって制御される
○田部 卓磨[1]、酒井 智健[1]、川向 誠[1]、松尾 安浩[1]
（1.島根大・生物資源科学・生命工）

[3P-0372] 分裂酵母プロテインキナーゼ Aによるスピンドルチェックポイント Bub1の制御機構
○野路 佳佑[1]、大宮 早貴[1]、酒井 智健[1]、山家 雅之[1]、川向 誠[1]、松尾 安浩[1]（1.島根大・生物資源・生命工）

[3P-0373] Rst2の高発現による細胞への影響
○竹中 航平[1]、川向 誠[1]、松尾 安浩[1]（1.島根大・生物資源・生命工）

[3P-0374] 染色体分配制御における JSAPの機能解析
○中里 亮太[1]、Jambaldorj Boldbaatar[1]、Dewi Yuliana[1]、鈴木 隆介[1]、善岡 克次[1]（1.金沢大・がん研・シグナル伝達）

[3P-0375] Overexpression of JSAP induces chromosome segregation errors
○Jambaldorj Boldbaatar[1]、Ryota Nakazato[1]、Katsuji Yoshioka[1]（1.Div. Mol. Cell Signaling, Cancer Res. Inst., Kanazawa Univ.）

[3P-0376] ショウジョウバエの癌抑制遺伝子*mxc*の機能が低下すると雄減数分裂における染色体分配に異常が生じる。
○田辺 加琳[1]、粟根 理恵[1]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ）

[3P-0377] ミトコンドリアの DNA損傷を修復する酵素およびダイナミクス因子の低下は減数分裂の開始を阻害する
○織田 舞[1]、松尾 樹[1]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ）

[3P-0378（4AT19-01）] JNKと Yorkieの協調は多倍体肥大化細胞を誘導することで腫瘍悪性化を促進する
○叢 博杰[1]、大澤 志津江[1]、井垣 達吏[1]（1.京都大学 大学院生命科学研究科 システム機能学）

[3P-0379（4AT19-02）] 細胞分裂の異常を監視する核小体の新たな役割
○川畑 拓斗[1,2]、河原 康一[1]、下川 倫子[1]、上條 陽平[1,2]、白石 岳大[1,3]、朝日 汰一[1,4]、山本 雅達[1]、新里 能成[1]、南 謙太朗[1]、武井 孝行[4]、吉田 昌弘[4]、有馬 一成[2,5]、濱田 季之[2,5]、古川 龍彦[1]（1.鹿大・院医歯・分子腫瘍、2.鹿大・院理工・システム情報、3.鹿大・院理工・生命化学、4.鹿大・工・環境化学プロセス工学、5.鹿大・学術研究院・理工学域・理学系）

[3P-0380（4AT19-04）] Dynamic process of CDK-regulated assembly of the CENP-A deposition machinery
○Dongqing Pan[1]、Kerstin Klare[1]、Arsen Petrovic[1]、Annika Take[1]、Kai Walstein[1]、Priyanka Singh[1]、Arnaud Rondelet[1]、Alexander Bird[1]、Andrea Musacchio[1]（1.Department of Mechanistic Cell Biology, Max Planck Institute of Molecular Physiology, Dortmund, Germany）

[3P-0381（4AT19-05）] 染色体オシレーションと異常な結合の修正を記述する動原

体-微小管結合の数学的モデル
○Manuel Campos[1]、家村 顕自[1]、田中 耕三[1]（1.東北大・加齢研・分子腫瘍）

[3P-0382（4AT19-06）] キアズマによる染色体とスピンドルの結合修正と相同染色体のセントロメアの同調的な往復運動
○西 絵里子[1]、板橋 裕太[1]、勝俣 和大[1]、平安 亜美[1]、山本 歩[1]（1.静大・院総合科学・理）

[3P-0383（4AT19-07）] 格子光シート顕微鏡により取得した細胞分裂装置3次元動態の時空間情報解析
○山下 典理男[1]、森田 正彦[1]、Wesley Legant[2]、Bi-Chang Chen[2,3]、Eric Betzig[2]、横田 秀夫[1]、清末 優子[4]（1.理研・RAP、2.HHMI, Janelia Research Campus、3.RCAS・Academia Sinica、4.理研・CLST）

[3P-0384（4AT19-08）] 中心体複製開始を司る PLK4中心体局在機構の解明
○中村 貴紀[1]、西住（渡海） 紀子[1]、中澤 嵩[2]、鈴木 貴[2]、武川 睦寛[1]（1.東大・医科研・分子シグナル制御、2.阪大・数理/データ科学教育研究センター）

[3P-0385（4AT19-09）] 可逆的中心体消失法を用いた中心体非依存的紡錘体形成メカニズムの解析
○渡邉 定則[1,2,3]、Franz Meitinger[1,2]、Andrew Shiau[4]、Karen Oegema[1,2]、Arshad Desai[1,2]（1.カリフォルニア大・サンディエゴ校・細胞分子医学、2.ルドウィグ癌研究所、3.名大・院理・生命理学、4.ルドウィグ癌研究所 低分子化合物探索部）

[3P-0386（4AT19-10）] 増殖抑制刺激依存的な一次繊毛形成における Cep97の分解の役割
○向山 祥帆[1]、永井 友朗[1]、水野 健作[1]（1.東北大・院・生命科学）

[3P-0387（4AT19-11）] 細胞質ダイニン軽鎖 Tctex-1は分枝アクチン形成とエンドサイトーシスを介して一次繊毛短縮を促進する
○斎藤 将樹[1,2]、大津 航[2]、柳澤 輝行[1]、Ching-Hwa Sung[2]（1.東北大・医・分子薬理、2.米国・コーネル大・医・眼科）

[3P-0388（4AT19-12）] 老化細胞が分泌するエクソソームの解析
○岡田 遼[1]、長尾 恒治[2]、鐘巻 将人[3]、小布施 力史[2]、原 英二[4]、高橋 暁子[1]（1.がん研・細胞老化プロジェクト、2.大阪大・院理・生物科学・染色体構造機能学、3.遺伝研・分子細胞工学、4.大阪大・微研遺伝子生物学）

[3P-0389（4AT19-13）] Tschimganineとその類縁体は Sty1経路を活性化して酵母の経時寿命を延長する
○日比 駿秀[1]、大塚 北斗[1]、島崎 嵩史[1]、乾 祥吾[1]、澁谷 正俊[1]、山本 芳彦[1]、饗場 浩文[1]（1.名大・院創薬科学）

[3P-0390（4AT19-14）] 周期的な Ca2+の取り込み・アクチンの重合・エキソサイトーシスにより段階的に伸長するカビの菌糸
○竹下 典男[1]、Minoas Evangelinos[2]、Lu Zhou[3]、芹澤 知子[1]、高谷 直樹[1]、Ulrich Nienhaus[3]、Reinhard Fischer[2]（1.筑波大・生命環境系、2.カールスルーエ工科大学・微生物学、3.カールスルーエ工科大学・応用物理学）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 7) アポトーシス、細胞死（ポスター）

[3P-4-7] 4. 細胞の構造と機能-7) アポトーシス、細胞死

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0392（3PT19-08）] 細胞競合の勝敗を規定する組織環境条件の遺伝学および数理学的解析
○片山 宰[1]、西川 星也[2]、大澤 志津江[1]、高松 敦子[2]、井垣 達吏[1]（1.京大・生命・高次、2.早大・院先進理工・電気情報生命）

[3P-0393（3PT19-09）] 細胞競合における貪食受容体の役

©日本分子生物学会/日本生化学会

割

○永長 一茂[1]、西 千恵子[2]、中井 雄治[1]、野中 さおり[3]、中西 義信[3]
（1.弘前大・食料研、2.金沢大・医薬保、3.金沢大・院医薬保）

[3P-0394（3PT19-10）] 細胞脱落時における上皮バリア維持機構の解析

○中井 彩香[1]、山田 信人[1]、早矢仕 健留[1]、川根 公樹[1,2]（1.京産大・院生科、2.JSTさきがけ）

[3P-0395（3PT19-11）] 酸化ストレス強度依存的な細胞死パターンシフトの解析

○西田 卓人[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[3P-0396（3PT19-12）] Bach1によるフェロトーシス誘導と細胞老化抑制による細胞運命の二極化

○西澤 弘成[1]、松本 光代[1]、進藤 智彦[2]、三枝 大輔[3]、蝦名 真行[1]、下川 宏明[2]、五十嵐 和彦[1]（1.東北大・医学系研究科・生物化学、2.東北大・医学系研究科・循環器内科学、3.東北メディカルメガバンク機構）

[3P-0397（3PT19-13）] Caspase-8は RIPK1とRIPK3を介してレチノイン酸が誘導するネクロプトーシスと細胞分化を制御する

○染田 真孝[1]、黒木 俊介[2]、立花 誠[2]、米原 伸[1]（1.京大・院・生命科学、2.徳島大・疾患酵素学研究センター）

[3P-0398（3PT19-14）] MIND BOMB-2は cFLIP$_L$をユビキチン化することで細胞死を抑制する

○中林 修[1]、高橋 宏隆[2]、澤崎 達也[2]、吉田 雪子[3]、佐伯 泰[4]、中野 裕康[1]（1.東邦・医・生化、2.愛媛・PROS・無細胞生命科学、3.医総研・ユビキチンプロジェクト、4.医総研・蛋白質代謝）

[3P-0399（3PT19-15）] 細胞死 DNA断片化とクロマチン凝集の生成メカニズムと生理的意義

○木島 真理恵[1]、河野 莉穂[1]、渡邊 太樹[1]、水田 龍信[1]（1.理科大・生命・生命科学）

[3P-0400] Anticancer Potential of *Bridelia ovata* Against Lung Cancer by Apoptosis Induction

○Juthathip Poofery[1]、Patompong Khaw-on[1]、Bungorn Sripanidkulchai[2,3]、Ratana Banjerdpongchai[1]（1.Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand、2.Center of Research and Development in Herbal Health Products, Thailand、3.Department of Pharmaceutical Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Khon Kaen University, Thailand）

[3P-0402] オステオカルシンによる脂肪細胞へのネクロトーシス誘導メカニズムの解明

○大谷 崇仁[1]、溝上 顕子[2]、北河 憲雄[1]、平田 雅人[1]、稲井 哲一朗[1]（1.福歯大・生体構造学、2.九大・院歯・生化学）

[3P-0403] ハルミンはヒトメラノーマ細胞 G361 において抗アポトーシスタンパク質であるサバイビンと Mcl-1のユビキチン-プロテアソーム系による分解を促進しアポトーシスを誘導する

○阿部 晃久[1]、森谷 昇太[1]、平本 正樹[1]、風間　宏美[1]、山田 博之[2]（1.東京医大・生化学、2.結核研究所・抗酸菌レファレンスセンター）

[3P-0404] cFLIPは TNFR1依存的な致死的皮膚炎とTNFR1非依存的な表皮分化障害を防ぐ

○三浦 亮介[1,2]、朴 雪花[1]、三宅 早苗[1,3]、駒沢 幸子[1]、小池 正人[3]、進藤 綾大[1]、内山 安男[3]、中野 裕康[1]（1.東邦大・医・生化学、2.東京理科大・院基礎工・生物工学、3.順天堂大・医・神経生物学）

[3P-0405] ROSによって誘導されるアポトーシスにおけるカスパーゼ８による NHLRC2の切断

○石倉 周平[1]、西 憲祐[1,2]、祝原 由莉[1]、坂田 俊文[1,2]、白澤 専二[1]（1.福大・医・細胞生物、2.福大・医・耳鼻咽喉科）

[3P-0406] 創傷治癒における細胞競合機構の役割

○飯田 千晶[1]、大澤 志津江[1]、山本 真寿[2]、井垣 達吏[1]（1.京都大・院生命科学、2.熊本大・院生命科学・がん生物）

ポスター発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 8) その他（ポスター）

[3P-4-8] 4. 細胞の構造と機能-8) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0407] ポリ（ ADP-リボース）合成酵素阻害剤による神経幹細胞の増殖能の抑制と p53シグナル経路の活性化

○奥田 明子[1,5]、黒川 優[1]、竹橋 正則[1]、中瀬 朋夏[2]、奥田 修二郎[3]、上田 國寛[4]、田中 静吾[1]（1.大阪大谷大学薬学部、2.武庫川女子大学薬学部、3.新潟大学大学院医歯学総合研究科、4.神戸常盤大学、5.新潟大学大学院保健学研究科）

[3P-0408] 神経幹細胞の増殖維持におけるポリ(ADP-リボース)合成酵素の役割: ATM,ATRの PAR化とp53 signal経路の不活化

○黒川 優[1]、奥田 明子[1,2]、竹橋 正則[1]、中瀬 朋夏[3]、奥田 修二郎[4]、上田 國寛[5]、田中 静吾[1]（1.大阪大谷大学薬学部、2.新潟大学大学院保健学研究科、3.武庫川女子大学薬学部、4.新潟大学大学院医歯学総合研究科、5.神戸常盤大学）

[3P-0409] 膜小胞生産性低温適応細菌 Shewanella sp. HM13 によるタンパク質分泌機構の解析

○陳 晨[1]、河合 総一郎[1]、川本 純[1]、今井 友也[2]、栗原 達夫[1]（1.京大・化研、2.京都大学生存圏）

[3P-0410] 低温菌 Shewanella sp. HM13 における菌体外小胞輸送を介したタンパク質輸送に関与する遺伝子の探索

○釜阪 紘平[1]、Chen Chen [1]、横山 文秋[1]、今井 友也[2]、川本 純[1]、小川 拓也[1]、栗原 達夫[1]（1.京大・化研、2.京大・生存圏）

[3P-0411（4LT17-03）] リン脂質フリップ活性による膜曲率の形成

高田 直人[1]、内藤 明樹[1]、井上 尊生[2]、中山 和久[1]、高津 宏之[1]、○申 惠媛[1]（1.京大・院薬、2.米国ジョンズホプキンス大・医）

[3P-0412（4P1T17-15）] 魚類ヒレ骨格形成に必須なコラーゲン結晶の自律的合成メカニズム

○黒田 純平[1]、丸田 尚道[1]、中川 日々紀[1]、近藤 滋[1]（1.大阪大学生命機能研究科）

[3P-0413] 線維柱帯細胞における Rho/ROCKシグナル活性化因子および阻害剤の貪食能に対する影響

○藤本 智和[1]、井上 俊洋[1]、大平 さおり[1]、井上 みゆき[1]、谷原 秀信[1]（1.熊大・院医・眼科）

[3P-0414] 分裂酵母の中で Schizosaccharomyces japonicusにのみ存在する遺伝子群の解析

○青木 敬太[1]、野崎 晋五[1]、岡本 尚[1]、仁木 宏典[1]（1.遺伝研・系統セ・原核遺）

[3P-0415] 心臓線維芽細胞は FactorXを介して血管内皮ネットワーク形成を抑制する

○増田 信奈子[1]、松浦 勝久[1]、穴澤 三恵[1]、手嶋 美香[1]、清水 達也[1]（1.東京女子医大・先端生命医科学研究所）

[3P-0416] 血管石灰化におけるアネキシン6の機能解析

○藤原 めぐみ[1]、折茂 英生[1]（1.日医大・大学院・代謝・栄養学）

[3P-0417] U1スプライソソームの核内分布に対する Protein phosphatase 6結合分子 AGN-1の影響

○岡田 怜子[1]、梅原 由佳理[1]、小島 良二[1]（1.名城大・薬・薬効解析）

[3P-0418] 神経細胞におけるタウ遺伝子発現制御における分子シャペロン Osp94の関与

○森崎 真理子[1]、梅原 由佳理[1]、小島 良二[1]（1.名城大・薬・薬効解析）

ポスター発表 | 5. 細胞応答 | 3) Gタンパク質、シグナル伝達タンパク質（ポスター）

[3P-5-3] 5. 細胞応答-3) Gタンパク質、シグナル伝達タンパク質

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0419] イネの免疫応答における OsMAPKKK18の活性化機構の解析

○寺内 聡[1]、山田 健太[1]、山口 公志[1]、吉村 智美[1]、川崎 努[1]（1.近大・院農・バイオサイエンス）

[3P-0420] 植物免疫におけるパターン認識受容体シグナル間のクロストーク

○小林 友華[1]、白川 友美[1]、山田 健太[1]、中居 由依奈[1]、山口 公志[1]、川崎 努[1]（1.近大・農・バイオ）

[3P-0421（4LT19-04）] PRLによる酸性微小環境への適応

○船戸 洋佑[1]、吉田 篤[1]、山崎 大輔[1]、三木 裕明[1]（1.阪大・微研・細胞制御）

[3P-0422] Mg^{2+}の不足による PRLの転写活性化

○吉田 篤[1]、船戸 洋佑[1]、三木 裕明[1]（1.阪大・微研・細胞制御）

[3P-0423] ＰＤＺドメイン結合化合物によるタイトジャンクション透過性の制御

○天野 剛志[1]、野田 翔太[1]、中倉 由香子[1]、合田 名都子[1]、廣明 秀一[1]（1.名大・院・創薬科学）

[3P-0424] Wntシグナル伝達因子 Dishevelledの PDZドメインを標的とした阻害剤の探索と分子デザイン

○堀 公法[1]、味岡 果澄[2]、合田 名都子[1]、天野 剛志[1]、高岸 麻紀[3]、進藤 麻子[4]、廣明 秀一[1]（1.名大・院創薬科学、2.名大・理・生命理学、3.名大・院医、4.名大・院理・生命理学）

[3P-0425] フラボノイドとタイトジャンクション制御タンパク質の直接相互作用

©日本分子生物学会/日本生化学会

○久田 美咲[1]、野田 翔太[1]、天野 剛志[1]、廣明 秀一[1]
（1.名大・院創薬）

[3P-0426] 非受容体型チロシンキナーゼ ABL1による Rho活性化因子 PLEKHG2の活性制御と核内移行

○西川 将司[1]、中野 駿[2]、中尾 拡[2]、佐藤 克哉[3]、山川 央[4]、長瀬 隆弘[4]、上田 浩[1,2]（1.岐大・院連合創薬、2.岐大・院工・生命工学、3.岐大・医・分子病態、4.かずさDNA研）

[3P-0427] EPHB2/SRCシグナルを介した Rho活性化因子 DBSのチロシンリン酸化

○中野 駿[1]、西川 将司[2]、浅岡 里奈[1]、田代 圭[3]、石川 奈津子[4]、大脇 千智[4]、佐藤 克哉[5]、山川 央[6]、長瀬 隆弘[6]、上田 浩[1,2,3,4]（1.岐大・院工・生命工学、2.岐大・院連合創薬、3.岐大・工・生命工、4.岐大・院自然科学技術、5.岐大・医・分子病態、6.かずさDNA研）

[3P-0428] FYNによる Rho活性化因子 PLEKHG1の活性制御機構

○小林 知世[1]、西川 将司[2]、中野 駿[1]、石川 奈津子[3]、大脇 千智[3]、杉山 剛志[4]、山川 央[5]、長瀬 隆弘[5]、上田 浩[1,2,3]（1.岐大・院工・生命工学、2.岐大・院連合創薬、3.岐大・院自然科学技術、4.岐薬大、5.かずさDNA研）

[3P-0429] イタチ科動物は生活環境に適応して味覚受容体を多様に変化させてきた

○海老原 充[1]、門田 久瑠実[1]、宮林 沙希[1]、中川 真奈実[1]（1.石川県大）

[3P-0430] 定量的解析を目的とした GPCR発現細胞の構築

○谷猪 遼介[1]、海老原 充[1]（1.石川県立大・院生物資源環境・食品）

[3P-0431] ケヅメリクガメの酸味受容体(*PKD2L1*)遺伝子解析

○西岡 ゆきこ[1]、沖 倫子[2]、海老原 充[1]（1.石川県大・院生物資源環境・食品科学、2.尾山台高校）

[3P-0432] マウス脂肪組織において内在性低分子量 GTP結合タンパク質の活性化を検出する新規手法

○植田 笙[1]、中尾 美翔[1]、松井 さやか[1]、竹中 延之[1]、佐藤 孝哉[1]（1.大阪府大・院理・生物科学）

[3P-0433] マウス脂肪細胞のインスリンシグナル伝達系における GTP結合タンパク質 Rac1の解析

○中尾 美翔[1]、植田 笙[1]、松井 さやか[1]、竹中 延之[1]、佐藤 孝哉[1]（1.大阪府大・院理・生物科学）

[3P-0434] マウス脂肪細胞におけるインスリン刺激に応答した GTP結合タンパク質 RalAの活性化メカニズムの解析

○松井 さやか[1]、植田 笙[1]、中尾 美翔[1]、竹中 延之[1]、佐藤 孝哉[1]（1.大阪府大・院理・生物科学）

[3P-0435（4LT10-01）] ヒト疾患を招く奇異性 Gタンパク共役型受容体機能亢進メカニズムの解明

○鈴木 江莉奈[1]、泉 陽子[1]、鳥居 知宏[2]、五十嵐 麻希[1]、宮戸 真美[1]、勝見 桃理[1]、山内 淳司[2]、藤澤 泰子[3]、鳴海 覚志[1]、緒方 勤[3]、深見 真紀[1]
（1.国立成育医療研究セ・分子内分泌、2.国立成育医療研究セ・薬剤治療、3.浜松医科大・小児科）

[3P-0436（4LT10-02）] 3.43Q変異に起因する恒常活性化 GPCRの性状解析

○川上 耕季[1]、井上 飛鳥[1,2,3]、柴田 剛明[1]、青木 淳賢[1,4]（1.東北大院・薬・分子細胞生化学、2.さきがけ・JST、3.AMED-PRIME、4.AMED-CREST）

[3P-0437（4LT10-03）] ヒトエンドセリン A受容体異常症から明らかになった GPCRのリガンド結合ーシグナル活性化連関の新たな側面

○栗原 由紀子[1]、土井 知子[3]、北沢 太郎[1]、小谷 理紗[1]、河村 悠美子[1]、東山 大毅[1]、谷 一寿[4]、Christopher Gordon[2]、Jeanne Amiel[2]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学、2.Institut Imagine、3.京大・院理・生物物理、4.名大・細胞生理学研究センター）

[3P-0438（4LT10-04）] 22q11.2欠失症候群の骨格異常に関する DGCR2の TGF-betaシグナル制御メカニズム

○梶原 景正[1]、渡部 聡[3]、青山 謙一[2]、内堀 雅博[2]、斎藤 雅幸[1]、弥栄 聡介[2]、太田 嘉英[2]、木村 穣[1]
（1.東海大・医・分子生命科学、2.東海大・医・口腔外科、3.農研機構・畜産研究部門）

[3P-0439（4LT10-05）] 非古典的 NF-κBシグナル伝達経路に対するオイデスマン誘導体の作用機序の解析

○近藤 哲也[1]、Quach Hue[1]、渡辺 萌[1]、田村 隆一[1]、矢島 愛樹[1]、佐山 信成[2]、安東 政義[3]、片岡 孝夫[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.京工繊大・応生、2.福島医大・自然科学、3.新潟大・工）

[3P-0440（4LT10-06）] 阿波晩茶に見出された新規NFATシグナル抑制化合物の同定とその作用機序

○水口 博之[1]、中野 友寛[1]、西田 浩平[1]、北村 紀子[2]、内田 勝幸[2,3]、藤野 裕道[1]、神沼 修[4]、福井 裕行[5]
（1.徳大・院医歯薬学・分子情報薬理学、2.東京都医学総合研究所・花粉症プロジェクト、3.（株）明治・研究本部・食機能科学研究所、4.山梨大・総合分析実験セ・資源開発、5.徳大・院医歯薬学・分子難病学）

[3P-0441（4LT10-07）] ケミカルゲノミクスを用いたFTY720感受性遺伝子の網羅的探索と ROS/カルシウムシグナルの関わり

○萩原 加奈子[1]、石田 紘基[1]、木下 佳那子[1]、亀岡 佳則[1]、北條 志穂美[1]、佐藤 亮介[1]、高崎 輝恒[1]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大・薬）

[3P-0442（4LT10-08）] CASTing（cyclic amplification of selective target）法によるSmad結合配列の探索と機能解明

○伊藤 友香[1]、小俣 千帆[1]、望月 光由[1]、齋藤 正夫[1]、宮澤 恵二[1]（1.山梨大・院医・生化学）

[3P-0443（4LT10-09）] フォトアフィニティープローブによるノシスタチン結合タンパク質の同定

○原田 雅士[1]、南 敏明[2]、伊藤 誠二[3]、芦高 恵美子[1]（1.大阪工大・院工・生体医工、2.大阪医大・麻酔、3.関西医大・医化学）

[3P-0444（4LT19-01）] 活性化型 RASによるマクロピノサイトーシスを伴う細胞死の誘導および MYCによるその抑制

○大坪 香澄美[1,2]、温川 恭至[1]、中原 知美[1]、清野 透[1]（1.国立がんセ・研究所・発がん・予防、2.東京医科歯科・医歯学総合・生命理工）

[3P-0445（4LT19-02）] KRasタンパク質の C末端側における新規の点変異は特異な生化学的特性と細胞がん化能を示す

○多胡 憲治[1]、多胡 めぐみ[2]、太田 聡[1]、大村 千尋[1]、松儀 実広[1]、柳澤 健[1]（1.自治医大・生化学、2.慶應大・薬・衛生化学）

[3P-0446（4LT19-03）] Wnt/Rasシグナル標的因子Arl4cの膵癌における機能

○松本 真司[1]、赤間 俊之[1]、庄嶋 健作[1]、菊池 章[1]（1.阪大院・医・分子病態生化学）

[3P-0447（4LT19-05）] 低酸素条件下での脂肪組織由来間葉系幹細胞における Notchシグナルの役割

○井上 翔[1]、森山 麻里子[1]、木村 徳仁[1]、藤村 朱美香[1]、和多田 巧[1]、小澤 俊之[2]、早川 堯夫[1]、森山 博由[1]
（1.近大・薬総研、2.大阪市大・院医）

[3P-0448（4LT19-06）] チロシンキナーゼ Sykによるファゴソームの酸性化と殺菌能の調節

○田畑 裕幸[1]、森田 寛之[1]、通山 由美[1]（1.姫路獨協大・薬学部・生化学）

[3P-0449（4LT19-07）] 新規細胞体積調節分子 ASK3と制御分子 mGluR5の同定

○丹羽 國祥[1]、渡邊 謙吾[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東京大学大学院薬学系研究科 細胞情報学教室）

[3P-0450（4LT19-08）] ヒト２万種プロテインアレイを用いたユビキチンリガーゼ MIB2の大規模基質探索と解析

○城戸 康希[1]、上松 篤史[1]、高橋 宏隆[1]、澤崎 達也[1]（1.愛媛大・PROS・無細胞生命科学）

[3P-0451（4LT19-09）] コムギ無細胞ヒトプロテインアレイを基盤とした新規直鎖型ポリユビキチン鎖結合タンパク質の探索と機能解析

○長尾 和哉[1]、中島 達朗[1]、高橋 宏隆[1]、徳永 文稔[2]、澤崎 達也[1]（1.愛媛大・PROS・無細胞生命科学、2.大阪市大・院医・分子病態学 ）

[3P-5-4] 5. 細胞応答-4) プロテインキナーゼ、ホスファターゼ

13:15 ～ 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0452] 初期応答遺伝子 IERタンパク質群による Protein phosphatase 2A活性の制御
○上田 拓実[1]、小濱 祐里[1]、櫻井 博[1]（1.金沢大院・医・保）

[3P-0453] プロテインホスファターゼ PP2A/調節タンパク IER5による CDC25Bの活性調節
○小濱 祐里[1]、上田 拓実[1]、櫻井 博[1]（1.金沢大院・医・保）

[3P-0454（3PT04-01）] オートファジーによる type 2A protein phosphataseの制御機構の解明
○藤原 信行[1,9]、渋谷 周作[2]、坂井 祐介[3]、島 礼[4]、渡邊 利雄[5]、大島 浩子[6]、大島 正伸[6]、齋藤 達哉[7]、審良 静男[8]、永野 浩昭[9]、臼井 達哉[10]、大浜 剛[1]、佐藤 晃一[1]（1.山口大・共同獣医・獣医薬理、2.山口大・共同獣医・獣医衛生、3.山口大・共同獣医・獣医病理、4.宮城県立がんセ研・がん薬物療法、5.奈良女大・院・人間文化、6.金沢大・がん研・腫瘍遺伝学、7.徳島大・先端酵素学研究センター、8.大阪大・免疫学フロンティア研究センター、9.山口大・院医・消化器腫瘍外科、10.山口大・共同獣医・獣医毒性）

[3P-0455（3PT04-02）] DYRK1Bによる肝糖新生制御機構の解明
○満島 勝[1]、酒井 真志人[1]、松本 雅記[2]、飯田 智[1]、長沼 孝雄[1]、矢野 宏行[1]、松川 隼也[1]、高橋 経太[1]、春日 雅人[3]、松本 道宏[1]（1.国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター 分子代謝制御研究部、2.九州大学 生体防御医学研究所 プロテオミクス分野、3.国立国際医療研究センター）

[3P-0456（3PT04-03）] 転写因子 FOXK1の mTORC1依存的な脱リン酸化メカニズムの解析
○中津海 洋一[1]、松本 雅記[1]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研）

[3P-0457（4AT18-01）] 脂肪細胞の成熟化を導く PKA依存的な ASK1活性化のメカニズム
○坂内 千尋[1]、服部 一輝[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[3P-0458（4AT18-02）] がん遺伝子 v-Srcによる染色体不安定性を介した形質転換
○本田 拓也[1]、森井 真理子[1]、中山 祐治[2]、鈴木 亘[1]、山口 憲孝[1]、山口 直人[1]（1.千葉大院薬・分子細胞生物学、2.京都薬大・生化学）

[3P-0459（4AT18-03）] 新規 CaMKIV特異的阻害ペプチドによる破骨細胞分化制御
○中村 友美[1]、高橋 美帆[1]、藤原 誠[1]、西園 貴志[1]、西村 浩輝[1]、尾藤 晴彦[2]、高柳 広[3]、田口 祐[4]、井上 純一郎[4]、西川 喜代孝[1]（1.同志社大・院生命医科・分子生命化学、2.東大・院医学・神経生化学、3.東大・院医学・免疫学、4.東大・医科研・分子発癌）

[3P-0460（4AT18-04）] Role of ERK1/2 in invasion induction and growth inhibitory activities of TGF-beta in cholangiocarcinoma cell line
○Tuangporn Suthiphongchai[1]、Phaijit Sritananuwat[1]、Natthaporn Sueangoen[1]、Parichut Thummarati[1]（1.Dept. of Biochem., Fac. of Sci., Mahidol Univ.）

[3P-0461] Sodium azide regulates STAT1 activation and immune responses in the human macrophage-like cell line, THP-1.
○Dongyeon Kim[1]、Jyoung Heo[1]、Wonha Lee[1]（1.Sch. of Life Sci., Kyungpook Nat. Univ.）

[3P-0462] アセチル化を介した ASK1の活性調節機構の解析
○若月 大晃[1]、服部 一輝[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[3P-0463] マスト細胞におけるチロシンホスファターゼε受容体型アイソフォームの脂質ラフトへの局在化機構とその機能の解析
○金井 茜[1]、小泉 夏恋[1]、眞島 恵介[1]（1.立大・院理・生命理学）

[3P-0464] 酵母アルコール発酵制御遺伝子のゲノムワイド探索から明らかになったリン酸-炭素代謝クロストーク制御
○渡辺 大輔[1]、高木 健一[1]、吉岡 直哉[1]、杉本 幸子

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、高木 博史[1]（1.奈良先端大・バイオ）

[3P-0465] 培養視床下部神経細胞における Fynによる PYK2の活性化機構

○仲嶺 三代美[1]、桑江 一希[1]、山本 秀幸[1]（1.琉大院・医・生化）

[3P-0466] 培養視床下部神経細胞での GnRHによる PYK2活性化反応への CaM kinase IIの関与

○澳津 志帆[1]、仲嶺（比嘉） 三代美[1]、鳥原 英嗣[1]、東山 繁樹[2]、山本 秀幸[1]（1.琉大院・医・生化、2.愛媛大院・医・生化分子遺伝）

[3P-0467] Serum and glucocorticoid-regulated kinase (SGK) はヒトデ卵母細胞の細胞内 pH上昇の促進と卵成熟の誘起に関与する

○細田 絵奈子[1]、平岡 大作[2]、福田 枝里子[1]、大海 咲[1]、広橋 教貴[1]、岸本 健雄[2]、千葉 和義[1]（1.お茶大・院・ライフサイエンス・生命科学、2.お茶大・SEC）

[3P-0468] チロシン脱リン酸化酵素を介した受容体型チロシンキナーゼ ErbBファミリーフィードバックの制御

○河崎 優希[1]、櫻井 宏明[1]（1.富山大・院薬・がん細胞生物学）

[3P-0469] Hog1 MAPキナーゼの活性化には上流センサー刺激だけではなく Hog1自身の直接的高浸透圧感知が必要である

○舘林 和夫[1,2,3]、山本 勝良[1]、冨田 太一郎[4]、赤羽 悟美[4]、西村 晶子[1,3]、高山 知美[1,3]、斎藤 春雄[1]（1.東大・医科研・分子細胞情報、2.東大・医科研・フロンティア研究、3.東大・院理・生物科学、4.東邦大・医・統合生理）

[3P-0470] ゼブラフィッシュ DBAモデルを用いたリボソームタンパク質 S19のリン酸化による造血機能制御の解析

○鳥原 英嗣[1]、仲嶺（比嘉） 三代美[1]、渡名喜 健[1]、前田 紀子[1]、上地 珠代[2]、中島 由香里[2]、剣持 直哉[2]、山本 秀幸[1]（1.琉球大院・医・生化、2.宮崎大・フロンティア）

[3P-0471] 核内 c-Ablによるチロシンリン酸化を介したクロマチン構造変換の解析

○赤津 亜希[1]、徳武 友香[1]、中村 怜央[1]、高倉 勇気[1]、帯刀 隆[1]、安藤 充岐[1]、山口 憲孝[1]、山口 直人[1]（1.千葉大・院薬・分子細胞生物学）

[3P-5-5] 5. 細胞応答-5) ストレス応答、レドックス応答

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0472] 米ぬかタンパク質加水分解物の抗酸化作用とそのメカニズム

○守谷 智恵[1]、川上 賀代子[1]、藤田 明子[2]、川上 晃司[2]、畑中 唯史[3]、坪井 誠二[1]（1.就実大・薬、2.(株)サタケ、3.岡山生物研）

[3P-0473] HepG2細胞におけるオリザペプチド-P60の細胞内グルタチオン上昇作用の解析

○坪井 誠二[1]、守谷 智恵[1]、川上 賀代子[1]、兼信 実佳[1]、佐藤 泉[1]、藤田 明子[2]、川上 晃司[2]、下田 博司[3]、畑中 唯史[4]（1.就実大・薬、2.(株)サタケ、3.オリザ油化（株）、4.岡山生物研）

[3P-0474] オリザペプチド-P60のアセトアミノフェン誘導肝障害抑制作用

○川上 賀代子[1]、大塚 友貴[1]、大西 亜沙美[1]、守谷 智恵[1]、藤田 明子[2]、川上 晃司[2]、下田 博司[3]、畑中 唯史[4]、洲崎 悦子[1]、坪井 誠二[1]（1.就実大・薬、2.(株)サタケ、3.オリザ油化(株)、4.岡山生物研）

[3P-0475] 細胞質スプライシングをモニターする形質転換シロイヌナズナを用いた生理機能解析

○田原 一喜[1]、三柴 啓一郎[1]、小泉 望[1]、岩田 雄二[1]（1.大阪府大・院生命環境）

[3P-0476] シロイヌナズナ膜結合型転写因子 bZIP28の活性化機構

○長谷川 千紗[1]、芦田 誠[1]、三柴 啓一郎[1]、岩田 雄二[1]、小泉 望[1]（1.大阪府大・生命環境）

[3P-0477] 酵母における活性イオウ分子種：システインパースルフィドの生理的役割の解明

○西村 明[1]、吉川 雄樹[2]、那須野 亮[2]、松永 哲郎[1]、井田 智章[1]、守田 匡伸[1]、藤井 重元[1]、高木 博史[2]、赤池 孝章[1]（1.東北大・院医・環境保健医学、2.奈良先端・バイオ）

[3P-0478（3PT04-07）] ゲノム編集マウスを用いた硫化水素代謝酵素 sulfide-quinone reductase の機能解析

○守田 匡伸[1]、井田 智章[1]、松永 哲郎[1]、西村 明[1]、藤井 重元[1]、赤池 孝章[1]（1.東北大・院医・環境保健医学）

[3P-0479] 活性イオウ分子によるオートファジー制御：8-ニトロ-cGMPを介するメカニズム

○藤井 重元[1]、松永 哲郎[1]、井田 智章[1]、小野 勝彦[2]、澤 智裕[2]、赤池 孝章[1]（1.東北大・院医・環境保健医学、2.熊本大・院生命科学・微生物学）

[3P-0480] ニトロソグルタチオン還元酵素（ GSNOR）選択的欠損マウスの開発

©日本分子生物学会/日本生化学会

○松永 哲郎[1]、西村 明[1]、笠松 真吾[1]、Morshedul Alam[2]、井田 智章[1]、守田 匡伸[1]、居原 秀[3]、藤井 重元[1]、下田 翔[4]、西田 基宏[4]、本橋 ほづみ[4]、赤池 孝章[1]
（1.東北大・院医・環境保健医学、2.東北大・院加齢医学・遺伝子発現制御、3.大阪府立大・院理・生物科学、4.岡崎統合バイオサイエンスセンター心循環シグナル研究部門）

[3P-0481] Neuro2a 細胞における mouse CREB3 の翻訳後制御に関する研究

○曽我 彩乃[1]、高橋 貫人[1]、鳴瀬 善久[2]、木内 一壽[1,3]、平田 洋子[1,3]、大橋 憲太郎[1,3]（1.岐阜大・工・生命工学、2.明治国際医療大・医学教育研究センター、3.岐阜大院・連創）

[3P-0482] ヒト結腸癌細胞株 HT29 におけるグルコース欠乏性ストレス応答に対する新規フェンホルミン誘導体の効果に関する研究

○松本 詩織[1]、境 崇行[2]、奥田 健介[2,3]、永澤 秀子[2]、平田 洋子[1,4]、大橋 憲太郎[1,4]（1.岐阜大・工・生命工学、2.岐阜薬大・薬化学、3.神戸薬大・薬化学、4.岐阜大院・連創）

[3P-0483] プロテインキナーゼ R阻害剤 C16によるエラスチン誘導性フェロトーシスの抑制機構

○岩嵜 拓也[1]、木内 一壽[1,2]、大橋 憲太郎[1,2]、平田 洋子[1,2]（1.岐阜大・工・生命工学、2.岐阜大院・連創）

[3P-0484] 耐熱性 *Zymomonas mobilis* の耐熱性遺伝子解析と他の微生物の耐熱性遺伝子群との比較

○山田 守[1,2,3,4]、Kannikar Charoensuk[2]、櫻田 朋子[2]、時山 亜美奈[1]、村田 正之[3]、高坂 智之[1,2,3,4]
（1.山口大・農、2.山口大・院医、3.山口大・院創、4.山口大・中高温微・センター）

[3P-0485] 耐熱性酵母*Kluyveromyces marxianus*の高温での代謝変化

○津々野 竜矢[1]、西田 成輝[2]、高坂 智之[1,3]、宮川 勇[1]、山田 守[1,3]（1.山口大・院創、2.山口大・院医、3.山口大・中高温微・センター）

[3P-0486] 出芽酵母の Mpk1 MAPK経路の活性化における PtdIns(3,5)P_2の関与

○野村 亘[1,2]、前田 和宏[3]、河田 照雄[1,2]、井上 善晴[4]
（1.京大・院農・食品生物、2.京大・生理化学研究ユニット、3.大阪大・院医・神経難病治療学、4.京大・院農・応生科）

[3P-0487] 出芽酵母の TORC2-Pkc1シグナル経路を活性化する遺伝子の探索とその機能解析

○名波谷 政希[1]、野村 亘[2]、池田 佳代[1]、井上 善晴[1]
（1.京大・院農・応生科、2.京大・院農・食品生物）

[3P-0488（3PT04-04）] ショウジョウバエ生殖器官の栄養センサーはオスの妊性を制御する

○松家 未来[1]、久保 愛結子[1]、谷口 喜一郎[2,3]、安達 卓[2]、中越 英樹[1]
（1.岡山大院・自然科学、2.学習院大・理、3.京都大院・生命科学）

[3P-0489（3PT04-05）] 小胞体膜タンパク質 B-cell receptor-associated protein 31は autophagyと apoptosisの誘導を制御する

○難波 卓司[1]（1.高知大・総合研究センター）

[3P-0490（3PT04-06）] 出芽酵母におけるグルコースの効率的取り込みに関わる新規タンパク質の生理機能解析

○梅川 碧里[1]、氏原 将人[2]、中井 大貴[2]、竹松 弘[3]、若山 守[2]（1.京大・院生命、2.立命大・生命、3.京大・院医）

[3P-0491（3PT04-08）] 無重力による酸化ストレスを介した筋細胞内シグナルトランスダクション

○内田 貴之[1]、坂下 禎宏[1]、真板 綾子[1]、中尾 玲子[1]、平坂 勝也[1,2]、東谷 篤志[3]、東端 晃[4]、小林 剛[5]、曽我部 正博[5]、武田 伸一[6]、二川 健[1]
（1.徳島大院・医歯薬学研究部・生体栄養、2.長崎大・水産・海洋物質科学、3.東北大院・生命科学・ゲノム継承システム、4.JAXA、5.名古屋大院・医科研究・統合生理学、6.国立精神・医療研究センター）

[3P-0492（3PT04-09）] 小胞体膜タンパク質 Seipinの神経変性誘導変異体が惹起する病理的な小胞体ストレス発生機構の解析

○齊藤 峻介[1]、石川 時郎[1]、岡田 徹也[1]、森 和俊[1]（1.京大・院理・生物科学）

[3P-0493（3PT04-10）] 細胞内 SODが代謝する superoxideによる細胞運命決定機構

○清水 孝彦[1]、渡辺 憲史[1]、澁谷 修一[1]、小澤 裕介[1]（1.千葉大学大学院医学研究院・先進加齢医学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0494（3PT04-11）] 新規 NFAT5核内移行制御因子 HES1の高浸透圧環境における機能解析
〇立野 浩輝[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[3P-0495（3PT04-12）] Siah2及び p62による Nrf2発現調節機構の検討
〇中村 美里[1]、小林 之乃[2]、大黒 亜美[3]、今岡 進[4]（1.関学・理工・生命医化、2.関学・理工・生命医化、3.関学・理工・生命医化、4.関学・理工・生命医化）

[3P-0496（3PT04-13）] ストレス応答転写因子 Nrf1を特異的に安定化する誘導剤の探索
〇福元 雄大[1]、辻田 忠志[2]、川口 真一[3]（1.佐賀大・院農・生化学、2.佐賀大・農・生化学、3.佐賀大・農・天然資源化学）

[3P-0497（3PT04-14）] 小胞体ストレスセンサー IRE1βの活性化においてリン酸化が果たす複数の役割
〇都留 秋雄[1]、坪山 恭之[1]、大澤 祐介[1]、河野 憲二[1,2]（1.奈良先端大・バイオサイエンス、2.奈良先端大・研究推進機構）

[3P-0498（3PT04-15）] Nrf2 induction by oral administration of glucoraphanin relives tissue damage in sickle cell disease
〇Harit Panda[1]、Nadine Keleku Lukwete[1]、Mikiko Suzuki[2]、Masayuki Yamamoto[1]（1.Department of Medical Biochemistry, Tohoku University Graduate School of Medicine、2.Centre for Radioisotope Sciences, Tohoku University Graduate School of Medicine）

[3P-0499（4AT18-05）] 抗ウイルス自然免疫応答におけるミトコンドリア呼吸活性の意義
〇吉住 拓馬[1]、今村 博臣[2]、小柴 琢己[1,3]（1.九大院・システム生命科学、2.京大・生命科学、3.九大院・理・生物科学）

[3P-0500（4AT18-06）] 精巣組織器官培養法を用いた放射線照射影響の検討と治療への応用
〇福永 久典[1,2]、神長 輝一[2,3]、佐藤 卓也[4]、Karl Butterworth[1]、横谷 明徳[2,3]、小川 毅彦[4]、Kevin Prise[1]（1.クイーンズ大ベルファスト・がん研、2.量子機構・東海量子研、3.茨大・院理、4.横市大・院生医）

[3P-0501（4AT18-07）] 線虫 C. elegansにおける転写因子 DAF-16の活性化に働く熱センサーの同定
〇新生 翔[1]、大徳 浩照[1,2]、金子 悠太[1]、深水 昭吉[1,2]（1.筑波大・院・生命環境科学、2.筑波大・TARAセンター）

[3P-0502（4AT18-08）] 独立した二つのシグナル経路による糖輸送体の発現制御：細胞外へキソース濃度センサーと細胞内解糖系 fluxモニター
〇寺田 祐子[1]、副島 朗子[1]、齋藤 成昭[1]（1.久留米大・分生・細胞）

[3P-0503（4AT18-09）] 培養ディッシュの超音波振動を用いた細胞接着の制御
〇谷 健太朗[1]、小山 大介[1]（1.同志社大学 理工学部 ）

[3P-0504（4AT18-10）] 間葉系幹細胞における遺伝子発現および細胞内代謝物の酸素濃度応答性について
〇藤原 重良[1]、辻 弓子[1]、松永 由紀子[2]、相馬 勤[1]、斉 覬[1]、青木 宏文[1]（1.資生堂 グローバルイノベーションセンター、2.株式会社資生堂 フロンティアサイエンス事業部）

[3P-0505（4AT18-11）] 酵母に見出したフラボタンパク質 Tah18依存的な一酸化窒素合成の制御機構と細胞死誘導機構
〇吉川 雄樹[1]、那須野 亮[1]、高木 博史[1]（1.奈良先端大）

[3P-0506（4AT18-12）] ヒト皮膚細胞モデル HaCaTにおける DJ-1誘導因子の同定および酸化ストレス防御効果の評価
〇安藤 万由[1]、斎藤 芳郎[1]、石渡 潮路[2]、松熊 祥子[2]、野口 範子[1]（1.同志

©日本分子生物学会/日本生化学会

社大学大学院生命医科学研究科システム生命科学研究室 、2.株式会社ファンケル総合研究所）

[3P-0507（4AT18-13）] がん遺伝子 RAS発現細胞のラメリポディア形成における NF-κBの役割

〇伊藤 功彦[1]、杉本 渉[1]、神足 俊也[1,4]、Alvin Guo[3]、江畑 貴弘[1]、平田 宏聡[2]、川内 敬子[1,4]（1.甲南大・FIRST、2.名大・院医学科、3.Duke-NUS、4.日医大・先端研）

[3P-0508（4AT18-14）] IKKβ遺伝子の改変により生じた肝臓における慢性炎症は遺伝子発現の改変を介して化学発がんを抑制する

土谷 佳弘[1,2]、金井 昭教[3]、金輪 真佐美[4]、外丸 祐介[5]、前田 愼[6]、〇鎌田 英明[1]（1.広大・院医・医化学、2.広女学院大、3.広大・原医研・がん分子病態、4.広大・自然科学研究支援開発センター・生命科学機器、5.広大・自然科学研究支援開発センター、6.横浜市立大・院医・消化器）

[3P-0509（4AT18-15）] Induction of Nrf2 by Chlorogenic Acid in Hep3B Cells and Elongation of Lifespan of *Caenorhabditis elegans* by Induction of SKN-1 (Nrf2 Homolog)

〇Ferbian Siswanto[1]、Ami Oguro[1]、Susumu Imaoka[1]（1.Dept. of Biomed Chem., Sch. of Sci. and Tech., Kwansei Gakuin Univ.）

[3P-0510] Copper oxide nanoparticles induce a fibrotic response via TGF-beta1/Smad3 signaling in human airway epithelial cells

〇Je-Won Ko[1]、Na-Rae Shin[1]、Sung-Hyeuk Park[1]、In-Sik Shin[1]、Sung-Ho Kim[1]、Jong-Choon Kim[1]（1.College of Veterinary Medicine (BK21 Plus Project Team), Chonnam National University, 77 Yongbong-ro, Buk-gu, Gwangju 500-757, Republic of Korea）

[3P-0511] Piperlongumine induces cell death through ROS-JNK-ERK activation and its proteasome inhibitory activity in cholangiocarcinoma cells

〇Chutima Talabnin[1]、Sunisa Thongsom[1]、Wipa Suginta[1]、Kyung Jin Lee[2]、Han Choe[3]（1.Biochemistry-Electrochemistry Research Unit and School of Chemistry, Institute of Science, Suranaree University of Technology, Thailand、2.Department of Convergence Medicine, Asan Institute for Life Sciences, University of Ulsan College of Medicine, Asan Medical Center, Korea 、3.Department of Physiology, Asan-Minnesota Institute for Innovating Transplantation, Bio-Medical Institute of Technology, University of Ulsan College of Medicine, Asan Medical Center, Korea ）

[3P-0512] Promotion of uPAR(urokinase plasminogen activator receptor) expression and ER-stress by sodium azide regulates LPS-induced pro-inflammatory response in human monocytic leukemia cell line, THP-1

〇jeanyoung heo[1]、Sugeun Lim[1]、Wonha Lee[1]（1.Sch of Life Sci, BK21 Plus KNU Creative BioResearch Group, Kyungpook Nat. Univ.）

[3P-0513] 両親媒性ブロック共重合体を構成単位とする新規人工生体膜モデル　ージャイアントベシクルの刺激応答挙動

〇吉田 絵里[1]（1.豊橋技科大・院工・環境生命工学）

[3P-0514] 脱ユビキチン化酵素 USP5と USP13による熱誘導性ストレス顆粒の脱凝集制御

Xuan Xie[1]、松本 俊介[1]、遠藤 彬則[1]、福嶋 俊明[1]、川原 裕之[2]、〇駒田 雅之[1]（1.東工大・科技創成研究院・細胞制御センター、2.首都大・院理工・生命科学）

[3P-0515] 環境ストレス下における nonsense-mediated mRNA decay (NMD) 抑制

〇臼杵 扶佐子[1]、藤村 成剛[2]、山下 暁朗[3]（1.国立水俣病総合研究セ・臨床部、2.国立水俣病総合研究セ・基礎研究部、3.横浜市大・分子生物）

[3P-0517] 抗生活習慣病に関与する新規芳香物質の生理作用解析

〇平野 奈緒子[1]、坂本 和一[1]（1.筑波大院・生命環境）

[3P-0518] 概日時刻依存性のストレス転写因子活性化は紫外光照射への適応応答を制御する

〇河村 玄気[1]、田丸 輝也[2]、高松 研[2]、小澤 岳昌[1]（1.東大・院理・化学、2.東邦大・医・細胞生理）

[3P-0519] 転写共役因子 PGCvfの核移行による乳酸ストレ

ス応答

○谷田 任司[1]、松田 賢一[1]、山田 俊児[1]、河田 光博[1,2]、田中 雅樹[1]（1.京都府立医大・院医・解剖学・生体構造科学、2.佛教大・保健医療技術・理学療法）

[3P-0520] オキシトシンは線虫 C.elegansの熱ストレス耐性を FOXO/DAF-16経路依存的に亢進する

○安田 賢典[1]、久保 侑紀[1]、坂本 和一[1]（1.筑波大・院生命環境・生物科学）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 1) ゲノム、染色体、核の構造と機能（ポスター）

[3P-6-1] 6. ゲノムと遺伝情報-1) ゲノム、染色体、核の構造と機能

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0522（4P2T18-04）] TFIIICをアンカーとしてtDNAに結合する転写因子群の特徴抽出

○岩崎 裕貴[1]、池村 淑道[2]、黒川 顕[1]、岡田 典弘[3]（1.国立遺伝学研究所、2.長浜バイオ大学、3.公益財団法人国際科学振興財団）

[3P-0523] SINEの細胞分化への関与の可能性： SINEをアンカーとする転写因子複合体形成によるクロマチンの高次構造の構築と細胞分化に伴う高次構造の変化

岩崎 裕貴[1]、池村 淑道[2]、黒川 顕[1]、○岡田 典弘[3]（1.国立遺伝学研究所、2.長浜バイオ大学、3.公益財団法人国際科学振興財団）

[3P-0524（4P2T18-01）] ゲノム塩基配列における特定塩基長の頻度情報を利用した深層学習による種分類

○片桐 沙紀[1]、岡村 浩司[2]（1.お茶大・理・生物、2.成育医療セ・システム医学）

[3P-0525（4P2T18-02）] Noonan症候群様症状を示す一卵性双生児の全ゲノム解析

○青砥 早希[1]、岡村 浩司[2]、右田 王介[3,5]、高田 史男[4]、中林 一彦[5]、秦 健一郎[5]（1.成育医療セ・メディカルゲノム、2.成育医療セ・システム医学、3.聖マリアンナ医大・遺伝診療、4.北里大院・臨床遺伝、5.成育医療セ・周産期）

[3P-0526（4P2T18-03）] CRISPRを利用した*in vitro* enChIP法の開発およびゲノム領域間相互作用の検出への応用

○藤田 敏次[1]、藤井 穂高[1]（1.弘大・院医・ゲノム生化学）

[3P-0527（4P2T18-05）] SAF-Aはオリゴマーを形成しクロマチン結合 RNAとともに間期の染色体構造を制御する

○野澤 竜介[1]、Nick Gilbert[1]（1.エディンバラ大）

[3P-0528（4P2T18-06）] ヌクレオソーム結合因子の探索及び機能解析

○鯨井 智也[1]、粉間 信樹[1]、増本 博司[2]、胡桃坂 仁志[1,3]（1.早稲田大・院・先進理工、2.長崎大・医・共同利用研究センター、3.早稲田大・構造生物創薬研）

[3P-0529（4P2T18-07）] ゲノム動力学シミュレーションによる出芽酵母のすべてのtRNA遺伝子の空間分布解析

○徳田 直子[1]、笹井 理生[1]（1.名大・院工）

[3P-0530（4P2T18-08）] ネオセントロメアの解析により明らかになったセントロメア領域のゲノム3D構造の実体

○西村 浩平[1]、堀 哲也[1]、古宮 正隆[2]、伊藤 武彦[2]、深川 竜郎[1]（1.阪大・生命機能、2.東工大・生命理工）

[3P-0531（4P2T18-09）] セパレースの急激な活性化と安定した染色体分配

○進藤 軌久[1]、小西 惇[1]、広田 亨[1]（1.公財）がん研究会・がん研）

[3P-0532] **Telomere length in transfusion dependent HbE/ β–thalassemia (tdHbE/ β–thal) patients: A comparison between two genotypes (β^0 &β^+).**

○Nur Natasya Mohd Rasidi[1]、Heba Alsaleh[1]、Sarina Sulong[2]、Rosline Hassan[1]（1.Dept. of Hematology, Sch. of Med. Sc., Univ. Sains Malaysia.、2.Dept. of Human Genome, Sch. of Med. Sc., Univ. Sains Malaysia.）

[3P-0533] SUN domain protein, Mps3, mediates Nuclear Envelope (NE) Remodeling of Yeast Meiosis.

○Jagadeeswara Rao Bommi[1,2]、Prasada Rao H.B.D.[1,4]、Miki Shinohara[1,3]、Akira Shinohara[1,2]（1.Institute for Protein Research (IPR), Osaka University、2.Graduate School of Science, Osaka

©日本分子生物学会/日本生化学会

University, Japan.、3.Faculty of Agriculture Department of Bioscience, Kindai University, Japan.、4.Dept. of Microbiology and Molecular Genetics, UCdavis, USA.）

[3P-0534] Chromatine under extereme desiccation:3D organization of genome of an anhydrobiotic midge Polypedilum vanderplanki

〇Oleg Gusev[1,2]、Alexander Cherkasov[2]、Alina Ryabova[3]、Veniamin Fishman[3]、Nariman Batullin[3]（1.RIKEN, Yokohama, Japan、2.Kazan Federal University, Kazan, Russia、3.Institute of Cytology and Genetics, Russia）

[3P-0535] GWASによる血中 inhibin Bレベル関連遺伝子座の探索

〇小藥 鈴[1]、佐藤 陽一[1]、田嶋 敦[2]、佐藤 丈寛[2]、井本 逸勢[3]、岩本 晃明[4]、山内 あい子[1]（1.徳大・院薬・医薬品情報学、2.金沢大・院医・革新ゲノム情報学、3.徳大・院医・人類遺伝学、4.山王病院・リプロダクションセンター・男性不妊部門）

[3P-0536] GWASによる精子濃度の関連遺伝子座の探索

〇木口 美沙妃[1]、佐藤 陽一[1]、田嶋 敦[2]、佐藤 丈寛[2]、井本 逸勢[3]、岩本 晃明[4]、山内 あい子[1]（1.徳大・院薬・医薬品情報学、2.金沢大・院医・革新ゲノム情報学、3.徳大・院医・人類遺伝学、4.山王病院・リプロダクションセンター・男性不妊部門）

[3P-0537] 出芽酵母における染色体からのセントロメアDNAの切り出し誘導時に出現する生存細胞の解析

〇松崎 浩明[1]、藤原 祐気[1]、平島 宗一郎[1]、宮本 昭弘[1]、柳本 敏彰[1]、秦野 琢之[1]（1.福山大・生命工・生物工）

[3P-0538] クロマチンドメインにおける DNAの折り畳み原理

〇米山 大貴[1]、大橋 拳登[1]、岩瀬 詩由[2]、大山 隆[1,2]（1.早大院・先進理工、2.早大・教育・総合科学・生物）

[3P-0539] 転移因子 LINEのゼブラフィッシュ生体内新規転移の検出

〇佐藤 裕太[1]、梶川 正樹[1]（1.東工大・院・生命理工）

[3P-0540] 合成アルフォイド DNAによるヒト人工染色体 de novo形成の最適化

〇岡崎 孝映[1]、山田 和子[1]、大関 淳一郎[1]、大竹 興一郎[1]、久郷 和人[1]、庄野 暢晃[1,4]、Vladimir Larionov[2]、William Earnshaw[3]、舛本 寛[1]（1.かずさDNA研、2.NCI、3.Wellcome Trust Centre Cell Biol. Univ. Edinburgh、4.（現）理研・環境資源・生体機能触媒）

[3P-0541] ドロップレットデジタル PCRを用いた iPS細胞の変異定量法の検討

〇高橋 朋子[1]、梅景 雅史[1]、野村 真樹[1]、花谷 忠昭[1]、土肥 浩美[1]、佐藤 美子[1]、高須 直子[1]、天野 直己[1]（1.京大・CiRA・基盤技術）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 2) クロマチン、エピジェネティクス（ポスター）

[3P-6-2] 6. ゲノムと遺伝情報-2) クロマチン、エピジェネティクス

13:15 〜 15:45　ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0542] ヒストンの DNA結合部位特異的切断法による*in vivo*での多様なヌクレオソーム構造の解析法の開発

〇布施 智博[1]、林 俊樹[1]、橘高 勇利[1]、森田 聖[1]、香川 亘[1]、胡桃坂 仁志[2]、清水 光弘[1]（1.明星大・院・理工、2.早稲田大・先進理工/理工研/構造創薬研）

[3P-0543] 出芽酵母ミニ染色体のヌクレオソームにおけるヒストン H2Bの N末端テールと DNAとの相互作用の解析

〇林 俊樹[1]、布施 智博[1]、末政 亮[1]、清水 光弘[1]（1.明星大・院・理工）

[3P-0544] 出芽酵母ミニ染色体のヌクレオソームにおけるヒストン H2Aの C末端テールの DNA結合

栗原 陽平[1]、布施 智博[1]、具志堅 一生[1]、胡桃坂 仁志[2]、〇清水 光弘[1]（1.明星大・院・理工、2.早稲田大・先進理工/理工研/構造創薬研）

[3P-0545] 部位特異的化学切断によるヒストンバリアント H2A.Zヌクレオソーム解析法の開発

〇今井 洸志[1]、布施 智博[1]、諸星 皓哉[1]、村木 秀一郎[1]、香川 亘[1]、原田 昌彦[2]、胡桃坂 仁志[3]、清水 光弘[1]（1.明星大・院・理工、2.東北大・院・農、3.早稲田大・先進理工/理工研/構造創薬研）

[3P-0546] 部位特異的化学切断法による*in vivo*でのヒストン H3テールとリンカー DNAとの相互作用の解析

〇勅使川原 裕太[1]、布施 智博[1]、諸星 皓哉[1]、今井 洸志[1]、釋 拓也[1]、市來 智裕[1]、清水 光弘[1]（1.明星大・院・理工）

[3P-0547（3PT18-01）] EBウイルス感染によるエピゲノム異常に伴うクロマチン構造変化

〇岡部 篤史[1]、船田 さやか[1]、松坂 恵介[1]、南波 宏枝[1]、福世 真樹[1]、金田 篤志[1]（1.千葉大・院医・分子腫瘍

©日本分子生物学会/日本生化学会

学）

[3P-0548（3PT18-02）] 細胞老化システムの持つ細胞系譜特異的な遺伝子の異所性発現誘導

○富松 航佑[1]、Aled Parry[1]、Dora Bihary[2]、Ioana Olan[1]、Guy Slater[1]、木村 宏[3]、Shamith Samarajiwa[2]、成田 匡志[1]（1.英国癌研・ケンブリッジ大、2.英国医研・ケンブリッジ大、3.東工大・科学技術創成研究院）

[3P-0549（3PT18-03）] 非免疫沈降法 ChILT法による少数細胞のエピゲノム解析

○原田 哲仁[1]、半田 哲也[3]、野上 順平[1]、有村 泰宏[2]、関根 慧[2]、中尾 勝[3]、藤田 理紗[2]、前原 一満[1]、胡桃坂 仁志[2,3]、木村 宏[3]、大川 恭行[1]（1.九大・生医研・トランスクリプトミクス分野、2.早稲田大・院・先進理工、3.東工大・科学技術創成研究院）

[3P-0550（3PT18-04）] メダカにおける*in vivo*エピゲノム編集

○福嶋 悠人[1]、武田 洋幸[1]、中村 遼平[1]（1.東大・院理・生物科学）

[3P-0551（3PT18-05）] *Ezh2*欠損造血幹細胞維持における Ezh1 によるエピジェネティック制御

○青山 和正[1]、鈴木 瑛美[1]、大島 基彦[1]、望月ー樫尾 牧子[1]、小出 周平[1]、加藤 裕子[1]、中島 やえ子[1]、指田 吾郎[1,2]、岩間 厚志[1]（1.千葉大・院医・細胞分子医学、2.熊本大・国際先端医学研究拠点施設）

[3P-0552（3PT18-06）] 上皮細胞において p53は E-cadherin遺伝子発現制御部位に結合し、 EZH2による発現抑制に拮抗する

○及川 司[1]、大塚 勇太郎[1]、小野寺 康仁[1]、堀川 芽衣[1]、橋本 あり[1]、橋本 茂[1]、鈴木 穣[2]、佐邊 壽孝[1]（1.北大・院医・分子生物学、2.東大・院新領域）

[3P-0553（3PT18-07）] Mbf1は Pacmanから E(z) mRNAを保護することでポリコームサイレンシングの堅牢性を担保している

○西岡 憲一[1]、宮崎 仁美[2]、副島 英伸[1]、広瀬 進[3]（1.佐賀大・医、2.長崎大・原研、3.遺伝研）

[3P-0554（3PT18-08）] 乳がん細胞のエレノアクロマチンドメインはシス作用性非コードRNA群とクロマチン相互作用により制御される

○山本 達郎[1]、藤原 沙織[1]、前原 一満[2]、大川 恭行[2]、三浦 尚[3]、平谷 伊智朗[4]、斉藤 典子[1,4]、中尾 光善[1]（1.熊本大・発生研・細胞医学、2.九州大・生医研、3.理研・CDB、4.がん研究会・がん研）

[3P-0555（3PT18-09）] 非コード RNA Eleanorはヌクレオソーム中のヒストンの交換を促進する

○藤田 理紗[1]、有村 泰宏[1]、山本 達郎[2]、浜田 道昭[1,3]、斉藤 典子[4]、胡桃坂 仁志[1,3,5]（1.早大・院・先進理工、2.熊大・発生研・細胞医学、3.早大・構造創薬研、4.がん研究会・がん生物部、5.早大・理工研）

[3P-0556（3PT18-10）] Suv39h1のクロモドメインの RNA認識能は H3K9me3認識能と共にヘテロクロマチン形成に関与する

○白井 温子[1]、川口 隆之[2]、村松 大輔[1]、石田 真由美[3]、木村 宏[4]、中山 潤一[2]、眞貝 洋一[1]（1.理研・眞貝細胞記憶研究室、2.基礎生物学研究所　クロマチン制御研究部門、3.理研・CDB、4.東京工業大学大学院生命理工学研究科）

[3P-0557（3PT18-11）] ショウジョウバエの Piwi-piRNA経路における Panoramix/Silencio-Nxf2複合体の機能

○村野 健作[1]、岩崎 由香[1]、益子 あかね[1,2]、塩見 春彦[1]（1.慶應義塾大・医・分子生物学、2.横浜国大・物質工学）

[3P-0558（3PT18-12）] Zscan10はマウス ES細胞においてトランスポゾン領域のサイレンシングを抑制する

○山根 万里子[1]、市川 巧[1]、丹羽 仁史[1]（1.熊大・発生研・多能性幹細胞）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0559（3PT18-13）] 生殖細胞においてトランスポゾンに富んだ染色体領域が一過的に緩む
○山中 総一郎[1]、Sung-Joon Park[2]、渋谷 あおい[1]、Piero Carninci[3]、中井 謙太[2]、塩見 春彦[1]（1.慶応大・医・分子生物、2.東大・医科研・ヒトゲノム解析センター、3.理研・ライフサイエンス技術基盤研究センター・機能性ゲノム解析部門）

[3P-0560（3PT18-14）] Atf7ipによる外来性および内在性レトロウイルス抑制機構の解析
○加藤 雅紀[1]、津坂 剛史[1]、福田 渓[1]、遊佐 宏介[2]、眞貝 洋一[1]（1.理研・眞貝細胞記憶、2.Wellcome Trust Sanger Inst.）

[3P-0561（4LT14-01）] マウス*Zrsr1* DMRの転写は卵ではメチル化を起こすが、体細胞ではメチル化を起こさない。
○城 圭一郎[1]、西岡 憲一[1]、北嶋 修司[2]、松久 葉一[2]、河野 友宏[3]、古関 明彦[4]、副島 英伸[1]（1.佐大・医・分子生命科学、2.佐大・総合分析実験センター生物資源開発部門、3.東京農大・応用生物科学部・バイオサイエンス・動物発生工学、4.理研・統合生命医科学・免疫器官形成）

[3P-0562（4LT14-02）] RUNX1は DNA脱メチル化機構をリクルートすることにより、結合部位特異的な DNA脱メチル化を制御する
○鈴木 貴紘[1,2]、清水 友理[1]、降旗 絵里奈[1]、前田 紫緒里[1]、木嶋 真美[1]、西村 創[1]、榎本 早彩[1,2]、林崎 良英[3]、鈴木 治和[1]（1.理研・CLST・DGT、2.横市大・生命医科学、3.理研・PMI）

[3P-0563（4LT14-03）] ヒストン H3.3のサブバリアント H3mm7は正常な骨格筋再生に必要とされる
○前原 一満[1]、原田 哲仁[1]、大川 恭行[1]（1.九大・生医研・トランスクリプトミクス）

[3P-0564（4LT14-04）] ナルディライジンはヒストン修飾の制御を介して細胞周期調節に寄与する
○森田 雄介[1]、大野 美紀子[2]、西 清人[1]、西城 さやか[1]、松田 真太郎[1]、木村 剛[1]、西 英一郎[2]（1.京大・院医・循内、2.滋賀医大・薬理）

[3P-0565（4LT14-05）] 血管内皮細胞における炎症性刺激に応じた miRNA-ヒストン修飾ネットワーク機構
○東島 佳毅[1,4]、神吉 康晴[4,5]、井上 剛[2]、南学 正臣[3]、古川 哲史[1]、和田 洋一郎[4]（1.東京医科歯科大・難治研・生体情報薬理、2.バージニア大、3.東大・院医・腎内、4.東大・アイソトープ総合センター、5.アメリカ国立がん研究所）

[3P-0566（4LT14-06）] エピジェネティクスへのアクチンファミリーの関与：環状ペプチドを用いた解析と人為的操作の試み
○秋山 祐亮[1]、高橋 裕一朗[1]、町田 奈々子[1]、村上 和寛[1]、Christian Heinis[2]、原田 昌彦[1]（1.東北・院農・分子生物、2.EPFL. LPPT, Lausanne）

[3P-0567（4LT14-07）] マウス ES細胞におけるセレノプロテイン Hのエピジェネテッィク作用
○廣澤 瑞子[1]、田部井 靖亨[1]、早川 晃司[1]、奈良 大輔[1]、塩田 邦郎[1,2]、田中 智[1]（1.東大・院農・応用動物科学、2.早大・理工総研）

[3P-0568（4LT14-08）] iPS細胞誘導における X染色体再活性化機構の解析
○相澤 志穂[1]、Linh Bui[1]、西村 健[1]、久武 幸司[1]（1.筑波大・医学・遺伝子制御学）

[3P-0569（4LT14-09）] ヘテロクロマチンによる転写制御はセントロメア・リピートを介した染色体異常を抑制する
○沖田 暁子[1]、Dayalini Weerasekara[1]、升方 久夫[1]、中川 拓郎[1]（1.阪大・院理・生物科学）

[3P-0570] Profiling the expressed genes identified in 3D chromosomal conformation analyses in mouse development
○Luis Nagai[1,2]、Kenta Nakai[1,2]（1.Department of

©日本分子生物学会/日本生化学会

Computational Biology and Medical Sciences, The University of Tokyo、2.Laboratory of Functional Analysis in silico, The Institute of Medical Science - The University of Tokyo）

[3P-0571] ヒストンアセチル化酵素ＰＣＡＦは未熟Ｂ細胞でのＢｃｌー６とＰａｘ５の遺伝子発現制御に関与する

○菊池 秀彦[1]、三室 仁美[2]、栗林 太[3]（1.尚絅大学短期大学部食物栄養学科、2.東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター 感染制御系 細菌学分野、3.川崎医科大学生化学教室）

[3P-0572] ゼニゴケ Marchantia polymorphaのヌクレオソームの構造解析

○藤野 優佳[1]、鯨井 智也[1]、越阪部 晃永[2]、Frederic Berger[2]、胡桃坂 仁志[1,3]（1.早大・院・先進理工、2.グレゴール・メンデル研究所、3.早大・構造創薬研）

[3P-0573] 分裂酵母ヌクレオソームの試験管内再構成と生化学的および物理化学的解析

○永倉 亘[1,2]、小山 昌子[1,2,3]、田中 大貴[1,2]、胡桃坂 仁志[1,2,3]（1.早大・院・先進理工、2.早大・構造創薬研、3.早大・理工研）

[3P-0574] エピジェネティック調節に関わる栄養代謝中間体の探索

○早川 晃司[1]、田中 智[1]（1.東大・院農・応用動物科学）

[3P-0575] 転写因子 p53の N末端は p53とヌクレオソームの結合において重要である

○西村 正宏[1]、有村 泰宏[1]、胡桃坂 仁志[1,2]（1.早稲田大・院・先進理工、2.早稲田大・構造創薬研）

[3P-0576] 透過性細胞と再構成ヒストン複合体によるヒストン動態の解析

○立和名 博昭[1,2]、原田 哲仁[3]、大川 恭行[3]、木村 宏[4]、斉藤 典子[1]、胡桃坂 仁志[2]（1.公益財団法人がん研究会がん研究所、2.早稲田大学理工学術院、3.九州大学生体防御医学研究所、4.東京工業大学科学技術創成研究院）

[3P-0577] ランブル鞭毛虫のヌクレオソームの生化学的解析

○星川 史佳[1]、田中 大貴[1]、ダッシェ マリコ[1,2]、Andrew Flaus[4]、胡桃坂 仁志[1,2,3]（1.早稲田大・院・先進理工、2.早稲田大・理工研、3.早稲田大・構造創薬研、4.CCB., Biochem., Sch. of Nat. Sci., NUI Galway, Ireland）

[3P-0578] リーシュマニアヒストンを含むヌクレオソームの生化学的解析

○ダッシェ マリコ[1]、立和名 博昭[2]、胡桃坂 仁志[1,3]（1.早稲田大・先進理工/理工研、2.がん研究会・がん生物部、3.早稲田大・構造創薬研）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 3) DNA複製、DNA組換え、DNAの変異と修復（ポスター）

[3P-6-3] 6. ゲノムと遺伝情報-3) DNA複製、DNA組換え、 DNAの変異と修復

13:15 ～ 15:45 ポスター会場1-2 (神戸国際展示場 1号館 2階)

[3P-0579] アカパンカビ新規短寿命株の表現型解析および短寿命原因遺伝子の特定

○青野 剛人[1]、吉原 亮平[1]、清家 快海[2]、畠山 晋[1]、田中 秀逸[1]（1.埼玉大・院理工、2.埼玉大・理）

[3P-0580] アカパンカビにおける寿命関連遺伝子mhg1の機能解析

○石森 啓右[1]、吉原 亮平[1]、清家 快海[2]、畠山 晋[1]、田中 秀逸[1]（1.埼玉大・院理工、2.埼玉大・理）

[3P-0581] 成体期開始カロリー制限が子ども期被ばくマウスでの突然変異生成に及ぼす影響

○神代 紗央理[1]、中山 貴文[1,2]、佐川 佳穂[1]、尚 奕[2]、鶴岡 千鶴[2]、谷 修祐[2]、砂押 正章[2]、森岡 孝満[2]、Benjamin Blyth[2]、島田 義也[2]、柿沼 志津子[1,2]、立花 章[1]（1.茨城大学・理学部、2.量研機構・放射線医学総合研究所）

[3P-0582] 子ども期被ばくによる欠失突然変異に対するカロリー制限の影響

○杉 菜々美[1]、神代 紗央理[1]、佐川 佳穂[1]、中山 貴文[1,2]、尚 奕[2]、鶴岡 千鶴[2]、谷 修佑[2]、砂押 正章[2]、森岡 孝満[2]、Benjamin Blyth[2]、島田 義也[2]、柿沼 志津子[1,2]、立花 章[1]（1.茨城大学・理学部、2.量研機構・放射線医学総合研究所）

[3P-0583] 各種細胞障害に対する細胞周期関連因子Ebp1のクロマチンローディング特性

○大石 愛梨[1]、和田 浩喜[1]、木村 有里[1]、伊豆田 俊二[1]（1.熊本大・院・自然科学）

[3P-0584] 紫外線照射に伴う Ebp1の核から細胞質への局在変化とその生物学的意義

○木村 有里[1]、大石 愛梨[1]、和田 浩喜[1]、伊豆田 俊二[1]（1.熊本大・院・自然科学）

[3P-0585] 複製フォーク停止に伴う Ebp1の細胞内局在に関する研究

○和田 浩喜[1]、大石 愛梨[1]、木村 有里[1]、伊豆田 俊二[1]（1.熊本大・院・自然）

[3P-0586] 抗体遺伝子変異の転写関連過程における SRSF1-3の役割の解析

○金山 直樹[1,2]、川口 祐加[1]、横山 和輝[1]、石橋 朋之

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2]、曲 正樹[1,2]、徳光 浩[1,2]（1.岡山大・院・自然科学・生命医用工、2.岡山大・工・化学生命）

[3P-0587] AID発現と SHM誘導における BCRシグナルの役割

○梶浦 雄也[1]、金廣 優一[1]、曲 正樹[1]、徳光 浩[1]、金山 直樹[1]（1.岡山大・院・自然科学・生命医用工）

[3P-0588（4LT16-01）] 大腸菌の複製オリジン近傍での複製フォーク進行の遅延

○秋山 昌広[1]、大島 拓[2]、Chumsakul Onuma[3]、石川 周[4]、真木 寿治[1]（1.奈良先端大・バイオサイエンス研究科、2.富山県立大・生物工学科、3.ロート製薬・リサーチビレッジ京都、4.神戸大・科学技術イノベーション研究科）

[3P-0589（4LT16-02）] ヒト ORC1の N末端側領域の機能解析

中塚 萌[1]、堀之内 遥香[1]、溝部 彩子[1]、由良 敬[2]、○和賀 祥[1]（1.日本女子大・理・物質生物、2.お茶大・生命情報、早稲田大・理工）

[3P-0590（4LT16-03）] Rif1が結合するグアニン４重鎖構造の細胞内存在と形成のメカニズムの解明

○加納 豊[1]、松本 清治[1]、深津 理乃[1]、覚正 直子[1]、正井 久雄[1]（1.東京都医学研・ゲノム医科学）

[3P-0591（4LT16-04）] 複製 DNAポリメラーゼの合成・修正スイッチングにおけるDNAクランプ PCNAの積極的関与

○西田 洋一[1]、依田 卓也[2]、田邉 麻衣子[1]、辻 敏之[3]、依田 隆夫[3]、石野 園子[4]、白井 剛[3]、竹山 春子[2]、石野 良純[4]（1.日立・研開、2.早大・先進理工、3.長浜バイオ大・コンピューターバイオサイエンス、4.九大・院農）

[3P-0592（4LT16-05）] テロメア結合タンパク質およびシェルタリン構成因子によるDNA複製の時空間的制御機構の解明

○小川 志帆[1]、半田 哲也[1]、城戸 沙友里[1]、中村 優太[1]、小川 英知[2]、浅川 東彦[2]、高橋 達郎[1,3]、中川 拓郎[1]、平岡 泰[2]、升方 久夫[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.阪大・院生命、3.九大・院理）

[3P-0593（4LT16-06）] 複製ストレスにおける染色体脆弱部位への R-Loop依存性FANCD2集積メカニズム

○岡本 裕介[1,2]、岩嵜 航[3]、高橋 数冴[3]、久郷 和人[4]、小田 有沙[4]、河合 秀彦[5]、佐藤 浩一[6]、小林 航[6]、逆井 良[7]、高折 晃史[2]、山本 卓[8]、鐘巻 将人[9,10]、田岡 万悟[11]、磯部 俊明[1]、胡桃坂 仁志[6]、印南 秀樹[3]、太田 邦史[4]、石合 正道[1]、高田 穣[1]（1.京大・放生研・晩発、2.京大院・血内、3.総研大・先科、4.東大・院理・生物科学、5.広大・原医研、6.早大・先進理工、7.金医大・生化学1、8.広大・院理・分遺、9.遺伝研・分細工、10.総研大・遺伝、11.首都大・理工）

[3P-0594（4LT16-07）] 分裂酵母 Frc１は相同組換え欠損細胞で起こる染色体異常に関与する

豊福 直子[1]、沖 慶太郎[1]、蘇 傑[1]、升方 久夫[1]、○中川 拓郎[1]（1.阪大・院理・生物科学）

[3P-0595（4LT16-08）] DNA polymerase θis essential for alternative end-joining

○斎藤 慎太[1]、足立 典隆[1,2]（1.横浜市大・院・生命ナノ、2.横浜市大・先端医科学研究センター）

[3P-0596（4LT16-09）] RNAポリメラーゼ阻害因子 Maf1は tRNA遺伝子における DNA損傷を防ぎ、カロリー制限による寿命延長に必要である

Mihir Shetty[1]、野口 千晶[1]、Sydney Wilson[1]、塩崎 一裕[2]、Christian Sell[3]、○野口 英史[1]（1.ドレクセル大学・医・分子生物学、2.奈良先端・バイオサイエンス、3.ドレクセル大学・医・病理学）

[3P-0597（4P2T14-01）] 重粒子線に特徴的な DNA損傷の可視化と細胞運命決定に与える影響の解析

○新美 敦子[1]、萩原 慶彦[2]、リムシリチャイクル シリパン[3]、尾池 貴洋[2]、佐藤 浩央[2]、中野 隆史[1,2,4]、柴田

©日本分子生物学会/日本生化学会

淳史[5]（1.群馬大・未来先端、2.群馬大・腫瘍放射線学分野、3.Silpakorn大・薬学部、4.群馬大・重粒子線医学研究センター、5.群馬大・大学院教育支援センター）

[3P-0599（4P2T14-03）] ヒト Rad17タンパク質の酸性C末端テールによる9-1-1複合体との相互作用の制御

○福本 泰典[1]、中山 祐治[2]、山口 直人[1]（1.千葉大・院薬・分子細胞生物学、2.京都薬大・生化学）

[3P-0600（4P2T14-04）] 植物 DNA損傷応答におけるクロマチンリモデリング因子RAD54の核内動態解析

○平川 健[1]、Sachihiro Matsunaga[1]（1.東理大・院・理工・応用生物科学）

[3P-0601（4P2T14-05）] ヌクレオチドアナログ誘導性DNA複製ストレス発生メカニズムと p53を介した細胞運命決定

○北尾 洋之[1]、飯森 真人[1]、片岡 裕貴[1,2]、藤澤 量[3]、釣本 敏樹[3]、一瀬 智美[4]、三浦 大典[4]、若狭 武司[2,5]、松岡 和明[2]、佐伯 浩司[5]、沖 英次[5]、前原 喜彦[5]（1.九州大・薬・抗がん剤育薬、2.大鵬薬品工業株式会社、3.九州大・理、4.九州大・農、5.九州大・医・消化器・総合外科）

[3P-0602（4P2T14-06）] 放線菌において見出した新規DNAミスマッチ修復機構の解析

○竹本 訓彦[1]、沼田 格[2]、末次 正幸[2]、秋山 徹[1]（1.国立国際医療研究センター研究所・病原微生物、2.立教大・生命理）

[3P-0603（4P2T14-07）] 無顎類抗原受容体 VLR遺伝子再編成のしくみ

○名川 文清[1]（1.東大・院理・生物科学）

[3P-0604（4P2T14-08）] 新規53BP1結合タンパク質SCAIは、 RIF1に阻害的に働くことで BRCA1-mediated repairを促進する

○磯部 真也[1]、長尾 恒治[1]、野崎 直仁[2]、木村 宏[3]、小布施 力史[1]（1.阪大・理学・生物科学、2.株式会社モノクローナル抗体研究所、3.東工大・科学技術創成研究院）

[3P-0605（4P2T14-09）] ヌクレオチド除去修復の開始を制御するクロマチン構造の役割

○加藤 安佳梨[1,2]、各務 恵理菜[1,2]、中西 正哉[1,2]、日下部 将之[1,2]、栗原 文佳[1,2]、酒井 恒[1,2]、菅澤 薫[1,2]（1.神戸大・バイオシグナル総研、2.神戸大・院理）

[3P-0606] ATR overexpression promotes K-Ras induced tumorigenesis through replication fork protection

○Marianne Mazevet[1]、Naoya Hayashida[1]、Bunsyo Shiotani[1]（1.Division of Genetics, Research Institute, National Cancer Center）

[3P-0607] 哺乳動物細胞を用いたゲノムプロフィリング法による変異原アッセイ法の検討

○馬場 美聡[1]、Parmila Kumari[2]、Sunita Gautam[2]、月足 元希[1]、松岡 浩司[2]、西垣 功一[2,3]、保川 清[1]（1.京大・院農・食生科、2.埼玉大・院理工、3.北陸先端大）

[3P-0609] WRN は、O^6-メチルグアニンが誘発する変異を抑制する

○倉本 佳枝[1]、鈴木 哲矢[1,2]、紙谷 浩之[1,2]（1.広島大・薬、2.広島大・院・医歯薬保）

[3P-0610] 新規ゲノム編集核酸 tailed duplex ver. 2

○白濱 航[1]、鈴木 哲矢[1,2]、小松 康雄[3]、紙谷 浩之[1,2]（1.広島大・薬、2.広島大・院・医歯薬保、3.産総研・生物プロセス）

[3P-0611] 日本人 AT-LD患者における MRE11変異部位とDNA損傷応答異常との関係

○河村 香寿美[1,2]、Fei Qi[1,2]、加藤 竹雄[3]、松浦 伸也[4]、小松 賢志[2]、小林 純也[1,2]（1.京大・人環、2.京大・放生研、3.京大・医学、4.広大・原爆医科学）

[3P-0612] UVSSAユビキチン化の阻害は USP7からの解離で引き起こされた転写と共役したヌクレオチド除去修復の欠損を抑制する

○比嘉 光[1]、田中 亀代次[1]、西條 將文[1]（1.阪大・生命機能・細胞機能学）

[3P-0613] マイクロサテライト不安定性は、 DNA複製ストレスが引き金となり PolQ依存的な修復に伴って誘導される

○清水 敦拡[1]、熱海 悠子[1]、皆川 祐輔[1]、松野 悠介

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、吉岡 研一[1]（1.国立がんセンター 発がん・予防分野）

[3P-0614] 11q23染色体転座形成における INO80クロマチン転換複合体の関与

〇孫 継英[1]、原田 昌彦[2]、木野村 愛子[1]、井倉 毅[3]、田代 聡[1]（1.広島大・原医・細胞修復制御、2.東北大・院農・分子生物、3.京大・放生研）

[3P-0615] ヒト iPS細胞におけるミトコンドリア複合体IIの変異型 SDHC

〇岡 素雅子[1]、林 道夫[2]、関口 睦夫[1]（1.福岡歯科大学・先端科学研究センター、2.福岡歯科大学・生化学）

[3P-0616] 炭素イオン線特異的な DSB end resectionの解析

〇萩原 慶彦[1,2]、新美 敦子[3]、佐藤 浩央[1]、中野 隆史[1,3,4]、柴田 淳史[2]（1.群馬大・院医・腫瘍放射線学、2.群馬大・院医・大学院教育研究支援センター、3.群馬大・院医・未来先端研究機構、4.群馬大・院医・重粒子線医学研究センター）

[3P-0617] 放射線が誘発する DNA-タンパク質クロスリンク損傷の解析

松坂　智幸[1]、西村 夕紀[1]、徐 徐[1]、中野 敏彰[1]、平山 亮一[2]、鵜澤 玲子[2]、〇井出 博[1]（1.広島大・院理・数理分子生命理学、2.量研機構・放医研・放射線障害治療研究）

[3P-0618] SSB-YFPを用いた DNAポリメラーゼの1分子解析

〇勝見 匡[1]、栗本 雅之[1]、高橋 俊介[1]、川崎 祥平[1]、栗田 弘史[2]、松浦 俊一[3]、水野 彰[2]、大重 真彦[1]、桂 進司[1]（1.群大・院理工・環境創生、2.技科大・院工・環境・生命工学系、3.産総研・コンパクト化学）

ポスター・展示会場2

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 4) 転写調節（ポスター）

[3P-6-4] 6. ゲノムと遺伝情報-4) 転写調節

13:15 〜 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0619] HSF1-PARP複合体による熱ショック応答の調節

〇藤本 充章[1]、瀧井 良祐[1]、Arpit Katiyar[1]、Pratibha Srivastava[1]、中井 彰[1]（1.山口大学・院医・医化学）

[3P-0620] HSF1 in co-operation with SSBP1 regulates mitochondrial proteotoxic stress response in mammals

〇Arpit Katiyar [1]、Mitsuaki Fujimoto[1]、Ryosuke Takii[1]、Pratibha Srivastava[1]、Akira Nakai[1]（1.Dept. of Biochem. &Mol. Biol., Grad. Sch. of Med., Yamaguchi Univ）

[3P-0621（4LT15-01）] MED1の核内受容体結合能を廃絶した変異マウスにおける脂質代謝制御分子の発現

〇物延 沙耶[1]、平野 希依[1]、安達 枝里[1]、峰松 侑希[1]、松尾 美希[1]、後和 佳澄[1]、服部 美咲[1]、黒沼 加菜[1]、Robert Roeder[3]、長谷川 菜摘[1]、伊藤 光宏[1,2,3]（1.神戸大・保健学研究科・病態解析学、2.早稲田大・ナノ・ライフ創新研究機構、3.ロックフェラー大・生化学・分子生物学）

[3P-0622（4LT15-02）] Recq5遺伝子の発現制御

〇川崎 勝己[1]、辻 結花[1]、岡 なつみ[1]、河村 香寿美[3]、田代（桜井） 晴奈[2]（1.摂南大・院理工・生命科学、2.摂南大・薬・生化学、3.京都大・院人間環境学・分子生命環境論）

[3P-0623（4LT15-03）] CRISPR/Cas9によるシス調節エレメントの編集を用いた抗体遺伝子改変酵素 AIDの発現調節機構の解析

〇佐藤 克哉[1]、安田 一[1]、金山 佳史[1]、堀 賢一郎[1]、長岡 仁[1]（1.岐阜大・院医・分子病態）

[3P-0624（4LT15-04）] Mechanisms that affect post-transcriptional fate of RNA polymerase II-transcribed genes

〇Fajar Muhamad[1]、Ari Zukeran[1]、Shumpei Tateno[1]、Junichi Yamamoto[2]、Hiroshi Handa[2]、Yuki Yamaguchi[1]（1.Dept Life Science and Tech.,Tokyo Tech.、2.Dept.of Nanoparticle Translational Research, Tokyo Med. Univ.）

[3P-0625（4LT15-05）] 新規なヘムセンサータンパク質による転写調節の分子メカニズム

西永 惠[1]、杉本 宏[2]、青野 重利[3]、城 宜嗣[2,4]、〇澤井 仁美[2,4]（1.兵庫県立大・理・生命科学、2.理研・播磨、3.分子研・統合バイオ、4.兵庫県立大・院・生命理学）

[3P-0626（4LT15-06）] GABPAとヒストンアセチル化は

早期 G1期遺伝子に対して Bookmarking因子として機能する

○後藤 峻也[1]、高橋 将史[1]、安恒 徳美[1]、稲山 純生[1]、柏葉 脩一郎[1]、村上 康文[1]（1.東理大・基礎工・生物工）

[3P-0627（4LT15-07）] 胎生期血管内皮細胞における Hey1遺伝子の発現制御機構

○深山 俊治[1]、渡邉 裕介[1,2]、瀬谷 大貴[1]、井原 大[1,3]、荒井 勇二[4]、磯本 祥恵[4]、中川 修[1,2,3]（1.国循・研究所・分子生理、2.奈良医大・院医、3.立命・院生命科学、4.国循・研究所・研究推進）

[3P-0628（4LT15-08）] piRNAを介したトランスポゾン転写抑制機構の解析

○大西 遼[1]、佐藤 薫[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

[3P-0629（4LT15-09）] ナルディライジンによる PER2の機能調節を介した概日リズム制御機構

○平岡 義範[1]、吉種 光[2]、大野 美紀子[3]、森田 雄介[4]、布川 莉奈[2]、西 清人[4]、久米 典昭[1]、木村 剛[4]、深田 吉孝[2]、西 英一郎[3]（1.神院大・薬・臨床薬学、2.東大・院理・生物科学、3.滋賀医大・医・薬理学、4.京大・院医・循内）

[3P-0630（4P2T15-01）] 胚性幹細胞における単アリル性発現遺伝子はゲノム及び付随したエピゲノムによって制御される

○大石 裕晃[1]、鵜木 元香[2]、一柳 健司[3]、福田 渓[4]、白根 健次郎[6]、前之原 章司[1]、佐渡 敬[5]、佐々木 裕之[2]（1.九大・医・エピゲノム制御、2.九大・生医研・エピゲノム制御、3.名大・農・ゲノム・エピゲノムダイナミクス研究分野、4.理研・細胞記憶研究室、5.近大・農・バイオサイエンス学科、6.LSI, Dep. of Med. Genetics, Univ. of British Columbia）

[3P-0631（4P2T15-02）] インターフェロン応答遺伝子に見られる転写記憶と Chromatin marksによる制御

○鎌田 瑠泉[1,2]、Wenjing Yang[3]、應田 涼太[2]、坂口 和靖[1]、Jun Zhu[3]、Keiko Ozato[2]（1.北大院・理・化、2.NICHD/NIH、3.NHLBI/NIH）

[3P-0632（4P2T15-03）] ヘムシグナルによる天然変性タンパク質 Bach2の制御機構と生理学的意義の解明

○松井 美紀[1,2]、島 弘季[2]、武藤 哲彦[2]、松本 光代[2]、村山 和隆[3]、五十嵐 和彦[2]（1.日本学術振興会RPD特別研究員、2.東北大・院医・生物化学、3.東北大・医工院・分子構造解析）

[3P-0633（4P2T15-04）] 転写共役因子 MED1による IL-33誘導性の2型自然リンパ球の動員調節

○安達 枝里[1]、長谷川 菜摘[1]、前川 茜[1]、物延 沙耶[1]、平野 希依[1]、後藤 千恵[1]、横井 彩[1]、黒沼 加菜[1]、宮田 宗明[2,3]、高井 義美[3,4]、Robert Roeder[5]、伊藤 光宏[1,4,5]（1.神戸大・保健学研究科・病態解析学、2.先端医療振興財団、3.神戸大・医学研究科・生化学・分子生物学、4.早稲田大・ナノ・ライフ創新研究機構、5.ロックフェラー大・生化学・分子生物学）

[3P-0634（4P2T15-05）] 転写共役因子 MED1の核内受容体結合能は低温環境での体温維持に必須である

○平野 希依[1]、物延 沙耶[1]、安達 枝里[1]、長崎 洋樹[1]、福岡 知也[1]、峰松 侑希[1]、後藤 千恵[1]、横井 彩[1]、松尾 美希[1]、レーダー ロバート[3]、長谷川 菜摘[1]、伊藤 光宏[1,2,3]（1.神戸大・保健学研究科・病態解析学、2.ロックフェラー大・生化学・分子生物学、3.早稲田大・ナノ・ライフ創新研究機構）

[3P-0635（4P2T15-06）] メディエーター複合体による転写終結制御機構

○高橋 秀尚[1]、柴田 美音[1]、瀧川 一学[2]、渡部 昌[1]、築山 忠維[1]、山本 淳一[3]、山口 雄輝[3]、藤井 聡[4]、飯田

©日本分子生物学会/日本生化学会

緑[4]、Amol Ranjan[5]、Shigeo Sato[5]、Chieri Tomomori-Sato[5]、Joan Conaway[5]、Ronald Conaway[5]、畠山 鎮次[1]（1.北大院・医・生化学、2.北大・情報科学、3.東工大・生命理工、4.九工大・情報工学、5.ストワーズ医学研究所）

[3P-0636（4P2T15-07）] iPS細胞から網膜神経節細胞への分化におけるエピジェネティックな放射線影響

○桂 真理[1]、戸澤 英人[1]、南齋 ひろ子[2]、小野 久子[1,3]、田口 明糸[1]、小林 美佳[1]、興梠 貴英[4]、高橋 政代[5]、和田 洋一郎[1,6]、曽根 秀子[2]（1.東大・アイソトープ、2.国環境研・環境リスク健康、3.東大・院医・眼、4.自治医大・メディカルインフォ、5.理研・多細胞システム、6.東大・先端研・システム生物）

[3P-0637（4P2T15-08）] BRCA2とエストロゲン受容体相互作用による生理的役割

○東條 陽[1]、佐藤 亜美[1]、高岡 美帆[1]、中西 啓[1]、三木 義男[1,2]（1.東医歯大・難研・分子遺伝、2.癌研・研・遺伝子診断）

[3P-0638（4P2T15-09）] Single-molecule transcriptome analysis with the CAGEscan method - the case of host-virus chimeric RNAs

○Charles Plessy[1]、Anton Kratz[1]、Kazunori Nagasaka[3]、Sachi Kato[1]、Stephane Poulain[1]、Ophelie Arnaud[1]、Sofia Khan[2]、Martin Frith[2]（1.RIKEN CLST Division of Genomics Technologies、2.AIST AIRC Computational Omics Research Team、3.The University of Tokyo, Graduate School of Medicine, Department of Obstetrics and Gynecology）

[3P-0639] Molecular mechanism of vancomycin tolerance in Staphylococcus aureus is analogous to stringent transcriptional pattern: detected by RNA sequencing

○Madhuri Singh[1]、Miki Matsuo[2]、Takashi Sasaki[3]、Tomomi Hishinuma[2]、Keiichi Hiramatsu[2]（1.School of Environmental Sciences, Jawaharlal Nehru University, India、2.Department of Microbiology, Faculty of Medicine, Juntendo University、3.Animal Research Center, Sapporo Medical University School of Medicine）

[3P-0640] Involvement of YlSnf1p in the control of the hydrophobic substrate utilization and acetyl-CoA production in *Yarrowia lipolytica*

Narisa Poonsub[1]、Prapasiri Jantanee[1]、Hiroyuki Horiuchi[2]、Ryouichi Fukuda[2]、○Napapol Poopanitpan[1]（1.Depart. of Biochem., Facul. of Sci., Kasetsart Univ., Thailand、2.Depart. of Biotech., Univ. of Tokyo）

[3P-0642] 基本転写因子 TFIIDの構成因子 TAF8の天然変性領域の機能解析

○高井 直樹[1]、Ehmed Ekrem [1]、櫻井 堅介[1]、大山 良文[1]、古久保 哲朗[1]（1.横浜市大・生命医）

[3P-0643] インスリン誘導性時計遺伝子とヒト***SIRT1***遺伝子の発現

○塚田 晃子[1]、浅野 公介[1]、山田 一哉[2]（1.松本大・人間健康・健康栄養、2.松本大院・健康科学）

[3P-0644] Wnt/beta-カテニン応答性転写制御における p63 (TP63)とアデノウイルス E1a, E1bオンコプロテインの相互作用

○倉田 俊一[1]、加藤 伊陽子[2]、畑 隆一郎[1]（1.神奈川歯大・口腔難治研、2.山梨大・医学部・医学教育センター）

[3P-0645] 転写因子 Ehfの機能解析

○内田 万紀子[1,2]、中野 信浩[2]、原 むつ子[2]、笠倉 和巳[1,2]、八代 拓也[1]、奥村 康[2]、西山 千春[1,2]（1.東理大・院基礎工・生物工、2.順天堂大・院医・アトピー）

[3P-0646] 新規 ERK基質分子 MCRIP1の生理機能解析

○Jane Weng[1]、中村 貴紀[1]、武川 睦寛[1]（1.東大・医科研・分子シグナル制御分野）

[3P-0647] ウィザフェリン誘導体による生物時計周期の調節の可能性

○冨田 辰之介[1]、Renu Wadhwa[1]、Kaul Sunil[1]、大西 芳秋[1]（1.産総研・バイオメディカル・DAILAB）

[3P-0648] XXVII型コラーゲンα1鎖遺伝子(*Col27a1*)の転写調節機構の解析

○樋田 真理子[1]、佐藤 はるな[1]、佐々木 隆子[1]、吉岡

©日本分子生物学会/日本生化学会

秀克[1]、松尾 哲孝[1]（1.分大・医学・マトリックス医学）

[3P-0649] メダカ生殖腺における RNA新規合成の雌雄差の解析
○山田 一輝[1]、西村 俊哉[1]、田中 実[1]（1.名大・院理・生命理学）

[3P-0650] インスリン誘導性転写因子 SHARP-2 と Sox6 の相互作用解析
○浅野 公介[1]、花岡 由紀奈[2]、塚田 晃子[1]、山田 一哉[2]（1.松本大学・人間健康・健康栄養、2.松本大院・健康科学）

[3P-0651] マウスβ4-ガラクトース転移酵素6遺伝子の転写メカニズムの解析
○川口 沙織[1]、新田 美春[1]、佐藤 武史[1]（1.長岡技科大院・糖鎖生命工学）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 5) RNAプロセシング、輸送、翻訳、非コードRNA（ポスター）

[3P-6-5] 6. ゲノムと遺伝情報-5) RNAプロセシング、輸送、翻訳、非コード RNA

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0652] 古細菌型脂質を用いたヌクレオチドの非酵素的重合
○乾 大介[1]、田村 浩二[1,2]、楳原 琢哉[1]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.東京理科大・総研）

[3P-0653] R3C ligase ribozymeの活性を制御するRNAの創製
○谷澤 佳奈[1]、内田 小百合[1]、栗原 絵梨[1]、楳原 琢哉[1]、田村 浩二[1,2]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.東京理科大・総研）

[3P-0654] 原始 RNAポリメラーゼ創製の試み
○南保 茉帆子[1]、楳原 琢哉[1]、田村 浩二[1,2]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.東京理科大・総研）

[3P-0655] Aeropyrum pernix由来 tRNA結合タンパク質に結合する最小 RNA構造の探求
○和仁 茉李奈[1]、楳原 琢哉[1]、田村 浩二[1,2]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.東京理科大・総研）

[3P-0656] アミノ酸活性化リボザイム KK13の最小化
○相澤 貴一[1]、楳原 琢哉[1]、田村 浩二[1,2]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.東京理科大・総研）

[3P-0657] 大腸菌アラニル tRNA合成酵素に結合するRNAアプタマーの選択
○西 千尋[1]、楳原 琢哉[1]、田村 浩二[1,2]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.東京理科大・総研）

[3P-0658] Nanoarchaerum equitansアラニル tRNA合成酵素による tRNAAlaのアミノアシル化解析
○高橋 弘樹[1,2]、楳原 琢哉[1,2]、田村 浩二[1,2]（1.東京理科大・院理・基礎工、2.東京理科大・総研）

[3P-0659] グアニン四重鎖を足場とした原始アミノアシル tRNAによるペプチド形成の試み
○和田 理志[1]、楳原 琢哉[1]、田村 浩二[1,2]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.東京理科大・総研）

[3P-0660] 分岐鎖ポリアミンは超好熱菌の鞭毛とヒドロゲナーゼの発現に影響を与える
○濱川 匡史[1]、秀瀬 涼太[1]、家森 優佳[1]、加藤 知[2]、藤原 伸介[1]（1.関学大院・理工・生命科学、2.関学大院・理工・物理学）

[3P-0661] 分岐鎖ポリアミンが超好熱菌の RNAポリメラーゼの機能に及ぼす影響
○家森 優佳[1]、濱川 匡史[1]、秀瀬 涼太[1]、跡見 晴幸[2]、藤原 伸介[1]（1.関学大院・理工・生命科学、2.京大院・工・合成生化）

[3P-0662] Unrevealing biological functions of thousands of long non-coding RNAs in human
Chung-Chau Hon[1]、○Jordan Ramilowski[1]、Fantom Consortium[1]、Piero Carninci[1]、Alistair RR Forrest[1,2]（1.RIKEN Center for Life Science Technologies, Division of Genomic Technologies、2.Harry Perkins Institute for Medical Research, Systems Biology and Genomics, Australia ）

[3P-0663] FANTOM6: Functional annotation of long non-coding RNAs in mammals
○Michiel De Hoon[1]、Jay W. Shin[1]、Jordan A. Ramilowski[1]、Chi-Wai Yip[1]、Saumya Agrawal[1]、Chung Chau Hon[1]、Masayoshi Itoh[1,2]、Takeya Kasukawa[1]、Naoto Kondo[1]、Ken Yagi[1]、Harukazu Suzuki[1]、Piero Carninci[1]（1.RIKEN CLST Division of Genomic Technologies、2.RIKEN Preventive Medicine and Diagnosis Innovation Program）

[3P-0664（3AT18-07）] The role of 3D localization of long non-coding RNAs in the nucleus on their function
○SAUMYA AGRAWAL[1]、Jordan Ramilowski[1]、Chung Chau Hon[1]、Chi-Wai Yip[1]、Kayoko Yasuzawa[1]、Masayoshi Ito[1,2]、Takeya Kasukawa[1]、Naoto Kondo[1]、Ken Yagi[1]、Harukazu Suzuki[1]、Christopher Cameron[3]、Josee Dostie[3]、Jay W. Shin[1]、Michiel de Hoon[1]、Piero Carninci[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.Division of Genomic Technologies (DGT), RIKEN Center for Life Science Technologies、2.RIKEN Preventive Medicine and Diagnosis Innovation Program、3.Department of Biochemistry, McGill University, Canada.）

[3P-0665] Functional screening of long non-coding RNA for pluripotency regulation

○Chi-Wai Yip[1]、Chung-Chau Hon[1]、Divya Sivaraman[1]、Kayoko Yasuzawa[1]、Joachim Luginbuehl[1]、Michiel de Hoon[1]、Masayoshi Itoh[1]、Naoto Kondo[1]、Takeya Kasukawa[1]、Harukazu Suzuki[1]、Piero Carninci[1]、Jay W. Shin[1]（1.Center for Life Science Technologies, RIKEN）

[3P-0666] ZENBU-reports: Interactive data visualization for whole genome analyses

○Jessica Severin[1]、Jordan Ramilowski[1]、Masayoshi Itoh[1,2]、Takeya Kasukawa[1]、Kondo Naoto[1]、Ken Yagi[1]、Harukazu Suzuki[1]、Jay W Shin[1]、Michiel de Hoon[1]、Piero Carninci[1]（1.RIKEN Center for Life Science Technologies(CLST)(DGT)、2.RIKEN PMI）

[3P-0667] 内在性インターフェロン-α1アンチセンスRNAはネットワークを形成し、 miR-1270に拮抗するアクセシビリティの高い ceRNAとして機能する

○吉田 徳之[1]、蒋 時文[1]、坂本 凌[1]、尾川原 彩[1]、近藤 芽衣[1]、道渕 真史[1]、木村 富紀[1]（1.立命館大・薬・病原微生物）

[3P-0668] ヒト乳がん細胞増殖に関わる EphA2遺伝子発現に対する Active Hexose Correlated Compoundの効果検討

○坂本 凌[1]、吉田 徳之[1]、木村 富紀[1]（1.立命館大・薬）

[3P-0669（4P1T18-12）] UAP56と URH49による選択的mRNA輸送制御を決定づける分子機構の解明

○藤田 賢一[1]、入江 みどり[1]、原田 光太郎[1]、伊藤 慶紗[1]、引間 孝明[4]、小島 正樹[3]、三上 文三[2]、増田 誠司[1]（1.京大院・生命科学、2.京大院・応用生命、3.東薬大・生命科学、4.理研）

[3P-0670] 選択的 mRNA核外輸送体 URH49の新規相互作用因子の同定

○原田 光太郎[1]、藤田 賢一[1]、増田 誠司[1]（1.京大・生命科学研究科）

[3P-0671] non-coding RNAによる Selenoportein P翻訳抑制メカニズムの解析

○三田 雄一郎[1,2]、斎藤 芳郎[1]、内田 理沙[1]、安原 小百合[1]、横大路 将[1]、野口 範子[1]（1.同志社大学 生命医科学部 システム生命科学、2.宮崎大学 医学部 神経呼吸内分泌代謝学）

[3P-0672] 糖尿病関連タンパク質 Selenoprotein Pの翻訳を抑制する内在性 long non-coding RNAの発現変化

○内田 理沙[1]、三田 雄一郎[1,2]、横大路 将[1]、安原 小百合[1]、斎藤 芳郎[1]、野口 範子[1]（1.同志社大・院生命医・システム生命科学、2.宮崎大・医・神経呼吸内分泌代謝学）

[3P-0673（3AT18-01）] RNA顆粒の液相・固相様サブ構造は異なる RNA顆粒因子によって形成される

○椎名 伸之[1,2,3]（1.自然科学研究機構・岡崎統合バイオ、2.基礎生物学研究所、3.総研大）

[3P-0674（3AT18-02）] 環状 RNA（ circRNA）の核外輸送機構の解明

○芳本 玲[1]、谷口 一郎[2]、大野 睦人[2]、前田 明[1]（1.藤田保衛大・総合医科学研・遺伝子発現機構学、2.京都大・ウイルス再生医科学研・生命システム研究）

[3P-0675（3AT18-03）] 低酸素下において HIF1に制御され細胞死を抑制する新規lncRNAの同定

○三村 維真理[1]、平川 陽亮[1]、神吉 康晴[2]、鈴木 穣[3]、田中 哲洋[1]、油谷 浩幸[4]、南学 正臣[1]（1.東大・医学部附属病院・腎臓・内分泌内科、2.東大・アイソトープセンター、3.東大・新領域・創成科、4.東大・先端研・ゲノムサイエンス）

[3P-0676（3AT18-04）] ヒト紡錘体形成を制御する新規lncRNAの同定

○白土 玄[1]、芦川 朋子[1]、吉場 聡子[1]、豊田 敦[2]、藤山 秋佐夫[3]、北川 大樹[1]（1.遺伝研・分子遺伝、2.遺伝研・生命情報、3.遺伝研・先端ゲノ

©日本分子生物学会/日本生化学会

ミクス）

[3P-0677（3AT18-05）] 長鎖非コード RNA, MALAT1を含有する新規核内構造体を介した熱ショック応答機構の解明
○小野口(水谷) 玲菜[1]、鈴木 穣[2]、川村 猛[1]、秋光 信佳[1]
（1.東大・アイソトープ総合センター、2.東大院・創域）

[3P-0678（3AT18-06）] 機能未知な新規 lncRNAを介した新たな心腎連関分子機序の解明
○熊澤 拓也[1]、中川 仁[1]、尾上 健児[1]、中田 康紀[1]、中野 知哉[1]、斎藤 能彦[1]（1.奈良医大・医・第一内科）

[3P-0679（3AT18-08）] The hpRNA/RNAi pathway resolves intragenomic conflict to preserve balanced sex ratio
○Ching-Jung Lin[1,2]、Fuqu Hu[1]、Raphaelle Dubruille[3]、Jiayu Wen[1]、Peter Smibert[1]、Benjamin Loppin[3]、Eric C. Lai[1]（1.Dept. of Dev. Biol., Sloan-Kettering Institute、2.Weill Grad. Sch. of Med. Sci., Cornell Univ.、3.Lab. de Biometrie et Biologie Evolutive., Univ. Claude Bernard Lyon I）

[3P-0680（3AT18-09）] 肝臓における miRNAを介した新規 HNF4αネットワークの解明
○秋山 萌[1]、守本 葵[1]、神成 真名[1]、土田 雄一[1]、松田 強志[1]、齊藤 千夏[1]、佐々木 翔太[1]、前田 つかさ[1]、阪口 政清[2]、Frank Gonzalez[3]、井上 裕介[1]（1.群大・院理工、2.岡山大・院総合医歯薬、3.米国NIH）

[3P-0681（3AT18-10）] シロイヌナズナ Dicer-Like 1による miRNA前駆体切断機構の解析
○平田 梨佳子[1]、真壁 智哉[1]、三柴 啓一郎[1]、小泉 望[1]、Samir Hamdan[2]、岩田 雄二[1]（1.大阪府大・生命環境、2.King Abdullah University of Science and Technology）

[3P-0682（3AT18-11）] MiR-142は small GTPase 介した好中球細胞骨格制御による黄色ブドウ球菌感染創の改善に必須である
○森 亮一[1]（1.長大・医・病理学）

[3P-0683（3AT18-12）] カイコ培養細胞において持続感染している昆虫マキュラウイルスに由来する piRNAの性状
○庄司 佳祐[1]、泉 奈津子[3]、鈴木 穣[4]、泊 幸秀[3,4]、岩永 将司[1]、勝間 進[2]（1.宇大・院農、2.東大・院農・生産環境生物学、3.東大・分生研、4.東大・院新領域・メディカル情報生命）

[3P-0684（3AT18-13）] ミトコンドリア外膜に局在する piRNA生合成因子 GasZの機能解析
○山城 はるな[1]、石津 大嗣[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

[3P-0685（3AT18-14）] primary piRNA生合成における RNAヘリカーゼ Armitageの機能解析
○木下 達貴[1]、石津 大嗣[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

[3P-0686（3AT18-15）] PAPIリン酸化修飾による piRNA成熟化制御機構の解明
○山田 紘実[1]、西田 知訓[1]、榊原 和洋[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

[3P-0687（4P1T18-01）] ALKBH1による哺乳類 tRNAの5-formylcytidine修飾生合成
○川原田 礼以良[1]、鈴木 健夫[1]、鈴木 勉[1]（1.東大・院工・化生）

[3P-0688（4P1T18-02）] 真核生物 tRNAメチル化酵素 Trm7-Trm734複合体の活性発現メカニズムの構造基盤
○平田 章[1]、岡田 圭祐[1]、吉井 一晃[1]、白石 裕之[1]、西條 慎也[2]、米澤 健人[2]、清水 伸隆[2]、堀 弘幸[1]（1.愛媛大・院理工・物質生命、2.高エネ機構・物構研・放射光）

[3P-0689（4P1T18-03）] ヒト骨格筋特異的な Alu配列エキソン化の制御における A-to-I RNAエディティングの機能と生理的意義
○野田 悠太[1]、岡田 俊平[1]、矢野

©日本分子生物学会/日本生化学会

孝紀[1]、鈴木 勉[1]（1.東大・院工・化学生命）

[3P-0690（4P1T18-04）] TERTによる RNA合成とRNA編集との相互作用に関する検討

○毎田 佳子[1]、櫻井 雅之[2]、城本 悠助[2]、安川 麻美[1]、Marco Ghilotti[1]、有吉 健太郎[3]、西倉 和子[2]、増富 健吉[1]（1.国がん・研・がん幹細胞、2.米・ウィスター研究所、3.弘前大・被ばく医研・放射線生物学）

[3P-0691（4P1T18-05）] 出芽酵母における各isodecoder tRNAの絶対定量

○永井 陽久[1]、森 滉平[1]、吉久 徹[1]（1.兵庫県立大・院・生命理学）

[3P-0692（4P1T18-06）] 脱ユビキチン化酵素 USP10が機能する新規 mRNAポリ A鎖制御機構

○細田 直[1]、福島 真[1]、名和 優紀子[1]、星野 真一[1]（1.名市大・院薬）

[3P-0693（4P1T18-07）] ポリ C結合蛋白質によるSortilinの転写後発現制御機構

○和田 俊樹[1]、松葉 慎太郎[1]、小内 伸幸[1]（1.金沢医大・医・免疫学）

[3P-0694（4P1T18-08）] The role of the catalytic subunits of CCR4-NOT complex in mRNA deadenylation and cell viability

○Dina Mostafa[1]、Akinori Takahashi[1]、Kureha Taku[1]、Toru Suzuki[2]、Tadashi Yamamoto[1,2]（1.OIST Graduate University、2.RIKEN Center of Integrative Medical Sciences）

[3P-0695] 大腸菌リボソーム50Sサブユニット生合成のlate-stepにおける bL6の寄与

○阿部 綾乃[1]、伊藤 美穂[1]、田中 淳也[1]、内海 利男[2]、野村 隆臣[1]（1.信大・繊維・応用生物、2.新大・理・生物）

[3P-0697（4P1T18-11）] RNA結合タンパク質のMAPK依存的なリン酸化の役割 ～ RNA結合能と細胞内局在の二重制御～

○佐藤 亮介[1]、萩原 加奈子[1]、深尾 亜喜良[1]、藤原 俊伸[1]、平井 晋哉[2]、谷 時雄[2]、高崎 輝恒[1]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大・薬、2.熊本大学・自然科学）

[3P-0698（4P1T18-13）] RNA結合タンパク質 FUSはRNA細胞内局在とその局所的翻訳を阻害する

○安田 恭大[1]、ミリ スタブルーラ[1]（1.National Institutes of Health）

[3P-0699] The biogenesis pathway of tRNA-derived piRNAs

Shozo Honda[1]、Takuya Kawamura[1]、Phillipe Loher[1]、Keisuke Morichika[1]、Megumi Shigematsu[1]、Isidore Rigoutsos[1]、○Yohei Kirino[1]（1.Computational Medicine Center, Sidney Kimmel Medical College, Thomas Jefferson University）

[3P-0701] TLSのメチル化は非コード RNAとの結合を抑制し、 p300/CBPの HAT活性を制御する

○崔 巍[1]、米田 竜馬[1]、上田 奈緒美[1]、黒川 理樹[1]（1.埼玉医科大学 ゲノム医学研究センター 遺伝子構造機能部門）

ポスター発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | 6) その他（ポスター）

[3P-6-6] 6. ゲノムと遺伝情報-6) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0702（3PT18-15）] Peg10のプロテアーゼ変異は後期胎盤の形成異常ならびに出生前後致死を引き起こす

○志浦 寛相[1]、小野 竜一[2]、立花 沙織[1]、田中 希弥[1]、金児一石野 知子[3]、石野 史敏[1]（1.東京医歯大・難研、2.国立医薬品食品衛生研究所、3.東海大・健康科学）

[3P-0703（4P1T18-14）] LINE-1 ORF2タンパク質の一本鎖 DNA切断活性

○中村 光宏[1]、Huira Kopera[1]、John Moran[1,2]（1.ミシガン大・医・ヒト遺伝学、2.ミシガン大・医・内科）

[3P-0704（4P1T18-15）] シロイヌナズナ CCR4-NOTを構成する脱アデニル化酵素の同定と標的認識に関わるRNA結合タンパク質の機能解析

○荒江 星拓[1]、森田 琴音[2]、鈴木

©日本分子生物学会/日本生化学会

悠也[1]、千葉 由佳子[1,3,4]（1.北大院・生命、2.北大・理、3.北大院・理、4.JST・さきがけ）

[3P-0705] Function analysis of the *fust-1* gene, in embryogenesis, using RNA-Seq
○Key Tanaka[1]、Hisao Kojima[2]、Masahiro Ito[2]（1.Dept. of Bioinfo., Grad. Sch. of Life Sci., Ritsumeikan Univ.、2.Dept. of Bioinfo., Col. of Life Sci., Ritsumeikan Univ.）

[3P-0706] Nucleotide sequence analysis of mitochondrial DNA Hypervariable region-II and inter HVR in Thais
○Padchanee Sangthong[2]、Punlop Thongngam[1]、Worraanong Leewattanapasuk[2]、Tanin BhoopatBhoopat[3]（1.Interdisciplinary Program in Forensic Science, Graduate School, Chiang Mai University, Thailand、2.Division of Biochemistry and Biochemical Technology, Department of Chemistry, Faculty of Science, Chiang Mai University, Thailand、3.Department of Forensic Medicine, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand）

[3P-0707] ハト scale ケラチン遺伝子群の解析
○高橋 理恵子[1]（1.城西大・理学・化学）

[3P-0708] 超微小土壌細菌の分泌酵素解析と全ゲノム解析
○堀内 希恵[1]、山中 茂[2]、志田 敏夫[1]（1.信州大・院繊・応生、2.信州大）

[3P-0709] NaClは枯草菌マクロコロニー形成を促進し、YfjD/E/Fはそれに必要である
○小倉 光雄[1]（1.東海大・海洋研）

[3P-0710] 身体的特徴と相関する CNVのスクリーニング―簡便な CNV型判定法の開発―
○飯田 礼子[1]、安田 年博[2]、植木 美鈴[2]、竹下 治男[3]、藤原 純子[3]、木村 かおり[3]（1.福井大・医・生命基礎科学、2.福井大・医・病態遺伝生化学、3.島根大・医・法医学）

[3P-0711] Anisomycin によって誘導される miRNA の同定及び機能解析
○舩越 美佳[1]、牛島 弘雅[1]、藤本 康之[1]（1.岩手医大・薬・分子生物）

[3P-0712] PC3由来エクソソームが誘導する細胞増殖関連遺伝子の発現解析
○大森 綾美[1]、石木 江梨奈[1]、牛島 弘雅[1]、藤本 康之[1]（1.岩手医大・薬・分子生物）

[3P-0713] ギフチョウ属の食草選択に関わる遺伝子の同定
○北川 浩子[1]（1.城西大・理・化）

[3P-0714] カルパイン10"cDNA"は転写後"splicing"を受け、予想外の産物を発現する
○小野 弥子[1]、進藤 真由美[2]、土井 奈穂子[1]、反町 洋之[1]（1.都・医学研・カルパインプロジェクト、2.都・医学研・基盤技術センター）

[3P-0715] マウス ES細胞における*Zscan4*の脱抑制とRif1依存的なクロマチン構造変化の解析
○吉沢 直子[1]、正井 久雄[1]（1.東京都医学研・ゲノム医科学・ゲノム動態）

[3P-0716] 川上犬における体の大きさ、毛色、毛長に関する遺伝子多型と表現型との関係
○小黒（岡野） 美枝子[1,2]、岡野 桂樹[2]（1.ヤマザキ学園大・動物看護、2.秋田県立大学・生物資源科学）

[3P-0717] 大腸菌天然株における気相–固相バイオフィルム培養による persister cell形成促進効果
○小宮山 瑶子[1]、蘇 夢露[2]、管 希実[2]、前田 純夫[1,2]（1.奈良女大・院・食物、2.奈良女大・生活環境）

[3P-0718] 大腸菌における persister cell形成への各種培養条件の影響
○鈴木 江梨果[1]、小宮山 瑶子[1]、宮上 沙貴[1]、前田 純夫[1]（1.奈良女大・院・食物）

[3P-0719] 核局在性 RNA結合タンパク質 NONOの細胞内局在制御機構と細胞質性顆粒形成機構の解析
○古川 真理[1]、井上 邦夫[1]（1.神大・院理・生物学）

[3P-0720] Cre/*lox*システムを用いた高度好熱菌 *Thermus thermophilus* HB27のマーカーレス多重遺伝子破壊法の開発
○外川 陽一郎[1]、布柴 達男[2]、平津 圭一郎[1]（1.防衛大・理工研・応化、2.国基大・教養）

[3P-0721] Genomic rDNA-ITS領域をターゲットにしたイカ類の一括検出法
○手島 ひかる[1]、嶋倉 邦嘉[1]、黒瀬 光一[1]（1.海洋大・院・食機能）

[3P-0722] RNA-seqによるニホンウズラ Mhcクラス IIB遺伝子座の多様性解析
○朝治 桜子[1,2]、石毛 太一郎[3]、鈴木 進悟[4]、細道 一善[5]、椎名 隆[4]、原 ひろみ[1]、平野 貴[1]、半澤 惠[1]（1.東農大・農学、2.ジェノダイブファーマ株式会社、3.東農大・生物資源ゲノム解析センター、4.東海大・医学、5.沢大院・医学）

[3P-0723] ヒト胚ゲノム編集による「デザイナー・ベビー」及びヒト iPS/ES細胞からの生殖細胞による「同性間の実子」？
○和田 幹彦[1]（1.法政大・法・法律学）

[3P-0724] RNA結合タンパク質 HuRによる mRNA安定性制御機構の解析

©日本分子生物学会/日本生化学会

○小倉 瑶子[1]、谷 英典[2]、鍛冶 利幸[3]、鈴木 穣[4]、秋光 信佳[1] （1.東大・アイソトープ総合センター、2.産総研、3.東理大・薬学科、4.東大院・創域）

[3P-0725] RNA結合タンパク質機能の包括的な解析

○山田 俊理[1]、今村 亮俊[2]、鈴木 穣[3]、長浜 正巳[1]、秋光 信佳[4] （1.明薬、2.千葉・院薬、3.東大・新領域、4.東大・アイソトープ）

[3P-0726] 撹拌操作が引き起こすゲノム DNAの二本鎖切断：新規実験手法の提案

○菊池 駿斗[1]、吉川 祐子[1]、窪田 倫子[1]、吉川 研一[1] （1.同志社大・生命医・生命物理科学）

[3P-0727] マルチオミクス解析による一時的社会寄生種であるトゲアリ （ Polyrhachis lamellidens）が行う馬乗り行動についての役割の解明

○岩井 碩慶[1,2]、河野 暢明[1,3]、吉田 祐貴[1,3]、冨田 勝[1,3]、堀川 大樹[1,3]、荒川 和晴[1,3] （1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報、3.慶大院・政策メディア・先端生命）

[3P-0728] 染色体置換系統の利用によるカイコの家畜化過程で生じた変異形質の解析

浜川 智樹[1]、田中 さおり[2]、門野 敬子[3]、小林 徹也[3]、冨田 秀一郎[3]、藤井 告[4]、伴野 豊[4]、○小林 淳[1,2] （1.山口大・農、2.山口大・院創成・農、3.生物機能・農研機構、4.九州大・院農）

[3P-0729] ショウジョウバエ血球細胞の個体間移植方法の開発

○森田 いずみ[1]、山川 智子[1]、松野 健治[1] （1.大阪大・院理・生命科学）

[3P-0730] カイコにおける核多角体病ウイルスの重感染排除の観察, および原因因子の探索

○諸熊 大輔[1]、門 宏明[2]、佐藤 昌直[3]、李 在萬[2]、伴戸 久徳[3]、日下部 宜宏[2] （1.九大・生資環、2.九大・院農、3.北大・院農）

[3P-0731] 心筋症のエクソーム解析による原因変異探索

○多久和 綾子[1,2]、川上 知紗[1]、木岡 秀隆[1]、山田 憲明[1]、宮下 洋平[1]、四宮 春輝[1]、伯井 秀行[1]、世良 英子[1]、大谷 朋仁[1]、山口 修[1]、澤 芳樹[3]、高島 成二[2]、朝野 裕仁[1]、坂田 泰史[1] （1.大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学、2.大阪大学大学院医学系研究科医化学、3.大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科学）

[3P-0732] 遺伝子再構成を検索できる PCR法（ Gene rearrangement-detecting PCR、 GRAND PCR）の考案

○大山 雄二[1] （1.相模女子大学 栄養科学部 健康栄養学科 食品学第一研究室）

[3P-7-1] 7. 発生・再生-1) 生殖細胞、受精

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0733] 鳥類始原生殖細胞における DAZLの機能解析

○正木 陽登[1]、江崎 僚[1]、古澤 修一[1]、堀内 浩幸[1] （1.広島大学 学術院生物・生命科学分野 大学院生物圏科学研究科）

[3P-0734] ゲノム編集技術を用いた鳥類性決定機構に関する研究

○岡座 悠輝[1]、江崎 僚[1]、古澤 修一[1]、堀内 浩幸[1] （1.広島大学 学術院生物・生命科学分野 大学院生物圏科学研究科）

[3P-0735] マウス卵胞培養過程で生じる細胞死を指標とした評価基準の作成

○藤村 雪乃[1]、野老 美紀子[1,2]、八尾 竜馬[1,3]、山縣 一夫[1]、細井 美彦[1] （1.近大・生物理工、2.浅田レディース・生殖医研、3.扶桑薬品・研開）

[3P-0736] 活性酸素種(ROS)の可視化によるマウス卵胞培養の評価基準作成にむけた検討

○植村 碧[1]、藤村 雪乃[1]、石灰 勇也[1]、玉置 幸嵩[1]、野老 美紀子[1,2]、八尾 竜馬[1,3]、山縣 一夫[1]、細井 美彦[1] （1.近大・生物理工、2.浅田レディース・生殖医研、3.扶桑薬品 研開）

[3P-0737（3PT11-01）] 新規の減数分裂誘導因子の同定

○石黒 啓一郎[1] （1.熊大・発生医・染色体制御）

[3P-0738（3PT11-02）] foxl3制御から見えた、生殖細胞の性決定機構について

○菊地 真理子[1]、津田 弥与[1]、齋藤 大助[2]、重信 秀治[3]、須山 幹太[2]、西村 俊哉[1]、田中 実[1] （1.名大・理・生命理学、2.九大・生体防御・情報生物学、3.基生研・生物機能情報分析室）

[3P-0739（3PT11-03）] *Mamld1*遺伝子欠損は精巣サイズ減少と一日精子産生数減少を招く

○宮戸 真美[1]、吉田 薫[2]、宮戸 健二[3]、勝見 桃理[1,4]、齊藤 和毅[1,5]、中村 繁[1,6]、緒方 勤[1,7]、深見 真紀[1] （1.国立成育医療研究セ・分子内分泌、2.桐蔭大・医用工・生命医工、3.国立成育医療研究セ・生殖・細胞医療、4.東医歯大・院医歯・NCCHD成育医学、5.東医歯大・院医歯・生殖機能協関学、6.自医大・小児泌尿器科、7.浜医

©日本分子生物学会/日本生化学会

大・小児科）

[3P-0740（3PT11-04）] テロメラーゼの酵素活性非依存的な機能は精子幹細胞の自己複製に必要である

○長谷川 和輝[1]、Alina Garbuzov[1]、Shengda Lin[1]、Matthew Pech[1]、Steven Artandi[1]（1.スタンフォード大学 医学部）

[3P-0741（3PT11-05）] マウス受精過程における精子染色体の極体放出防止機構

○Masashi Mori[1,2]、八尾 竜馬[4]、山縣 一夫[3]、北島 智也[1]、伊川 正人[2]（1.理研・CDB・染色体分配、2.阪大・微研・遺伝子機能、3.近畿大・生物理工学・遺伝子工学、4.扶桑薬品・研究開発センター）

[3P-0742（3PT11-06）] 生殖細胞性遺伝子 vasaの発現に関わる母性因子 Mamoを中心とした遺伝子発現制御ネットワーク

○中村 翔一[1]、宮形 奈沙[2]、辻 拓真[2]、小西 紀子[3]、星 克哉[3]、平 誠司[4]、小林 悟[5]、向 正則[3]（1.甲南・自然科学・生命機能、2.甲南・自然科学・生物学、3.甲南・理工・生物、4.基生研、5.筑波・TARA）

[3P-0743（3PT11-07）] 精子形成における mRNAポリA鎖による転写後制御の解析

○柳谷 朗子[1]、高橋 明格[1]、Nahum Sonenberg[2]、山本 雅[1]（1.沖縄科学技術大学院大学、2.マギル大学）

[3P-0744（3PT11-09）] 白血球阻止因子(LIF)による胚の着床誘導機序についての検討

○平岡 毅大[1]、廣田 泰[1]、藤田 知子[1]、田中 智基[1]、赤枝 俊[1]、伊賀上 翔太[1]、大須賀 穣[1]、藤井 知行[1]（1.東大・院医・産婦人科学）

[3P-0745（3PT11-10）] 始原生殖細胞形成過程におけるエピゲノムリモデリングの動態

○栗本 一基[1]、藪田 幸宏[1]、大田 浩[1]、白根 健次郎[2]、林 克彦[3]、三谷 忠宏[1]、木村 宏[4]、山本 拓也[5]、白髭 克彦[6]、佐々木 裕之[2]、斎藤 通紀[1]（1.京大・院・医、2.九大・生医研、3.九大・院・医、4.東工大・生命理工、5.京大・CiRA、6.東大・分生研）

[3P-0746（3PT11-11）] ユビキチンリガーゼβ-TrCPによるオス生殖細胞の減数分裂開始制御

○中川 直[1]、中野 星児[1]、久志 瞭[1]、中山 啓子[1]（1.東北大・医・細胞増殖制御）

[3P-0747（3PT11-12）] カイコ*Sex-lethal*ホモログは、異型精子の一種である無核精子の形成に必須である

○酒井 弘貴[1,2]、大島 宏之[3]、由利 昂大[4]、後藤 寛貴[3]、大門 高明[5]、柳沼 利信[3]、佐原 健[4]、新美 輝幸[1,3,6]（1.基生研・進化発生、2.学振特別研究員、3.名大・院生命農、4.岩大・農、5.京大・院農、6.総研大・生命科学）

[3P-0748（3PT11-13）] ショウジョウバエ種の管状受精嚢の多様性をもたらす形態形成過程の差違

○野口 立彦[1]（1.防衛医科大学校）

[3P-0749（3PT11-14）] 生殖細胞特異的 NANOS2-DND1経路の体細胞における再構成

○平野 孝昌[1]、村岡 正文[1]、相賀 裕美子[1]（1.国立遺伝学研究所 発生工学研究室）

[3P-0750（3PT11-15）] マウス受精卵における前核形成開始時間制御の分子機構とその生理的意義

○添田 翔[1]、大杉 美穂[2]（1.沖縄科学技術大学院大学 細胞シグナルユニット、2.東京大学総合文化研究科）

[3P-0751] Analysis of the structural basis governing RNA-binding protein functions in mouse germ cells

○Danelle Wright[1]、Takamasa Hirano[2]、Atsushi Suzuki[3]、Yumiko Saga[1,2]（1.Dept. of Genetics, SOKENDAI、2.Mammalian Development, Nat. Institute of Genetics、3.F. of Engineering, Yokohama Nat. Univ.）

[3P-0752] ELISA法によるヒトデ生殖腺刺激ホルモン、リラキシン様生殖腺刺激ペプチド(RGP)の定量

○三田 雅敏[1]、片山 秀和[2]（1.東学大・教育・生命、2.東海大・工学・応用生化）

©日本分子生物学会/日本生化学会

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 2) 初期発生、器官形成、形態形成（ポスター）

[3P-7-2] 7. 発生・再生-2) 初期発生、器官形成、形態形成

13:15 〜 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0753（2PW10-4）] ヘテロモザイシズム： de novo BMPタイプ I受容体変異が及ぼすショウジョウバエ BMPモルフォゲン勾配形成への影響
○秋山 琢也[1]、Matthew Gibson[1]（1.ストワーズ医学研究所）

[3P-0754（4LT12-03）] 血管新生の素過程としての単一内皮細胞動態の解析
○礪波 一夫[1]、金井 政宏[2,3]、牛島 俊征[1]、内島 泰信[1]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学、2.東大・院理・数理科学、3.久工大・工・教育）

[3P-0755（4LT12-05）] 血管新生における内皮細胞の協調運動を担う VE-カドヘリンとアクチンファイバーの相互調節機構
○牛島 俊征[1]、礪波 一夫[1]、内島 泰信[1]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学）

[3P-0756（4P1T12-14）] 葉形成に関わる epigenetic因子AS2の核顆粒と核への局在における zn-finger-様 motifの領域の役割
○町田 泰則[1]、小島 晶子[2]、Lilan Luo[1]、安藤 小百合[2]、町田 千代子[2]（1.名大・理・生命、2.中部大・応用生物）

[3P-0757] エピジェネテック因子 AS1-AS2による CDK inhibitorの抑制制御は葉の向背軸分化と細胞分裂に重要である
○町田 千代子[1]、中川 彩美[1]、Simon Vial-Pradel[1]、高橋 広夫[2]、西本 珠美[1]、町田 泰則[3]、小島 晶子[1]（1.中部大学大学院 応用生物学研究科、2.千葉大学大学院 園芸学研究科、3.名古屋大学大学院 理学研究科）

[3P-0758] シロイヌナズナの葉の形成では AS1-AS2-ETT経路がサイトカイニン合成を制御する
○小島 晶子[1]、西本 珠美[1]、香田 佳那[1]、石橋 奈々子[2]、高橋 広夫[3]、小嶋 美紀子[4]、榊原 均[4,5]、町田 泰則[2]、町田 千代子[1]（1.中部大・院応用生物、2.名大・院理・生命理、3.千葉大・院園芸、4.理研CSRS、5.名大・院生命農）

[3P-0759（4LT12-01）] 小胞輸送アダプター NUMB/NUMBLは、 ERBB2の分解を促進することにより、細胞周期の休止期に導く
○平井 希俊[1,2]、有田 陽[2]、Sylvia Evans[2]（1.関西医大・薬理、2.SSPPS, UCSD）

[3P-0760（4LT12-02）] 咽頭弓および未分節中胚葉における*Hey1*遺伝子の発現は遠位エンハンサーにより制御される
○渡邉 裕介[1,2]、石井 修平[1,2]、深山 俊治[1]、上本 泰生[1,2]、井原 大[1,3]、西谷 友重[1]、荒井 勇二[4]、中川 修[1,2]（1.国循・研究所・分子生理、2.奈良医大・院医、3.立命館・院・生命科学、4.国循・研究所・動物実験管理）

[3P-0761（4LT12-04）] 血管内皮細胞におけるアクチン構造体の動態
○Li-Kun Phng[1]、Holger Gerhardt[2]（1.理研・CDB、2.Max-Delbruck Center ）

[3P-0762（4LT12-06）] 間充織細胞の極性化によるマウス気管形成の制御
○岸本 圭史[1]、森本 充[1]（1.理研CDB・呼吸器形成研究チーム）

[3P-0763（4LT12-07）] Wntシグナルによる頂端膜収縮の調節は肺分岐構造と肺胞形成を制御する
○麓 勝己[1]、今村 寿子[2]、菊池 章[1]（1.阪大院・医・分子病態生化学、2.九大院・医・基礎医学部門）

[3P-0764（4LT12-08）] EGF-ERK/MAPKシグナルの反復リレーによる上皮の陥入
○小椋 陽介[1]、Fu-Lai Wen[2]、Mustafa Sami[1]、柴田 達夫[2]、林 茂生[1]（1.理研・ CDB・形態形成シグナル研究チーム、2.理研・QBiC・フィジカルバイオロジー研究チーム）

[3P-0765（4LT12-09）] 生体内管状組織における周期的な自己組織化アクチンネットワーク形成の観察
○関根 清薫[1]、林 茂生[1]（1.理研・CDB）

[3P-0766（4P1T12-01）] ニワトリ胚頚髄運動神経で観察されるアポトーシスは Hox発現パターンに依存して実行される

©日本分子生物学会/日本生化学会

○向笠 勝貴[1]、佐久間 千恵[1]、八木沼 洋行[1]（1.福島医大・医・神経解剖発生学）

[3P-0767（4P1T12-02）] SOX2による消化管前部における領域性の決定機構

○寺元 万智子[1]、菅原 諒[1]、黒岩 厚[3]、石井 泰雄[2]、近藤 寿人[1]（1.京産大・総合生命科学部、2.東京女子医科大学・医学部、3.名大大学院・理学部）

[3P-0768（4P1T12-03）] 淡水産巻貝 Lymnaea stagnalis 初期胚の分化はいつから始まるのか？

○黒田 玲子[1]、高梨 恭平[1]、高橋 厚弥[1]、故　升島 努[2]、江崎 剛史[3]、阿部 真典[1]（1.東京理科大・総研、2.理研生命システム研究センター、3.医薬基盤・健康・栄養研究所）

[3P-0769（4P1T12-04）] リン脂質フリッパーゼ ATP11Aの骨格筋における役割

○奥田 雅貴[1]、土谷 正樹[1]、長尾 耕治郎[1]、原 雄二[1,2]、梅田 眞郷[1]（1.京大・院工・合成・生物化学、2.AMED PRIME）

[3P-0770（4P1T12-05）] BMPアンタゴニスト Cerberusの新たな役割と N-acetylヘパラン硫酸

○山元 孝佳[1]、平良 眞規[1]（1.東大・院理・生物科学・分子生物）

[3P-0771（4P1T12-06）] ゼブラフィッシュの内胚葉細胞分化において、 Smad非依存的な Nodal-JNKシグナルにより制御される核の移動が Nodal-Smad2シグナル伝達を促進する

○穂積 俊矢[1]、青木 駿[1]、菊池 裕[1]（1.広大・院理・生物科学）

[3P-0772（4P1T12-07）] GPR17によるソニックヘッジホッグシグナルの負のフィードバック制御機構が与える神経管パターン形成への影響

○八塚 敦輝[1]、西 晶子[1]、笹井 紀明[1]（1.奈良先端大・バイオ）

[3P-0773（4P1T12-08）] ショウジョウバエ初期胚の同期的な形態形成には Numbによる Notchシグナルの抑制が必要である

○桑名 悟史[1]、松本 顕治郎[3]、具志堅 拓磨[1]、Martin Baron[2]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.マンチェスター大・生命科学、3.ジョージア大・Complex Carbohydrate研究所）

[3P-0774（4P1T12-09）] 一細胞レベルの蛍光イメージングによる分節時計遺伝子 Hes7の発現振動位相調節機構の解析

○小林 久美子[1]、新野 祐介[2]、宮脇 敦史[2,3]、影山 龍一郎[1]（1.京都大学ウイルス・再生医科学研究所、2.理化学研究所 脳科学総合研究センター 細胞機能探索技術開発チーム、3.理化学研究所 光量子工学研究領域 生命光学技術研究チーム）

[3P-0775（4P1T12-10）] Importin13は、着床期マウス胚の発生に必須である

○田中 聡[1]、山口 泰華[1,3]、Patrick Tam[2]（1.熊保大、2.CMRI, Australia、3.学振・特別研究員）

[3P-0776（4P1T12-11）] 体外受精胚の遺伝子発現制御

○幸田 尚[1]、川井 清考[1,2]、石川 智則[2]、久保田 俊郎[2]、宮坂 尚幸[2]、石野 史敏[1]（1.東京医歯大・難治研・エピジェネティクス、2.東京医歯大・医歯学総合・生殖機能協関学）

[3P-0777（4P1T12-12）] マウス着床前胚のエピブラストは Tead/Yap活性依存的な選択的細胞死を経て多能性を均質化させる

○橋本 昌和[1]、竹之下 憂祐[1]、百合 祐樹[1]、佐々木 洋[1]（1.阪大・生命機能・初期胚発生）

[3P-0778（4P1T12-13）] 細胞ターンオーバーを介した発生ロバストネス機構の遺伝学的解析

○乾 由希子[1]、大澤 志津江[1]、井垣 達吏[1]（1.京大院・生命・システム機能学）

[3P-0779] Neural specific kinase promotes early neural

©日本分子生物学会/日本生化学会

development in *Xenopus* embryos
○Regina Virgirinia[1]、Nusrat Jahan[1]、Maya Okada[1]、Kimiko Takebayashi-Suzuki[1]、Hitoshi Yoshida[1]、Hajime Akao[1]、Fatchiyah Fatchiyah[2]、Naoto Ueno[3]、Atsushi Suzuki[1]（1.Amphibian Research Center, Grad. Sch. of Sci., Hiroshima Univ.、2.Dept. of Biol., Fac. of Sci., Brawijaya Univ., Indonesia、3.Div. of Morphogenesis）

[3P-0780] Thyroid Hormone Signaling Upregulates Two IGF Ligands to Maintain Zebrafish Fin Regenerative Outgrowth
○INDRIYA RACHMAWATI[1]、Kentaro Hirose[2]、Yutaka Kikuchi[1]（1.Dep. Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Hiroshima Univ.、2.Dep. of Physiol., CVRI., Univ. of California., San Francisco）

[3P-0781] AP-1 family遺伝子による尾部幹細胞領域と組織再生の制御機構
○中村 誠[1]、吉田 和史[1,2]、岡田 麻耶[1]、竹林 公子[1]、鈴木 厚[1]（1.広島大両生類研究センター・院理・生物科学、2.ウッズホール海洋生物学研究所）

[3P-0782] β-セクレターゼの欠損は GHRH receptorを介した胎児発育不良と関連している
○西田 欣広[1]、太田 三紀[2]、北村 裕和[3]、楢原 久司[1]、花田 俊勝[2]、濱中 良志[4]（1.大分大・医学部・産婦人科、2.大分大・医学部・細胞生物、3.大分大・医学部・マトリックス医学、4.大分県立看護科学大・人間科学・生体科学）

[3P-0783] ショウジョウバエの変態に際して外骨格ECMの異方的変形を引き起こすメカニズム
○田尻 怜子[1]、藤原 晴彦[1]、小嶋 徹也[1]（1.東大・新領域）

[3P-0784] 上皮細胞組織変形の三次元シミュレーションを用いたショウジョウバエ消化管の左右非対称な捻転を引き起こす細胞変形の素過程の同定
○稲木 美紀子[1]、大久保 明野[1]、須志田 隆道[2]、秋山 正和[2]、井上 康博[3]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物、2.北大・電子科学、3.京大・ウィルス再生）

[3P-0785] マウス初期胚における Axial protocadherin/PCDH1の役割
○福永 佳菜子[1,2]、乾 雅史[3]、黒田 裕樹[1,2]、冨田 勝[1,2]（1.慶應義塾大学環境情報学部、2.慶應義塾大学先端生命科学研究所、3.明治大学農学部生命科学科）

[3P-0786] ホヤ卵細胞質再配置における表層微小管構造の形成メカニズム解析
○後藤 俊志[1]、神田 一将[2]、石井 宏和[3,4]、西方 敬人[2]（1.甲南大学大学院・FIRST、2.甲南大学・FIRST、3.Marine Biological Laboratory、4.北海道大学・RIES・生命科学）

[3P-0787] Runx signaling is specifically involved in the fusion anterior palate by regulating Tgfb3 signaling
○Safiye Sarper[1]、Hitomi Ono[2]、Hiroshi Kurosaka[1]、Takashi Yamashiro[1]（1.Osaka University Graduate school of Dentistry Department of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics、2.Osaka University Graduate school of Dentistry Department of Oral-Facial Disorders）

[3P-0788] Klf5は Fgf4を抑制することにより EPIとPrEの分化バランスを維持する
○浅見 拓哉[1,2]、和久 剛[3]、松本 健[1]、全 孝静[2]、高橋 智[2]、依馬 正次[1,4]（1.滋賀医大・動物生命科学研究センター、2.筑波大・医学医療系・解剖発生、3.東大・薬学、4.JST さきがけ）

[3P-0789] ツメガエルの体軸形成における*bap*遺伝子の機能解析
○内田 実沙[1]、竹林 公子[1]、鈴木 厚[1]（1.広島大両生類研究センター・院理・生物科学）

[3P-0790] ポリプテルスの側線移動における基底膜の変化
○重谷 安代[1]、井上 龍太郎[1]、岡部 正隆[1]（1.慈恵医大・解剖）

[3P-0791] 脊髄神経の分岐パターンに残る lateral somitic frontierの痕跡
○本間 俊作[1]、安達 隼輔[1]、島田 孝子[1]、八木沼 洋行[1]（1.福島県立医科大学 医学部）

[3P-0792] ショウジョウバエ初期胚における*scraps* mRNAの翻訳依存的な局在機構の解析
○平島 智貴[1]、田中 領[1]、山口 政光[1,2]、吉田 英樹[1,2]（1.京工繊・応生、2.京工繊・昆虫バイオ）

[3P-0793] 線虫の咽頭サイズを制御する gob-1と関連遺伝子の機能解析
○井上 領[1]、松井 那美香[1]、佐方 修一郎[1]、井関 晶太[1]、柴田 幸政[1]、西脇 清二[1]（1.関西学院大・院理工・生命科学）

[3P-0794] ニワトリ心発生における組織変形動態の定量解析
○川平 直史[1]、森下 喜弘[2]（1.京大・院医・医学、2.理研・QBiC）

[3P-0795] ゼブラフィッシュ模様形成における色素細胞の2種類の排除メカニズム
○澤田 莉沙[1]、荒巻 敏寛[1]、近藤 滋[1]（1.阪大・院・生命機能）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0796] ゼブラフィッシュの鱗において表皮由来のShhが皮骨のパターン形成を制御する
○岩崎 美樹[1]、川上 浩一[2]、和田 浩則[1]（1.北里大・一般・生物、2.遺伝研）

[3P-0797] ゼブラフィッシュ発生における snupnタンパク質の解析
○一ノ澤 聖実[1]、酒井 花織[1]、三橋 弘明[1]（1.東海大・工・生命化学）

[3P-0798] イボニシレチノイン酸受容体とレチノイドX受容体のインポセックス発症と組織再生における役割
○畔柳 知幸[1]、清岡 寛人[1]、青木 優香里[1]、中間 翼[1]、中野 春男[1]、梅村 真理子[1]、高橋 滋[1]、高橋 勇二[1]（1.東京薬科・生命科学・環境応用動物学）

[3P-0799] 硬骨魚類における脊椎骨分節機構の解析
○赤間 燿[1]、猪早 敬二[2]、田港 朝仁[1]、江幡 奏美[1]、藤野 友梨[1]、木下 宏史[1]、弥益 恭[1]、川村 哲規[1]（1.埼玉大・院理工、2.東工大・生命理工学院）

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 3) 幹細胞、細胞分化（ポスター）

[3P-7-3] 7. 発生・再生-3) 幹細胞、細胞分化

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0800（3AT11-01）] 超並列レポーターアッセイが紐解く神経分化の分子メカニズム
○井上 詞貴[1,2]、Anat Kreimer[1,2,3]、Nir Yosef[3]、Nadav Ahituv[1,2]（1.カリフォルニア大・サンフランシスコ、2.カリフォルニア大・サンフランシスコ、3.カリフォルニア大・バークリー）

[3P-0801（3AT11-02）] 多能性幹細胞を制御する転写因子は、着床の前後で、 SOX2-POU5F1から ZIC2-OTX2へと劇的に変化する
○近藤 寿人[1]、松田 一成[2]、沖 真弥[3]、重信 秀治[4]（1.京産大・総合生命、2.阪大・生命機能、3.九大・医学研究院、4.基礎生物学研究所）

[3P-0802（3AT11-03）] 自閉症関連因子 CHD8はC/EBPβと協調して脂肪分化を制御する
○喜多 泰之[1,2]、西山 正章[1]、片山 雄太[1]、白根 道子[1,2]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学、2.名市大・院薬・分子生物薬学）

[3P-0803（3AT11-04）] リボソーム取り込みによるヒト細胞の多能性獲得
○伊藤 尚文[1]、シャーアディルイシタヤック アハマド[1]、モハマドバドルルアナム[1]、太田 訓正[1]（1.熊本大・院・生命科学）

[3P-0804（3AT11-05）] 多能性幹細胞においてZscan4はテロメア短縮に応答して発現する
○二木 陽子[1]、丹羽 仁史[2]（1.理研・CDB、2.熊大・発生医学研・多能性幹細胞分野）

[3P-0805（3AT11-06）] Kif11は間葉系幹細胞から骨芽細胞への分化を抑制するエピジェネティック制御の標的因子である
○松本 征仁[1]、佐藤 毅[2]、大久保 正彦[2]、大久保 桃絵[1]、水野 洋介[1]、依田 哲也[2]、岡崎 康司[1]（1.埼玉医科大学・ゲノム医センター、2.埼玉医科大学・口外）

[3P-0806（3AT11-07）] ナイーブ型とプライム型多能性幹細胞をわけるエピジェネティックバリアー形成におけるDNAメチル化の役割
○浦 大樹[1]、鈴木 進之介[1]、田多 裕喜[1]、阿部 訓也[1]（1.理研BRC・疾患ゲノム）

[3P-0807（3AT11-09）] Adiponectinの新たな機能 -核局在 Adiponectinの過剰発現による細胞死-
○勅使河原 利香[1,2]、曹 準権[1,2]、亀田 雅博[1,2]、多田 高[1]（1.京大 ウイルス・再生研 再生組織構築 発生エピゲノム 多田G、2.京大 医学研究科）

[3P-0808（3AT11-10）] Runx1エンハンサーは多臓器において幹細胞マーカーとなる
○山村 明寛[1,2]、松尾 純一[1]、佐藤 英昭[2]、Lim Yi Hui Melissa[1]、Naing Naing Mon[1]、Dede Liana Heng[1]、M D Zakir Hosain[1]、海野 倫明[2]、Yeoh Khay Guan[3]、大里 元美[1,4]、伊藤 嘉明[1]（1.シンガポール国立大・癌科学研、2.東北大・院医・消化器外科学、3.シンガポール国立大学病院・消化器内科、4.熊本大・国際先

©日本分子生物学会/日本生化学会

端科学技術研究機構）

[3P-0809（3AT11-11）] 胎生期の神経幹細胞におけるリソソームの機能解析
○湯泉 直也[1]、原田 雄仁[1]、川口 大地[1]、古舘 昌平[1]、後藤 由季子[1]
（1.東大・院薬・薬科学）

[3P-0810（3AT11-12）] 光感受性陽イオンチャネルChR2を介した NG2陽性グリア前駆細胞のオリゴデンドロサイトへの分化
○小野 健治[1]、川嶋 裕人[1]、鈴木 弘美[1]、澤田 誠[1]（1.名大・環医研・脳機能）

[3P-0811（3AT11-13）] 全能性細胞特異的遺伝子を用いた高品質 iPS細胞の作製
○原口 大生[1]、中村 肇伸[1,2]（1.長浜バイオ・院・バイオ、2.AMED-CREST ）

[3P-0812（3AT11-14）] 肝幹/前駆細胞の新規制御因子Tsukushiの機能解明
○木村 拓也[1,2]、真家 進吾[1,2]、太田 訓正[3]、宮島 篤[1]、田中 稔[1,2]
（1.東大・分生研、2.国立国際医療研究センター、3.熊大・院生命）

[3P-0813（4P2T16-01）] microRNA-494は転写共役因子p300を介して筋線維型特異的ヒト骨格筋細胞分化を制御する。
○岩崎 広高[1]、今村 武史[3]、森野 勝太郎[2]、櫻井 英俊[4]、大野 美紀子[1]、前川 聡[2]、西 英一郎[1]（1.滋賀医大・薬理、2.滋賀医大・内科（糖尿病・腎臓）、3.鳥大・医・分子薬理、4.京大・iPS研）

[3P-0814（4P2T16-02）] 神経幹細胞で発現するPrdm16はミトコンドリアROS量を規程することで、神経分化を調節する
○岩井 亮太[1,2]、井上 真悠子[2]、田畑 秀典[3]、今野 大治郎[4]、鈴木 真理子[1]、浜窪 隆雄[5]、松崎 文雄[4]、永田 浩一[3]、水谷 健一[1,6]（1.神戸学院大学 大学院薬学研究科 幹細胞生物学研究室、2.同志社大学、3.愛知県コロニー、4.理研・CDB、5.東京大学先端技術研究センター、6.JSTさきがけ（脳神経回路の形成・動作と制御））

[3P-0815（4P2T16-03）] 酸素濃度依存的 Sox2-RhoAシグナルによるエナメル上皮幹細胞制御機構
○大津 圭史[1]、依田 浩子[2]、藤原 尚樹[1]、大島 勇人[2]、原田 英光[1]
（1.岩手医大・解剖・発生再生学、2.新潟大・院医歯・硬組織形態学）

[3P-0816（4P2T16-04）] 妊娠期における、肝細胞・肝幹細胞の時空間依存的細胞分裂による肝細胞再編成機構の解析
○上月 智司[1,2]、豊島 文子[1,2]
（1.京大・ウイ再、2.京大・院生命）

[3P-0817（4P2T16-05）] 毛包幹細胞の起源と誘導メカニズムの解明
○森田 梨津子[1]、三千 典子[1]、林 哲太郎[2]、梅田 茉奈[2]、芳村 美佳[2]、二階堂 愛[2]、阿部 高也[3]、清成 寛[3,4]、古田 泰秀[3,4]、藤原 裕展[1]
（1.理化学研究所、2.理化学研究所、3.理化学研究所、4.理化学研究所）

[3P-0818（4P2T16-06）] マウス始原生殖細胞が生み出す多様な多能性スペクトル
○岡村 大治[1]、Jun Wu[2]、Juan Carlos Belmonte[2]
（1.近大・農・バイオ、2.ソーク研究所）

[3P-0819（4P2T16-07）] ES細胞から未分節中胚葉様組織への分化誘導
○松宮 舞奈[1,2]、富田 丈仁[1]、小林 久美子[1,3]、磯村 彰宏[1,4]、影山 龍一郎[1,2,3,5]（1.京大・ウイルス再生医科学研究所、2.京大・院・生命、3.京大・院・医、4.JST・さきがけ、5.京大・iCeMS）

[3P-0820] Low oxygen tension accelerates neuronal differentiation of ES-NSC
○Donny Lukmanto[1]、Mami Matsuo-Takasaki[1]、Toshiki Kato[1,2]、Osamu Ohneda[1]（1.Dept. of Regenerative Medicine and Stem Cell Biology, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba、2.PhD Program in

©日本分子生物学会/日本生化学会

Human Biology, School of Integrative and Global Majors, University of Tsukuba）

[3P-0821] 培養マウス神経幹細胞/前駆細胞の増殖に対する亜鉛添加の効果

○郷司 明里[1]、西川 麻裕[1]、森 英樹[1]、原 正之[1]（1.阪府大・院理・生物科学）

[3P-0822] マウス体細胞を用いた神経堤細胞への直接転換法の検討

○本橋 力[1]、河村 徳人[1]、渡邉 奈月[1]、五島 直樹[2]、國貞 隆弘[1]（1.岐阜大・再生医・組織器官形成、2.産総研・Molprof）

[3P-0823] 乳腺管腔上皮に存在する幹細胞を同定するエンハンサーエレメント eR1の同定

○松尾 純一[1]、Naing Naing Mon[1]、山村 明寛[1,3]、Dede Heng[1]、May Yin Lee[2]、Wei Leong Tam[1,3]、大里元美[1,4]、伊藤 嘉明[1]（1.シンガポール国立大・癌科学研究所、2.シンガポール科学技術庁・ゲノム研究所、3.東北大・院医・外科病態学、4.熊本大・国際先端医学研究機構）

[3P-0824] 細胞核内の金属イオン濃度の変動が遺伝子発現に与える影響: マウス ES細胞を用いた解析

○梅北 さあや[1]、山本 裕[1]、水池 潤[2]、末盛 博文[3]、大山 隆[1,2]（1.早大院・先進理工、2.早大・教育・総合科学・生物、3.京大・再生研・胚性幹細胞）

[3P-0825] 低酸素およびフィーダーフリー条件下におけるイヌ iPS細胞の作製

○山崎 大樹[1]、安部 剣[2]、齋藤 るみ子[1]、加藤 千尋[1]、黒崎 直子[1,2]（1.千葉工大・院工・生命環境科学、2.千葉工大・工・生命環境科学）

[3P-0826] 色素細胞の発生過程における Gbx2の役割

○白井 均樹[1,2]、Jingxin Wang [1,2]、穂積 俊矢[1,2]、菊池 裕[1,2]（1.広大・院理・生物科学、2.JST・CREST）

[3P-0827] 小脳顆粒細胞における分裂面と娘細胞の運命決定メカニズムの解析

○足立 透真[1,2]、宮下 聡[1]、山下 真梨子[1]、井上 貴文[2]、星野 幹雄[1]（1.精神神経センター・病態生化学、2.早大・院・生命医科）

[3P-0828] ヒト iPS細胞由来栄養膜細胞の樹立方法の検討

○下出 紗弓[1]、宮沢 孝幸[2]、青井 貴之[1,3]（1.神戸大・科学技術イノベーション・先端医療学、2.京都大学・ウイルス再生研・ウイルス共進化、3.神戸大・医学・iPS細胞応用医学）

[3P-0829] 味蕾オルガノイドの作製と性質決定

○岩槻 健[1]、熊木 竣佑[1]、山根 拓実[1]、粟飯原 永太郎[2]、Peihua Jiang[3]、今井 啓雄[4]、大石 祐一[1]（1.東農大・応生・食安健、2.シンシナティー大・医、3.モネル化学感覚センター、4.京大・霊長類研）

[3P-0830] オルガノイド形成法を用いた放射線誘発幹細胞競合の評価

○藤通 有希[1]、大塚 健介[1]、冨田 雅典[1]、岩崎 利泰[1]（1.電中研・放射線安全研究セ）

[3P-0831] 骨格筋再生の代謝制御

○堀 新平[1]、佐藤 文規[1]、瀬原 淳子[1]（1.京大・ウイルス 再生研・再生増殖制御）

[3P-0832] ショウジョウバエ翅原基における組織傷害は細胞運命の転換を誘導する

○石原 文哉[1]、倉永 英里奈[1]、中嶋 悠一朗[1,2]（1.東北大・院・生命科学、2.東北大・学際研）

[3P-0833] *Esrrb*による胚性腫瘍(EC)細胞集団での幹細胞様亜集団の出現と非対称分裂

○中塚 美瑛子[1]、吉田 郁也[2]（1.北大・院生命・生殖発生、2.北大・院生命・ゲノム）

[3P-0834] 膵β細胞発生におけるモノアミンシグナル伝達経路の解明

○荒木 菜[1]、豊田 悠暉[1]、坂野 大介[1]、桑 昭苑[1]（1.東工大・生命・生命）

[3P-0835] モノアミンによる膵β細胞の分化及び成熟化調節機構に関する研究

○豊田 悠暉[1]、荒木 菜[1]、坂野 大介[1]、桑 昭苑[1]（1.東工大・生命・生命）

[3P-0836] シングルセル RNA-Seqを用いたナイーブ型-プライム型多能性幹細胞変換過程におけるモノアレル遺伝子発現解析

○田爭 祐喜[1]、浦 大樹[1]、 Michael Boettcher[2]、鈴木 伸之介[1]、Piero Carninci[2]、阿部 訓也[1]（1.理化学研究所バイオリソースセンター、2.理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター）

[3P-0837] 蛍光プローブを用いたマウス膵管可視化方法の開発

○中嶋 ちえみ[1]、神元 健児[2]、山根 拓実[3]、大石 祐一[3]、岩槻 健[3]（1.東農大・農・食品栄養、2.東大・分生研、3.東農大・応生・食安健）

[3P-0838] ヒト iPS細胞を用いた膵内分泌細胞への分化誘導法の確立

○山田 瑞姫[1]、淺原 俊一郎[2]、下野 名奈子[1]、田中 孝一[1]、松田 友和[2]、木村 真希[2]、神野 歩[2]、高井 智子[2]、鈴木 江美[2]、青井 貴之[3]、木戸 良明[1]（1.神戸大学院・保健・病態解析・病態代謝、2.神戸大学院・医・糖内、3.神戸大学院・科技イ・ 先端医療）

[3P-0839] ヒトｉＰＳ細胞から肝臓細胞への新規分化誘導系の構築、および初代培養肝細胞との機能比較

○仲井 峻[1]、山口 宏之[2]、高木 信幸[3]、井上 智彰[4]、中

©日本分子生物学会/日本生化学会

川 俊人[4]、清川 順平[4]、白木 伸明[1]、桑 昭苑[1]（1.東工大・生命理工学院・生命理工、2.関東化学株式会社・技術開発本部・伊勢原研究所、3.関東化学株式会社・技術開発本部・技術開発部、4.中外製薬・研究本部）

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 4) 発生工学、再生医療（ポスター）

[3P-7-4] 7. 発生・再生-4) 発生工学、再生医療

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0840（4AW12-6）] 遺伝性呼吸器疾患嚢胞性繊維症(Cystic Fibrosis, CF) に対する遺伝子治療と再生医療の展望

○鈴木 伸悟[1,2]、帖佐 圭佑[1,3]、Cristina Barilla[1,4]、Dieter Gruenert[1]、Roy Sargent[1]（1.Dept. of OHNS. UC, San Francisco、2.Department of Biomed. Exper. and Clin. Sci., Univ. of Florence、3.熊大・院薬・先端生命医療科学、4.Dept. of Mol. Med., Univ. of Pavia）

[3P-0841（3AT11-15）] 低分子化合物を用いたダイレクトリプログラミングによるヒト線維芽細胞から褐色脂肪細胞への直接誘導

○武田 行正[1]、原田 義規[2]、戴 平[1]（1.京都府立医大・院医・細胞再生医学、2.京都府立医大・院医・細胞分子機能病理学）

[3P-0842（4P2T16-08）] Tcl1による代謝リプログラミングは iPS細胞の多能性を向上させる

○西村 健[1]、相澤 志穂[1]、櫻木 佑太[1]、林 洋平[1]、福田 綾[1]、久武 幸司[1]（1.筑波大・医学・遺伝子制御学）

[3P-0843（4P2T16-09）] ３次元組織形成能を持つヒトiPS由来腎臓ネフロン前駆細胞の増幅培養法の確立

○谷川 俊祐[1]、賀来 祐介[1]、太口 敦博[1]、西中村 隆一[1]（1.熊大・発生研・腎臓発生）

[3P-0844] 組織特異的に特定の遺伝子機能の欠失を誘導するコンデショナルレスキューマウスの作製とその技術の開発

櫻井 瑛輝[1]、伏見 尚晃[1]、花岡 和則[1]、○渡辺 大介[1]（1.北里大学　）

[3P-0845] 血管内皮前駆細胞の in vitro管腔形成におけるoccludinの役割

○豊田 淑江[1,2]、石井 明子[3]、菊池 裕[1]、北川 博子[3]、鈴木 浩子[3,4]、田村 悦臣[4]、水口 裕之[5]、山口 照英[1,2]（1.国立衛研・衛生微生物、2.日本薬科大・薬、3.国立衛研・生物薬品、4.慶應大・薬・衛生化学、5.阪大・院薬・分子生物）

[3P-0846] マイクロ RNAによる SeVベクターの発現制御

○佐伯 晃一[1]、上田 泰次[1]、草野 好司[1]、川口 実太郎[1]、井上 誠[1]（1.株式会社IDファーマ）

[3P-0847] 再生医療・細胞医療における DMSOフリー、血清フリーの細胞凍結保存液の開発

○永井 悠也[1]、大和屋 健二[1]、寺本 直純[2]、中田 一弥[1]、八木 透[3]、宮本 義孝[3]（1.東理大・理工、2.千葉工大・工、3.東工大・工学院）

[3P-0848] CRISPR/Cas9を用いた疾患モデルカニクイザルの作出

○築山 智之[1]、小林 憲市[1]、岩谷 千鶴[1]、土屋 英明[1]、清田 弥寿成[1]、松下 淳[1]、北嶋 郁[1]、河本 育士[1]、中川 孝博[1]、福田 浩司[2]、岩切 哲平[2]、和泉 博之[2]、板垣 伊織[1]、中村 紳一朗[1]、河内 明宏[1]、依馬 正次[1]（1.滋賀医科大学、2.新日本科学(株)）

[3P-0849] ソニックヘッジホッグシグナルによるマウス心臓再生能の制御

○川岸 裕幸[1,2]、Jianhua Xiong[1]、Toren Finkel[1]（1.Center for Mol. Med., NHLBI/NIH、2.信大・医・分子薬理）

[3P-0850] ヒト iPS細胞の血液細胞分化に対する LIMホメオドメイン転写因子 Lhx2の機能

○高橋 佑奈[1,2]、北島 健二[1]、原 孝彦[1,2]（1.都医学研・幹細胞、2.東京医歯大院・医歯学総合）

[3P-0851] 三次元培養・制御・計測を可能にする多機能Cube型プラットフォームの構築

○野畑 李奈[1]、川原 知洋[2]、萩原 将也[3]（1.大阪府大・院理・生物、2.九工大・院生命体工学、3.大阪府大・Nanosquare拠点研究所）

[3P-0852] 個体レベルのシステムバイオロジーを目指した高速・並列 ESマウス作出手法の開発

○山本 真理[1]、鵜飼 英樹[1]、上田 泰己[1,2]（1.理研・QBiC・合成生物学研究グループ、2.東大・院医・薬理学講座・システムズ薬理学）

[3P-0853] 腸の再生におけるサイトカイン受容体gp130の役割

○谷口 浩二[1]、吉村 昭彦[1]（1.慶大・医・微生物学・免疫学）

[3P-0854] ラット卵巣卵胞内卵子の成熟培養なしでの体外

©日本分子生物学会/日本生化学会

受精

○中務 胞[1]、夏目 里恵[1]、埼村 建司[1]（1.新大・脳研・細胞神経）

[3P-0855] 筋再生過程における Tβ4の機能解析

○宮本 郁[1]、永江 亜美[1]、中山 由紀[1]（1.熊本大・院自然科学・生命科学）

[3P-0856] ヒト iPS細胞を用いた膵β細胞への安価かつ高効率的な分化誘導系の開発

○加藤 泰香[1,2]、水野 恵子[2]、堀川 あゆみ[2]、箕浦 高子[1]、道上 達男[2]（1.中央大学大学院理工学研究科、2.東京大学大学院総合文化研究科）

[3P-0857] 微小環境を用いた再樹立法による多能性幹細胞の高品質化

長尾 恭光[2]、冨永 薫[1]、坂下 英司[1]、阿部 朋行[3]、秋本 千鶴[4]、花園 豊[3]、○遠藤 仁司[1]（1.自治医大・医・生化、2.自治医大・実医セ、3.自治医大・分子病態研究セ・再生医学、4.自治医大・医・神内）

[3P-0858] 胚盤胞補完法を用いた骨格筋幹細胞の産生

○伊藤 日加瑠[1,2,3]、朝倉 ようこ[2,3]、Carlson Dan[4]、朝倉 淳[2,3]（1.広島大学 神経生物、2.Dept. of Neurology, Univ. of Minnesota、3.Stem Cell Institute, Univ. of Minnesota、4.Recombinetics, Inc.）

[3P-0859] 3次元細胞間コミュニケーション研究のためのストロー状スフェロイド作製

○犬伏 祐作[1]、坂口 欣暉[1]、岡島 直[1]、浅野 悠太[1]、伊田 寛之[2]、立花 亮[1]（1.大阪市大・院工・化生系、2.新田ゼラチン株式会社・総合研究所）

[3P-0860] ラット肝線維化モデルに対する胎児肝臓様組織を利用した新規治療法の確立

○今野 孝浩[1]、村田 聡一郎[1]、谷口 英樹[1]（1.横浜市大・院医・臓器再生医学）

[3P-0861] 脊髄損傷ラットに対する骨髄由来単核細胞の複数回移植効果

○兼清 健志[1]、Norihiko Nakano[1]、鈴木 義久[2]、井出 千束[1]（1.藍野大・中央研、2.北野病院　形成外科）

[3P-0862] ヒアルロン酸誘導体の免疫調節作用

柳田 湧太[1]、関口 はつ美[1]、金子 凜[1]、小田 彰恭[1]、○村松 和明[1]（1.電機大・院理工・生命理工）

[3P-0863] 胚盤胞補完法による多能性幹細胞由来の血管内皮細胞および造血細胞の同時作製

○濱仲 早苗[1]、山口 智之[1]、中内 啓光[1,2]（1.東大医科研・幹細胞治療部門、2.スタンフォード大学）

[3P-0864] FGF-7固定化タンパク質微結晶を含有する絹糸素材の開発とその細胞増殖制御への応用

○丸田 莉奈[1]、高木 圭子[1]、瀬筒 秀樹[2]、小谷 英治[1]、森 肇[1]（1.京工繊大院、2.農研機構）

[3P-0865] iPS細胞技術により調製したヒト NKT細胞の抗腫瘍効果と体内動態

○山田 大輔[1]、伊豫田 智典[1]、中山 学[2]、藤井 眞一郎[1]、古関 明彦[1]（1.理研・統合生命、2.かずさDNA研究所）

[3P-0866] ラット細胞質内精子注入法の簡便化の試み

○水谷 英二[1]、笠井 真理子[1]、加藤 めぐみ[1]、中内 啓光[1,2]（1.東京大学医科学研究所、2.スタンフォード大学）

ポスター発表 | 7. 発生・再生 | 5) その他（ポスター）

[3P-7-5] 7. 発生・再生-5) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0867] キイロショウジョウバエの低酸素耐性にグリコーゲン代謝は必須である

○山田 貴佑記[1]、羽原 興子[1]、西村 隆史[1]（1.理研・CDB）

[3P-0868] ショウジョウバエ成虫期におけるトレハロース代謝の重要性と発育安定性への寄与

○松下 亮太[1,2]、西村 隆史[1,2]（1.奈良先端大・バイオ、2.理研CDB）

[3P-0869] ショウジョウバエ蛹期の変態過程における糖代謝の調節機構

山田 貴佑記[1]、羽原 興子[1]、窪 ひとみ[1]、○西村 隆史[1]（1.理研・CDB）

[3P-0870] ラット関節軟骨組織の成熟過程におけるGAGとコラーゲンの定量的解析

○三浦 美樹子[1]、長子 晴美[1]、日吉 峰麗[1]、濱崎 由文[1]、高野 育子[1]、原 伸正[1]、土屋 美加子[1]（1.島根大・医・生化学）

[3P-0871] ラット関節軟骨組織の成熟過程におけるコラーゲンクロスリンクと GAG組成の変化

○長子 晴美[1]、三浦 美樹子[1]、濱崎 由文[1]、高野 育子[1]、日吉 峰麗[1]、原 伸正[1]、土屋 美加子[1]（1.島根大・医）

[3P-0872] マウス個体発生における概日リズム形成分子機構の解析

○小池 宣也[1]、梅村 康浩[1]、八木田 和弘[1]（1.京都府立医大・医・統合生理学）

[3P-0873] 細胞分化に伴う概日リズム形成分子機構の解析

○梅村 康浩[1]、小池 宣也[1]、土谷 佳樹[1]、八木田 和弘[1]（1.京都府立医大・医・統合生理学）

[3P-0874（3AT11-08）] ヒトデ類の変態過程におけるレチノイン酸シグナル経路の役割

○山川 隼平[1]、守野 孔明[1]、和田 洋[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.筑波大・院・生命環境）

[3P-0875（3PT11-08）] キイロショウジョウバエ雌性先熟表現型の分子機構の解明

○成 耆鉉[1]（1.理研筑波）

[3P-0876（4P1T12-15）] 子宮の HIF2aは胚盤胞の生存と子宮への浸潤を制御する

○藤田 知子[1]、廣田 泰[1]、松本 玲央奈[1]、武田 憲彦[2]、藤田 英俊[3]、原口 広史[1]、松尾 光徳[1]、平岡 毅大[1]、田中 智基[1]、赤枝 俊[1]、大須賀 穣[1]、藤井 知行[1]（1.東大・附属病院・産婦人科、2.東大・附属病院・循環器内科、3.東医大・医総研・未来医科学）

[3P-0877] 肝臓発生時の遺伝子発現変動に果たすmRNA分解の役割

○鈴木 亨[1]、菊口 千智[1]、西島 さおり[2]、山本 雅[1,2]（1.理化学研究所、2.沖縄科学技術大学院大学）

[3P-0878] ナルディライジンは神経栄養因子受容体(p75NTR)のシェディングを介して心臓交感神経の分布を制御する

○大野 美紀子[1,2]、西 清人[2]、平岡 義範[3]、新妻 晋一郎[4]、西城 さやか[2]、坂本 二郎[2]、陳 博俊[2]、森田 雄介[2]、松田 真太郎[2]、椋本 淑子[5,6]、清成 寛[5,6]、松浦 博[7]、北 徹[8]、木村 剛[2]、西 英一郎[1,2]（1.滋賀医・医・薬理学、2.京大・院医・循環器内科学、3.神戸学院・薬・臨床薬理学、4.日大・医・循環器内科学、5.理研・生体ゲノム工学研究、6.理研・生体モデル開発、7.滋賀医・医・生理学、8.神戸医療・介護推進財団）

[3P-0879] 転写因子 Mohawk homeobox (Mkx) の役割 -歯根膜の脈管・神経系の遺伝子発現様相の観点から-

○幸田 直己[1,2]、篠原 正浩[2,3]、佐藤 天平[2]、宮崎 貴行[1,2]、伊藤 義晃[2,4]、市野瀬 志津子[5]、浅原 弘嗣[2]、森山 啓司[1]（1.東京医科歯科大学 学院医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野、2.東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野、3.独立行政法人科学技術振興機構 さきがけ、4.東京医科歯科大学 リサーチコアセンター、5.東京医科歯科大学 研究センター）

[3P-0880] WNTシグナル制御による門脈域及び中心静脈域肝細胞の性質を有するヒト iPS細胞由来肝細胞作製法の開発

○三谷 成二[1]、高山 和雄[1,2,3]、櫻井 文教[1]、水口 裕之[1,2,4]（1.阪大・院薬・分子生物学、2.医薬健栄研・肝分化プロジェクト、3.JST・さきがけ、4.阪大・MEIセ）

[3P-0881] シクロスポリン Aによる毛周期の成長期延長への関与

○北村 弘明[1]、谷地 敏輝[1]、草野 成穂[1]、岩渕 徳郎[1]（1.東京工科大・応用生物）

[3P-0882] ネッタイツメガエル幼生における光受容体遺伝子の発現

○原田 由美子[1]、石井 日香里[2]、村上 柳太郎[1]（1.山口大・院創成科学・地球圏生命物質科学、2.山口大・院医系・応用分子生命科学）

[3P-0883] 転写因子 Wilms' tumor suppressor gene (WT1)によるヒト子宮内膜間質細胞（ ESC）の脱落膜化における新たな転写調節機構

○田村 功[1]、白蓋 雄一郎[1]、三原 由美子[1]、品川 征大[1]、城崎 幸助[1]、前川 亮[1]、浅田 裕美[1]、竹谷 俊明[1]、佐藤 俊[1]、田村 博史[1]、杉野 法広[1]（1.山大・医学部・産婦人科）

[3P-0884] 活動を停止したゼブラフィッシュ脳の再稼動に関与する遺伝子の探索

○大倉 佑介[1]、野口 康之介[1]、新谷 侑華[1]、松川 通[1]（1.摂南大・理工・生命科学）

[3P-0885] カブトムシ角原基における細胞シート折りたたみ構造形成メカニズム

○足立 晴彦[1]、後藤 寛貴[3]、松田 佳祐[2]、井上 康博[4]、近藤 滋[1]（1.阪大院・生命機能、2.阪大・医、3.名大院・生命農、4.京大・再生医療科学）

[3P-0886] 少数個の増殖性細胞の体内増殖を可能とする新規マウス膵臓内細胞移植法

○佐藤 正宏[1]、齋藤 一誠[2]、村上 智哉[2]、窪田 直子[3]、中村 伸吾[4]、渡部 聡[5]、稲田 絵美[3]（1.鹿大・医用ミニブタセ・遺伝子発現、2.新潟大・院医歯学・小児歯科、3.鹿大・院医歯学・小児歯科、4.防衛医大・防医研セ・医療工学、5.農業生物資源研・家畜ゲノム）

[3P-0887] 捕食者（ショウジョウバエ）・被食者（酵母）双方の遺伝学を用いた個体成長を支える栄養バランスの追究

○高橋 優喜[1]、服部 佑佳子[1]、森 明弘[3,4]、渡辺 佳織[1]、櫻井 望[5]、須田 邦裕[5]、古谷 寛治[2]、上村 匡[1]（1.京大・院生命科学、2.京大・放生研、3.理研・QBiC、4.SBI、5.かずさDNA研）

[3P-0888] 成体唾液腺における Wntシグナル応答細胞の同定と機能解析

○廣田 傑[1,2]、松本 真司[1]、菊池 章[1]（1.阪大院・医・分子病態生化学、2.広大院・歯・分子口腔医

©日本分子生物学会/日本生化学会

学・顎口腔外科）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 1) がん（ポスター）

[3P-8-1] 8. 疾患生物学-1) がん

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0889（2PW27-5）] ヒアルロン酸生合成を起点とした代謝リプログラミングとがん幹細胞性の発現調節
○泉川 友美[1]、板野 直樹[1]（1.京産大・総合生命）

[3P-0890（3AW20-3）] New functions of p53 mRNA and protein isoforms
○Marco Candeias[1,2]（1.Molecular and RNA Cancer Unit, Graduate School of Medicine, Kyoto University,、2.Departamento de Genetica Humana, Instituto Nacional de Saude Dr. Ricardo Jorge, Portugal）

[3P-0891] 宿主単球・マクロファージの誘導によるグリオーマ幹細胞の鉄欠乏ストレスへの適応：ニッチ自己構築機構の解明
○桝 康一[1]、巽 瑠璃子[1]、田賀 哲也[1]（1.東京医科歯科大・難治研・幹細胞制御）

[3P-0892] グリオーマ幹細胞による宿主マクロファージ制御におけるオートスキジス様細胞死の役割
○松永 浩明[1]、桝 康一[1]、田賀 哲也[1]（1.東京医科歯科大・難治研・幹細胞制御）

[3P-0893] ショウジョウバエ*mxc*造血器腫瘍変異体における自然免疫経路の活性化とその腫瘍抑制効果の検討
○荒木 麻誉[1]、佐藤 哲也[2]、大川 恭行[3]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ、2.九大生体防御研、3.九大医学研究院）

[3P-0894] 造血器腫瘍モデルであるショウジョウバエの*mxc*突然変異体を用いた癌の進展に関する研究
○栗原 正典[1]、荒木 麻誉[1]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ）

[3P-0895] interleukin-8および colchicineによるアポトーシス誘導
○矢島 知佳[1]、横山 智哉子[2]、井内 勝哉[1]、久富 寿[1]（1.成蹊大学大学院・理工・細胞分子、2.山形大・工・バイオ化学）

[3P-0896] HIF-1α ASVの細胞死誘導機序の解明
○林 優香子[1]、横山 智哉子[2]、井内 勝哉[1]、久富 寿[1]（1.成蹊大・理工・細胞分子、2.山形大・工・バイオ化学）

[3P-0897] 酸化脂肪酸のヒトがん細胞に対する増殖抑制効果
○依馬 未佳[1]、井内 勝哉[1]、久富 寿[1]（1.成蹊大学大学院・理工・細胞分子）

[3P-0898] 人工がん幹細胞の効率的な樹立
○河村 憲[1]、横山 智哉子[2]、井内 勝哉[1]、久富 寿[1]（1.成蹊大・理工・細胞分子デバイス、2.山形大・工・バイオ化学）

[3P-0899（2PT26-15）] 短寿命α線核種を用いた新規抗がん薬開発の検討
○兼田 加珠子[1]、張 子見[1,2]、池田 卓海[2]、神田 晃充[2]、市村 聡一朗[2]、真鍋 良幸[1,3]、下山 敦史[1,3]、樺山 一哉[1,3]、永田 光知郎[7]、渡部 直史[1,4]、豊嶋 厚史[1,5]、金井 好克[6]、吉村 崇[1,7]、福田 光宏[1,8]、深瀬 浩一[1,3]、篠原 厚[1,2]（1.阪大・院理・PRC・医理連携、2.阪大・院理・放射化学、3.阪大・院理・天然物有機化学、4.阪大・院医・核医学、5.原研・先端基礎研・重元素核化学、6.阪大・院医・生体システム薬理学、7.阪大・RI・同位体化学、8.阪大・RNCP・加速器研究）

[3P-0900（3AT26-01）] 血小板における ASK1がADP受容体 $P2Y_{12}$のリン酸化を介して肺へのがん転移を制御する
○神山 美樹[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[3P-0901（3AT26-02）] がん-マクロファージ間相互作用を標的とした新規がん免疫療法の開発
○村田 陽二[1]、柳田 匡彦[1]、田中 大介[1]、羽間 大祐[1]、齊藤 泰之[1]、小谷 武徳[1]、大西 浩史[2]、的崎 尚[1]（1.神戸大・院・医・シグナル統合学、2.群馬大・院・保健学・生体情報検査科学）

[3P-0902（3AT26-03）] Mg2+トランスポーターCNNM4は大腸での発がんを抑制する
○山崎 大輔[1]、長谷川 綾郁[1]、船戸 洋佑[1]、三木 裕明[1]（1.大阪大・微研・細胞制御）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0903（3AT26-04）] 核小体による細胞分裂制御と癌治療戦略
○河原 康一[1]、川畑 拓斗[1,2]、下川 倫子[1]、古川 龍彦[1]（1.鹿児島大・院医歯・分子腫瘍学、2.鹿児島大・院理工・システム情報）

[3P-0904（3AT26-05）] 悪性中皮腫における BAP1遺伝子変異に対する合成致死遺伝子の網羅的探索
○村上（渡並） 優子[1]、天野 美希[1,2]、小木曽 杏奈[1,2]、清成 信一[3]、紅 朋浩[4]、金田 典雄[2]、門松 健治[3]、村上 浩士[5]、関戸 好孝[1]（1.愛知がんセ・分子腫瘍、2.名城大・薬・生体機能分析学、3.名大・院医・分子生物、4.名大・院医・オミクス、5.中大・理工・分子細胞遺伝）

[3P-0905（3AT26-06）] 様々な動物モデルを用いたWntシグナル調節異常による発がん機構の解析
○築山 忠維[1]、Jihoon Kim[2]、増田 隆昌[4]、寺井 小百合[1]、高橋 秀尚[1]、石谷 太[3,4]、Bon-Kyoung Koo[2]、畠山 鎮次[1]（1.北大・院医・医化学、2.Stem Cell Inst, Univ. of Canbridge、3.群大・生調研・個体統御システム、4.九大・生医研・細胞統御システム）

[3P-0906（3AT26-07）] 慢性的低酸素環境はピルビン酸脱水素酵素 PDHの発現を低下させてがん細胞の解糖系に依存した代謝を誘導する
與那城 亮[1]、和氣 正樹[2]、武田 憲彦[2]、○中山 恒[1]（1.東京医科歯科大・難治研・低酸素、2.東大・院医・循環器内科）

[3P-0907（3AT26-08）] BRCA2ノックダウン細胞に対するパクリタキセルによる合成致死誘導機構の解明
○山田 翔太[1]、高岡 美帆[1]、中西 啓[1]、三木 義男[1,2]（1.東京医科歯科大・難研・分子遺伝、2.癌研・研・遺伝子診断）

[3P-0908（3AT26-09）] 前立腺がん細胞由来の細胞外小胞顆粒による骨転移分子機構の解明
○占部 文彦[1,2]、小坂 展慶[1]、吉岡 祐亮[1]、竹下 文隆[3]、頴川 晋[2]、落谷 孝広[1]（1.国立がん研セ・研・分子細胞治療、2.慈恵・医・泌尿器、3.国立がん研セ・研・FIOC）

[3P-0909（3AT26-10）] 三層マルチオミクスによるHER2陽性乳癌のトラスツズマブ感受性マーカーの同定
○山下 聡[1]、服部 奈緒子[1]、藤井 誠志[2]、永野 玲子[1]、木村 佳奈[1]、向井 博文[3]、牛島 俊和[1]（1.国がん研セ・研・エピゲノム、2.国がん研セ・先端医療開発セ、3.国がん研セ・東病院）

[3P-0910（3AT26-11）] Abcg2を発現するMDS/AML細胞は骨髄間質細胞の骨芽細胞への分化障害を引き起こし骨形成を阻害する
○林 康貴[1]、川畑 公人[1,2]、上原 康史[3]、田中 洋介[1]、國崎 祐哉[4]、合山 進[1]、新井 文用[4]、北村 俊雄[1]（1.東大・医科研・細胞療法、2.コーネル大、3.九大・病態修復内科、4.九大・幹細胞再生修復医学）

[3P-0911（3AT26-12）] ユビキチンリガーゼ FBXL5による鉄代謝制御と肝がん抑制
○武藤 義治[1]、西山 正章[1]、諸石 寿朗[1]、中山 敬一[1]（1.Med. Insti. of Bioreg., Univ. of Kyushu）

[3P-0912（3AT26-13）] NRF2活性化は Kras変異を伴う肺腺がんへの炎症細胞浸潤を促進する
○林 真貴子[1]、久我 有祐美[1]、本橋 ほづみ[3]、鈴木 未来子[2]、山本 雅之[1]（1.東北大・院医・医化学、2.東北大・医・RIセンター、3.東北大・加齢研・遺伝子発現制御）

[3P-0913（3AT26-14）] 細胞間コミュニケーションによるがん進展制御
○榎本 将人[1,3]、本田 直樹[2]、武本 花奈美[3]、竹本 大策[1]、井垣 達吏[1,3]（1.京大院・生命・システム機能、2.京大院・医・イメージング、3.京大院・薬・生理活性）

[3P-0914（3AT26-15）] オルガノイド培養法による腫瘍

©日本分子生物学会/日本生化学会

内不均一性の高精度分子進化学的解析
○佐々木 伸雄[1,2,3,4]、Hans Clevers[1,5]（1.オランダ・フブレクト研、2.慶應大・医学部・消化器内科、3.AMED-CREST、4.ロッテ重光財団、5.オランダ・マキシマ女王センター）

[3P-0915（4LT26-01）] 炎症性モノサイトにおけるAPBA3/Mint3はがん転移性ニッチ形成を制御する
○坂本 毅治[1,2]、原 敏朗[2]、中岡 寛樹[1]、林 哲郎[1]、村上 善則[1]、清木 元治[2,3]（1.東大・医科研・人癌病因遺伝子、2.東大・医科研・腫瘍細胞社会学、3.金沢大・医学系）

[3P-0916（4LT26-02）] 神経膠芽腫における EphA3受容体の機能解析
○遠山 萌[1]、濱岡 裕穂[1]、加藤 裕教[1,2]、根岸 学[1,2]（1.京大・院薬、2.京大・院生命科学）

[3P-0917（4LT26-03）] 細胞間接着因子としての可溶性HAI-1 の機能解析
○石川 智弘[1]、木村 弥生[2]、平野 久[2]、東 昌市[1]（1.横浜市大・院・生命ナノシステム科学、2.横浜市大・先端医科学研究セ）

[3P-0918（4LT26-04）] SialyI-Tn糖鎖抗原による多彩ながん転移シグナルの制御機構
○大坪 和明[1,2]、前田 賢人[2]、田嶋 彩香[2]、高宮 里奈[3]（1.熊本大学大学院生命科学研究部先端生命医療科学部門医療技術科学講座研究部、2.熊本大学大学院保健学教育部生体情報解析学分野、3.札幌医科大学医化学講座）

[3P-0919（4LT26-05）] 細胞表現型プロファイリングによる薬物作用機序と新規制御機構の解明
○田邊 賢司[1]（1.女子医大・総研）

[3P-0920（4LT26-06）] Notchシグナルによる肝癌進展の制御機構
○中野 泰博[1,2]、中尾 祥絵[1,2]、丹野 友里[2]、末岡 美那子[2]、笠原 大瑚[1,2,4]、住吉 秀明[1,2]、穂積 勝人[1,3]、稲垣 豊[1,2]（1.東海大・院医・マトリックス医学生物学センター、2.東海大・医・再生医療科学、3.東海大・医・生体防御学、4.サンケイエンジニアリング）

[3P-0921（4LT26-07）] 固形がんにおける Fbxw7を標的とした静止期追い出し療法
○清水 秀幸[1]、中津海 洋一[1]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学）

[3P-0922（4LT26-08）] がん遺伝子を導入したマウス膵臓組織幹細胞はがん幹細胞様の表現型を示す
○竹垣 普恵[1]、清水 一也[1,2]、角井 祐介[1]、西村 綾乃[1]、三好 真琴[1]、赤城 剛[3]、笹井 研[3]、堀 裕一[1]（1.神大・院保・保健学、2.国立病院機構神戸医療センター・内科、3.株式会社カン研究所）

[3P-0923（4LT26-09）] 疾患特異的 iPS細胞による慢性骨髄単球性白血病の原因遺伝子SLITRK4の同定
○山崎 翔[1]、田岡 和城[1]、荒井 俊也[1]、宮内 将[1]、片岡 圭亮[1]、吉見 昭秀[1]、黒川 峰夫[1,2]（1.東大・病院・血液・腫瘍内科、2.東大・病院・無菌治療部）

[3P-0924（4P1T26-01）] 炎症の悪い組み合わせは、DNAメチル化関連因子の制御異常を引き起こす
○竹島 秀幸[1]、丹羽 透[1]、山下 聡[1]、牛島 俊和[1]（1.国立がん研セ・研・エピゲノム）

[3P-0925（4P1T26-02）] 網羅的 shRNAライブラリを用いた機能ゲノミクススクリーニングによる胃がん治療標的分子の探索
○加藤 洋人[1]、山本 麻未[1]、鈴木 良平[1]、石川 俊平[1]（1.東京医歯大・難研・ゲノム病理）

[3P-0926（4P1T26-03）] *Apc*変異マウスの腫瘍形成における腸管上皮細胞 MyD88の役割の解析
梶野 リエ[1]、藤下 晃章[1]、武藤 誠[2]、○青木 正博[1]（1.愛知がんセ・研・分子病態、2.京大・医・遺伝薬理学ユニット）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0927（4P1T26-04）] ゼブラフィッシュ in vivoイメージングを用いた、がんの初期発生過程の解析
○原岡 由喜也[1,2]、穐枝 佑紀[1]、石谷 太[1,2]（1.群大・生調研・個体統御、2.九大・院医）

[3P-0928（4P1T26-05）] 非古典的 NOTCHシグナルは扁平上皮がんの進展を引き起こす
○温川 恭至[1]、中原 知美[1]、藤田 雅俊[2]、清野 透[1]（1.国立がん研究センター・研究所・発がん予防、2.九大・院薬・医薬細胞生化）

[3P-0929（4P1T26-07）] 細胞間の競合と協調によるがん制御を駆動する因子の遺伝学的スクリーニング
○新井 聡太[1]、Seulki Kim[1]、榎本 将人[1]、井垣 達吏[1]（1.京大院・生命・システム機能学）

[3P-0930（4P1T26-08）] Yip1Aは小胞体ストレス応答のIRE１および PERKシグナル伝達経路を調節することにより子宮頸癌細胞の生存に寄与する
○田口 由起[1]、堀内 雄太[2]、加納 ふみ[3]、村田 昌之[1,2,3]（1.東大・院総合文化・次世代イメージング画像解析学講座、2.東大・院総合文化・生命環境、3.東工大・科技創成院・細胞制御セ）

[3P-0931（4P1T26-09）] FBW7の欠損は CENP-Aのリン酸化をもたらし、 CENP-Aの結合タンパクの異常により染色体不安定性をきたす
○髙田 護[1,2]、鈴木 應志[1]、Qing Zhang[1]（1.ノースカロライナ大学チャペルヒル校、2.埼玉医科大学総合医療センター 乳腺外科）

[3P-0932（4P1T26-10）] SGEFによる細胞運動の制御とScribbleの抑制作用
○山本 佳央理[1]、根岸 学[1,2]、加藤 裕教[1,2]（1.京大・院・薬学、2.京大・院・生命科学）

[3P-0933（4P1T26-11）] ECM制御因子 RECKによるがん抑制のメカニズム
○松崎 朋子[1]、野田 亮[1]（1.京大・医・分子腫瘍学）

[3P-0934（4P1T26-12）] Investigation of the *RECK* tumor suppressor gene splice variants' role in Glioblastoma aggressiveness
○Marina Trombetta-Lima[1]、Antonio Lerario[2]、Flavio Miura[3]、Sueli M. Oba-Shinjo[3]、Sheila M. B. Winnischofer[4]、Suely K.N. Marie[3]、Mari C. Sogayar[1]（1.NUCEL-NETCEM-Medical School, Sao Paulo University, Brazil、2.Department of Internal Medicine, Division of Metabolism, Endocrinology and Diabetes, University of Michigan, USA、3.Neurology Department, Medical School, Sao Paulo University, Brazil、4.Biochemistry and Molecular Biology Department, Federal University of Parana, Brazil）

[3P-0935（4P1T26-13）] Phenotypic Characterization of the Rare PIK3CA Mutations, Q661K and C901R, in Mouse Fibroblast and Human Colorectal Cancer Cells
○Arman Ghodsinia[1]、Reynaldo L. Garcia[1]（1.Disease Molecular Biology and Epigenetics Laboratory, National Institute of Molecular Biology and Biotechnology, University of the Philippines, Diliman）

[3P-0936（4P1T26-14）] Down-regulation of HB-EGF by microRNA-96 leads to cell cycle arrest and reduces cancer stem cell population in breast cancer
○Hong Huat Hoh[1]、Taku Kureha[1]、Tadashi Yamamoto[1]（1.Cell Signal Unit, Okinawa Inst. of Sci. &Tech. Grad. Univ.）

[3P-0937（4P1T26-15）] 膀胱癌で高発現する miR-130 familyの機能解析
○中辻 由乃[1]、江川 博[1]、廣野 貴之

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、廣瀬 遼[1]、川瀬 瑛崇[1]、北惠 郁緒里[1]、神宮司 健太郎[2]、上田 裕子[1]、長谷 拓明[1]、藤田 和利[2]、植村 元秀[2]、野々村 祝夫[2]、辻川 和丈[1]（1.阪大・院薬・細胞生理、2.阪大・院医・泌尿器科）

[3P-0938（4P2T26-01）] 三次元基底膜培養の MCF-10A乳腺上皮腺房に対するエストロゲンの作用効果

〇Yu Deng[1]、高岡 美帆[1]、中西 啓[1]、三木 義男[1,2]（1.東医歯・難研・分子遺伝、2.癌研・研・遺伝子診断）

[3P-0939（4P2T26-02）] 乳腺腫瘍の自然発症新規動物モデル・ツパイでの病理学的解析

〇池 海英[1]、一二三 達郎[1]、畑井 仁[1]、三好 宣彰[1]、矢吹 映[1]、木村 真輔[2]、小原 道法[3]、小原 恭子[1]（1.鹿大・共同獣医、2.(株)日立製作所、3.東京都医学研）

[3P-0940（4P2T26-03）] Role of anterior gradient 2 (AGR2) in metastasis of cholangiocarcinoma

〇Suchada Phimsen[1]、Thirayut Sombun[1]、Kanlayanee Sawanyawisuth[2,3]、Worasak Kaewkong[1]、Sopit Wongkham[2,3]（1.Department of Biochemistry, Faculty of Medical Science, Naresuan University, Thailand、2.Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Khon Kaen University, Thailand、3.Liver Fluke and Cholangiocarcinoma Research Center, Faculty of Medicine, Khon Kaen University, Thailand）

[3P-0941（4P2T26-04）] がん抑制因子 RBM4aはがん細胞特異的成熟 mRNA再スプライシングを抑制する: mRNA品質保証の鍵となる因子か？

〇亀山 俊樹[1]、福村 和宏[1,2]、井上 邦夫[2]、廣瀬 哲郎[3]、前田 明[1]（1.藤田保健衛生大・総医研・遺伝子発現機構、2.神大・院理・生物学、3.北大・遺制研）

[3P-0942（4P2T26-05）] Rescue of the epigenetically silenced microRNA, miR-493-5p, inhibits liver cancer progression

〇LUC GAILHOUSTE[1]、Lee Chuen Liew[1]、Takahiro Ochiya[1]（1.National Cancer Center Research Institute）

[3P-0943（4P2T26-06）] メトホルミンが*PIK3CA*-related overgrowth spectrum (PROS) 患者由来細胞におぼす治療効果

〇鈴木 康予[1]、榎戸　靖[2]、山田 憲一郎[1]、稲葉 美枝[3]、花田 直樹[4]、森下 剛[5]、水野 誠司[3]、若松 延昭[1,6]（1.愛知県コロニー・研究所・遺伝、2.愛知県コロニー・研究所・病理、3.愛知県コロニー・病院・小児内科、4.花田こどもクリニック、5.あいち小児医療セ・形成外科、6.高松市民病院・神経内科）

[3P-0944（4P2T26-07）] がん関連繊維芽細胞由来液性因子によるがん幹細胞様細胞の維持

〇村山 貴彦[1]、西村 建徳[2]、富永 香菜[1]、中田 飛鳥[2]、矢野 正雄[3]、多田 敬一郎[4]、池田 和博[5]、岡本 康司[6]、堀江 公仁子[5]、井上 聡[5]、東條 有伸[1]、後藤 典子[1,2]（1.東大・医科研・分子療法、2.金沢大・がん進展制御研・がん生物、3.南町田病院・外科、4.東大・乳腺内分泌外科、5.埼玉医科大・遺伝子情報制御、6.国立がんセ研・がん分化制御）

[3P-0945（4P2T26-08）] 悪性進展課程における RBの代謝調節機能

〇河野 晋[1]、岡橋 伸幸[2]、松田 史生[2]、清水 浩[2]、高橋 智聡[1]（1.金沢大・がん研・腫瘍分子、2.阪大院・情報・代謝情報）

[3P-0946（4P2T26-09）] *APOBEC3G*の発現抑制による放射線増感検証と作用機序の解析

〇小野寺 貴恵[1,2,3]、菊原 颯太[3,4]、藤森 浩彰[1,3]、佐々木 由香[1,2,3]、今道 祥二[2,3]、村上 康文[4]、益

©日本分子生物学会/日本生化学会

谷 美都子[1,2,3]（1.長崎大院・医歯薬・フロンティア生命科学、2.国がん研究セ・研・遺伝医学、3.国がん研究セ・研・創薬臨床、4.東京理科大・院・基礎工）

[3P-0947] Deciphering Signaling Pathway of a Novel Cancer Pro-invasive and -metastatic Molecule, Epithelial Membrane Protein 1

○Mohammad Khusni Ahmat Amin[1]、Akio Shimizu[1]、Dimitar P. Zankov[1]、Akira Sato[1]、Hisakazu Ogita[1]（1.Dev. of Mol. Med. Biochem., Dept. of Biochem. and mol. Biol., Shiga Univ. of Med. Sci.）

[3P-0948] Molecular mechanism that confers to cancer resistance in Naked Mole Rat (Implication of Wnt Signaling)

○Woei Yaw Chee[1]、Masato Okada[1]、Shigeyuki Nada[1]、Jun Yeoung Kim[1]（1.Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Osaka Univ.）

[3P-0949] Green tea catechin inhibits IFN-γ-induced PD-L1 expression in human lung cancer cells via inhibition of STAT1 &ERK1/2 signal pathways

○Anchalee Rawangkan[1,2]、Kozue Namiki[1,2]、Shota Yokoyama[1,2]、Masami Suganuma[1,2]（1.Grad. Sch. Sci. Eng., Saitama Univ., Japan、2.Res. Inst. Clin. Oncol., Saitama Cancer Ctr., Japan）

[3P-0950] Cell competition between normal and Src transformed cells

○Ping-Kuan Chen[1]、Kentaro Kajiwara[1]、Keisuke Kitano[1]、Masato Okada[1]（1.Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Osaka Univ.）

[3P-0951] Elucidation of apoptosis mechanism caused by human tumor suppressor 101F6 protein through vitamin C-induced redox disturbance

○Mohammed El Behery[1]、Takako Yamazoe[1]、Akikazu Asada[1]、Mika Fujimura[1]、Motonari Tsubaki[1]（1.Dept.of Chem., Grad. Sch. of Sci., Kobe Univ.）

[3P-0952] Eicosapentaenoic Acid Inhibits Tumor Immune Tolerance by Downregulation Tumor Indoleamine 2,3-dioxygenase 1 Expression

○Li-Hsien Wu[1]、Che-Hsin Lee[2]（1.Dept. of Public Health, Univ. of China Med., Taiwan、2.Dept. of Biol. Sci., Univ. of Natl. Sun Yat-sen, Taiwan）

[3P-0953] ATP- binding cassette B1 (ABCB1) and cell adhesion-mediated drug resistant moleculesare potentially responsible for cisplatin resistance in Nasopharyngeal carcinoma

○Pichamon Kiatwuthinon[1]、Parisa Prathaphan[1]、Utapin Ngaokrajang[1]、Tavan Janvilisri[2]（1.Dep. of Biochem., Facul. of Sci., Kasetsart Univ., Thailand、2.Dep. of Biochem., Facul. of Sci., Mahidol Univ., Thailand）

[3P-0954] Antitumour Effect of Rhinacanthins Extracted from Rhinacanthus nasutus Kurz. On Oral Cancer Cells

○Kongthawat Chairatvit[1]、Phisit Pouyfung[2]、Sirinthip Choonate[1]、Pornpimol Rongnoparut[2]（1.Department of Oral Biology, Faculty of Dentistry, Mahidol University, Thailand、2.Department of Biochemistry, Faculty of Science, Mahidol University, Thailand）

[3P-0956] microRNA-mRNA transcriptomic crosstalk of canine melanoma

○Md Mahfuzur Rahman[1,2]、Yu-Chang Lai[1,2]、Norio Ushio[2]、Yukiko Tanaka[3]、Hitoshi Hatai[5]、Takayuki Nakagawa[3]、Noriaki Miyoshi[4]、Naoki Miura[1]（1.Vet. Teach. Hospital, Joint Faculty of Vet. Med., Kagoshima Univ.、2.United Grad. Sch. of Vet. Sci., Yamaguchi Univ.、3.Dept. of Vet. Surgery, Grad. Sch. of Agri. and Life Sci., Univ. of Tokyo、4.Dept. of Vet. Histopathology, Joint Faculty of Vet. Med., Kagoshima Univ.、5.Pathogenetic and Preventive Vet. Sci., Joint Faculty of Vet. Med., Kagoshima Univ.）

[3P-0957] Pathway Analysis of Colorectal Cancer Using Metabolite Profiling

○Lucky Poh Wah Goh[1]、Edwin Un Hean See[2]、Saidah Mohd Sahid[2]、Jitt Aun Chuah[2]、Jayaram Menon[3]、Yee Soon Ling[4]、Ping-Chin Lee[1,4]（1.Fac. of Sci. and Nat. Res., Univ. Malaysia Sabah, Jln UMS, Malaysia、2.Dept. of Surg., Queen Elizabeth Hospital, Malaysia、3.Gastroenterol Unit, Queen Elizabeth Hospital, Malaysia、4.Biotech. Res. Inst,Univ. Malaysia Sabah, Jln UMS, Malaysia）

[3P-0958] The Preventive Effect of *Perilla frutescens* Leaf Extract on the initiation stages of 1, 2-Dimethylhydrazine-induced Colon Carcinogenesis in Rats.

○Chakkrit Khanaree[1,2]、Komsak Pintha[2]、Maitree Suttajit[2]、Teera Chewonarin[1]（1.Dept. of Bioc.,

©日本分子生物学会/日本生化学会

Fac. of Med., CMU、2.Div. of Bioc. Nutr., Sch. of Med. Sci., Univ. of Phayao）

[3P-0959] Stemofoline specifically altered P-gp-mediated multidrug resistance in cancer cells *in vitro* and *in vivo*

○Sonthaya Umsumarng[1,2,3]、Pornsiri Pitchakarn[1]、Mapoung Sariya[1,2]、Suppachai Yodkeeree[1,2]、Wanisa Punfa[1,2]、Yasuhito Kobayashi[4]、Masami Suganuma[3]、Pornngarm Limtrakul[1,2]（1.Dept. of Biochem., Fac. of Med., Chiang Mai Univ., Thailand、2.Cent. for Res. and Dev. of Nat. Prod. for Health, Fac. of Med., Chiang Mai Univ., Thailand、3.Grad. Sch of Sci and Engin, Saitama Univ.、4.Saitama Cardiovascular and Respiratory Center）

[3P-0960] アンモニアを利用するがん細胞は栄養飢餓状態でも生存できる

○竹内 由紀子[1]、中山 泰宗[2]、福崎 英一郎[2]、入野 康宏[3]（1.神大・医・質量分析総合センター、2.大阪大・工・先端工学専攻、3.神大・医・立証検査医学）

[3P-0961] 転写因子ＤＥＣ１とＤＥＣ２は日内リズムと腫瘍の発育進展をクロストークする

○佐藤 冬樹[1]、Ujjal Bhawal[2]、及川 恒輔[1]、村垣 泰光[1]（1.和医大・病理、2.日大・松戸・歯・分子生物）

[3P-0962] 非メラノーマ性皮膚癌細胞に対するタモキシフェンの増殖抑制効果と細胞内カルシウム濃度変化の検討

○中島 佑一[1]、赤塚 琴美[1]、横江 祐美子[2]、長谷川 豪[3]、下仲 基之[3]（1.東理大・院理・化、2.東理大・院総化研、3.東理大・理・化）

[3P-0963] 明暗シフトによる生体リズムの撹乱が乳がん進展に及ぼす影響

○沼田 実[1]、保田 倫子[2]、三浦 伸彦[3]、茶山 和敏[4]、柴田 雅朗[5]、宋 復燃[6]、浅井 知浩[6]、奥 直人[6]、下位 香代子[1]（1.静岡県大・院薬食総合・環境、2.椙山女大・生活科学、3.安衛研、4.静岡大・農学、5.大阪医科大・医学、6.静岡県大・院薬食総合・薬食生命）

[3P-0964] ヒト神経膠芽腫由来 U87MG細胞から樹立した高い腫瘍形成能を持つスフェロイドは PC3-Secreted Microprotein を高発現する

○丸山 正人[1]、中野 洋輔[1]、岩田 亮一[2]、西村 拓也[1]、加瀬 政彦[1]、杉本 哲夫[1]（1.関西医大・院医・脳構築学、2.関西医大・院医・脳神経病態治療学）

[3P-0965] 担癌マウスへの^{14}C-Sulfoquinovosylacylpropanediol (^{14}C-SQAP) 単回静脈内投与後の体内分布と代謝解析

類家 竜司[1]、金井 良博[1]、岩端 一樹[1]、松本 勇記[1]、村田 寛[1]、石間 正浩[1]、太田 慶祐[1]、○大重 真彦[2]、桂 進司[2]、倉持 幸司[1]、紙透 伸治[1]、佐原 弘益[3]、三浦 雅彦[4]、菅原 二三男[1]、坂口 謙吾[1]（1.東理大・理工・応用生物、2.群大・院理工・環境創生、3.麻布大・獣医・生物学、4.医科歯科大・院医歯）

[3P-0966] アデノウイルス E1Aによる転写因子 E2F3の新しい発現制御機構

○服部 拓[1]、荒木 啓吾[1]、大谷 清[1]（1.関学・院理・生命医化学）

[3P-0967] （プロ）レニン受容体発現の増大によって生じるゲノム不安定性の分子メカニズム

○柴山 弓季[1]、西山 成[1]（1.香川大・医・薬理）

[3P-0968] 硫酸付加糖鎖腫瘍マーカー候補群の構造解析とその定量

○岡本 三紀[1]、半澤 健[1]、宮本 泰豪[1]（1.大阪国際がんセ・研・分子生物）

[3P-0969] 成人 T細胞白血病ウイルス1型感染細胞株における Dorsomorphin誘導性アポトーシスの作用機序

○相川 晃慶[1]、小迫 知弘[1]、福田 梓[1]、吉満 誠[2]、有馬 直道[2]、本田 伸一郎[1]（1.福岡大・薬、2.鹿児島大・医）

[3P-0970] がん原遺伝子産物 YAP依存的な肝がん誘導系の確立

○長岡 勇也[1]、宮村 憲央[1]、仁科 博史[1]（1.東京医歯大・難治研・発生再生）

[3P-0971] がん細胞における ASK1ががん転移時に果たす機能の解析

○大亀 美桜[1]、神山 美樹[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[3P-0972] 抗腫瘍性免疫における ASK1の機能解析

○布施 耕介[1]、神山 美樹[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東京大・院薬・細胞情報）

[3P-0973] 次世代シーケンサーによる血中循環腫瘍細胞(CTCs)の遺伝子変異プロファイリング

○鬼谷 薫[1,2]、吉本 世一[3]、三浦 奈美[1]、庄司 広和[4]、加藤 健[4]、柴原 孝彦[2]、本田 一文[1,5]（1.国がん・研究所・早期診断バイオマーカー開発部門、2.東京歯科大・口腔顎顔面外科学講座、3.国がん・中央病院・頭頸部腫瘍科、4.国がん・中央病院・消化管内科、5.AMED-CREST）

[3P-0974] 既存薬ライブラリーを用いた, 活性型 Ras変異がんを標的とする分子標的治療の探索

○下村 巌[1,2]、横井 暁[1]、山本 雄介[1]、多田 裕司[2]、巽 浩一郎[2]、落谷 孝広[1]（1.国立がん研セ・研・分子細胞

©日本分子生物学会/日本生化学会

治療、2.千葉大・院医・呼吸器内科学）

[3P-0975] マルチカラー蛍光イメージングによるスキルス胃癌転移過程の解析
○中坊 彩花[1,2]、深見 希代子[2]、山口 英樹[1]（1.佐々木研究所・附属研・腫瘍細胞、2.東薬大・生命科学・ゲノム病態医科学）

[3P-0976] Doxorubicin耐性細胞における Keap1-Nrf2 pathwayの役割
○蓬田 伸[1]、染谷 明正[2]、數野 彩子[3]、上野 隆[3]、三浦 芳樹[3]、菅野 秀一[1]、冨澤 亜也子[1]、原 明義[1]、藤村 務[4]（1.東北医薬大・薬・薬物治療、2.順天堂大・医・生化学・生体防御学、3.順天堂大・医・研基セ・生体分子、4.東北医薬大・薬・臨床分析化学）

[3P-0977] 乳房外パジェット病における5-FU代謝酵素の発現レベル
○梶原 一亨[1]、中村 有希[1]、尹 浩信[1]（1.熊本大・皮膚科）

[3P-0978] Mint3は膵癌細胞の細胞増殖を制御する
○柳津 瞳[1]、金森 茜[1]、坂本 毅治[1]、村上 善則[1]（1.東大・医科研・人癌病因遺伝子分野）

[3P-0979] CDKインヒビター p21Cip1の過剰発現はがん細胞特異的な E2F活性を増強し、特異的に反応する ARFプロモーターを用いた傷害法を改善できる
○倉吉 健太[1]、大谷 清[1]（1.関西学院大学大学院・理工学研究科）

[3P-0980] 高汎用性光免疫療法による腫瘍環境の統括的制御
○白須 直人[1]、山田 博美[1]、芝口 浩智[1]、黒木 求[2]、黒木 政秀[1]、安永 晋一郎[1]（1.福岡大・医・生化学、2.福岡大・医・看護）

[3P-0981] NAD^+生合成経路の律速酵素である nicotinamide phosphoribosyltransferaseを抗がん標的とした新規阻害剤の創製
○葛城 粛貴[1]、浅輪 泰允[2]、佐藤 聡[1]、荻野 暢子[1]、高井 祐輔[1]、吉森 篤史[3]、大山 貴央[4]、阿部 英明[4]、中村 浩之[2]、田沼 靖一[1]（1.東京理大薬、2.東工大・化学生命研、3.（株）理論創薬研究所、4.ヒノキ新薬（株））

[3P-0982] PARP1タンパク質新規制御機構～がん治療への応用～
○尾脇 美香[1]、石崎 由夏[1]、柿山 勇理[1]、小林 正樹[1,2]、須藤 結香[1,2]、沖田 直之[3]、樋上 賀一[1,2]（1.東京理大・薬・分子病理代謝、2.東京理大・総研・TRセンター、3.佐々木研究所）

[3P-0983] 骨髄由来サプレッサー細胞の数が多ければ多いほど、腫瘍転移がより促進されうるか？
○京 雪楓[1]、澤田 貴広[1]、園木 孝志[2]、林 菜摘[1]、中松 和海[1]、宮嶋 正康[3]、坂口 和成[1]（1.和医大・先端医研所・分子医研部、2.和医大・医学部付属病院・血液内科、3.和医大・動物実験施設）

[3P-0984] がん細胞集団内における Src活性化細胞の解析
○大倉 寛也[1]、梶原 健太郎[1]、岡田 雅人[1]（1.阪大・微研・発癌）

[3P-0985] マルチ生物発光レポーターシステムを用いた骨転移発症過程における前立腺がんと骨髄間質細胞の相互作用解析
○峯岸 美紗[1]、口丸 高弘[1]、藤森 慧[1]、礒崎 達大[1]、門之園 哲哉[1]、近藤 科江[1]（1.東工大・生命理工）

[3P-0986] 長期保存ホルマリン固定パラフィン包埋甲状腺がん組織から抽出した DNAのゲノムシークエンスへの検討
○林 奉権[1]、藤原 恵[2]、中川 英刀[3]、森下 ゆかり[1]、佐々木 圭子[1]、牧 真由美[1]、長村 浩子[1]、藤田 征志[3]、Sarah Wagner[4]、Kristine Jones[4]、Belynda Hicks[4]、Stephen Chanock[4]、馬淵 清彦[4]、小笹 晃太郎[5]（1.放射線影響研究所・分子生物科学部、2.広島赤十字・原爆病院・病理診断科、3.理化学研究所・統合生命医科学研究センターゲノムシーケンス解析研究チーム、4.米国国立がん研究センター・がん疫学・遺伝学部、5.放射線影響研究所・疫学部）

[3P-0987] 下垂体前葉発生に関与する転写因子は小細胞肺癌の神経内分泌性格を制御する
○末永 雄介[1]、新行内 雅斗[1]、兼松 宗太郎[1]、飯笹 俊彦[2]、加藤 護[3]、横井 左奈[1]（1.千葉県がんセ・研・がんゲノムセンター、2.千葉県がんセ・呼吸器科、3.国がんセ・研究所・バイオインフォ）

[3P-0988] 血管内皮細胞における ASK1が肺へのがん転移を制御する
○古川 夏輝[1]、神山 美樹[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

[3P-0989] RNA結合蛋白質 TIA1の細胞内機能調節に着目した新規食道癌治療法の開発
○増田 清士[1]、河本 知大[1]、濱田 隼一[1]、庄田 勝俊[1]、藤田 悠司[1]、丹下 正一朗[1]、斎藤 雅子[1]、井本 逸勢[1]（1.徳大・院医歯薬・人類遺伝学）

[3P-0990] 抗がん剤 Gemcitabine耐性マウス膵癌細胞の樹立と解析
○角井 祐介[1]、清水 一也[1,2]、竹垣 普恵[1]、西村 綾乃[1]、三好 真琴[1]、赤城 剛[3]、笹井 研[3]、堀 裕一[1]（1.神大・院保・保健学、2.国立病院機構神戸医療センター・内科、3.株式会社カン研究所）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-0991] コショウボク果実によるマトリックスメタロプロテアーゼ活性抑制作用
○坂本 加奈[1]、神谷 哲朗[1]、原 宏和[1]、阿部 尚仁[2]、大山 雅義[2]、足立 哲夫[1]（1.岐阜薬大・臨床薬剤学、2.岐阜薬大・生薬学）

[3P-0992] 胃癌の予後予測マーカーおよび治療標的候補としての新規癌遺伝子 OEGC1の同定と機能解析
○河本 知大[1]、増田 清士[1]、庄田 勝俊[2]、丹下 正一郎[1]、井本 逸勢[1]（1.徳島大・院医歯薬・人類遺伝、2.京府医・消化器外科）

[3P-0993] Ras-ERK経路のドミナントネガティブ拮抗因子DA-Rafはがん抑制蛋白質である
菅野 英美里[1]、○高橋 和也[1]、川崎 修[1]、高野 和儀[1]、遠藤 剛[1]（1.千葉大・院理・生物）

[3P-0994] 抗がん剤耐性膵癌細胞ではヒストンアセチル化を介した Kras-MEK-Matrix Metalloproteinase-10シグナルがGemcitabine投与で増強する
○西村 綾乃[1]、清水 一也[1,2]、角井 祐介[1]、竹垣 普恵[1]、三好 真琴[1]、堀 裕一[1]（1.神戸大・院保健・病態解析学、2.神戸医療センター・内科）

[3P-0995] 新規 RAGE阻害薬による線維肉腫細胞腫瘍悪性の抑制効果の検討
○棟居 聖一[1]、Ali Hafez Ali El-Far[1]、原島 愛[1]、武内 章彦[1]、河野 修平[1]、田中 麻莉子[1]、佐藤 聡[2]、中島 槙吾[1]、田沼 靖一[2]、山本 靖彦[1]（1.金沢大・院・医・血管分子生物学、2.東京理大・薬・薬学科）

[3P-8-2] 8. 疾患生物学-2) 免疫、免疫疾患

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-0996] 新規 Spleen Tyrosine Kinase選択的阻害剤TAS05567の自己免疫疾患モデルの病態進行に対する効果
○林 宏明[1]、出水 俊輔[1]、金子 龍介[1]、赤坂 大地[1]、入江 弘樹[1]、川岸 亜紀[1]、荻野 悦夫[1]、宇津木 照洋[1]、佐々木 英治[1]、岩沢 善一[1]（1.大鵬薬品工業株式会社）

[3P-0997] セファデックス誘発気道炎症モデルにおけるPDE4阻害剤 TAS-203の抗炎症作用の検討
○出水 俊輔[1,2]、浅香 直正[1]、川原 裕之[2]、佐々木 英治[1]（1.大鵬薬品工業株式会社、2.首都大・院理工・生命科学）

[3P-0998] MafBは腫瘍随伴マクロファージを抑制し腫瘍増殖を制御する
○井上 由理[1,2]、藤井 梨紗[1,2]、今村 優希[1]、濱田 理人[1]、工藤 崇[1]、高橋 智[1]（1.解剖学・発生学研究室、2.筑波大学人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻）

[3P-0999（4LT24-08）] MafBは脾臓における腫瘍随伴マクロファージ前駆体を制御し、がんを抑制する
○藤井 梨紗[1,2]、濱田 理人[2]、井上 由理[1,2]、今村 優希[2]、工藤 崇[2]、高橋 智[2]（1.筑大・院人間総合科学・フロンティア医科学、2.筑大・医学医療・解剖発生）

[3P-1000] マクロファージでの MafBの欠損は肥満を促す
○濱田 理人[1]、Mai Tran[1]、全 静孝[1]、工藤 崇[1]、高橋 智[1]（1.筑波大・医学医療・解剖学発生学）

[3P-1001] B細胞活性化能をもつ単球系細胞分化おける IL-34の新規な作用機構の解明
○小川 紗也香[1]、山根 文寛[1]、松井 一恵[1]、安原 詩織[1]、高田 美帆[1]、松岡 由希子[1]、徳光 浩[1]、山 直樹[1]、大森 斉[1]、曲 正樹[1]（1.岡山大・院自然科学・生命医用）

[3P-1002] 濾胞樹状細胞の発現する CSF-1の単球系細胞分化への関与の解析
○安原 詩織[1]、松岡 由希子[1]、小川 紗也香[1]、金山 直樹[1]、徳光 浩[1]、曲 正樹[1]（1.岡山大・院自然科学・生命医用）

[3P-1003（4LT24-02）] 結核肉芽腫形成を制御する好中球機能の解明
○水谷 龍明[1]、吉岡 祐弥[2]、大内 結貴[2]、森田 大輔[1,2]、杉田 昌彦[1,2]（1.京大・ウイルス再生研・細胞制御、2.京大・院生命科学・高次生命科学）

[3P-1004（4LT24-03）] マスト細胞を介する線維化因子の誘導
○神谷 亜美[1]、定兼 友樹[1]、古田 和幸[1]、田中 智之[1]（1.岡山大院・医歯薬・免疫生物）

[3P-1005（4LT24-04）] マクロファージの USP2はOCTを修飾し、炎症性サイトカインの産生を抑制する。
○北村 浩[1]、岡部 潤[2]、石野 武志[1]、嶋本 良則[3]、高橋 英機[4]（1.酪農大・獣医・獣医、2.Dept. of Diabetes, Cent. Clin. Sch., Monash Univ.、3.酪農大・獣医・獣医保健看

©日本分子生物学会/日本生化学会

護、4.理研・脳科学・動物資源）

[3P-1006（4LT24-05）] TANKは STINGシグナルの制御を介し Pristaneによる肺胞出血を抑止する
○若林 敦子[1]、竹内 理[1]（1.京大・ウイルス・再生研）

[3P-1007（4LT24-06）] ビタミン K依存性カルボキシラーゼ GGCXによる脳内ウイルス感染時の恒常性維持機構の解析
○岡崎 朋彦[1]、後藤 由季子[1]（1.東大・院薬・分子生物学）

[3P-1008（4LT24-07）] グリア細胞における calcineurin欠損が小腸の変性・炎症と消化・吸収不良を引き起こす
○大倉 宇海[1]、平嶋 尚英[1]、田中 正彦[1]（1.名市大院・薬・生体超分子システム解析学）

[3P-1009（4LT24-09）] 炎症性腸疾患患者における喫煙による腸内環境の変動
○宮内 栄治[1]、佐藤 由美子[1]、内山 幹[2]、小井戸 薫雄[2]、荒川 廣志[3]、川住 雅美[1]、伊藤 鮎美[1]、大草 敏史[2]、大野 博司[1]（1.理研・IMS・粘膜システム研究グループ、2.慈恵医大・消化器・肝臓内科、3.慈恵医大・内視鏡部）

[3P-1010（4P2T24-01）] MicroRNA-381の A to I RNA editingによる関節炎制御メカニズムの解明
○田中 陽子[1,2]、高田 修治[3]、飯笹 久[4]、Artemis Hatzigeorgiou[5]、宮澤 慎一[6]、古松 毅之[6]、西田 圭一郎[6]、浅原 弘嗣[1]（1.医科歯科大・医歯学総合・シス医、2.学振、3.成育セ・シス医、4.島根大・微生物学、5.DIANA-Lab, BSRC Alexander Fleming、6.岡大・医歯薬学・人体構成）

[3P-1011（4P2T24-02）] 関節リウマチ治療前後で変動する血液循環 miRNAの生理作用の解析
○早川 国宏[1]、川崎 美紀子[1]、平井 琢也[2]、藤城 真樹[1]、芳田 祐子[1]、渡部 晃三[1]、片岡 裕子[1]、池田 圭吾[2]、森本 真司[2]、関川 巖[1,2]（1.順大・院医・環境研、2.順大附属浦安病院・膠原病・リウマチ内科）

[3P-1012（4P2T24-03）] 関節リウマチ患者由来自己抗体が認識する非変性状態の抗原の同定と自己抗体誘導仮説
○小澤 龍彦[1]、津田 玲奈[2]、浜名 洋[1]、小林 栄治[1]、多喜 博文[2]、戸邊 一之[2]、村口 篤[1]、岸 裕幸[1]（1.富山大・医・免疫、2.富山大・医・第一内科）

[3P-1013（4P2T24-04）] クローン病モデルマウス SAMP1/YitFcにおける Paneth細胞α-defensinの misfolding
○清水 由宇[1]、中村 公則[2]、菊池 摩仁[2]、櫻木 直也[2]、綾部 時芳[2]（1.北大・生命科学・自然免疫、2.北大・先端生命・細胞生物化学・自然免疫）

[3P-1014（4P2T24-05）] 乳児期の経口免疫寛容と食物アレルギー発症の判定に有用なイムノグロブィンクラススイッチパターンの違いと IgEの高抗原親和性、低親和性 IgE
○木戸 博[1]、苛原 誠[2]、品原 和加子[1]、香美 祥二[2]（1.徳島大学先端酵素学研究所、2.徳島大学医学部小児科）

[3P-1015（4P2T24-06）] T細胞の自己寛容性確立における CCL21の役割
○大東 いずみ[1]、石丸 直澄[2]、片貝 智哉[3]、高浜 洋介[1]（1.徳大・先端酵素・免疫系発生学、2.徳大・院歯・口腔分子病態学、3.新潟大・院医歯・免疫・医動物学）

[3P-1016（4P2T24-07）] Mrgファミリーを介するマスト細胞活性化機構の解明
○酒巻 一眞[1]、綿貫 遥[1]、古田 和幸[1]、田中 智之[1]（1.岡山大院・医歯薬・免疫生物）

[3P-1017（4P2T24-08）] 細胞質 DNA応答分子 STINGの遺伝性変異に起因する炎症応答恒常活性化機構の解析
○小川 笑満里[1]、向井 康治朗[1]、田口 友彦[2]、新井 洋由[1,2,3]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.東大・院薬・衛生化学、2.東大・院薬・疾患細胞、3.AMED-CREST）

[3P-1018（4P2T24-09）] 胚中心形成における新規LysoPS 受容体の役割

○新上 雄司[1,2,3]、佐藤 慧太[1]、深見 郁也[1]、青木 淳賢[1,3]（1.東北大学大学院薬学研究科分子細胞生化学、2.日本学術振興会特別研究員DC、3.AMED-CREST）

[3P-1022] Effect of Eucommia ulmoides Oliv., Gynostemma pentaphyllum, and Curcuma longa on IL-10 response and HLA-DR expression in peripheral blood mononuclear cells of septic patients

○Huang-Pin Wu[1,2]、Yin-Ku Lin[2,3]（1.Division of Pulmonary, Critical Care and Sleep Medicine, Chang Gung Memorial Hospital, Taiwan、2.Chang Gung University College of Medicine, Taiwan、3.Department of Traditional Chinese Medicine, Chang Gung Memorial Hospital, Taiwan）

[3P-1023] 糖尿病由来好中球の機能制御に関与するmicroRNA・炎症関連遺伝子群の同定及び機能解析

○梅原 敬弘[1]、村瀬 壮彦[1]、森 亮一[2]、安倍 優樹[1]、山本 琢磨[1]、池松 和哉[1]（1.長大・院医・法医学、2.長大・院医・病理学）

[3P-1024] ショウジョウバエ幼虫における無菌炎症の誘導に関わる新規経路の探索

○堀 亜紀[1]、見目 裕之[3]、野中 さおり[2]、福嶋 和貴[1]、山田 夏美[2]、川端 真代[2]、倉田 祥一朗[3]、倉石 貴透[2,4]（1.金沢大院・医薬保健学総合・創薬科学、2.金沢大・医薬保健・薬学、3.東北大院・薬学、4.慶應大・医）

[3P-1025] アフリカツメガエルのマクロファージはインテレクチンファミリー血清レクチン、 XCL-1を合成する

○永田 三郎[1]、田沼 繭子[1]（1.日本女子大・理・生物）

[3P-1026] serum MAFによるマクロファージ活性化メカニズムの解析

○石川 真実[1]、真柴 里歩[1]、川勝 薫平[1]、トラン キェト[1]、岩崎 哲史[2]、西方 敬人[1]（1.甲南大・FIRST、2.神戸大・バイオシグナル総合研究センター）

[3P-1027] 濾胞性ヘルパー T細胞分化への胸腺でのレチノイン酸による Gata3誘導と脾臓での Fog1誘導の関与

○山田 俊幸[1,3]、清水 武史[3]、土田 成紀[2,3]（1.日本薬大・薬・生命分子薬学、2.弘前医療福祉大・保健・医療技術、3.弘前大・院医・ゲノム生化学）

[3P-1028] 全身性エリテマトーデスの発症・進行におけるα2-antiplasminの役割

○松田 彩華[1]、宮下 芽衣[1]、松尾 理[2]、菅野 陽介[1]（1.同女大・薬学部、2.近大・医学部）

[3P-1029] 尋常性乾癬の病態に関与する血清ペプチドの同定

○佐藤 政秋[1]、松浦 哲彦[2]、永井 宏平[3]、佐藤 利行[1]、有戸 光美[1]、表山 和樹[1]、末松 直也[1]、加藤 智啓[1]、相馬 良直[2]、黒川 真奈絵[4]（1.聖マリ医大院・疾患プロテオーム・分子病態治療学、2.聖マリ医大・皮膚科学、3.近大・生物理工・遺伝子工学、4.聖マリ医大院・疾患バイオマーカー・標的分子制御学）

[3P-1030] 制御性 T細胞の分化誘導に関わるシグナル伝達経路の解明

○小谷 唯[1,2]、住吉 麻実[2]、伊藤 量基[4]、神田 晃[5]、平尾 敦[6]、渡邊 利雄[3]、松田 達志[2]（1.奈良女子大・理・化学生命環境、2.関西医大・生体情報、3.奈良女子大・院人間文化・共生自然、4.関西医大・一内、5.関西医大・耳鼻、6.金大・がん研・遺伝子染色体）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 3) 感染症（ポスター）

[3P-8-3] 8. 疾患生物学-3) 感染症

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場2 (神戸国際展示場 2号館 1階)

[3P-1031（4AT05-01）] ヤブカにおける共生細菌ボルバキアとウイルスの相互作用

○大手 学[1,2]、嘉糠 洋陸[1,2]（1.慈恵医大・熱帯医学、2.慈恵医大・衛生動物セ）

[3P-1032（4AT05-02）] 黄色ブドウ球菌の嫌気呼吸系発現上昇の病原性に対する寄与

○浜本 洋[1]、Suresh Panthee[1]、Atmika Paudel[1]、扇喜 秀[1]、鈴木 穣[2]、関水 和久[2]（1.帝京大学・医真菌、2.東大・新領域）

[3P-1033（4AT05-03）] Molecular characterization and proteome analysis of *Vibrio vulnificus* isolated from diseased brown-marbled grouper (*Epinephelus fuscoguttatus*)

©日本分子生物学会/日本生化学会

○Thararat Phurahong[1]、Atittaya Hoihuan[1]、Patcharee Soonson[2]、Paiboon Bunlipatanon[2]、Jumroensri Thawonsuwan[2]、Varin Tanasomwang[2]、Nontawith Areechon[3]、Sittiruk Roytrakul[4]、Sasimanas Unajak[1]（1.Dept. of Biochemistry, Faculty of Science, Kasetsart University、2.Coastal Fisheries Research and Development Bureau, Department of Fisheries, Ministry of Agriculture and Cooperatives、3.Dept. of Aquaculture, Faculty of Fisheries, Kasetsart University、4.Proteomics Laboratory, Genome Institutes, National Center for Genetic Engineering and Biotechnology）

[3P-1034（4AT05-04）] プロタミンのアクネ菌に対する抗菌性の評価

○田代 有香[1]、本田 みちよ[1]（1.明大・院理工・応用化学）

[3P-1035（4AT05-05）] 呼吸器感染症を起こすフィラメント状桿菌

○池 郁生[1]、梶田 亜矢子[1]、吉木 淳[1]、坂本 光央[2]、小久保 年章[3]（1.理研・BRC・実験動物、2.理研・BRC・JCM、3.QST放医研・技術安全部・生物研究推進課）

[3P-1036（4AT05-06）] CFTR発現は*Campylobacter jejuni*の微小管を介した輸送を抑制する

○木戸 純子[1]、下畑 隆明[1]、天野 幸恵[1]、畑山 翔[1]、天宅 あや[1]、福島 志帆[1]、中橋 睦美[2]、上番増 喬[1]、馬渡 一諭[1]、高橋 章[1]（1.徳島大・院医歯薬学研究部・予防環境栄養学、2.徳島大・生物資源産業学部）

[3P-1037（4AT05-07）] 抗酸菌由来 Ag85Bを組み込んだ組換え BCGワクチンが誘導する H2-K^{d}拘束性 CD8^{+}T細胞は結核感染防御にはたらく

○相澤（小峯） 志保子[1,3]、Jiansheng Jiang[3]、松尾 和浩[2]、早川 智[1]、Lisa Boyd [3]、David Margulies[3]、本多 三男[1]（1.日大・医・微生物学、2.日本BCG研究所、3.米国NIH・NIAID・Lab. of Immunol.）

[3P-1038（4AT05-08）] 熱帯熱マラリア原虫・生殖母体期のヘモグロビン輸送における寄生胞膜動態の形態学的アプローチ

○入子 英幸[1]、見村 琴美[1]、大槻 均[2]、橘 真由美[3]、石野 智子[3]、鳥居 本美[3]、坪井 敬文[4]（1.神戸大・院保・国際保健学、2.鳥取大・医・医動物学、3.愛媛大・PROS・寄生病原体学、4.愛媛大・PROS・マラリア研究）

[3P-1039（4AT05-09）] インフルエンザウイルスのヒストン様タンパク質・ヌクレオプロテインに対する アセチル化修飾によるウイルス RNAポリメラーゼ活性変化

○畠山 大[1]、庄司 正樹[1]、山吉 誠也[2]、楊 理奈[1]、大海 菜穂[1]、竹中 志織[1]、齋藤 彩香[1]、新垣 優美絵[1]、増田 麻来[1]、小松 嗣典[1]、中野 雅博[3]、野田 岳志[3]、河岡 義裕[2]、葛原 隆[1]（1.徳島文理大・薬、2.東大・医科研、3.京大・ウイルス研）

[3P-1040（4AT05-10）] プリオン蛋白質はインフルエンザ Aウイルスの感染を制御する

○千田 淳司[1]、原 英之[1]、坂口 末廣[1]（1.徳大・先端酵素研・神経変性病態学）

[3P-1041（4AT05-11）] GAPDHおよび ENO1は moonlightingタンパク質として HIV複製を制御する

○岸本 直樹[1]、伊賀 望[2]、山本 謙吾[2]、高宗 暢暁[3]、三隅 将吾[1]（1.熊本大院・生科・環境分子保健学、2.熊本大・薬・環境分子保健学、3.熊本大・KUICC）

[3P-1042（4AT05-12）] Inhibition of Notch Signaling contributes to the degradation of Intracellular HBV by regulation of ITCH in

an ubiquitin dependent manner
○Zijing Wang[1]、Kazunori Kawaguchi[1]、Honda Masao[1]、Hikari Okada[1]、Takayoshi Shirasaki[1]、Tetsuro Shimakami[1]、Shuichi Kaneko[1]（1.Department of Gastroenterology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science）

[3P-1043（4AT05-13）] ヒト小腸エンテロイドにおけるヒトノロウイルス GII.3の複製に関与する胆汁成分の同定
○村上 耕介[1]、Victoria Tenge[2]、Khalil Ettayebi[2]、Sue Crawford[2]、Sasirekha Ramani[2]、Xi-Lei Zeng[2]、Robert Atmar[2]、Mary Estes[2]（1.感染研・ウイルス２、2.ベイラー医科大学・MVM）

[3P-1044（4AT05-14）] 新規ペプチド性抗インフルエンザ薬は新生ヘマグルチニンを誘導性ラメラボディへと隔離する
○近江 純平[1]、高橋 美帆[1]、猪飼 桂[2]、ツェン チン・イ[1]、名取 泰博[3]、山下 誠[4]、西川 喜代孝[1]（1.同志社大・生命医科・分子生命化学、2.長崎大・熱帯医学研究所・国際保健学分野、3.岩手医科大・薬・衛生化学講座、4.東京大・医科研・ウイルス感染分野）

[3P-1045（4AT05-15）] インフルエンザウイルス感染における HIF-1活性化因子 Mint3を介した自然免疫応答機構の解析
○植松 崇之[1]、藤田 智子[1]、中岡 寛樹[2]、原 敏朗[3]、小林 憲忠[1]、村上 善則[2]、清木 元治[4]、坂本 毅治[2]（1.北里大・北里大メディカルセ・研究部門、2.東大・医科研・人癌病因遺伝子分野、3.東大・医科研・腫瘍細胞社会学分野、4.金沢大・医薬保健研究域・医学系）

[3P-1046] Anti-influenza potential and mechanism of action of Centella asiatica (L.) Urban juice and its constituents
○Nongluk Sriwilaijaroen[1]、Kouhei Iida[3]、Masaaki Noji[3]、Siripen Torudom[1]、Sirikul Manochantr[1]、Hiroaki Hiramatsu[4]、Toshio Kawahara[4]、Akemi Umeyama[3]、Yasuo Suzuki[2]（1.Dept. of Preclinical Sci., Faculty of Med., Thammasat Univ., Thailand、2.Coll. of Life, Health Sci., Chubu Univ.、3.Faculty of Pharm. Sci., Tokushima Bunri Univ.、4.Coll. of Engineering, Chubu Univ.）

[3P-1047] カスパーゼ3プローブ発現細胞を用いたクラミジア感染宿主細胞内のアポトーシス制御機構の探索
○松尾 淳司[1]、芳賀 早苗[2]、大久保 寅彦[1]、中村 眞二[3]、小澤 岳昌[4]、尾崎 倫孝[2]、山口 博之[1]（1.北大・院保科・病態解析、2.北大・院保科・生体応答制御医学、3.順大・院医・形態解析イメージング、4.東大・院理・化学）

[3P-1048] ヒト肝癌由来 Huh7.5.1-8細胞とアフリカミドリザル腎由来 Vero細胞における日本脳炎ウイルス産生の比較解析
○齊藤 恭子[1]、深澤 征義[1]、白砂 圭崇[1]、鈴木 亮介[2]、脇田 隆字[2]、小西 英二[3]、花田 賢太郎[1]（1.感染研・細胞化学、2.感染研・ウイルス２、3.阪大微研）

[3P-1049] *Streptococcus pneumoniae* Ccs4は脳血管内皮細胞への付着・侵入を促進する病原因子である
○広瀬 雄二郎[1]、山口 雅也[1]、後藤 花奈[1]、住友 倫子[1]、中田 匡宣[1]、川端 重忠[1]（1.阪大院・歯・口腔細菌）

[3P-1050] ヒト肺サーファクタント由来、新規経口粘膜アジュバント SF-10インフルエンザワクチンの開発
○木本 貴士[1]、堺 聡子[1]、大野 仁詩[1]、西山 大喜[1]、高橋 悦久[1]、木戸 博[1]（1.徳大・先端酵素研・生体感染代謝）

ポスター・展示会場3

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 4) 代謝疾患、生活習慣病、メタボロミクス、老化（ポスター）

[3P-8-4] 8. 疾患生物学-4) 代謝疾患、生活習慣病、メタボロミクス、老化

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1051] 高脂肪食負荷マウスにおける肥満関連病態に対する糖転移ヘスペリジンの影響
○吉田 裕樹[1]、津波古 梨花[1]、松田 直也[2]、出山 由貴[2]、井上 美菜[2]、渡辺 渡[3]、杉田 千泰[2]、黒川 昌彦[1]（1.九保大・院薬・生化学、2.九保大・薬・生化学、3.九保大・院薬・微生物学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1052] 高脂肪食誘導性肥満初期におけるマウス脂肪組織への免疫細胞浸潤に対するナリンゲニンの影響
○津波古 梨花[1]、吉田 裕樹[1]、渡辺 渡[2]、杉田 千泰[3]、黒川 昌彦[1]（1.九保大・院薬・生化学、2.九保大・院薬・微生物学、3.九保大・薬・生化学）

[3P-1053（4P1T06-07）] LY6Dにより誘導されるマクロピノサイトーシスは老化細胞の生存促進に働く
○長野 太輝[1]、大西 健悟[2]、岩崎 哲史[1,2]、中嶋 昭雄[1,3]、吉川 潮[1,3]、鎌田 真司[1,2]（1.神戸大・バイオシグナル総合研究センター、2.神戸大・院理・生物、3.神戸大・院農・資源生命科学）

[3P-1054] 新規老化関連遺伝子 EPN3の機能解析
○寺地 杏樹[1]、長野 太輝[2]、山尾 俊介[3]、岩崎 哲史[1,2,3]、中嶋 昭雄[2,4]、吉川 潮[2,4]、鎌田 真司[1,2,3]（1.神戸大・理・生物、2.神戸大・バイオシグナル総合研究センター、3.神戸大・院理・生物、4.神戸大・院農・資源生命科学）

[3P-1055] 食事誘発性熱産生に三大栄養素やマウス系統が及ぼす影響
○伊香賀 玲奈[1]、李 冬陽[1,2]、田中 茂穂[1]、山崎 聖美[1]（1.医薬基盤・健康・栄養研 国立健康・栄養研 栄養代謝、2.お茶大・院・人間文化創成科学）

[3P-1056] 高脂肪食及び高砂糖食摂取による肥満発症における 白色脂肪組織及び褐色脂肪組織の概日リズム変化の解析
○李 冬陽[1,2]、伊香賀 玲奈[2]、小川 温子[1]、山崎 聖美[1]（1.お茶の水女子大学・院・人間文化創成科学研究科、2.医薬基盤・健康・栄養研究所　国立健康・栄養研究所　栄養代謝）

[3P-1057（3PT26-01）] 単一の個人から分離された線維芽細胞及びその細胞から作製したiPS細胞のエピジェネティッククロックの解析
○堀江 信之[1]、加治 和彦[2,3]、高橋 和利[4]（1.名古屋女子大・家政・食物栄養、2.日本薬科大・生命医療薬学分野、3.（株）コーセー、4.京大・iPS研究所）

[3P-1058（3PT26-02）] 線虫における寿命を制御するインスリン/IGF-1シグナルの組織間コミュニケーションの解析
○谷 侑利[1]、宇野 雅晴[1]、栗原 拓也[1]、安部 亮次[1]、西田 栄介[1]（1.京大・生命）

[3P-1059（3PT26-03）] Mg^{2+}トランスポーターCNNMは線虫で ROSレベルと寿命を調節する
○橋爪 脩[1]、船戸 洋佑[1]、三木 裕明[1]（1.阪大・微研・細胞制御分野）

[3P-1060（3PT26-04）] JAG1-Notchシグナルの活性化を介した Ras/Raf 誘導性早期細胞老化誘導機構
○眞野 恭伸[1]、福世 真樹[1]、山中 遼太[2]、岡部 篤史[1]、油谷 浩幸[2]、金田 篤志[1,2,3]（1.千葉大・院医・分子腫瘍、2.東大・先端研・ゲノムサイエンス、3.AMED CREST）

[3P-1061（3PT26-06）] カルパインファミリーは動脈硬化病変を制御する
○宮崎 拓郎[1]、礪波 一夫[2]、秦 勝志[3]、相内 敏弘[4]、大西 紘二[5]、雷 小峰[1]、金山 朱里[1]、竹屋 元裕[5]、板部 洋之[4]、反町 洋之[3]、栗原 裕基[2]、宮崎 章[1]（1.昭和大・医・生化学、2.東大・院医・代謝生理化学、3.都医学研・生体分子・カルパイン、4.昭和大・薬・生物化学、5.熊大院・医・細胞病理）

[3P-1062（3PT26-07）] 甲状腺ホルモン結合蛋白μ-Crystallinの欠損は高脂肪食下でマウスに肥満を引き起こす
○大久保 洋輔[1,2]、関戸 貴志[1]、関戸 恵子[1]、北原 順一郎[1]、柴田 有亮[1]、西尾 真一[1,2]、駒津 光久[1]、鈴木 悟[3]（1.信大・医・糖尿病内分泌代謝、2.信大・医・次代クラスター、3.福島医大・放医健康管理センター）

[3P-1063（3PT26-08）] CNPの肥満における新たな作用-抗炎症、インスリン抵抗性改善、白色脂肪組織の Beige化作用
○日野 純[1]、ベ チョロン[1]、細田 洋司[2]、孫 徹[3,4]、槙野 久士[3]、徳留 健[1]、冨田 努[3,5]、細田 公則[3]、宮里 幹也[1]、寒川 賢治[1]（1.国立循環器病研究センター・研・生化学、2.国循・研・再生医

©日本分子生物学会/日本生化学会

療、3.国循・病院・動脈硬化・糖尿病、4.国循・創薬オミックスセンター、5.国循・バイオバンク）

[3P-1064（3PT26-09）] 生体内における CREG1の褐色脂肪化促進作用の検討

○橋本 理尋[1]、楠堂 達也[2]、竹内 環[1]、山下 均[1]（1.中部大・生命医科、2.帝塚山学院大・人間科学）

[3P-1065（3PT26-10）] プロリン異性化酵素 Pin1を介した脂肪細胞機能の制御と肥満発症への関与

○中津 祐介[1]、山本屋 武[1]、上田 晃司[1]、井上 由貴[1]、井上 賢紀[1]、松永 泰花[1]、浅野 知一郎[1]（1.広島大院・医歯薬保・医化学）

[3P-1066（3PT26-12）] メトホルミンは HMGB1 に直接結合しその炎症促進作用を抑制する

○坂田 菜摘[1]、堀内 崇弘[1]、鳴海 善洋[1]、木村 朋寛[1]、林 隆史[2]、長野 圭介[2]、劉 克約[3]、西堀 正洋[3]、突田 壮平[4]、山田 哲也[4]、片桐 秀樹[4]、白川 龍太郎[1]、堀内 久徳[1]（1.東北大・加齢研・基礎加齢研究、2.大塚製薬、3.岡山大・院医歯薬・薬理、4.東北大・院医・糖尿病代謝）

[3P-1067（3PT26-13）] 腸特異的胆汁酸受容体活性化による１型、２型糖尿病制御

○吉原 栄治[1,3]、Sungsoon Fang[1,3]、Chun Shi Lin[1]、Ting Fu[1]、Zong Wei[1]、Jae Myoung Suh[1]、Ruth Yu[1]、Ann Atkins[1]、Michael Downes[1]、Ronald Evans[1,2]（1.遺伝子発現制御、ソーク研究所、2.ハワードヒューズ医学研究所、3.Equally contribution）

[3P-1068（3PT26-14）] FGF19による非アルコール性脂肪肝炎（ NASH）改善作用の分子機構

○土田 芽衣[1]、山田 真佑花[1]、高橋 未来[1]、平田 祐介[1]、宮田 昌明[2]、吉成 浩一[1,3]、野口 拓也[1]、松沢 厚[1]（1.東北大・院薬・衛生化学、2.水大校・食品科学、3.静岡県立大・院薬）

[3P-1069（3PT26-15）] Regnase-1は鉄代謝関連の mRNAを分解することで鉄恒常性を維持する

○吉永 正憲[1]、三野 享史[1]、竹内 理[1]（1.京都大学 ウイルス・再生医科学研究所）

[3P-1070（4P1T06-01）] 脂肪細胞とマクロファージのクロストークで<インスリン抵抗性が慢性炎症を引き起こす>

○下林 貢[1]、Verena Albert[1]、Bettina Woelnerhanssen[2]、Irina Frei[1]、Diana Weissenberger[1]、Anne Meyer-Gerspach[2]、Nicolas Clement[2]、Suzette Moes[1]、Marco Colombi[1]、Marta Swierczynska[1]、Paul Jenoe[1]、Jerome Meier[1]、Christoph Beglinger[2]、Peterli Ralph[2]、Michael Hall[1]（1.バーゼル大学 バイオセンター、2.聖クララ病院）

[3P-1071（4P1T06-02）] NAD合成酵素 Namptは代謝リプログラミングを介して前駆脂肪細胞分化を制御する

○岡部 圭介[1,2]、薄井 勲[1]、戸邉 一之[1]、中川 崇[2]（1.富大・院医・一内、2.富大・院医・病態代謝解析）

[3P-1072（4P1T06-03）] 転写因子 ChREBP欠損マウスにおける抗肥満効果の解明

○崎山 晴彦[1]、井上 美奈子[1]、中川 勉[2]、江口 裕伸[1]、吉原 大作[1]、藤原 範子[1]、鈴木 敬一郎[1]（1.兵医・生化学、2.神大・院医・薬物動態）

[3P-1073（4P1T06-04）] ヘム欠乏は骨格筋での細胞内ATPレベル上昇を介してグリコーゲン合成異常を惹起する

○斉藤 真一[1]、尾崎 司[2]、中野 博[1]、野原 豪和[1]、岡野 聡[1]、一瀬 白帝[2]、白澤 信行[3]、内藤 輝[3]、山本 雅之[4]、Kelly Vincent[5]、高橋 究[6]、田中 徹[6]、中島 元夫[6]、中島 修[1]（1.山形大・医・メディカル研、2.山形大・医・分子病態、3.山形大・医・解剖一、4.東北大院・医・医化学、5.トリニティカレッジ ダブリン・トリニティ医科学研、6.SBIファーマ）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1074（4P1T06-05）] AMP-activated kinase（ AMPK）を介した膵島β細胞特異的な転写因子MafAのグルコースによる制御機構の解明
〇岩岡 諒[1]、片岡 浩介[1]（1.横浜市大・生命医・生体機能）

[3P-1075（4P1T06-06）] スルフォラファンによる転写因子 Nrf2活性化を介した肥満及び脂肪肝抑制機構の検討
〇長田 直人[1]、太田 嗣人[2]、安藤 仁[1]（1.金沢大・医、2.金沢大・先進予防医学研究セ）

[3P-1076（4P1T06-08）] DNA損傷刺激により、副腎皮質腫瘍細胞株（ H295R）においてコルチゾール分泌能が増大する。
〇安達（玉盛） 三美[1]、諏佐 崇生[1]、久樹 晴美[1]、飯塚 眞由[1]、岡崎 具樹[1]（1.帝京大学 医学部生化学講座）

[3P-1077（4P1T06-09）] ロイシン代謝産物、ヒドロキシメチル酪酸による肝性リパーゼの挙動とその解析
〇大久保 友貴[1]、藤井 朋保[1]、中村 徹也[1]、上敷領 淳[1]、森田 哲生[1]（1.福山大学薬学部薬学科生化学研究室）

[3P-1078（4P1T06-10）] ミトコンドリアユビキチンリガーゼ MITOLは Drp1の制御を通して心臓老化を防いでいる
〇徳山 剛士[1]、武田 啓佑[1]、松野 圭悟[1]、塩田 実優[1]、松下 暢子[1]、稲留 涼子[1]、柳 茂[1]（1.東薬大・生命科学・分子生化学）

[3P-1079（4P1T06-11）] 老化細胞による細胞外分泌小胞を介したがん抑制活性
〇幾尾 真理子[1]、岡田 恵[1]、寺西 茂之[1]、木根原 匡希[1]、田原 栄俊[1]（1.広大・院医歯薬保健学（薬））

[3P-1080（4P1T06-12）] スクロース過剰摂食は肝臓脂質代謝関連遺伝子の概日リズムを変動させることにより脂質蓄積を起こす
〇孫 淑敏[1]、半澤 史聡[2]、金 多恩[1]、梅木 美樹[3]、池田 彩子[2]、望月 聡[3]、小田 裕昭[1]（1.名大・院生命農・栄養生化学、2.名古屋学芸大・院栄養科学・管理栄養、3.大分大・教育）

[3P-1081（4P1T06-13）] グルカゴンは脂肪組織概日時計の同調因子ではなく，脂質代謝を変化させない
〇渡辺 彩子[1]、橋本 尚央子[1]、金 多恩[1]、孫 淑敏[1]、林 良敬[2]、小田 裕昭[1]（1.名大・院生命農・栄養生化学、2.名大・環医研）

[3P-1082（4P1T06-14）] Gα13 is a metabolic G protein switch in muscle that regulates systemic energy homeostasis
〇Sang Geon Kim[1]、Ja Hyun Koo[1]（1.College of Pharmacy, Seoul National University）

[3P-1083（4P1T06-15）] Discovery of novel anti-diabetic drugs by interrupting the DGKζ and IRS-1 interaction
〇BU CHIN YU[1]、Akihiro Ito[2]、Minoru Yoshida[2]、Yasutoshi Ando[1]、Fumihiko Hukuno[1]、Shin-Ichiro Takahashi[1]（1.Dept. of Animal Sciences and Applied Biological Chemistry, Grad.Sch. of Agriculture and Life Sciences., Univ. of Tokyo、2.Chemical Genetics Laboratory, RIKEN）

[3P-1084] Effect of *Anoectochilus burmannicus* extract againsts inflammation and inflammation-induced insulin resistance
〇Pornsiri Pitchakarn[1]、Phatcharaporn Budluang[1]、Jirarat Karinchai[1]、Pisamai Ting[2]、Piya Temviriyanukul[2]、Ariyaphong Wongnoppawich[1]、Arisa Bonness[1]（1.Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand、2.Food and Nutritional Toxicology Unit, Institute of Nutrition, Mahidol University, Salaya campus, Thailand）

[3P-1085] Non-invasive quantification of beta cell mass with indium-labeled Exendin probe by single-photon emission computed tomography

©日本分子生物学会/日本生化学会

○Naotaka Fujita[1]、Hiroyuki Fujimoto[1]、Keita Hamamatsu[1]、Takaaki Murakami[1]、Hiroyuki Kimura[2]、Kentaro Toyoda[1]、Hideo Saji[3]、Nobuya Inagaki[2]（1.Kyoto Univ. Grad. Sch. of Med., Dept. of Diabetes, Endocrinology and Nutrition、2.Kyoto Pharmaceutical Univ., Dept. of Analytical and Bioinorganic Chemistry、3.Kyoto Univ. Grad. Sch. of Pharmaceutical Sciences, Dept. of Patho-Functional Bioanalysis）

[3P-8-5] 8. 疾患生物学-5) 脳、神経、精神疾患

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1086] *yata*機能欠損による APPシナプス輸送特異的阻害のショウジョウバエアルツハイマー病モデル表現型への効果

○風呂谷 航人[1]、神村 圭亮[2]、矢島 隆明[1]、中山 実[1]、田村 拓也[3]、前田 信明[2]、岡澤 均[3]、曽根 雅紀[1]（1.東邦大・理、2.都医学研、3.医科歯科大・難治研）

[3P-1087] APPタンパク質の細胞内輸送異常を示すショウジョウバエ*yata*変異体複眼においてみられる細胞内微細形態異常

○有本 絵莉[1]、塩原 真美[1]、富澤 美月[1]、中山 実[1]、鈴木 えみ子[2,3]、曽根 雅紀[1]（1.東邦大・理、2.遺伝研、3.総研大）

[3P-1088（4LT02-04）] 微小管結合タンパク質タウシステイン残基の、タウ安定性と毒性における役割

○知久 朋樹[1]、岡 未来子[2]、住岡 暁夫[3]、斎藤 太郎[1,2]、浅田 明子[1,2]、久永 眞市[1,2]、飯島 浩一[4,5]、高島 明彦[3]、安藤 香奈絵[1,2]（1.首都大・理工・生命科学、2.首都大・院理工・生命科学、3.学習院大・院理・自然科学、4.国立長寿研・アルツハイマー病研究部、5.名古屋市立大・院薬・加齢病態制御学分野）

[3P-1089（4LT02-05）] 軸索ミトコンドリアの欠乏によるショウジョウバエ視神経軸索変性における CaMKIIの役割

○真野 叶子[1]、岡 未来子[2]、浅田 明子[2,3]、斎藤 太郎[2,3]、久永 眞市[2,3]、鈴木 えみ子[4,5]、飯島 浩一[6,7]、安藤 香奈絵[2,3]（1.北里大・理・生物科学、2.首都大・院理・生命科学、3.首都大・理工・生命科学、4.国立遺伝研・遺伝子回路研究室、5.総研大・遺伝学専攻、6.国立長寿研・アルツハイマー病研究部、7.名古屋市立大大学院・薬）

[3P-1090] タウによる神経変性における ESCRTIII complexの役割

○伊藤 圭哉[1]、浅田 明子[1]、斎藤 太郎[1]、久永 眞市[1]、飯島 浩一[2,3]、安藤 香奈絵[1]（1.首都大・院理・生物科学、2.国立長寿研・アルツハイマー病研究部、3.名古屋市立大大学院・薬）

[3P-1091（4LT02-01）] Aβ分泌機構における Rab7およびその結合分子群の機能解析

○小座間 大翔[1]、川村 暢幸[2]、和田 戈虹[2]、和田 洋[3]、富田 泰輔[1]（1.東大・院薬・機能病態学教室、2.同志社大・薬・生化学研究室、3.阪大・産業科学・生体分子反応科学研究分野）

[3P-1092（4LT02-02）] APP-βCTFによる小胞輸送障害機構の解析

○金城 那香[1]、上原 孝[1]、高杉 展正[1]（1.岡大・院薬・薬科学）

[3P-1093（4LT02-03）] アルツハイマー病モデルマウスにおけるアミロイド病理特異的にTauと結合するタンパク質の同定および解析

○石井 綾乃[1,2]、橋本 翔子[1]、松葉 由紀夫[1]、三平 尚美[1]、高島 明彦[3]、村松 慎一[4]、横須賀 誠[2]、斉藤 貴志[1]、西道 隆臣[1]（1.理研・脳科学・神経蛋白、2.日獣大・院獣医生命、3.学習院大・理学・生命科学、4.自治医大・医学・神経内科）

[3P-1094（4LT02-06）] 神経細胞におけるタウ蛋白質の動態と軸索局在機構の解明

○岩田 実里[1]、渡辺 祥司[1]、宮坂 知宏[2]、朴 洪宣[3]、御園生 裕明[1]（1.同志社大学大学院 脳科学研究科 チャネル病態生理部門、2.同志社大学 生命医科学部 神経病理学研究室、3.同志社大学大学院 脳科学研究科 認知記憶加齢部門）

[3P-1095（4LT02-07）] ジストログリカノパチーモデルマウスの中枢神経病態の解析

○首藤 篤史[1]、金川 基[1]、近藤

©日本分子生物学会/日本生化学会

舞[1]、小林 千浩[1]、遠藤 光晴[2]、南 康博[2]、戸田 達史[1,3]（1.神戸大・院医・神経内科学/分子脳科学、2.神戸大・院医・細胞生理学、3.東大・院医・神経内科学）

[3P-1096（4LT02-08）] グアニン四重鎖の酸化は TDP-43による mRNA輸送機能を阻害する

○石黒 亮[1]、野間 崇志[2]、木村 展之[3]、昆 隆英[2]（1.法政大・ナノテク、2.阪大・院理・生物科学、3.長寿研・アルツハイマー・病因遺伝子）

[3P-1097（4LT02-09）] 筋萎縮性側索硬化症にみられる変異型 SOD1への金属イオン結合の異常

○古川 良明[1]、徳田 栄一[1]、大原 慎司[2]、山中 宏二[3]、三澤 日出巳[4]（1.慶應・理工、2.まつもと医療センター・神経内科、3.名大・環境医学、4.慶應・薬）

[3P-1099] 低濃度パーキンソン病関連神経毒によるオートファジー阻害機序とその防御に関する研究

○宮良 政嗣[1]、徳永 航[1]、坂本 修一朗[1]、桑原 由佳[1]、渡辺 南海子[1]、石田 慶士[1]、古武 弥一郎[1]、太田 茂[1]（1.広島大院・医歯薬保）

[3P-1100] GPNMBの高齢発症てんかんの抑制分子としての役割

○川原 浩一[1]、豊岡 万貴[1]、長谷川 拓也[1]、前田 武彦[1]（1.新潟薬大・薬・薬効薬理）

[3P-1101] tRNA代謝異常による神経変性疾患の分子機構解明

○井上 真紀[1]、波田 一誠[1]、石谷 太[2]、花田 俊勝[1]（1.大分大・医・細胞生物学、2.群馬大・病態制御・個体統御システム分野）

[3P-1102] 家族性脊髄小脳変性症14型モデルマウスを用いたプルキンエ細胞の樹状突起の発育制御

○下林 悦子[1]、カプフハマー ジョセフ[1]（1.バーゼル大、医学研究科）

[3P-1103] ter94機能喪失変異は TBPHノックダウンによるALSショウジョウバエモデルの表現系を増悪する

○櫛村 由紀恵[1]、徳田 隆彦[1,2]、東 裕美子[1]、山本 格[3,4]、上岡 伊吹[3,4]、水田 依久子[1]、水野 敏樹[1]、中川 正法[1,5]、上山 盛夫[6]、永井 義隆[6]、吉田 英樹[3,4]、山口 政光[3,4]（1.京府医大・院・神経内科、2.京府医大・分子脳病態解析学、3.京工大・応用生物学、4.京工大・昆虫先端研究推進センター、5.京府医大・北部医療センター、6.大阪大・院・医学系研究科・神経難病認知症探索治療学）

[3P-1104] うつ病発症におけるα2-antiplasminの役割

○丸山 千尋[1]、土田 佳穂[1]、堀 恭子[1]、松尾 理[2]、菅野 陽介[1]（1.同女大・薬学、2.近大・医学）

[3P-1105] 自然発症型神経変性疾患マウスモデルにおける Kif1a点変異の同定

○葛西 百恵[1]、佐伯 涼太[1]、菊池 薫[1]、河内 眞美[1]、小野 道子[1]、松島 芳文[2]、石山 健夫[1]（1.大日本住友製薬株式会社、2.埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所）

[3P-1106] 神経細胞の機能を維持する植物由来成分の同定と有用性

○田中 絢子[1]、多賀井 希望[1]、玉田 賢弥[1]、佐藤 聡[1]、内海 文彰[1]、田沼 靖一[1]（1.東京理大薬）

[3P-1107] ALS原因遺伝子*FUS*のショウジョウバエホモログ*Cabeza*と遺伝的相互作用するエピジェネティック制御因子の同定

○浅田 賢志[1]、鈴木 孝禎[2]、東 裕美子[3]、徳田 隆彦[3,4]、吉田 英樹[1,5]、山口 政光[1,5]（1.京工繊・応生、2.京府医・医薬品化学、3.京府医・神経内科学、4.京府医・分子脳病態解析学、5.京工繊・昆虫バイオ）

[3P-1108] CRISPR/Cas9システムを用いた新規 Aβ産生制御分子の同定

○Yung Wen Chiu[1]、海老沼 五百理[1]、堀 由起子[1]、富田 泰輔[1]（1.東大・院薬・機能病態学）

[3P-1109] *De novo*変異型 Rubinstein-Taybi Syndromeモデルマウスの作製

○高木 豪[1]、石井 俊輔[2]、浅井 真人[1]（1.愛知県心身障害者コロニー・発達障害研究所、2.理化学研究所）

[3P-1110] ウエストナイルウイルスのカプシドタンパク質によるオートファジーの抑制による変性タンパク質の蓄積と神経病態形成についての解析

○小林 進太郎[1,2]、好井 健太朗[1]、Wallaya Phongphaew[2]、武藤 芽未[1]、平野 港[1]、大場 靖子[2]、澤 洋文[2]、苅和 宏明[1]（1.北大・院獣・公衆衛生、2.北大・人獣・分子病態）

[3P-1111] SphK2/S1Pシグナルによる，アルツハイマー病リスクファクター ApoE発現制御機構の解析

○野田 祐佳[1]、上原 孝[1]、高杉 展正[1]（1.岡山大院・医歯薬・薬効解析）

[3P-1112] ラット脳発生およびヒト筋萎縮性側索硬化症における CRYMの発現変化

○本名 嶺治[1]、鈴木 諭[1]、濱崎 英臣[1]、本田 裕之[1]、北川 玲華[1]、司城 昌大[1]、前田 教寿[1]、Nona

©日本分子生物学会/日本生化学会

Abolhassani[2]、中別府 雄作[2]、岩城 徹[1] （1.九大・院医・神経病理、2.九大・生医研・脳機能制御）

[3P-1113] ショウジョウバエ*COA7*の神経特異的ノックダウンは運動能力の低下と神経・筋接合部のシナプス長の短縮を誘導する

○奥主 隆太[1]、吉田 秀樹[1,2]、山口 政光[1,2] （1.京工大・応用生物学、2.京工大・昆虫先端研究推進センター）

[3P-1114] 明るい光は局所ノルアドレナリン経路の阻害によって網膜の炎症を抑制する(光ゲートウェイ反射)

○上村 大輔[1]、Andrea Stofkova[1,2]、大木 拓究人[1]、有馬 康伸[1]、村上 正晃[1] （1.北大・遺制研・医学院・分子神経免疫学、2.Dept. of Normal, Pathol. and Clin. Physiol., Third Faculty of Med., Charles Univ., Czech Republic）

[3P-1115] ショウジョウバエ CMT原因遺伝子*dFIG4*の新規遺伝学的相互作用因子としての長鎖非コードRNA,*CR18854*の同定

○村岡 夕香[1]、中村 綾[1]、田中 領[1]、東 裕美子[2]、櫛村 由紀恵[2]、Luca Piccolo[1]、須田 晃治郎[1]、吉田 英樹[1]、水田 依久子[3]、水野 敏樹[2]、徳田 隆彦[2]、山口 政光[1] （1.京都工芸繊維大学・工芸科学部・応用生物、2.京府医・神経内科学、3.京府医・分子脳病態解析学）

[3P-1116] 新規ヒト脳ペリサイトモデルを用いた活性化脳ペリサイトの特性解明

○梅原 健太[1]、孫 雨晨[1]、更屋 敦則[3]、大島 基彦[3]、岩間 厚志[3]、安西 尚彦[2]、千葉 寛[1]、秋田 英万[1]、降幡 知巳[1,2] （1.千葉大・院薬・薬物学、2.千葉大・院医・薬理学、3.千葉大・院医・細胞分子医学）

[3P-1117] 脳エクソソーム単離法の改良とアミロイドβの検出

○藤崎 健人[1,2]、川上 恭司郎[2]、藤田 泰典[2]、吉田 雅幸[1]、伊藤 雅史[2] （1.医科歯科大・院医歯学総合・先進倫理医科学、2.東京都健康長寿医療セ研・老化機構）

[3P-1118] ALS原因遺伝子 TDP-43の点変異によるアレル特異的遺伝子発現の変化

○須貝 章弘[1]、廣川 祥子[2]、小山 哲秀[3]、今野 卓哉[1]、小野寺 理[1] （1.新潟大学脳研究所神経内科、2.新潟大学脳研究所分子神経疾患資源解析学分野、3.新潟大学大学院医歯学総合研究科）

[3P-1119] ショウジョウバエモデルを用いたパーキンソン病(PD)原因候補遺伝子の解析

○清水 丈[1]、笠井 高士[2]、東 裕美子[2]、吉田 英樹[3,4]、山口 政光[3,4] （1.京工繊・先端、2.京府医・神経内科学、3.京工繊・応生、4.京工繊・昆虫バイオ）

[3P-1120] N末端自己相互作用ドメインの ALS2疾患原因変異は、 ALS2の正常な多量体形成やエンドソーム局在を阻害する

○佐藤 海[1]、大友 麻子[1,2]、上田 真保子[2]、杉山 純也[1]、小野 鈴花[1]、三井 駿[1]、中川 草[1,2]、秦野 伸二[1] （1.東海大・医・分子生命科学、2.東海大・マイクロナノ研究セ）

ポスター発表 | 8. 疾患生物学 | 6) 遺伝性疾患（ポスター）

[3P-8-6] 8. 疾患生物学-6) 遺伝性疾患

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1121] 常染色体優性遺伝性 GH1遺伝子異常症の発症機序に関する検討 ー遺伝子置換システムを用いたヒト化 GHマウスの作出と解析ー

○久保 英実香[1]、有安 大典[1]、芝田 晋介[2]、荒木 喜美[1] （1.熊大・生命資源・疾患モデル、2.慶大・医・電顕）

[3P-1122] 常染色体優性遺伝性 GH1遺伝子異常症の発症機序の解明 ～モデルマウスの GH分泌不全は、Ghrhr mRNAの低下による～

○有安 大典[1]、久保 英美香[1]、芝田 晋介[2]、荒木 喜美[1] （1.熊大・生命資源・疾患モデル、2.慶大・電子顕微鏡）

[3P-1123] ALS-FUSモデルショウジョウバエモデルの表現型を修飾する因子の探索

○東 裕美子[1]、徳田 隆彦[1,2]、櫛村 由紀恵[1]、山本 格[3,4]、上岡 伊吹[3,4]、水田 依久子[1]、水野 敏樹[1]、中川 正法[1,5]、上山 盛夫[6]、永井 義隆[6]、吉田 英樹[3,4]、山口 政光[3,4] （1.京府医・神経内科学、2.京府医・分子脳病態解析学、3.京工大・応用生物学、4.京工大・昆虫先端研究推進センター、5.京府医・附属北部医療センター、6.阪大・神経難病認知症探索治療学）

[3P-1124（2PT26-01）] ナンセンス随伴スプライス変更による疾患発症：46,XY性分化疾患兄弟例における MAP3K1変異の同定

○五十嵐 麻希[1]、金城 健一[2]、堀川 玲子[2]、緒方 勤[3]、深見 真紀[1] （1.国立成育医療研究セ・分子内分泌、2.国立成育医療研究セ・内分泌代謝、3.浜松医大・小児科）

[3P-1125（2PT26-02）] エピジェネティック疾患 ICF症候群の発症機序～ DNA修復機構の破綻と病態のリンク～

○鵜木 元香[1]、佐々木 裕之[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.九大・生医研・エピゲノム制御学）

[3P-1126（2PT26-03）] *SLC25A46*遺伝子を標的としたヒト希少神経難病 Charcot-Marie-Tooth病の新規ショウジョウバエモデルの開発
○須田 晃治郎[1]、上岡 伊吹[1]、田中 領[1]、奥主 隆太[1]、吉田 英樹[1,2]、山口 政光[1,2]（1.京都工繊大・応用生物、2.京都工繊大・昆虫バイオメディカルセンター）

[3P-1127（2PT26-04）] CRISPR/Cas9を用いたMusculocontractural Ehlers-Danlos Syndrome-*CHST14*ノックアウトマウスの作製と病態解析
○笠原（仁田原） 優子[1]、島津 苑子[1]、増田 千明[1]、積田 奈々[2]、水本 秀二[3]、井上(上野) 由紀子[4]、井上 高良[4]、吉沢 隆浩[5]、高橋 有希[6]、池上 良[7]、中山 淳[8]、武田 伸一[2]、渡邉 淳[1]、古庄 知己[6]、岡田 尚巳[1]（1.日本医大・生化学・分子生物学（分子遺伝学）、2.精神・神経医療研究センター・神経研・遺伝子疾患治療、3.名城大・薬学・病態生化学、4.精神・神経医療研究センター・神経研・疾患六部、5.信州大・ヒト環境科学研究支援センター・動物実験、6.信州大・医学部附属病院・遺伝子医療研究センター、7.東京歯科大・クラウンブリッジ補綴、8.信州大・学術研究院・医学系・分子病理学）

[3P-1128（2PT26-05）] 遺伝性小頭症原因遺伝子産物WDR62による星状体微小管重合を介した細胞分裂軸制御
○宮本 達雄[1]、福満 啓博[1]、阿久津 シルビア夏子[1]、政綱 宜規[1]、細羽 康介[1]、山本 卓[2]、松浦 伸也[1]（1.広島大・原医研・放射線ゲノム疾患、2.広島大・院理・数理分子生命理学）

[3P-1129（2PT26-06）] 細胞培養モデルが明らかにしたX連鎖の疾患での女性重症化
○稲垣 秀人[1]、杉本 賢政[1]、堤 真紀子[1]、井上 義一[2]、田口 佳広[2]、帽田 仁子[3]、宮田 昌史[3]、奥本 隆行[2]、吉川 哲史[3]、倉橋 浩樹[1]（1.藤田保健衛生大・総医研・分子遺伝、2.藤田保健衛生大・医学部・形成外科、3.藤田保健衛生大・医学部・小児科）

[3P-1130（2PT26-07）] 新規ゲノム編集技術で改変したiPS細胞を用いたファブリー病モデル化と疾患メカニズム解析
○友田 紀一郎[1]、森原 啓文[1]、渡辺 真理奈[1]、朝日 通雄[1]（1.大阪医大・薬理）

[3P-1131（2PT26-08）] 公共 ChIP-seqデータをフル活用し、遺伝性疾患の解明に挑む
○沖 真弥[1]、大田 達郎[2]、塩井 剛[3]、畠中 秀樹[4]、小笠原 理[5]、奥田 喜広[5]、川路 英哉[6]、仲木 竜[7]、瀬々 潤[8]、目野 主税[1]（1.九大・院医・発生再生医学、2.ROIS・DBCLS、3.理研・CLST、4.JST・NBDC、5.遺伝研・DDBJ、6.理研・ACCC、7.東大・RCAST、8.産総研・AIRC）

[3P-1132（2PT26-09）] 遺伝性疾患自然発症モデル動物としての mutator mouse
○作見 邦彦[1]、大野 みずき[2]、中別府 雄作[1]（1.九大・生医研・脳機能、2.九大・院医・基礎放射線医学）

[3P-1134] 歯根膜細胞の骨芽細胞への分化における paraoxonase 1の役割
○北垣 次郎太[1]、枡本 梨沙[1]、松本 昌大[1]、宮内 静香[1]、藤原 千春[1]、山下 元三[1]、山田 聡[1,2]、北村 正博[1]、村上 伸也[1]（1.阪大・院歯・口腔治療学、2.東北大・院歯・歯内歯周治療学）

[3P-1135] 原発性小頭症原因遺伝子 D40/Knl1/CASC5産物と結合する蛋白の同定
○瀧本 将人[1]、Konstantin Bogdanov[1]（1.北大・遺制研）

[3P-1136] ゼブラフィッシュを用いたダイアモンド・ブラックファン貧血発症機構の解析
上地 珠代[1]、吉浜 麻生[1]、中島 由香里[1]、鈴木 穣[2]、菅野 純夫[2]、伊藤 悦朗[3]、○剣持 直哉[1]（1.宮崎大・フロンティア、2.東京大・新領域・メディカル情報、3.弘前大・医・小児科）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-8-7] 8. 疾患生物学-7) 診断・検査、異物代謝、毒性学

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1137] PSアフィニティー法を利用した Exosomeのフローサイトメトリー解析

○成瀬 健[4]、中井 渉[1]、吉田 孟史[1,2]、Diego Diez[3]、宮竹 佑治[1,2]、西部 隆宏[4]、請川 亮[4]、今若 直子[4]、山根 昌之[4]、定村 佳房[4]、華山 力成[1,2,5]（1.大阪大・IFReC・免疫ネットワーク、2.金沢大・医学系・免疫学、3.大阪大・IFReC・定量免疫学、4.和光純薬工業株式会社、5.JST・CREST）

[3P-1138] PSアフィニティーを利用した高感度な Exosome ELISAの開発

中井 渉[1]、吉田 孟史[1,2]、Diego Diez[3]、宮竹 佑治[1,2]、西部 隆宏[4]、請川 亮[4]、○今若 直子[4]、成瀬 健[4]、山根 昌之[4]、定村 佳房[4]、華山 力成[1,2,5]（1.大阪大・IFReC・免疫ネットワーク研究室、2.金沢大・医学系免疫学、3.大阪大・IFReC・定量免疫学ユニット、4.和光純薬工業株式会社、5.科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業（さきがけ））

[3P-1139] THP-1由来樹状細胞様細胞のアレルゲン応答性

○大岩 亮介[1]、嶋倉 邦嘉[1]、中村 亮介[2]、黒瀬 光一[1]（1.海洋大・院・食機能、2.国立衛研・医安部）

[3P-1140] アレルゲン特異的応答性を高めた THP-1細胞由来細胞の作製

○舞沢 友昭[1]、嶋倉 邦嘉[1]、黒瀬 光一[1]（1.海洋大・院・食機能）

[3P-1141] THP-1細胞由来アレルゲン応答細胞の特性解析

○阪下 広海[1]、大岩 亮介[1]、舞沢 友昭[1]、嶋倉 邦嘉[1]、黒瀬 光一[1]（1.海洋大・院・食機能）

[3P-1142] 低分子化合物の新規*in vitro*感作性試験法に用いるマーカー遺伝子の探索

○岩城 めぐみ[1]、西川 真帆[1]、田代 康介[2]、嶋倉 邦嘉[1]、黒瀬 光一[1]（1.海洋大・院・食機能、2.九州大・院・農）

[3P-1143] 菌体内の ATP量変化を検知可能な高感度生物発光検出技術を用いた迅速薬剤感受性試験

○野田 英之[1]、多田 博子[1]、内保 裕一[1]、石丸 真子[1]、杉江 和茂[2]、仁井見 英樹[2]（1.日立製作所 研究開発グループ、2.富山大学医学部 臨床分子病態検査学）

[3P-1144] 菌体外 ATPの発光モニタリングによる MSSA/MRSAの迅速鑑別検査

○内保 裕一[1]、多田 博子[1]、石丸 真子[1]、野田 英之[1]（1.日立製作所 研究開発グループ）

[3P-1145（2PT26-10）] メタゲノム解析を用いた大腸がん疾病マーカー遺伝子の探索

○城間 博紹[1]、水谷 紗弥佳[1]、谷内田 真一[2]、山田 拓司[1]（1.東工大・生命理工学院、2.国立がん研究センター）

[3P-1146（2PT26-11）] Simple Western®による骨格筋組織中 dystrophinの定量

○川口 達也[1]、吉田 忍[1]、Abdulqaee Rani[2]、榊原 佐知子[3]、前田 尚之[3]、佐藤 督[4]、松尾 雅文[2]（1.第一三共ＲＤＮ・創薬基盤、2.神戸学院大・総リハ・理学療法、3.第一三共・ＢＭ部、4.第一三共・研企部）

[3P-1147（2PT26-12）] トランスクリプトームに基づくアジュバントの毒性判定モデルの構築

○岸下 奈津子[1,2,4]、五十嵐 芳暢[3]、山田 弘[3]、石井 健[1,2,4]（1.医薬基盤健栄研・モックアップワクチン、2.医薬基盤健栄研・アジュバント開発、3.医薬基盤健栄研・トキシコゲノミクス・インフォマティクス、4.大阪大学・IFReC・ワクチン学）

[3P-1148（2PT26-13）] 末梢血における KLF14遺伝子領域の DNAメチル化は2型糖尿病の発症を予測しうる

○岩谷 千寿[1,2,8]、柴田 弘紀[2]、山本 健[3]、北島 秀俊[4]、前田 泰孝[1]、園田 紀之[1]、小川 佳宏[1,5,6]、井口 登與志[7]（1.九大・医学・病態制御内科、2.九大・生医研・ゲノミクス、3.久留米大・医学、4.オクスフォード大・ウェルカムトラスト、5.東京医科歯科大・医学・内分泌、6.CREST・AMED、7.福岡健康づくりサポートセンター、8.日本学術振興会特別研究員DC）

[3P-1149（2PT26-14）] 尿細管発生期における転写因子 Nrf2の恒常的活性化は腎性尿崩症を引き起こす

○鈴木 隆史[1]、関 詩織[1]、長沼 絵理子[1]、高橋 信行[2]、佐藤 博[2]、山本 雅之[1]（1.東北大・院医・医化学、2.東北大・院薬・臨床薬学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1150] Identification of Potential New Biomarkers for Early Detection of Lung Cancer Risk in High Residential Radon: A Preliminary Study in Chiang Mai, Thailand
○Narongchai Autsavapromporn[1]、Pitchayaponne Klunklin[1]、Busyamas Chewaskulyong[2]、Wirote Tuntiwechapikul[3]、Ariyapong Wongnoppavich[3]、Suwapat Amphol[4]、Sittiruk Roytrakul[5]、Kanokporn Rithidech[6]、Teruaki Konishi[7]、Masahiro Hosoda[8]、Shinji Tokonami[9]（1.Dept. Radiology, Facult.of Medicine Chiang Mai Univ., Thaiand、2.Dept. Internal Medicine, Facult.of Medicine Chiang Mai Univ., Thaiand、3.Dept. Biochemistry, Facult. of Medicine Chiang Mai Univ., Thaiand、4.Saraphi Hospti., Thailand、5.Proteomics Research Lab. Genome Institute BIOTECH, Thailand、6.Dept. Pathology Sch.of Medicine Stony Brook Univ., USA、7.NIRS-QST、8.Grad.of Health Science Hirosaki Univ.、9.9Insti. of Radiation Emergency Medicine Hirosaki Univ.）

[3P-1151] Non-anthocyanin Phenolic Compounds Extracted from Rice Husk Attenuates Aflatoxin B_1-induced Genotoxicity in Rats
○Arpamas Chariyakornkul[1]、Nuchnipa Nuntawong[2]、Jetsada Ruangsuriya[1]、Rawiwan Wongpoomchai[1]（1.Dept. of Biochem., Fac. of Med., Chiang Mai Univ.、2.Dept. of Chem., Fac. of Sci., Chiang Mai Univ.）

[3P-1152] 再発性多発軟骨炎における血清ペプチドファイルの解析
○佐藤 利行[1]、長島 義斉[2]、佐藤 政秋[1]、表山 和樹[1]、有戸 光美[1]、末松 直也[1]、加藤 智啓[1]、黒川 真奈絵[2]（1.聖マリアンナ医大院 疾患プロテオーム・分子病態治療学、2.聖マリアンナ医大院 疾患バイオマーカー・標的分子制御学）

[3P-1153] 酸化チタンナノ粒子による精巣障害および肝障害の比較
○三浦 伸彦[1]、北條 理恵子[1]、吉岡 弘毅[2]、大谷 勝己[1]（1.労働安全衛生総合研究所、2.金城学院大学薬学部）

[3P-1154] メチローマウスを用いた腫瘍分類の画像解析
○上瀬 茉美[1]、高橋 幸司[2]、中島 妙子[2]、八尾 竜馬[3]、岩本 隆司[1,2]、上田 潤[2,4]（1.中部大・院生命健康・生命医科、2.中部大・生命健康・生命医科、3.扶桑薬品・研究開発センター、4.旭川医大・教育研究推進センター）

[3P-1155] アセチルトリプトファンの抗ウイルス作用
池田 敬子[1]、長島 早友里[2]、長尾 多美子[3]、西出 充徳[4]、山崎 尚[5]、桑原 知巳[2]、○小山 一[2]（1.和歌山県立医大・保健看護、2.香川大・医・分子微生物、3.四国大・看護、4.和歌山信愛女子短大・食物栄養、5.兵庫医大・生物）

[3P-1156] 低線量率放射線による肝細胞腺腫誘発に関連したマウス血清バイオマーカーの同定
○杉原 崇[1]、田中 聡[1]、田中 ブラガ[1]、村野 勇人[2]、中村 正子[2]、小村 潤一郎[1]（1.環境科学技術研究所、2.環境科学サービス）

[3P-8-8] 8. 疾患生物学-8) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1157] ショウジョウバエの小胞体ストレス誘導性1型糖尿病モデルにおけるインスリン産生細胞のアポトーシスおよび Dilp8による組織恒常性の維持
○勝部 弘花[1]、日南 有紀子[1]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ）

[3P-1158] インスリン、 TORシグナル伝達系および熱ショックタンパクによるショウジョウバエ精母細胞の成長制御
○東 真穂[1]、緒方 翼[1]、井上 喜博[1]（1.京都工繊大・昆虫バイオ）

[3P-1159（3PT26-05）] 細胞老化の除去による肺気腫病変の抑制
三河 隆太[1]、○杉本 昌隆[1,2]（1.国立長寿研、2.名大・院医・老化基礎科学）

[3P-1160（4LT24-01）] 脂質調節因子である microRNA-33は複数の独立したメカニズムで炎症を悪化させ、腹部大動脈瘤を悪化させる
○中尾 哲史[1]、堀江 貴裕[1]、西賀 雅隆[1]、西野 共達[1]、中関 典子[1]、井出 裕也[1]、小山 智史[1]、曽和 尚也[1]、西 仁勇[1]、中島 康弘[1]、尾野 亘[1]（1.京大・院医・循環器内科学）

[3P-1161] Mitochondrial dynamic protein, Dynamin-related protein1 (Drp1) contributes to cardiac hypertrophy in salt sensitive hypertensive Dahl rat
○Prottoy Hasan[1]（1.Dept. of Internal Medicine 3, Cardiology, Hamamatsu Univ. Sch. of Mmedicine）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1162] Antioxidant and Anti-Inflammatory Activities of Fresh and Dry Leaf Extracts from *Perilla frutescens*.
〇Orawan Khantamat[1]、Komsak Pintha[2]、Payungsak Tantipaiboonwong[2]、Teera Chewonarin[1]、Chakkrit Khanaree[1]、Maitree Suttajit[2]（1.Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand、2.Division of Biochemistry and Nutrition, School of Medical Sciences, University of Phayao, Thailand）

[3P-1163] 骨格筋の肥大・萎縮時における長鎖非コードRNAの発現変化の解析
〇常陸 圭介[1]、中谷 直史[1]、前川 瑞希[2]、小川 千奈見[2]、土方 郁実[2]、舟崎 史織[2]、土田 邦博[1]（1.藤田保衛大・総医研・難病治療、2.藤田保衛大・医療科・検査）

[3P-1164] 炎症性サイトカイン誘導性マトリックス分解酵素発現のイオンチャネルを介した抑制とその機構解析
〇大月 孝志[1]、品岡 玲[2]、品岡 加苗[2]、Cilek Mehmet[1]、Hatipoglu Omer[1]、西村 拓人[1]、稲垣 純子[3]、西田 圭一郎[2]、廣畑 聡[1]（1.岡山大学 保健学研究科 検査技術科学、2.岡山大学 医歯薬学総合研究科 人体構成学、3.岡山大学 医歯薬学総合研究科 細胞化学）

[3P-1165] TNF-αによる MMP1遺伝子発現誘導に対するIL-1αの関与
〇石田 麻莉奈[1]、薗田 由華[1]、井上 麻美[2]、久原 哲[1]、田代 康介[1]（1.九大・農・応生・遺制、2.九大・院シス生・遺制）

[3P-1166] タバコ煙中のアクロレインが肺サーファクタントタンパク質 A (SP-A) の機能や構造に及ぼす影響
〇高宮 里奈[1]、内田 浩二[2,3]、柴田 貴広[2]、前野 敏孝[4]、有木 茂[1]、長谷川 喜弘[1]、齊藤 充史[1]、黒木 由夫[1]、高橋 素子[1]（1.札医大・医・医化学、2.名大・院生・応分生科、3.東大・院農・応用生命化学、4.群大・医・呼吸）

[3P-1167] 心臓における虚血再灌流刺激は抗アポトーシス作用を有する Acetylcholinesterase-Rの発現量を増加させる
〇戸高 寛[1]、有川 幹彦[2]、市川 厚[1]、野口 達哉[3]、佐藤 隆幸[1]（1.高知大・医・循環制御、2.高知大・理工・生物科学、3.高知大・医・老年病循環器神経内科）

[3P-1168] 間歇的低酸素暴露はヒト冠動脈平滑筋細胞においてインターロイキン-6の発現を増加させることでエピレグリンの発現を誘導する
〇京谷 陽司[1]、趙 晶[1]、広中 安佐子[2]、山内 晶世[2]、牧野 舞[2]、土田 澄代[2]、高沢 伸[2]、吉栖 正典[1]（1.奈良医大・医・薬理学、2.奈良医大・医・生化学）

[3P-1169] アシュワガンダ根熱水抽出物による創傷治癒促進効果
〇斯坎旦 阿卜杜巴日[1]、四宮 貴久[1]、長原 礼宗[1]（1.東京電大理工・先端研・細胞生化学）

[3P-1170] 間接灸による熱刺激のヒト前腕末梢皮膚血流動態への影響
〇塚本 紀之[1,2]、上村 一輝[2]、執行　祐[2]、吉田 翔[2]（1.九州看護福祉大・院看護福祉・健康支援科学、2.九州看護福祉大・看護福祉・鍼灸スポーツ）

[3P-1171] マクロファージ RAW264.7細胞から放出されるエクソソームの定量プロテオーム解析
〇宮崎 優輝[1,2]、藤田 泰典[2]、川上 恭司郎[2]、永田 喜三郎[1]、伊藤 雅史[2]（1.東邦大・院理・生分、2.東京都健康長寿医療セ研・老化機構）

ポスター発表 | 9. 神経科学 | 1) 神経系の発達と分化（ポスター）

[3P-9-1] 9. 神経科学-1) 神経系の発達と分化

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1172（4P1T08-01）] マウス大脳皮質2/3層神経細胞の発達における長短2つのafadin アイソフォームの機能差異
〇大浜 大揮[1]、生沼 泉[1]（1.兵県大・生命理学・細胞機能学）

[3P-1173（4P1T08-02）] TRPM1チャネルの網膜神経回路発達における役割
〇茶屋 太郎[1]、小塚 孝司[1]、田丸 文信[2]、島田 真理子[1]、桑原 隆亮[3]、渡辺 修一[2]、古川 貴久[1]（1.阪大・蛋白研・分子発生、2.埼玉医大・生理学、3.阪大・電顕センター）

[3P-1174（4P1T08-03）] ショウジョウバエNRSF/REST相同因子Charlatanの転写後修飾による神経機能調節機構
林 永美[1]、山崎 泰豊[1]、南 竜之介[1]、〇津田 玲生[1]（1.国立長寿医療セ）

[3P-1175（4P1T08-04）] マウス大脳新皮質におけるアストロサイトの多様性についての解析

©日本分子生物学会/日本生化学会

○表 伯俊[1]、Darin Lanjakornsiripan[1]、川口 大地[1]、古舘 昌平[1]、後藤 由季子[1]
（1.東大・院薬・薬科学）

[3P-1176（4P1T08-05）] ポリコーム群タンパク質による視床皮質回路形成の制御

○城野 克磨[1]、川口 大地[1]、壷井 將史[1]、後藤 由季子[1]（1.東大・院薬・薬科学科）

[3P-1177（4P1T08-08）] ショウジョウバエ神経における、軸索近位部特異的な輸送をSpectraplakin (Shot) が仲介する

○木下 貴明[1]、佐藤 主税[2]、西原 祥子[1]（1.創大・院工・生命情報工、2.産総研・バイオメディカル）

[3P-1178（4P1T08-11）] STARファミリーによる神経接着分子の選択的スプライシング制御

○飯島 崇利[1]、飯島 陽子[1]、田中 正視[2]、田中 政之[3]、鈴木 暁子[1]、鮎川 典子[1]、Peter Scheiffele[4]
（1.東海大・創造機構、2.京大・T-CiRA、3.東海大・支援センター、4.Biozentrum, Univ. of Basel）

[3P-1179（4P1T08-12）] 成体神経幹細胞の胎生期起源細胞 nicheの解析

○丁 悦文[1]、川口 大地[1]、原田 雄仁[1]、後藤 由季子[1]（1.東大・院薬）

[3P-1180（4P1T08-13）] 中脳神経細胞の細胞移動におけるダウン症関連因子の機能解析

○有村 奈利子[1]、出羽 健一[1,2]、岡田 茉子[1,2]、柳川 右千夫[3]、田谷 真一郎[1]、星野 幹雄[1]（1.国立精神神経センター・病態生化学、2.山梨大・院医工総合・薬理学、3.群馬大・院医遺・遺伝発達行動）

[3P-1181（4P1T08-14）] 電気けいれん刺激による海馬神経の分化・生存への影響

○上野 美由紀[1]、井本 有基[2]、瀬木 (西田) 恵里[1,2]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.京都大・薬学）

[3P-1182] Mapping the localization of semaphorins and semaphorin binding partners in the mouse cortical midline during corpus callosum development.

○Md Hossain[1]、Fumitaka Imaizumi[1]、Ikuko Takahashi[2]、Takayuki Negishi[1]、Kazunori Yukawa[1]
（1.Department of Physiology, Faculty of Pharmacy, Meijo University、2.RI center, Faculty of Pharmacy, Meijo University）

[3P-1183] Ca^{2+}／カルモジュリン依存性蛋白質リン酸化酵素 IIα, IIβ及び IVのトリプルノックダウンが小脳プルキンエ細胞の樹状突起形成を抑制する

○荒目 俊明[1]、堀江 侑季[1]、平嶋 尚英[1]、田中 正彦[1]（1.名市大院・薬・生体超分子システム解析学）

[3P-1184] 大脳皮質神経細胞移動における Munc18-1の役割

○浜田 奈々子[1]、田畑 秀典[1]、永田 浩一[1]（1.愛知県身障者コロニー・発達障害研・神経制御）

[3P-1185] ニューログロビンがもつ神経突起伸長能の作用機序の解析

○高橋 望[1]、小野塚 渉[1]、渡邊 征爾[1]、若杉 桂輔[1]
（1.東大・総合文化・生命環境）

[3P-1186] マウス大脳新皮質形成における Reelin-Nckシグナルの役割

○林 周宏[1]、井上 聖香[1]、久保 健一郎[1]、仲嶋 一範[1]
（1.慶應・医・解剖）

ポスター発表 | 9. 神経科学 | 2) シナプス伝達、可塑性、記憶、学習、行動（ポスター）

[3P-9-2] 9. 神経科学-2) シナプス伝達、可塑性、記憶、学習、行動

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1187] ミツバチにおける遺伝子操作法の開発による遺伝子機能解析の試み

○河野 大輝[1]、久保 健雄[1]（1.東大・院理・生物科学）

[3P-1188] ハチ目昆虫の行動進化に伴う脳キノコ体を構成するケニヨン細胞サブタイプの複雑化

○大矢 恵代[1]、河野 大輝[1]、戒能 洋一[2]、小野 正人[3]、久保 健雄[1]（1.東大・院理・生物科学、2.筑波大・生命環境、3.玉川大・農・昆虫）

[3P-1189（4LT08-01）] ショウジョウバエの視神経においてシナプス可塑性を制御する神経活動依存的な Wgのエンドサイトーシス

○川村 ひなた[1]、鈴木（羽毛田）聡子[1]、鈴木 えみ子[3]、杉江 淳[2]、鈴木 崇之[1]（1.東工大・生命理工学院、2.新潟大・脳病態解析分

©日本分子生物学会/日本生化学会

野、3.国立遺伝学研究所）

[3P-1190（4LT08-02）] *Drosophila*幼虫侵害覚ニューロンにおける small conductance Ca^{2+}依存性 K^{+}チャネルを介した制御機構により忌避行動が促進される

○小野寺 孝興[1]、村上 晃[2]、上村 匡[1]、碓井 理夫[1]（1.京大・院生命、2.京大・院情報）

[3P-1191（4LT08-03）] 遺伝学的手法によるショウジョウバエ歩行の神経機構の解明

○峯岸 諒[1]、Kai Feng[2]、Barry Dickson[1,2]（1.ハワードヒューズ医学研究所・ジャネリア、2.クイーンズランド大）

[3P-1192（4LT08-04）] *C. elegans*の嗅覚学習をモデルとした餌シグナルを介した忘却の制御機構の解析

○新井 美存[1]、井上 明俊[1]、石原 健[1]（1.九大・院理・生物科学）

[3P-1193（4LT08-05）] 複合体特異的な AMPA受容体光不活化技術の開発と海馬記憶の解析

○竹本 研[1]、高橋 琢哉[1]（1.横浜市大・医・生理）

[3P-1194（4LT08-06）] 行動選択および行動柔軟性における視床-線条体路の機能解析

○加藤 成樹[1]、小林 和人[1]（1.福島医大・医・生体機能）

[3P-1195（4LT08-07）] Ｄ１/Ｄ２ドーパミン受容体コンディショナル発現マウスによる運動制御機構の解明

○笹岡 俊邦[1]、佐藤 朝子[2]、知見 聡美[3]、大久保 直[2]、阿部 学[1]、川村 名子[1]、中尾 聡宏[1]、齊藤 奈英[1]、酒井 清子[1]、小田 佳奈子[1]、前田 宜俊[1]、神保 幸弘[4]、田中 稔[1]、山本 美丘[1]、佐藤 俊哉[1]、藤澤 信義[1]、崎村 建司[1]、南部 篤[3]（1.新潟大学脳研究所、2.北里大学医学部、3.生理学研究所、4.新潟大学医学部）

[3P-1196（4LT08-08）] ニューロン IDの可視化　～クラスター型プロトカドヘリンの発現解析～

○金子 涼輔[1]、阿部 学[2]、高鶴 裕介[1]、渡辺 雅彦[3]、崎村 建司[2]、柳川 右千夫[1]、八木 健[4]（1.群馬大・院医、2.新潟大・脳研、3.北大・院医、4.阪大・生命機能）

[3P-1197（4LT08-09）] CaMKII 依存的なゲフィリンのリン酸化はグリシン受容体のクラスター形成と音驚愕反射の脱感作を誘導した

○荻野 一豊[1]、平田 普三[1]（1.青山学院・理工・化生）

[3P-1198] Changes in epigenetic markers, DNMT1 and HDAC1/2, in the adult mouse hippocampus after cranial irradiation

○Sohi Kang[1]、Yeonghoon Son[1,2]、Sueun Lee[1]、Juhwan Kim[1]、Jong-Choon Kim[1]、Joong-Sun Kim[3]、Uhee Jung[4]、Sung-Ho Kim[1]、Miyoung Yang[5]、Changjong Moon[1]（1.College of Veterinary Medicine and BK21 Plus Project Team, Chonnam National University, South Korea、2.National Primate Research Center, Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology (KRIBB), South Korea、3.Research Center, Dongnam Institute of Radiological &Medical Sciences (DIRAMS), South Korea、4.Radiation Research Division for Bio-Technology Institute, Jeongeup Campus of Korea Atomic Energy Research Institute, South Korea、5.Department of Anatomy, School of Medicine, Wonkwang University, South Korea）

[3P-1199] アルツハイマーモデルに対する長期的な腎結紮の影響

○田代 善崇[1]、木下 彩栄[1,2]（1.京大・院・医・メディカルイノベーションセンター・SKプロジェクト、2.京大・院・医・人間健康科学）

[3P-1200] C. elegansの温度受容ニューロン ASJにおける1細胞トランスクリプトーム解析

○圓尾 綾菜[1]、太田 茜[1]、久原 篤[1]（1.甲南大・院自然科学・生物学）

[3P-1201] トランスクリプトーム解析から得られた C. elegansの低温馴化に関わる新規遺伝子

○坂井 詩織[1]、藤田 茉優[1]、岡畑 美咲[1]、水口 洋平[2]、豊田 敦[2]、太田 茜[1]、久原 篤[1]（1.甲南・院自然科学・生物学、2.国立遺伝学研究所）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1202（2PW15-2）] ストレスシグナルを概日時計に入力するストレス応答性キナーゼASK
○今村 聖路[1]、吉種 光[1]、服部 一輝[2]、名黒 功[2]、一條 秀憲[2]、深田 吉孝[1]（1.東大・院理・生物科学、2.東大・院薬）

[3P-1203] 哺乳類時計遺伝子*Bmal1*の転写制御機構の解析
○大場 祐希[1]、松本 健[2]、高畑 佳史[3]、藤井 義明[4]、瓜生 耕一郎[1]、程 肇[1]（1.金沢大・理工、2.北陸先端大、3.大阪大・歯学、4.東京医科歯科大・難治疾患研究所）

[3P-1204（4P1T08-09）] REV-ERBの新規分解経路は哺乳類概日リズムの振幅を増幅する
○瓜生 耕一郎[1]、大場 祐希[1]、程 肇[1]（1.金沢大・理工・自然システム）

[3P-1205] 哺乳類時計遺伝子*Per1*の誘導による位相シフトの分子機構の解析
○矢敷 周聖[1]、高畑 佳史[2]、大場 祐希[1]、瓜生 耕一郎[1]、程 肇[1]（1.金沢大・理工、2.大阪大）

[3P-1206（4P1T08-06）] 睡眠、摂食、求愛：ショウジョウバエ脳の神経内分泌回路
○伊藤 正芳[1]、Gerald Rubin[1]、伊藤 啓[2]（1.HHMI Janelia Reserch Campus、2.Univ. of Cologne, Inst. for Zoo.）

[3P-1207（4P1T08-10）] CNOT1 elongates circadian period through post-transcriptional regulation of Per2 and BMAL1.
○Haytham Mohamed[1]、Akinori Takahashi[1]、Hitoshi Okamura[2]、Tadashi Yamamoto[1]（1.Cell Signal Unit, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate School (OIST)、2.Department of Systems Biology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyoto University）

[3P-1208（4P1T08-15）] 時計遺伝子*Rev-erbα*欠損マウスにおける不安様行動と脳内セロトニン調節の関連性
○大塚 剛司[1]、向阪 彰[1]、Hue Le[1]、中尾 友美[1]、Zaw Thein[1]、前田 正信[1]（1.和歌山医大・医・第二生理）

[3P-1209] The octopus arm neuroanatomy revealed by immunohistochemistry for 5-hydroxytryptamine and choline acetyltransferase isoforms
○Jean-Pierre Bellier[1]、Xie Yu[2]、Yuko Sakaue[3]、Ikuo Tooyama[1]（1.Shiga Univ. Med. Sci. Mol., Neurosci. Res. Center、2.Life Sci. Res. Sci., Beihua Univ., China、3.Shiga Univ. Med. Sci. Mol., Dept. Pediatrics）

[3P-1210] マイクロ波聴覚効果による電波妄想パラダイムの転換
○小池 誠[1]（1.マイクロ特許・小池研）

[3P-1211] ビスフェノールA暴露によるマウス低活動性症状は概日リズム伝達神経ペプチド遺伝子の発現異常を伴う
○杉山 真季子[1]、松山 祐昂[1]、劉 暁輝[1]、松島 綾美[1]、下東 美樹[2]、下東 康幸[3]（1.九大・院理・化学、2.福岡大・理・生物、3.九大・リスクサイエンス）

[3P-1212] 線虫 C. elegansにおける新規の GPCR型温度センサーの探索
○大西 康平[1]、三浦 徹[1]、宇治澤 知代[1]、太田 茜[1]、久原 篤[1]（1.甲南大・統合ニューロバイオロジー研究所）

[3P-1213] 概日リズムの同期プロセスを束ねる細胞内分子イベント
○田丸 輝也[1]、吉種 光[2]、河村 玄気[3]、小澤 岳昌[3]、深田 吉孝[2]、高松 研[1]（1.東邦大・医学部・細胞生理、2.東大・ 院理 ・生物科学、3.東大・ 院理 ・化学）

[3P-1214] カルシウムイメージング法によるホヤ幼生gnrh発現細胞の活動記録
○大川 奈菜子[1]、島井 光太郎[1]、大倉 正道[2]、中井 淳一[2]、堀江 健生[3,4]、久原 篤[1]、日下部 岳広[1]（1.甲南大学・理工学部・統合ニューロバイオロジー研究所、2.埼玉大学・脳末梢科学研究センター、3.筑波大学・下田臨海実験センター、4.プリンストン大学）

ポスター発表 | 9. 神経科学 | 4) その他（ポスター）

[3P-9-4] 9. 神経科学-4) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1215（4P1T08-07）] 小胞体ストレス応答シグナルの逆行性伝播は末梢神経の軸索再生を促進する。
○大竹 洋輔[1]、齋藤 敦[2]、松久 幸司

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2]、今泉 和則[1]（1.広島大・院医歯薬保・分子細胞情報学、2.広島大・院医歯薬保・ストレス分子動態学）

[3P-1216] The apoptosis level of rat brain cells under chronic systemic hypoxic conditions

○Ninik Mudjihartini[1]、Sri Widia A Jusman[1]、Frans D Suyatna[2]、Mohamad Sadikin[1]（1.Dept. of Biochem. and Mol. Biol., Fac. of Med., Univ. Indonesia、2.Dept. of Pharmacol., Fac.of Med., Univ. Indonesia）

[3P-1217] 培養海馬神経細胞へのアミロイド B長時間投与時の発火頻度に対する影響

○石川 裕貴[1]、齊藤 直人[1]、堀 哲也[1]（1.同大・生命・医シス）

[3P-1218] 神経系オートファジー異常が引き起こすミクログリアにおける微小核形成メカニズムの解明

○矢野 更紗[1]、鶴田 文憲[1]、佐藤 伴[1]、千葉 智樹[1]（1.筑波大・生命環境・生物科学）

[3P-1219] ヒトとマウス&#945シヌクレインを用いた蛋白質凝集体多様性の研究

○田中 剛貴[1]、山中 智行[1]、古川 良明[2]、貫名 信行[1]（1.同大・脳研、2.慶大・理工・化学）

[3P-1220] α–シヌクレインのミクログリア内取り込みはインテグリンα9β1との結合を介する

○伊藤 益美[1]、西道 教尚[1]、大谷 水景[1]、横崎 恭之[1,2]（1.広島大・保健管理・インテグリン、2.広島大病・遺伝子診療）

[3P-1221] プリオン感染生細胞の細胞膜上異常プリオン蛋白質の免疫標識

○岩丸 祥史[1]、山崎 剛士[2]、舛甚 健太郎[1]、宮澤 光太郎[1]、松浦 裕一[1]、堀内 基広[2]（1.農研機構・動衛研・プリオン病ユニット、2.北大・獣医学研究院・衛生学分野）

[3P-1222] 細胞膜上の GPIアンカー型タンパク質であるプリオンタンパク質と Thy1のダイナミックなメゾスケール領域への結合と閉じ込め：1分子イメジング法による検出

○根本 悠宇里[1,2,3]、Roger Morris[4]、土方 博子[1]、角山 貴昭[3]、柴田 明裕[1,2]、笠井 倫志[2]、楠見 明弘[1,2,3]、藤原 敬宏[1]（1.京大・WPI-iCeMS、2.京大・再生研、3.OIST、4.キングス・カレッジ・ロンドン）

[3P-1223] インスリン誘導性低血糖時のマウス視床下部における Usp2の発現局在

○橋本 茉由子[1]、戸田 知得[2]、高橋 英機[3]、北村 浩[1]（1.酪農大・獣医・生理、2.北大・獣医・生化学、3.理研・脳・動物資源）

[3P-1224] シヌクレイノパチー細胞モデルにおける内因性アディポネクチン発現増加の解析

○橋本 款[1]、高松 芳樹[1]、藁谷 正明[1]（1.都医学研・パーキンソン病研究室）

[3P-1225] ミクログリアを制御するヒポキサンチン応答の解析

○岡島 智美[1]、鶴田 文憲[1]、佐藤 伴[1]、千葉 智樹[1]（1.筑波大院・生命・生物科学）

[3P-1226] ショウジョウバエ脳の加齢においてグリア細胞の Toll様受容体が果たす神経保護的作用の解明

○榊原 泰史[1]、飯島 浩一[1,2]（1.長寿研・アルツハイマー病、2.名市大・院薬・加齢病態制御）

[3P-1227] ノンクラスタードδ2プロトカドヘリンの中枢神経系での発現を検討する

○井次 陸[1]、山口 菜摘[1]、高屋 拓伸[1]、高坂 和芳[1]、杉浦 弘子[2]、安田 新[2]、山形 要人[2]、田中 秀和[1]（1.立命大院・生命科学・生命医科、2.都医学研・シナプス可塑性）

[3P-1228] オオミジンコの発生段階における光受容体遺伝子の発現解析

○松井 さやか[1]、加藤 ゆきね[2]、紺野 由夏[2]、杉本 健吉[1]（1.新潟大学大学院 自然科学研究科、2.新潟大学 理学部 生物学科）

[3P-1229] 疾患特異的 iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症（ SBMA）の病態解析

○小野寺 一成[1,2]、下門 大祐[1,3]、伊藤 卓治[1]、石原 康晴[3]、勝野 雅央[2]、道勇 学[1]、祖父江 元[4]、岡野 栄之[3]、岡田 洋平[1]（1.愛知医科大・医・神経内科、2.名古屋大・院医・神経内科、3.慶應義塾大・医・生理学、4.名古屋大・院医）

ポスター発表 | 10. 植物、農生物学、食品科学 | 1) 植物のオルガネラ、細胞、器官形成（ポスター）

[3P-10-1] 10. 植物、農生物学、食品科学-1) 植物のオルガネラ、細胞、器官形成

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1230（3PT25-01）] イネの表皮分化に関わる受容体型プロテインキナーゼ遺伝子*OsNION4*の同定

菊池 達也[1]、小暮 恵太[1]、小松 陽花[2,3]、佐藤 菜々[2,4]、高橋 ほなみ[1]、○伊藤 幸博[1,2]（1.東北大・農、2.東北大・科学者の卵養成講座、3.現・東北大・工、4.現・東北大・理）

[3P-1231（3PT25-05）] トリアシルグリセロールリパーゼ

©日本分子生物学会/日本生化学会

SDP1の発現抑制はダイズの脂質含量と脂肪酸組成を改良する
○金井 雅武[1]、山田 哲也[2]、林 誠[3]、真野 昌二[1,4]、西村 幹夫[1]
（1.基礎生物学研究所、2.北海道大学、3.長浜バイオ大学、4.総合研究大学院大学）

[3P-1232] テンサイ花粉稔性回復遺伝子*Rf1*の進化過程
○荒河 匠[1]、勝山 嵩也[1]、菅谷 元[1]、本間 雄二朗[1]、佐野 千紘[1]、久保 友彦[1]（1.北大・院農）

[3P-1233] 植物細胞における COPII非依存的ゴルジ体コアによるゴルジ体形成・維持機構の解析
○伊藤 容子[1]、植村 知博[2]、中野 明彦[1,2]（1.理研・光量子、2.東大・院理・生物科学）

[3P-1234] ６倍性パンコムギの A, B, Dゲノムに座乗する花成促進遺伝子*VRN1*の発現に及ぼす近縁野生種*Aegilops mutica*細胞質ゲノムの効果
駒田 裕理[1]、松村 実奈[1]、○村井 耕二[1]（1.福井県大・生物資源）

[3P-1235] tRNAwobbleU34修飾欠損のシロイヌナズナ葉の形態形成への影響
○中井 由実[1]、堀口 吾朗[2]、岩渕 功誠[3]、田村 謙太郎[4]、原田 明子[5]、中井 正人[6]、西村 いくこ[3]、矢野 貴人[1]（1.大阪医大・医・生化学、2.立教大・理・生命理学科、3.甲南大・大学院・自然科学研究科、4.京大・大学院・理学研究科、5.大阪医大・医・生物、6.阪大・蛋白研）

[3P-1236] 環境ストレスに応じた細胞の運命転換と光合成オルガネラ葉緑体の数を制御する新しい制御系
ポンタイ プラパポーン[1]、高野 博嘉[2]、吉岡 泰[3]、○藤田 知道[4]（1.北大・院生命、2.熊大・院理、3.名大・院理、4.北大・院理）

[3P-1237] シロイヌナズナのトランスゴルジ網・初期エンドソームにおいて*BEN3/BIG2*遺伝子が制御するBFA感受性膜輸送の解析
○松浦 友紀[1]、北倉 左恵子[1,2]、河野 啓貴[1]、柿本 辰男[1]、田中 博和[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.京大・院農）

[3P-1238] テンサイ(*Beta vulgaris* L.)で同定された新規ミトコンドリア DNA分子の特徴と分布
○北崎 一義[1]、田添 沙織[1]、村田 智己[1]、大久保 めぐみ[1]、久保 友彦[1]（1.北大・院農）

[3P-1239] 植物のクチクラ形成に関与する ABC輸送体の局在制御因子の探索
○田中 博和[1]、田井 聡美[1]、橋口 雄樹[1]、鎌田 和[1]、柿本 辰男[1]（1.阪大・院理・生物科学）

[3P-1240] ヒメツリガネゴケ*PSRP1*の発現・局在・機能解析
○宍戸 滉[1]、高良 美帆[1]、細野 和哉[1]（1.立教大・理・生命理学）

[3P-1241] シロイヌナズナ液胞タンパク質の液胞輸送シグナルの解析
高畑 周平[1]、久我 一弘[2]、森木 公平[1]、清水 英寿[2]、地阪 光生[2]、横田 一成[2]、中川 強[1]、○西村 浩二[1]（1.島根大・研究・学術情報機構・総科研セ、2.島根大・生物資源）

[3P-1242] 植物のシスチノシン様タンパク質の機能に関する研究
○中西 洋一[1]、武村 みどり[1]、永縄 万由子[1]、前島 正義[1]（1.名大・院生命農・細胞ダイナ）

ポスター発表 | 10. 植物、農生物学、食品科学 | 2) 植物ゲノムと遺伝子、オミックス解析（ポスター）

[3P-10-2] 10. 植物、農生物学、食品科学-2) 植物ゲノムと遺伝子、オミックス解析

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1243] PHD fingerドメインを持つ aHiTAP1はカラザ胚乳で発現する
○横山 悠理[1]、木藤 新一郎[1,2]（1.名市大院・システム自然科学、2.名市大院・生物多様性研究センター）

[3P-1244] オオムギ*CISP* 遺伝子は重金属ストレスへの応答に関与する
○應 梦超[1]、保田 浩[2]、櫻井 宣彦[1]、木藤 新一郎[1,3]（1.名市大院・システム自然科学、2.農研機構・北海道農業研究センター、3.名市大院・生物多様性研究センター）

[3P-1245] ブラキポディウムにおける*CISP*相同遺伝子の発現解析
○宮崎 由麻[1]、木藤 新一郎[1,2]（1.名市大院・システム自然科学、2.名市大院・生物多様性研究センター）

[3P-1246（3PT25-06）] 多検体 RNA-seqを用いた野外におけるイネの環境応答予測
○鹿島 誠[1]、齊藤 大樹[2]、岩山 幸治[3]、手塚 あゆみ[1]、出口 亜由美[1]、永野 惇[4,5]（1.龍大・食農研、2.京大・院農、3.滋賀大・データサイエンス教育研究センター、4.龍大・学農・植物生命科学、5.JST, CREST）

[3P-1247（3PT25-07）] バイオマス植物ソルガムにおけるマルチトランスクリプトーム解析
○蒔田 由布子[1]、川島 美香[1]、栗山 朋子[1]、嶋田 勢津子[1]、松井 南[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.理研・CSRS・合成ゲノミクス）

[3P-1248] Distribution and Fluctuation of 20-Hydroxyecdysone in Individual Organs of Spinach during Reproductive Stage

Dang Viet Cao[1]、Reniel S. Pamplona[1]、Jiwon Kim[1]、Young Kyoung Oh[1]、Key Zung Riu[1,2]、○Kyung Hwan Boo[1,2]（1.Department of Biotechnology, College of Applied Life Science (SARI), Jeju National University, Republic of Korea、2.Subtropical/tropical Organism Gene Bank, Jeju National University, Republic of Korea）

[3P-1249] ミヤコグサの形質を推定する数理モデルの検討

○長谷川 舞衣[1]、菊地 正隆[1]、市原 寿子[1]、佐藤 修正[2]、権藤 崇裕[3]、橋口 正嗣[3]、田中 秀典[3]、磯部 祥子[4]、明石 良[3]、中谷 明弘[1]（1.大阪大・院医・ゲノム情報学、2.東北大・院生命・ゲノム継承システム、3.宮崎大・農、4.かずさDNA研・先端研）

[3P-1250] 恒温植物ザゼンソウの温度応答性呼吸調節メカニズムに関する研究

○梅川 結[1]、伊藤 菊一[1]（1.岩手大・農・応用生物）

[3P-1251] 種を超えたゲノム情報統合のためのデータリンク基盤の構築

○市原 寿子[1]、菊地 正隆[1]、長谷川 舞衣[1]、小原 光代[2]、平川 英樹[2]、磯部 祥子[2]、田畑 哲之[2]、中谷 明弘[1]（1.阪大・院医・ゲノム情報学共同研究講座、2.かずさDNA研）

[3P-1252] シロイヌナズナのセシウム輸送体の単離

○小野 紘平[1]、秋廣 高志[1]（1.島根大・院・生物資源・生物生命）

[3P-1253] 植物におけるフラビン化合物輸送体の探索

菊池 円架[1]、難波 純也[1]、丸田 隆典[1]、石川 孝博[1]、澤 嘉弘[1]、吉村 和也[2]、重岡 成[3]、○小川 貴央[1]（1.島根大・生資科・生命工、2.中部大・応生・食栄、3.近畿大・農・バイオ）

[3P-1254] 植物におけるフラビン化合物代謝制御に関与する新規因子の探索

○難波 純也[1]、菊池 円架[1]、丸田 隆典[1]、石川 孝博[1]、澤 嘉弘[1]、吉村 和也[2]、重岡 成[3]、小川 貴央[1]（1.島根大・生資科・生命工、2.中部大・応生・食栄、3.近畿大・農・バイオ）

[3P-1255] シロイヌナズナ*FLO2*遺伝子ファミリーの機能解析

○紀平 望帆[1]、金子 千紘[1]、谷口 一至[1]、石井 陽平[1]、無津呂(青木) 裕美[1,2]、小柳 淳[1]、草野 博彰[1,3]、鈴井 伸郎[4]、尹 永根[4]、藤巻 秀[5]、河地 有木[4]、島田 浩章[1]（1.東京理科大学 基礎工学部 生物工学科、2.現: 理研 環境資源科学研究センター、3.現: 京都大学 生存研究所、4.量研 高崎研、5.量研 経営企画部）

[3P-10-3] 10. 植物、農生物学、食品科学-3) 光合成、環境応答、植物病原微生物

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1256] 低分子化合物および未利用資源によるバイオスティミュラントの開発研究

○鳴坂 義弘[1]、山次 康幸[2]、吉岡 美樹[3]、吉岡 博文[3]、裏地 美杉[1]、畑中 唯史[1]、鳴坂 真理[1]（1.岡山生物研、2.東大院農、3.名大院生農）

[3P-1257] デュアル抵抗性蛋白質システムを構成するRRS1およびRPS4の機能解析

○鳴坂 真理[1]、白須 賢[2]、豊田 和弘[3]、高野 義孝[4]、白石 友紀[1]、鳴坂 義弘[1]（1.岡山生物研、2.理研・CSRS、3.岡大院・環境生命、4.京大院・農）

[3P-1258] シアノバクテリア*Synechocystis* sp. PCC6803の Sll1181、 Slr1270におけるタンパク質輸送機能の解析

○板垣 文子[1]、田中 優[1]、内山 純爾[2]、石川 晴菜[1]、甲賀 栄貴[1]、中原 凌波[3]、太田 尚孝[1,2,3]（1.東理大・院科学教育、2.東理大・理、3.東理大・院理）

[3P-1259] Synechocystis sp.PCC6803における S-layerタンパク質 Sll1951の環境ストレス応答

○石川 晴菜[1]、板垣 文子[1]、甲賀 貴栄[1]、新垣 善之助[2]、中原 凌波[2]、兼崎 友[3]、吉川 博文[4]、内山 純爾[5]、太田 尚孝[1,2,5]（1.理科大・科学教育・科学教育、2.理科大・理学研究科・科学教育、3.東京農業大・ゲノム解析センター、4.東京農業大・応用生物、5.理科大・理学部）

[3P-1260（3PT25-03）] トマトモザイクウイルスの増殖過程におけるタバコの膜タンパク質レモリンの関与

○高島 永太[1]、丹生谷 博[2]、松下 保彦[3]、佐々木 信光[3]（1.農工大・院農・応用生命化学、2.早稲田大・創造理工、3.農工大・遺伝子実験施設）

[3P-1261（3PT25-04）] 酢酸を利用して乾燥に対抗する植物の新規生存戦略

○金 鍾明[1]、藤 泰子[2]、関 原明[1,3,4]（1.理研・環境資源センター、2.東大院・理、3.横市大院・木原生研、4.CREST JST）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1262] Virulence Genes Derived Primers for the Isothermal Gene Amplification of Fusarium oxysporum f. sp. cubense Tropical Race 4
○MA. Christina Eufracia Vargas[1]、Neil H. Tan Gana[1,2]、Jeremy M. Andrade[1]、Adria Rae Abigail R. Eda[1]、Crisanto M. Lopez[1]、Arni G. Gilbuena[1,2]、Merab A. Chan[1]、Clister V. Pangantihon[1]、Ivy Joy R. Saen[1]、Daniel A. Fletcher[2]、Ma. Regina Justina E. Estuar[1]（1.CITAS Project Team, Ateneo de Manila Univ.、2.Dept. of Bioeng, UC Berkeley）

[3P-1263] RNA-Seqを用いた野生植物内ウイルスの網羅的探索と宿主応答の解析
○神谷 麻梨[1,2]、永野 惇[2]、本庄 三恵[1]、工藤 洋[1]（1.京大・生態研、2.龍谷大・農学部）

[3P-1264] 高温登熟による炊飯米物性の変化に関係する細胞壁合成遺伝子の同定
○白矢 武士[1]、太田 沙由理[1]、三ツ井 敏明[2,3]、佐藤 徹[4]、東 聡志[4]（1.新潟農総研、2.新潟大院・自然科学、3.新潟大農・応生化、4.新潟農総研・作物研）

[3P-1265] DNA相同組換えモニタリング遺伝子を持つシロイヌナズナカルスを用いた現場土壌における低線量放射線影響の検出
○高橋 真哉[1]、玉置 雅紀[2]（1.筑波大・生命環境系、2.国環研・福島支部）

[3P-1266] 転写因子 OsNAC3と OsNAC4を介した植物の過敏感細胞死誘導の機構解析
○中井 亮太[1]、三田 将大[2]、平井 洋行[2]、神村 麻友[2]、蔡 晃植[1,2]（1.長浜バイオ大院・バイオ、2.長浜バイオ大・バイオ）

[3P-1267] 植物ウイルスの RNAサイレンシングサプレッサーがベンサミアナタバコのダイサー DCL3および DCL4に与える影響
○澤野 光[1]、井木 太一郎[2]、竹田 篤史[3]、森山 裕充[1]、福原 敏行[1]（1.東京農工大・院農、2.大阪大学、3.立命館大学）

[3P-1268] トマト黄化葉巻ウイルス（ TYLCV）の簡易検出法
○岡田 亮[1]、沼田 慎一[2]、池上 隆文[1]、鹿島 哲郎[1]（1.茨城農総セ・園研、2.茨城・結城普及セ）

[3P-1269] 細胞性粘菌と土壌線虫の生物間コミュニケーションの解析
○齊藤 佑美子[1]、宮崎 早紀[1]、白神 美菜子[1]、永松 ゆきこ[2]、Derek Bartlem[3]、齊藤 玉緒[4]（1.上智大院・理工、2.パネフリ工業株式会社、3.北海道大・農、4.上智大学・理工）

[3P-1270] 植物の脱春化を制御する新規遺伝子の探索
○丸岡 孝資[1]、白川 一[1]、ガン エンシェン[2]、伊藤 寿朗[1,2]（1.奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 花発生分子遺伝学研究室、2.テマセック生命科学研究所）

[3P-1271] シロイヌナズナ NADH加水分解酵素, AtNUDX6および7の相互作用因子の探索と機能解析
○野津 昌史[1]、中川 奨也[2]、丸田 隆典[1]、石川 孝博[1]、澤 嘉弘[1]、吉村 和也[3]、小川 貴央[1]、重岡 成[2]（1.島根大・生資科・生命工、2.近畿大・農・バイオ、3.中部大・応生・食栄）

ポスター発表 | 10. 植物、農生物学、食品科学 | 4) 植物ホルモンと情報伝達（ポスター）

[3P-10-4] 10. 植物、農生物学、食品科学-4) 植物ホルモンと情報伝達

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1272（3PT25-02）] 金時草由来のメラトニン合成酵素 SNAT及び COMTの単離と酵素学的解析
○金澤 直子[1]、金崎 由穂[1]、海老原 充[1]（1.石川県大）

[3P-1273] イネ科モデル植物ミナトカモジグサにおけるチロシンリン酸化を介した情報伝達機構の解明
○井上 優[1]、根本 圭一郎[2]、澤崎 達也[2]、有村 源一郎[1]（1.東理大・院基礎工・生物工、2.愛媛大学プロテオサイエンスセンター）

[3P-1274] 植物ホルモンエチレン代替化合物の探索と作用機構の解析
○北畑 信隆[1,2]、渡辺 健志郎[1]、鈴木 優志[3]、浅見 忠男[3]、朽津 和幸[1,2]（1.東京理科大・理工・応用生物科学、2.東京理科大・イメージングフロンティアセンター、3.東大院・農生科）

[3P-1275] 希少糖が種子発芽に与える影響
○瀬町 崇浩[1]、長尾 将成[1]、臼杵 翔[1]、大和屋 健二[1]、中田 一弥[1]（1.東理大・理工）

[3P-1276] アブラナ科植物の自家不和合性における自己認識機構の構造基盤
○真坂 知帆[1]、村瀬 浩司[1,2]、森 智行[1]、劉 瀟[1]、平野 良憲[1]、浅野（下里） 裕子[1]、高田 美信[3]、渡辺 正夫[3]、磯貝 彰[1]、箱嶋 敏雄[1]、高山 誠司[1,2]（1.奈良先端大・バイオ、2.東大院生科・応生化、3.東北大院・生命）

[3P-1277] 植物の環境適応において生理活性物質生産系を制御するモリブデン補酵素硫化酵素 MOCOSの多面的生理機能

©日本分子生物学会/日本生化学会

○渡邊 俊介[1,2]、澤田 有司[1]、田中 真帆[1]、松井 章浩[1]、平井 優美[1]、関 原明[1]、坂本 敦[3]、瀬尾 光範[1]
（1.理研 CSRS、2.日本学術振興会特別研究員PD、3.広島大・院理）

ポスター発表 | 10. 植物、農生物学、食品科学 | 5) 農生物学、食品科学（ポスター）

[3P-10-5] 10. 植物、農生物学、食品科学-5) 農生物学、食品科学

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1278（3PT25-08）] Effectiveness of Electrical Conductivity for Diagnosing Subclinical Mastitis in Dairy Cows
○T Navishka Bandara Abeyratna Kobbekaduwa Kobbekaduwa Walawwe[1]、M.S. Kurukulasuriya[1]、U.L.P. Mangalika[2]
（1.Department of Animal Science, Uva Wellassa University, Sri Lanka、2.Veterinary Research Institute, Sri Lanka）

[3P-1279（3PT25-09）] フタホシコオロギ*Gryllus bimaculatus*における交尾と卵巣摘出によるタンパク質選好性行動と脂肪体の代謝変化の関連性
○塚本 悠介[1]、永田 晋治[1]
（1.東大・院新領域・先端生命科学）

[3P-1280（3PT25-10）] 植物性食物内の鉄キレート化合物による小腸の鉄吸収効果
○村田 佳子[1]、吉田 雅美[1]、渡辺 健宏[1]、難波 康祐[2]、佐治 英郎[3]、木村 寛之[4]（1.公益財団法人サントリー生科財団・生有研、2.徳島大・院医歯薬学・有機合成薬学、3.京大・薬学・病態機能分析学、4.京都薬科大・代謝分析学）

[3P-1281（3PT25-11）] 食品中に含まれる匂い（香り）物質ヘキサナールのヒト血清アルブミンへの結合
○小林 葉子[1]（1.桐生大・医療保健・栄養）

[3P-1282（3PT25-12）] 抗筋萎縮ペプチド Cblnを高含有するコメの開発とモデル動物を用いた投与試験
○赤間 一仁[1]、金崎 雅子[1]、鳥越 奈津子[1]、高林 綾子[1]、佐々木 礼菜[1]、西川 彰男[1]、二川 健[2]（1.島根大・生資・生物科、2.徳島大・院・IBS）

[3P-1283（3PT25-13）] 白色脂肪細胞のベージュ化を伴うサンショウの抗肥満効果の解析
○井原 勇人[1]、竹島 健[1]、門脇 昭夫[2]、山下 雅礼[2]、大西 紗与[2]、岸田 邦博[3]、我藤 伸樹[2]、赤水 尚史[1]
（1.和医大・RI実験施設 / 第一内科、2.中野BC・食品科学研究所、3.近大・生物理工）

[3P-1284（3PT25-14）] SIRT1を増強するアンチエイジング乳酸菌の機能性
○阿部 佳世子[1]、山口 大貴[1]、味志 美穂[2]、片倉 喜範[3]（1.九大院・システム生、2.九大院・生資環、3.九大院・農院）

[3P-1285（3PT25-15）] 健康的日本食の成分解析とその応用
○都築 毅[1]、坂本 有宇[1]、岩垣 ゆい[1]、菅原 沙恵子[1]、山本 和史[1]
（1.東北大・院・農）

[3P-1286] Antioxidant Properties of Proteins and Protein Hydrolysates of Breast Meat from Thai Native and Spent hens
○Phatthawin Lengkidworraphaiphat[1]、Sanchai Jaturasitha[1]、Rawiwan Wongpoomchai[2]（1.Dept. of Anim and Aqua sci., Fac. of Agri., Univ. of Chiang Mai 、2.Dept. of Biochem., Fac. of Med., Univ. of Chiang Mai）

[3P-1287] Antioxidant and Prooxidant Properties of Anthocyanin rich-extract of *Cleistocalyx nervosum* var. *paniala* in Acetaminophen Induced Hepatotoxicity in Rats
○Rawiwan Wongpoomchai[1]、Waristha Thuschana[1]、Nichanan Inboot[1]、Sirinya Taya[2]
（1.Dept. of Biochem., Fac. of Med., Chiang Mai Univ.、2.Fac. of Med. Sci., Nakhonratchasima College）

[3P-1288] *In Vitro* and *In Vivo* Antioxidant Potentials of Cold Pressed Rice Bran Oil from Rice Cultivated in Northern Thailand
○Warunyoo Phannasorn[1]、Tarika Thumvijit[2]、Jetsada Ruangsuriya[1]、Rawiwan Wongpoomchai[1]
（1.Dept. of Biochem., Fac. of Med., Chiang Mai

ConBio2017 Consortium of Biological Sciences 2017

Univ.、2.AMS Cancer Res. Unit, Fac. of Assoc. of Med. Sci., Chiang Mai Univ.）

[3P-1289] チャバネアオカメムシ2齢幼虫と成虫の盲嚢部とその共生細菌の形態の違い

○小林 遥[1]、小林 秀昭[1]（1.帝京平成大学）

[3P-1290] ヒト CYP3A4酵素を利用したアフラトキシンB1解毒法の開発

○山田 真理恵[1]、今石 浩正[1,2]（1.神戸大・農、2.神戸大・バイオシグナル総研セ）

[3P-1291] 好気性高温堆肥発酵における硝化細菌叢の解析

○吉井 貴宏[1]、矢野 紘子[1]、古井 義博[1]、杉原 孝文[1]、森屋 利幸[1]、大島 泰郎[1]（1.共和化工・環境微生物研）

[3P-1292] 水素付加したビタミン K_1の生体内代謝機構の解析

○廣田 佳久[1,2]、中川 公恵[2]、須原 義智[1]、岡野 登志夫[2]（1.芝浦工大・システム理工・生命科学、2.神戸薬大・衛生化学）

[3P-1293] 貯穀害虫コクヌストモドキにおける甘味受容

○菊田 真吾[1]、高田 智之[1]、佐藤 令一[1]（1.農工大院BASE）

[3P-1294] 牛糞・家畜廃棄物の堆肥化処理過程における微生物群集解析

○森屋 利幸[1]、吉井 貴宏[1]、大島 泰郎[1]（1.共和化工・環境微研）

[3P-1295] ゴマリグナン類の K562細胞に対する抗腫瘍効果の検討

○藤村 務[1]、數野 彩子[3]、三浦 芳樹[3]、上野 隆[3]、蓬田 伸[2]（1.東北医薬大・薬・臨床分析化学、2.東北医薬大・薬・薬物治療、3.順天堂大・研基セ・生体分子）

[3P-1296] 非肥満型２型糖尿病モデルマウスの耐糖能と脂質蓄積に及ぼす Kaempferia parvifloraのエタノール可溶物の効果

○落合 優[1]、野崎 勉[2]、東 善行[1]（1.北里大学獣医学部、2.ビーエイチエヌ株式会社）

[3P-1297] 新規レスベラトロール誘導体は大腸癌細胞三次元増殖を抑制する

○澤田 悠賀[1]、松川 泰治[2]、土井 聡[2]、角田 俊之[3,4]、岡本 春奈[1]、苗村 円佳[1]、田原 圭一郎[1]、有川 和沙[1]、松岡 耕平[1]、原田 正樹[1]、大貫 宏一郎[5]、白澤 専二[3,4]、神武 洋二郎[1]（1.近大大学院・産業理工・細胞生物工学、2.（株）ユーハ味覚糖・バイオ技術開発室、3.福岡大・医学部・細胞生物、4.福岡大・基盤研究機関先端分子医学研、5.近大大学院・産業理工・食品機能学）

[3P-1298] 植物感染性線虫に対する誘引物質の探索

○大田 守浩[1]、橋口 正嗣[4]、明石 良[4]、石田 喬志[2]、井田 隆徳[3]、澤 進一郎[1]（1.熊大・院・自然科学、2.熊大・IROAST、3.宮大・フロンティア、4.宮大・農）

[3P-1299] 全ゲノム配列と QTL情報を統合した柔軟性の高い AmpliSeqダイズ育種パネルの開発

○小木曽 映里[1]、田口 文緒[1]、平田 香里[2]、加賀 秋人[1]、羽鹿 牧太[1]、石本 政男[1]（1.農研機構 次世代作物開発研究センター、2.農研機構 東北農業研究センター）

[3P-1300] 昆虫食のメタボリックシンドローム改善効果

○井内 良仁[1]、栗林 宏美[1]、藤田 晃大[1]、柿薗 博美[1]、田崎 英祐[1]、佐伯 真二郎[2]（1.山口大院・創成科学・農学系、2.神戸大院・農）

[3P-1301] 酢酸摂取がラット腸内細菌叢構成に与える影響

○吉村 征浩[1]、岩田 三有紀[1]、山下 広美[1]（1.岡県大・保福・栄養）

[3P-1302] 食品成分によるβ_2アドレナリン受容体発現調節メカニズムの解明と骨格筋機能改善への応用"

○近澤 未歩[1]、清水 誠[1]、井上 順[1]、佐藤 隆一郎[1]（1.東大院・応生科・農生化）

[3P-1303] オートファジー阻害剤によるプロポリス含有桂皮酸誘導体の抗癌活性増強効果

○星 真奈美[1]、遠藤 智史[1]、市原 賢二[2]、松永 俊之[1]、五十里 彰[1]（1.岐阜薬大・生化学、2.アピ（株））

[3P-1304] モンシロチョウサイトトキシンを利用したセリシン繭産生カイコの作出とセリシンの細胞培養への応用

○小谷 英治[1]、松本 えりか[1]、瀬筒 秀樹[2]、若林 敬二[3]、森 肇[1]（1.京工繊大院、2.農研機構、3.静岡県立大学）

[3P-1305] 食品の脂質酸化をテーマとした主要穀類のゲノム情報と文献情報のシステマティックレビュー

○黒田 久夫[1]、三木 香奈[1]、小高 早央里[1]（1.東京家政学院大・現代生活学部）

[3P-1306] 刺胞動物ミズクラゲの変態とリソソーム加水分解酵素群の関連

○辻田 菜摘[1]、小山 寛喜[1]、辻 敏之[2]、矢中 規之[1]、荒川 賢治[3]、国吉 久人[1]（1.広島大・院生物圏、2.長浜バイオ大・バイオサイエンス、3.広島大・院先端研）

[3P-1307] カシスアントシアニンが秘めるフィトエストロゲン活性の探索

○七島 直樹[1]、堀江 香代[1]、冨澤 登志子[2]、北島 麻衣子[2]、前多 隼人[3]（1.弘前大・院保健・生体検査、2.弘前大・院保健・看護、3.弘前大・農生・食料資源）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-11-1] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-1) バイオインフォマティクス

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1308] ドッキングシュミレーションと経験ポテンシャルを用いたオーファン核内受容体のリガンド推定

○川上 夢香[1]、由良 敬[1,2]（1.お茶大・院ライフサイエンス・生命科学、2.早大理工学術院・先進理工）

[3P-1309] 大規模変異データベース利用によるヒト集団に特異的な SNVの探索とタンパク質立体構造に対する影響推定

○坂本 美佳[1]、由良 敬[2,3]（1.お茶大・院・ライフサイエンス、2.お茶大・シミュレーション科学・生命情報学、3.早稲田大・先進理工）

[3P-1311（4AT27-03）] タンパク質モチーフの情報に基づくメタゲノム解析

○森 大輔[1]、満山 進[1,2]、吉武 和敏[1]、五十嵐 洋治[1]、浅川 修一[1]（1.東大・院農・水圏生物工学、2.慶應大・医・遺伝子学）

[3P-1312（4AT27-04）] ヒト転写標的遺伝子の機能エンリッチメントの特徴とクロマチン相互作用に関わるタンパク質の DNA結合配列解析への応用

○大里 直樹[1]（1.阪大・院・情報科学）

[3P-1313（4AT27-05）] A bioinformatics approach to synthetic lethality in cancer

○S. Kelly[1]、Parry J. Guilford[1]、Michael A Black[1]（1.Dept. of Biochem., Div. of Health Sci., Univ. of Otago, New Zealand）

[3P-1314（4AT27-06）] Handling uncertainties and biases inherent in the reference genome with EAGLE: Explicit Alternative Genome Likelihood Evaluator

○Tony Kuo[1,4]、Martin C Frith[1,2,3]、Jun Sese[1]、Paul Horton[1,2]（1.Artificial Intelligence Research Center, AIST、2.Department of Computational Biology and Medical Sciences, Graduate School of Frontier Sciences, The Univ. of Tokyo、3.AIST-Waseda CBBD-OIL、4.AIST-Tokyo Tech RWBC-OIL）

[3P-1315（4AT27-07）] グラフゲノムブラウザ

○横山 稔之[1]、坂本 祥駿[1]、関 真秀[1]、鈴木 穣[1]、笠原 雅弘[1]（1.東大・新領域・メディカル情報生命）

[3P-1316（4AT27-08）] 国際的ゲノミクスデータ統合のアジア拠点: The Asian Mirror of the UCSC Genome Browser Database

○川路 英哉[1]（1.理研・情報基盤・予防医療U）

[3P-1317（4AT27-15）] 公共遺伝子発現データを活用するためのツール: RefExと AOE

○小野 浩雅[1]、大石 直哉[2]、坊農 秀雅[1]（1.情シ機構・ライフサイエンス統合DBセ、2.ドッグラン）

[3P-1318] Identifying statistically significant combination markers for survival analysis

○Raissa Relator[1]、Aika Terada[1,2,3]、Jun Sese[1]（1.AIRC, AIST、2.PRESTO, JST、3.Grad. Sch. of Frontier Sci., Univ. of Tokyo）

[3P-1319] 痙直型脳性麻痺発症に関与する DMRT3遺伝子エンハンサーの同定

○久保田 直人[1]、横山 俊史[2]、星 信彦[2]、須山 幹太[1]（1.九大・生医研、2.神戸大・院農・応用動物）

[3P-1320] がん関連タンパク質/遺伝子相互作用データベース*CancerProView*の新展開

○満山 進[1]（1.慶應大・医・遺伝子医学）

[3P-1321] テンソル分解を用いた教師なし学習による変数選択のバイオインフォマティクスへの応用

○田口 善弘[1]（1.中大・理工・物理）

[3P-1322] びまん型胃がん及び間葉系幹細胞におけるERBBの遺伝子発現及びネットワークパスウェイ解析

○田邊 思帆里[1]、青柳 一彦[2]、横崎 宏[3]、佐々木 博己[2]（1.国立医薬品食品衛生研・安全性予測評価、2.国立がん研究セ・基盤的臨床開発研究コアセ、3.神戸大・院医・病理）

[3P-1323] Maser：次世代シーケンスデータを管理、分析、視覚化するためのクラウドベースのプラットフォーム

○金城 その子[1]、門間 則和[2]、三須 定彦[3]、北村 徳一[1]、井元 順一[1]、吉武 和敏[4]、池尾 一穂[1,5]（1.遺伝研・生命情報、2.日立製作所、3.ビッツ株式会

ConBio2017 Consortium of Biological Sciences 2017

社、4.東大・院農、5.総研大・遺伝学）

[3P-1324] 海洋メタゲノム配列を用いた新規光受容体の探索

○陶久 あや[1,2]、蒔田 由布子[1]、川島 美香[1]、吉武 和敏[3]、五条堀 孝[4]、松井 南[1]（1.理研　CSRS 合成ゲノミクスチーム、2.横市大・国際総合、3.東大・院農・農学生命科学、4.アブドラ国王科学技術大学）

[3P-1325] 千葉県の土壌から単離された臭素酸還元能を持つ Rhodococcus sp. Br-6株と Rhodococcus 属の比較ゲノム解析.

○伊藤 光平[1,2]、原田 誠史[1,2]、中嶋 信美[3]、山村 茂樹[3,4]、冨田 勝[1,2]、鈴木 治夫[1,2]、天知 誠吾[5]（1.慶大・先端研、2.慶大・環境情報、3.国環研・環生セ、4.国環研・地環セ、5.千葉大・園芸）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 2) システムバイオロジー、合成生物学（ポスター）

[3P-11-2] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-2) システムバイオロジー、合成生物学

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1326] 遺伝子発現の振動を行う人工遺伝子回路の構成要素の生化学的解析

村上 泰平[1]、新土 優樹[2]、山岡 智浩[1]、若山 裕綺[1]、森谷 孟史[3]、張 子聡[1,3]、鮎川 翔太郎[1]、若尾 真治[1]、佐甲 靖志[2]、○木賀 大介[1,3]（1.早稲田大学・理工・電気・情報生命、2.理研・細胞情報、3.東工大・院総理工・知能システム）

[3P-1327（4LT27-04）] アミノ酸重合の正確性が低下した遺伝暗号による進化の加速

○榎本 利彦[1]、鮎川 翔太朗[1]、今田 貴士[2]、木賀 大介[1]（1.早稲田大学 先進 電気・情報生命工学科、2.東京工業大学 生命理工学院 生命理工学コース）

[3P-1328（4LT27-01）] 翻訳の起源について：シンプルなペプチドによる RNAポリメラーゼリボザイムの機能の促進

○田上 俊輔[1,2]、Attwater James[2]、Holliger Philipp[2]（1.理化学研究所CLST、2.MRC分子生物学研究所）

[3P-1329（4LT27-02）] Nodal-Leftyシグナル系を使って培養細胞にチューリングパターン形成をさせる

○関根 亮二[1]、戎家 美紀[1]（1.理化学研究所生命システム研究センター）

[3P-1330（4LT27-03）] 小グループの選抜タンパク質を精密定量し、微弱で慢性的な細胞ストレスが細胞生理に与える影響を定量評価する

○森島 信裕[1]、馬替 純二[2]、伊藤 嘉浩[1]、緒方 裕光[3,4]（1.理研・伊藤ナノ医工学研究室、2.馬替生物科学研究所、3.国立保健医療科学院、4.女子栄養大学）

[3P-1331（4LT27-05）] ゲノムを内包し駆動する人工細胞の構築

○辻 岳志[1,2]、角南 武志[2]、市橋 伯一[1,3]（1.阪大・情報科学、2.阪大・未来戦略機構、3.阪大・生命機能）

[3P-1332（4LT27-06）] 細胞シートの折り畳みにコードされた3D形態

○松田 佳祐[1]、足立 晴彦[2]、後藤 寛貴[3]、井上 康博[4]、近藤 滋[2]（1.阪大・医、2.阪大院・生命機能、3.名大院・生命農、4.京大・再生医療科学）

[3P-1333] Self-assembled cationic tripeptide nanostructures as prebiotic RNA binders

○Tony Jia[1]（1.Earth-Life Science Institute）

[3P-1335] Preparation, Characterization, and Evaluation of Chitosan-based Nanoparticle as CpG ODNs Carrier

○Febriana Iswanti[1,2]、Indah Nurulita[3]、Samsurizal Djauzi[4]、Mohamad Sadikin[1]、Arief Budi Witarto[3]、Tomohiko Yamazaki[5]（1.Dept. of Biochem. and Mol. Biol., Fac. of Med., Univ. Indonesia、2.Doct. Prog. Biomed. Sci., Fac.of Med., Univ. Indonesia、3.Dept. of Biotech., Sumbawa Univ. of Tech., Indonesia、4.Dept. of Intern. Med., Fac. of Med., Univ. Indonesia、5.Nanomed. Group, Research Center for Func. Mat,Nat. Inst. for Mat. Sci., Japan）

[3P-1336] 時系列データ導入数理モデルによる HIV-1 cell-free感染と cell-to-cell感染への IFN-α干渉作用の定量化

○熊田 隆一[1]、三沢 尚子[2]、斉藤 成美[3]、柿添 友輔[4]、中岡 慎治[5,6]、岩見 真吾[7,8]、佐藤 佳[2,9]、小柳 義夫[2]（1.京大・理、2.京大・ウイルス再生研・システムウイルス学、3.京大・医、4.九大・シス生、5.JSTさきがけ、6.東大・生産研、7.九大・院理・生物科学、8.JSTさきがけ、9.CREST, JST）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1337] 遺伝子発現システムの脆弱性(セキュリティーホール)を利用した生物制御
○小林 英城[1]（1.海洋機構）

[3P-1338] 大腸菌によるメタノール資化に向けた*Bacillus*属細菌由来メタノール資化代謝経路の実装
○矢島 宙岳[1]、平沢 敬[1]（1.東工大・生命理工学院）

[3P-1339] シグナル伝達系における大規模モデルのシミュレーションに向けた研究
○井上 健太郎[1]（1.宮大・工・情報）

[3P-1340] 亜リン酸依存性を利用した新規生物学的封じ込め手法の開発
○本村 圭[1,2]、廣田 隆一[1,2]、桂浦 善一朗[1]、神原 亮大[1]、佐野 公亮[1]、堀川 凌平[1]、池田 丈[1]、舟橋 久景[1]、黒田 章夫[1,2]（1.広島大・先端研・分子生命、2.JST-ALCA）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 3) 分子進化、分類（ポスター）

[3P-11-3] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-3) 分子進化、分類

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1341（4LT27-07）] ハブゲノム解読により明らかになった毒関連遺伝子の進化
○小川 智久[1]、千々岩 崇仁[2]、小田-上田 直子[3]、中村 仁美[3]、服部 正策[4]、松原 和純[5]、松田 洋一[6]、森 一樹[7]、田代 康介[7]、久原 哲[7]、山崎 慎一[8]、藤江 学[8]、後藤 大輝[8]、小柳 亮[8]、竹内 猛[9]、服巻 保幸[10]、大野 素徳[2]、将口 栄一[9]、久田 香奈子[9]、佐藤 矩行[9]、柴田 弘紀[10]（1.東北大・院生命、2.崇城大学・生物生命学部、3.崇城大学・薬学部、4.東大・医科研、5.名市大・院システム自然科学、6.名大・院生命農、7.九大・院システム生命、8.沖縄科技院大・DNAシーケンシングセクション、9.沖縄科技院大・マリンゲノムユニット、10.九大・生医研）

[3P-1342（4LT27-08）] ソメワケササクレヤモリ: 進化学に照らした動物実験と比較ゲノム解析の提案
○原 雄一郎[1]、竹内 未紀[2]、景山 優花[1,3]、辰見 香織[1]、日比 正彦[2,4]、清成 寛[1]、工樂 樹洋[1]（1.理研・CLST、2.名大・生物機能開発利用研究セ、3.関西学院大・院理工、4.名大・院理）

[3P-1343（4LT27-09）] 霊長類脳における比較トランスクリプトーム・エピゲノム解析
○郷 康広[1,2]、辰本 将司[1]、Chuan Xu[3]、Qian Li[3]、Olga Efimova[4]、Liu He[3]、大石 高生[5]、鵜殿 俊史[6]、山口 勝司[7]、重信 秀治[7]、柿田 明美[8]、那波 宏之[8]、Philipp Khaitovich[3,4]（1.自然科学研究機構 新分野創成センター、2.生理学研究所 認知行動発達機構研究部門、3.CAS-MPG Partner Institute for Computational Biology, Shanghai Institutes for Biological Sciences、4.Skolkovo Institute of Science and Technology、5.京大・霊長研、6.京大・野生動物研究センター、7.基礎生物学研究所 生物機能情報分析室、8.新潟大・脳研）

[3P-1344] 動物レンチウイルスと宿主の進化的軍拡競争の解析： APOBEC3と Vifについて
○木村 出海[1]、山本 啓輔[1]、長岡 峻平[1]、麻生 啓文[1]、今野 順介[1]、中野 雄介[1]、佐藤 佳[1,2]、小柳 義夫[1]（1.京大・ウイルス再生研・システムウイルス学、2.CREST, JST）

[3P-1345] 大腸菌高温適応進化における進化能力の解析
○大村 真優子[1]、寺井 亮平[1]、郡 駿介[1]、成澤 大[1]、四方 哲也[2]、岸本 利彦[1]（1.東邦大・理・生物分子、2.East China Normal Univ.）

[3P-1346] 次世代シークエンサーを用いた DNAバーコード法による土壌線虫群集構造解析
○石川 将大[1]、高林 恵美[1]、新田 友和[1]、広瀬 侑[1]、浴 俊彦[1]（1.豊橋技科大・院工・環境生命）

[3P-1347] モンクロシャチホコの N-アセチルラクトサミン特異的レクチン PFAの進化
○佐々木 一樹[1]、横山 和卓[1]、梅津 和夫[2]、北野 誉[1]（1.茨大・院理工、2.山形大・医）

[3P-1348] 脊椎動物における S100A遺伝子族と PADI遺伝子族の進化
○湊 理[1]、北野 誉[1]（1.茨大・院理工）

[3P-1349] Pre-tRNAのスプライシングに関わる Clp1タンパク質の大規模分子進化解析
○齋藤 元文[1,2]、永田 祥平[1,2]、冨田 勝[1,2]、玉木 聡志

ConBio2017 Consortium of Biological Sciences 2017

[1,2]、鈴木 治夫[1,2]、金井 昭夫[1,2]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報）

[3P-1350] タコブネ類にみる殻の再進化を可能にした遺伝的メカニズム

○吉田 真明[1]、スティアマルガ デフィン[2]（1.島根大・生物資源・隠岐臨海、2.和歌山高専・生物応用化学）

[3P-1351] 高温適応大腸菌における変異率と進化速度の相関

○郡 駿介[1]、大村 真優子[1]、寺井 亮平[1]、成澤 大[1]、廣瀬 文音[1]、四方 哲也[2]、岸本 利彦[1]（1.東邦大・院理・生物分子、2.East China Nomal Univ.）

[3P-1352] 配列類似性ネットワークに基づく HIV-1 pol上のサブタイプ分化と対応する領域の解析

○永田 祥平[1,2]、今井 淳之介[1]、牧野 岳都[1]、冨田 勝[1,2]、金井 昭夫[1,2]（1.慶大・先端生命研、2.慶大・環境情報）

[3P-1353] トランスポゾンは性決定遺伝子*dm-W*の新機能獲得に貢献したのか？

○林 舜[1]、回渕 修治[1]、田村 啓[1]、内山 孝司[1]、高松 信彦[1]、伊藤 道彦[1]（1.北里大・院理・生物科学）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 4) オミックス解析技術（ゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクス）（ポスター）

[3P-11-4] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-4) オミックス解析技術（ゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクス）

13:15 ～ 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1354] アルツハイマーモデルマウス脳海馬領域の空間的トランスクリプトミクス解析

○依田 卓也[1]、細川 正人[2,3]、高橋 清文[2]、坂梨 千佳子[2]、有川 浩司[2,4]、森田 ちひろ[1]、神原 秀記[2]、大島 登志男[1]、竹山 春子[1,2,4]（1.早大院・先進理工・生医、2.早大・ナノライフ、3.JST・さきがけ、4.CBBD-OIL）

[3P-1355] 多様なサンプルを RNA-seqに提供する微小生体試料の自動調製システム

○高橋 清文[1]、松永 浩子[1]、有川 浩司[1,2]、坂梨 千佳子[1]、依田 卓也[3]、細川 正人[1,4]、神原 秀記[1]、竹山 春子[1,2,3]（1.早大・ナノライフ創新研究機構、2.産総研/早大・生体システムビッグデータ解析オープンイノベーションラボラトリ、3.早大院・先進理工・生命医科、4.科学技術振興機構・さきがけ）

[3P-1356] 体系化された情報を知識上に視覚化する仕組みの開発

○有川 浩司[1,2]（1.早大・ナノライフ、2.CBBD-OIL）

[3P-1357] ロングリードシーケンサー MinIONを用いた全長 RNA-seqの解析

○勝俣 恵理[1]、関 真秀[1]、若栗 浩幸[1]、鈴木 穣[1]（1.東大院・新領域・メディカル情報生命）

[3P-1358] ナノポアシークエンサーによる全長 RNA-Seqを用いた肺腺がん細胞株での突然変異のphasingと同一検体の多臓器の発現解析

○関 真秀[1]、勝俣 恵理[1]、坂本 祥駿[1]、セリーワッタナウット サラン[1]、若栗 浩幸[1]、鈴木 穣[1]（1.東大・院新・メディカル情報）

[3P-1359（4AT27-09）] マイクロ流路を用いた細胞の分化度と染色体構造安定性との相関のリアルタイム解析技術開発

○小穴 英廣[1]、高橋 智博[1]、Kennedy Okeyo[2]、上田 潤[3]、山縣 一夫[4]、鷲津 正夫[1]（1.東大・院工・機械、2.京大・ウイルス再生研、3.旭川医大・教育研究推進センター、4.近畿大・生物理工）

[3P-1360（4AT27-10）] ドロップレット・マイクロフルイディクスを用いた未培養微生物の1細胞ゲノム解析

○細川 正人[1,2]、西川 洋平[3]、小川 雅人[3,4]、竹山 春子[1,3,4]（1.早大・ナノライフ創新研、2.JST さきがけ、3.早大院・先進理工・生医、4.CBBD-OIL）

[3P-1361（4AT27-11）] ランダム配列分子バーコードによる核酸分子のデジタル定量解析法とその有用性

○小川 泰策[1]、Kirill Kryukov[2]、伊川 友活[3]、今西 規[2]、城口 克之[1,3,4]（1.理研・QBiC、2.東海大・医、3.理研・IMS、4.JST・さきがけ）

[3P-1362（4AT27-12）] 腫瘍内微小不均一性解明のための空間トランスクリプトミクス解析技術の確立

○中山 淳[1,2]、有川 浩司[1,2]、丸山 徹[1,2]、松永 浩子[3]、依田 卓也[1]、細川 正人[1,4]、神原 秀記[5]、竹山 春子[1,2]、仙波 憲太郎[1,6]（1.早大院・先進研・生医、2.産総研・CBBD-OIL、3.日立製作所、4.JSTさきがけ、5.早大・ナノライフ創新、6.福島医大・TRセンター）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1363（4AT27-13）] 分子間相互作用解析-質量分析法（ MIK-MS）による創薬ターゲット化合物スクリーニングシステムの開発と諸課題
福田 哲也[1]、小尾 奈緒子[2]、中山 登[1,3]、John Ervin[4]、板東 泰彦[1]、長門石 曉[5,6]、西村 俊秀[1,3]、津本 浩平[5,6]、○川村 猛[6,7]（1.バイオシス・テクノロジーズ、2.日本写真印刷、3.聖マリ・分子病態情報、4.Silicon Kinetics Inc.、5.東大・医科研、6.東大・院・工、7.東大・アイソトープ）

[3P-1364（4AT27-14）] 細胞内光クロスリンク法によるがん変異特異的タンパク質間相互作用解析
○廣田 康二[1]、樋野 展正[1]、鳴海 良平[2]、堀越 亮太[1]、向山 樹[1]、足立 淳[2]、朝永 毅[2]、土井 健史[1]（1.阪大院薬、2.医薬基盤健栄研）

[3P-1366] 安定同位体標識化合物を用いた生体内ポリアミン代謝経路におけるポリアミン動態の解析
○森谷 俊介[1]、遠藤 典子[1]、鮫島 啓二郎[1]、平松 恭子[1]、川喜田 正夫[1]（1.都医学研・幹細胞）

[3P-1367] ナノポアシーケンシングとハイブリッドゲノムアセンブリ
○眞鍋 理一郎[1]、野間 将平[1]、田上 道平[1]、遠藤 力也[2]、大熊 盛也[2]（1.理研・CLST・DGT・GeNAS、2.理研・BRC・JCM）

[3P-1368] 妊娠高血圧症候群で特異的に変動する血中ペプチド測定系の確立
○柳田 光昭[1]、濱村 憲佑[2]、三浦 正子[1]、高森 建二[1]、荒木 慶彦[1,2]（1.順天堂大・院医・環境医学研、2.順天堂大・医・産婦人科）

[3P-1369] 高精度日本人多層オミックス参照パネルの提供
○小柴 生造[1,2]、元池 育子[1,3]、三枝 大輔[1,2]、井上 仁[1,2]、城田 松之[1,2]、斎藤 智[1]、木下 賢吾[1,3]、山本 雅之[1,2]（1.東北大　東北メディカル・メガバンク機構、2.東北大・院・医、3.東北大・院・情報科学）

[3P-1370] クモの寄生バチによる造網行動操作の分子機構探索：クモとハチ両方向からの RNA-seq解析
○高須賀 圭三[1,2]、前藤 薫[2]、河野 暢明[1]、冨田 勝[1]、荒川 和晴[1]（1.慶大・先端生命研、2.神戸大・院・農）

[3P-1371] エクソーム解析基盤を用いた日本人変異解析における解析手法の検証と可視化
○小林 香織[1,4]、今井 敦子[1]、山崎 悟[3]、菊地 正隆[1]、足尾 勉[5]、上條 憲一[4]、松村 泰志[2]、中谷 明弘[1]（1.阪大・院医・ゲノム情報学共同研究講座、2.阪大・院医・情報統合医学講座、3.国立循環器病研究センター・細胞生物学部、4.NEC・医療ソリューション事業部、5.NECソリューションイノベータ株式会社・イノベーションラボラトリ）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 5) 遺伝子工学、核酸工学、ゲノム編集（ポスター）

[3P-11-5] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-5) 遺伝子工学、核酸工学、ゲノム編集

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1372（4AT26-01）] 無増幅・非酵素系での目的miRNAの超高感度検出システム（ SSMC/Eprobe）の開発
○花見 健志[1,2]、田邊 哲也[1,2,3]、葉梨 拓哉[1,2,3]、山口 光城[1,2,3]、中田 秀孝[2,3]、三谷 康正[1,4]、木村 恭将[1,4]、相馬 崇裕[1]、臼井 健悟[1]、磯部 美智子[2]、小川 隆[2]、伊藤 昌可[1,2,5]、林崎 良英[5]、近藤 聖二[1,2,3]（1.理研DGT、2.理研 RINC、3.オリンパス株式会社、4.株式会社ダナフォーム、5.理研 PMI）

[3P-1373（4AT26-02）] RAD51遺伝子およびバルプロ酸を用いたヒト ES/iPS細胞における高効率なゲノム編集技術の開発
○高山 和雄[1,2,3]、櫻井 文教[1]、水口 裕之[1,2,4]（1.阪大院・薬学、2.医薬健栄研、3.JST・さきがけ、4.阪大・国際医工セ）

[3P-1374（4AT26-03）] ゲノム編集技術による遺伝子ノックアウトニワトリの作製と解析
○大石 勲[1]、吉井 京子[1]、田上 貴寛[2]（1.産総研・バイオメディカル、2.農研機構・畜産研究部門）

[3P-1375（4AT26-04）] 内在性タンパク質を検出し細胞を識別する人工 mRNAデバイス
○川崎 俊輔[1]、藤田 祥彦[1]、永池 崇[2]、富田 耕造[2]、齊藤 博英[1]（1.京都大学iPS細胞研究所、2.東京大学大学院新領域創成科学研究科）

[3P-1376（4AT26-05）] リボザイム閉環三量体によるナ

©日本分子生物学会/日本生化学会

ノ三角形をユニットとしたRNAナノ構造の拡張
○井川 善也[1]、大井 宏紀[1]、ユ カイ[2]、杉山 弘[3,4]、遠藤 政幸[3,4]、松村 茂祥[1]（1.富山大・院理工・化学、2.富山大・理・化学、3.京大・iCeMS、4.京大・院理・化学）

[3P-1378（4AT26-07）] ポリペプチドイオンコンプレックスをキャリアとして利用した植物への遺伝子導入法の開発
○土屋 康佑[1]、宮本 昂明[1]、高見 拓[1]、沼田 圭司[1]（1.理研・酵素）

[3P-1379（4AT26-13）] キイロショウジョウバエ幼若ホルモン受容体の リガンド物質を検出するレポーターアッセイ酵母の作製
○河野 太輔[1]、松浦 麻衣[1]、原島 小夜子[1]、川西 優喜[1]、八木 孝司[1]（1.大府大・院理・生物化科学）

[3P-1380（4AT26-14）] Heterologous expression of synthetic spider dragline silk protein in a marine photosynthetic bacterium
○Choon Pin Foong[1]、Keiji Numata[1]（1.Enzyme Research Team, Biomass Engineering Research Division, RIKEN Center for Sustainable Resource Science）

[3P-1381] Light-responsive CRISPR activators of transcription for cell differentiation
○Elena Moroz[1,2]、C. Grigsby[2]、Molly M. Stevens[1,2]（1.Imperial College, UK、2.Karolinska Institute, Sweden）

[3P-1382] 三重鎖人工核酸(TFO)による二本鎖 DNAの認識とゲノム編集応用への試み
○猪股 梨華[1,2]、Jing Zhao[1]、宮岸 真[1,2]（1.産総研・バイオメディカル、2.東邦大・院理・生物分子）

[3P-1383] 好熱性メタン菌由来 purPと purOによる大腸菌 purH遺伝子の相補
○天貝 雄歩[1]、三瓶 嚴一[2]、河合 剛太[1]、根本 直樹[1]（1.千葉工大・大学院・工学研究科、2.電通大・大学院・情報理工学研究科）

[3P-1384] Crispr/Cas9システム及び ssDNAを用いた、受精卵インジェクションによるノックインマウスの作製
○阿部 浩太[1]、石橋 理基[1]、豊島 文子[1]（1.京大・院生命・細胞増殖統御学）

[3P-1385] CRISPR/Cas9搭載アデノウイルスベクターを用いた細胞特異的ゲノム編集システム
○前川 文[1]、永本 紗也佳[2]、鐘ヶ江 裕美[2]（1.東京大学医科学研究所・遺伝子解析施設、2.東京慈恵会医科大学・総合医科学研究センター・基盤研究施設）

[3P-1386] *In vivo*ゲノム編集効率評価系モデルマウスの開発
○三浦 浩美[1,2]、稲垣 豊[2]、佐藤 正宏[3]、大塚 正人[1]（1.東海大・医・基礎医学、2.東海大・医・再生医療、3.鹿大・医用ミニブタセ・遺伝子発現）

[3P-1387] CRISPR/Cas9による複数遺伝子の同時改変
○関根 僚也[1]、村本 哲哉[1]（1.東邦大・院理・生物）

[3P-1388] 細胞毒性を高めた変異チミジンキナーゼの解析
○卜部 匡司[1]、内堀 亮介[1,2]、瀬原 吉英[1]、嵯峨 泰[1,3]、水上 浩明[1]、小澤 敬也[2,4]（1.自治医大・医・遺伝子治療、2.自治医大・医・免疫遺伝子細胞治療（タカラバイオ））、3.自治医大・医・産婦人科、4.東大・医科研・遺伝子治療）

[3P-1389] ヒストンアセチル化酵素を DNA配列選択的にリクルートする化合物を用いたヒストンアセチル化と遺伝子活性化の検討
○谷口 純一[1]、Ganesh Pandian Namasivayam[2]、板東 俊和[1]、杉山 弘[1,2]（1.京大・院理・化学、2.京大・iCeMS）

[3P-1391] Pre-miR-664aを用いた光依存的な細胞死の誘導
○縄稚 朋子[1]、渡邉 和則[1]、大槻 高史[1]（1.岡大院自然科学）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 6) タンパク質工学、抗体工学、細胞工学（ポスター）

[3P-11-6] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-6) タンパク質工学、抗体工学、細胞工学

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1392（4P2T27-09）] 低分子二重特異性抗体の微生物発現の最適化に向けたドメイン連結順の網羅的な改変と発現宿主の検討
○黒木 侑莉[1]、本間 佐知子[2]、赤羽 美穂子[2]、渡辺 俊介[2]、熊谷 泉[1]、早出 広司[1]、浅野 竜太郎[1]（1.東京農工大・院工・生命工、2.(株)プロテイン・エクスプレス・研究開発部）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1393] Fc融合型低分子二重特異性がん治療抗体の高機能化に向けたヒンジ領域の改変
鈴木 沙緒理[1]、○浅野 竜太郎[1]、熊谷 泉[1]、早出 広司[1]
（1.東京農工大院工・生命工）

[3P-1394（4P2T27-04）] がん診断のための新規イムノセンサーを目指したグルコース脱水素酵素融合 VHH抗体の作製と機能評価
○塚本 夏海[1]、津川 若子[1]、早出 広司[1]、浅野 竜太郎[1]（1.東京農工大・院工・生命工）

[3P-1395（4P1T27-01）] Ecobody Technology: 無細胞タンパク質合成系と大腸菌発現法を用いた単一 B細胞からの新規迅速モノクローナル抗体取得法
○中野 秀雄[1]、加藤 晃代[1,2]、森下 しおみ[1]、内田 由乃[1]、Panwad Ritthisan [1]、兒島 孝明[1]
（1.名大・生命農、2.名城大・農）

[3P-1396（4P1T27-02）] 低分子化抗体精製用新規アフィニティクロマト担体の応用研究
○吉田 慎一[1,2]、村田 大[1,2]、西八條 正克[1,2]、鴻池 史憲[1,2]、水口 和信[1,2]
（1.株式会社カネカ、2.次世代バイオ医薬品製造技術研究組合）

[3P-1397（4P1T27-03）] 狙った結合部位上における抗体親和性成熟系の開発
○江口 晃弘[1]、長棟 輝行[1]、河原 正浩[1]（1.東大・院工・化生）

[3P-1398（4P1T27-04）] 生体内輸送蛋白質の多量体化による腫瘍特異的ドラッグデリバリーシステムの開発
○下地 真広[1]、中辻 匡俊[1,2]、秋山 佳範[1]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.日本学術振興会特別研究員 DC）

[3P-1399（4P1T27-05）] 遺伝子導入と光発現誘導を可能にする金ナノ粒子
○村上 達也[1,2]、中辻 博貴[3]、Kelly Galbraith[4]、栗栖 純子[2]、今堀 博[3,4]、見学 美根子[2,4]（1.富山県立大学 工学部 医薬品工学科、2.京都大学物質-細胞統合システム拠点、3.京都大学大学院工学研究科分子工学専攻、4.京都大学大学院生命科学研究科）

[3P-1400（4P1T27-06）] 中性に近い pHで抗体を精製可能な新規アフィニティーカラムの開発
○岡 芳樹[1]、澤田 泰平[1]、渡辺 尚大[1]、工藤 恒[1]、和田 愛未[1]、河合 秀信[1]、張 マリ[2]、林 勇樹[1]、新井 宗仁[1,2]（1.東大・総合文化・生命環境、2.東大・理・物理）

[3P-1401（4P1T27-07）] リポカリン型プロスタグランジン D合成酵素を用いた難水溶性抗癌剤パクリタキセルに対するドラッグデリバリーシステム
○古田 航祐[1]、中辻 匡俊[1,2]、寺岡 佳晃[1,2]、佐野 裕也[1]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.日本学術振興会特別研究員DC）

[3P-1402（4P1T27-08）] αヘリックス上に設計した新規タンパク質間結合面の汎用性の検証
○八木 創太[1]、赤沼 哲史[2]、山岸 明彦[1]（1.東薬大・生命、2.早大・人間）

[3P-1403（4P1T27-09）] 細胞増殖を指標とした細胞内タンパク質間相互作用検出系 (KIPPIS) の構築と阻害剤探索への展開
○鹿島 大揮[1]、河出 来時[1]、長棟 輝行[1]、河原 正浩[1]（1.東大・院工・化生）

[3P-1404（4P1T27-10）] ３分子間 PCA原理に基づく非競合生物発光免疫測定系の構築
大室 有紀[1]、○上田 宏[1]（1.東工大・化生研）

[3P-1405（4P1T27-11）] 複数回膜貫通型タンパク質に対する立体構造認識モノクローナル抗体の作製
○磯崎 勇志[1]、湊元 幹太[1]、冨田 昌弘[1]（1.三重大・院工・分子生物工学）

[3P-1406（4P1T27-12）] 抗修飾 RNAモノクローナル抗体の効率的な作製法
○松澤 峻[1,2]、磯部 正治[1]、黒澤 信幸[1]（1.富山大・院生融・生体情報、2.(株) MBL）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3P-1407（4P1T27-13）] 乾燥バイオバンクへの挑戦：乾燥に弱い酵素を長期常温乾燥保存可能なネムリユスリカの培養細胞
○黄川田 隆洋[1,2]、菊田 真吾[3]、渡辺 俊介[3]、佐藤 令一[3]、Oleg Gusev[4,5]、Alexander Nesmelov[4]、十亀 陽一郎[1]、Richard Cornette[1]（1.農研機構・生物機能・新産業開拓、2.東大院・新領域・先端生命、3.農工大・BASE、4.カザン大・基礎医生研、5.理研）

[3P-1408（4P1T27-14）] 細胞機能の自在な制御・改変を可能にするナノ熱源作成技術
○新井 敏[1]、 Ferdinandus[2]（1.早大・理工研、2.早大・シンガポール研）

[3P-1409（4P1T27-15）] カルシウムイオンとの結合能を持った自己集合型ペプチドの分子設計
○滝田 茉央[1]、田村 厚夫[1]（1.神戸大・院理・化学）

[3P-1410（4P2T27-01）] セルロース・蛋白質ハイブリッドを活用した新しいVHH抗体の利用法
○星野 英人[1]、上垣 浩一[1]（1.産総研・バイオメディカル）

[3P-1411（4P2T27-02）] 抗体 CDRペプチドの構造ゆらぎ制御による小型抗体代替分子の創製
○門之園 哲哉[1]、Wanaporn Yimchuen[1]、Kyra See[1]、太田 優美[1]、口丸 高弘[1]、近藤 科江[1]（1.東工大・生命理工）

[3P-1412（4P2T27-03）] 核内移行し RNA polymerase II阻害能を持つヒト化抗CD26抗体と triptolideを用いた抗体薬物複合体開発
○山田 健人[1,2]、間所 裕子[2]、西田 浩子[2]、森本 幾夫[3]、坂元 亨宇[2]、林 睦[2]（1.埼玉医大・病理学、2.慶大・医・病理学、3.順天堂大・免疫病がん先端治療学）

[3P-1413（4P2T27-05）] 還元環境に応答して薬剤放出可能なタンパク質ナノカプセルを用いたドラッグデリバリーシステム
○山田 美保路[1]、中辻 匡俊[1,2]、清水 翔太[1]、乾 隆[1]（1.大阪府立大・院・生命環境、2.日本学術振興協会特別研究員DC）

[3P-1414（4P2T27-06）] *Eisenia fetida*由来マンナーゼ活性に及ぼす塩橋の影響について
○中 裕規[1]、平野 優[2]、中澤 昌美[1]、阪本 龍司[1]、玉田 太郎[2]、上田 光宏[1]（1.阪府大院・生環科、2.量研機構量子ビーム）

[3P-1415（4P2T27-07）] 試験管内進化工学による神経成長・分化因子様活性を示すペプチドの創製
○久保 泰[1]、Weiyang Cai[1]、大橋 澄子[1]（1.産業技術総合研究所）

[3P-1416（4P2T27-08）] 1時間以内で巨大スフェロイドを作製する
○坂口 欣暉[1]、犬伏 祐作[2]、宇田 朋哉[3]、伊田 寛之[4]、立花 亮[5]（1.阪市大・院工・化学生物、2.阪市大・院工・化学生物、3.阪市大・院工・化学生物、4.新田ゼラチン株式会社　総合研究所、5.阪市大・院工・化学生物）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 7) ケミカルバイオロジー（ポスター）

[3P-11-7] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-7) ケミカルバイオロジー

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1417（3AT25-01）] Time-resolved fluorescence resonance energy transfer法により同定した低分子 claudin-4 binderの機能解析
○坂本 雄太[1]、渡利 彰浩[1]、小高 美樹[1]、久家 広大[1]、八木 清仁[1]、近藤 昌夫[1]（1.阪大・院薬）

[3P-1418（3AT25-02）] エンドメンブレンを標的としたタンパク質局在移行誘導化合物の創製と Rasシグナル制御
○澤田 隼佑[1]、片平 莉香[1]、中村 彰伸[2]、吉井 達之[2]、築地 真也[2,3]（1.長岡

©日本分子生物学会/日本生化学会

技科大・院工・生物、2.名工大・院工・生命応用化学、3.名工大・フロンティア）

[3P-1419（3AT25-03）] がん細胞の代謝がもたらす組織微小環境を標的にしたがん治療
○豊本 雅靖[1]、井上 飛鳥[2]、飯田 慶[1]、出縄 政嗣[1]、喜井 勲[1]、林 佳子[1]、岸 貴之[2]、小野木 博[1]、吉田 優[3]、細谷 孝充[3]、青木 淳賢[2]、萩原 正敏[1]（1.京大・院医、2.東北大・院薬、3.医科歯科大・生体材料）

[3P-1420（4AT26-08）] *Streptococcus*属細菌のクオラムセンシング伝達経路を阻害する低分子化合物の探索
○石井 誠志[1]、福井 健二[1]、横島 聡[2]、熊谷 和夫[3,4]、紅山 容子[2]、兒玉 哲也[2]、福山 透[2]、岡部 隆義[3]、長野 哲雄[3]、小島 宏建[3]、矢野 貴人[1]（1.大阪医大・医・生化、2.名大院創薬、3.東大・創薬機構、4.神戸大・工）

[3P-1421（4AT26-09）] タンパク質膜挿入反応に関与する糖脂質酵素 MPIaseは生育に必須である
○沢里 克宏[1]、佐藤 諒[1]、西川 華子[1]、飯村 直樹[1]、藤川 鉱樹[2]、山口 敏幸[2]、車 ゆうてつ[3]、田村 康[4]、遠藤 斗志也[5]、上田 卓也[6]、島本 啓子[2]、西山 賢一[1]（1.岩手大・寒冷バイオ、2.サントリー生有研、3.東工大・地球生命研究所、4.山形大・理、5.京産大・生命総合科学、6.東大・新領域）

[3P-1422（4AT26-10）] 異なるホスファターゼ種を識別可能な単一酵素活性検出法の開発
○坂本 眞伍[1]、小松 徹[1,5]、渡邉 力也[4,5]、張 翼[4]、野地 博行[4]、浦野 泰照[1,2,3]（1.東大院薬、2.東大院医、3.AMED CREST、4.東大院工、5.JST さきがけ）

[3P-1423（4AT26-11）] DNA配列を認識する小分子による選択的 DNAメチル化阻害
○篠原 憲一[1]、依田 夏美[1]、福世 真樹[1]、喜多 和子[1]、根本 哲宏[2]、金田 篤志[1]（1.千葉大・院医・分子腫瘍学、2.千葉大・院薬・薬化学）

[3P-1424（4AT26-12）] ペプチドライブラリーを用いた酵素活性の網羅的解析法の確立と発展
○市橋 裕樹[1]、小名木 淳[1]、小松 徹[1,4]、神谷 真子[2,4]、松崎 裕幸[3]、畑 啓介[3]、渡邉 聡明[3]、浦野 泰照[1,2,5]（1.東大・院薬、2.東大・院医、3.東大病院・腫瘍外科、4.JST・PRESTO、5.AMED・CREST）

[3P-1425（4AT26-15）] ホモ2量体形成蛋白質 P-cadherinを標的とした蛋白質間相互作用阻害剤の探索
○妹尾 暁暢[1]、田島 卓実[1]、工藤 翔太[1]、長門石 曉[3]、津本 浩平[2,3]（1.東大院・工 ・化生 、2.東大院・工・バイオエンジ、3.東大・医科研）

[3P-1426] Dual-targeting anti-angiogenic cyclic peptides as potential drug leads for cancer therapy
○LAI YUE CHAN[1]、David J. Craik[1]、Norelle L. Daly[2]（1.The University of Queensland, Institute for Molecular Bioscience, Australia.、2.Centre for Biodiscovery and Molecular Development of Therapeutics, Australian Institute of Tropical Health and Medicine, James Cook University, Australia.）

[3P-1427] Designing of potential anticancer agents from natural alkaloid derivatives by targeting human telomeric G-quadruplex DNA
○Urmila Saha[1]、Gopinatha Suresh Kumar[1]（1.Biophysical Chemistry Laboratory, Organic and Medicinal Chemistry Division, CSIR-Indian Institute of Chemical Biology, India）

[3P-1428] Norgestimateは黄色ブドウ球菌のバイオフィルム形成を阻害し，βラクタム系抗菌薬に対する感受性を上昇させる
○吉井 悠[1]、奥田 賢一[1]、山田 聡美[1]、永倉 茉莉[1]、杉本 真也[1]、長野 哲雄[2]、岡部 隆義[2]、小島 宏建[2]、岩本 武夫[3]、水之江 義充[1]（1.慈恵医大・医・細菌、2.東大・創薬機構、3.慈恵医大・医・基盤研）

[3P-1429] 創薬研究を目指したベンジルイソキノリンアルカロイド生産大腸菌の開発
○中川 明[1]、片山 高嶺[2]、佐藤 文彦[2]、南 博道[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.石川県大・資源研、2.京大院・生命）

[3P-1430] ポリフェノール抗酸化作用の細胞間伝播

○池本 光志[1,2]、相原 幸音[3]、石井 則行[1,4]、繁森 英幸[5]
（1.（国）産総研・バイオメディカル研究部門、2.東邦大院・理学研究科、3.筑波大院・生命環境科学研究科、4.岐阜大院・連合農学研究科、5.筑波大・生命環境系）

[3P-1431] パルミチン酸結合型 Dicer-substrate siRNAの in vivoでの遺伝子発現抑制効果

○久保 貴紀[1]、西村 良夫[1]、柳原 五吉[2]、瀬山 敏雄[1]
（1.安田女子大学薬学部 分子細胞生物学、2.国立がん研究センター 先端医療開発センター）

[3P-1432] 配列選択的ミトコンドリア DNA結合分子の開発とミトコンドリア内転写制御

○日高 拓也[1]、Pandian Ganesh[2]、板東 俊和[1]、杉山 弘[1,2]（1.京大・院理・化学、2.京大・iCeMS）

[3P-1433] ステープルドペプチドの細胞内移行メカニズムの解明

○坂上 功樹[1]、二木 史朗[1]（1.京大・化研）

[3P-1434] シアノバクテリアに対する希少糖の生物活性探索

○松宮 瑞穂[1]、瀬町 崇浩[1]、田野 雅貴[1]、鞆 達也[2]、大和屋 健二[1]、中田 一弥[1]（1.東理大理工、2.東理大理）

[3P-1435] 人為的遺伝子発現制御系を用いたアロステリックリボザイムの細胞内反応解析

○亀野 美咲[1]、澤田 美香[1]、嵜本 捺愛[1]、川上 純司[1]（1.甲南大・FIRST）

[3P-1436] RNA foldingにおける三次元的相互作用の共存溶質による安定化効果

○佐々木 菜摘[1]、三好 大輔[1]、川上 純司[1]（1.甲南大）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 8) バイオイメージング、バイオセンサー（ポスター）

[3P-11-8] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-8) バイオイメージング、バイオセンサー

13:15 〜 15:45 ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1437] ビデオレート生物発光イメージング法による3D培養細胞における同調性インスリン分泌の可視化

○鈴木 崇弘[1]、金森 孝雄[1]、井上 敏[2]（1.愛知学院大・歯・生化学、2.JNC・横浜研）

[3P-1438] ビデオレート生物発光イメージング法を用いた膵島α細胞からのグルカゴン分泌の可視化解析

○横川 慧[1]、鈴木 崇弘[2]、井上 敏[3]、伊納 義和[1]、鈴木 亮[4]、金森 孝雄[2]、平嶋 尚英[4]、古野 忠秀[1]（1.愛知学院大・薬、2.愛知学院大・歯、3.JNC・横浜研、4.名市大院・薬）

[3P-1439（3AT25-04）] 蛍光分子の明滅計測による細胞内微小環境のマルチモーダルイメージング

○高田 涼子[1]、岡部 弘基[1,2]、菅原 皓[1]、船津 高志[1]（1.東大・院薬・薬科学、2.JSTさきがけ）

[3P-1440（3AT25-05）] 計画的ネクローシスをモニターする FRETバイオセンサーによる DAMPs放出メカニズムの解明

○村井 晋[1]、山口 良文[2,5]、白崎 善隆[3]、中林 修[1]、三浦 亮介[1,4]、冨田 太一郎[5]、赤羽 悟美[5]、三浦 正幸[2]、中野 裕康[1,6]（1.東邦大学・医学部・生化学講座、2.東京大学・薬学系研究科・遺伝学教室、3.東京大学・理学系研究科・1分子遺伝学研究室、4.東京理科大学・基礎工学研究科・生物工学専攻、5.東邦大学・医学部・生理学講座・統合生理学分野、6.東邦大学・医学部・生体防御基盤研究センター）

[3P-1441（3AT25-06）] 放射線被ばく細胞のデュアル蛍光レポーターイメージングシステムの構築

○須藤 仁美[1]、須堯 綾[1]、相良 雅史[2]、辻 厚至[1]、東 達也[1]（1.量研機構・放医研・分子イメ、2.量研機構・放医研・被ばく医療）

[3P-1442（3AT25-07）] 生体イメージング技術による時空間情報を保持した１細胞遺伝子解析

○尾上 ひかる[1,2]、菊田 順一[1,2]、粟生 智香[1,2]、内田 穣[1,2]、石井 優[1,2]（1.阪大・院生命機能・免疫細胞生物学、2.JST CREST）

[3P-1443（3AT25-08）] 匂い受容体発現細胞パネルよる気相中の匂い分子検出および識別手法の開発

○福谷 洋介[1,2]、木田 仁[2,3]、Vihani Aashutosh[5]、Mainland Joel[4]、亀田 正治[3]、養王田 正文[1]、松波 宏明[2,5]（1.農工大・院工・生命工、2.デューク大・医・分子遺

©日本分子生物学会/日本生化学会

伝、3.農工大・院工・機械、4.モネル化学感覚研究所、5.デューク大・医・神経生物）

[3P-1444（3AT25-09）] スパースモデリングを用いたライブイメージング技術の改善
○曽我部 舞奈[1,2]、大関 真之[3]、瀬原 淳子[1,2]（1.京大・院医・医学、2.京大・ウイルス再生研、3.東北大・院情報・応用情報）

[3P-1445（3AT25-10）] 血管内皮細胞の YAPは流れによる機械的刺激に応答してゼブラフィッシュの血管安定化に寄与する
○中嶋 洋行[1]、望月 直樹[1,2]（1.国循セ研・細胞生物、2.AMED-CREST）

[3P-1446（3AT25-11）] 三量体 Gタンパク質の活性化センサーの開発
井上 飛鳥[1,2]、○Francois Marie Kadji[1]、川上 耕季[1]、青木 淳賢[1,3]（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.AMED・PRIME、3.AMED・AMED-CREST）

[3P-1447（3AT25-12）] ナノダイヤモンドを用いた生体分子の一分子動態計測
○藤咲 貴大[1]、五十嵐 龍治[2]、源城 拓哉[1]、白川 昌宏[1]（1.京大・工院・分子工学、2.さきがけ）

[3P-1448（3AT25-13）] 小胞体におけるコラーゲンとその特異的分子シャペロン間の相互作用の検出と阻害
○伊藤 進也[1]、永田 和宏[1,2]（1.京産大・タンパク質動態研、2.京産大・総合生命）

[3P-1449（3AT25-14）] 生きたマウス体内の線維化イメージングモデル系の開発
○三輪 佳宏[1,2]、森 夕海[3]、田中 順子[1]、逆井 智貴[3]、水野 聖哉[1,2]、杉山 文博[1,2]、 村谷 匡史[1]、高橋 智[1,2]（1.筑波大・医学医療系、2.筑波大・実験動物セ、3.筑波大・人間総合）

[3P-1450（3AT25-15）] ペキソファジー高感度可視化方法の分子基盤の確立
○谷田 以誠[1]、上野 隆[2]、小池 正人[1]（1.順大・医・神経生物、2.順大・医・研究基盤セ・生体分子）

[3P-1452] りん光寿命イメージング顕微鏡を用いた生体腎皮質の酸素勾配の描出
○平川 陽亮[1]、吉原 利忠[2]、本田 智子[1]、三村 維真理[1]、田中 哲洋[1]、飛田 成史[2]、南学 正臣[1]（1.東大・院医、2.群大・院理工）

ポスター発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | 9) その他（ポスター）

[3P-11-9] 11. バイオテクノロジー、新領域、進化-9) その他

13:15 ～ 15:45　ポスター・展示会場3 (神戸国際展示場 3号館 1階)

[3P-1453] アグロバクテリア VirB/D4 システムを介した細菌および真核生物への DNA伝達：受容細胞のエクソヌクレアーゼと RecAが伝達効率に及ぼす効果
清川 一矢[1]、大嶺 悠太[1]、柚木 和也[1]、山本 真司[1]、守口 和基[1]、○鈴木 克周[1]（1.広島大・院理・生物科学）

[3P-1454] イネ由来*vir*遺伝子誘導物質パラクマリルアルコールを分解するアグロバクテリアのアルコール脱水素酵素分子種の特定
○清川 一矢[1]、森脇 隼人[1]、福満 啓博[1]、庄田 佐知子[1]、山本 真司[1]、鈴木 克周[1]（1.広島大・院理・生物科学）

[3P-1455]
○守口 和基[1]、山本 真司[1]、清川 一矢[1]、鈴木 克周[1]（1.広大・院理・生物科学）

[3P-1456] 天然大腸菌における培養上清を介した遺伝子水平伝播
○長谷川 晴香[1]、田中 七海[2]、中島 菜摘[2]、竹村 幸恵[2]、松本 晃子[1]、柴田 有加[1]、前田 純夫[1,2]（1.奈良女大・院・食物、2.奈良女大・生活環境）

[3P-1457] 安定な細胞外核酸によるゲノム合成：属を超える巨大 DNA水平伝播
○金子 真也[1]、中濱 みさ子[1]、福島 寛美[2]、板谷 光泰[3]（1.東工大・生命理工、2.TRAHED、3.慶應大・先端生命研）

[3P-1458] 極海洋から分離された*Polaribacter*が生産する広宿主域遺伝子伝達粒子
○千浦 博[1]、鈴木 誠治[2]（1.東大・大気海洋研、2.東京海洋大・院海洋科技・応用微生物）

[3P-1459] 南極湖沼における細菌ゲノムの構造特性
○馬場 知哉[1]、阿部 貴志[2]、豊田 敦[3]、中井 亮佑[4]、長沼 毅[5]、藤山 秋佐夫[1]、神田 啓史[6]、本山 秀明[6]、伊村 智[6]、仁木 宏典[3]（1.情報・システム機構、2.新潟大

院、3.遺伝研、4.産総研、5.広島大院、6.極地研）

[3P-1460（4AT27-02）] 一括学習型自己組織化マップに基づく水平伝播候補遺伝子の探索法の開発

○阿部 貴志[1]、中尾 亮[2]、杉本 千尋[3]（1.新潟大・工・情報工、2.北大・獣医、3.北大・人獣）

[3P-1461] 南極大陸から単離された細菌における種固有な低温適応戦略の解明

○赤澤 優[1]、阿部 貴志[1]、仁木 宏典[2]、馬場 知哉[3]（1.新潟大・院自然科学、2.遺伝研、3.情報・システム機構）

[3P-1462] 植物ゲノムからの微生物由来水平伝播候補遺伝子の網羅的な検出

○藤田 由剛[1]、平川 英樹[2]、阿部 貴志[1]（1.新潟大・院自然科学、2.かずさDNA研究所）

[3P-1463] 細胞融合にかかわる内在性レトロウイルス由来遺伝子の同定

○上田 真保子[1]、三橋 里美[2]、三橋 弘明[3]、今西 規[4]、中川 草[4]（1.東海大・マイクロ・ナノ研究開発センター、2.横市大・医学、3.東海大・工・生命科学、4.東海大・医・分子生命科学）

[3P-1464（3PT26-11）] Long-term adaptation to a specific food condition may be sufficient to explain the major changes of life-history evolution.

○Lucas Trindade[1]、Toshiro Aigaki[2]、Kazutaka Akagi[1]（1.Aging Homeostasis Research Project Team, NCGG、2.Dept. of Biol. Sci., Tokyo Metropolitan Univ.）

ConBio2017
Consortium of Biological Sciences 2017

©日本分子生物学会/日本生化学会